

- 都(と;一字名) → 公条(きんえだ・三条西/西三条、古典/歌学/連歌) 1 6 5 6
- 都(と・田村) → 都(いち・田村たむら、国学者) K 1 1 3 7
- 登(と/のぼる・岡宗) → 泰純(たいじゅん・岡宗おかむね、医者) K 2 6 3 0
- 登(と/のぼる・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂くまさか、絵師/藩士) B 3 0 9 4
- 登(と・竹中/伊勢) → 貞敦(さだあつ・伊勢/平/竹中、故実家) H 2 0 7 1
- 登(と/のぼる・大谷/田村) → 藍水(らんすい・田村/坂上/大谷、医官/本草) C 4 8 7 2
- 登(と・佐藤) → 節斎(せつさい・佐藤さとう、藩儒/詩人) L 2 4 0 4
- 渡(と/わたる・野村) → 貞処(ていしょ・野村のむら、和算家) B 3 0 1 6
- 渡(と/わたる・小橋) → 静学(せいがく・小橋こばし、儒者/医者) H 2 4 7 9
- 渡(と/わたる・天春) → 度(わたる・天春あまかす、大庄屋/歌人) 5 3 4 6
- 渡(と/わたる・田沼) → 渡(わたる・六橋園ろつきょうえん、狂歌作者) 5 3 4 5
- 度(と・市川) → 清流(せいろゅう・市川、遣欧使節従者) J 2 4 8 0
- 度(と・秦) → 新村(しんそん・秦はた、儒者/藩の教育) 2 2 5 1
- 駕(と・山口) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4
- X3140 都阿(とあ・法諱) ? - ? 南北期;時宗僧/歌人、
1387浄阿5代奉納[隠岐高田明神百首]2首出詠、
[信楽の外山も雪にうづもれてよそめはいさやおくの炭窯](高田明神歌;69/遠炭窯)、
[忘れずよ今はさびしき松の戸にひとり寝覚の月をながめて](同;99/陵園妾)
- 3101 堵庵(とあん・手島てしま、名;信/喬房、字;応元、宗義男) 1718-86 69 京富小路三条商家近江屋主人、
心学者:梅岩門、石門心学を大成、各地の学舎で門弟育成/布教と統制を図る、
「知心弁疑」「我津衛わがつえ」「為学玉箒いがくぎよくそう」「新実語教」「前訓」「徒然草解」「朝倉新話」、
「子孫繁昌記」編、「婦人教訓書」「兒女ねむりさまし」「町人身体なをし」「明德和賛」、
[狐よりこわさは金かねと色と大かたこれが化さぬはなし](1773兒女ねむりさまし)、
[堵庵の別号] 東郭/五楽舎/朝倉隠居
- 蝨庵(とあん・橋本/葛飾) → 子琴(しきん・葛かつ/橋本/葛城、医/詩人) B 2 1 6 9
- 登一郎(といちろう・近藤) → 清石(きよし・近藤こんどう、藩士/国学) P 1 6 6 0
- 3100 怒一(どいつ) ? - ? 伊勢山田俳人;1633重頼「犬子集」2句入、
[竹の子の紫竹しちく淡竹はちくは兄弟あにおとと](犬子集;三814/共に皮が紫色)
- 問屋酒船(といやのさけふね) → 酒船(さけふね・問屋といや、狂詩/狂歌) B 2 0 5 6
- 杜陰(といに・西尾) → 武陵(ぶりよう・俳人) E 3 8 6 1
- 都因(といに・涼袋) → 綾足(あやたり・建部・涼袋) 1 0 2 8
- 戸隠舎(といにしゃ) → 昭道(あきみち・長谷川、藩士/勤王派) D 1 0 9 6
- 侗(とう・永阪/菅野) → 或斎(わくさい・永阪/永坂/菅野、儒者) 5 3 1 7
- 等(とう・源) → 等(ひとし・源、廷臣/歌人) E 3 7 1 7
- 等(とう・須子/大郷) → 浩斎(こうさい・大郷おおごう/須子すご、儒者) G 1 9 3 2
- 統(とう・有山) → 玄統(げんとう・有山ありやま、心学者) L 1 8 8 1
- 東(とう;一字名) → 光平(みつひら・二条/藤原、撰関/記録) E 4 1 6 4
- 東(とう・雨森) → 芳洲(ほうしゅう・雨森あめのもり、朝鮮外交/詩文) 3 9 5 6
- 騰(とう・宮地) → 騰(のぼる・宮地、儒者/詩人) E 3 5 1 8
- 騰(騰とう・司馬) → 遠湖(えんこ・司馬しば、儒者) E 1 3 6 9
- 騰(とう・箕田) → 牛山(きゅうざん・箕田みた、書家) M 1 6 6 7
- 桃(とう・村井) → 習静(しゅうせい・村井むらい、藩士/儒者) H 2 1 8 5
- 棟(とう・劉/白水) → 箏山(そうざん・白水しろず/劉、医者) H 2 5 4 8
- 棟(とう・松浦) → 棟(たかし・松浦まつら、藩主/兵法) L 2 6 9 4
- 棟(とう・坂本) → 皆山(かいざん・坂本さかもと、医者) I 1 5 6 5
- 棟(とう・林) → 毛川(もうせん・林はやし、藩士/藩政改革) 4 4 5 9

帳(とう・土屋)	→	蕭海(しょうかい・土屋つちや、儒者/尊攘家)	H 2 2 6 1
韜(とう・鶴原)	→	九阜(きゅうこう・鶴原つるはら、藩士/儒者)	I 1 6 7 1
躑(とう・林)	→	鳳岡(ほうこう・林はやし、幕府儒官/大学頭)	3 9 5 3
躑(とう・林)	→	鶴梁(かくりょう・林、幕臣/儒者)	E 1 5 8 0
陶(とう・松浦)	→	東溪(東溪とうけい・松浦、詩/記録蒐集)	D 3 1 1 2
陶(とう・山脇)	→	東門(とうもん・山脇、医者/俳人)	H 3 1 4 3
綯(とう・百々)	→	俊範(しゅんぱん・百々どど、医者)	L 2 1 7 7
董(とう/ただす?・小笠原)	→	東陽(とうよう・小笠原、儒者/教育者)	H 3 1 9 1
島(とう・三宅)	→	寄斎(きさい・三宅みやけ、漢学者/茶)	I 1 6 4 9
燾(とう・神代)	→	鶴洞(かくどう・神代かみしろ、儒者)	K 1 5 2 8
燾(とう/おおう・古賀)	→	穀堂(こくどう・古賀こが、藩士/儒者/詩)	C 1 9 3 9
濤(とう・松井)	→	渙斎(かんさい・松井まつい、儒/詩/教育)	Q 1 5 6 4
濤(とう・益田)	→	勤斎(きんさい・益田ますだ、篆刻家)	H 1 6 8 7
濤(とう・小泉)	→	良斎(りょうさい・小泉こいずみ、儒者/詩人)	H 4 9 6 5
到(とう・毛利)	→	空桑(くうそう・毛利もうり、儒者/尊攘)	C 1 7 0 2
道(どう・井上)	→	道(みち・井上いのかみ、儒者)	F 4 1 3 3
道(どう・三田)	→	花農(かのう・三田みた、医者/花卉画)	P 1 5 1 5
道(どう・常松)	→	菊畦(きくけい・常松つねまつ、大庄屋/詩文)	K 1 6 0 7
道(どう・林野/小石)	→	元俊(げんしゅん・小石こいし、医者)	J 1 8 7 3
道(どう・坂上)	→	玄長(げんちやう・坂上さかがみ、医者)	L 1 8 4 2
道(どう・坪井)	→	信道(しんどう/のぶみち・坪井つばい、蘭医)	2 2 6 5
道(どう・建部)	→	尚行(なおゆき・建部たけべ、庄屋/国学/詩)	N 3 2 7 7
道(どう・鈴木)	→	松嵐(しょうらん・鈴木、詩人)	L 2 2 8 9
道(どう・岡)	→	三慶(さんけい・岡おか、漢学者)	M 2 0 0 9
導(どう・三谷)	→	坦斎(坦斎たんさい・三谷/前田、刀匠/俳人)	T 2 6 5 2
導(どう・立見)	→	幽谷(ゆうこく・倉田/立見、儒者)	B 4 6 6 4
瞳(どう・島/日置)	→	風水(ふうすい・日置へき/島、神職/俳人)	3 8 8 4

3170 **東阿**(とうあ・入江いりえ、宗喜男) 1699-1773 75歳 江中期江戸の暦算家;大島喜侍/中根元圭門、家塾を開く/のち大阪で開塾、山鹿流軍学修得、1749久留米藩;軍学/53御側物頭、1739「探玄算法」、53「天学名目鈔辨誤」60「一源括法」編、「武経本義」「神武精要」著、[東阿(;号)の名/字/通称/別号]名;敬善/修敬/脩、字;惺叔/君義/保叔、通称;平馬、別号;竜渚/寧泉

3171 **冬阿**(とうあ) ? - ? 江中期讃岐の西行庵住僧、歌;1756「麻糸和歌抄」著

3172 **東阿**(とうあ・菅原すがわら) ? - ? 江中期讃岐歌人、1761西行歌「歌枕もしほ草」編

3173 **東阿**(とうあ・鈴木すずき、通称;増右衛門)?-? 江中期出羽松山の俳人/出羽松山藩士か?、1768「江雲記」著、79「すゝ鴨」編

3174 **東阿**(とうあ・加納かのう、名;弘年/字;子穀)?-? 江後期飛騨高山医者/詩文/俳人;歩簫門、1824「安河記」著、[東阿の通称/別号]通称;通元、別号;道阿/柿園

東阿(とうあ・深沢) → 君山(くんざん・深沢ふかざわ、家老/和漢学) B 1 7 2 1

東阿(とうあ・驪山人) → 驪山人東阿(りさんじんとうあ、狂歌) K 4 9 8 7

桃阿(とうあ・相良) → 祐春(すけはる・伊東いとう、藩士/歌人) L 2 3 3 0

冬蛙(とうあ・坪内) → 清穰(きよよし・坪内つぼうち、藩士/国学) U 1 6 7 9

S3161 **道阿**(どうあ;沙弥、俗名;二宮にのみや小次郎信貞/本姓;源)?-? 早歌伝承者;月江[明空]門、1325師より相伝、鎌倉室町幕府将軍側近武士/出家/1357坂口盛勝[坂阿はん]に伝授
早歌の伝承 → 月江(げっこう) B 1 8 0 5

V3183 **道阿**(どうあ;法諱、字;廬山/号;雲水房) 1647-1717 71 近江犬上郡の僧、安芸石脇村大法寺住職?、歌人;[彦根歌人伝・壽]入

道阿(どうあ・観蓮社) → 定月(じやうげつ;法諱、浄土僧;大僧正) I 2 2 3 3

- 道阿(どうあ・寺町) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
道阿(どうあ・寺町) → 百庵(ひやくあん・寺町、俳人) E 3 7 4 3
道阿(どうあ・佐々木) → 松後(しょうご・佐々木、俳人) M 2 1 5 2
道阿(どうあ・加納) → 東阿(とうあ・加納、医/詩/俳人) 3 1 7 4
道阿(どうあ・広蓮社) → 円宣(えんせん; 法諱、浄土僧) F 1 3 1 4
道阿(どうあ; 号) → 松後(しょうご・佐々木、町役人/俳人) C 2 2 8 4
同阿(どうあ; 法諱) → 浄阿(じょうあ; 法諱、時宗僧/連歌) G 2 2 5 2
道阿彌(どうあみ) → 犬王(いぬおう、猿楽師) 1 1 2 7
- 3175 **東庵**(とうあん・饗庭あえば、通称; 立伯) 1615-7864 京の医者: 曲直瀬(まなせ)玄朔門/中国劉完素劉の医流、
劉医方と称さる/味岡三伯の師、「医学授幼鈔」「経脉發揮」「原病式補注」、「諸家脈位考」編
- 3176 **東庵**(とうあん・青木あおき/本姓; 余/大内) 1650-1700 51歳 遠祖は推古朝渡来;
馬韓国の余璋王太子琳聖、のち大内姓/大内滅亡後に青木姓、
京の儒者: 木下順庵門/老荘にも通ず、医学修得; 法橋位、仏教; 元政門、
小説・仏書・詩歌・書など博覧強記、「竹雨齋詩集」、通春「文翰雜編」入、
[色にそむ花を誰が世のなさけぞと思ひとるにも猶や植ゑまし] (茂睡[鳥の迹]春136)、
[東庵(; 号)の名/字/別号]名; 澄(ちよう)、字; 元澄、別号; 桃庵/松岳/竹雨齋/泰臨、
自称; 大内義隆6世の孫
- 3177 **侗庵**(とうあん・安東あんど、名; 守直、省庵(せいあん)男) 1667-1702 36歳 筑後柳川の儒者: 父門/家学、
柳川藩儒、「鈍潤録」「四書私抄」「古文前集抄」「孤燈隨筆」「立花記」著、「侗菴先生遺集」、
[侗庵(; 号)の字/通称/別号]字; 元簡、通称; 正之進/平吉、別号; 螻屈子(かくくつ)
- 3178 **桐庵**(とうあん・井上いのうえ、名; 玄通/字; 子黙) ?-? 江中期享保1716-36頃播磨明石藩医/本草学、
1723「本草製譜」/29「灸草考」、「本草伝習録」「大和本草正誤」「桐菴雅言」著、
岡山藩医井上経行(桐庵)と別人
- 3179 **東庵**(とうあん・松井まつい、名; 元規、道悦男) ?-? 奈良の製墨業(; 松井道珍以来代々継承)、
製墨の文献蒐集; 「古梅園墨談」(息元泰編)、詩人、1720「東菴詩稿」、
[東庵(; 号)の字/通称/別号]字; 新輔、通称; 和泉、別号; 古梅園、元泰の父/元彙の祖父
- 3180 **湯鞆**(とうあん; 名・平たいら) ? - ? 江中期尾張鳴海の国学者、1772「詞草小苑」著
- 3181 **桃庵**(とうあん・桃井もものい/本姓; 源、名; 寅) ?-? 江後期安房の医者/幕府の医生、
1773「傷寒論古訓」92「白牛酪考」、「傷寒論古訓口義」校訂/「就医道存寄を奏申上候事」著
- 3182 **東庵**(とうあん; 通称・遊佐ゆさ) ?-1829 幕府医官; 寄合医/1818西丸奥医師、法眼、
1826「救荒略説」、33「土を食する製法略説」著、九安の養父
- 3102 **侗庵**(とうあん/どうあん・古賀こが、精里3男/本姓; 劉) 1788-1847 60歳 肥前佐賀の儒者(家学); 父門、
1809幕府儒者見習; 昌平黌出仕、佐賀藩江戸邸内明善堂で講義/1817御儒者、詩文を能す:
「侗庵筆記」「侗庵百絶」「侗庵詩集」「古心堂詩鈔」「古賀侗庵詩文集」「英鄂諸詠」「家伝藁」、
「螻屈居漫録」「泣血録」「禽言考」「古心堂隨筆」「侗庵全集」「侗庵全書」「劉子全集」など著多、
[侗庵(; 号)の名/字/別号]名; 煜(く)、字; 季曄、別号; 紫溟/螻屈居/古心堂/黙釣道人、
穀堂・晋城の弟、妻は鈴木桃野女松子、茶溪の父
- 3183 **洞庵**(とうあん・能美のうみ、名; 淑、友庵男) 1794-1872 79 周防三田尻の医者: 父門、1727萩藩添匙医、
1830側医/31家督、40萩藩医学所創設に参画/42館長/49医学館濟生堂頭取/教授、
西洋医学興隆にも尽力/藩の医療振興を図る/1863退隱、「自然齋方範」「自然齋方符」
[洞庵(; 通称)の字/別通称/号]字; 子艾(しがい)、別通称; 官松/孝順/幸淳、
号; 雪堂/自然齋(じねんさい)/松鶴堂、隆庵の父
- 3184 **侗庵**(とうあん・伴ばん、名; 成/温之、東山男) 1806-73 68 彦根藩儒: 父門/1831藩校弘道館素読方加役、
1837儒員/教授、1869文館副教頭/70致仕、のち古学を捨て程朱学、「侗庵詩集」「学曲名解」、
「引類曲名解」「英雄伝」「貞観政要集解証」「孫子輯解」「陸宣公全集輯解証」、「侗庵遺稿」、
[侗庵(; 号)の字/通称/別号]字; 伯玉、通称; 材太郎/只七、別号; 梅村
- 3185 **韜庵**(とうあん・家長いえなが、本姓; 平) 1809-66 58歳 先祖は平たいら家長、大和十市郡葛城の庄屋、
儒詩: 頼山陽門/詩文に長ず、京衣棚御池南に住; 門弟教育、「澹齋長沼先生伝」著、
「松濤文鈔」著、「韜庵遺稿」、
[韜庵(; 号)の名/字/通称/別号]名; 政惇(ちよう)、字; 伯厚、通称; 弥太郎、別号; 松濤

- 3186 **桃庵**(とうあん;字・北山きたやま、名;正時)?-? 江戸期大阪の医者:「本朝薬名攷」著、北山七僧しちそう(桃庵/正皓/1721-1808/儒・医者)と同一?
- 3187 **董庵**(とうあん・三宅みやげ、名;春齡、藩の侍医三宅西涯男)1814-59 46歳 伯父三宅見竜の養嗣子、儒;1822(9歳)頼聿庵門/34筑前の亀井昭陽門/豊後の広瀬旭莊塾入学/医;36京賀茂家入門、産科を修学/妻;岡本成憲(安藝広島藩家老上田家家臣)の女茂登、上田家の侍医、1849長崎より帰郷の佐渡の長野秋穂より牛痘種法を学習/藩の禁を犯し摂取/種痘を普及、1856子宮外妊娠の初手術を実施、「選乳示要」「産育手和多志」「引痘心得歌」「梅花詩集」、「三宅春齡咏草」、1840「藝府秘録」49「引痘日期手録」1857「宮外妊娠経験説」外著多数、[董庵(;通称)の幼名/字/法号]幼名;富次郎、字;八千、法号;敏精院
- 3188 **董庵**(とうあん・都丸とまる、名;親寿/広治/貞幹、広右衛門男)1814-74 61 出羽庄内藩士;1848家督相続、一説;水野郷右衛門男/庄内藩士都丸広右衛門の養子、儒:東条一堂門、「酒井家旧記」編輯、「経学備考」編/「経義確説録」「日輪象説」「大泉紀年」「学古堂漫録」「芝蘭堂漫筆」外多数、[董庵(;号)の字]子静/子梁
- 3189 **陶庵**(とうあん・大橋おおはし、名;正燾まさてる、河田かわた迪斎男、大橋訥庵の養嗣)1837-82 46 儒者;訥庵門、1862訥庵の坂下門事件に連座入獄/維新後大学教授/のち家塾、詩;「陶庵幼年詩稿」、[陶庵(;号)の字/通称/法号]字;仲載、通称;燾次、法号;陶庵仲載居士
- I3195 **東庵**(とうあん・後藤ごとう、名;弥仲/謙、藩医兼吉孝栄男)1837-1917 81 筑後久留米の漢学者、後藤松窩の養嗣子、1850日田の広瀬淡窓門/57江戸の安積良斎門/昌平黌に修学、1862帰郷;藩校明善堂講釈方/72明善小学校校長、「塙東庵詩鈔」著、[東庵(;号)の字/通称/別号]字;甫益/益甫、通称;良蔵、別号;松軒
- 3190 **陶庵**(とうあん・藤田ふじた、通称;敬一郎)?-1872 備後東城の儒者/東城のち三次で私塾;教育者、「繫獄微吟」「北遊自娛集」著
- 3191 **東庵**(とうあん;号・林はやし、名;会/字;子通/通称;春二)?-? 江後期備後の医者/大阪伏見町で産科医、「洋々斎文稿」著
- 等安(とうあん;法諱・心翁)→ 心翁(しんのう;道号・等安、臨濟僧) P 2 2 5 8
 等庵(とうあん・山口) → 滄洲(そうしゅう・山口やまぐち、儒者) H 2 5 7 6
 桃庵(とうあん・北山) → 七僧(しちそう・北山きたやま、儒者/医者) E 2 1 5 5
 桃庵(とうあん・塩谷) → 定興(さだおき・塩谷しおたに、医者/歌人) O 2 0 6 3
 桃庵(とうあん・塩谷) → 淳(じゅん・塩谷しおたに、定興養子/医/国学) O 2 1 7 3
 桃庵(とうあん・塩谷) → 定得(さだのり・塩谷しおたに、医者/国学) O 2 0 6 4
 洞庵(とうあん・曾谷) → 寿仙(じゅせん・曾谷そだに/藤原、医者) Y 2 1 9 7
 桐庵(とうあん・後藤) → 梨春(りしゅん・後藤/多田、蘭学/本草/談義本) B 4 9 2 3
 桐庵(とうあん・井上) → 経行(つねゆき・井上いのかげ、藩医/歌人) F 2 9 1 7
 陶庵(とうあん) → 周興(しゅうこう;法諱・彦竜;道号、臨濟僧) H 2 1 3 2
 陶庵(とうあん・日向) → 元秀(げんしゅう・日向ひゅうが、本草家) J 1 8 6 2
 棟庵(とうあん・稲掛) → 棟隆(むねたか・稲掛[稲垣]、国学/歌) B 4 2 4 8
 棟庵(とうあん・大淵) → 常範(つねのり・大淵おおぶち、幕医/本草学) D 2 9 2 1
 稲庵(とうあん;号) → 瑞巖(ずいがん;道号・竜惺、臨濟僧) E 2 3 2 8
 東安(とうあん・眞幡) → 鉄船(てつせん・眞幡まはた、医者/俳) C 3 0 5 2
 東庵(とうあん・畠山/吉益) → 東洞(とうどう・吉益よしまつ、医者) G 3 1 7 6
 東庵(とうあん・佐野) → 宏(ひろし・佐野さの、医者/詩画) F 3 7 8 9
 東庵(とうあん・米川) → 常伯(つねはく・米川よしかわ、商家/香道家) L 2 2 3 8
 董庵(とうあん・菱川) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
- X3118 **道闇**(どうあん;法諱) ? - ? 南北期の僧/法師、歌人;1400菊葉集入、[恋しさをなにとするがの富士の峰の煙たえせぬ我が思ひかな](菊葉;恋1112)
- 3192 **道庵**(どうあん;通称・山科やまなし、名;元直、号;保寿院/芝岩)1677-1746 70 京の医者;小児科、法眼、近衛家熙いひろ家の侍医/茶道、1721「生色抄略」、1724-35家熙口述の随筆「槐記」編、「医脈淵源録」「古今和名類聚」「山科道庵日記」著

- 3193 **同庵**(どうあん・大塚おつか、名;勝蔵/良)1795-1855⁶¹ 幕臣;普請役/長崎蘭学:高島秋帆・大槻磐里門、医;檜林宗建門、江戸で医者開業、蘭画を嗜む、「夷警雑録」「瑪蜂隨筆」「遠西砲術略」、「東西銃炮論」「銃藥起源考」「蘭学四十八引」「黒船防禦建白書」「粧台間具」外著多数、[同庵(;)の字/別号]字;八郎/蜂良/八郎、別号;星臨堂/瑪蜂ぼほう・めほう、法号;節巖道綱居士
- 3194 **道庵**(同庵どうあん・野呂のろ、名;俊、陶斎男/母;多勢)1813-89⁷⁷ 江戸下谷の儒者:亀田鵬斎門、11歳頃から父の塾で教授、1826備中新田藩池田政善の招聘で講義/1832下谷御徒町で私塾、1861安房勝山藩主酒井忠美の近習格儒者;1868勝山移住/創設された藩校育英館の文学、のち明善塾を開く、「東海漁唱」「道庵文約」「中庸私断」著、[道庵(;)の字/通称]/字;俊臣/民夫、通称;俊太郎/駿太郎しゅんたろう
- F3144 **道庵**(どうあん・古谷) ? - ? 幕末期長門豊浦郡宇賀本郷の村医者、民衆の生活を日記に記録;1830-78「古谷道庵日乗」著
- | | | | |
|---------------|---|-------------------------|-----------|
| 同庵(どうあん・春日) | → | 載陽(さいよう・春日かすが、医者/儒者) | O 2 0 2 8 |
| 道庵(どうあん・荒木) | → | 是水(ぜすい・荒木あき、書家) | K 2 4 6 4 |
| 道庵(どうあん・坪井) | → | 信道(のぶみち・坪井つばい、蘭医) | D 3 5 4 0 |
| 道安(どうあん・蘆川) | → | 桂洲(けいしゅう・蘆川あしかわ、医/儒者/詩) | E 1 8 7 3 |
| 道安(どうあん・長沼) | → | 玄珍(げんちん・長沼ながぬま/野村、医者/儒) | L 1 8 4 4 |
| 道安(どうあん・今井) | → | 道安(みちやす・今井いまい、医者/歌人) | I 4 1 1 2 |
| 棠庵閑人(どうあかんじん) | → | 英俊(えいしゅん・村上、医者/語学者) | C 1 3 9 4 |
| 唐衣(とうい・山川) | → | 艶(えん・山川やまかわ/西郷、育児/歌人) | U 1 3 1 0 |
| 藤彝(とうい) | → | 蕉園(しょうえん・小島こじま、医者) | F 2 2 5 2 |
| 桃漪(とうい) | → | 雪鼎(せつてい・月岡つきおか/木田、絵師) | E 2 4 6 0 |
| 陶猗(とうい・田原) | → | 直助(なおすけ・田原たわら、蘭学/洋式軍船) | B 3 2 3 8 |
- 3195 **道意**(どうい;法諱、太政大臣西園寺実兼男)1290?-1356^{67?} 幼児に真言僧;仁和寺勝宝院道耀門、師命で梶尾弁慧門;灌頂を受/1322大覚寺仏母心院で後宇多法皇より伝法職位を受領、1322東寺長者法務/35宮中で守護経法を修し東国平伏を祈祷/大僧正/53東寺長者再任、後醍醐天皇の護持僧/勝宝院住、「道意僧正日記」「栄畜決疑鈔」、1334「護国寺供養記」著、歌人;1350二条為世十三回忌和歌参加、勅撰14首;続千載(1822/1903)続後拾(1312)風雅(4首)新千(4首)新拾(1104)以下、[いつまでかたへて住むべき世をうしと思はぬ月も山にこそ入れ](続千;雑1822)
- 3196 **道意**(どうい;法諱/初諱;道基、号;南滝寺なんろうじ、二条良基男)1354-1429^{76歳} 天台宗聖護院門跡、顕密二教;園城寺良瑜門/1371伝法灌頂を受、72園城寺長吏/大僧正/准后、93/99長吏重任、歌人;1407内裏九十番歌合参加、勅撰7首;新後拾(1372)新続古(150/367/864/1657/1830/1964)、[かざしつつつ心は花になりぬれど老の姿のかくれやはする](新続古;春150)
- 3197 **道意**(どうい・三浦みづら、名;、小林自貞男)?-1725 江前中期、母;青木常俊女、下野喜連川の医者、1647喜連川藩主に出仕;59致仕/江戸で医業/72盛岡に移住;南部藩侍医黒川道益門、剃髪し三浦道意と改名/1682(天和2)盛岡藩主南部重信の侍医;歌人;1705(宝永2)君命で江戸にて見坊勇(景兼)と歌書を撰(1707寛政);重信の信頼を得、1719(享和4)致仕、1725(享保10)没、「加良讚記」著、歌;1690重信催[南部家江戸桜田邸詩歌会]参加、[暑き日も涼しき月と成りにけり雨一通り過ぐる雲井は](桜田邸;雨後夏月)、[三浦道意(;)剃髪号)の名/通称/別号]名;小林自安/三浦圓治/高貞たかさだ、通称;松蔭軒可春(歌春)/のち円紹、別号(初号);小林道悦どうえつ
- 3198 **道意**(どうい;名・賀来かく) ? - 1695 江前期の医者;1682加賀藩侍医:法眼、子孫が職を継承、「局方發揮首書」「格致余論頭書」著
- 3199 **道意**(どうい;号・栗崎くりさき/本姓;橘、名;春安)1724-93^{70歳} 長崎の栗崎流外科医、「一子伝集」著、「三明大成集」、「栗崎流外科秘事」著、「南蛮流外科実用全書」(訳)、廬驥(通事/詩文)の父
- B3100 **道偉**(どうい・本間ほんま、名;資成、藩医玄琢男/松江の孫)1787-1866⁸⁰ 代々水戸の医者;原南陽門、儒;藤田幽谷門/江戸・京に遊学/水戸藩郷校稽古館創立に尽力/水戸藩医;江戸詰、藩校医学館教授/1857隠居、俳人;1848「夏しくれ」「句餞別」編/64「梅の本句集」編、

[道偉(；通称)の号] よし香/義香、自準亭6世

道以(どうい・日置) → 正次(まさつぐ・日置へき、弓術家) D 4 0 8 4
道意(どうい・津田) → 屋勝(おくしょう・津田つだ、俳人) D 1 4 6 8
道意(どうい・沼田) → 順義(ゆきよし・沼田、医/国学/歌) 4 6 2 7
道意(どうい・畑) → 鉄鷄(-鶏てつけい・畑はた、医者/絵師) C 3 0 2 6
道依(どうい・宮原/森田) → 道依(みちより・森田/宮原、国学者/歌) C 4 1 9 2
道彝(どうい・池田) → 斉稷(なりとし・池田いけだ、藩主/歌人) K 3 2 3 5
道偉(どうい・黒田) → 一興(かずおき・黒田くろだ、藩大老/詩歌) U 1 5 5 8

B3101 東夷庵古渡(どういあんこわたり、姓;林はやし/浅野、通称;和助)1774-1823⁵⁰ 江戸市ヶ谷の狂歌作者;
菅江側判者、東西南北の四大人の1、石川雅望と親交;万代狂歌集多数入、
「兼題名所松」編、「月次狂歌集」編、1813刊「狂文吾孀那万俚」序文

東郁(とういく・村上) → 梧由(ごゆう・村上、好曙庵、俳人) N 1 9 8 4
東昱(とういく・宇津木) → 静斎(せいさい・宇津木うつき、儒者) I 2 4 3 1
洞郁(とういく・甲斐/河鍋) → 暁斎(ぎょうさい・河鍋かわなべ、絵師) N 1 6 8 5
道威斎(どういさい・新妻にいづま/につま) → 道斎(どういさい・新妻、儒者) E 3 1 4 2
藤以正(とういせい) → 以正(これまさ・匹田/疋田、神道) G 1 9 0 5

W3160 東一(とういち・宮崎みやざき、旧姓;亀井)1832-1905⁷⁴ 尾張名古屋の国学者、
[東一(；名)の通称/号]通称;雅太郎、号;栲園こうえん

東市(とういち・佐藤) → 長健(ながたけ・佐藤さとう、藩士/故実家) E 3 2 0 8
東一(とういち・保永堂/竹内) → 眉山(びざん・竹内たけのうち、地本問屋/絵師) C 3 7 2 8
東一(とういち・高杉) → 晋作(しんさく・高杉たかすぎ、藩士/勤王家) E 2 2 3 1
東一(とういち・葛飾) → 北鷺(ほくが・葛飾かつしか/三田、絵師) C 3 9 9 5
藤一(とういち・橋本) → 政孝(まさたか・橋本/中条、政方養子/与力/槍術) D 4 0 2 9
道一(とういち・兵藤) → 道一(みちかず・兵藤ひょうどう、医者/国学) K 4 1 2 5
道一(とういち・旭) → 千里(せんり・旭あさひ、儒者;徂徠学) G 2 4 7 9
道一(とういち・渡辺) → 善斎(ぜんさい;号・渡辺わたなべ、藩儒) F 2 4 4 4
道一(とういち・神谷) → 道一(みちかず・神谷かみや、国学/史家) I 4 1 7 0
道一(とういち・末吉) → 道一(みちかず・末吉すえよし、国学者) J 4 1 3 3
道一(とういち・那須) → 道一(みちかず・那須なす、商家/国学/歌) J 4 1 8 9
道一(とういち・百瀬) → 道一(みちかず・百瀬ももせ、歌人) K 4 1 7 8
東一郎(とういちろう・竹尾) → 正寛(まさひろ・竹尾/源、神職) G 4 0 9 9
東一郎(とういちろう・竹尾) → 正胤(まさたね・竹尾/源、正寛男/神職) D 4 0 6 3
東一郎(とういちろう・福原) → 揺舟(ようしゅう・福原ふくはら、絵師/書家) B 4 7 1 2
東市郎(とういちろう・淀川) → 盛信(もりのぶ・淀川よどがわ、国学者) G 4 4 2 0
藤一郎(とういちろう・田中) → 散木(さんぼく・田中たなか、藩士/儒者) G 2 0 1 6
藤一郎(とういちろう・榎木;変名) → 季知(すえとも・三条西/西三条、廷臣/尊攘) B 2 3 2 9

B3102 道一(どういつ;法諱・漢三かんとん;道号、俗姓井上)1757-1825⁶⁹歳 但馬二方郡湯村の曹洞僧;

1765(9歳)養父郡長谷寺の三五洞月門;得度、諸師を歴参後;千丈実巖門;法嗣、
天草東向寺・武蔵世田谷豪徳寺・近江彦根清涼寺等を歴住/1814(文化11)長崎皓台寺18世、
1824(文政7)大坂の黙庵(知足軒)隠棲;没、「漢三和尚語録」「法華経私訳」「楞嚴経考訂」著、
[漢三道一の号]号;摩尼/知足庵

道一(どういつ;法諱・曇秀) → 曇秀(どんしゅう;道号・道一、曹洞僧) S 3 1 2 8
道一(どういつ) → 丈士(じょうし・早川、俳人) S 2 2 7 3
道一(どういつ・渡辺) → 善斎(ぜんさい;号・渡辺わたなべ、藩儒) F 2 4 4 4
道一(どういつ・橋) → 石峰(せきほう・橋たかはな、絵師) D 2 4 8 4
道一(どういつ・末吉) → 道一(みちかず・末吉すえよし、国学者) J 4 1 3 3
道一(どういつ・二階) → 道一(みちかず・二階にかい/白上、藩医/歌) K 4 1 0 2
道一(どういつ・那須) → 道一(みちかず・那須なす、商家/国学) J 4 1 8 9
道一(どういつ・神谷) → 道一(みちかず・神谷かみや、国学者) I 4 1 7 0

- 道一(どういつ・水野) → 忠一(ただかず・道一・水野みずの/源、幕臣) U 2 6 9 4
道乙(どういつ・津田/田) → 養(よう・津田/修姓; 田、医者/俳人) 4 7 5 3
道佚(どういつ・内藤) → 忠世(ただよ・内藤、藩家老/俳人) R 2 6 2 2
道逸(どういつ・奥) → 劣斎(れつさい・奥おく/源、医者; 産科) 5 1 8 3
洞逸(どういつ・伊東) → 国珍(こくちん・伊東いとう、医者/詩) M 1 9 1 8
藤一水(とういつい) → 正澄(まさずみ・名取なとり、藩士/兵法家) C 4 0 9 8
- B3103 **東為坊**(とういぼう・姓; 小野おの) ?- ? 1768存 江中期江戸の俳人: 五竹坊門、
1768羽前鶴岡へ行脚; 藩士池田久平・地主文二らと交流/文二宅で没、1761「秘文」著、
[東為坊(;号)の別号]琴吹/琴水/鳳尾園
- B3104 **桃隠**(とういん: 道号・玄朔げんさく: 法諱、禅源大沢禅師) ?-1461 室町期京の臨濟僧; 日峰宗舜門/嗣法、
讚岐慈明庵に住/朝倉氏建立の伊勢保々郷の大樹寺の初世に招聘、尾張瑞泉寺住、
1454(享徳3)大樹寺に退隠/没、「桃隠集」「偈集」、「桃隠禅師語録」著
- B3105 **棠陰**(とういん: 道号・玄召げんしょう: 法諱、通称; 江陰) 1592-1643⁵² 近江の臨濟僧; 京東福寺南昌院住、
1622玄光と聯句、23(元和9)東福寺235世、27剛外令柔の追悼偈を詠、33有節瑞保没を弔問、
兼如らとの和漢聯句あり
- B3106 **桐隠**(桐蔭とういん・永田ながた、名; 善冢/善家、善述男) 1782-1836⁵⁵ 美作津山藩の儒者; 家学を受、
のち京の古義堂門、代々藩儒; 父の家督継承/津山藩校学問所勤務/私塾でも教授、
書画/陶芸/音楽/将棋を嗜む、「小倉色紙歌能解」著、[桐隠(;号)の通称]敬蔵
- B3107 **藤陰**(とういん・関藤せきとう/せきふじ、初姓; 石川、名; 成章、関藤政信男) 1807-76⁷⁰ 備中吉浜村の儒者、
儒: 頼山陽門、初め石川を名乗る; のち本姓の関藤に復す、1843備後福山藩儒: 藩主近侍、
藩命で蝦夷・樺太を踏査、藩主阿部正弘が老中首座のときペリー来航がある;
藩主を補佐し貢献、正弘没後; 維新動乱に際し藩の保全に尽力、「蝦夷紀行」著、
「詩書筆記」「観国録」「読杜詩偶評臆談」「石川藤陰先生文抄」「観国録」著、「藤陰舎遺稿」、
[藤陰(;号)の字/通称]字; 君達、通称; 淵蔵/和助/文兵衛、関せき政方まさみら(国学者)の弟
- 3103 **宕陰**(とういん・塩谷しほのや、名; 世弘、桃蹊長男) 1809-67⁵⁹ 母; 塩谷南江女、江戸愛宕下生れの儒者、
箕山の兄、父桃蹊は羽後大館生れて塩谷南江の女婿となり塩谷家を嗣ぐ、
1824昌平黌入学/儒: 松崎慊堂門/浜松藩主水野忠邦に出仕; 天保改革では藩主を助力、
1862幕府儒官/昌平黌教授、実用/修史に通ず、
1832「鞭駘録」36「視志緒言」40「日光紀遊」43「丕揚録」47「阿芙蓉彙聞」51「大統歌」、
1859「隔鞞論」67「列藩学制」「宕陰存稿」、「詩囊」「晚香堂文鈔」「宕陰翁文」「宕陰詩藁」、
「瓊浦筆記」「輯文録」「日涉園文稿」「六芸論」「孫子読本」「通称利害論」「日乗」著/外編著多、
[宕陰(;号)の字/通称/別号]字; 穀侯、通称; 甲蔵、
別号; 悔山/九里香園/晚香廬(堂)/愛阜
- T3134 **桐蔭**(とういん・樋野ひの、名; 恵助けいすけ) ?-? 幕臣; 1863(文久3)蝦夷の石狩役所主任、
1868穂足内(小樽)暴動勃発/鎮圧; 記録「穂足内騒立さわぎたて一件」書類を箱根奉行所に送付、
歌; 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[五月雨の晴間も待たで急ぐなり山田の早苗とりもはてねば]、
(大江戸倭歌; 夏490/雨中早苗)
- B3108 **藤陰**(とういん・野村のむら、名; 煥、竜左衛門男) 1827-99⁷³歳 美濃大垣の儒者; 藩校致道館修学、
1844助教、1850家督; 大垣藩士、50大阪の後藤松陰門・51伊勢津の齋藤拙堂門/54帰藩、
藩校敬教堂講官/侍講、江戸で塩谷宕陰とういん門/1865学館の督学参謀/68督学/72大蔵省入、
1867「洞簫余響」、「藤陰詩文稿」「左氏伝評釈」著、
[藤陰(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名; 喜三郎、字; 士章、通称; 竜之助、別号; 穀堂こどう、
法号; 善道院
- 東寅(とういん) → 寅(いん・東とう、号; 長月、絵師) J 1 1 1 6
東勻(東尹とういん) → 耕斎(こうさい・菊池/菊地きくち、医/儒者) B 1 9 1 4
凍蚓(とういん・秋田) → 実季(さねすえ・秋田/安倍、武将/藩主/詩歌) D 2 0 0 8
冬蔭(とういん・鶴岡) → 冬蔭(ふゆかげ・鶴岡つるおか、本陣/国学者) I 3 8 5 1
藤蔭(とういん・陸原くがはら) → 之淳(ゆきあつ・陸原、儒者/詩人) E 4 6 2 4
藤蔭(とういん・早川) → 文明(ふみあき・早川、国学/歌人) D 3 8 7 9

藤蔭(とういん・田中/戸田)→ 藤蔭(ふじかげ・戸田とだ/田中、藩士/歌) C 3 8 4 2
 藤蔭(とういん・陸原) → 之淳(ゆきあつ・陸原くがはら、藩儒/詩人) E 4 6 2 4
 藤陰(とういん・赤塚) → 正賢(まさかた・赤塚あかつか/春原、廷臣/歌) N 4 0 0 6
 藤陰(とういん・藤田) → 長孟(ながたか・藤田ふじた、国学者) O 3 2 5 9
 藤陰(とういん・近田) → 八束(やつか・近田ちかだ、庄屋/国学/歌) D 4 5 7 6
 洞隱(洞隱翁とういん[おう])→ 充長(みつなが・仁木につき、歌人) E 4 1 1 7
 棠陰(とういん・清宮) → 秀堅(ひでかた・清宮せいみや、農業/国学者) C 3 7 9 8
 棠陰(とういん・村上) → 英俊(えいしゅん・村上、医者/語学者) C 1 3 9 4
 棠陰(とういん・檜原) → 秀近(ひでちか・檜原ならはら、藩士/書家) K 3 7 5 0
 桃陰(とういん・神田/奥山)→ 金陵(きんりょう・奥山おくやま、医者/詩文) S 1 6 1 5
 桐陰(とういん・新井) → 白石(はくせき・新井、儒者/幕政参画) 3 6 1 0
 桐陰(とういん・大蔵) → 謙斎(けんさい・大蔵おおくら、儒者) I 1 8 9 2
 桐陰(とういん・松波) → 光興(みつおき・松波/藤原、官人/詩人) D 4 1 1 4
 桐蔭(とういん・小野) → 顕世(あきよ・小野おの、庄屋/国学) H 1 0 1 9
 桐蔭(とういん・馬島) → 毅生(としなり・馬島まじま/水野、医・国学) W 3 1 3 9
 島陰(とういん) → 玄樹(げんじゅ;法諱・桂菴、臨濟僧/薩南学派祖) 1 8 1 7
 宕陰(とういん・片野) → 磐村(いむら・片野かたの、藩士/国学者) K 1 1 1 3
 陶隱(とういん;号) → 自南(じなん;道号・聖薰;法諱、臨濟僧) V 2 1 3 8
 陶隱(とういん・尾形) → 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B 1 8 9 3

B3110 **道印**(とういん・遠近おちこち、姓;藤井、名;長方/音久) 1628-? 1690存 富山藩医、測量術、1655頃江戸詰、
 絵図の制作に長ず、1677「江戸雀」(著者名;近行遠通)/90「東海道分間絵図」著、
 [遠近道印(;号)の通称/別号]通称;半知、別号;図翁/近行遠通

道因(とういん;法名、法師)→ 敦頼(あつより・藤原、廷臣/歌人) 1 0 2 6
 道因(とういん・中島) → 春湖(しゅんこ;号・中島なかじま、藩儒) J 2 1 5 1
 道因(とういん・本間) → 友五(ゆうご・本間ほんま、医者/俳人) B 4 6 5 5
 道印(とういん;法諱) → 法源(ほうげん;道号・道印、黄檗僧) F 3 9 0 8
 道印(とういん;法諱・月坡)→ 月坡(げつぱ;道号・道印、曹洞僧/詩) H 1 8 3 2
 道員(とういん・多賀) → 道員(みちかず・多賀たが/羽倉、医者) J 4 1 5 5
 道隱(とういん;法諱・靈山)→ 靈山(りんざん;道号・道隱、臨濟僧) K 4 9 3 5
 道隱(とういん;号) → 月溪(げつけい;道号・中珊、臨濟僧) G 1 8 9 7
 道隱(とういん;字) → 諦忍(たいにん;法諱、真宗本願寺派僧) K 2 6 8 7
 道胤(とういん・月田) → 蒙斎(もうさい・月田つきだ、藩儒;崎門学) 4 4 5 4
 重員(とういん・賀茂) → 重員(しげかず・賀茂かも、神職/歌人) C 2 1 0 0
 洞隱翁(洞蔭翁とういんおう)→ 充長(みつなが・仁木につき、歌学者) E 4 1 1 7
 東寅屋(とういんおく) → 護物(ごぶつ・谷川、俳人) D 1 9 6 9
 等引金剛(とういんこんごう) → 以空(いくう;法諱、真言僧) F 1 1 2 7
 洞院前大相国家(とういんさきのだいしょうこくけ、早歌)→ 公守(きんもり・洞院、歌人) E 1 6 7 9

B3111 **藤句子**(とういんし) ? - ? 江戸俳人;1682千春「武蔵曲」/83其角「虚栗」入
 逃隱子(とういんし) → 実隆(さねたか・三条西/西三条、歌/古典学) 2 0 4 0
 東院阿闍梨(とういんのあじり)→ 仁寛(にんかん;法諱、真言僧) G 3 3 2 5
 洞院吉子(とういんのきし) → 吉子(きし・洞院とういん・従三位、歌人) B 1 6 5 2

X3130 **唐院石王**(とういんのせきおう) ? - ? 鎌倉期;南都唐院の童、
 歌;1237刊[檜葉集]入、
 [角院(興福寺支院)にて暮秋鹿といへる事をかめいしとよみ侍りけるに、
 立田山みねよりくれてゆく秋を麓にをしむさをしかのこゑ] (檜葉;雑854)

洞院撰政(とういんのせつしょう)→ 教実(のりざね・九条/藤原、撰関/歌) E 3 5 5 9
 洞院撰政左大臣(とういんのせつしょうさだいじん)→ 教実(のりざね・九条/藤原、撰関/歌) E 3 5 5 9

S3161 **洞院左幕下家**(とういんのさばくけ)?- ? 鎌倉幕府左大将/早歌;1319?「別紙追加曲;琵琶曲」作詞
 洞院実泰と同一?(吉田説)→ 実泰(さねやす・洞院とういん、歌人) D 2 0 7 3
 東寅屋(とういんや) → 護物(ごぶつ・谷川、俳人) D 1 9 6 9

- 塔院律師(とういんりっし) → 一定(いちじょう;法諱、真言僧) G 1 1 2 6
- T3110 稲雨(とうう) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[京の水五月文月の間哉](丁卯集;夏水/文海と四水を詠む)
- T3112 桐羽(とうう) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[法りの市花に眠たき宿世哉](丁卯集/三山;東叡山)
- B3112 桐雨(とうう) ? - ? 江戸の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- B3113 東鳥(とうう・森本) ? - ? 上方浮草子;1706「京縫鎖帷子きょうぬいくさりかたびら」実話女敵討を材
- B3114 東鳥(とうう) ? - ? 江戸中期上方の俳人、社笛・月居[1756-1824]らと交流、
芭蕉百回忌追善集編纂、1773「蘆辺鎌」編、「名月集」編(1794刊)
- B3115 桐羽(とうう・窪田くぼた、名;住武、儀兵衛其得の長男)1717-8872 信濃飯田藩士/俳人:琴色の孫、
伯母;百女、1742名古屋で巴静門、43巴静を飯田に迎える、父と共に横井也有門、
1752義仲寺雲裡と十百韻興行、謡曲・龍笛を嗜む、藩主堀親長(吳観白馬)の俳諧の師、
1763「その原」編/67「歳旦」69「若菜売」、三錦の父、飯田俳壇指導/三井親和・千代尼と交流、
[桐羽(;号)の通称/別号]通称;儀兵衛、別号;三狂庵/自足坊、法号;定誉自足桐羽居士
- B3116 塘雨(とうう・百井もい、名;定雄/通称;左右二そじ、別号;五井ごせい)?-1794or95 京室町の豪商万屋生、
兄没後に万屋に入る;後万屋(のちのよろぐや)、漫遊を好み六部姿で奥羽と日向を遍歴、俳人、
1772-89紀行「笈埃きゅうあい随筆」、「笈埃随筆拾遺」/1783(天明3)「調筆自在抄」著、
1783維駒「五車反古」入、橋南谿と親交、
[かげろふや同じたけなる小松原](五車反古;巻首124)
- B3117 桐雨(とうう・築山つきやま、名;知明、猿雖えんすいの曾孫)?-1782 伊賀上野の商家;平野屋、幼少より多病、
家督を早く子に譲渡/俳人;蓑虫庵を再興/芭蕉の遺跡保存と真蹟蒐集、蝶夢と親交、
1768「蜜柑の色」編、75「高野紀行」、蝶夢と九州紀行;1772蝶夢「宰府紀行」跋、
1781「雪の五歌仙」刊、「二子句選」、遺句集「蓑虫庵句集」、
[桐雨(;号)の通称/別号]通称;平野屋忠右衛門、別号;有無庵/蓑虫庵2世、
法号;義了ト玄法師
- U3112 桐雨(とうう・伊能いぬ、通称;彦作/名;影好、林宗巴2男)1780-183758 下総香取郡山崎村の生/
佐原の商家伊能彦作の養子;家業継嗣/俳諧・詩を嗜む、「黙庵俳歌集」著、
円城寺竹亭の兄、息子;影広/孫;月彦、
[桐雨(;号)の名/通称/別号]名;影好、通称;彦作(養父の称)、別号;黙庵/牧庵
- B3118 桃塙(とうう/とうお・小森こもり、名;義啓、大橋政右衛門正成男)1782-184362歳 美濃外淵の生、
山代伏見の医者小森義晴の養子/医者/蘭方医学;1795大垣の江馬春齡門/99稲村三白門、
1814京で開業/20御典医/従六下肥後介、1842皇女欽宮を診脈;正六下/縫殿助/43従五下、
1817「蘭方枢機」27「病因精義」訳/1829-34「泰西方鑑」訳、「筆削濟急方」「病診要訣」著、
[桃塙(;号)の字/通称/別号]字;玄良、通称;己之助、別号;桃斎/鶴斎/胎安斎、義真の父
- 桃塙(とうう)上記以外は→ 桃塙(とうお)
- 桃雨(とうう・加藤、4世太白堂)→ 桃隣(4世とうりん、俳人) I 3 1 3 7
- 東于(とうう・宮崎) → 荊口(けいこう・宮崎、藩士/俳人) 1 8 5 2
- 東宇(とうう・皐月) → 平砂(3世へいさ・皐月さつき、篠崎、俳人) 2 7 3 2
- 桐雨(とうう・二階) → 道一(みちかず・二階にかい/白上、藩医/歌) K 4 1 0 2
- 陶芋(とうう・福松) → 藤助(とうすけ・福松、浄瑠璃作/俳人) F 3 1 8 8
- 等雨(とうう;字) → 日建(にちごん;法諱・大珠院、日蓮僧) B 3 3 9 9
- 道有(とうう・栗崎) → 道有(とうゆう・栗崎くりさき、外科医者) H 3 1 6 4
- 同禹子(とううし) → 務(つとむ・小野、歌人) 2 9 9 8
- B3119 等運(とううん) ? - ? 伊勢桑名の連歌作者:宗碩門、
1515実隆邸「山河百韻」入、1516宗碩の中国九州の旅に随行/1516宗碩庵「十花千句」参加、
1521宗碩「住吉法楽千句」参加、1522桑名住;東海道往還の宗長を迎える、
三条西実隆・近衛尚通邸に出入、31宗碩の中国下向随行、
1532宗碩と「何人百韻」/「宗祇三十一年忌百韻」、宗碩と「何船百韻」外百韻多数
- B3120 洞雲(とううん・狩野かのう、後藤立乗男)1625-9470 江戸絵師:狩野探幽の養子/実子誕生のため別家、
駿河台狩野派の祖、隠元により洞雲の号を受く/將軍家光の寵愛を得て1691法眼、

歌;松永貞徳門、京山科の毘沙門堂の障壁画制作、「山水絵巻」画、1694(元禄7)没、
 没後;1722松堅[倭譚五十人一首]入、
 [千早振神の御代よりくる春をわれのみしるとつぐる鶯](倭譚五十人一首;12早春鶯)、
 [洞雲(;号)の名/通称/別号]幼名;山三郎、名;益信ますのぶ、通称;采女、
 別号;宗深道人/松蔭子/薄友軒

- B3121 **等運**(とううん) ? - ? 江前中期1673-1716頃天台宗比叡山正教院住、
 のち迹門院住、1713「西塔所属日吉二宮同末社天正再興以降記」著
- B3122 **洞雲**(とううん・山本やまと) ? - ? 江前期大和の生/大阪で漢学者/詩人;
 1676「浪華十二景」、78詩作法書「詩律初学抄」80「浪華十観」、
 1683「和韓唱酬集」通信使との唱和詩入、84「太極図説諺解」86「和漢両鏡録」「道余録破釈」著、
 「酒詩選」「老子経諺解大成」著、
 [洞雲(;名)の字/号]字;子文、号;梅室
- B3123 **東雲**(とううん・長雄ながお、耕雲男)?-? 江後期書家、1787「長雄書札集」、1813「文章達筆」著
- B3124 **洞雲**(とううん;号・池田いけだ)?-? 江末期江戸蘭医/松平肥前守家臣、「牛痘種痘編」著
- 東雲(とううん) → 東雲(しのめ、俳人) M 2 1 3 2
 東雲(とううん・南部) → 政智(まさとも・南部なんぶ/東あずま、家老/歌) E 4 0 7 5
 東雲(とううん・武嶋) → 茂道(もちみち・武嶋/菅原/丸橋、幕臣) B 4 4 7 2
 東雲(とううん・山川) → 賢隆(けんりゅう・山川やまかわ、藩士/紀行) B 1 8 2 5
 東雲(とううん・長坂) → 賢道(かたみち・長坂ながさか、儒医) V 1 5 2 6
 東雲(とううん・鹿之木) → 春民(はるとみ・鹿之木かのこぎ、医者/神職) J 3 6 8 9
 棟雲(とううん・細川) → 昌庵(しょうあん・細川ほそかわ、医者/俳人) V 2 2 2 1
 等運(とううん・北畠) → 教具(のりとも・北畠、武将/連歌) F 3 5 2 1
 等運(とううん;法名、等蓮/1526出家) → 豊道(とよみち・久我こが、右大臣/連歌) R 3 1 6 4
 洞雲(とううん;号) → 普巖(ふごん;法諱、真宗本願寺派僧;大瀛門) B 3 8 9 4
 洞雲(とううん;道号) → 鬮冲(どくちゅう;法諱・洞雲、曹洞僧) L 3 1 2 4
 騰雲(とううん・高妻) → 秀馨(ひでか・高妻こうつま、儒者/教育者) J 3 7 5 7
 騰雲(とううん・長谷) → 信篤(のぶあつ・長谷ながたに/高倉、廷臣) 3 5 9 4
- B3125 **道雲**(どううん) ? - ? 鎌倉期僧;法印、
 歌人;1275家経「摂政家月十首歌合」参加、
 [十日あまりけふみか月の影清み空もさこそは時をしるらめ](月十首;三/十三夜晴)
- B3126 **道雲**(どううん;法諱・瑞峰;号、上田浄通男) 1600-7172 河内錦部郡鬼住村の真言僧、
 広く学匠と交流、1645「如意輪観音由来」、浄巖(1639-1702)じょうごんの父
- B3127 **道雲**(どううん・池永いけなが、名;栄春、新山仁左衛門男) 1665-173773 江戸箱先町の木綿問屋;
 5代目主人(池永氏は元来相模小田原の土豪;江戸の出た初代は栄寿)、
 隠居;書家;今体風の篆刻家、1713自刻印譜「一刀万象」;有名になり天皇や宮家に奉呈、
 「池永道雲印譜」「池永家伝阿弥陀仏縁起」「福字百体篆書」「竜研堂日録」「文字雙珠」外多数、
 [道雲(;字)の通称/号]通称;有右衛門、
 号;一峯/竜研[堂]/一隠/留耕閣/玉潤堂/清秀軒/山雲水月主人、法号;栄誉蓮邦道雲居士
- 道雲(とううん・畑/赤松) → 金鶏(金鶏きんけい・奇々羅、医/狂歌/戯作) 1 6 6 0
 道運(とううん;法号) → 基行(もとゆき・持明院/藤原、廷臣/歌) E 4 4 5 2
 道運(とううん・江幡) → 春庵(しゅんあん・江幡えはた/田口、藩士/儒/医) 2 1 9 7
 道蘊(とううん・岩佐) → 又兵衛(またべえ・藤原/荒木、絵師) J 4 0 5 5
 道蘊(とううん・太田) → 資寧(すけやす・太田おた、旗本/幕臣/歌) H 2 3 8 9
 同雲(とううん・村井) → 翠溪(すいけい;号・村井むらい、藩医者) E 2 3 3 7
 東雲庵(とううんあん) → 見外(けんがい・小林、重陽堂、俳人) B 1 8 3 7
 東雲館(とううんかん) → 篠目保雅楽(しのめほがら、狂歌作者) F 2 1 4 0
 東雲軒(とういんけん) → 逸衛(はやえ・伊藤いとう、書家/歌人) J 3 6 6 5
 洞雲軒(とううんけん) → 春朔(しゅんさく・緒方/瓦林、医者/天文) K 2 1 7 7
 東雲軒風鳴(とううんけんふうめい) → 風鳴(ふうめい・東雲軒、僧侶/俳人) B 3 8 0 2
 徧雲斎(とううんさい) → 鳥習(ちようしゅう・桐谷きたに、華道家) I 2 8 7 4

- 騰雲齋(とううんさい) → 左簾(4世されん・笠家かさや、俳人) L 2 0 6 8
 登雲堂(とううんどう・狩野) → 養長(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学) F 4 5 7 2
 等恵(とうえ;法諱) → 等恵(とうけい;法諱・靖齋、僧/連歌) D 3 1 0 2
- X3121 **道恵**(どうえ;法諱、藤原有能[正三/右京大夫1184-1252存]男)?-? 鎌倉南北期天台僧;阿闍梨、
 法印、康能(参議/六条宰相/歌人/?-1295)の叔父、親遍(律師)の兄弟、
 歌人;1344金剛三昧院奉納歌参加/藤葉集入、
 [つもりきてうき老と成る月もなほくもりなき代をたのまはずはなし](金剛三昧院;19つ)、
 [くり返しなほかこたばやうとくのみなるみのうらのあまのうけなは]、
 (藤葉;恋550/浮子縄うけなはは網を浮かせるための張り縄)
- 道恵(どうえ、三井寺長吏) → 道恵法親王(どうえほうしんのう、鳥羽天皇皇子) X 3 1 2 1
 道慧(どうえ;法名) → 時親(ときちか・大友/戸次、廷臣/歌人) J 3 1 2 6
 道会(どうえ;法名) → 秋風(しゅうふう・三井みつゐ、商人/俳人) I 2 1 2 3
- B3128 **桃英**(とうえい) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」2句入(;少年時)、
 [牡丹散り芍薬ひらく且あしたかな](卯辰集;二夏170)
- B3129 **冬映**(初世とうえい・牧まき) 1721-1784 63歳 江戸の俳人:初世宗瑞/柳居/3世湖十門、
 のち独立一座をなし冬映側と称す、1747「梅さく時」編/66「桂の実」76「年こもり」、
 1780「安永九集」、「古池や之巻」「枕にも之巻」(評論)、一周期追善「うしろむき」(;2世編)、
 [初世冬映(;号)の別号]冬涉、冬英、隣梨庵、白花庵、旬樹庵、瑞興庵、紫陽館、如鷺亭、桂窓、
 老蚕、老蚕窓、麴八郎
- B3130 **冬映**(冬英2世とうえい、別号;雨沢/一巢庵/兌堂)?-? 江戸の俳人:初世冬映門、「兌堂発句集」著、
 1784「うしろ向集」編(;師一周忌追善)、「老蚕句集」編(;師13回忌追善)
- B3131 **冬映**(3世とうえい、通称;近江屋弥一、別号;松守庵3世/方堂/蓮窓) 1760-1849 90歳 江戸の俳人:
 野逸門/のち2世冬映門、1811「俳諧訓」/22「かたいと」「かたむすび」、「麓の杖」著
- B3132 **東英**(とうえい;法諱・陽関;道号、俗姓;関戸) 1775-1857 83 水戸の臨濟僧;竜雲模・春叢門、
 阿波慈光寺住、1813妙心寺首座/師座/慈光寺住持/34妙心寺住持、「日月牌勸簿序」著
- B3133 **東壑**(とうえい・小田おだ、名;一貞) 1798-1869 72歳 上州群馬岩鼻の医者/矢田藩医/のち江戸で開業、
 眼科に秀でる、「浮世問答」「衝風飛船図解」「水戦要略」「陸戦要略」「水練術」「察病捷徑」、
 「激水灌立術図解」「福善実録」「方位吉凶早見」外著多数、
 遺稿「虎烈刺病征討論」(息の耕作刊)、
 [東壑(;号)の字/通称]字;知卿、通称;鐫川堂てきせんどう
- 東壑(とうえい・谷田部) → 東壑(とうがく・谷田部やたべ、儒者) C 3 1 1 8
 東鋭(とうえい;法諱) → 利峰(りほう;道号・東鋭、臨濟僧) C 4 9 4 9
 東瀛(とうえい・陳) → 元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) B 1 8 2 7
 当永(とうえい・横山) → 当永(まさなが・横山よこやま、神道家) F 4 0 2 6
 当栄(とうえい・成瀬) → 当栄(まさひで・成瀬なるせ、藩士/記録) G 4 0 6 5
 董盈(とうえい・土井) → 董盈(ただみつ・土井どい、国学・歌人) Y 2 6 3 7
 藤英(とうえい・三淵) → 藤英(ふじひで・三淵みつぶち/源、武将/連歌) C 3 8 6 3
- B3134 **道英**(とうえい;法諱、俗姓;斎藤)?-? 南北期僧、二条派歌人:良基「近来風体抄」入、新後拾遺628、
 [散るまに庭には跡もなかりけり梢や花の雪まなるらむ](新後拾遺集;七628)
- B3135 **道栄**(とうえい・林はやし/改姓;官梅、名;応宰、林公琰男) 1640-1708 69 父;福建福州出身の長崎唐通事、
 書家として一家を為す;高天漪てい(深見玄岱げんたい)と共に長崎の二妙と称さる、1663小通事、
 1675大通事/97目付役/99唐船風説定役/99長崎奉行林忠和を憚り官梅と改姓、「江都紀行」、
 「東閣吟草」「海外異聞録」「大日本哥道極秘伝書」「幹栄文翰」「之乎吟」著、「墨癡道人存稿」、
 [道栄(;通称)の字/号]字;欸雲あいうん、号;蘿山/墨癡/官梅、
- B3136 **道盈**(とうえい;法諱・憲明けんみょう;字) 1749-? 1799存 智山の真言学僧、
 1799「請雨秘記」、「字観要訣」著
- 道栄(とうえい;法号) → 氏経(うじつね・斯波しば、武将/歌人) 1 2 3 9
 道英(とうえい・畑) → 道伯(どうはく・畑はた定明、医者) G 3 1 9 4
 道英(とうえい・新井) → 道英(みちひで・新井あらい、国学/歌人) L 4 1 1 1
 道永(とうえい;法名) → 高国(たかくに・細川、武将/歌人/連歌) C 2 6 7 2

- 道永(どうえい・内海) → 蘭溪(らんけい・内海うつみ、本草学者) B 4 8 8 5
 道衛(どうえい・石野) → 氏恒(うじつね・石野いしの、藩士/国学) E 1 2 5 2
 道鋭(どうえい;法諱) → 道応(どうおう;法諱・義霊;字、真言僧) B 3 1 6 3
 藤栄軒(とうえいけん) → 宗臣(むねしげ・桑折こおり、藩家老/歌/俳人) B 4 2 4 2
 藤栄軒(とうえいけん) → 如蟹(じよかい、歌人) M 2 2 1 9
- B3137 **道永親王**(どうえいしんのう、俗名;高平、伏見院貞常親王男)?-? 室町中期真言宗仁和寺上乘院門跡、1472親王宣下/75得度;仁和寺真光院禪信門/上乘院転住、1516伝法灌頂を受、連歌;1492「何木百韻」/新菟7句入、歌;1503三六番歌合参加、04仁和寺宮宗山と和漢聯句、[半天にしばしやすらへ短夜の月は木の間にならの下かげ]、(三六番歌合;樹蔭夏月三番左)、[道永親王の法諱/通称]法諱;道什/道永、通称;蓮華院/下河原殿
- B3138 **道益**(どうえき・松尾まつお) ? - ? 江前期山城の医者/1652頃備前岡山で開業、岡山藩医、「養生俗解集」著
 道益(どうえき・佐藤) → 懋徳(よしなり・佐藤さとう、藩儒) F 4 7 8 8
 道益(どうえき・三村) → 石牀(せきしょう・三村、医者/本草家) K 2 4 1 6
 東易館(とうえきかん) → 謙堂(けんどう・宍戸ししど、易学家) L 1 8 7 6
- B3139 **道悦**(どうえつ;法名、俗姓;花房/名;正幸、花房正定男/本姓;源) 1524-1605⁸² 播磨の武将、越後守、宇喜多[浮田]秀家の家臣、備前虫明城主/入道、歌/連歌;1589紹巴と「山何百韻」、[道悦(;法名)の通称]通称;又左衛門
- B3140 **道悦**(どうえつ・山田やまだ、名;広吉)?-? 備前岡山の軍法家;村上清信門/村上流軍法を修得、自ら村上流山田軍学と称す/岡山藩主池田光政の客臣、「山田道悦覚書」著
 道悦(どうえつ・方入斎) → 治左衛門(じざえもん・出口でぐち、歌人/茶) T 2 1 5 2
 道悦(どうえつ・本間) → 松江(しょうこう・本間、藩士/医/俳人) S 2 2 1 0
 道悦(どうえつ・小林) → 道意(どうい・三浦みづら/小林、藩医/歌) 3 1 9 7
 道悦(どうえつ・山脇) → 祖木(そぼく・山脇、六呂堂、医/俳人) C 2 5 2 4
 道閔(どうえつ・一閑) → 長親(ながちか・松平、武将/連歌) E 3 2 2 5
 道閔(どうえつ・井原) → 主信(しゅしん・井原いはら、医者) Y 2 1 9 0
- X3122 **道恵法親王**(どうえほっしんのう、鳥羽天皇第6皇子) 1132-68³⁷ 母;石清水八幡別当紀光清女の美濃局、待賢門院に養育/1138(保延4)出家;覚猷(鳥羽僧正)門、1146一身阿闍梨、1150行慶より灌頂を受/四天王寺別当;園城寺(三井寺)長吏、1158四天王寺別当職をめぐって仁和寺御室と争/1160(永暦元)親王、68(仁安3)没
- B3141 **藤右衛門**(とうえもん・脇田わたた、号;八栄)?-1734 伊勢商人:1683三井家江戸本店支配人/1710元締、1728「脇田藤右衛門扣ひかえ」著
- B3142 **藤右衛門**(とうえもん・里見さとみ、儒医相原あいはら友直3男)?-? 江後期寛政1789-1801頃の陸前仙台の人、博物学研究者、1798(寛政10)「封内土産とさん考」著(;藩内の物産の詳細な解説書)
 藤右衛門(とうえもん・中井) → 正清(まさきよ・中井なかい、大工棟梁) L 4 0 4 1
 藤右衛門(とうえもん・仲田) → 顕忠(あきただ・仲田なかだ、幕臣/歌人) 1 0 4 4
 藤右衛門(とうえもん・三橋) → 成烈(なりてる・三橋、幕臣/文筆家) H 3 2 6 7
 藤右衛門(とうえもん・篠崎) → 自閑(じかん・篠崎しのぎ、藩士/文筆家) P 2 1 9 2
 藤右衛門(とうえもん・藤堂) → 元甫(もととし・藤堂とうどう、藩士/地誌家) D 4 4 2 9
 藤右衛門(とうえもん・菊岡) → 沾涼(しんりやう・初世せんりやう・菊岡、俳人) 2 4 4 5
 藤右衛門(とうえもん・河村/仁壁) → 公成(こうせい・芭蕉堂5世、俳人) B 1 9 5 0
 藤右衛門(とうえもん・吉田) → 薄洲(はくしゅう・吉田よしだ、儒者/詩) D 3 6 2 4
 藤右衛門(とうえもん・吉田) → 謙斎(けんさい・吉田、薄洲男/藩士/詩) I 1 8 9 0
 藤右衛門(とうえもん・武嶋) → 茂道(もちみち・武嶋/菅原/丸橋、幕臣) B 4 4 7 2
 藤右衛門(とうえもん・石黒) → 信由(のぶよし・石黒、和算/測量術) D 3 5 9 1
 藤右衛門(とうえもん・石黒) → 信之(のぶゆき・石黒、和算/測量術) D 3 5 7 2
 藤右衛門(とうえもん・石黒) → 信基(のぶもと・石黒、和算/測量術) D 3 5 5 3
 藤右衛門(とうえもん・大野/土山) → 孝祖(たかそ・土山、幕臣/記録) M 2 6 1 4
 藤右衛門(東右衛門とうえもん・西村;変名) → 教孝(のりたか・金子、桜田門変主謀) E 3 5 8 5

- 藤右衛門(とうえもん・千村)→ 赤之御膳(あかのごぜん、千村、藩士/狂歌) D 1 0 2 8
藤右衛門(とうえもん・小西)→ 篤好(あつよし・小西、庄屋/農学者) E 1 0 9 4
藤右衛門(東右衛門とうえもん・土肥)→ 渭虹(渭江いこう、土肥、藩士/俳) F 1 1 4 3
藤右衛門(とうえもん・藍沢)→ 無濤(むまふ・藍沢あいざわ、国学/俳人) D 4 2 0 1
藤右衛門(とうえもん・黒崎)→ 洗心(せんしん・黒崎くろさき、儒者/詩人) M 2 4 6 6
藤右衛門(とうえもん・高木)→ 筠斎(いんさい・牟田口むだぐち、儒者) I 1 1 5 7
藤右衛門(とうえもん・河村)→ 公成(こうせい・河村/仁壁、俳人/勤王) B 1 9 5 0
藤右衛門(とうえもん・渡辺)→ 梅麿(うめまる・臥竜園がりょうえん、狂歌) D 1 2 4 4
藤右衛門(とうえもん・福谷)→ 水竹(すいちく・福谷、俳人) E 2 3 8 3
藤右衛門(とうえもん・波多野/広沢)→ 眞臣(まねおみ・広沢/柏村/波多野、藩士/日記) E 2 0 8 6
藤右衛門(とうえもん・千原)→ 夕田(せきでん・千原ちはら、商家/画/書家) D 2 4 7 6
藤右衛門(とうえもん・新井あらい)→ 政憲(まさのり・新井あらい/井村、歌人) N 4 0 2 4
藤右衛門(とうえもん・内田)→ 饒穂(にぎほ・内田うちだ、庄屋/歌人) H 3 3 0 7
藤右衛門(とうえもん・香西)→ 亀文(かめあや・香西こうさい、藩士/歌人) U 1 5 6 6
藤右衛門(とうえもん・成田)→ 行明(ゆきあき・成田なりた、藩士/国学者) H 4 6 1 0
藤右衛門(とうえもん・肥田)→ 土雄(ひじお・肥田ひだ、医者/歌人) K 3 7 7 3
藤右衛門(とうえもん・坂野)→ 依好(よりよし・坂野さかの、商家/歌人) N 4 7 1 9
東右衛門(とうえもん・荒川)→ 重郷(しげさと・荒川あらかわ、歌人) N 2 1 2 1
東右衛門(とうえもん・久郷)→ 恭慶(たかよし・久郷ひささと、被官/歌人) Z 2 6 2 2
- B3143 **道右衛門**(とうえもん・伊東いとう、名;正義) 1807-68戦死62 越後長岡藩士;槍術/砲術に秀でる、
槍刀製作に通ず、戊辰戦争で戦死、「槍刀製作考」「赤倉日記」著
- B3144 **桃遠**(とうえん) ? - ? 俳;1700角呂「雪月花集」百韻入
- B3145 **東園**(とうえん・桃もも、名;道隆、大口屋治兵衛為春男) 1687-1760 74 江戸浅草の米穀商(札差)の生、
先祖の桃井氏に因み桃生氏のち桃氏を名乗る、兄没後に家督を弟に譲渡し隠居、
儒者;太宰春台門、天文;中根元圭門、武術・歌舞に通ず、窮民援助活動も行う、
「異字同訓」「三百年暦」著、
[東園(;)号)の字/別号]字;仲長、別号;浮葉庵
- B3146 **棠園**(とうえん・山県やかがた、名;泰恒、周南男) 1719-83 65 長門萩の儒者;父門/1752家督、萩藩士、
藩校明倫館学頭/越氏塾在番、1769周防三田尻で発病;闘病生活、1755「周南先生文集」編、
[棠園(;)号)の字/通称]字;伯恒/之恒、通称;次郎右衛門/二郎右衛門、東原とうげんの父
- B3147 **桐園**(とうえん・萩原はぎはら、名;図書しよ) ?-1843 上州佐位郡東小保方の俳人;栗庵似鳩門、
江戸住、鳳朗・由誓と親交、1798「佐野の舟はし」1803「みちのくぶり」19「百子規」「月百句」、
1821「梅双紙」22「花百句」23「俳諧百韻」38「俳諧年々集初編」、「桐園発句集」「詠帰俳集」外多、
[桐園(;)号)の字/通称/別号]字;俊山、通称;五郎三郎、別号;詠帰
- B3148 **桐園**(とうえん/とうえん・壱岐いき/初姓;杉本、名;幸猷、壱岐家の養嗣子) ?-? 日向飫肥の儒者:
長崎の吉村正隆門、1801新設の日向飫肥藩学問所の教授/江戸の古賀精里門;朱子学修得、
46歳で参謀に抜擢;故あって罷免、詩人;「桐園詩集」著、
[桐園(;)号)の字/通称]字;道夫、通称;五左衛門
- S3170 **稻焉**(とうえん・野間のみ、通称;藤左衛門) ?-1814 安藝中野村の俳人;篤老門、
1812篤老「巖島奉納集初編」序
- B3149 **東園**(とうえん・巖垣/岩垣いわがき/本姓;源、西尾杏庵男) 1774-1849 76歳 京の儒者;岩垣竜溪門、
岩垣竜溪の養子、音博士/大舎人助に任じられる;古注学を主唱、1791竜溪「松蘿館詩集」編、
1826「国史略」編/27「東園百絶」28「続東園百絶」34「新続東園百絶」「新続後東園百絶」、
「東園和歌集」、「学庸温故録」「学庸孟温故録」「糜可録ひかく」「周語律」「巖垣博士手簡」外著多、
[東園(;)号)の名/字/別号]名;維光/松苗、字;千尺/長尊、別号;謙亭、養嗣子;服部菊苗
- B3150 **桐園**(とうえん・今津いまづ/旧姓;竹尾たけお) 1789-1856 68歳 安藝の人;周防三田尻の叔父今津家継嗣、
儒者;越氏塾の吉武江陽門/のち越氏塾督学、「桐園詩文録」、
[桐園(;)号)の名/字/通称/別号]名;鳳、字;鳴卿、通称;喜三郎、別号;岐山
- B3151 **東園**(とうえん・黒田くろだ) 1790- 1863 74歳 阿波徳島富田町の儒者;鉄くろがね復堂門、

諸儒と交流、郡吏を勤めた、詩人：「東園詩鈔」著、
 [東園(；号)の名/字/通称]名；邦直、字；子彦、通称；寛平

- B3152 **桐園**(とうえん・奥田おくだ、名；鳳文、鶯谷男)1791-1852⁶² 尾張の儒者；河村乾堂門/1851尾張藩儒、
 名古屋城南長者街に住；教育に尽力、「沙汰集」著、「桐園先生詩稿」「奥田桐園遺稿」、
 [桐園(；号)の字/通称/別号]字；夢得、通称；文次郎、別号；小朴
- B3153 **藤園**(とうえん・木原きはら、名；真足/盾臣たておみ、元福男/本姓；藤原)1805-68⁶⁴歳 熊本藩士；櫓番、
 故実；長瀬眞幸門/林有通門、国学：田中元勝門、考古学上の遺跡物に関心、
 1832(天保3)以降度々江戸に赴く；伴信友・高島千春と交流、「梓の説」「阿曾紀行」著、
 家集「木原藤園集」/「国風歌」「謎語」「盾臣直垂考」著、「古兵器図解」「武器図解」編、
 1835「狩猟図説」65「鉾盾図説」著/外編著多数、歌；[月百拾番歌合](中島広足判)参加、
 [藤園(；号)の通称/法号]通称；英太/楯太、修武堂主人、法号；永忠院
- B3154 **東園**(とうえん・山田やまだ、名；重春)?? 江後期上総飯野の儒者/江戸長谷川町住、随筆家、
 1838「南畝叢話」、48「砲術語選」校訂、57「野語雑編」61「灌園暇筆」著、
 [東園(；号)の字/通称]字；孟郷、通称；泰輔

東園(とうえん・林)	→ 厚德(あつり・林、歌人)	B 1 0 3 7
東園(とうえん)	→ 如臯(初世じょう・瀬川、歌舞伎作者)	2 2 0 9
東園(とうえん・細井)	→ 金吾(きんご・細井ほそい、藩士/儒・国学)	Q 1 6 8 6
東園(とうえん・川上)	→ 静庵(せいあん・川上かわかみ、国学者)	H 2 4 2 2
東園(とうえん・辻)	→ 守静(もりきよ・辻/源/三枝、幕臣/歌人)	F 4 4 3 6
東園(とうえん・早田)	→ 簫山(しょうざん・早田はいだ、藩士/儒者)	J 2 2 3 1
東園(とうえん・岡田)	→ 春燈斎(しゅんとうさい・岡田おかだ、銅板画)	L 2 1 6 5
東園(とうえん・中山)	→ 忠愛(ただなる・中山なかやま・藤原、廷臣)	Y 2 6 6 7
東苑(とうえん；号)	→ 慧晃(えこう・東苑、真宗本願寺派僧)	D 1 3 8 6
東円(とうえん・安東/井上)	→ 正鉄(まさかね・井上/富田、神道家)	C 4 0 1 7
凍淵(とうえん・梅川/藤原)	→ 夏北(かほく・梅川/奈良屋、銅版師)	P 1 5 3 6
棟園(とうえん・小寺)	→ 清之(きよゆき・小寺こでら、神職/国学/歌)	H 1 6 5 8
藤園(とうえん・山口)	→ 起業(おきり・山口、国学者/神職)	C 1 4 9 4
藤園(とうえん・松田)	→ 直兄(なおえ・松田、神職/国学)	3 2 7 3
藤園(とうえん・藤井)	→ 宗雄(むねお・藤井ふじい、商家/神道家)	B 4 2 1 0
藤園(とうえん・田中)	→ 年足(としたり・田中たなか、大庄屋/歌人)	V 3 1 5 0
藤園(とうえん・中村)	→ 大蔭(おおかげ・中村なかむら、大庄屋/国学)	E 1 4 0 2
藤淵(とうえん・木脇)	→ 祐業(すけなり・木脇、啓四郎/藩士/絵師)	C 2 3 6 9
稲園(とうえん・田中)	→ 秀穂(ひでほ・田中たなか、神職/歌人)	K 3 7 0 6
桃園(とうえん)	→ 英棟(ひでむね・平松、国学/歌人)	D 3 7 9 3
桃園(とうえん)	→ 万(よろづ・生田いくた、国学/救民活動)	4 7 4 2
桃園(とうえん)	→ 玄子(げんし・河崎かわさき、俳人)	J 1 8 3 6
桃園(とうえん)	→ 忠貫(ただつら・本多/戸沢、藩主/詩)	P 2 6 9 1
桃園(とうえん)	→ 広賢(ひろかた・六角ろっかく/藤原/烏丸、和学/歌)	M 3 7 2 9
桃園(とうえん・穂井田)	→ 忠友(忠儒ただとも・穂井田/小原、歌/考証)	2 6 2 7
桃園(とうえん・平松)	→ 英棟(ひでむね・平松ひらまつ、国学者/歌)	D 3 7 9 3
桃園(とうえん・橋村)	→ 正衛(まさえ・橋村/度会、神職/書)	B 4 0 3 5
桃園(桃園とうえん・遠藤)	→ 白人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人)	5 3 5 1
桃園(とうえん・高見)	→ 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書)	L 2 5 0 4
桃園(とうえん・那須)	→ 宗正(むねまさ・那須なす、国学/歌人)	E 4 2 0 7
桐園(とうえん・藤田)	→ 浪緒(なみお・藤田ふじた、藩士/歌人)	G 3 2 8 9
桐園(とうえん・大館)	→ 晴勝(はるかつ・大館おだち、歌/連歌)	G 3 6 1 9
桐園(とうえん・小林)	→ 源蔵(げんぞう・小林こばやし、工匠)	K 1 8 8 5
桐園(とうえん・山科)	→ 元幹(もとみき・山科やましの、源、医者/歌)	E 4 4 3 5
桐園(とうえん・萩野)	→ 重英(しげひで・萩野はぎの、医者/歌)	S 2 1 4 2
桐園(とうえん・小野)	→ 顕世(あきよ・小野おの、庄屋/国学)	H 1 0 1 9

桐園(とうえん・片桐) → 春好(はるよし・片桐かたぎり、製織業/歌人) J 3 6 9 3
 桐園(とうえん・勝野) → 秀雄(ひでお・勝野かつの/三勝、神職/官吏/歌人) J 3 7 0 6
 桐園(とうえん・佐々木) → 敏雄(としお・佐々木ささき/井上、藩士/歌) V 3 1 2 9
 桐園(とうえん・弾) → 琴緒(ことお・弾だん/団、漢学/歌人) R 1 9 0 2
 透遠(とうえん・藤原) → 成親(成近なりちか・藤原ふじわら、歌人) H 3 2 6 0
 棠園(とうえん・楠瀬) → 大枝(おおえ・楠瀬くすのせ、藩士/国学/画) C 1 4 7 4
 董園(とうえん・大久保) → 忠尚(ただひさ・大久保、国学者) F 2 6 6 9
 濤園(とうえん) → 琵琶麿(びわまる・便々館、幕臣/狂歌) 3 7 3 3

B3155 道円(どうえん;法名、俗名;小田おだ時家、小田知家[八田四郎]男/本姓;藤原)1200-7172 鎌倉幕臣;
 1238伊賀守/59幕府引付衆、61出家/64評定衆/従五下、
 歌人;1261宗尊親王百五十番歌合参加、勅撰4首;続古今937/1156/1710/続拾1222、
 [花見てはかへる心のあらばこそ分けいる山にしをりをもせめ](宗尊親王歌合;十番左)
 [道円(;法名)の別通称]小田十郎/北条十郎/法界寺道円

B3156 道円(どうえん・賀島かしま、名;東和)1585-167187歳 医者:曲直瀬まなせ道三門、1631尾張藩医、
 兵法;柳生如雲齋門/茶;千宗旦門/禅にも通ず、歌:「養生和歌百首」著、盛辰の養父、
 [道円(;通称)の別通称/号]別通称;名古屋道三/古道円、号;永壽院、

B3157 道円(どうえん・山脇やまわき、名;重頭/字;士晦)?-? 江前期医者/儒者:闇齋門、「教のひとり」著、
 1669「増補下学集」70「外科良方」著、「阿蘭陀流外科書」/「八陣図説」編

B3158 道円(どうえん・原はら、名;恒)?-1795 名古屋の蘭医/外科:初世野村立栄・吉雄南臯門、
 「砒石考」著、道円(;通称)の法号;環空道機

B3159 道円(どうえん・松井まつい、別通称;新三郎)?-? 江前期京の医者/諸国を遊歴/陸中花巻に滞在、
 歴史に通ず/画;城中襖絵制作?、
 1726「和賀稗貫郷村志」/1700頃「吾妻むかし物語」/「ひとりみの遊」著

V3172 道遠(どうえん・松岡まつおか、津村長五郎男)1763-182664 長門府中(長府)藩士の家の生、
 医者;伯父永富独嘯庵門/小田享叔門、江戸に開業;内科・眼科に長ず、
 のち藩主毛利元義の侍医、小田南玄(1789-1835)・武久季平すえひら(1804-73)の父、
 [道遠(;号)の名/通称/別号]名;士蔵、通称;道蔵、別号;思斎

道円(どうえん;法名) → 行藤(ゆきふじ・二階堂/藤原、幕臣/歌) F 4 6 5 4
 道円(どうえん;字・那波) → 活所(かつしよ・那波なば、儒者) 1 5 2 3
 道円(どうえん・小津) → 長親(ながちか・小津おつ、商人/歌人) E 3 2 2 7
 道円(どうえん・西邑) → 楯川(しゅうせん・西邑にしむら、儒者/詩人) H 2 1 9 3
 道円(どうえん・木下) → 順斎(じゅんさい・木下/藤原、医者) K 2 1 7 4
 道焉(どうえん・内山) → 豊充(とよみつ・間瀬、歌人) R 3 1 6 7
 道遠(どうえん→みちとお?・青葉) → 南洲(なんしゅう・青葉あおば、儒者) J 3 2 1 7
 藤垣庵(とうえんあん) → 道彦(みちひこ・鈴木、医/俳人) 4 1 1 5
 棟燕閣(とうえんかく) → 蘇守(そもり・伊藤/虚白堂、俳人) 2 5 8 1
 桐淵閣(とうえんかく) → 貞山(ていざん・桐淵きりぶら、医/俳人) 3 0 9 1
 陶苑閑人(とうえんかんじん) → 鷹木(たかぎ、陶苑閑人、詩人) G 1 5 6 5
 桃縁齋(とうえんさい) → 貞佐(ていさ・芥河/丸山、商家/狂歌) 3 0 7 8
 東淵舎(とうえんしゃ) → 芦丸(あしまる・藤田、俳人) E 1 0 4 0
 稲園舎(とうえんしゃ) → 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1
 桃猿舎犬雉(とうえんしゃけんち) → 一九(初世いつく・十返舎、戯作滑稽本) 1 1 2 0
 桃垣内(とうえんない) → 光等(みつとも・保々ほぼ、藩士/国学) K 4 1 3 9
 洞円房(とうえんぼう) → 声淵(しょうえん;法諱・洞円房、天台僧) H 2 2 2 6
 桃塙(とうお;号) → 円猷(えんゆう;法諱、真宗高田派僧) F 1 3 4 1
 桃塙(とうお・小森) → 桃塙(とうお・小森こもり、蘭方医/典医) B 3 1 1 8
 桃塙(とうお・鯨岡) → 重胤(しげたね・鯨岡くじらおか、詩人) R 2 1 3 8
 東塙(とうお・梅田) → 雲濱(うんびん・梅田、藩士/儒;尊攘派) B 1 2 2 1
 桐塙(とうお・兼重) → 慎一(しんいち・兼重かねしげ、藩士;藩政) N 2 2 3 1

- S3193 **冬鶯**(とうおう) ? - ? 上州松井田の俳人;1703不角「広原海枕つみ」入、
[仏とて千手に千の矢はふしぎ](広原海/謡曲「田村」の急;[一たび放せば千の矢先])
(田村麻呂を助けるため千手観音が鈴鹿の鬼の分身に千の矢を射た;5百のはずの理屈)
- B3160 **冬央**(とうおう・太田おた、別号;秋陽堂)1674?-? 尾張古渡の俳人:横船(蘭秀)門、1716「歳旦」編、
1728師33回忌追善集「続年矢誹諧集」(精酔と共編/序執筆)、1733「俳諧古渡集」編
- B3161 **桃翁**(とうおう・瀬尾せのお) ? - ? 俳人:秀和門・のち桃隣2世門、
1728「さるすべり」・「俳諧御句すべり」・「雨あかり」・「檜木笠」・「冬の日」編、
[桃翁の別号] 大練舎/杜格
- 桃翁(とうおう・太白堂) → 桃隣(初~5世とうりん、俳人) 3 1 2 9 ~
 桃翁(とうおう・太白堂) → 孤月(こげつ・江口、太白堂6世/俳人) C 1 9 4 4
 桃翁(とうおう・梶山) → 保友(ほゆう/やすとも・梶山、商家/俳人) E 3 9 7 8
 桃翁(とうおう・市河) → 恭斎(きょうさい・市河/稲毛、書家/詩) N 1 6 8 2
 桃翁(とうおう・斯波/三河屋) → 黒人(くろひと・浜辺、書肆/狂歌) B 1 7 1 8
 桃翁(とうおう・大野) → 景山(けいざん・大野、俳人) 1 8 5 8
 桃翁(とうおう・青木) → 桃溪(とうけい・青木、藩士/俳人) D 3 1 0 9
 桃翁(とうおう・九鬼) → 隆都(たかひろ・九鬼くき、藩主/江戸開城) N 2 6 0 9
 桃翁(とうおう・馬場) → 成道(なりみち・馬場ばば、藩士/神職) O 3 2 3 1
 東翁(とうおう・木下) → 長嘯子(ちやうしょうし・木下、武将/歌人) 2 8 2 3
 東翁(とうおう・蛭田) → 玄仙(げんせん・蛭田ひるた、産科医) K 1 8 6 3
 東翁(とうおう・久郷) → 恭慶(たかよし・久郷ひささと、被官/歌人) Z 2 6 2 2
 洞翁(とうおう・横山/小野) → 湖山(こざん・小野/横山、詩人) C 1 9 6 9
 透翁(とうおう、俳人) → 常和(じょうわ・下郷しもと、蝶羽9男) C 2 2 2 0
 唐翁(とうおう;字・大旨) → 大旨(たいし;号・唐翁、儒者/詩文) K 2 6 1 1
 藤翁(とうおう・内藤) → 信親(のぶちか・内藤、藩主/老中) C 3 5 0 2
 藤翁(とうおう・中村) → 大蔭(おおかげ・中村なかむら、大庄屋/国学) E 1 4 0 2
 塘翁(とうおう・渡辺) → 規綱(のりつな・渡辺、家老/茶/陶芸) F 3 5 0 9
 棠翁(とうおう・楠瀬) → 大枝(おおえ・楠瀬くすのせ、藩士/国学/画) C 1 4 7 4
- B3162 **道応**(どうおう;法諱) ? - ? 僧、歌人:新後拾遺727、
[袖のうへの露をばつゆとはらひても涙数そふ秋の夕暮れ](新後拾遺集;八727)
- U3104 **淖翁**(どうおう・安藤あんど、)1781-1862 82 越後蒲原郡白瀬村(佐渡両津)の医者、
医・儒学;藤沢雪斎子門、観音堂において子弟に和漢学を教授、
[淖翁(;名)の通称/号]通称;東作、号;讓上/西舎翁/大医淖翁沙彌
- B3163 **道応**(どうおう;法諱・義霊;字、森もり平八良男)1806-75 70 武州都築郡恩田村真言僧;1813(8歳)出家、
1827高野山入山;34竜宝院住/44桃池院住/71無量寿院住;壽門学派棟梁、大講義/権大教正、
顕密二教を修学/野沢諸流奥秘を伝授、「即身成仏義拾古集」編/「大日経開題講鑑」、
1848「南山相承御流神道伝授手鏡」、56「御流並唯一神道聞書」、「神道灌頂道場図」外著多数、
[道応(;法諱)の別法諱]初法諱;智旭/別法諱;道鋭
- 道翁(どうおう・渡辺) → 規綱(のりつな・渡辺、家老/茶/陶芸) F 3 5 0 9
 道翁(どうおう・土岐) → 周輔(しゅうすけ・土岐/源、僧/国学者) X 2 1 7 5
 道応(どうおう・殿村) → 整方(まさかた・殿村とのむら/山上、商家/国学) R 4 0 0 8
 東奥隠医(とうおういんし) → 安貞(あんてい・桃井もものい、医者) G 1 0 1 8
 東往居士(とうおうこじ、東往斎) → 三千風(みちかぜ・三井/大淀、俳) 4 1 0 3
 東奥山人(東奥散人とうおうさんじん) → 山斎(さんさい・那波なば、医者/儒) M 2 0 2 3
 東奥山人(とうおうさんじん) → 旧山(きゅうざん、俳人) C 1 6 0 1
 東奥処士(とうおうしよし) → 初斎(じんさい・遠藤えんど、儒者/詩文) O 2 2 5 5
 東翁文嶺(とうおうぶんれい、東翁舎) → 文嶺(ぶんれい・東翁舎、書家) G 3 8 8 3
 桃屋(とうおく・中島) → 豊足(とよたり・中島なかじま、医/国学者) R 3 1 2 5
 濤屋(とうおく・潮田) → 藻苅(もがり・潮田うしおだ、藩士/国学) J 4 4 3 6
 桃塙先生(とうおせんせい) → 一純(いちじゅん・寺尾てらお、藩士/、詩人) C 1 1 4 9

- 道乙(どうおつ・三宅) → 鞏革斎(きょうかくさい・三宅みやげ、儒者) G 1 6 6 3
 道乙(どうおつ/どういつ・津田/田) → 養(よう・津田/修姓; 田、医者/俳人) 4 7 5 3
 東塙亭(とうおてい) → 景樹(かげき・香川、歌人) 1 5 1 2
 東塙亭(とうおてい) → 景恒(かげつね・香川、景樹男/歌人) 1 5 6 8
- B3164 道温(どうおん; 法諱・懷玉; 道号、志源主人) 1639-1707 69 1661長崎に渡来/黄檗僧:高泉門、
 1684頃伏見仏国寺志源庵住、「黄檗開山国師伝」「古今正法眼」「大日本諸宗伽藍記」著
 道穩(どうおん→みちやす・竹中) → 玄脩(げんしゅう・竹中たけなか、医者/歌) D 1 8 8 5
 道温子(どうおんし・小武) → 友梅(ゆうばい: 法名・慶松、菓種業/歌人) D 4 6 5 7
- B3165 東歌(とうか、別号; 月峯軒/破笠居士) ?-? 江中期俳人: 北条団水門、
 1711「その水」編、「和歌俳諧書」
- B3166 桐華(とうか・大塚おつか、名; 重遠、通称; 莊右衛門) 1694-1719 早世 26 熊本の儒者(家学を受)、
 大塚退野の弟、武芸/暦算/詩に長ず、藪慎庵と交流、「桐華詩集」著
- B3167 棹歌(とうか) ? - ? 俳人: 1716沾徳点「豆腐百韻」参加
- B3168 桃化(とうか、浪化[1671-1703]男) ?-? 越中真宗瑞泉寺住職/俳人; 支考門、
 1716-25頃の句集に散見
- B3169 豆花(とうか・無意楽庵、姓; 平?/名; 榮延?) ?-? 江中期尾張前津の俳人; 巴静門、
 1744「南無如月」編
- B3170 東柯(とうか・鷺見すみ、名; 良熙、権作[権右衛門]男) 1721-76 56 名古屋の儒者: 中西淡淵門、
 終生仕官せず子弟教育に専念、細井平洲・南宮大湫らと交友、「幽蘭館集」著、
 [東柯(;号)の字/別号]字; 逸仲、別号; 幽蘭館
- 3104 東華(とうか・大肱おおつき) ? - ? 江中期; 儒者、1758「斎諧俗談」著(奇談怪異談隨筆)
- B3171 東可(とうか) ? - ? 俳人: 1774美角「ゑぼし桶」1句入、
 [藪の根にみぞれ降りしく夕べかな](ゑぼし桶; 66)
- B3172 棠下(とうか) ? - ? 俳人: 1777江涯「仮日記」1句入、
 [島原や蛙かはうに起きる昼さがり](仮日記; 57/京の遊郭では朝が遅い)
- B3173 侗窩(とうか・倉石くらし、名; 成憲、甚五郎男) 1815-76 62 越後高田の商人/儒者: 江戸の安積良斎門、
 その塾長に至る/兵学も修得、帰郷し私塾済美堂を開く、高田藩校修道館督学/侍講、
 戊辰戦の時は勤王を説き藩論を主導、「大学集説」「春秋左氏伝集説」著、
 [侗窩(;号)の字/通称]字; 子緝、通称; 典太
- B3174 冬夏(とうか; 通称・桑原) ? - ? 江後期阿波徳島の心学者; 朱子学を主に老荘仏を併用、
 大阪・紀伊・大和に遊説、1813「伊呂波歌」「三教問答」/22「心学教歌集」「老の寝言」著
- 桃花(とうか) → 智叡(ちこく・法興、真言僧) E 2 8 1 9
 桃花(とうか) → 智叡(ちこく; 法諱・法興、修験/真言) E 2 8 1 9
 桃華(とうか・河合) → 菊泉(きくせん・河合かわい、藩士/儒者) I 1 6 4 6
 濤花(とうか・酒井) → 抱一(ほういつ・酒井さかい、絵師/俳人) 3 9 1 3
 東家(とうか・井面) → 守訓(もりのり・井面いのも、神職/歌人) G 4 4 2 4
 東華(とうか・志村) → 五城(ごじょう・志村、儒者/詩人) G 1 9 4 6
 東華(とうか) → 万(よろづ・生田いくた、国学/救民活動) 4 7 4 2
 東華(とうか・丸山) → 作楽(さくち・丸山、藩士/国学/詩歌) F 2 0 1 3
 東霞(とうか・柴野) → 碧海(へきかい・柴野しばの/柴、儒者/詩文) 2 7 8 7
 当嘉(とうか・福田) → 金塘(きんとう・福田、暦算家) R 1 6 4 9
 藤華(とうか; 号) → 目云(もくうん; 法諱、真宗本願寺派学僧) 4 4 6 8
- T3108 桃賀(とうが) ? - ? 江中期京の俳人、
 1714月尋「伊丹発句合」; 四季発句入、
 [はやも鳴け東は雨のほととぎす](伊丹発句合; 夏)
- B3175 東瓦(とうが・山本やまと) ? - 1806 撰津伊丹の醸造業/俳人: 蕪村門、1777紫狐庵継承、
 1795「ちりゆく花」編、夜半亭系俳書(続明烏・写経社・夜半楽・花鳥篇・五車反古)に入集、
 [草臥くたひれてもどる山路や雉子きしの声](夜半楽; 76)、
 [東瓦の通称/別号]通称; 木綿屋庄左衛門、別号; 紫狐庵/老橋井/清容舎
- B3176 東鷺(とうが) ? - ? 江後期俳人; 東臯門、

1822師東皐追善「不二煙ふじけり集」共編(；榎山らと)

東河(とうが・伊藤) → 武矩(たけのり・伊藤、儒者/詩文) O 2 6 6 1
東河(とうが・伊能) → 忠敬(ただたか・伊能いのう、商家/測量図) F 2 6 2 5
東峩(とうが・室谷) → 賀親(よしちか・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 5 8
東鷺(とうが・田中) → 如倫(じよりん・田中、宗雨門俳人) M 2 2 9 1
冬瓜(とうが) → 支兀(しつ・小蓑庵、俳人) D 2 1 6 4
濤賀(とうが・丸山/芥河) → 貞佐(ていさ・芥河あくたがわ、商家/狂歌) 3 0 7 8

B3177 東雅(とうが・鶴見、通称;源次郎)?-? 江後期三河碧海郡小垣江の俳人;秋挙門、
1847秋挙23回忌「曙庵句集」;亘彦と共編

B3178 道果(どうか) ? - ? 南北期;1382「古事記」書(伊勢本を書写;道果本)

B3179 道可(どうか) ? - ? 俳人;1691不角「二葉之松」入、
[道鏡が位るは仇華あだばなの一盛](二葉之松;173/前句;根無しかづらと人笑ふ也)

道可(どうか・法名) → 長綱(ながつな・藤原、忠綱男、廷臣/歌) E 3 2 4 4

道可(どうか・中沢) → 夕庵(せきあん・中沢なかざわ、藩士) J 2 4 9 0

道可(どうか・百瀬) → 道可(みちよし・百瀬ももせ/奈良井、本陣/歌) K 4 1 7 7

道果(どうか・初法諱) → 円慈(えんじ;法諱・東嶺とうれい、臨濟僧) B 1 3 7 6

道華(どうか・稻津/梁川) → 紅蘭(こうらん・梁川/修姓;張、詩) C 1 9 0 1

B3180 道我(とうが;法名、大納言僧正、聖誉男、俗姓藤原) 1284-1343 60 真言僧;我宝門/東寺二長者、法印、
権僧正、東寺聖無動院住/二条派歌人;後宇多院歌会参/亀山百首/1323亀山殿七百首参加、
徒然草には清閑寺せいげんの僧正とある(兼好の歌友)、1343(康永2)没、
家集「権僧正道我集」、「七夜密議記」著、「秘蔵記蔵勘抄」編、
歌;続現葉(3首)・臨永集(4首)・藤葉集入、
勅撰11首;続千(813/939)続後拾(1293)新千(704/829/2038/2211)新拾(746)新続古(3首)、
[今ぞ聞く夕ゆふ越え暮れて初瀬山ひばらの奥の入相の鐘](続千載;羈旅813、
長谷寺より室生に参詣時山路に日暮れ鐘の声聞こえて詠)

道我(とうが;法名) → 行藤(ゆきふじ・二階堂/藤原、幕臣/歌) F 4 6 5 4

道雅(とうが・藤原) → 道雅(みちまさ・藤原、伊周男/廷臣/歌) 4 1 1 6

桃下庵(とうかあん) → 亀毛(きもう、俳人) G 1 6 2 8

桃花庵(とうかあん) → 牧山(ぼくざん・三井みつゐ高就、詩人) G 3 9 4 0

道華庵(とうかあん) → 棕隠(そういん・中島、詩歌) 2 5 0 4

B3181 等海(とうかい) ? - ? 1349存 天台宗惠心流の叡山学僧;叡山無動寺常楽院住、
関東東下し武蔵府中定光寺談所で講説、1343-49「宗大事口伝抄」、「精義故実条々」著

B3182 等海(とうかい) 1354 - ? 1392存 天台宗円通寺中興開山、
1392下野西御庄西牛久談所滞在、1392「法華品々観心聞書」著

B3183 東海(とうかい;道号・宗朝そうちよう;法諱) 1455-1518 64 淡路の臨濟僧;陽峯宗韶門、1508大徳寺73世、
近江上坂性通寺住持、「江湖集秘語抄」著、「笑嶺和尚法語」「大林和尚法語」編

B3184 東海(とうかい;道号・周洋宗洋しゅうよう;法諱、俗姓;神保) 1458-1515 58 越中曹洞僧;旗雲祖旭門、
旗雲の嗣法、光厳寺住持、総持寺住持、光厳寺退隠、「東海周洋和尚語録」著

B3185 等海(とうかい) ? - ? 1666存 肥後天台妙覚寺の僧、「理趣分修行法」

B3186 東海(とうかい・惠迪斎けいてきさい/えてきさい)?-? 江前期近江柏原俳人、1703「虚空集」坡山と共編

3105 東海(とうかい・篠崎しのぎき/本姓;平、三菴男) 1687-1740 54 江戸の医者;幕府医官山田李蔭門、
儒学・荻生徂徠門/1725上京し伊藤東涯門、江戸呉服町で講説業、国学/故実、
林鳳岡の要請で諸生の教育に当る、「故実拾要」「故実拾要補遺」「和学辨」「和学辨後編」著、
1732「壬寅元旦詩集」編/33「不問談とわがたり」40「東海談」著、「東海談後編」「慶会集」編外多数、
[東海(；号)の名/字/通称/別号]名;維章、字:子文/興隆、通称;金吾/三悦、別号;東海逸民、

B3187 東海(とうかい・長沢ながさわ、名;学/丑、粹庵男、楽浪の兄) 1697-1745 49 1705(10歳)痘で失明/儒:父門、
弟楽浪と江戸小川町住、1719朝鮮通信使来朝時に詩を唱和/宇都宮藩出仕;藩主の勘気、
出雲松江藩主松平宗衍に出仕;儒臣/世子に進講、「朝鮮対話集」著、
[東海(；号)の字/通称/別号]字;素位/素仁/元丁、通称;総太郎、別号;不怨斎、
法号;真照院

- B3188 **東海**(とうかい・寺尾てらお、名;正長)?-? 江中期安永天明1772-89頃讃岐の儒者、大阪土佐堀玉水町住、音韻学精通、「韻鏡古音正凶辨」「解経秘蔵」「説文字母考」著、「黄帝陰府経指玄」「用辞則」、1781「解経秘蔵要略」83「三信字訓辨」著、[東海(;)号)の字/通称/別号]字:子長、通称;伊織、別号;扶桑園
- B3189 **東海**(とうかい・大竹おたけ/本姓;浅井/修姓;岳、名;融)1735-1803⁶⁹ 三河赤坂の儒者:大内能耳門、江戸芝新銭座に住;講説業、のち備中足守藩儒、「五穀古名考」「荀子孝註」「東北夷輿地志」、「四家雋考」「大華山図」、「岳東海先生文稿」著、修姓[岳]は大竹の略、武陽の父、[東海(;)号)の字/通称/別号]字:子陽/陽文、通称;太仲/太冲/多仲、別号;白雲楼
- B3190 **東海**(とうかい・山脇やまわき、名;豹/之豹、東門男)1757-1834⁷⁸ 京の医者;父門、父らの人体解剖観察に従事/1782家督:91法眼、東堀川中立売で開業医、1771「玉碎臓図」著、[東海(;)号)の字/通称/別号]字:子斑道梨、通称;玄冲/道作、別号;遯斎とんさい、東圃の父
- B3191 **東海**(とうかい・牧まき/本姓;橘、)1757-1835⁷⁹ 出羽庄内藩士、書;阿部善蔵門、藩右筆、江戸在勤中に儒学;古屋十次郎門/天文;井上仲門/兵学;平山兵原門、弹琴/歌を嗜む、1795より江戸藩邸外に住、1803家族と共に脱藩;大山泰淳と改名、のち師平山兵原と断交、「治生草」「実用館読例」著、[東海(;)号)の名/字/通称/別号/変名]名;穆/洪文/正大まさひろ、字;子正、通称;新八/義一/一作、別号;簪筆子しんびつし、変名;大山泰淳(;脱藩後の称)
- B3192 **東海**(とうかい・井川いかわ/松田、名;長恭/恭、別号;思堂)1763-1825⁶³ 江戸儒者;開塾、友野霞舟の師、「雪香園書鈔」編、「春秋左氏通」「論語通」「孟子通」「中庸通」「尚書通」著、
- B3193 **東海**(とうかい・赤井あかい、名;繩、直通男/本姓;芦田・源)1787-1862⁷⁶ 讃岐高松藩士/儒者:昌平黌入、古賀精里門/1813黌を辞し子弟教授/1829高松藩儒;江戸詰/世子侍読/使番、崑山・長英と親交;洋学の必要性を説く、「鸚鵡筆記」「東海詩鈔」「東海文鈔」「昔々春秋」、「竹窓漫筆」「槐窓漫筆」「蕉窓漫筆」「甲乙問答」「赤井巖三議」「槐窓漫筆」、1849「海防論」著、[東海(;)号)の字/通称]字;士巽/直繩/直至/藤三、通称;秀之助/巖三
- B3194 **東海**(とうかい;道号・昌峻しょうじゅん;法諱、初法諱;全恕/景恕/広慧)?-1865(;⁷⁰余歳) 備後臨濟僧;安藝仏通寺で出家/諸地遍歴後;鎌倉円覚寺の誠拙周樗門、1831同寺松洲周濟門;嗣法、1845鎌倉円覚寺197世、「葆光室余稿」著
- B3195 **東海**(とうかい・山田やまだ、名;久章ひさあき)1788-1848⁶¹ 伊予大洲中村の儒者:大洲藩校で松岡清溪門、1815江戸で昌平黌入学、大洲藩校明倫堂教授、国学/音韻学に精通、詩文/歌を嗜む、「東海集」「国史蒙求」「山陽詠史典故」「小楽府典故」「東游戲筆」/1843「春秋命曆序温故」著、[東海(;)号)の字/通称]字;民之、通称;松三郎
- B3196 **東海**(とうかい・鈴木すずき、名;恒、正儀男)1821-1861⁴¹ 安房館山の医者:父門/蘭医学;坪井信道門、儒・詩文;安積良斎門、眼科医;本庄普一・土生玄磧・玄昌門/郷里館山で開業、抱山の兄、「東海詩集」「東海随筆」著、[東海(;)号)の字/通称/法号]字;如升、通称;才助/正立、法号;教誉順道東海祐翁居士
- W3108 **東海**(とうかい;法諱・姓;拝郷はいごう、名;知道)1825-86⁶² 京の真宗大谷派僧;西念寺住職、歌人;拝郷蓮菫れんもん門、
- B3197 **東海**(とうかい・安積あさか、名;武貞、忠蔵男)1832-64^{斬殺}³³ 儒医、尊攘思想を主唱;大和で義挙、「殉難詩」著
- | | | |
|--------------|---------------------------------|-----------|
| 東海(とうかい・丸山) | → 作楽(さくら・丸山、国学/詩人) | F 2 0 1 3 |
| 東海(とうかい・小篠) | → 敏(御野みね・小篠おささ、儒/国学) | F 4 1 4 2 |
| 東海(とうかい・小篠) | → 敏(御野みね・小篠/篠/田淵、藩士/儒・国学) | F 4 1 4 2 |
| 東海(とうかい・岳) | → 東海(とうかい・大竹、儒者) | B 3 1 8 9 |
| 東海(とうかい;号) | → 宝景(ほうけい;法諱、真宗僧) | F 3 9 0 2 |
| 東海(とうかい・上野) | → 広聡(ひろとし・栄名井さかない/上野/真壁、神職/和漢学) | G 3 7 5 1 |
| 東海(とうかい・川上) | → 東山(とうざん・川上、儒詩/史学) | E 3 1 5 7 |
| 東海(とうかい・谷) | → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) | G 3 8 2 4 |
| 東海(とうかい・宇田川) | → 玄随(げんずい・宇田川/宇、蘭医) | C 1 8 4 1 |
| 東海(とうかい・菊池) | → 淡雅(たんが・菊池/大橋、商家/儒者) | T 2 6 2 1 |
| 東海(とうかい・色川) | → 三中(さんちゆう・色川、商家/国学者) | G 2 0 0 3 |

東海(とうかい;号)	→	力精(りきしょう;法諱、真宗本願寺派僧)	4 9 5 4
東海(とうかい・犬塚)	→	男内(だんない・犬塚いぬづか、藩士/儒/砲)	U 2 6 7 1
東海(とうかい・丸山)	→	作楽(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌)	F 2 0 1 3
東海(とうかい・吉原)	→	東海(はるみ・吉原よしわら、俳人/書家)	K 3 6 9 6
東海(とうかい・玉虫)	→	誼茂(よししげ・玉虫たまむし、藩士/儒者)	D 4 7 6 8
東海(とうかい・広田)	→	教中(もりなか・広田ひろた、藩士/勤王)	L 4 4 1 6
冬海(とうかい・大鐘)	→	冬海(ふゆみ・大鐘おおかね/山本、藩士/歌)	I 3 8 0 5
蹈海(とうかい・服部)	→	白賁(はくひ・服部/中西、儒者)	D 3 6 8 2
韜晦(とうかい・草薙)	→	盛之(もりゆき・草薙/橋、兵法家)	G 4 4 7 5

- B3198 **灯外**(燈外とうがい・生駒堂、姓;月津)?-? 大阪の俳人:来山門/鬼貫/西鶴と親交、晩年東郊隱栖、1690「俳諧生駒堂」編、1692「ひぢ笠」「発心集」編、91江水「元禄百人一句」賀子「蓮実」入、[ぼろぼろと雨のかゝるや山桜](生駒堂;発句)[中に此の露ふきの花咲く八重むぐら](元禄百人一句;63)
- 3106 **東涯**(とうがい・伊藤いとう/修姓;藤とう、名;長胤、仁斎男)1670-1736⁶⁷ 母;尾形嘉那、京の儒者:父門、家塾古義堂2世、父の著述刊行/哲学史的研究考証、訓詁・制度典章・史伝にも精通、仕官せず生涯堀川で子弟教育、「論語古義標註」「四書集註標釈」「用字格(訓蒙字譜)」著、「大学章句大全標註」「名物六帖」「古学指要」「盞簞録」「東涯詩話」「東涯漫筆」「東涯譚叢」、「東涯論語説」「東涯筆録」「東涯集」「慥々齋集」、「紹述先生文集」「紹述先生遺稿」外著多数、[東涯(;号)の幼名/字/別号]幼名;亀丸、字;原蔵/元蔵、別号;慥慥齋そうそうさい、諡号;紹述先生、東所の父
- B3199 **灯外**(燈外とうがい;道号・素継そけい;法諱)?-1770 若狭太田の曹洞僧;大聖寺全昌月印門/嗣法、越後雲門寺住持/越前三国金鳳寺・能登慧眼寺・越中光厳寺など住持、1767金沢午睡軒退隱、「燈外素継禅師語録」著/1752「茶席墨宝祖伝考」編
- C3100 **灯外**(燈外とうがい;道号・師聯しれん;法諱)?-? 1772存 近江曹洞;明庵哲了門/法嗣/近江常德寺4世、「無門関翼註」著
- C3101 **陶崖**(とうがい・佐藤さとう、名;信睦)1787-1843⁵⁷ 備前和気郡伊部村の大庄屋、医者、陶工/画;陶復門、能書家、妻の子葭も絵師、「医蘇」「腹診二十八術説」、「随胎訓解」「陶崖画譜」「菅むしろ」著、[陶崖(;号)の字/通称/別号]字;子修、通称;次郎吉/左次右衛門/貫一、別号;米嶽
- C3102 **東暎**(とうがい・藤沢ふじさわ、名;甫/輔、喜兵衛男)1794-1864⁷¹ 讃岐香川郡安原村の儒者:時中城山門、徂徠学を習得、1818長崎遊学;唐話習得、帰郷し高松福田町に塾舎守泊庵を開く、1824春田横塘の招聘で大阪淡路町に塾舎泊園書院を開く;名声高く1852高松藩士に列す、詩社先春吟舎を結、1864將軍家茂に拜謁、1810「南海遺珠」、17「鼇山遺稿」編、40「栄観録」著、1849「浪華四時雑詞」編、64「泊園家言」、「思問録」「賞幼集」「原聖志」「復讐辨」「泊園文抄」著、「東暎先生文集」(息南岳編)/「東暎先生詩存」、[東暎(;号)の字/通称/別号]字;元発、通称;昌蔵、別号;泊園、南岳の父
息 → 南岳(なんがく・藤沢ふじさわ、儒者/教育) J 3 2 9 6
- C3103 **東街**(とうがい・山本やまもと、名;温良/字;士恭、東籬男?)1794-1864⁷¹ 紀伊の儒者:詩文、「東街詩集」著
藤街(とうがい・大江) → 広方(ひろかた・大江おおえ、神職/儒者) I 3 7 8 1
東厓(とうがい・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5
- X3138 **道戒**(どうかい;法諱) ? - ? 鎌倉南北期;僧、尊氏の側近、1336(建武3)[住吉社法楽和歌]参加(5首)、[照る月も光をそへてみゆるかな秋のなごりもこよひばかりに](住吉法楽;90/13夜)
- C3104 **道海**(どうかい・芦屋あしや、名;満守、芦屋道満10世の孫?)1503-80⁷⁸ 陰陽家;播磨英賀城主三木氏の家臣、1580英賀城落城;三宅村に退隱、和漢学に通達/歌人、「巡考聞書」、「府中めぐり」「近村巡り一步記」著、[道海(;字)の号]著淵しえん/紅雪軒
- C3105 **道契**(どうかい/どうけい;法諱・号;証応/睡庵/独一、俗姓;上杉)?-1846 越後長岡の曹洞僧、尾張の黄竜寺住/近江清涼寺住/江戸閑居後に越後本興寺住持、老荘学精通/詩偈を嗜む、

1828「大蔵却鑰だいぞうきやくやく」編

C3106 **洞海**(どうかい・林はやし、名; 疆、祖兵衛男) 1813-95⁸³ 豊前小倉篠崎村の蘭医:1833江戸の足立長雋門、長崎の大石良英門、1842江戸薬研堀で開業、1856小倉藩医/60幕府医官;二ノ丸製薬所を預る、1861侍医/法眼、徳川慶喜に出仕;駿府の医;静岡藩病院副院長、権大典医/皇太后付、1849「外科新験」、「辜丸癌治験」、「莫私篤治療集成」、「北米利堅合衆国考」外著多数、[洞海(;通称)の字/別通称/号]字;健卿、別通称;条作、号;存誠齋/梅仙/茶農/冬皐、法号;林松院、妻;佐藤泰然女ツル、研海の父、董の養父、

D3123 **道契**(どうかい/どうけい;法諱・天霊;字、号;甑瓦子そうがし、黒瀬孫四郎男) 1816-76⁶¹ 備後神辺村真言僧、1825(10歳)持宝院の道雅門;出家、河内高貴寺の智幢門;具足戒を受/医王寺の思玄門、仁井田南陽・森田節斎門、1846美作円通寺の主席/明治の排仏棄釈の際に東寺の盟主、嵯峨野常住院再興、

1859「般若心経一滴談」60「密宗祖影贊」66「關邪大義」67「続日本高僧伝」著

- 洞海(どうかい・井手) → 伊明(これあき・井手いで/山内、藩士/歌人) Q 1 9 2 8
道快(どうかい) → 慈円(じえん、慈鎮、天台僧/歌/史家) 2 1 0 4
道快(どうかい;法諱) → 聖快(しょうかい;法諱、真言僧) H 2 2 5 6
道契(どうかい・天霊) → 道契(どうけい/どうかい・天霊、真言僧) D 3 1 2 3
道海(どうかい・龍龐) → 龍龐(りゅうほう・道海、曹洞僧) F 4 9 6 6
道海(どうかい;法諱) → 潮音(ちようおん;道号・道海、黄檗僧/教育) H 2 8 5 2
道介(どうかい;法諱) → 再童(さいりゅう;法諱、牧野/曹洞僧/詩) C 2 0 0 9
道芥(どうかい・永原) → 重興(しげおき・永原/藤原、武将/連歌) Q 2 1 6 9
道芥(どうかい・古林) → 見宜(けんぎ・古林ふるばやし、医者) B 1 8 3 4
道海一漚子(とうかいいちおうし) → 円月(えんげつ・中巖ちゅうがん、臨濟僧/詩文) 1 3 9 4
東海逸民(とうかいいつみん) → 東海(とうかい・篠崎、儒者/和学) 3 1 0 5
東海外史(とうかいがいし、東海老人) → 豊信(とよしげ・山内やまのうち、藩主) R 3 1 1 8
東海狂生(とうかいきやうせい) → 孟綽(たけひろ・川名かわな、儒者/詩人) O 2 6 7 0
東海狂波子(とうかいきやうはし) → 惺窩(せいか・藤原、儒者) 2 4 0 3
東海軒(とうかいけん・萱生) → 由章(よりふみ・萱生かよう/紀、国学者/歌) J 4 7 7 2
島界散人普山亭曙雀(とうかいさんじんふざんていしよじやく) → 正英(まさひで・三島、実録小説作者) G 4 0 7 1
東海紫府道人(とうかいしふどうじん) → 南屏(なんぺい・座光寺ざこうじ、儒/医者) J 3 2 4 0
洞海舎(とうかいしゃ) → 涼谷(りようこく・河野、醸造業/俳人) H 4 9 5 1
東海陳人(とうかいちんじん) → 烏石(うせき・松下、書家) B 1 2 7 7
東海陳人(とうかいちんじん) → 居辰(きよしん・張葛ちようかつ、洒落本) H 1 6 4 3
東海吞吐(とうかいどんと) → 吞吐(どんと・静雲舎、俳人) S 3 1 4 4
東海波臣(とうかいはしん) → 義恭(よしたか・毛束けつか、名主/神職/歌) M 4 7 6 7
東海文華書院主人(とうかいぶんかしやいんしゅじん) → 義恭(よしたか・毛束けつか、神職/歌) M 4 7 6 7
東海房(東海坊とうかいぼう) → 烏明(うめい・松露庵3世、俳人) 1 2 9 0
東海暮翁(とうかいぼおう) → 沢庵(たくあん;道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8
東海懶叟(とうかいらいそう、「尾陽戯場事始」漢文序) → 忠兵衛(ちゅうべえ・伊勢屋/西村) G 2 8 8 4
東海老人(とうかいろうじん) → 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
桃花園(とうかえん) → 士寧(しねい・鶴殿うどの/村尾、幕臣/儒者) F 2 1 3 9
藤花園(とうかえん) → 秀胤(ひでたね・松風まつかぜ/松岡、神職) L 3 7 2 6
東花園(とうかえん) → 国輝(くにてる・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 8
東雅園(とうがえん) → 蝶嬉(ちようき・東雅園、茶番) H 2 8 8 1
東歌垣鈍彦(とうかえんどんげん) → 親覽(ちかみ・佐々木、藩士/国学/歌) B 2 8 8 5

C3107 **桃花園三千磨**(-三千丸とうかえんみちまる)?-? 江後期会津の生?/京の五側の狂歌師/戯作;読本など、1820「桃花園狂文集」26「雲井物語」27「滑稽繕の綱」37「渡世肝要記」41「絵本百物語」外著多、[桃花園三千磨(;号)の別号]三寿/桃山人/桃華山人

- 桃花翁(とうかおう) → 兼良(かねよし/かねら・一条、撰関/古典/連歌) 1 5 3 7
陶化翁(とうかおう) → 積通(たねみち・九条、和学/歌) 2 6 4 5

- 陶化翁(とうかおう) → 尚忠(ひさただ・九条/二条、廷臣/歌) B 3 7 3 0
 桃花外史(とうかがいし) → 桃野(とうや・鈴木すずき、幕臣/儒者) H 3 1 5 1
 桃花仙(とうかせん) → 寸長(すんちやう・片山/菅原、藩士/俳人) D 2 3 5 5
 桃華叟(とうかそう) → 兼良(かねよし/かねら・一条、撰関/古典/連歌) 1 5 3 7
- C3108 東栞(とうかく) ? - ? 江戸雑俳前句付点者、1702松淵「冠独歩行」「寄相撲」入
- C3109 東郭(とうかく・菅沼すがぬま/阮げん、名;大簡) 1690-1763 74 江戸の医者、儒;徂徠学に私淑;大阪で講説、1749「鳴鳳集」50「東郭文集」、「東郭集」「弇園えんえん詩集」「飲食箴」「助声解」「論語徴疏義」著、[東郭(;号)の字/通称/法号]字;子行、通称;文庵、法号;恭翁自温居士
- C3110 藤角(とうかく・木沢きざわ、別号;文々舎ぶんてきしゃ) ?-1748 大阪の俳人:紹廉門、1744「橋の屑」/47「蛙囊抄」「俳諧哥袋」編、47「絵俳諧」著
- C3111 東鶴(とうかく、西鶴の孫?or架空人の物?) ?-? 大阪/1770文調・春章「絵本舞台扇」漢文序;文調・春章が江戸みやげに序を東鶴に依頼
- C3112 東郭(とうかく・森もり、名;鋏てつ) 1729-91 63 上総の儒者/江戸住:宋学を修め徂徠学を排撃、日向藩主に招聘;江戸藩邸で経義を講義、「東郭文集」/1750「易道撥乱辨」84「非辨道辨名」、[東郭(;号)の字/通称/法号]字;大年、通称;彦右衛門、法号;透関院
- C3113 東郭(とうかく・和田わだ、名;璞、祇忠男) 1744-1803 60 撰津高槻医者:父門/戸田旭山門/吉益東洞門、古医方を修学し諸家の説を折衷し一家を成す;1797典薬少允/法橋/99法眼、門弟千三百人、「含章斎医按」「含章斎医譚」「含章斎腹診録」「黴瘡知要」「腹診秘訣」「奇方録」「蕉窓医話」、「含章斎方函」「蕉窓医譚」「東郭医話」「東郭診訣」「東郭先生医談」「東郭先生語録」外著多数、[東郭(;号)の字/別号]字;韞卿うんけい/泰純/泰順、別号;含章斎
- C3114 東郭(とうかく・神吉かんき/かみよし、名;世敬、藩医神吉泰常男) 1756-1841 86 播州赤穂藩士、儒;赤松滄洲門、各地遊学;儒・医を修得、赤穂に観善社を開塾、藩主森忠賛の侍医、藩校博文館督学を兼務、1810致仕、朱子学を講説、「詩経名物考」著、「東郭先生遺稿」、[東郭(;号)の字/通称]字;子与、通称;主膳
- C3115 東郭(とうかく・二宮にのみや、名;元勲/元勳げんくん、鷲見すみ休明やすあきら男) 1793-1868 76 伯耆米子の儒者、二宮元善の養子/1820家督;鳥取藩士、経学・兵学;溪百年門、詩文;建部樸斎門、武芸習得/雖井蛙流兵法と井星安心流抜刀;臼田久武門、松本一指伝早槍;遠藤保胤門、1830藩校尚徳館教授/1840-三代の藩主の侍講/51藩主慶徳の側役、63学校兵学局頭取、1864隠居、66実子早川卓之丞の仇討;閉門/67赦免、「挙兵用武新智」「古今講陣法卷」著、[東郭(;号)の字/別号]字;子業、別号;無明園一草、
- C3116 等覚(とうかく;法諱、等覚坊) ?- ? 江戸期伊勢の真宗僧、「浄土和讃十二光讚勸考」「観無量寿経勸考」著
- 等覚(とうかく;法名) → 為泰(ためやす・冷泉、廷臣/歌人) H 2 6 6 2
 等覚(とうかく) → 明融(めいゆう、俗姓;冷泉/時宗僧/歌) 4 3 4 4
 等鶴(とうかく・山根) → 道恭(みちたか・山根やまね、庄屋/国学/歌) K 4 1 9 0
 東覚(とうかく・長谷川) → 角行(かくぎやう・長谷川、修験行者) J 1 5 6 8
 東郭(とうかく・手島てじま) → 堵庵(とあん・手島、心学者) 3 1 0 1
 東郭(東閣とうかく・大武) → 葆光(ほこう・大武おおたけ、儒者) E 3 9 1 4
 東郭(とうかく・南合) → 蘭室(らんしつ・南合なんごう、藩士/儒者) C 4 8 4 8
 東郭(とうかく・大河内) → 存真(ぞんしん、大河内おおこうち/西山、医者) F 2 5 5 9
 東郭(とうかく・小川) → 白堂(はくどう・小川おがわ、藩医/詩人) D 3 6 7 1
 東郭(とうかく・杉山) → 熊台(ゆうだい・杉山すぎやま、藩士/儒者) D 4 6 3 7
 東郭(とうかく・松平) → 春嶽(しゅんがく・松平まつだいら、藩主/詩歌) J 2 1 3 3
 東郭(とうかく・福岡) → 勝準(かつのり・福岡ふくおか/児玉、藩士/国学) V 1 5 5 3
 東閣(とうかく・稲葉) → 正邦(まさくに・稲葉/丹羽、藩主/歌人) C 4 0 4 1
- C3117 東岳(とうかく・原田はらだ、名;直、西水すがい[酒田]利衛門男) 1709-83 75 原田甚兵衛の養子、豊後日出藩士;若くして藩主木下俊泰の近侍/主命で京に遊学/儒者;伊藤東涯門、古文辞学;服部南郭門/詩文に長ず、宝暦1751-64頃国老と衝突;致仕/京で講説、豊前中津で講説/中津藩の賓客として講義、門人久恒重三郎を養嗣、「東岳文集」「邇言録」、「逸民史略」「茶詩」、1752「席上腐譚」72「詩学新論」76「東岳先生筆疇」、「東岳遺稿」外著多数、

- [東岳(；号)の幼名/字/通称]幼名:殖、字:温夫、通称:吉左衛門/清蔵
- C3118 **東壑**(とうがく・谷田部やたべ、名;牝/常德、種徳男)1733-8957 常陸水戸の儒者;若くして彰考館生員、事に座し免職、上京し古医方修学;吉益東洞門、1771彰考館の史員、藩主侍講の命;病没、「撃蒙篇」「克成編」「遊山紀行」「東壑筆記」「東壑文稿並詩」著、「東壑遺稿」、[東壑(；号)の字/通称]字:子朴/子樸/子玄、通称:藤八郎
- C3119 **東岳**(とうがく・平野ひらの、名;惇徳、別号;越水、平野静斎淳信男)1743-180664 江戸書家;父門、「越水印譜」「越水詩草」著
- C3120 **東岳**(とうがく・成島なるしま、名;司直もとなお、和鼎[衡山]男)1778-186285 母;成島和鼎かざさだ女、幕臣、1795奥儒者見習/99大番格/1813奥儒者/將軍の侍講、幕命で1811-43「徳川実記」編纂、1841將軍家慶に政事心得上書/43罷免謹慎、歌「司直もとなお詠草」「麓の雪」、「江戸名園記」、1802「熱海紀行」06「琉球録話」13「千寿問答」27「東の春」41「老のくりこと」「夏のみるめ」、1842「浦の浜ゆふ」43「晃山扈從私記」「日光駅程見聞雑記」、「日光山私記」外著多数、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[松に吹くこの朝風やはな鳥の色香催すはじめなるらん](大江戸倭歌;4立春)、
[一筋に引きはたがへじあづさ弓とりつたへたるもののふの道](同;雑1807)、
[東岳(；号)の字/通称/別号]字:邦之、通称:邦之助/邦之丞/図書頭ずよのかみ/豊之助、別号:翠麓/潤園
- C3121 **洞嶽**(とうがく;道号・魯宗ろしゅう;法諱、俗姓;渡辺/小宮山)1821-8464 信州佐久郡穂積村の曹洞僧;幼時期;高岩寺の鉄音門/諸国遍歴/江戸駒込吉祥寺で修行;芝青松寺学寮長、帰郷;1855青沼村吉祥寺/75三岡村玄江院住/のち禅宗大学林東京本部で教授、1863「不及堂百律」、「時余文雅集」著、
[洞嶽魯宗の別道号] 岱嶽
- | | | | |
|----------------|---|-------------------------|-----------|
| 東岳(とうがく;号) | → | 慧雲(えいん;法諱・子潤、真宗僧) | D 1 3 4 7 |
| 東岳(とうがく・渡辺) | → | 一(かず・渡辺、藩士/和算家) | C 1 5 1 4 |
| 東岳(とうがく・松永) | → | 貞辰(さだとき・松永/源、藩士/和算家) | I 2 0 7 8 |
| 東岳(とうがく・佐久間) | → | 寛台(ひろもと・佐久間、藩士/謡曲注釈) | H 3 7 5 0 |
| 東岳(とうがく・和田) | → | 春庵(しゅんあん・和田わだ、本草家) | 2 1 9 3 |
| 東岳(とうがく・阿部) | → | 崇広(たかひろ・阿部あべ、儒/歌) | V 2 6 0 1 |
| 東岳(とうがく・平山) | → | 季雄(すえお・平山ひらやま/藤原、藩士/絵師) | J 2 3 0 6 |
| 東壑(とうがく・森) | → | 泐石(ろくせき・森もり、篆刻家) | 5 2 9 5 |
| 東壑(とうがく・小田) | → | 東壑(とうえい・小田、眼科医) | B 3 1 3 3 |
| 棟嶽(とうがく・蟠竜;道号) | → | 蟠竜(ぼんりゅう・棟嶽とうがく、曹洞僧) | I 3 6 7 0 |
| 桃岳(とうがく) | → | 宗分(そうぶん・大庭おおば、武将/歌/連歌) | C 2 5 8 6 |
| 桃岳(とうがく・宮永) | → | 正運(まさゆき・宮永、農政家/俳人) | I 4 0 2 6 |
| 藤岳(とうがく・古谷) | → | 道生(どうせい・古谷ふるや、和算家/測量) | S 3 1 8 6 |
- C3122 **道格**(とうがく・菅野かんの) ? - ? 江後期陸中南部上閉伊の医者/本草学、地元の草木採集;生薬を紙面に墨摺し和漢名を付し神社に奉納、1829「百草生薬摺」著
- C3123 **道廓**(とうかく;法諱・晦巖かいがん/まいがん;道号、号;万休)1798-187275 伊予宇和島藩士田中家に生、伊予の臨濟僧;1807(文化4/10歳)宇和島選仏寺に入/1815筑前博多の聖福寺の仙厓門、鎌倉円覚寺の誠拙・淡海門、宇和島藩主伊達家菩提寺大隆寺16世住職/伊達宗紀・宗城両藩主の帰依;宗城の国事尽力を支援;諸公卿・勤王諸侯の間を往来、能書家、宋風刷新活動、1833「杭州文禅師行状」編、51「仏語心論考」著、「楞嚴經吐哉鈔」著
- | | | | |
|----------------|---|---------------------|-----------|
| 道格(とうかく・入谷) | → | 永濃(えいのう・入谷、法橋/歌人) | U 1 3 5 7 |
| 道覚(とうかく;法諱) | → | 了翁(りょうおう;道号・道覚、黄檗僧) | G 4 9 6 1 |
| 道覚(とうかく・了翁;道号) | → | 了翁(りょうおう・道覚、黄檗僧) | G 4 9 6 1 |
| 道鶴(とうかく・伊東) | → | 如雷(じらい・伊東いとう、藩医者) | M 2 2 8 8 |
| 道学(とうがく・大原) | → | 武明(たけあき・大原おおはら、儒者) | O 2 6 2 1 |
| 等覚院(とうかくいん) | → | 快季(かいき;法諱、真言僧) | I 1 5 5 2 |
| 等覚院(とうかくいん) | → | 日全(にちぜん;法諱、日蓮僧) | C 3 3 6 0 |
| 等覚院(とうかくいん) | → | 成美(せいび・夏目、札差/俳人) | 2 4 1 2 |

桃岳斎(とうがくさい・宮永) → 正運(まさゆき・宮永、農政家/俳人) I 4 0 2 6
 同学斎(とうがくさい) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1
 東郭散人(とうかくさんじん) → 円識(えんしき; 法諱、本願寺派僧) E 1 3 8 2
 東廓山人(とうかくさんじん) → 立遠(りゅうえん・藁科わらしな、藩士/記録) C 4 9 9 8
 東嶽散士(とうがくさんし) → 観山(かんざん・松宮/菅、兵学/儒/国学) 1 5 5 2

C3124 **道覚親王**(とうかくしんのう、道覚; 法諱、俗名; 朝仁、後鳥羽天皇皇子) 1204-50 47 母; 尾張局、1208親王、
 1216得度/天台学; 慈円・慈賢・真性門、浄土経; 証空門、青蓮院門跡/1247天台座主80世、
 1248無動寺・三昧院検校兼任、「西山宮御抄」「護摩壇集」「道覚親王御記」「吽迦陀天王」、
 「吉祥天法私抄」/1245「浅略抄」/49「二六大願抄」「五相成身拾遺文集」外著多数、
 歌人・勅撰8首; 続後撰(1063/1134/1235) 新後撰(298/504) 続後拾(1202) 新千(2260) 以下、
 [秋はなほ鹿鳴く時と思ひしにただ山里の夕暮れの空](続後撰; 雑1063)、
 [道覚親王の通称] 西山宮にしまのみや/吉水宮

等覚坊(とうかくぼう) → 等覚(とうかく; 法諱、真宗僧) C 3 1 1 6
 道柯居士(とうかこじ) → 松堅(しょうけん・宮川みやがわ、歌・俳人) S 2 2 0 6
 棹歌斎(とうかさい) → 信安(しんあん・植村、俳/狂歌) D 2 2 4 3
 藤下斎(とうかさい) → 荻人(てきじん、越中俳人) C 3 0 0 0
 桃華山人(とうかさんじん) → 桃園園三千磨(とうかえんみちまろ、狂歌/戯作) C 3 1 0 7
 桐花書屋(とうかしょおく) → 南屏(なんべい・座光寺ごうじ、儒/医者) J 3 2 4 0
 桃花晴暉楼(とうかせいきろう) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1
 桃荅仙(とうかせん) → 支考(しこう・各務かがみ/村瀬、俳人) 2 1 1 9
 東河禅(とうかせん・1251撰歌合左方) → 信実(のぶざね、藤原、寂西) 3 5 0 6
 桃華叟(とうかそう) → 兼良(かねよし/かねら・一条、歌/連歌) 1 5 3 7
 投轄(とうかつ・井上) → 赤水(せきすい、井上/修姓; 井、儒者) K 2 4 2 3
 桃花亭(とうかてい) → 路蝶(ろちよう・瀬川せがわ、歌舞伎役者/狂歌) C 5 2 1 2
 桃華亭(とうかてい) → 善兵衛(ぜんべえ・石原、商家/歌/俳人) N 2 4 0 9
 橙果亭天地根(とうかていあまね) → 天地根(あまね・橙果亭、狂歌) F 1 0 0 6
 棹歌亭眞楫(とうかていまかじ) → 閑雄(くにお・林、国学者/狂歌) C 1 7 6 5

C3125 **桃花洞**(とうかどう・白石しらいし、名; 栄、遊林男)?-1772 平戸の医者、儒者; 江戸の入江南溟門、
 平戸藩儒/大阪で黄老学(道学); 永富独嘯庵門、大坂藩邸で没、
 「老子後伝」著、「桃花洞遺稿」、

[桃花洞(;号)の字/通称/別号]字; 子春、通称; 彦三郎、別号; 眞人/黄堂

桃華洞(とうかどう) → 元華(げんか・内野うち、儒者/農政) I 1 8 0 3

C3126 **東花元成**(冬瓜/冬花元成とうがのもとなり/かぼちゃのもとなり)?-? 1804-18頃江戸の戯作者/一時名古屋住、
 「四編之綴足」著(:一九「膝栗毛」四編に擬す)

加保茶元成の変名か? → 元成(初世もとなり・加保茶、狂歌) D 4 4 6 4

東華[花]坊(とうかぼう) → 支考(しこう・各務、俳人) 2 1 1 9
 桃花房(桃華房花とうかぼう) → 智洞(ちどう、真宗僧、三業惑乱争論) E 2 8 9 4
 冬瓜坊(とうがぼう) → 支元(しごつ・小蓑庵、俳人) D 2 1 6 4
 桃華屋春比良(とうかやはるひら) → 春平(春比良はるひら・太田おた、狂歌師) K 3 6 7 6
 唐華陽(とうかよう) → 孝平(こうへい・たかひら・神田かんだ、蘭学者) F 1 9 3 8
 桃華老人(とうかろうじん) → 兼良(かねよし/かねら・一条、撰関/古典/連歌) 1 5 3 7
 桐下老人(とうかろうじん) → 宣光(せんこう; 法諱、浄土僧/歌人) F 2 4 3 6

C3127 **透関**(とうかん; 道号・祖玄そげん; 法諱) 1709-94 86 越後の曹洞僧; 頑極官慶門/嗣法、

1752伊勢の東雲寺住持; 伽藍再興/同寺中興と称さる、通霄庵に隠棲、「祖玄和尚法語」著

C3128 **東関**(とうかん・中島/初姓; 百井もい、中島家の養子) 1772-1835 64 越後高田藩儒; 山本北山門、
 書物役/藩主侍読を兼任、私塾を開く; 子弟教育、「北山先生学庸説」「北山先生論語説」編、
 1820「東関先生詩文集」、「東関先生読朱本大学説」「春秋左伝説」「左伝随筆」「辨大石論」著、
 [東関(;号)の名/通称]名; 嘉春、通称; 門蔵

C3129 **等観**(とうかん; 法諱) ? - ? 江後期熊本の本真宗本願寺派順徳寺住僧、
 1837「鳴鼓篇」著

- 当幹(とうかん・藤原) → 当幹(まさもと・藤原、廷臣/文筆家) H 4 0 8 3
 当監(とうかん/まさみ?・伊東) → 隆安(たかやす・伊東いとう、歌人) V 2 6 4 3
 棟貫(とうかん・隈元) → 棟貫(むねぬき・隈元くまもと/清水、藩士/歌) D 4 2 7 7
 藤館(とうかん・藤基) → 帰素人(きそと・藤基ふじもと/中尾、神職/歌) V 1 6 1 3
 濤観(とうかん) → 若人(じゃくじん・久保島、藩士/俳人) G 2 1 2 9
 等観(とうかん) → 観山(かんだん、茶人) Q 1 5 7 7
 陶潤(もときち・伊藤) → 允讓(まさよし・伊藤いとう、陶工/里正) N 4 0 4 0
- C3130 **東巖**(とうがん;道号・慧安えあん;法諱、諡号;宏覚禪師) 1225-7753 播磨の天台僧;円教寺で出家、入宋目的で大宰府へ/臨濟僧悟空敬念に出逢い入門;禪門に転向/悟空の嗣法、1262建長寺元庵普寧門/1268京今出川の正伝寺開山、叡山に追われ鎌倉へ東下、安達泰盛の招聘;陸中和賀江の聖海寺住持、「正伝仮名法語集」/1273「先聖先賢聖道一轍義」著
- C3131 **洞巖**(とうがん/どうがん・佐久間さくま/本姓;源、名;義和よしかず、新田親重男) 1653-173684 仙台藩儒、仙台藩画員佐久間友徳の養嗣子、書;佐々木志頭磨門、画;狩野洞雲門、儒;遊佐木斎ぼくさい門;木ぼう門4傑の1、仙台藩国史編纂参加、多賀城碑の発見に功、徂徠・鳩巢など書信による交友、新井白石と親交;詩文作法「白石先生師範」受/書簡は「新佐書簡」所収、1702「伊達便覧志」、1707「聳翠文集」編/09「翰墨摘法」12「忠鑑録」28「塩竈名勝考」「陸奥国塩竈松島図」、「奥羽便覧志」「奥州名取郡笠島道祖神記」「容軒文集」「容軒書画譜」「容軒紀年録」外著多数、[洞巖(;号)の字/通称/別号]字;子巖、通称;丁徳/彦四郎、別号;容斎/容軒/太白山人
- C3132 **東岸**(とうがん・伊藤いとう、名;弘充、東所5男) 1791-186474 京の儒者;父門/1812長岡藩校崇徳館教授、1815都講、伊藤轡斎ゆうさいの後見役、35「上都詩草」52「家訓大略」、「東岸先生詩文稿」著、[東岸(;号)の字/諡号]字;満蔵、諡号;継明先生
- C3133 **東巖**(とうがん・川上かわかみ、名;玄之/通称;恭蔵、別号;白雲楼) 1826-9873 盛岡藩医;江幡えはた春庵門、儒;中島予斎門、嘉永1848-54頃春庵の事件連座;幽閉、のち赦免;藩学助教、維新後岩手師範学校教師/1898辞職、「里館村居詩」著、「東巖遺稿」
- C3134 **東巖**(とうがん・津田つた、名;信臣/信存/信孝) 1830-9263 常陸の儒者;青山延光門、水戸藩士;藩主に出仕/1856弘道館訓導/60彰考館編修員;大日本史「志・表」編纂に従事、30余年間彰考館で活動、1853詩文「湖亭吟草」、54「南征録」、「陰陽志」編、「日光紀行」著、「水戸藩死事録」「水戸弘道館雑誌」「常陽雜詠」著、[東巖(;号)の字/通称/別号]字;伯行、通称;繁太郎、別号;春村しゅんそん
- 東巖(とうがん・榎田) → 玄覚(げんかく・榎田かしだ/平/橋本、藩医/本草) I 1 8 2 5
 東岸(とうがん・細川) → 治年(はるとし・細川ほそかわ、藩主) G 3 6 5 7
 冬雁(とうがん・栗田) → 土満(ひじまる・栗田、神職/国学/歌) 3 7 0 7
 桃丸(とうがん・丹羽) → 桃丸(ももまる・丹羽にわ、国学者) F 4 4 0 0
- C3135 **道閑**(初世とうかん・清水しみず、名;宗怡/紹怡) 1579-164870 京の茶人;石州流清水派(道門派)初代、古田織部・小堀遠州門、伊達政宗の招聘で仙台藩茶頭(5百石);子孫相承、「数奇道心法」、[初世道閑(;号)の通称/別号]通称;猿若・風呂道閑/古道閑、別号;玄斎/渋紙庵/伝習庵/大黒庵、法号;半雲斎道閑日応居士
- C3136 **道甘**(道鑑とうかん・高野瀬/高瀬たかのせ、名;正代、俳人梅盛の兄) 1610-9182 山城伏見の俳人;貞徳門、狂歌も嗜む、1657「人まね」61「糸瓜草へちまぐさ」「花の露」著、狂歌;「後撰夷曲集」入、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入;[幽かそかなは身を卑下したる螢哉]、[道甘(;号)の通称/別号]通称;弥三右衛門、別号;専庵/楽々庵、宗房・南枝の師
- C3137 **道閑**(2世とうかん・清水しみず、名;紹元、飯田小左衛門男) 1612-9180 初代清水道閑の養嗣子、茶人;石州流清水派(道門派)2代目;養父を継承;仙台藩に出仕/主命で片桐貞昌(石州)門、1669茶道頭、咎を受けたが1681赦免;茶頭組頭に就任、「動閑茶湯書」「石州三百ヶ条」著、[2世道閑(;号)の通称/別号]通称;小猿/中道閑、別号;道漢/動閑/伝習庵
- S3180 **道寛**(とうかん・松山、玖也きゅうや[1623-76]男?)?-? 大阪住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入[よく化けて嫁入りをする女狐よ夜よの殿御に去られればしすな](古今夷曲集:九)(ばしは強意の助詞、夜の殿御は夫と狐の異名を掛けている)
- X3113 **道閑**(とうかん・結城ゆうき、) ? - ? 江前期;上方の歌人、

1670下河辺長流[林葉累塵集]25首入、
 [玉ははき袂にまきてをとめごがかひやかきはくけふにやはあらぬ](林葉累塵;12子曰)、
 [老いて後むかしの友のみななくなれるを歎きて、
 見し人のなきがおほきにくらべてもおとらじと思ふ老のかずかな](林葉累塵;1140)

- C3138 **童観**(どうかん・片山たやま、名;一源、医者高尚男)1663-1723⁶¹ 江戸の医者;父門/藪井清庵門、
 儒者:人見鶴山門、1705米沢藩主上杉吉憲に招聘され聖堂祭主、
 1698「春穉考異全書」/1709「呼老片山元僑先生集」、「童観詩文集」「童観劄記」著、
 「尚書伝中暦数之概略」「積菜行事」著、
 [童観(;号)の字/別号]/字;元僑/僑、別号;呼老堂
- C3139 **道閑**(3世どうかん・清水しみず、馬場相薫男)1666-1737⁷² 2代目清水道閑の養嗣子、仙台藩士;茶人、
 石州流清水派(道門派)清水道閑3代目(主命で道閑の伝を受)/藩主綱村の命で松浦鎮信門、
 桑山可斎の推薦で藤林宗源門、陸前岩出山の有備館庭園作庭、「拾体」「数奇伝授之次第」著、
 [3世道閑(;号)の別号]道斎/道竿/釣玄/耕閑斎/竿道竿、法号;心誉道竿釣玄居士
- C3140 **道桓**(どうかん;名・島田しまだ、号;南溪)?-? 江中期享保1716-36頃江戸の和算家:西川正休門、
 1725「規矩元法町見辨疑」著
- C3141 **洞鑑**(どうかん・吉岡よしおか、名;正義、山本嘉兵衛男)1780-1837⁵⁸ 藩医吉岡仁庵の養子:鳥取藩医、
 1804家督/07上京;山脇東洋門/蘭方医術;海上随鷗門、藩の加番/本番/匙加役/1815匙役、
 1826不都合あり閑居/28赦免復帰、37国内に疫病流行し救済活動中感染し没、「経験方」著、
 [洞鑑(;通称)の法号] 樹徳院
- 道観(どうかん;法名) → 成忠(なりただ・高階たかしな、廷臣/詩人) H 3 2 5 2
 道観(どうかん;字/道観坊) → 証恵(証慧しょうえ;法諱、浄土宗西山派僧) F 2 2 3 7
 道欽(どうかん;法名) → 満元(満基みつもと・細川/源、武将/歌) E 4 1 9 5
 道灌(どうかん・太田) → 持資(もちすけ・太田/源、武将、歌人) 4 4 0 7
 道貫(どうかん/みちつら・井原/中村) → 徳水(とくすい・中村、心学者) L 3 1 0 9
 道貫(どうかん・仁井田) → 道貫(みちつら・仁井田にいだ、農業/藩士) B 4 1 9 0
 道貫(どうかん・本庄) → 道貫(みちつら・本庄/松平、藩主/歌) B 4 1 9 1
 道貫(どうかん・内堀) → 幸政(ゆきまさ・内堀うちぼり、藩士/歌人) G 4 6 6 5
 道寛(どうかん・角野) → 乙芽(おつが・角野、俳人) D 1 4 1 4
 道寛(どうかん・墨江) → 武禅(ぶぜん・墨江すみえ、絵師) D 3 8 1 2
 道寛(どうかん・永持) → 道寛(みちひろ・永持ながもち/藤原、国学者) H 4 1 9 5
 道竿(どうかん・清水) → 道閑(3世どうかん・清水、藩士/茶人) C 3 1 3 9
 道閑(どうかん・末吉) → 道一(みちかず・末吉すえよし、国学者) J 4 1 3 3
 動閑(道漢どうかん・飯田/清水) → 道閑(2世どうかん・清水、藩士/茶人) C 3 1 3 7
 道丸(どうかん → みちまる・田中) → 道麿(みちまる・田中、国学/万葉研究) 4 1 1 7
 洞巖(どうがん・佐久間) → 洞巖(とうがん・佐久間、儒者) C 3 1 3 1
 道観居士(どうかんこじ) → 鐘成(かねなり・暁あかつき、商家/戯作/絵師) C 1 5 9 3
 透閑斎(とうかんさい) → 元信(もとのおぶ・武田/源、武将/幕臣/故実) D 4 4 6 7
 偷閑斎(とうかんさい) → 似水(じすい・藤掛ふじかけ、華道家) T 2 1 9 5
 偷閑斎(とうかんさい、偷閑舎) → 万季(ばんり・潮田/桑野、藩士/俳人) I 3 6 6 2
 桃岩斎(とうがんさい・平尾) → 信種(のぶたね・平尾ひらお/平井、僧/医/国学) J 3 5 8 3
 洞閑斎(とうかんさい) → 南風(なんふう・稲毛いなげ、俳人) J 3 2 3 8
 道感斎(どうかんさい) → 祐等(すけとし・伊東いとう、兵法家) G 2 3 6 2
 同関子(どうかんし) → 竹山(ちくざん・中井、儒者/詩文) 2 8 0 9
- C3143 **道寛親王**(どうかんしんのう、名;嘉退、後水尾天皇皇子)1647-76³⁰ 母;逢春門院隆子(櫛笥隆致女)、
 聖護院門跡;1652聖護院入室/56親王宣下/57道晃親王門;得度/65二品/68園城寺で灌頂受、
 天台園城寺長吏、熊野三山検校、後西天皇の弟、
 1664「天台四教儀集解聞書」72「授法目録」著、
 [道寛親王の法諱/幼名/通称]法諱;道寛、幼名;聡宮、通称;浄願寺宮
 登岸坊(とうがんぼう;諡号) → 到徹(とうてつ;法諱・道従どうしゅう、真宗僧) G 3 1 6 7
- C3144 **等照**(とうき;法諱・僧任そうにん;字、仏立慧照国師、万里小路嗣房男?)1396-1462⁶⁷ 浄土僧:敬法門、

天台・法相・三論を修学/1323?清浄華院10世、新黒谷金戒光明寺を開く、1446国師号を受、
「選択集直弁」「三部経直弁」「菩薩戒経直弁」著

- C3145 **東輝**(東暉^{とうき}:道号・永杲^{えいこう};法諱)?-1542 臨濟僧:九峰以成門/法嗣、1530建仁寺273世、
「東輝和尚語録」「東輝和尚法語」「東輝永杲和尚疏稿」著
- C3146 **東暉**(^{とうき};法諱) 1623 - 1682⁶⁰ 京の浄土僧;名越派袋中良定門、檀王法林寺4世、
1665「飯岡西方寺開山記」著/78「浄土略名目図」著(注釈)、「善導寺名越派著述書目」著、
[東暉の法名/号]法名;良聞^{りょうもん}/定蓮社良聞、号;勇猛觀、聞証^{もんしょう}の師
- C3147 **東規**(^{とうき};法諱・以成^{いしょう}:道号、号;無求子)?-1685 臨濟宗黄竜派僧:利峰東鋭門/法嗣、
建仁寺309世、「無求子唯吾集」著
- C3148 **等亀**(洞亀^{とうき}・佐藤、春慶[宇林]男)1695-1732³⁸ 尾張佐屋の俳人:露川門、
尾張俳壇の中心俳人、1726芭蕉33回忌追善「此原^{このはら}」共編/序、
追善集「蓮葉集」(父宇林編)、
[等亀(;号)の通称/別号]通称;茂平/茂兵衛、別号;遊雀亭
- C3149 **東起**(^{とうき}) ? - ? 俳人;1763綾足「片歌道のはじめ」上巻編
- C3150 **東季**(^{とうき}) ? - ? 但馬出石の俳人;1776几董「続明鳥」1句入、
[関守のゆふべかしこき頭巾哉](続明鳥;乙634/冷込む夜の番人の立姿)
- 等貴(^{とうき};法諱) → 宗山^(しゅうざん);道号・等貴;法諱、臨濟僧) X 2 1 3 9
- 登幾(^{とうき};黒沢) → 登幾^(とき・黒沢);歌人) I 3 1 8 6
- 董喜(^{とうき};大野) → 竹瑞^(ちくずい);大野、儒医) D 2 8 2 7
- 当帰(^{とうき};遠藤) → 俳狂^(はいきやう);遠藤^{えんどう};藩士/俳人) 3 6 9 9
- C3151 **等義**(^{とうぎ};中川^{なかがわ}) ? - ? 江中期歌人;清水谷実業門、
1710「等義聞書」著(師実業の歌学を筆録)
- 東祇(^{とうぎ};藤井) → 樗亭^(ちよてい);藤井^{ふじい};医/詩文) K 2 8 4 2
- 東岐(^{とうぎ};奈良) → 養斎^(ようさい);奈良^{なら}/青山、藩士/儒者) 4 7 9 7
- 東巍(^{とうぎ};中条) → 唯七郎^(ただしちろう);中条^{なかじょう};和漢学) P 2 6 6 1
- 棟義(^{とうぎ};斯波) → 棟義^(むねよし);斯波/石橋/源、武将/歌) C 4 2 8 2
- 当義(^{とうぎ};関) → 当義^(まさよし);関^{せき};藩家老/財政再建) I 4 0 5 6
- 当義(^{とうぎ};松沢) → 当義^(當義);松沢^{まつざわ};国学/歌) S 4 0 6 7
- C3152 **道喜**(^{どうき};法諱) ? - ? 平安中期天台僧:946に日延が唐より持帰った宝篋印塔中の
陀羅尼經事績を記録;965「宝篋印經記」「宝篋印陀羅尼伝来記」著
- C3153 **道基**(^{どうき};法名) ? - ? 鎌倉期法師/歌人:続現葉集入、続千載966/続後拾遺1302
- C3154 **道喜**(^{どうき};法名、俗姓;土岐^{とぎ}/本姓源、名;国数/頼数、土岐国成男)?-? 廷臣;武人、
藏人/左近将監、出家;法師、歌人;1345刊[藤葉集]3首入集、新後拾遺983、
[いかなればをののあきつにみる雲のなびきもあへず浮名立つらん](新後拾;恋983)、
(本歌;岩倉の小野ゆ秋津に立ち渡る雲にしもあれや時をし待たむ[万葉;七1368])、
[あすか風みにさむからしたをやめの手ぞめの衣今宵打つなり]、
(藤葉;秋272/源頼数・土岐氣良藏人入道名)
[道喜(;法名)の通称/号]通称;伯耆十郎、号;氣良
- C3155 **道喜**(^{どうき};栗崎^{くりさき}/本姓:橘、名;正元)1568?-1651⁸⁴? 肥後宇土栗崎の人、
父戦死で長崎に逃る;1574南蛮人に従い呂宋に渡る、外科医を修学;1596帰国、
長崎万屋町で外科医・薬種業、栗崎流外科医の始祖、
息子も道喜と称す:事跡の伝聞に混同を生じやすい、
「紅毛外科真伝」「瘍医秘訣」「金創仕掛」著
- T3169 **道喜**(^{どうき};川端^{かわはた}/本姓:渡辺、初姓;中村)?-1592 安桃期;京の富商、
初め京正親町の餅屋渡辺に婿入;渡辺弥七郎と称す、入道して道喜と号す、
京餅座の権利を買得;粽^{ちまき}の製造、国学・和歌に長ず/茶;武野紹鷗、千利休と交流、
勤王家;私財を投じ禁裏修造/禁裏被官人として諸役免除の特権を獲得、
禁裏六町組の宿老としても活躍、1577年内裏築地修造の作事奉行、
1591年新在家絹屋町(のち川端町)に移住/のち代々川端道喜を名乗り餅・粽^{ちまき}を商う、
六町組関係史料など川端道喜文書が伝わる、

[道喜(法号)初名/通称]初名;中村五郎左衛門、通称;渡辺弥七郎

- S3177 **道儔**(どうき・桑山) ? - ? 大阪の住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」入
[君が代に上下万民もてはやす大豆まめや千年ちとせの数に節分](古今夷曲集;五賀)
- C3156 **道熙**(どうき;法諱・晦巖[岩]かいがん;道号)?-? 1693存 黄檗僧;慧林性機門/侍者/1680印可、
1682伏見仏国寺高泉性激しょうとん門、山内の指柏軒に住、1686「地藏菩薩感応伝」著、
1687「新撰梅花百詠」93「本朝高僧詩選」、「釈門故事」「禅門故事」、95「本朝高僧伝」著
- 道鬼(どうき・山本) → 勘助(かんすけ・山本、兵法家/軍師) E 1 5 0 0
道貴(どうき・太田) → 道貴(みちたか・太田、白楽庵/歌人) B 4 1 7 3
道喜(どうき;法諱) → 月峰(げっぽう;道号・道喜、黄檗僧) B 1 8 0 9
道喜(どうき;法名) → 重基(しげもと・平たいら、武将/歌人) D 2 1 1 6
道喜(道機どうき・小瀬) → 甫庵(ほあん・小瀬おせ、医/軍学/歴史) 3 9 5 0
道喜(どうき・小倉) → 仙朴(せんぼく・秋山、棋士;囲碁) N 2 4 1 2
道喜(どうき・都筑) → 高(たかし・都筑まつぎ、儒者/詩人) X 2 6 4 3
道喜(どうき) → 而后(じこう・伊東[藤]、商人/俳人) T 2 1 4 2
道紀(どうき・宇田川) → 道紀(みちのり・宇田川うだがわ、漢方医者) C 4 1 2 6
道紀(どうき・中村) → 道紀(みちのり・中村なかむら、医者、国学者) H 4 1 5 9
道機(どうき;法諱・鉄牛) → 鉄牛(てつきゅう;道号・道機、黄檗僧) C 3 0 2 5
道機(道暲/道亀どうき;法諱) → 大随(だいつい;道号・道機、黄檗僧) K 2 6 4 2
道機(道喜どうき・坂井/土肥) → 甫庵(ほあん・小瀬おせ、医者/軍記) 3 9 5 0
道機(どうき・土岐) → 朝直(ともなお・土岐、幕臣/弓術) P 3 1 9 8
道機(どうき・外山/轟) → 竹隠(竹蔭ちくいん・轟とどろき/外山/穂積、藩医) C 2 8 4 9
道基(どうき;法諱初名) → 道意(どうい・南滝寺、天台門跡/歌人) 3 1 9 6
道基(どうき) → 通直(みちなお・河野、武将/城主/連歌) C 4 1 0 6
道基(どうき・伊藤) → 竜洲(りゅうしゅう・伊藤いとう/清田、藩儒) E 4 9 5 5
道暲(道輝どうき・海北) → 友雪(ゆうせつ・海北かいほう、絵師) D 4 6 0 7
道輝(どうき) → 知章(ともあき・永田/林、藩士/郷土史) P 3 1 0 9
道輝(どうき・日野) → 文車(ぶんしゃ・日野ひの、藩家老/俳人) F 3 8 6 7
道毅(どうき・黒沢) → 道毅(みちたけ・黒沢くろさわ、神職/国学) J 4 1 0 2
道熙(どうき・小野) → 鶴山(かくざん・小野、儒者) H 1 5 2 7
道徽(どうき;法諱・其儼;道号) → 大鵬(たいほう;道号・正鯤しょうこん、黄檗僧) C 2 6 1 7
- C3157 **道義**(どうぎ;法名、俗姓;島津/名;高親、下野守島津忠宗[法名;道義]?)?-? 鎌倉期武士/出家法師、
歌人;1320成立「続千載集」1408、
[面影も涙にはては曇りけり月さへ人の契わすれて](続千載;十三恋1408)
- S3174 **道祇**(どうぎ) ? - ? 社僧/連歌;1445大山祇社法楽連歌百韻参加
- C3158 **道巍**(どうぎ;法諱・雲巖うんがん;道号、俗姓;吉川) 1635-1721 87 陸前仙台の禅僧;
1647(13歳)臨濟宗瑞鳳寺の棄境だつきょう門/出家、63黄檗僧;万福寺隠元門、66近江光林寺開創、
1695彦根藩主の命で光林寺を犬上郡に移築/1709江戸白金台の瑞聖寺8世/15退隠、
1721堀田正高親子の要請で近江竜瑞寺を開山;同寺に没、「雲巖禅師三會語録」著
- 道義(どうぎ・近藤/川崎) → 道義(みちよし・川崎/近藤、儒者/救民) C 4 1 8 7
道義(どうぎ・中島/江沢) → 養樹(ようじゅ・江沢えざわ、医者) B 4 7 0 8
東宜園(とうぎえん) → 青邨(せいそん・広瀬/矢野、漢学者) C 2 4 5 6
洞亀園(どうきえん) → 長重(ながしげ・横地よこち、神職/国学) P 3 2 2 6
東菊堂(とうきくどう) → 籬角(りかく・東菊堂、俳人) 4 9 4 6
道鬼斎(どうきさい) → 勘助(かんすけ・山本、兵法家/軍師) E 1 5 0 0
当帰山人(とうきさんじん・松崎) → 慊堂(こうどう・松崎まつぎ、儒者) 1 9 1 7
- C3159 **道熙親王**(どうきしんのう、十楽院宮、伏見天皇皇子) 1308-? 1335存 天台宗青蓮院門跡;慈道親王門、
1325灌頂を受、31山城西山の善峯寺住/35十楽院で修法、「道熙法親王記」著、
歌人;1335「建武二年内裏千首」参加、新千載2283、
[君が代の千年の数をよばふなり雲井にたかき鶴のもろ声](内裏千首/新千載;廿2283)
- C3160 **藤吉**(とうきち・菅田屋ほんだや)?- ? 江中期大坂南久宝町四丁目の書家、

1785「世尊寺流四季帖」書

- C3161 藤吉(とうきち・本屋ほんや、号;了雲、惣吉男)?-? 江後期江戸日本橋の道具商、茶器鑑定に従事、
「苦心録」「麟鳳亀龍」著
- C3162 藤吉(とうきち・福泉ふくいずみ) 1766-1837 72 武州入間郡所沢の紺屋の生、棋士、誹諧を嗜む、
江戸に出て将棋士:9世名人大橋宗英門、1811六段/35七段?、「将棋新選図式」「将棋評判」著、
[藤吉(;通称)の号/法号] 号(俳号);豆人、法号;普明基信士
- 藤吉(とうきち・武井/竹井)→ 宗七(そうしち・本屋、歌舞伎作) F 2 5 1 7
藤吉(とうきち・中村) → 清三郎(2世せいざぶろう・中村、歌舞伎作者) B 2 4 7 1
藤吉(とうきち・高橋) → 卦斎(かいさい・高橋たかはし、藩士/俳人) I 1 5 6 4
藤吉(とうきち・小川) → 泰山(たいざん・小川おがわ、漢学/折衷学) B 2 6 4 6
藤吉(とうきち・近江屋) → 祖能(そのう・和田わた、国学者/歌人) E 2 5 1 3
藤吉(とうきち・岡見) → 知康(ともやす・岡見、藩士/国学/農政) Q 3 1 7 3
藤吉(とうきち・武井[竹井])→ 宗七(そうしち・本屋ほんや、歌舞伎作者) F 2 5 1 7
東吉(とうきち・佐藤/小松)→ 愚山(ぐざん・小松こまつ、藩士/漢学) C 1 7 4 1
東吉(とうきち・亀山) → 嘉治(よしはる・亀山かめやま、国学/歌人) M 4 7 3 0
棟吉(とうきち・桂田) → 竜山(りゅうざん・桂田かつらだ、医者/国学) E 4 9 1 5
冬吉(とうきち・山崎) → 弓雄(ゆみお・山崎、国学者/教育) G 4 6 1 0
陶吉(とうきち・田原) → 直助(なおすけ・田原たわら、蘭学/洋式軍船) B 3 2 3 8
東吉郎(とうきちろう・和泉)→ 眞国(まくに・和泉/石橋、書肆/国学者) 4 0 6 6
東吉郎(とうきちろう・松田)→ 蓼水(りょうすい・松田まつだ、藩儒/勤王派) I 4 9 3 3
藤吉郎(とうきちろう・木下)→ 秀吉(ひでよし・豊臣/羽柴、武将/天下統一) 3 7 1 0
藤吉郎(とうきちろう・小川)→ 泰山(たいざん・小川おがわ、漢学/折衷学) B 2 6 4 6
藤吉郎(とうきちろう・玉楮)→ 藤榭(とうしや・玉楮たまかじ、彫刻師) V 3 1 7 3
藤吉郎(とうきちろう・横道)→ 居州(やすくに・横道よこみち、国学者) H 4 5 0 1
藤橋(とうきつ・源平) → 清三郎(2世せいざぶろう・中村、歌舞伎作者) B 2 4 7 1
藤橋(とうきつ・野崎) → 藤橋(とうきょう・野崎、儒者) C 3 1 8 0
- C3163 童戯堂四轉(どうぎどうしてん)? - ? 役者評判記:1693「古今四場居しい色競百人一首」著
東杵庵(とうきねあん) → 東杵庵(とうしよあん、俳人;初世~)
- C3164 等躬(とうきゆう・相楽/相良さがら/中畑/隈井、貞栄男) 1638-1715 78 岩代須賀川生;宿駅の長か?、
俳人:石田未得・岸本調和門、細道行脚の芭蕉を自宅に逗留させる、晩年平藩の露沾の知遇、
1688「白川文庫」/89「葱摺しのぶずり」99「伊達衣」1704「一の木戸」05「蝦夷文談抄」編、
多代女編「あさか市集」歌仙入(:等窮名)、1702轍士「花見車」1句入、
[松島の月や雲居うごの自画自讃](花見車;118/雲居禅師が自画自賛したことのある月)、
[等躬(;号)の通称/別号]通称;伊左衛門、
別号;乍憚(さたん(;初号)/一瓜子/老瓜軒/東籬軒/乍単斎/巽庵(そんあん)/藤躬(;晩年号)
- C3165 桃丘(とうきゆう、松崎まつざき、庄五郎男/母;多代女たよじよ)?-? 岩代須賀川の縮緬問屋の生、
俳人/蝶二ちようじの弟
- C3166 禱久(とうきゆう・吉川、名;治部介)?-? 江中期の縣官吏、山梨稲川「思旧漫録」記事入、
郡国を歴任、和算家/易を好む、晩年;江戸深川に住/のち駿河清水の横砂に住;医業
- C3167 陶丘(とうきゆう・内田うちだ、名;穀、通称:仲昌、渡辺玄対男)?-1808 江後期絵師:父門、内田家継嗣、
1804「林麓娛観」編
- 陶丘(とうきゆう・川端) → 陶丘(すえたか・川端かわばた、藩士/俳人) I 2 3 3 0
東穹(とうきゆう・長谷川) → 規一(きいち・長谷川はせがわ、和算家) J 1 6 5 7
桃邱(とうきゆう・米谷) → 金城(きんじょう・米谷こめたに、商家/漢学) R 1 6 1 8
東毬(とうきゆう・立松/稲毛屋)→ 東作(とうさく・平秩へつ/平原屋、商家/狂歌) 3 1 1 3
- C3168 東牛(とうぎゆう) ? - ? 俳人:1716沾徳点「豆腐百韻」参加
- C3169 桃牛(とうぎゆう) ? - ? 京の俳人:
1773几董「あけ鳥」入(夏四月臨時会歌仙5句ほか1句)、64戸田文鳴「猿談義」序、
[かはほり(蝙蝠)や風に吹かるゝ洗ひ髪](あけ鳥;126)

- C3170 **道休**(とうきゅう・林はやし、通称;長兵衛)?-? 室町末期武家:美濃金山城主森長可の家臣、1584長久手合戦で長可討死後はその子森忠政に出仕、「林道休覚書」著
- C3171 **道求**(とうきゅう・佐々木ささき/六角ろっかく/本姓;源、佐々木高賢男)1595-167379 京の武将;1609大伯父六角(佐々木)義治の養嗣、豊臣秀頼家臣;大坂陣に軍功/落城後淀・太秦住、加賀前田利家家臣/1660致仕、「大坂一卷之覚書」著、家譜編纂;灰燼に帰す;孫定賢が継承、[道求(;号)の名/通称/別号]名;高守/定治、通称;兵庫頭、別号;己斎/独嘯庵
道九(とうきゅう) → 道九(とうく、連歌) C 3 1 9 1
道休(とうきゅう・小見山) → 自休(じきゅう・小見山、藩医/仮名草子) B 2 1 5 9
道旧(とうきゅう・清原) → 道旧(みちひさ・清原、藩士/国学/俳人) C 4 1 3 2
- C3172 **道牛**(とうぎゅう・伊良子いらこ/初姓;小森、名;好在)1671-3464 長崎の外科医:1685オランダ人より修学;カスパル流外科術、1696山城伏見で医開業、「外治秘伝書」著、[道牛(;字)の通称/号]通称;助左衛門/見道、号;無逸、好問の父/光顕の祖父
- W3119 **道牛**(とうぎゅう・平木ひらき、通称;三左衛門)?-?59 安藝広島藩士/医者、歌人
道牛(とうぎゅう・小幡) → 景憲(かげり・小幡おばた、幕臣/軍学者) B 1 5 8 9
東牛斎(とうぎゅうさい) → 蘭香(らんこう・吉田よしだ、絵師) C 4 8 0 1
董九如(とうきゅうじょ:号) → 九如(きゅうじょ・井戸/本多、幕臣/絵師) M 1 6 7 0
- C3173 **陶巨**(とうきょ:号、別号;不測観/了窮)?-? 江中期近江願乗寺の僧/俳人:森川許六門、1717「昼寝随筆」編
- C3174 **藤渠**(とうきょ・江馬えま、名;元益、松斎男)1806-9186 美濃大垣藩医:蘭学;藤林普山・宇田川榕庵門、本草学;水谷豊文・山本亡羊門、1844幕命で江戸医学館で本草を講ず、1831「薬物本草図彙」32「療治口訣」、「医学捷徑」、「江馬療治口訣」藤渠漫筆」著、元齡の兄、笋莊(じゅんそう)の父、叔母;細香、[藤渠(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;益也、字;子友、通称;春齡(4世)、別号;活堂/万春(ばんしゅん)
- C3175 **東挙**(とうきょ・梅川うめかわ)?-? 京の絵師:美人画が得意、1774「観世音靈驗記」75「秀雅36歌仙」画、「新文句よし此ぶし」「大御法会庭儀図」画
藤挙(とうきょ) → 篤茂(あつげ・藤原、詩人) B 1 0 2 9
藤居(とうきょ・西田) → 藤居(ふじやす・西田にしだ、国学/歌) I 3 8 5 8
東居(とうきょ;漢画号) → 北嵩(ほくすう・葛飾かつしか/島、絵師) D 3 9 5 1
東渠(とうきょ・前田) → 利与(としとも・前田、藩主/詩) N 3 1 0 4
東渠(とうきょ・山川) → 慎蔵(しんぞう・山川やまかわ、儒者/暦学) P 2 2 2 7
桃居(とうきょ) → 二柳(にりゅう・勝見、俳人) D 2 2 2 0
洞虚(とうきょ・津島) → 恒之進(つねのしん・津島、本草学) C 2 9 9 7
董居(とうきょ・長井) → 在寛(ありひろ・長井、藩士/儒者/書) F 1 0 7 1
東居(とうきょ・岩本) → 五一(ごいち・達摩屋初世・岩本、書肆) E 1 9 8 2
- C3176 **桃魚**(とうぎょ・小島、通称;富右衛門、別号;泉戸亭)?-? 信濃小諸の御影代官所詰/のち江戸住、俳人;1769信州姨捨の旅、白雄の芭蕉塚建立に立ち会う、吉沢鶏山と親交、「五やどり」著
- C3177 **東漁**(とうぎょ・河東かわひがし、別号;月花亭/月光亭)?-? 江後期大阪の読本作者:1808「異本楮生譚」12「桜木物語」15「蜚人少女玉取草紙」
- C3178 **桃鏡**(とうきょ・松村まつむら、別号;水上亭、重羽男)?-?1761没? 1772存説 伊賀の俳人:蓼太門、江戸住、芭蕉の甥松村伊兵衛(晩号;一道)の孫?、芭蕉資料を編纂:1761「芭蕉翁文集」「夏引集」編、1761「去来湖東問答」「芭蕉翁附合集」編/62「春と穂あき」編、1762撰集「芭蕉翁文台図」「芭蕉翁佛塚」編/64「芭蕉翁真跡集」編、1767付句集「雪の績つむ」68「続篇雪の績」編
- C3179 **桃喬**(とうきょ) ? - ? 江中期大阪の俳人;1776几董「続明鳥」1句入、[振上げた我手が詠ながめつ秋の蠅](続明鳥;527/弱り行く小さな命への憐愍)
- C3180 **藤橋**(とうきょ・野崎のさき、名;雍)1766-182863 加賀の儒者:京の皆川淇園門/江戸で私塾を開塾、1808鳥取藩主池田斉稷の招聘;09鳥取藩儒/18学館奉行/19系図係、玄沢・海上随鷗と親交、「大道類語」「作文柱礎」「世説絶倒」「軍機辨蹟」「左伝晰義」「孟子晰義」「手簡裁制」著、[藤橋(;号)の字/通称/別号]字;黎民、通称;謙蔵/源蔵、別号;藤橋(とうきつ)

- V3154 **洞京**(とうきょう・吉田よしだ、名;春安)?-1849 備後福山藩士;江戸詰/狩野派絵師;吉田家3世、初世蘭香・2世洞佐(美保)を継嗣/1825(文政8)阿部正精の御用絵師
- C3181 **東嶠**(とうきょう・米良めら/修姓;米、名;倉、井上新蔵男)1811-7161 豊後日出藩士/米良家を継嗣、儒者;藩儒井上懿徳門、儒詩:帆足万里門/万里ばり十哲の1、1831藩主木下俊敦に江戸随従、佐藤一斎門/32藩主に京撰随従;篠崎小竹・鈴木恕平門/33亀井昭陽門/41藩主子弟の侍読、1858藩校致道館の督学/1869家老、「日光紀行」、1845「釈氏外記」47「入京記」著、1851「東嶠先生崎津紀行」55「孫子纂註」、「韓詩外伝管見」「東嶠存稿」著、
[東嶠(;号)の字/通称/別号]字;子瘦しろう/子倉、通称;倉次郎、別号;稽古堂、諡号;文清先生
- C3182 **桃郷**(とうきょう・石崎いざき)? - 1874 神奈川宿の旅籠主人/俳人:戀みね蓼松りょうしゅう門、1858「三五景一覽」/「俳諧おくれ便り」編、61「代古浜辨覧」編、
[桃郷(;号)の通称/別号]通称;源六、別号;望月/神港庵
- 唐橋(とうきょう) → 唐橋(からはし、歌人) T 1 5 2 9
東嶠(とうきょう・蘆野あしの) → 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩歌) E 3 1 5 3
東行(とうきょう) → 晋作(しんさく・高杉、勤王家) E 2 2 3 1
- C3183 **道鏡**(どうきょう・弓削ゆげ、大臣禪師)?-772 奈良末期の僧/孝謙天皇の寵愛;太政大臣/法王、和氣清麻呂により皇位失敗
- C3184 **道教**(どうきょう;法諱、通称;遍智院僧都、大納言源みなもと雅親男)1200-3637 真言僧;成賢僧正門、出家、1222遍智院で具支灌頂を受/31成賢より法灯を受/醍醐三宝院7世、三宝院道教方の祖、遍智院住/権大僧都、能書家、1223「伝法灌頂護摩私記」33「遍口鈔」35「伝法灌頂道具目録」著、「曆仁記」「許可略作法」「五色糸縫供養作法」「道教式」「不動尊護摩」「薬師抄」外著多数
- C3185 **道慶**(どうきょう;法諱・東山とうざん、号、太政大臣九条良経男)1205-8581 天台僧;猷円門、1225灌頂を受、1237園城寺長吏/46熊野三山検校/63園城寺平等院執印、大峯葛城修行、大僧正となる、歌;「人家集」「拾遺風体集」入集、勅撰3首;続古今913/新続古今525・868
[雲かかるといはのかけみち踏みみてもあやふきものはこの身なりけり]、(続古今;羈旅913/大峰にて)、
[道慶の通称] 御室戸僧正みむろとのそうじょう
- C3186 **道教**(どうきょう;法諱・念空ねんくう;字)?-? 鎌倉中期京の浄土宗九品寺僧;長西門;諸行本願義を修学、天台教義も学習、具足戒;思円門、鎌倉で教化、浄光明寺住?、道空の師、「二十願決疑問答」「諸行本願義」「観経疏管見鈔」著
- C3187 **道鏡**(どうきょう;道号・慧端えたん、法諱)1642-172180 江戸臨濟僧;1660至道無難門/嗣法、母;李雪?、松代藩主真田信之男or飯山城主松平遠江守男説あり、飯山に正受しょうじゅ庵を結ぶ、白隠慧鶴の師:印可を授、白隠により1759法位を追贈され妙心寺首座とされる、1693「役行者顛末秘蔵記」著、「正受老人しょうじゅろうじん集」著;
[死急にして道いひ難し 無言の言を言とす 道はじ道はじ](末期の一句)、
[道鏡慧端の法諱/通称]法諱;的翁、通称;正受しょうじゅ老人
- 道教(どうきょう・九条) → 道教(みちのり・九条/藤原、関白左大臣/歌) C 4 1 2 4
道教(どうきょう;字) → 顕意(けんい/けんい:法諱・道教;字、浄土僧) M 1 8 0 4
道教(どうきょう・岩淵) → 道教(みちのり・岩淵いわぶち、国学/故実) I 4 1 1 4
道皓(どうきょう/どうこう;法諱) → 月林(げつりん/がつりん;道号・道皓、臨濟僧) H 1 8 4 1
道経(どうきょう;法諱) → 別伝(べつでん;道号・道経、臨濟/のち黄檗僧) B 2 7 0 2
道喬(どうきょう・野村) → 野渡(やと・野村のむら、俳人) D 4 5 8 4
道恭(どうきょう・山根) → 道恭(みちたか・山根やまね、庄屋/国学/歌) K 4 1 9 0
道郷(どうきょう・恩田) → 柳磯(りゅうかん・恩田おんだ、儒者/詩人) D 4 9 2 8
道暁(どうきょう;法諱) → 無住(むじゅう;道号・道暁、臨濟僧/沙石集) 4 2 0 5
道暁(どうきょう;法名) → 行藤(ゆきふじ・二階堂/藤原、幕臣/歌) F 4 6 5 4
道暁(どうきょう;法名) → 頼蔭(よりかげ・土岐とき/源、廷臣/歌人) Q 4 7 3 0
桐橋庵(とうきょうあん) → 兎夕(とせき・風羅堂、禅僧/俳人) O 3 1 2 8
道興大師((どうきょうだいし) → 実慧(じつえ・じちえ;法諱、真言僧) U 2 1 4 4

- 東嶠梅隱(とうきょうばいん) → 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩歌) E 3 1 5 3
 東曲(とうきよく・岩本) → 乾什(けんじゅう・岩本、妓楼主人/俳人) C 1 8 0 7
 東曲(とうきよく) → 雪斎(2世せつさい・珍重庵、俳人) E 2 4 3 5
 C3188 東旭(とうきよく) ? - ? 俳人:杉風門?,1790「続冬かつら」編
 C3189 東玉(初世とうきよく・桃林亭、姓;阿部あべ、通称;桃次郎)1786-1849⁶⁴ 禅僧;還俗/講釈師となる、
 芸人的自覚:庶民受け講談
 東玉(2世とうきよく) → 伯田(2世はくえん・松林しょうりん、講釈師) C 3 6 6 9
 X3143 道旭(とうきよく;法諱) ? - ? 攝津芥川の光徳寺住僧、歌;宮川松堅門、
 1722松堅[倭譚五十人一首]入、
 [もれいづる月こそ花の色香なれ梅咲く軒の夕やみの空]、
 (倭譚五十人一首;32/夜梅)
 洞玉(とうきよく・林) → 東明(とうめい・度会わたらい、笹山良意/藩絵師) T 3 1 4 4
 東居斎(とうきよさい) → 茶霏(ちらい/さらい・山県やまた、俳人) F 2 8 6 0
 東居斎(とうきよさい) → 菊英(きくえい・東居斎、俳人) K 1 6 0 2
 逃虚子(とうきよし) → 実隆(さねたか・三条西、古典/歌/連歌) 2 0 4 0
 道鈞(とうきん;法諱) → 実伝(じつでん;道号・道鈞、黄檗僧) U 2 1 9 8
 道欽(とうきん・成田) → 道欽(みちうや・成田、藩士/歌人) K 4 1 0 0
 C3190 道闇(とうざん;法諱、通称;和翁/御霊山桐院隠士)?-? 安桃期天正1573-92頃関東の天台僧、
 常陸逢善寺の定珍と交流、「止観坐禅義注」著
 C3191 道九(とうく) ? - ? 連歌;1564景恵「石山千句」入
 道供(とうく) → 道洪(とうこう、安達時盛、武将/歌人) D 3 1 9 8
 道玖(とうく;法号) → 親孝(ちかたか・蜷川/宮道、幕臣/歌) B 2 8 1 1
 東求院(とうぐいん) → 前久(さきひさ・近衛/藤原、関白/歌・連歌) 2 0 1 2
 C3192 等空(とうくう;法諱・本瑞ほんずい;字、俗姓;市場)1745-1816⁷² 丹後加佐郡市場村の真言僧、
 1751(7歳)市場村松尾寺の寛竜門;出家/1760高野山で修行;功德院南瑞・円通寺密門門、
 1779松尾寺住/181高野山に再行し顕密二教論・理趣経を講義/若狭の浄菩提心庵に退隠、
 1816江戸弥勒寺で大日経講義;同寺で没、今大師/今釈迦と称さる、「大日経疏校正」、
 「大日経両部教主和解」「作持門詞句要集」「蘇漫多声裁錦」「真言門遮表義」「稗蒙再訓」、
 1787「辨顕密二教論稗蒙」1800「即身義玄門」03「発心不退章」05「般若理趣経簡要」外著多数、
 [等空(;法諱)の初字/号]初字;寛秀、号;浄菩提心庵
 C3193 洵空(とうくう;法諱・道嵩どうそう;字、号;俊粹)1755-1827⁷³ 山城深草の浄土宗円福寺50世、
 1799「記主竹林顕意道教大和尚伝」、「観経疏楷定記誤字考」著
 等空(とうくう;字・智応) → 智応(ちおう;法諱・等空、真言律僧) 2 8 4 9
 等空(とうくう・加藤) → 磐斎(ばんさい・加藤、和学/歌学) 3 6 4 1
 洞空(とうくう;号) → 慈泉(じせん;法諱、浄土宗西山派僧) U 2 1 2 1
 C3194 東寓(とうぐう・森、玉葉館)? - ? 江中期播磨赤穂の俳人、江戸と往来/東湖と親交、
 1792「旅硯」著
 平砂3世(万葉庵東寓1736-1813)との関係?、赤穂藩主森忠賛との関係は?
 東寓(とうぐう・皐月さつき) → 平砂(3世へいさ・皐月/篠崎、俳人) 2 7 3 2
 C3195 道空(導空どうくう;字・性仙せいせん;法諱)?-? 鎌倉後期浄土僧:道教門/鎌倉浄光明寺住、
 諸行本願義を布教/源空の選択本願念仏集を破棄/高弁「摧邪輪」に賛同、蓮証・行悟の師、
 「選択集述疑」「観念法門管見鈔」「観経定善義管見鈔」「観経散善義管見鈔」外著多数
 C3196 道空(どうくう;法諱・如幻;字)1666-1751⁸⁶ 備後出身?、山城五智山の真言学僧:智積院運啟門、
 「飛鳥寺縁起」「孟蘭盆記」「雲雷考」「貝多羅葉考」「毘盧耶記」「理趣経異湊」「道空随筆」外著多
 T3123 道空(どうくう;法名・久世くぜ/本姓;源)1704-84^{81歳} 幕臣;寄合/のち火事場見廻を務める、
 幕命で典礼の研究;小笠原流の流鏑馬秘記を修学、茶;山田宗也門、「安多布久路」著、
 歌;広通「霞関集」入、
 [吉野川流るる浪もたちこめて花や霞の下むせぶらん](霞関;春164)、
 [道空(;法名)の名/通称/号]名;広成/広景、通称:泰三郎/三四郎、号;松窓庵

- V3184 **道空**(どうくう;法諱・号;準識)1804-188077 美濃羽栗郡竹ヶ鼻村の浄土宗光照寺17世、
桂園派歌人、のち円空(えんくう;1849-91/桂園派歌人)が光照寺住職
道空(どうくう;法名) → 隆寛(りゅうかん;法諱、浄土僧/多念義祖) D 4 9 2 6
道空(どうくう;法諱・鉄崖;道号) → 鉄崖(てつかい・道空、黄檗僧) C 3 0 1 8
道空(どうくう;法名) → 成之(しげゆき・細川/源、武将/歌・連歌) D 2 1 2 6
道空(どうくう) → 長孝(ながよし・望月、歌人) 3 2 2 2
春宮大蔵卿(とうぐうのおおくらのみやう) → 大蔵卿(おおくらのみやう、歌人) D 1 4 4 8
春宮左近(東宮-とうぐうのさこん) → 小大君(こおおきみ・三条院女蔵人、歌人) 1 9 2 4
春宮少将(とうぐうのしょうしょう) → 少将(しょうしょう・永陽門院、歌人) T 2 2 2 4
春宮少納言(とうぐうのしょうなごん) → 少納言(しょうなごん、後伏見院女房) B 2 2 0 1
東宮女蔵人左近(とうぐうのよくらのみやうのさこん) → 小大君(こおおきみ、歌人) 1 9 2 4
- C3197 **春宮弁**(とうぐうのべん) ? - ? 鎌倉期歌人:1243藤原信実「河合社歌合」参;3首(判;為家)、
[木枯しの吹きもたゆまぬ夕暮に山のは寒く出づる月影](河合社歌合;八番左)
道空房(どうくうぼう) → 慧雲(えうん・山叟、臨濟僧) 1 3 5 1
春宮少納言(とうぐうのしょうなごん) → 少納言(しょうなごん、後伏見院、歌人) B 2 2 0 1
春宮亮入道(とうぐうのすけのにゅうどう) → 俊顕(としあき・藤原、頼乗、廷臣/歌) L 3 1 8 9
東宮御息所(とうぐうのみやすどころ) → 温子(おんし・よじ・宇多天皇女御) B 1 4 2 5
- S3150 **道具屋長持**(とうぐやのながもち) ? - ? 狂歌;1785刊「徳和歌後万載集」1首入、
[年ふべき松も柁ひぎに使はるゝ身は四分板のはてぞはかなき](後万載;六422)
(徒然草;松は千年をまたで薪にくだかれ・・)
- C3198 **唐九郎**(とうくろう・牧田/枚田まきた、名;由師) ?-? 江中期蝦夷松前藩士、1797「蝦夷巡覧筆記」
- C3199 **騰九郎**(とうくろう・高尾たかお、善十郎9男) 1831-190575 長崎武術家;赤松次郎則之門;鉄仲流を修得、
1849鉄仲流(剣術/鎖鎌)免許を受く/諸国行脚、浦賀で蘭学修学;中山作三郎門、
1857岡山藩主に招聘;3年間子弟教育/1860長崎の乃武館の教師/65長州征伐に従軍、
1867遊撃隊師範、のち報国館を開創;鉄仲流剣術・真心揚流柔術を教授、
19003武徳会剣道師範、1863「天神赤心流柔術目録」著、
[騰九郎(;名)の号] 鉄叟/独立斎どくりゅうさい
藤九郎(とうくろう・奥宮) → 正明(まさあき・奥宮おくみや、藩士/和漢学) 4 0 9 2
藤九郎(東九郎/東工郎とうくろう・若竹) → 笏躬(初世ふえみ・若竹、浄瑠璃作者) B 3 8 2 1
藤九郎(とうくろう・五井) → 蘭洲(らんしゅう・五井ごい、儒者) 4 8 0 5
藤九郎(とうくろう・生駒) → 万子(まんし・生駒いこま、藩士/俳人) K 4 0 6 0
藤九郎(とうくろう・稲垣) → 重氏(しげうじ・稲垣いながき、幕臣) Q 2 1 6 4
藤九郎(とうくろう・梁田) → 象水(しょうすい・梁田やなだ、藩儒/詩人) T 2 2 6 6
藤九郎(とうくろう・加藤) → 雄山(ゆうざん・加藤かとう、肝煎/神道家) B 4 6 9 6
藤九郎(とうくろう・岡田) → 明義(あきよし・岡田おかだ、勸農家;馬鈴薯栽培) E 1 0 1 2
藤九郎(とうくろう・富岡) → 正忠(まさただ・富岡、藩士/国学/歌) D 4 0 5 3
藤九郎(とうくろう・出納) → 尚堅(しょうけん・出納すいのう/納、漢学者) I 2 2 5 1
藤九郎(とうくろう・堀) → 行忠(ゆきただ・堀ほり、兵学者) E 4 6 7 3
藤九郎(とうくろう・菅) → 良史(よしふみ・菅すが/菅原、家老/国学) N 4 7 4 2
藤九郎(とうくろう・大沢) → 方壺(ほうこ・大沢おおさわ、俳人) F 3 9 1 2
藤九郎(とうくろう・花房) → 雷嶽(らいがく・花房はなぶさ、藩士/儒者) 4 8 2 6
藤九郎(とうくろう・服部) → 寛斎(かんさい・服部はっとり、幕臣/儒) H 1 5 5 8
藤九郎(とうくろう・若山) → 滋古(しげふる・若山わかやま、国学/歌人) a 2 1 1 2
藤九郎(とうくろう・浅野) → 光武(みつたけ・浅野あさの/源、藩士/歌人) D 4 1 7 8
藤九郎(とうくろう・馬淵) → 彰壽(てるひさ・馬淵まぶち、歌人) F 3 0 2 4
- D3100 **東郡**(とうぐん・加藤かとう/修姓;滕とう、名;茂、谷口多善男/加藤は母方姓) 1732-51早世20 江戸儒者:
1745林門、父が上州沼田藩儒就任;父に従い沼田住/数月して江戸に戻り昌平黌入/50退学、
「桂園随筆」「東郡文集」「古学宗」著、
[東郡(;号)の字/通称]字;子承、通称;他三郎
道訓(どうくん・平山) → 道訓(みちのり・平山ひらやま、神職/国学) K 4 1 2 6

- 東華(とうげ;字) → 玄珠(げんしゅ;法諱・藤井・真宗僧) J 1 8 4 8
 桃華(とうげ・深野) → 新兵衛(しんべゑ・深野/長見、藩士/俳人) P 2 2 7 9
- D3101 東溪(とうけい;道号・宗牧(そうぼく/そむく;法諱、俗姓;藤原) 1454-1517⁶⁴ 戦国期筑前太宰府の臨濟僧:
 1460(7歳)太宰府妙楽寺で出家/京大徳寺の春浦宗熙門/のち実伝宗真門;嗣法;道号改号、
 1505大徳寺72世、12後柏原天皇より禅師号、近江大雲寺・中興寺・伊勢正法寺を開山、
 「東溪和尚語録」「大円禅師垂示夜話」「入寺法語」著、
 [東溪宗牧の初道号/号]初道号;鉄牛、号;何似生/閑々子、仏慧大円禅師
- D3102 等恵(とうけい/とうえ;法諱、号;靖斎/靖安斎)?-? 和泉堺の阿弥陀堂の住僧/宗訊(そうじん)の一族、
 連歌;肖柏門?、宗珀より古今伝授を受、1535「山河百韻」の連衆、54宗養と「何船百韻」
 1560「初何百韻」独吟、77康之と「夢想百韻」79門弟宗柳と「何路百韻」、1581「何舟百韻」独吟、
- D3103 桐奚(とうけい) ? - ? 江戸深川の俳人;1693洒堂「深川」芭蕉らと口切歌仙、
 1694「炭俵」入、「刈蕎麦(かきそば)の跡の霜踏むすゞめ哉」(炭俵;下初冬)
- D3104 東溪(とうけい・前田(まえだ)/一色(いっしき)、前田好成男) 1673-1744⁷² 京の儒医、
 母;伏見稻荷神職毛利公慶女の阿珊、10歳で父没/医;1689兄元春門、93江戸で儒学修得、
 1699山城淀藩主石川憲之に招聘;儒者として仕官/藩主の備中松山・伊勢亀山転封に随従、
 漢籍の和刻本刊行に尽力/1711朝鮮通信使随員と筆談、1699「二酉洞(にゆうどう)編(漢籍書目)、
 1700「吟譜」編、「袖珍吟譜」「記念草」編、「抱朴子外篇」「承平典略」「娛老一策」著、
 「墳簾(ふんれん)集」「片金録」著、外編著多数、
 [東溪(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;亀鶴磨、名;元成/時棟(ときむね)/範常/嗣徽、
 字;子績、通称;紋之助/文平/重蔵/清左衛門/一之進/市之進、
 別号;菊叢(きくそう)/玄軒/水庵/鳳凰潭、法号;成遂院
- D3105 東溪(とうけい・井上(いのうえ)、名;公祺)?-? 江中期享保1716-36頃江戸の儒者:太宰春台門、
 「東溪詩文集」著
 [東溪(;号)の字/通称]字;考甫、通称;源蔵
- D3106 東溪(とうけい・斎藤(さいとう)、名;憲純)?-? 江中期享保1716-36頃京の本草家:稻生若水門、
 「本草鏡」編、「物類彙攷」「名物拾遺」著、「本艸講義」著(1780刊)
- D3107 東溪(とうけい・小野(おの)、名;士厚/子厚)?-? 江中期筑前の儒者、1720「藍島鼓吹」著、
 [東溪(;号)の字/通称]字;于麟、通称;玄林
- D3108 東溪(とうけい・多田(ただ)、名;儀/篤静、商人悠怡男) 1702-64⁶³ 京書家;桑原空洞門;養子/多田に復姓、
 儒:三宅尚斎門/闇斎学、江戸で講説業/秋田藩主に招聘;造士館教授/伊予新谷藩江戸講師、
 元文1736-41頃上州館林藩主松平武元の侍読/郡宰を兼務、「世本正誤」「東溪詩文集」著、
 1735「未発自知之説」36「庶士昏礼式」62「乞修徳治政劄記」、「東溪筆記」「社倉法大意」著、
 [東溪(;号)の字・別号]字;維則、書号;桑原篤軒/蒙斎
- D3109 桃溪(とうけい・青木(あおき)、名;昌純(まさずみ)、宇太夫男) 1702-79⁷⁸ 伊勢久居藩士;勘定役/総締、
 俳人;芭蕉を敬慕、「桃溪句集」「桃溪随筆」「桃溪和文集」著、
 1762「李撰文選」(六味・交桜らと共編);桃溪の「論鯨汁辞」「鮑の論」「松竹鶴亀の頌」入、
 [桃溪(;号)の通称/別号]通称;藤助(とうすけ)、別号;桃翁/竹籟庵/有李(ゆうり)堂、
- D3110 桃溪(とうけい・徳力(とくりき)、名;良容/良翰、幕臣竜潤(りゅうかん)男)?-? 江戸の儒者:1750將軍家重に謁す、
 病弱のため家督を継がず父に先立って没、1802刊「孝経古伝」著、
 [桃溪(;号)の通称]十五郎/嘉平
- D3111 東谿(とうけい・亀井(かめい)/初姓;小倉(おぐら)/別姓;十亀(そがめ)/修姓;亀き、名;載/不重) 1748-1816⁶⁹ 讃岐生、
 絵師;京・長崎に游学/沈南蘋の画風を修得、長町竹石と親交、1787「東谿画譜」著
- D3112 東溪(東谿(とうけい・松浦(まつうら)、団(だん)喜八郎男) 1752-1820⁶⁹ 長崎の松浦権右衛門の養嗣子、
 儒/仏学;寂淵上人門、1781清人朱緑池の読む古詩の韻法を自得、1786養父の家督継嗣;
 長崎奉行唐人番/本役;唐館守衛、致仕後は内外古今の記録を涉獵;著作、「唐和蘭商法」、
 「外国集覧」「小笠原島書類」編/1811「長崎古今集覧」編、「競秀亭稿抄」「故実叢書」編、
 [東溪(東谿(;号)の名/字/通称/別号]名;政之/陶、字;君平、通称;恵八/文平、
 別号;競秀亭
- D3114 桃溪(とうけい・丹羽(にわ)/修姓;丹(たん)、名;元国) 1760-1822⁶³ 大阪島之内木挽中の町の絵師:蔀(しらべ)関月門、
 風俗人物画;詳細写生が得意/挿画、1786「つべこべ草」・98「紙漉重宝記」画、「鼓銅図録」画、

1800「怪談辨妄録」、1801-4「絵本拾遺信長記」・07「蘆の角」・12「画本道の手引」画外多数、
 狂歌；鉄格子波丸門/1798「狂歌栗葉集」・1807「狂歌浪花菅笠」画/08師著「かはころも記」画、
 [桃溪(；号)の字/通称/別号]字；伯照、通称；大黒屋喜兵衛、

別号；靖中庵/暹道/桃溪山人、法号；濤誉松斎

- D3115 **東谿**(とうけい・市川いちかわ、名；元宣)1765-1838⁷⁴ 尾張名古屋の薬種商井桁屋の主人、
 絵師、詩歌に秀づ、法橋、1828「国郡全図」著、
 [東谿(；号)の字/通称/別号]字；子和、通称；茂兵衛、別号；青生/芸亭うんてい、法号；浄軒
- D3116 **陶溪**(とうけい・日下くさか、名；梁、自適男)1785-1866⁸² 伊予松山の儒者；杉山熊台門/昌平覺；精里門、
 1824家督；松山藩士；大小姓/28松山藩校明教館新設時に教授/54致仕、詩文/書に長ず、
 「詩文存稿」「先宛録」「道体近説弁誤」「祈祷弁妄」著、大原観山・武智愛山・矢野玄道らの師、
 [陶溪(；号)の字/通称]字；伯巖、通称；宗八、石原橋子(歌人)の父
- D3117 **東鷄**(とうけい・松浦まつら、名；久信/庸信)?-? 江後期大阪瓦屋橋東の易占家、1798「家相図解」、
 1801「家相図説大全」02「方鑿精義大成」03「匠家故実録」10「風水玄機録」13「家相故歴伝」、
 1818「斑鳩夜話問答集」、「東鷄筆記」「方道諸歴要解」「佐元直指解」「東鷄筆記」外著多数、
 [東鷄(；号)の字/通称]字；子実、通称；長門/長門掾、琴鶴きんかく・星洲・茂斎の父
- D3118 **桃谿**(とうけい・若林) ? - ? 江戸期詩歌、1852刊「続撰和漢朗詠集」撰(；梅沢敬典書)
- D3119 **陶溪**(とうけい・谷口たにぐち、)1792-1862⁷¹ 肥前佐賀藩士/有田陶署の主簿、歌人・能書家、
 「朱子家訓和歌」/1862「治家格言和解歌」著、藍田らんでんの父、
 [陶溪(；号)の名/字/通称]名；惟清これきよ/栗、字；子寛/士寛、通称；源兵衛/寛平
- W3170 **東溪**(とうけい；号・森もり/押小路、法諱；慈潭じたん)1809-95⁸⁷ 美濃出身/押小路家の猶子、
 伊予祝谷の天台宗常信寺住職、国学者

藤経(とうけい・源)	→ 藤経(ふじつね・源、歌人/連歌)	C 3 8 5 0
藤経(とうけい・藤原)	→ 藤経(ふじつね・藤原、廷臣/歌人)	C 3 8 5 1
藤継(とうけい；法名)	→ 公胤(きんたね・徳大寺、左大臣/日記)	R 1 6 4 1
藤継(とうけい・藤原)	→ 藤継(ふじつぐ・藤原ふじわら、幕臣)	C 3 8 4 9
藤景(とうけい・伊藤)	→ 藤景(ふじかげ・伊藤、藩士/兵法家)	C 3 8 4 1
桃溪(桃蹊とうけい；初道号)	→ 桂悟(けいご；法諱・了庵、臨済僧/遣明使)	1 8 4 9
桃溪(とうけい；号)	→ 汝岱(じょたい；法諱・若霖；字、本願寺派僧)	M 2 2 6 8
桃溪(とうけい・小瀬)	→ 復庵(ふくあん・小瀬/坂井、医者/詩文)	B 3 8 4 7
桃溪(とうけい・石川)	→ 桃蹊斎(とうけいさい・石川、国学/儒者)	D 3 1 1 3
桃溪(とうけい・狩野)	→ 利房(としふさ・狩野かのう、神職/国学者)	U 3 1 6 9
桃谿(とうけい・松本)	→ 願言(こげん・松本、医者/俳人)	C 1 9 4 6
桃蹊(とうけい・木村)	→ 黙老(もくろう・木村きむら、藩家老/芸能)	B 4 4 1 4
桃蹊(とうけい・木脇)	→ 祐業(すけなり・木脇きのわき、啓四郎/藩士/絵師)	C 2 3 6 9
桃蹊(とうけい・安原)	→ 正敏(まさとし・安原やすはら/河本、商家/歌)	T 4 0 3 7
藤繫(とうけい・毛利)	→ 壺邱(こきゅう・毛利/藤、儒/詩文)	F 1 9 5 3
東溪(とうけい；法諱)	→ 亮潤(りょうにん；法諱、天台僧/大僧正)	J 4 9 1 8
東溪(とうけい・石川)	→ 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人)	S 2 2 5 7
東溪(とうけい・村岡/小堀)	→ 常春(つねはる・小堀/村岡、藩士/遊泳/茶)	D 2 9 2 6
東溪(とうけい・桂井)	→ 素庵(そあん、桂井かつらい、郷士/儒者)	F 2 5 8 2
東溪(とうけい・山本)	→ 明清(あききよ・山本、国学/歌)	1 0 6 3
東溪(とうけい・菊地)	→ 武美(たけよし・菊地、藩士/儒者/武術)	C 2 6 9 0
東溪(とうけい・稻次)	→ 元知(もとちか・稻次いなづか、国学者)	J 4 4 2 9
東溪(東谿とうけい・松平)	→ 敏(びん・松平/長沢、家老/詩人)	H 3 7 7 5
東卿(とうけい・藤塚)	→ 知能(ともよし・藤塚ふじつか、神職)	Q 3 1 9 4
東卿(とうけい・日高)	→ 耳水(じすい・日高ひだか、藩儒/詩文)	T 2 1 9 7
棟溪(とうけい・宇津木)	→ 泰翼(やすすけ・宇津木うつき、泰交男/藩士/歌)	F 4 5 3 7
冬卿(とうけい・三浦)	→ 樗良(ちよら・三浦みづら、俳人)	2 8 3 1
桐溪(とうけい・名古屋)	→ 玄医(げんい・名古屋/名護屋、医者)	H 1 8 6 8
登卿(とうけい・久志本)	→ 常庸(つねのぶ・久志本/度会、神職/歌)	D 2 9 0 5

- 董卿(とうけい・荒木田) → 南陵(なんりょう・荒木田あらかだ、神職/詩) J 3 2 6 6
- D3120 **道慶**(とうけい・村上むらかみ、名;道浄) 1559-1644自刎86 陸中気仙郡高田村の人、
気仙川を挟む今泉・高田両村の漁民の鮭漁の闘争調停のため辞世句を詠み自刎;
「道慶居士遺書」「高田村今泉村覚書」著、両村民は遺言通り日替わりの漁を実施、
今も[どげさま]として信奉されている、
[道慶(;号)の通称/法号]通称;織部、法号;通岸道慶
- D3121 **道圭**(とうけい;法諱) ? - ? 江前期黄檗僧;高泉[1633-95]門/侍者、
「黄檗高泉禅師語録」編
- D3122 **道溪**(とうけい・林はやし) ? - 1735 遠州流茶人;県宗知門/京の上柳甫斎門?、
「遠宗拾遺」補、
[道溪(;号)の別号]千手庵/当向/日繡
- T3180 **道敬**(とうけい;法諱) ? - ? 江後期;僧、歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[いつまでか何頼むべき仮の世の身は朝がほの花の上の露](大江戸倭歌;雑1874)
- 道契(とうけい/とうかい;法諱) → 道契(とうかい、証応;号、曹洞僧) C 3 1 0 5
 道契(とうけい/とうかい;法諱) → 道契(とうかい、天霊;字、真言僧) D 3 1 2 3
 道慶(とうけい → とうきょう;法諱) → 道慶(とうきょう;法諱・東山、天台僧/歌) C 3 1 8 5
 道慶(とうけい・広島/永田) → 善斎(ぜんさい・永田/広島、儒者/詩) F 2 4 4 1
 道璟(とうけい・持地院) → 頼章(よりあき・仁木につき/源、武将/連歌) I 4 7 3 2
 道敬(とうけい・久米/高木) → 牡年(ぼねん・久米/高木、俳人) E 3 9 7 6
 道啓(道慶とうけい・田村) → 道啓(みちひろ・田村たむら、歌人) C 4 1 4 0
 道経(とうけい・藤原) → 道経(みちつね・藤原ふじむら、廷臣/歌人) B 4 1 8 8
 道形(とうけい・黒沢) → 道形(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家) B 4 1 3 4
 道卿(とうけい・樋口) → 道立(どうりゅう・樋口/江村、儒者/俳人) I 3 1 2 5
 道卿(とうけい・藤堂) → 高猷(たかゆき・藤堂とうどう、藩主/歌) N 2 6 6 6
 道卿(とうけい・原) → 隆(たかし・原はら、藩士/剣術家) Z 2 6 0 9
 道啓(道敬とうけい・杉岡) → 暎桑(とんそう・杉岡、儒者) S 3 1 3 8
 道契(とうけい;法諱・白木) → 半山(はんざん・白木しらき、儒者) H 3 6 7 7
 洞慶(とうけい・田中) → 美方(よしかた・田中たなか、絵師/国学) H 4 7 3 7
 道迎庵(とうげいあん) → 柳門(りゅうもん・井口いぐち、俳人) F 4 9 7 7
- D3113 **桃蹊斎**(とうけいさい・石川いしかわ、名;久徴ひさもと) 1756-183782 水戸藩士/儒;彰考館書写役、
国学;譜牒の学、系譜;1790「桃溪雑話」、1833「井蛙閑談」、「常陸人名考」「箕水漫録」著、
[桃蹊斎(;号)の字/通称/別号]字;伯誠、通称;久次衛門、別号;桃溪/箕水/桃蹊斎
- 桃溪山人(とうけいさんじん) → 桃溪(とうけい・丹羽にわ/修姓;丹、絵師) D 3 1 1 4
 桃蹊舎(とうけいしゃ) → 春久(春比左はるひさ・金築かねつき、神道) G 3 6 7 3
 道慶坊(とうけいぼう;字) → 隆法(りゅうほう;法諱・道慶坊、真言僧) F 4 9 6 2
 踏景廬(とうけいろ) → 壺中(こちゅう、俳人) D 1 9 2 8
- D3124 **東月**(とうげつ;法諱) ? - ? 室町後期の僧/馬島流眼科医;1588「目療秘録」著
- D3125 **等月**(とうげつ・波多野はたの/はだの、名;信光、通称;忠左衛門)?-1739 1732「本朝印鑑」著
- D3126 **東月**(とうげつ) ? - ? 江戸雑俳点者;前句付、1796「古今前句集」(柳多留拾遺)入
 東月(とうげつ・白井) → 重行(しげゆき・白井、藩士/儒者/詩) T 2 1 0 3
 冬月(とうげつ・三木) → 通資(みちもと・三木みき、郷土史家) C 4 1 6 7
 道潔(とうげつ・羽生) → 道潔(みちきよ・羽生/菅原、藩士/養蚕) B 4 1 4 1
- D3127 **洞月**(とうげつ;法諱、信州松本藩士酒井甚七男) 1718-1808長寿91 信州松本の曹洞僧;1725梅端門、
1750信濃筑摩郡山形村宗福寺住持/82洗馬村長興寺15世、二条流歌人;寂好より古今伝授、
菅江真澄と交流、「草庵集」「青松堂司洞月和尚歌集」著、
[洞月の通称] 角翁恵端かくおうえん大和尚/洞月上人、
道月(とうげつ;字) → 聖然(しょうねん;法諱、三論僧) L 2 2 3 1
- D3128 **桃月庵白酒**(とうげつあんはくしゅ)?- ?1822前没 嘶本「初鯉鯉の達引」著;林屋正蔵「太鼓之林」巻頭入

東月齋(とうげつさい) → 春坡(しゅんぱ・金谷/高橋、商家/俳人) L 2 1 7 4
 撐月主白屋人(とうげつしゅじんおくじん) → 綱村(つなむら・伊達だて、藩主/歌人) B 2 9 3 7
 同穴野狐(どうけつやこ) → 同穴野狐(おなじあなのきつね、評判記) B 1 4 5 6
 洞月楼(どうげつろう) → 松蘿(しょうら・小川おがわ/森、俳人) L 2 2 8 6

- D3129 **桐軒**(とうげん・今井いまい、名; 順/有順/弘潤、宗柏男) 1646-83³⁸ 水戸藩士/国学者: 彰考館入、
 神道研究; 京の吉田家入門/伊勢の度会延佳門、徳川光圀の命で1670「神道集成」を編纂、
 「続本朝人物志」著、津田信貞・丸山可澄の師、
 [桐軒(;)号)の字/通称]字; 可汲、通称; 新平
- D3130 **東軒**(とうげん・貝原かばら、秋月藩士江崎えさき広通の長女) 1652-1713⁶² 筑前秋月の生、
 筑前福岡藩儒の貝原益軒(篤信あつひのぶ)の妻、文才があり益軒[1630-1714]を助ける、
 益軒の紀行文の大部分を著作、
 「女大学」の著者?(益軒「和俗童子訓」により編成)
 [東軒(;)号)の名/字/別号]名; 初はつ/初子はつこ、字; 得生、別号; 小琴
- D3131 **東軒**(とうげん・浅井あさい、名; 正仲/包政、通称; 周迪、策庵男) 1672-1753⁸² 医者/1725尾張藩医、
 「東軒漫録」「本草摘要」「病機撮要」著
- D3132 **東軒**(とうげん・朝倉あさくら、名; 景純) 1680-1747⁶⁸ 加賀藩士(5百石)、詩人、1731「武家耳底記」編、
 [東軒(;)号)の字/通称]字; 粹夫、通称; 左源太/左伝次/武太夫
- D3133 **東軒**(とうげん・湯川/湯河ゆかわ、名; 元綱/要、勝直男) 1682-1758⁷⁷ 京鷹司町の儒者; 伊藤仁斎門、
 経学/兵学/太田陣法修学、正徳1711-16頃久留米藩儒; 合原窓南と法度号令の発布に尽力、
 1726江戸で世子有馬頼僮よりゆきの侍読/46致仕、詩文、「東軒詩集」「東軒文集」「東軒筆録」著、
 「東軒余録」「千慮一得論」「古戦考」「武用考」「助字考」「東軒夜話」、1751「東軒漫録」著、
 [東軒(;)号)の字/通称/別号]字; 丁甫/一甫、通称; 丙次、別号; 睡軒
- D3134 **藤軒**(とうげん・小田切おだぎり、名; 敏) ?-? 江後期江戸の儒者; 松崎慊堂こうどう門、
 肥前唐津藩主水野忠鼎が藩校経誼館創設に当たり教官として招聘/転封; 遠州浜松藩士、
 藩校も浜松移設、1827「野泉帖」書、
 [藤軒(;)号)の字/通称]字; 修来、通称; 要助/慵
- D3135 **棠軒**(とうげん・近藤こんどう、名; 元隆、吉老男/本姓; 藤原) 1793-1825³³ 江戸八丁堀の儒者/経史、
 1824武州忍藩主松平忠堯に招聘; 藩校進修館で経史実学を教授、「文海蠡測」著、
 「甘棠軒雑記」「四書五経筆記」「皇朝典故分類」/1818「宋八朝名臣言行録輯釈」著、
 [棠軒(;)号)の字/通称/別号]字; 公盛/正公、通称; 作蔵/大作、別号; 敬斎/甘棠軒
- D3136 **当軒**(とうげん・音羽矢おとわや、前名; 当七) ?-? 江後期歌舞伎作者: 1854より当七/64当軒を名乗る、
 1867まで大阪で活動、1853「恵咲宝梅暦」59「東訛恋深川」64「けいせい児雷也譚語」著、
 1864「適あつばれ忠臣誉礎」65「けいせい曾我譚」67「大賀誠心録」著
- D3137 **透軒**(とうげん・鈴木/鱸すずき、名; 元辰、松塘男) 1844-65^{早世}22 安房の儒者: 父門/詩に巧み、
 「透軒遺稿」、
 [透軒(;)号)の字/通称/法号]字; 孟陽、通称; 辰之助、法号; 孝順院
- 東軒(とうげん・立原) → 杏所(きょうしよ・立原たちばら、藩士/絵師) C 1 6 5 8
 東軒(とうげん・鈴木) → 安寛(やすひろ・鈴木すずき、歌人/歌学) C 4 5 8 7
 棠軒(とうげん・松本) → 基君(もとすみ・松本まつもと、本陣経営) L 4 4 4 0
 等賢(とうげん・柳生) → 等賢(ともかた・柳生やぎゅう、国学者/歌人) W 3 1 7 9
 韜軒(とうげん・武田) → 熟軒(じゅくげん・武田たけだ、藩士/漢学) Y 2 1 6 7
 藤賢(とうげん・藤原) → 有国(ありくに・藤原、漢学/詩人) B 1 0 6 6
 当見(とうげん・押田) → 当見(あつみ・押田おしだ、文筆家) E 1 0 8 3
 榻見(とうげん・成平) → 艶美(えんび・在原ありわら、洒落本作者) F 1 3 3 2
- D3138 **桃源**(とうげん; 道号・瑞仙ずいせん; 法諱) 1430-89⁶⁰ 近江臨濟: 明遠俊哲門/1481京の等持寺住持、
 1486相国寺住持、詩人、「江東識廬三千句」「蕉窓夜話」「百衲襖」「蕉雨稿」「蕉雨余滴」著、
 [桃源瑞仙の号] 蕉雨/竹処/蕉了/春雨/亦庵えきあん[是亦庵]/卍庵まんあん
- D3139 **東源**(とうげん; 法諱) ? - ? 1650^存 江戸の天台宗寛永寺僧、
 1650「東叡開山慈眼大師伝記」著
- D3140 **透玄**(とうげん・夏井なつい) ? - ? 江前期武蔵の医者、北山友松子橘庵と交流、

1703「経脉図説」著、
[透玄(；名)の号]友草子/采青閣

- D3141 桃源(とうげん) ? - ? 江前期俳人；
1692吟夕「眉山まゆやま」三つ物入；一々いつてき・嗽石と
- D3142 桃源(とうげん・人見ひとみ/修姓；野、名；沂/行充、竹洞[鶴山]男/本姓；小野) 1670-1731⁶² 幕府儒官、
1696家督/96束髪、「桃源集」著、父著「竹洞全集」前集編(後集は息雪江編；1751完成)、
1728宝山企画「諏訪浄光寺八景詩歌」参加(黒髪晴雪/下野の黒髪山[男体山])、
[絶頂花寒うして旧蹤きうしょうを尋ぬ 同雲飛び尽して影かげ重重ちうちよう、
化成くわせいす白髪三千丈 巔雪てんせつ高輝す第一峰](八景詩/旧蹤；旧遊の地/同雲；雪雲)、
[桃源(；号)の字/通称/別号]字；魯南、通称；又七郎/元沂げんき/又兵衛、別号；格峰/栝峰かつほう
- D3143 桃源(とうげん・斎藤さいとう、名；惟馨) 1688-1765⁷⁸ 仙台藩士、儒詩：服部南郭門、伊達宗村の侍講、
「齋藤叔明詩集」「晴窓間覧」著、「桃源稿」著、
[桃源(；号)の字/通称] 字；叔明、通称；孝内
- D3144 桐原(とうげん：号) ? - ? 江中期江戸の俳人：涼袋[綾足]門、
一句立提唱(；冠付と区別)、1748「一句立の弁」(「続三疋猿」入)
- D3145 桃源(とうげん・渡辺わたなべ、名；儀、不遠男) 1716-94⁷⁹ 讃岐志度浦の富商宇治屋の主人、
俳人：芳室門/父と地元俳壇の中心的存在、風状・大淀三千風らが来訪、平賀源内と交流、
「桃源独吟」「有馬紀行」「三千舎句集」「影響詩稿」著、
[桃源(；号)の通称/別号]通称；伝左衛門、別号；三千舎みちのや/臨江亭、屋号；宇治屋
- D3146 東原(とうげん・山県やまがた、名；泰道/字；弘卿/通称；少内、棠園男) 1746-97⁵² 長門萩藩の儒者；父門、
側儒、「詩文稿」「服忌令私注」著、榕所ようしょの父
- D3147 桃源(とうげん・姫井ひめい、名；元詰、玄岱男) 1750-1818⁶⁹ 備前岡山藩士/儒者；和田一江門、音律学、
朱子学/暦学/軍法に精通、1785中小姓七人扶持/1791小姓組/藩校授読師、
1804御廟・和意谷墓所・閑谷学校奉行、紫野栗山・古賀精里・尾藤二洲と交流、「桃源遺稿」、
[桃源(；号)の字/通称/別号]字；仲明、通称；幸十郎/貞吉、別号；静修、栗谷りっくの養父
- T3145 東元(とうげん・菊地きくち) ? - ? 薩摩鹿児島藩士；島津重豪しげひでに出仕、
七弦琴に長ず；菊舎尼の師
- D3148 桃源(とうげん・西川にしがわ、名；懿/字；士徳) ?-?(1820-30頃没；38歳) 大和五条駅の甲頭、
儒者：荒井鳴門門、詩人、「竜門民変」著
- | | | | |
|----------------|---|-----------------------------|-----------|
| 東原(とうげん・小野) | → | 春庵(しゅんあん・小野おの、藩医) | 2 1 9 4 |
| 東原(とうげん・吉本) | → | 虫雄(むしお・吉本、国学者/教育) | 4 2 5 8 |
| 東原(とうげん・伊藤) | → | 翰斎(ゆうさい・伊藤いとう、儒者/古義学) | B 4 6 8 0 |
| 東現(とうげん) | → | 広典(ひろのり・吉田、武家/出家/語学) | G 3 7 8 6 |
| 骏玄(とうげん：道号・道収) | → | 晔堂(ぎょうどう：号、道収：法諱、黄檗僧) | O 1 6 3 7 |
| 桃彦(とうげん・早見) | → | 晋我(2世しんが・早見、酒造業/俳人) | D 2 2 6 2 |
| 桃言(とうげん・司馬) | → | 江漢(こうかん・司馬しば/安藤、絵師/蘭学) | 1 9 9 1 |
| 桃源(とうげん・名島) | → | 政方(まさみち・名島/北川/村主/秦/度会、医/国学) | H 4 0 5 3 |
| 透言(とうげん・堀江) | → | 逸風(いっふう・堀江ほりえ、書家) | H 1 1 7 8 |
- D3149 道頭(どうげん) ? - ? 662-715頃高句麗僧/大和大安寺学僧；
662鼠の動きで国を占う、入唐：710唐より柑子植樹、「日本世記」著
- D3150 道賢(どうげん) ? - ? 押勝・延慶「家伝」上巻末の「貞慧[643-665]伝」に、
道賢作「誄い」入
- D3151 道賢(どうげん：法名、俗姓；細川/名；義頭) ?-? 鎌倉・南北期の細川家武将；近衛府将監、右馬頭、
出家、歌人/連歌作者、1359成立「新千載集」2090(道賢法師名)、
1448(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌]出詠(道賢名)、
1466以前成立の盛長「熊野法楽千句」(熊野千句)入(実際の興行年は不詳)、
[さびしさもうき世よりはと慰めて心ぞとまる山里の庵い] (新千載；十八雑2090)
[今年おひの竹も八千世のはじめにて行末契る窓のことの葉)、
(匠作亭詩歌；10/新竹/対するは春林周藤の詩)、

[のどかなる御代にやはらぐ光かな](熊野千句;何船百韻発句)

- D3152 **道謙**(どうけん:法諱、俗姓;土岐とき/名;頼明、土岐頼貞男)?-? 南北期武人/出家僧、
歌:1336「続観世音経偈33首之和歌」著、頼遠よりとお・頼仲よりなか・頼直と兄弟、
[道謙の通称] 宮内卿律師くなくきょうのりつし
- D3154 **道堅**(どうけん;号・岩山いわやま、名;四郎尚宗しろうひさむね)?-1532 近江佐々木の一族/室町幕府奉行衆、
將軍足利義尚家臣/近江出陣に従軍;1489義尚死で出家、歌:飛鳥井雅親門/実隆と親交、
能書家、周防能登を巡遊、1497「道堅法師自歌合」、「道堅詠草」「道堅百首和歌」、「覚珉集」、
「聖廟法楽二十首」「詠二十首」著、
1512「道堅公条政為詠三十首和歌」24「道堅三十首和歌」外著多数
- D3155 **道建**(どうけん・芦屋あしや、名;満賢、道晃男)1528-1579⁵² 陰陽家/歌、伯父;道海、陰陽道を業/歌人、
「国衙巡行考証」著、
[道建(;字)の号] 耆求堂しきゅうどう
- D3156 **道顕**(どうけん:法諱・隠之いし:道号、初法諱;欄牛、俗姓;藤岡)1663-1729⁶⁷ 加賀金沢の人、
1670(8歳)上京/儒;木下順庵門/1681(19歳)曹洞僧:山城禅定寺月舟宗胡門/出家、
諸師参禅後月舟の嗣法/下総東昌寺・美濃妙応寺住寺/1718武州瑞光寺開山、門弟60余人、
「瑞光隠之和尚語録」著
- X3144 **道堅**(どうけん・宮川みやがわ、)? - ? 江中期/歌人;宮川松堅門/松堅の一族、
1722松堅[倭譚五十人一首]入、
[明けぬれどくらき深谷またにのひとつ橋ばし雪にむもれて雪にみえけり]、
(倭譚五十人一首;41/橋上雪)
- D3157 **道賢**(どうけん:名・白石しろいし、通称;郡蔵)1812-57⁴⁶ 大和郡山藩士/和算家、
1852「算法中心術」、「鉤題算法」「側円起術」「歟題起源」著
- 道兼(どうけん・藤原) → 道兼(みちかね・藤原、栗田関白/歌) B 4 1 3 8
道兼(どうけん/みちかね・太田) → 頼資(よりすけ・太田おた、吏員/地誌家) I 4 7 8 0
道軒(どうけん・中山) → 信治(のぶはる・中山なかやま、藩当主/和学) J 3 5 3 9
道賢(どうけん) → 日蔵(にちぞう、飛天大師、修験者) 3 3 0 3
道賢(どうけん;法名) → 持賢(もちかた・細川/源、道賢、武将/歌/連歌) B 4 4 3 5
道賢(どうけん;法名) → 宗広(むねひろ・甲良こうら、工匠/幕臣) C 4 2 3 9
道賢(どうけん・奥村) → 道賢(みちまさ・奥村おくむら/桜井、陪臣/歌人) I 4 1 6 1
道顕(どうけん・密山) → 密山(みつざん;道号・道顕;法諱、曹洞僧) D 4 1 5 1
道顕(どうけん) → 資宗(すけむね・太田/源、藩主/系図編纂) D 2 3 1 2
道堅(どうけん・日下部) → 高豊(たかとよ・日下部くさかべ、国学/歌) D 2 6 3 0
- 3107 **道元**(どうげん:道号・希玄きげん:法諱、土御門つちみかど通親or通具男)1200-53⁵⁴ 日本曹洞宗の開祖、
1213叡山僧/22入宋:如浄門、27帰国;山城閑居/43越前/44修道場大仏寺開/45改名永平寺、
「正法眼蔵」「正法眼蔵随聞記」「学道用心集」「永平広録」「弁道話」「宝慶記」「伊呂波歌抄」、
「道元禅師詠歌」「学道用心集」「教授坐禅」「十六羅漢現瑞記」「典座教訓」「傘松道詠」、
「永平元禅師清規」「永平元禅師語録」「永平元禅師道詠」外著多数、歌人;新後拾遺699、
[人のさとりをうる 水に月のやどるがごとし 月ぬれず水やぶれず](正法眼蔵)、
[山の端のほのめく宵の月影に光もうすく飛ぶ螢かな](新後拾;雑春699)、
[道元希玄の字/諡号]字;仏法房、 諡号;仏性伝東国師/承陽大師、
- D3158 **道玄**(どうげん:法諱、摂関閑白二条良実男)1237-1304⁶⁸ 母;藤原家行(家能)女、青蓮院門跡、
1276天台座主88代、道瑜・道潤兄、大僧正/准三宮、1266「伝法灌頂記」編、「鬻法邪正記」、
1282「熾盛光供支度案」、歌:「嘉元仙洞御百首」参加/「閑月集」入集、連歌;菟玖波集3句入、
勅撰59首;続古今(1457)続拾遺(369/496/614/677/1142/1382)新後撰(15首)以下、
[もみぢ葉のまだ散りはてぬ木の本を憑たのむかげとや鹿の鳴くらん](続拾;秋369、
平親世人々に歌詠ませけるに詠みてつかはず)、
[道玄の号] 十楽院/青蓮院
- X3147 **道眼**(どうげん:道号/上人) ? - ? 鎌倉期禅僧;入元、
1309(延慶2)[一切経]を持帰り六波羅に那蘭陀寺建立に安置;首楞嚴しりょうごん経を講ず、

兼好の知己/徒然草179段;大江匡房(江帥)の説への疑念の逸話・238段にも入

- D3159 **道玄**(どうげん・法諱・貞覚じょうかく;号)?-? 1321存 華嚴宗東大寺僧;示観国師門;満分戒を受、戒壇院凝然門;具足戒を受、「華嚴五十三略頌」「新旧会品鈔」著、
[道玄の通称] 貞覚大享、華嚴老僧と称さる
- D3160 **道元**(道玄どうげん・野本のもと) 1655-171460 一説;木下長嘯子(1569-1649)男;但年齢が符合しない、京法華寺門前住;経文・仏書を習得/のち茶道家:一樹庵野本家に入門/4世一樹庵を継承、神学・兵学・儒学にも精通/山鹿素行の推挙で1694弘前藩主津軽信政に出仕;津軽に住、茶樹の植樹/織座設置/京の織物師を招き機織の普及/紙漉・養蚕の奨励;桑畑の開墾、1680仮名草子「杉楊枝」;里木予一の名(「野本」の字謎)、1702「天蚕養法記」、「穩田語類」、「茶教字実方鑑」「茶教一源」「茶考」「茶術行用記」「濃茶全書」「数奇茶道承統」著、
[道元(;名)の別号] 道玄/一樹庵/穩田/穩田子/里木予一、法号;立行院
- D3161 **道元**(どうげん;通称・堀江ほりえ、号;鶴汀)?-? 江中期筑後久留米藩医、詩人、1766刊「辨医断」著
- D3162 **洞元**(どうげん・柴田しばた、名;正簡、江崎与右衛門男) 1767-184579 尾張愛知郡山崎村の医者、柴田自休の女婿;柴田家継承、医:藩医林良沢門、内科・小児科医、国学;1820本居春庭門、本草/画;中林竹洞門、1811「日用薬品考」著、本多春承・大野玄庵の師、
[洞元(;通称)の字/号]字;子廉、号;西坡/松坡/溶々斎
- | | | | |
|----------------------|---|-------------------------------|-----------|
| 道元(どうげん・野村) | → | 信我(しんが・野村のむら/本姓;源、俳人) | N 2 2 5 7 |
| 道元(どうげん・煤孫) | → | 道元(みちもと・煤孫すすまご、国学者) | J 4 1 3 7 |
| 道玄(どうげん・沢田) | → | 菖庵(しょうあん・沢田さわだ、訥斎男/藩儒) | G 2 2 5 6 |
| 道源(どうげん;法号) | → | 太祇(たいぎ・炭たん、俳人) | 2 6 0 2 |
| 道源(どうげん・梶川) | → | 東岡(とうこう・梶川かじかわ、医者) | D 3 1 8 1 |
| 道彦(どうげん;字) | → | 覚瑛(かくえい・西郊、真宗僧/詩歌) | J 1 5 5 5 |
| 道彦(どうげん・磯村) | → | 道彦(みちひこ・磯村いそむら/菅原、国学/歌) | C 4 1 3 0 |
| 道彦(どうげん・富田) | → | 道彦(みちひこ・富田とみた、地役人/詩歌) | J 4 1 8 7 |
| 道彦(どうげん・中山) | → | 道彦(みちひこ・中山なかやま、藩家老) | J 4 1 9 4 |
| 道眼(どうげん;字) | → | 了弁(りょうべん;法諱・道眼、天台僧) | J 4 9 4 0 |
| 洞彦(どうげん・長良) | → | 願斎(ごんさい・長良ながら、医者/儒者) | G 1 9 5 0 |
| 道元居(どうげんきよ) | → | 信我(しんが・野村、俳人) | N 2 2 5 7 |
| 透原好酒(とうげんこうしゅ) | → | 透原好酒(すきはらのよきさけ、狂歌) | B 2 3 6 4 |
| 道謙居士(どうけんこうじ) | → | 千豈(せんがい・堀内ほりうち、名主役/俳人) | L 2 4 9 0 |
| 桃源斎(とうげんさい・堀内) | → | 宗心(そうしん・堀内ほりのうち;2代目/三好/本橋、茶人) | I 2 5 0 7 |
| 桃源子(とうげんし) | → | 山雪(さんせつ・狩野、絵師) | E 2 0 5 2 |
| 東幻住庵(とう[ひがし]げんじゅうあん) | → | 四山(しざん・松平、藩主/俳人) | D 2 1 7 9 |
- D3163 **桃源川**(とうげんせん) ? - ? 江前期俳人/播磨竜野法雲寺住職春色[俳人]の弟、1703兄春色[1646-1702]一周忌追善「花皿」編(:1704刊)
参照 → 春色(しゅんしよく・隆暁、俳人) J 2 1 9 8
- | | | | |
|-------------|---|----------------------|-----------|
| 湯元禎(とうげんてい) | → | 常山(じょうざん・湯浅、歌/儒者) | 2 1 8 1 |
| 桃源亭(とうげんてい) | → | 園丸(そのまる・桃源亭、狂歌作者) | E 2 5 2 2 |
| 桃源亭(とうげんてい) | → | 純香(すみか・谷山たにやま、藩士/歌人) | I 2 3 7 6 |
- D3164 **東湖**(とうこ) ? - ? 俳人:1705沾竹「五十四郡ごじゅうしくにん」入集
- D3165 **東壺**(とうこ) ? - ? 伊勢川崎の俳人/名古屋住、俳:樗良・暁台門、1768暁台「秋の日」入(八月騏六亭歌仙に6句)/74美門「ゑぼし桶」1句/76几董「続明烏」1句入、
[小車の花立ち伸びて秋曇り](続明烏;乙509)
- D3166 **統虎**(とうこ・渡辺わたなべ、富秋とみあき男)?-? 江中期三河宝飯郡御馬湊の和算家、渥美郡の齋藤一握・世竜父子等と交流、父の33回忌追善算書を編修/1797「算術問答集」編、
[統虎(;名)の通称]通称;嘉左衛門
- 3108 **東湖**(とうこ・藤田ふじた、名;彪たけき、幽谷男) 1806-55安政地震圧死50 母;丹武右衛門女の梅、水戸生、儒者(家学);父門/1819江戸の亀田鵬斎・太田錦城門/武術修得、27家督;水戸藩士/進物番、水戸藩彰考館編修/総裁代役、1829藩主徳川斉昭を擁し奔走;腹心として藩政参画、郡奉行/御用調役/側用人歴任;天保の藩政改革に貢献、史館編集;学校造営御用掛、

1844齊昭謹慎処分中は塾居/父より継承の家塾青藍舎を再開/古註学;水戸学の中心人物、1852齊昭処分解除後は幕政参与補佐/54側用人;尊王攘夷を主唱、55地震で江戸藩邸に没、詩/歌を嗜む、「彪物語」「回天詩史」「水藩諸規定」「弘道館記」「弘道館記述義」「常陸帯」、「東湖詩文」「東湖歌話」「東湖雅録」「東湖隨筆」「梅香竹韻」「回天必力」「浪華騷擾記事」、「進思録」編/「瓢兮歌」「正気歌」「崇神記」「見聞偶筆」、1855「安政乙卯日曆」外著多数、
[東湖(;)号)の幼名/字/通称]幼名;武二[次]郎、字;斌卿ひんけい、通称;虎之介[助]/誠之進

東湖(とうこ;法諱・南明)→ 南明(なんみん;道号・東湖、臨濟僧) J 3 2 5 3
 東湖(とうこ;号) → 啓闇(けいあん;法諱・春和、臨濟僧/詩) 1 8 4 5
 東湖(とうこ;号) → 大典(だいてん;号・梅莊顯常、臨濟僧) B 2 6 9 0
 東湖(とうこ;号) → 有節(ゆうせつ;道号・瑞保/周保;法諱、臨濟僧/詩人) D 4 6 0 5
 東湖(とうこ;号) → 岳峰(たけぼり;道号・海皓;法諱、黄檗僧) K 2 6 0 6
 東湖(とうこ) → 之道(しどう・槐本えのもと、商人/俳人) F 2 1 2 4
 東湖(とうこ・観月) → 東湖観月(とうこかんげつ、東武散人/文筆家) E 3 1 0 7
 東湖(とうこ・樋口) → 泉(いづみ・樋口ひぐち/岩佐、和算家/歌) K 1 1 5 8
 東澣(とうこ・吉村) → 光甫(みつとし/みつよし・吉村、国学者/画) E 4 1 0 2
 東觚(2世とうこ・十寸見) → 可慶(かけい・十寸見ますみ、河東節太夫) K 1 5 7 3
 統虎(とうこ・むねとら・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9
 藤壺(とうこ・佐々) → 鶴城(たづき・佐々ささ、神職/国学) P 2 6 0 1
 桃壺(とうこ・田辺) → 百堂(2世ひやくどう・田辺、商家/俳人) E 3 7 7 0
 陶古(とうこ・中江) → 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9
 董壺(とうこ・谷森) → 善臣(よしおみ・谷森たにもり/平、国学者) C 4 7 4 2

D3167 桃後(とうご・太田/大田おた、名;孝知、白雪2男/桃先の弟) 1681-1720⁴⁰ 三河新城の俳人;父門、1691芭蕉から号を受、1698「続猿蓑」入/98涼菟「皮籠摺かわごれ」入/99白雪「俳諧曾我」入、
[節季候せきざろの拍子ひやしをぬかす明屋あきや哉](続猿蓑;卷下/少年時の句、空屋に拍子抜け、
節季候;12月23日より28日頃終日[せきざろ]と叫び踊って門付する物乞)、
[桃後(;)号)の通称] 半四郎/三郎兵衛

父 → 白雪(はくせつ・太田、商家/俳人) D 3 6 4 8
 兄 → 桃先(とうせん・太田重英、商家/俳人) G 3 1 0 9

D3168 東吾(とうご・別号;柳華園)? - ? 江中期越前敦賀の俳人、
1735東怨[1734没]追善集「わか影」編

D3169 稻後(とうご・小倉おぐら) ? - 1790 江中期甲府の俳人;黒露門、1782「癸卯歳旦」、
1788「春興帳」編、「稻後歳旦」編/「乙酉元除楽」著、一周忌追善集「こそどのなつ」(1791刊)、
[稻後(;)号)の通称/別号]通称;理右衛門、別号;起早庵/榎月坊かづげつ/稻中庵2世

D3170 東呉(とうご・島しま、九華/陶後園)?-? 江戸俳人;沾山7世門、1848沾山7世「俳諧觸か」入、
絵師;「俳人画像集」画

藤五(とうご・平山) → 西鶴(さいかく・井原、俳人/浮世草子) 2 0 0 1
 藤伍(とうご・村井) → 蘇山(そざん・村井むらい、医者) J 2 5 7 5
 桐栢(とうご・一色/一井) → 鳳梧(ほうご・一井いちのい/一色、儒者/教育) F 3 9 1 6
 東吾(とうご・中里) → 萱根(かやね・時雨庵、狂歌) P 1 5 4 9
 東吾(とうご・荒井) → 宣昭(のぶあき・荒井/大立目、藩士/文筆) 3 5 8 0
 東吾(とうご・桂) → 誉正(たかまさ・桂かつら、庄屋/国学/歌) D 2 6 7 6
 当午(とうご・日輪;道号) → 日輪(にちりん・当午;法諱、曹洞僧) D 3 3 6 8
 道孤(とうご・建部たけべ) → 賢文(かたぶみ・かたぶん・建部、武将/書家) 1 5 1 9
 道古(とうご・山内) → 道古(みちふる・山内やまうち、国学/歌人) C 4 1 4 8
 道古(とうご・鑑覚庵) → 了意(りょうい・古筆こひつ/9世、鑑定家) G 4 9 2 1
 導故(とうご;字) → 了的(りょうてき;法諱・導故;字、浄土僧) J 4 9 0 1
 道五(とうご・小寺) → 信正(のぶまさ・小寺、兵学/郷土史) D 3 5 3 0
 道護(とうご・片岡) → 喜平治(きへいじ・片岡かたおか、藩士/経済) L 1 6 8 6

D3171 東岡(東岡とうこう;道号・希杲きこう;法諱)?-? 南北期入元臨濟僧、帰国;鎌倉建長寺回春庵住、
貞治応安1362-75頃に京臨川寺で開版事業(臨川寺版)、官寺に住せず、1361「諸偈類要」著

- D3172 **桐江**(とうこう/とうこう・田中たなか/修姓; 田、名; 省・逸、田中一信良次男) 1668-1742⁷⁵ 庄内鶴岡の儒者、1683江戸に遊学; 荻生徂徠・服部南郭と交友、詩人、1699(元禄12)川越藩主柳沢吉保に出仕、1713姦臣を斬り同家を出奔、徂徠の世話で仙台へ; 奥州を漂泊、のち1724(享保9)摂津池田に詩社呉江社を開設; 門弟指導、荒木李谿の師、1704「風流使者記」/1719/21「愚聞漫鈔」/41「樵漁余適」/「呉江水韻」/「桐江語録」著、「箕山賞楓稿」/「東海漫遊詩稿」/「富春山人文抄」著、「富春山人遺稿」、[桐江(;)号)の字/通称/別号] 字; 省吾・宗魯・日休・春叟、通称; 平左衛門/平右衛門/武助/清太夫、別号; 雪翁/富春山人/雪華道人/竹湾、法号; 豁然居士
- D3173 **藤公**(とうこう) ? - ? 江前期俳人; 1692常牧「冬ごもり」発句入
- S3191 **東口**(とうこう) ? - ? 江前期俳人; 1694不角「へらず口」入、[溜息に錆びよ揚屋の釣り時計](へらず口/後朝の別れはつらい)
- D3174 **東行**(とうこう・樋口ひぐち、別号; 五花堂/幽山) ?-? 江中期大阪茨木の俳人: 来山門、雑俳点者、1705「東行撰集抄」編、1720「誹諧経遊行品」/「天満拾遺」編、1702轍士「花見車」入、[木枯しや障子の引手ひきて十文字](花見車; 60/風で破れ引手の骨が出て十文字槍よう)
- D3175 **東郊**(とうこう・和智わち、名; 棟卿とみあき/君実、資高男) 1703-65⁶³ 長門萩藩士/2歳で父と死別、1713(11歳)藩主世子毛利宗光の小姓役; 江戸藩邸住、儒者/詩; 山県周南門; 三傑の1、1730武具方検使/50右筆/59長崎藩邸留守居役/江戸留守居役、「虚実見聞録」/「和智東郊座右記」著、「東郊先生文集」(履実編)、歌: [心からきけばしづけし風の音もうき世をよそに住つきしより]([萩の歌人]入)、[東郊(;)号)の字/通称] 字; 子萼しげく、通称; 九郎左衛門
参照 → 周南門下の三傑
- D3176 **東岡**(とうこう・河田、名; 孝成、竹中培庵男) 1714/5-92⁷⁹⁻⁷⁸ 播磨印南郡志方村の儒者; 京の伊藤東所門/古義学修得、三宅尚阿斎の闇斎学修得、1746鳥取藩士河田松之助の養嗣; 家督嗣; 鳥取藩士、1758藩校尚徳館の学館奉行兼侍講、目付役・惣頭/1790致仕、家塾で子弟教育、易学研究、「東岡詩艸」/「東岡隨筆」/「東岡文稿」/「孫子解」/「山陰雪話」1762「易雋」/「東岡遺稿」外著多数、[東岡(;)号)の字/別号] 字; 子行、別号; 方翁/方山/詠帰斎
- D3177 **桐江**(とうこう・菊池きくち、名; 忠充) ?-? 江中期江戸銀座の儒者: 入江南溟[1682-1769]門、儒を業とす、1736「唐明詩聯」編、58「文章雋語」/「桐江山人集」著、[桐江(;)号)の字/通称] 字; 子信、通称; 武助/大助
- 3109 **東阜**(とうこう・野村のむら、修姓; 野、名; 公台こうだい、正朋[澹斎]男) 1717-84⁶⁸ 近江彦根の儒者; 幼少時上京; 若林強斎門/のち彦根の沢村琴所門/江戸の服部南郭門、兄没; 家督相続、家老庵原家に出仕/藩主井伊直幸に認められ彦根藩儒、「国語考」/「読国意考」/「世説筆解」、詩集「金亀詩纂」編、「愁真集」/「罇翁はくおう随録」/「罇翁叢録」/「藁園集」/「藁園集余編」外著多数、[東阜(;)号)の字/通称/別号] 字; 子賤、通称; 信左衛門/新左衛門、別号; 藁園じょうゑん
養子; 要蔵(子鱗・歌人)
- D3178 **東郊**(とうこう・小出こいで、名; 惟式、小出慎斎の養子) 1721-88⁶⁸ 尾張藩儒: 慎斎門/徂徠説に反駁、詩人、「不得已」著、[東郊(;)号)の通称/別号] 通称; 務平、別号; 千之斎せんしさい
- 3110 **東江**(とうこう・沢田さわだ/初姓; 平のち源、名; 麟) 1732-96⁶⁵ 江戸両国の商家/儒詩: 井上蘭台門、1757林家入門、書家; 高頤斎門/1764頃書道革新を図る、戯作者; 洒落本; 1757「異素六帖」、1767山県大弑事件連座; 官途の道は断たれ以後は東江流書家・詩人として活動、1757「書学筌」68「吉原大全」/69「東江先生書話」(橋本桂橋編)/「書範」/「書学叢説」、[東江の字/通称/別号] 字; 景瑞(;)平姓)/文章(;)源姓)、通称; 文治郎(;)平姓)、別号; (;)平姓の号) 東郊、(源姓の号) 来禽堂・萱舎・青蘿館・玉島山人、東里の父
- D3179 **東江**(とうこう・河合かわい、名; 維修/字; 子安) ?-? 江中期伊勢白子の儒者/詩、1777「東江詩稿初編」、1779「東江東遊草」/90「東江西遊草」/「東江南遊草」/92「東江閑遊草」著
- D3180 **東江**(とうこう) ? - ? 江中期長崎の俳人; 1777江涯こうがい「仮日記」1句入、

[窓の灯ひの水に移りて啼く蛙かほづ](仮日記;77)

- D3181 **東岡**(とうこう・梶川かじかわ、名;樹徳) ? - ? 江中期1772-89頃尾張鳴海の医者、
1782「熙載録」校、「東岡談余」著、
[東岡(;)号)の字/通称]字;長郷、通称;道源
- D3182 **東岡**(とうこう・安孫子あびこ、名;周蔵)1742-? 羽前寒河江の酒造業/1777分家、俳人、
1771伊勢御蔭参り;記録「参宮日記」著、1800玄武追善集「梅香爐」1句入
- D3183 **東臯**(とうこう・高橋たかはし、国弘男)1752-1819⁶⁸ 陸中東磐井郡藤沢村農業/酒造業、
儒;菅原南山門/俳人:初め聴雨門/のち蕪村・几董門(蕪村から春星亭号を受;面会はなし)、
農書家;東臯流、道彦と交流、流行を追わず東山に隠棲;自得の高逸な句風で俳境を楽しむ、
1792「春星句集」1810墨蹟「独楽帖」、「花の春」「蕉翁句解大全」「俳諧鶏肋集」著、
「奥美人おくのびじん(東臯句集)」(;几董編)/「春星句集」著、追善集「不二煙集」榎山編、
[花を踏んで十八の春なつかしき](奥美人)、
[夏と秋と行き交ふ空や流れ星](奥美人)、
[東臯(;)号)の名/字/通称/別号]名;勝弘/可興よしおき、字;子観、通称;七右衛門、
別号;春星亭/春星台/玄亭げんてい/亭山翁/山翁さんおう、
- D3184 **東紅**(とうこう) ? - ? 江後期山形雑俳川柳;1803てつ磨「俳風最上土産」;評入
- D3185 **東岡**(とうこう・郷ごう、名;実元/字;子長/通称;新兵衛)1762-1843⁸² 美濃の儒者:岡田新川門、
詩書に堪能、「東岡詩文集」著、1837「養浩斎詩稿」編
- D3186 **東岡**(とうこう・加藤かとう、青溪男)1772-1856⁸⁵ 大坂の書肆小川屋、加藤景範かげのりの甥、
歌:伯父景範門:景範の著作を版元として出版、1800景範「国雅管窺」刊、
1800「新題百首」/03「和歌新題百首続編」編、「名なし草」著、
[東岡(;)号)の幼名/名/字/通称]幼名;六蔵、名;以脩ゆきまさ/これよし、字;子徳、
通称;小川屋清右衛門、屋号;小川屋
- D3187 **東鴻**(とうこう・小林こばやし/坂さか/初姓;久保田、名;豊章/璋)1775-1855⁸¹ 幕臣;西丸与力、
医術・本草学:曾占春門、1792最上徳内に従い蝦夷樺太調査、1815頃幕医坂家の養子;家督、
表御番医師、1792「蝦夷草木図」03「蝦夷物産什器図」98「諸国草木図」1802「植物逼真」著、
1805「唐太東西浜図」、「唐太植物写生」「蝦夷見取絵図」著、
[東鴻(;)号)の字/通称/別号]字;立節、通称;源之助、別号;丹邱、法号;松翁院閑溪遊眠
- D3188 **東郊**(とうこう・高原たかはら、名;熙、淵輔えんぽ男)1776-1854⁷⁹ 備中岡山の儒者:父門/徂徠学に精通、
詩人、1817(42歳)失明、父淵輔著「左氏春秋書例」補刊、
[東郊(;)号)の字/別号]字;子喜、別号;清風、
- D3189 **東臯**(とうこう・垣塚かきづか、名;尹長ただなが/文)?-1826 肥後熊本藩士;東西蔵付物書/奉行所根取、
能書家、熊本藩職制に精通、「牧民総論」「牧民類聚」編、
「寛恤之要」「官職制度考」「東臯雑記」著、
[東臯(;)号)の字/通称]字;成章、通称;文兵衛
- D3190 **東臯**(とうこう・松原まつばら、名;和、別号;舒嘯軒)1780-? 出雲松江の儒者/詩人、「舒嘯軒詩集」
- D3191 **東臯**(とうこう・伊藤いとう、名;弘明/字;良蔵、東所4男)1790-1810^{早世}²¹ 京の儒者:家学;父門、
詩文に長ず、1797-1809(8-20歳)「詩草」/1804「襍集ざつしゅう」/05「印譜」編/07「名字別訓」編、
1807「見聞雑録」、「伊藤家蔵品目録」/「歴代国統之図」「姓名銘」「手習帖」著、
「東臯君詩文草稿」著、東里の弟
- D3192 **棠功**(とうこう・鴨田かもだ、名;徳雄、別号;連溪庵、村雄男)?-1849 武蔵埼玉郡羽生の俳人、
1831-36「諸家句集」;足立郡住?/1843「垣津旗かきつばた集」著
- U3124 **東江**(とうこう・石井いし/旧姓;菊池)1799-1874⁷⁶ 生地は不明/天保1830-44頃陸奥三戸に住、
絵師、三戸六日町の石井家の養子、松尾紋左衛門・一戸五右衛門・栗谷川俊蔵の支援、
陸奥の三傑の1(盛岡の川口月嶺・八戸の橋本素淳[雪蕉])、歌人としても有名、東周の父、
鵜飼東岱・原竹山・佐藤東明の師
- D3193 **東郊**(とうこう・壇だん、名;秋芳)1804-86⁸³ 筑後山門郡松延の儒者:樺島石梁門/鶴鳴堂開塾、
子弟教育に尽力、「十八史略系図」「昔々春秋外伝」著、
[東郊(;)号)の通称/別号]通称;総吉郎、別号;宇宙閑人
- D3194 **稻香**(とうこう・大田おた、名;穀、医者大田秀橋男)1810-66⁵⁷ 周防三田尻の儒者:1827広瀬淡窓門、

1830長崎で砲術修得/41高島秋帆に従い江戸へ;徳丸原で砲技を披露、41周防毛利家教授、
 文学堂を建設;子弟教育、1865幕府軍に参加、「紅葉山房詩鈔」著、
 [稻香(;)号)の字/通称]字;有年、通称;梁平

V3159 **棹好**(とうこう・多田ただ、)1823- 190583 讃岐高松の歌人、儒・国学・歌;友安三冬みふゆ門、
 [棹好(;)名)の通称/号]通称;蔵六、号;雁廼舎/蔵六庵/鼈翁ごうおう

D3195 **東臯**(とうこう・中沢なかざわ/初姓;山本、名;忠)1830-190475 陸前塩竈の医家の生、
 儒者;仙台藩校入学、藩校養賢堂で大槻習斎門、江戸で東条一堂塾入門;塾長、
 仙台藩儒中沢剛蔵の養子;養父を継ぎ仙台藩校養賢堂の指南役、
 維新後仙台に文友学舎を創設、「覆瓿ふくほう存稿」著、
 [東臯(;)号)の字/通称/別号]字;敬卿、通称;善助/敬哉、別号;青涯

D3196 **藤巷**(とうこう・長久保ながくぼ、名;猷)1839-190062 常陸の儒者/水戸藩士;1868弘道館訓導/のち廷臣、
 「冗楮狂稿」「偕楽園志」「富陵小誌」「金蘭詩記」著、
 [藤巷(;)号)の字/通称]字;君微、通称;権三郎

東臯(とうこう;号)	→	心越(しんえつ;道号・興儔こうちゅう;法諱、曹洞僧)	D 2 2 5 3
東臯(とうこう・横山)	→	政礼(まさのり・横山/山、藩士/文筆)	G 4 0 0 3
東臯(とうこう・沢辺)	→	宗周(そうしゅう・沢辺、詩人)	H 2 5 8 0
東臯(とうこう・鴛田)	→	魯斎(ろさい・鴛田ときた、藩儒/経史)	B 5 2 5 4
東臯(とうこう・岡井)	→	碧庵(へきあん・岡井、儒者)	2 7 8 5
東臯(とうこう・平井)	→	義十郎(ぎじゅうろう・平井、通事/英語)	K 1 6 8 2
東臯(とうこう・目々沢めざわ)	→	樗軒(ちよけん・目々沢、儒者)	K 2 8 3 5
東臯(とうこう・元田)	→	東野(とうや・元田、儒者)	H 3 1 5 3
東臯(とうこう・永田/永)	→	観鷺(かんが・永田ながた、儒者/書家)	D 1 5 5 0
東臯(とうこう・沢辺)	→	宗周(そうしゅう;名・沢辺さわべ、藩士/詩人)	B 2 5 7 9
東臯(とうこう・柴田)	→	元泰(げんたい・柴田しばた、幕府医官)	K 1 8 8 9
東臯(とうこう・藁科)	→	立沢(りゅうたく・藁科わらしな、藩医/文学)	F 4 9 1 2
東臯(とうこう・室谷)	→	賀親(よしか・室谷むろたに、商家/国学者)	E 4 7 5 8
東臯(とうこう・三木)	→	松斎(しょうさい・三木みき、和算家)	J 2 2 0 7
東臯(とうこう・山崎)	→	玄東(げんとう・山崎やまさき、蘭学/蘭医)	L 1 8 8 4
東臯(とうこう・橘)	→	惟嶽(これたけ・橘たちばな/野田、儒者)	O 1 9 4 5
東江(とうこう;道号)	→	中昇(ちゅうしょう;法諱・東江、臨濟僧)	G 2 8 3 2
東江(とうこう・佐々木)	→	春夫(はるお・佐々木、商人/国学/歌)	G 3 6 0 5
東江(とうこう・初道号)	→	戒輓(かいげい;法諱・石車、黄檗僧)	I 1 5 5 7
東江(とうこう・奥)	→	正命(まさのぶ・奥おく、医者/歌人)	O 4 0 6 1
東岡(とうこう・松永)	→	良弼(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士)	D 4 7 7 8
東岡(とうこう・高橋)	→	至時(よとき・高橋、幕臣/暦算)	E 4 7 8 6
東岡(とうこう・山田)	→	昌信(まさのぶ・山田やまだ、号;和算家)	F 4 0 7 4
東岡(とうこう・小泉)	→	重明(しげあき・小泉こいずみ、歌人)	Q 2 1 4 7
東郊(とうこう・亀藤)	→	逸翁(いつおう・亀藤きとう、藩士/歌人)	K 1 1 1 8
東溝(とうこう;号)	→	大賢(たいけん;法諱・玄城、真宗大谷派僧)	J 2 6 8 3
東行(とうこう)	→	晋作(しんさく・高杉、勤王家)	E 2 2 3 1
東巷(とうこう・木村)	→	勝政(かつまさ・木村きむら、藩士/兵法家)	N 1 5 8 6
東郊(とうこう・平)	→	東江(とうこう・沢田/平/源、書家/詩)	3 1 1 0
桐江(とうこう・岩倉)	→	一絲(いっし;道号・文守、臨濟僧)	E 1 1 6 2
桐江(とうこう・三田)	→	義勝(よしかつ・三田さんだ、藩儒/詩文)	C 4 7 8 6
洞江(とうこう・村田)	→	恒光(つねみつ・村田むらた、藩士/和算家)	D 2 9 9 4
稻香(とうこう・城)	→	広門(ひろかど・城じょう、国学者)	J 3 7 8 4
韜光(透光とうこう・日思)	→	日思(にっし;道号・韜光、曹洞僧)	D 3 3 9 3
藤孝(とうこう/ふじたか・細川)	→	幽斎(ゆうさい・細川、武将/歌・連歌)	4 6 0 2
藤光(とうこう・町)	→	資広(すけひろ・町/藤原/柳原、廷臣/歌)	C 2 3 9 5
藤岡(とうこう・山口)	→	石室(せきしつ・山口やまぐち、篆刻家)	K 2 4 1 3

- 藤好(とうこう・田口) → 藤好(ふじよし・田口たくち、儒者/詩) C 3 8 7 4
冬広(とうこう・来宮) → 冬広(ふゆひろ・来宮くるみや、藩士/国学者) I 3 8 1 9
冬臯(とうこう・林はやし) → 洞海(どうかい・林はやし、蘭医) C 3 1 0 6
冬康(とうこう・三好/安宅) → 冬康(ふゆやす・安宅あたぎ/橘、武将/連歌) E 3 8 4 4
等厚(とうこう;法諱) → 愚溪(ぐけい;道号・等厚、臨濟僧) C 1 7 3 4
等広(とうこう・松前) → 景広(かげひろ・松前まつまえ、藩士/藩政) L 1 5 2 9
等公(とうこう・小野) → 季顯(すえあきら・小野おの/原田、庄屋/歌) I 2 3 1 7
董洪(とうこう・吉村) → 幹斎(かんさい・吉村よしむら、藩士/儒者) Q 1 5 5 9
当向(とうこう・林) → 道溪(どうけい・林はやし、茶人) D 3 1 2 2
当行(とうこう・児玉) → 当行(まさゆき・児玉こだま、神職/国学) P 4 0 6 7
当綱(とうこう・竹俣) → 当綱(まさつな・竹俣たけのまた、藩士/藩政) D 4 0 9 8
透綱(とうこう・小池) → 透綱(ゆきつな・小池こいけ、和算家) E 4 6 9 1
桃岡(とうこう・八田) → 知紀(ともり・八田彦太郎、歌学者) Q 3 1 2 6
桃臯(とうこう・半沢) → 二丘(にきゅう・半沢はんざわ、豪農/俳人) G 3 8 8
等皓(とうこう・堀部/曲直瀬) → 一溪(いっけい・曲直瀬まなせ、医者) G 1 1 9 4
當剛(とうこう・まさたけ・苗) → 子柔(しじゅう・苗村なむら/苗、医者/国学) T 2 1 6 6
- D3197 **道光**(とうこう;法諱) ? - 694? 大和期の遣唐学問僧/653惠施・弁正・道昭・定恵らと入唐、678帰国;戒律の先駆者、「四分律抄撰録文」著
- D3198 **道洪**(とうこう[道供どうく];法名、俗姓;安達あだち/名;時盛、安達義景男) 1241-85/45 武将;鎌倉幕臣、幕府引付衆/1267評定衆/63北条時頼の死により出家、幕府出仕/76遁世;高野山で没、歌人、勅撰18首:続拾遺(447/610/930/1157)新後撰(5首)玉(2470)続千(2首)続後拾以下、[つもれどもこほらぬほどは吹きたてて風にあまぎる峰の白雪](続拾;冬447)、[道洪の通称] 四郎左衛門尉
- D3199 **道光**(とうこう;法諱・了恵;字、宍戸しど常重男) 1243-1330or3188-89 初め叡山僧/のち浄土僧、1274源空語録「黒谷上人[源空]語燈録」編纂/浄土僧:良忠門/京三条悟眞寺住;三条派:良忠門下6流の1、1274「漢語灯録」75「尊問愚答記」著、75「和語灯録」編、84「聖光上人伝」著、1296「無量寿経鈔」、「扶選択正論通義」「往生拾因私記」「往生論註略鈔」「伝通記料簡抄」著、[道光の号] 号;望西楼/蓮華堂、諡号;弘濟和尚
- E3100 **道光**(とうこう;法名、俗姓;三須、雅楽将監入道?) ?-? 室町幕府奉行人?/三須雅楽允倫篤の一族、出家、連歌:菟玖波集3句入;(前句;たかねの雪は幾重ともなし)[月寒き比良の湖こほりみて](菟;十二雑1195)
- E3101 **道興**(とうこう;法諱、関白近衛房嗣男/本姓;藤原) 1430?-1501or1527(72or98?) 天台園城寺僧、聖護院門跡/修験;熊野三山及び新熊野檢校/園城寺長官/座主/1465大僧正、准三后、1466辞任後も公武の加持修法/1486-87東国巡歴;各地の修験と交流/本山派支配体制維持、1487紀行「廻国雑記」著、歌;1482將軍家歌合参加/連歌;1472/82百韻、新菟玖波;8句入、[道興の一字名] 言/聖、近衛政家の弟、増運の兄
- E3102 **道考**(とうこう・芦屋あしや、号;蓬香亭) ?-? 安桃期1573-92頃陰陽家、芦屋道満の裔、道海・道建の一族、「古所伝聞志」著
- E3103 **道香**(とうこう;法諱・雪村[雪邨]せつそん;道号、初道号;呑海) 1652-1718/67 黄檗僧;高泉性激門;嗣法、1689大和徳竜寺復興、1701仙台藩主の招聘で万寿寺住持/但馬興国寺・天王山仏国寺住持、1718興国寺に隠棲、「雪村香禅師語録」著
- E3104 **道弘**(とうこう・村井むらい) ? - ? 大和奈良の俳人;種寛門/郁堂・息交らと交流、「赤紫」「南都名所集」編、1690言水「新撰都曲」4句入/1696順水「誹諧破曉集」入、[白魚よ富士は青葉の時も有り](新撰都曲;下285)
- S3163 **道光**(とうこう) ? - ? 出雲の僧/大阪で修業、1792備中神島こうのほ天神社(島の天神)で茶山・拙斎・小寺清先まよきと詩を賦す
- V3185 **道広**(とうこう;法諱、俗姓;竹内、号;松月院) 1740-1821/82 筑前遠賀郡の真宗本願寺派僧;博多の順正寺住職/国学者
- E3105 **道晃**(とうこう;法諱、俗姓;前原) 1814-83/70 肥後葦北郡日南久の善立寺の生/真宗本願寺派僧;

善正寺慶恩門;慶恩の養子;善正寺住職、1867勸学職/能書家、
1865「文類聚抄乙丑記」、「選択集聴記」著、[道晃の諡号]超絶院

同光(どうこう・津田)	→ 典(てん・津田つだ、国学者/歌)	E 3 0 9 0
道皓(どうこう・どうきょう、月林)	→ 月林(げつりん/がつりん・道皓、臨濟僧)	H 1 8 4 1
道行(どうこう・碓田)	→ 道行(みちゆき・碓田うすだ、歌人)	I 4 1 1 9
道光(どうこう;法諱)	→ 光宗(こうそう;法諱、天台僧:黒谷流祖)	B 1 9 6 0
道光(どうこう;法諱)	→ 鉄眼(てつげん;道号・道光、黄檗僧/大蔵経板行)	3 0 2 8
道光(どうこう;字)	→ 日謙(にちけん;法諱・聴松庵、日蓮僧)	B 3 3 6 2
道光(どうこう;号)	→ 普寂(ふじゃく;法諱、浄土僧)	C 3 8 6 9
道光(どうこう;道号)	→ 若芝(じゃくし・河村かわむら、絵師/工芸)	G 2 1 1 5
道亘(どうこう;法名)	→ 政春(まさはる・細川/源、武将/連歌)	G 4 0 3 6
道亨(どうこう;法諱)	→ 雷洲(らいしゅう;道号・道亨、黄檗僧)	4 8 5 7
道広(どうこう;法諱・鉄禅)	→ 鉄禅(てつぜん;道号・道広、黄檗僧)	C 3 0 5 3
道広(どうこう・葛のや)	→ 端山(たんざん・葛野かどの、歌謡;地歌)	I 2 6 6 2
道弘(どうこう・綾部)	→ 道弘(みちひろ・綾部あやべ、医者/藩儒)	C 4 1 3 7
道弘(どうこう・村井)	→ 道弘(みちひろ・村井/邑井/安堵、俳人)	C 4 1 3 8
道高(どうこう・堀江)	→ 道高(みちたか・堀江ほりえ、歌道指導)	K 4 1 4 2
道幸(どうこう;法名)	→ 信就(のぶなり・川口かわぐち/本多、幕臣/国学)	H 3 5 9 8
道孝(どうこう;法名)	→ 義重(よししげ・斯波しば、武将/管領/歌人)	D 4 7 5 6
道孝(どうこう・小野寺)	→ 道孝(みちたか・小野寺おのでら、藩士/歌人)	I 4 1 2 8
道考(どうこう・桜井)	→ 道考(みちたか・桜井さくらい、代官/歌人)	I 4 1 8 2
道倅(どうこう/まさき・石川)	→ 貞幹(さだみき・石川いしかわ/源、尊攘)	N 2 0 8 5
道昂(どうこう・高/王)	→ 葛坡(かっぱ・高こう、漢学者)	H 1 5 8 3
道香(どうこう;法諱)	→ 鉄梅(てつばい;道号・道香、黄檗僧)	E 3 0 7 7
道香(どうこう・一条)	→ 道香(みちか・一条/藤原、摂政/歌人)	B 4 1 2 9
道香(どうこう;法名)	→ 琴魚(きんぎょ・櫛亭れきてい、読本作者)	D 1 6 9 2
道香(どうこう・清水)	→ 道香(みちか・清水しみず、和算家)	B 4 1 3 0
道香(どうこう→みちか・清岡)	→ 里三郎(りさぶろう・清岡/菅原、国学者)	B 4 9 1 0
道香(どうこう・久米)	→ 道香(みちか・久米くめ、医者/歌人)	I 4 1 9 3
道晃(どうこう)	→ 道晃親王(どうこうしんのう)	E 3 1 0 6
道滉(どうこう・百瀬)	→ 道一(みちかず・百瀬ももせ、歌人)	K 4 1 7 8
道綱(どうこう・藤原)	→ 道綱(みちつな・藤原ふじわら、廷臣/歌)	4 1 0 9
道興(どうこう・樋口)	→ 道興(みちおき・樋口ひぐち、医者)	B 4 1 2 8
道興(どうこう・宮原/森田)	→ 道依(みちより・森田/宮原、国学者/歌)	C 4 1 9 2
道恒(どうこう)すべて	→ 道恒(みちつね)	
道轟(道輦どうこう;法諱)	→ 黙堂(もくどう;道号・道轟、黄檗僧)	B 4 4 0 3
東光院(とうこういん)	→ 日憲(にちけん;法諱、日蓮僧)	B 3 3 5 3
東光院(とうこういん)	→ 日眞(にっしん;法諱・発星院、日蓮僧)	E 3 3 4 5
東光院(とうこういん)	→ 眞葛(まぐず・藤森ふじもり、修験/歌人)	S 4 0 3 2
東光院宝珠(とうこういんのほうじゅ)	→ 宝珠(ほうじゅ・東光院、童/歌人)	G 3 9 4 7
桃花園(とうこうえん)	→ 仙塙(せんう・細木ほそき/源、商家/狂歌)	L 2 4 6 7
東浩郭(とうこうかく)	→ 来川(らいせん・足立、俳人)	4 8 7 5
東江閣(とうこうかく)	→ 布門(ふもん・桑原/井上、医者/俳人)	E 3 8 1 7
東江閣(とうこうかく)	→ 樊川(はんせん・林、布門門俳人)	I 3 6 3 0
桃江閣(とうこうかく)	→ 香以(こうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人)	1 9 7 0
同功館(とうこうかん)	→ 岸駒(がんく;通称、絵師)	G 1 5 2 3
同功館(とうこうかん)	→ 岱(たい・岸きし、岸岱、岸駒男/絵師)	2 6 0 0
稻香軒(とうこうけん)	→ 直憲(なおのり・井伊いゐ、藩主/歌人)	K 3 2 9 9
藤好古(とうこうこ)	→ 碩果翁(せつかおう・樋口、藩士/国学/詩)	E 2 4 0 9

- 藤皇后(とうこうごう) → 光明皇后(こうみょうこうごう) 1921
 東向斎(とうこうさい) → 蘆本(ろほん・浦田、俳人) C5242
 韜光斎(とうこうさい) → 延年(えんねん・長谷川、剣術/篆刻家) B1331
 東岡舎(とうこうしゃ) → 羅文(らぶん・滝沢/源/松沢、俳人) B4851
 桃江舎漁舟(とうこうしやぎょしゅう) → 漁舟(ぎょしゅう・桃江舎、女訓書作者) P1666
- E3106 **道晃親王**(どうこうしんのう、後陽成天皇皇子) 1612-7968 母;古市胤榮女(三位局)、1621聖護院入室、1625得度/26親王/聖護院門跡/31大峰入山/園城寺長吏/明正天皇護持僧/58白河照高院住、書画/茶道、歌・連歌;昌琢らと百韻、「伊勢物語抄」編、「詠歌大概愚抄」「道晃法親王百首」著、「道晃法親王日記」「道晃法親王御詠集」「照高院宮千句」著、1617-73「何木百韻」外百韻多数、歌;1638[後鳥羽院四百年忌御会]参加、[山の端の雲のたえまに声おちて翼まがはぬ雁の一ひつら](後鳥羽院忌:56/雁)、[道晃親王(;法諱)の幼名/一字名/通称/号]幼名;吉宮、一字名;水、号;似雪、通称;道晃法親王/聖護院宮しょうごいんのみや/照高院宮/遍照寺宮へんじょうじのみや
- 道厚神靈(どうこうしんれい;) → 湖山(こざん・興津おきつ、兵学/心学者) M1959
 桃紅仙(とうこうせん) → 文和(ぶんわ・川上かわかみ、医者/俳人) G3888
 桐江亭(とうこうてい) → 大至(たいし・桐江亭、俳人) B2650
 東臯亭(とうこうてい) → 証政(あきまさ・渡辺、地誌家) D1086
 桃臯亭(とうこうてい) → 二丘(にきゅう・半沢はんざわ、豪農/俳人) G388
 東浩堤(とうこうてい) → 来川(らいせん・足立、俳人) 4875
 道光普照国師(どうこうふしょうこくし) → 懐奘(えいじょう;法諱・孤雲;道号、曹洞僧) 1365
 陶後園(とうごえん) → 東呉(とうご・島しま、俳人/絵師) D3170
 陶後園(とうごえん) → 茶菊(さぎく・陶後園、俳人) B2033
- E3107 **東湖観月**(とうこかんげつ、東武散人)?-? 江後期江戸浅草文筆家、1822「男女相性亀鑿」著
 R3139 **東谷**(とうこく) ?-? 安藝広島島の蕉門系俳人;1705支考「三日歌仙」入、1706涼兎「潮とろみ」/支考「東山万句」入
- E3108 **東谷**(とうこく・市野いちの、名;光業、清達男) 1727-6135 江戸の富商(質商)の生/儒者:太宰春台門、蔵書家、「論語古訓考」「孝経古今文異」「東谷所見抄」「東谷雑誌」著、1753「易占要略」校訂 [東谷(;号)の字/通称/法号]/字;子曄はより、通称;三右衛門/三郎兵衛/市松、法号;開号信士
- E3109 **東谷**(とうこく・沢辺さわべ/修姓;臯、名;容、保章男) 1728-8457 仙台の儒者;菅原南山門・堀公恕門、医術を修得/仙台で医を開業、「狂愚子」「文問文集」、1782「天遊館記」著、[東谷(;号)の字/通称]字;子徳、通称;元沖
- E3110 **東谷**(とうこく・乗竹のりたけ、名;良弼、本然男) 1730-9465 但馬出石藩士;父早世のため幼にして家督、儒;桜井舟山門、諸職歴任/藩老(350石)/藩主仙石政辰を助け文教政策;1782藩校弘道館を開設;伊藤東所を招聘、「東谷集」著、[東谷(;号)の字/通称]字;子賚らい、通称;九郎右衛門
- E3111 **東谷**(とうこく;道号・直伝じきでん;法諱)?-? 江中期曹洞僧;華嚴曹海[1761没]門/法嗣、「曹海和尚語録」編
- E3112 **騰谷**(とうこく・矢部やべ、名;保恵) 1774-183865 奥州の儒者/江戸幕府同心;江戸小日向住、1830「大学集義」、「中庸集義」「論語三家定説考」「抱関休暇漫筆」「道徳余論」著、[騰谷(;号)の字/通称]字;誨人、通称;与蔵/為八/為八郎
- E3113 **桐谷**(とうこく・乾いぬい、名;濬しゅん/字;純水、元享男)?-1858 徳島藩士/本草学に精通、小原峯山とうざんに協力し医師問所を創設、1853「品物考証」著、1816-58「阿淡産志」編
- V3155 **洞谷**(とうこく・吉田よしだ、高橋嘉右衛門3男) 1830-87?58? 江戸小石川大塚の生/絵師、狩野派吉田洞京門;娘婿/絵師吉田家4世を継嗣;備後福山藩御用絵師;阿部家3代に出仕、1868(慶応4)福山に移住/藤井松林と共に画学小教授心得/廢藩後;東京に帰る、[洞谷(;号)の名/雅号]名;春良、雅号;蘭英斎洞谷/雲援/松濤軒
- E3114 **東谷**(とうこく・太田代おたしろ、名;恒徳、熊蔵男) 1834-190168 陸中和賀郡飯豊村の儒者;照井一宅門、江戸で海保漁村・芳野金陵・塩谷岩陰門/昌平鬻出、帰郷;南部藩校作人館の助教/侍講、維新後は江戸で開塾、「南部四世事蹟考」著、[東谷(;号)の通称/別号]通称;熊太郎、別号;不知庵

- S3189 **桃谷**(とうこく・山本^{まもと}、名;漁)1834-9057 洛西太秦の円山派絵師;河北春谷門/駒井孝礼門、山水花鳥画に秀でる、三井高福^{たかよし}の師、
[桃谷(;号)の字/通称]字;仲鑑/舜興、通称;安之丞
東谷(とうこく;号) → 謙光(けんこう;道号・寂泰、黄檗僧) I 1 8 6 5
東谷(とうこく・桂井) → 素庵(そあん、桂井^{かつらい}、郷土/儒者) F 2 5 8 2
東谷(とうこく・白井) → 寛蔭(寛陰^{ひろかげ}・白井/宮下、国学者) F 3 7 6 5
桃谷(とうこく・細川) → 宣紀(のぶのり・細川^{ほそかわ}、藩主/詩人) C 3 5 7 2
桃国(とうこく・白雲廬) → 若翁(じゃくおう・堀/長月庵、藩士/俳) G 2 1 0 9
棟国(とうこく・津守) → 棟国(むねくに・津守^{つもし}、神職/歌人) B 4 2 2 9
藤谷(とうこく;号) → 桑巖(そうごん;字・恵実;法諱、真宗本願寺派僧) H 2 5 3 3
- E3115 **道黒**(とうこく;法諱・華山^{かざん};道号)?? 江前期武州大里郡奈良村の曹洞宗集福寺僧、1688-1704頃「華山道黒初会酔語」著
桃黒居士(とうこくこじ) → 友信(とものぶ・佐藤、養蚕製種業/問屋) Q 3 1 2 0
湯谷子(とうこくし) → 祐之(すけゆき・河津^{かわづ}、船橋、医者/歌) I 2 3 2 8
- E3116 **藤五左衛門**(とうござえもん・東郷^{とうごう}、藤兵衛重治[1733没]男)?? 江中期示現流兵法家;5代目の孫、故あって家督を弟藤十郎実勝[1756没]に譲る、1760「示現流兵法書」著、
[藤五左衛門(;通称)の名]名;位照/重矩、
参照 示現流兵法の祖 → 重位(ちゅうい/ちゅうい・東郷/瀬戸口) H 2 8 1 8
都門売菜翁(とうごちんじん) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
洞壺亭(とうこてい) → 鼠林(そりん・菅沼^{すがぬま}、商家/俳人) K 2 5 5 5
洞壺亭(とうこてい) → 鼠仙(そせん・菅沼、商人/詩人) K 2 5 0 2
桃五坊(とうごぼう;号) → 林篁(りんこう、真宗僧/俳人) K 4 9 2 4
- E3117 **藤五郎**(とうごろう・豊松^{とよまつ})?? 江中期1711-1764頃浄瑠璃人形遣:豊松流の祖
藤五郎(とうごろう・伊達) → 村成(むらしげ・伊達^{だて}、藩士/武術) 4 2 1 4
藤五郎(とうごろう・伊達) → 成実(しげさね・伊達^{だて}、武将/記録) R 2 1 0 5
藤五郎(とうごろう・松田) → 政名(まさな・松田/藤原、藩士/馬術家) E 4 0 8 9
藤五郎(とうごろう・伴^{ばん}) → 直方(なおかた・伴^{ばん}、幕臣/国学) 3 2 9 4
藤五郎(とうごろう・伊達) → 宗恒(むねつね・伊達^{だて}、領主) B 4 2 7 1
藤五郎(とうごろう・青山) → 宗俊(むねとし・青山^{あおやま}、藩主/歌) B 4 2 8 3
藤五郎(とうごろう・服部) → 安親(やすちか・服部^{はっとり}、幕臣/歌人) E 4 5 8 3
藤五郎(とうごろう・三木、武家) → 宗十郎(初世^{そうじゅうろう}・沢村、歌舞伎役者/俳) 2 5 1 0
藤五郎(とうごろう・三輪、岡瀬) → 一鉄(いつてつ・三輪/岡瀬、俳人) B 1 1 6 2
藤五郎(とうごろう・浅井) → 凶南(となん・浅井、医者/本草/詩文) O 3 1 5 6
藤五郎(とうごろう・伊達) → 邦成(くにしげ・伊達、領主/北海道開拓) C 1 7 7 9
藤五郎(とうごろう・松浦) → 交翠軒(こうすい・松浦^{まつうら}、儒者/幕臣) F 1 9 1 6
東五郎(とうごろう・福島) → 地栄(つちひで・福島^{ふくしま}、商家/歌人) G 2 9 2 4
東五郎(とうごろう・雨森) → 芳洲(ほうしゅう・雨森^{あめのもり}、朝鮮外交/詩文) 3 9 5 6
東五郎(とうごろう・北原) → 信綱(のぶつな・北原^{きたはら}、名主/政治家) I 3 5 2 1
道根(とうこん・羽石) → 道根(みちね・羽石^{はねいし}、藤原、国学者) K 4 1 1 2
藤根堂(とうこんどう) → 如水(じゆすい・清水^{しみず}、細工人/狂歌) M 2 2 5 7
桃左(とうさ・勝見) → 二柳(にりゅう・勝見、不二庵、俳人) D 2 2 2 0
道砂(とうさ・山崎) → 因碩(3世^{いんせき}・井上^{いのうえ}、棋士) 1 1 7 9
- E3118 **等裁**(洞哉/等哉^{とうさい}・神戸^{かんべ})??1700前没 江前期越前福井の俳人;貞門系、江戸在住時に芭蕉と交遊;「ほそ道」入(福井等裁邸泊・敦賀)、1667季吟「新続犬筑波」5句入、1691江水「柏原集」/「猿蓑」入(芭蕉幻住庵を訪問;几右日記)、1691江水「元禄百人一句」入、[蟲ひとつある甲斐もなき今宵哉](元禄百人一句/今宵限りの命を燃やしている)、
[等裁(洞哉;号)の別号]可卿/笈景^{かへい}/一遊軒
- E3119 **侗斎**(とうさい・小出^{こいで}、名;晦哲/敬迓、永安男/小出蓬山の養子)1666-173873 尾張の儒者;養父門、京の浅見綱斎門、尾張藩儒、講説業、詩人、「中庸講義」「論語講義」「朝鮮略説」著、「朱子行状講義」著、1721夢沢「防丘詩選」入、夢沢・吉見幸和の師、

[侗齋(；号)の字/通称]字；巖眞、通称；治平

- E3120 **陶齋**(とうさい・趙ちやう/改姓；深見/高良、名；養)1713-8674 清人趙氏の男/母；長崎丸山の名妓？、黄檗僧；竺庵浄印門/のち還俗、諸国遍歴/陸奥金華山大金寺に寓す/書；石巻の田辺希元門、江戸で書家篆刻家として立つ；深見久兵衛に招聘され大坂塩町に妻帯して住、1770堺住、「清間余興」「続清間余興」「清暉閣談話」「息心筆記」「撃壤余遊」「陶齋随筆」「趙陶齋漫筆」著、「耒耨幽期」「趙陶齋真蹟帖」「陶齋先生墨痕」「趙先生筆記録」1779「陶齋先生日記」著、
[陶齋(；号)の字/別号]字；中頤、別号；息心/息心齋/息心居士/清暉閣/枸杞園
- E3121 **桐齋**(とうさい・西垣にしがき、名；義万/万、露庵男)1753-181361 肥後八代儒者、熊本藩校時習館で修学、八代郷校伝習堂の教授(伝習堂は父露庵の創設)/詩文・書に巧み、「天籟館詩集」「桐齋雜著」著、
[桐齋(；号)の字/通称/別号]字；子兆、通称；莊太夫、別号；松巷/松陽
- E3122 **洞齋**(とうさい/どうさい・菅原すがら、名；庫徳/由之)1772-182150 江戸下谷三味線堀の狩野派絵師、鑑定家、秋田藩江戸邸に出仕、渡辺華山・谷文一・屋代弘賢と交流、「画師姓名冠字類鈔」著、曲亭馬琴「訪問往来人名簿」に入、狩野秀水の弟、妻の鐵[；文晁の妹の紅藍；号全哉]も絵師、
[洞齋(；号)の字/別号]字；正朴、別号；緑地/阮塘、法号；禅量院
- E3123 **桐齋**(とうさい・瀬谷せや、名；晋/勝明、曳尾[遊泥齋]男)1773-183361 秋田保土野の儒者、秋田藩士；1785出仕；小姓番/1819藩校明德館文学兼勤番/29祭酒、詩/書/算/医に通ず、1823「桐齋外集」、「桐齋詩稿」「国策解」「左伝解」「荀子解」「大学解」「孟子解」「竹園日涉」著、
[桐齋(；号)の字/通称/別号]字；子順、通称；小太郎、別号；程野/聖雨齋、法号；実学院
- E3124 **陶齋**(とうさい・野呂のろ、名；省/惟省、郷士会田政侍男)?-1838 武州越谷の儒者；江戸の亀田鵬齋門、鵬齋の養子/のち野呂隆房の婿養子、江戸下谷長者町に私塾；子弟教育、能書、「陶齋随筆」著、
[陶齋(；号)の字/通称/別号]字；希曾、通称；省吾、別号；天随庵、法号；臨池院、
妻は野呂隆房女の多勢、道庵の父、
- E3125 **稻齋**(とうさい・橋本はしもと、名；秀允/秀実、真宮まみや定広男)1784-? 秋田藩士；1801出仕/のち町奉行、藩老匹田松塘と親交、「八丁夜話」「甲州流軍学石立問答」著、
[稻齋(；号)の通称]通称；与惣右衛門/五郎左衛門
- E3126 **東齋**(とうさい・佐藤さとう、名；惟春)?-? 江後期江戸の漢学者、1807「莊子筌」、「莊子闡」、「莊子筌蹄」「中庸闡」「論語闡」「周易闡」著
- E3127 **東齋**(とうさい・前田まえだ、朝陽堂)?-? 江後期江戸の陰陽家、1816刊「陰陽詠吉便覧」補、「詠吉便覧指南」著
- E3128 **稻齋**(とうさい・三次よし、三次庄司入道男)1789-? 安藝広島 of 医者、1822「婦人道標」、「胎内眞図」「経絡図説」「本朝薬品考」「子育草」、「詩学必要」「五十音義」「梵字大概」著、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[心だに心にかなふものならば思はぬ人を何思ふべき](大江戸倭歌；恋1647)、
[稻齋(；号)の字/通称/別号]字；榮風、通称；榮次郎、別号；稻叟/五十音社主人、
- E3129 **桐齋**(とうさい・井上いのうえ、名；智徳、智重男)1791-186171 越後南蒲原郡田上村湯川の里正/大保長、儒；吉沢竹翠門/国学・歌；1820齋藤彦麿門、北蒲原郡則清村住；庄屋、「桐齋詩歌集」著、
[桐齋(；号)の字/通称/別号]字；逸休、通称；仁兵衛、
別号；随処/培根堂/桐麿きりまろ/梧之屋きりのや、智信ともぶろの父
- E3130 **冬齋**(とうさい・藤川ふじかわ、名；貞/晴貞、晴受男)1796-186974 大和郡山藩士；儒者；初め徂徠学、次に朱子学・陽明学を修学/詩文；頼山陽門、1835藩校教育拡充の際に総稽古所教授/督学、1841家督継承；目付/寺社奉行/68致仕、武芸にも長ず、「一家童蒙訓」「淮南鴻烈解考証」著、
[冬齋(；号)の字/通称/別号]字；子幹、通称；為太郎/大作、別号；臯鶴こうかく/百花堂
法号；円妙院、平島奎堂・水谷竹莊・山村狼溪の師
- E3131 **董齋**(とうさい・松本まつもと、名；盛義/正祐)?-1870 江戸の書家；中井董堂門/法眼、1838馬琴を訪問、俳人、「百体百人一首」書
[董齋(；号)の字/通称/別号]字；直方、通称；正輔、別号；小蓑/中嶽、董仙の父
- E3132 **洞齋**(とうさい・重元げもと)?-? 山田流箏曲家；1845「吾嬭箏譜註解」著
- E3133 **等栽**(とうさい・鳥越とりごえ、別号；佳峰園)1805-9086 大阪の俳人；淡叟・梅室・一肖門/江戸日本橋住、幕末の江戸三大家(為山・春湖と)、1850「潮のはな」52「ひとよさけ」55「板すだれ」編、

1861「松しま象潟」/62「笈祝」「山鳥五哥仙」編、[初雪のとけた手際もみやこなり]

- E3134 **棟齋**(とうさい:通称・木子きのこ/初姓;山室やまむろ/藤原)1824-9370 若狭三方郡の工匠:木子きのこ棟躬門、師の養嗣、1854御所造営の棟梁、正七下大和太掾:藤原姓を許可される、「天元算梯」著、「演段算梯卷」「之分諸約法卷」「矩術真理解」「扇榎等間歩割密合捷徑矩術」「翦管精術」著
- E3135 **洞齋**(とうさい・豊島てしま/としま、名;毅、藩士平吉郎男)1824-190683 加賀金沢儒者;藩校明倫堂で修学、医を修得/江戸の杉原心齋塾で修学;塾頭、1857上州安中藩に出仕/58帰郷;明倫堂講師、助教、勤王を主唱;1863上京し政情探索/藩の方針に反し召還捕縛、68赦免;教育に専念、1846「東遊日録」63「皇朝通覧」、「韓城文雅」「蠅頭五経」著、
[洞齋(;)の字/通称]字;静修、通称;安三郎
- | | | |
|-----------------|---------------------------------|-----------|
| 東齋(とうさい・一条) | → 兼良(かねよし/かねら・一条、撰関/古典/連歌) | 1 5 3 7 |
| 東齋(とうさい・高橋) | → 種芳(たねよし・高橋、藩士/兵学) | S 2 6 1 5 |
| 東齋(とうさい・菅井) | → 梅関(ばいかん・菅井すがい、絵師) | 3 6 9 0 |
| 冬載(とうさい・近田) | → 冬載(ふゆとし・近田ちかた、歌人) | I 3 8 4 8 |
| 洞哉(等哉とうさい・神戸) | → 等哉(とうさい・神戸、俳人) | E 3 1 1 8 |
| 洞齋(とうさい・鳥飼) | → 市兵衛(いちべゑ・3代吉文字屋、書肆) | D 1 1 6 2 |
| 洞齋(とうさい・関) | → 志山(しざん・関せき、俳人) | T 2 1 5 7 |
| 洞齋(とうさい・九瓢坊) | → 立志(7世りゅうし、俳人) | E 4 9 4 7 |
| 洞齋(とうさい・山県) | → 大式(だいに・山県、医者/漢学/尊王論) | C 2 6 0 3 |
| 洞齋(とうさい・田中) | → 朋如(ともゆき・田中、藩士/国学) | Q 3 1 8 0 |
| 洞齋(とうさい・大橋) | → 喬樹(たかき・大橋おほし、国学者) | W 2 6 1 8 |
| 桐齋(とうさい・大内) | → 余庵(よあん・大内/多々良、医者/地誌) | 4 7 5 0 |
| 桐齋(とうさい・土沢) | → 沙山(しゃざん・土沢つちざわ、藩士/俳人) | W 2 1 2 9 |
| 董齋(とうさい・徳弘とくひろ) | → 孝蔵(こうぞう・徳弘、藩士/絵/砲術) | K 1 9 3 7 |
| 棠齋(とうさい・辻/加藤) | → 敦善(あつよし・加藤かとう、歌人) | E 1 0 9 3 |
| 桃齋(とうさい・西村) | → 千穎(ちかひ・燕栗園えんりつえん初世、狂歌) | 2 8 6 0 |
| 桃齋(とうさい・小森) | → 桃塙(とう・小森、蘭方医/御典医) | B 3 1 1 8 |
| 桃齋(とうさい・武重) | → 正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、国学者) | L 4 0 8 8 |
| 桃齋(とうさい・矢島) | → 敏堯(としたか・矢島やじま、和算/国学) | W 3 1 7 6 |
| 答齋(とうさい・塩川) | → 文麟(ぶんりん・塩川、絵師) | G 3 8 7 9 |
| 藤齋(とうさい・小西) | → 篤好(あつよし・小西、庄屋/農学者) | E 1 0 9 4 |
| 陶齋(董齋とうさい・長井) | → 在寛(ありひろ・長井、藩士/儒者/書) | F 1 0 7 1 |
| 陶齋(とうさい・森) | → 玉岡(ぎよくこう・森もり、医者/詩人) | O 1 6 9 1 |
| 陶齋(とうさい・慶徳) | → 家雅(いえまさ/いえただ・慶徳けいとく/笠井、神職/歌俳) | D 1 1 3 2 |
| 陶齋(とうさい・宮下) | → 宗恭(むねたか・宮下みやした、医者/歌) | B 4 2 5 0 |
| 韜齋(とうさい・岡) | → 蔵治(くらじ・岡おか、藩士/詩人) | D 1 7 5 0 |
| 濤齋(とうさい・谷) | → 琴峨(きんが・谷たに、篆刻家) | Q 1 6 7 4 |
| 鷺齋(とうさい・牧) | → 百峰(ひやくほう・牧まき、儒者) | E 3 7 7 8 |
- 3112 **道齋**(どうさい・山口やまぐち、通称;猪之丞)?-?1573-92頃存(百余歳) 岩代二本松城畠山家臣/落城、1785岩代小高城相馬家臣、「山口道齋物語」「二本松城主畠山氏由来記」著、
団子森久兵衛[伊達政宗刺殺未遂]は変名か?
- E3136 **道齋**(どうさい・松永、名;良明/通称;左門)?-? 江前期文筆家、「貴言為孝記」著、
「井上主計頭覚書」(「道齋聞書」);
1615頃井上正就が[駿府の家康から聞いた教訓談]を秀忠に復命;
後日その内容を道齋が聞書としてまとめたという(偽書説あり)
- E3137 **道齋**(どうさい・高橋たかはし、名;克明、道喜男)1718-9477 上州下仁田の儒者;井上蘭台門、
詩文に長ず/能書家/俳諧を嗜む、
1768「滄溟尺牘考」、「帶鋤録」「辨孟録」「文選物名集」、「道齋家集」著、
[道齋(;)の字/通称/別号]字;子啓、通称;九郎右衛門、
別号;九峰山人/白雲山人/青霞堂主人/月巢円之/勿齋
- E3138 **道齋**(どうさい・田中たなか/初姓;関せき/修姓;仲/中、名;和/字;文平)1722-8867 阿波齋田の儒者:

荻生徂徠・太宰春台の学を修得、上京/韻学;了蓮寺の文雄門、帰郷後佐古住;徂徠学講説、1755「道斎随筆」「尺牘称谓せきとくしゅうい弁」/56「弇州尺牘えんしゅうせきとく紀要」著、1757「道斎先生承諭編」、「道斎夜話集」「道斎奇字」「道斎奇字」「邇言考」「印字選」著、「文章狐白」/1786「古文孝経解」著、藤江石亭・楠木麓山ごうざんの師

- E3139 **道斎**(どうさい・松田まつだ、名;維貞、別号;卜隠) 1731-7646 備後尾道の医者;父門/儒:久米訂斎門、程朱学修学、帰郷;医業・漢学教育、「綱鑑為貧説」「よしあし草」「本朝正史」著
- E3140 **道斎**(どうさい・服部はつとり、兄泰庵の養嗣)?-1809 越後魚沼郡十日町の医者;桂川甫周・吉益南涯門、産科;賀川玄悦門/京の吉益南涯門、京で開業医;四国九州を漫遊/詩文、「漫遊探奇方」著
- E3141 **道斎**(どうさい・三浦みづら、名;茂樹、安西国浩男) 1778-186083 鎌倉医者:眼科/内科、;母方の三浦姓、眼科;鈴木家門/内科;田村家門、奥州を遍歴、1817大阪東堀安綿橋南に住、書/禪に通ず、堺の医学館で講説:「医家聚辨」/語学「韻学一得」著、1834西涯「韻学楷梯」補正、「韻鏡索隠」「脚気新論」「心下虚実論」「水腫方法新書」「痘科秘訣」著、1850「葛嶺雑記」60「温疫論」外著多数、
[道斎(;)の字/別号]字;周伯、別号;復明医窟/智航道人
- E3142 **道斎**(どうさい・新妻にいづま/にっつま、新妻順蔵卵啼男) 1789-184759 陸前登米郡佐沼の儒者;仙台藩士;家督継嗣;赤子養育方/大番士、経史;志村五城・目々沢鉅鹿門、詩を嗜む、「老人伝聞記」「続老人伝聞記」「続々老人伝聞記」「物語小考」著、
[道斎(;)の名/字/通称/別号]名;元沖、字;公奇、通称;雄記、別号;天姥てんぼ/道威斎
- E3143 **道斎**(どうさい・川口かわぐち、名;基、田原茂斎男)?-? 幕末期遠州の医者;川口姓を名乗る、江戸下谷新シ橋弥左衛門丁で医業、「授児論」「断痘發揮」著、
[道斎(;)の字/別号]字;公堂、別号;左眉一さびいち/毛長翁
- E3144 **同斎**(どうさい・朝川あさかわ、名;慶しん/慎、横江成美男) 1814-5744 加賀の儒者:朝川善庵門;朝川善庵の婿養子、善庵「庭立紀譚」編、書;市河米庵門、肥前平戸藩儒となる、「肯穫録」「征韓実記」「山田長政暹羅戦記」「文章書式」「紀効新書秘解」「尚書古今文管窺」著、1853「眠雲札記」著、
[同斎(;)の字/通称/別号]字;士修/永甫、通称;晋四郎、別号;嘉遯かんと/眠雲山房/小泉漁夫
- E3145 **道斎**(どうさい・山本やまもと、名;奎、一覚男) 1814-5542 代々越中高岡医者、儒:金沢藩校明倫堂入学、昌正饗入学、医学;京の小石玄瑞門/儒;頼山陽門、長崎でシーボルト門、勤王論を主唱、「静思録」著、
[道斎(;)の字/通称/別号]/字;仲章、通称;鼎古、別号;牛馬堂
- 道済(どうさい・源) → 道済(みちなり/どうさい・源、廷臣/詩歌人) C 4 1 1 0
 道済(どうさい・芥川) → 帰山(きざん・芥川、儒者) K 1 6 7 0
 道済(どうさい・大河内) → 存真(ぞんしん、大河内おおうち/西山、医者) F 2 5 5 9
 道済(どうさい・物/荻生) → 金谷(きんこく・荻生おぎゆう/物、儒者) D 1 6 9 9
 道済(どうさい・前田) → 道済(みちなり・前田まえだ、藩士/記録) C 4 1 1 4
 道哉(どうさい;法号) → 親俊(ちかとし・蜷川/宮道、幕臣/連歌) B 2 8 2 8
 道哉(どうさい;法号) → 隆安(たかやす・伊東いとう、歌人) V 2 6 4 3
 道斎(どうさい・永原) → 重興(しげおき・永原/藤原、武将/連歌) Q 2 1 6 9
 道斎(どうさい・石川) → 忠房(ただふさ・石川/伊丹、幕臣/記録) F 2 6 7 7
 道斎(どうさい・星野) → 宗以(そらい・星野ほしの、宇治の茶師) F 2 5 9 7
 道斎(どうさい・馬場/清水) → 道閑(3世どうかん・清水、藩士/茶人) C 3 1 3 9
 道斎(どうさい・池田) → 重威(しげたけ・池田いけだ、国学者) N 2 1 3 0
 道載(道哉どうさい・亀井) → 南溟(なんめい・亀井、儒医/詩人) 3 2 3 7
 童斎(どうさい・大沼) → 俊直(としなお・大沼おおぬま/城取、藩士/礼法) U 3 1 5 3
 東西庵南北(どうさいあんなんぼく) → 南北(なんぼく・東西庵、戯作/狂歌) 3 2 3 4
 東西逸人(どうさいいつじん) → 万春(ばんしゅん・田中、暦算家) H 3 6 9 7
 東西軒(どうさいけん) → 野橋(やきつ・馬屋原/木村、医者/俳人) 4 5 4 3
 藤宰相(とうさいしやう) → 永孝(ながたか・高倉、廷臣/歌/連歌) E 3 2 0 2
 陶斎尚古老人(とうさいしやうこうろうじん) → 治郷(はるさと・松平、藩主/茶道) G 3 6 3 8
- E3146 **藤左衛門**(とうざえもん;通称・内藤ないとう)?-? 謡曲作者;「俊成忠度」作(「能本作者註文」説)

- E3147 **藤左衛門**(とうざえもん;通称・馬場ば) ?-? 江初期武士;甲斐武田家の遺臣、
彦根藩主井伊直政に預けられた、1597「井伊記」著
- T3121 **藤左衛門**(2世とうざえもん・菅沼すがぬま/赤羽屋) 1808-1876 69歳 陸中郡山(紫波郡日詰)の生、地誌家、
1828遠野の豪商赤羽屋新助(初世菅沼藤左衛門)の次女の婿養子;分家し2代目継承、
1857頃「遠野往来」著(和賀郡遠野村近辺の名所旧跡/奥書1861;文久元/菊地薫著説あり)、
1873「菅沼藤左衛門扣書」編
- 藤左衛門(とうざえもん・長尾) → 景東(かげはる・長尾ながお、幕臣/記録) J 1 5 8 5
藤左衛門(とうざえもん・伊吹) → 東恕(とうじよ・伊吹いぶき、医者/俳人) F 3 1 2 2
藤左衛門(とうざえもん・田中) → 湖翠(こすい・田中たなか、俳人) M 1 9 8 4
藤左衛門(とうざえもん・堀金) → 兀峰(ごっぽう・桜井/堀金、藩士/俳人) D 1 9 3 8
藤左衛門(とうざえもん・溪嵐) → 对我(たいが・溪嵐たにあらし、俳人) J 2 6 4 1
藤左衛門(とうざえもん・野間) → 稻焉(とうえん・野間のま、俳人) S 3 1 7 0
藤左衛門(とうざえもん・山本) → 親成(ちかなり・山本やまと、幕臣/歌人) O 2 8 0 8
藤左衛門(とうざえもん・小刀屋) → 雅直(まさなお・木全きまた、商人/歌人) F 4 0 0 0
藤左衛門(とうざえもん・岡野/興津) → 湖山(こざん・興津おきつ、兵学/心学者) M 1 9 5 9
藤左衛門(とうざえもん・興津) → 正辰(まさひで・興津おきつ、藩士/国学者) O 4 0 6 0
藤左衛門(とうざえもん・竹内) → 修敬(しゅうけい・竹内、和算家) X 2 1 0 1
藤左衛門(とうざえもん・桂) → 青洋(せいよう・桂有彰、商家/絵師/狂歌) J 2 4 6 9
藤左衛門(とうざえもん・中山) → 秋福(あきとみ・中山なかやま、藩士/歌人) I 1 0 1 4
藤左衛門(とうざえもん・中山) → 水枝(みずえ・中山なかやま、藩士/歌人) J 4 1 9 3
藤左衛門(とうざえもん・中山) → 篤則(あつり・中山なかやま、藩士/歌人) I 1 0 1 5
藤左衛門(とうざえもん・神道) → 信正(のぶまさ・瀬尾せのお/妹尾、儒者/詩歌) I 3 5 7 8
藤左衛門(とうざえもん・西岡) → 長広(ながひろ・西岡にしおか、国学者) O 3 2 2 1
東左衛門(とうざえもん・瀬尾) → 信正(のぶまさ・瀬尾せのお/妹尾、儒者/詩歌) I 3 5 7 8
稲左衛門(とうざえもん・下田/浅井) → 奉政(ともまさ・浅井、幕臣/故実) Q 3 1 5 4
- 3113 **東作**(とうさく・平秩へつ/平原屋、立松たてまつ、名;懐之) 1726-89 64 父は江戸内藤新宿の馬借業稲毛屋、
1735(10歳)父と死別;39内藤新宿で煙草屋業/以後事業家;山師的行動がある、
漢学和学を修得、狂歌;大田南畝と親交、戯作;平賀源内門/洒落本滑稽本を出版、
田沼意次政権に接近:1782蝦夷地歴訪/86田沼失脚で連座の咎め:以後文芸から離れる、
1765「水濃往方ゆくえ」79「駅舎三友」/83「狂文宝合之記」共編/84「狂歌師細見」、
1784蝦夷紀行「東遊記」、85「狂歌百鬼夜狂」、「東作狂歌集」「嘉徳庵歌集」、
戯作「当世阿多福仮面」、「四谷乃風」、随筆「萃野茗談」「萃野雑談」「武家叢談」、
「二国連璧談」「寒夜百談」、「魚狂歌合」「東作全書」、1782「若葉集」57首/85「後万載」14首入、
[東風吹けば今年も首をふる法師はりこの寅の春を迎へて](万載集/古法師は剃髪の自分)
[男なら出て見よ雷りに稲光横に飛ぶ火の野辺の夕立](万載集;三/若葉集)
(本歌:春日野の飛火の野守出でて見よ今幾日いくかありて若菜摘みてむ[古今;19読人不知])
[東作(;号)の字/通称/号]字;子玉、通称;稲毛屋金右衛門/平原屋東作、
号;東蒙/東毬/嘉徳庵、東都貧士粥腹得心/東蒙山人/秩都紀南子ちよときなんし/平秩東作、
法号;釈宗専
- E3148 **東朔**(とうさく・三輪みわ) 1757?-1818?(60余歳没) 常陸の医者;諸国歴遊後に荻野元凱門/刺絡術、
上総銚子で医を開業/のち江戸で開業、1817「刺絡聞見録」、
[東朔(;号)の字/号]字;望卿、号;浅草庵
- 東作(とうさく・上田) → 秋成(あきなり・上田うねだ、国学者/読本) 1 0 0 9
東作(とうさく・近藤) → 寡斎(かさい・近藤こんどう、藩士/儒/教育) H 1 5 4 4
東作(とうさく・三浦) → 鳩邨(きゅうそん・三浦みうら、医者/儒者) M 1 6 7 8
東作(とうさく・村山) → 松根(まつね・村山/樺山、藩士/歌) J 4 0 8 4
東作(とうさく・安藤) → 渚翁(とうおう・安藤あんどう、医者/教育) U 3 1 0 4
東作(とうさく・小原) → 雄英(たけひで・小原おはら/大江、幕臣/国学) W 2 6 0 2
東作(とうさく・原田) → 年実(としざね・原田はらだ、国学者) W 3 1 1 6

- 作(とうさく・宮永) → 富(ふう・宮永みやなが、医者/国学) I 3 8 7 5
 東作(藤作/統作とうさく・藤尾) → 景秀((かげひで・藤尾ふじお、官吏/国学) V 1 5 5 4
 道策(とうさく・本因坊) → 本因坊道策(ほんいんぼうとうさく、棋士) E 3 9 9 9
 道策(とうさく・曲直瀬) → 是盛(よしもり・曲直瀬まなせ/和氣/六人部、是香男/医/勤王) H 4 7 7 1
 道作(とうさく・山脇) → 玄心(げんしん:字・山脇やまわき、医者) E 1 8 1 6
 道作(とうさく・山脇) → 東洋(とうよう・山脇、玄心の義理孫/医者) H 3 1 7 7
 道作(とうさく・山脇) → 東門(とうもん・山脇、東洋男/医者/俳) H 3 1 4 3
 道作(とうさく・山脇) → 東海(とうかい・山脇、東門男/医者) B 3 1 9 0
 東朔軒儘成(とうさくげんまななり) → 儘成(まななり・東朔軒、川柳作者) K 4 0 6 7
 当左生(とうさせい) → 雲潭(うんたん・鎬木かぶらぎ、絵師) D 1 2 9 4
 道察(とうさつ・前田) → 道通(どうつう・前田、医者/家塾) G 3 1 5 5
 当三郎(とうさぶろう・小泉) → 養正(よしまさ・小泉こいずみ/源、幕臣/茶) H 4 7 0 2
 藤三郎(とうさぶろう・菅谷/菅沼) → 定秀(貞秀さだひで・菅沼/菅谷、幕臣) J 2 0 4 8
 藤三郎(とうさぶろう・土井) → 利徳(としなり・土井どい/源/伊達、藩主/歌) N 3 1 3 3
 藤三郎(とうさぶろう・尾形) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8
 藤三郎(とうさぶろう・宮地) → 春樹(はるき・宮地みやぢ、藩士/儒/国学) G 3 6 2 4
 藤三郎(とうさぶろう・南城) → 鞆雄(ともお・南城なんじょう、和漢学者) W 3 1 0 0
 藤三郎(とうさぶろう・山口) → 包房(かねふさ・山口やまくち、商家/歌人) W 1 5 0 9
 藤三郎(とうさぶろう・内藤) → 笨庵(ほんあん・内藤ないとう、儒者) E 3 9 9 0
 藤三郎(とうさぶろう・今村いまむら) → 正房(まさふさ・今村いまむら、藩士/歌人) N 4 0 8 2
 東三郎(とうさぶろう・栗田) → 知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人) P 3 1 3 6
 東三郎(とうさぶろう・頼) → 誠軒(せいけん・頼らい、藩儒) I 2 4 4 4
 桃三郎(とうさぶろう・長坂/中根) → 正長(まさつね・中根/長坂、幕臣) E 4 0 1 0
 E3149 桃三(とうさん・安井やすい) ? - ? 上方雑俳;1751春耕「あふ夜」20句入/57律中「耳勝手」入
 E3150 当三(とうさん・竹松たけまつ) ? - ? 歌舞伎作者/番付;1801徳三「銘作切籠曙」樽屋おせん」
 藤三(とうさん・赤井あかい) → 東海(とうかい・赤井/芦田/源、儒者) B 3 1 9 3
 島三(とうさん・しまぞう・島地) → 幸三(初世こうぞう・松井、歌舞伎作者) B 1 9 6 1
 棟参(とうさん・千秋) → 棟参(むねちか・千秋ちあき/服部、商/国学) D 4 2 9 8
 B3109 東山(とうざん:道号・崇忍すうにん;法諱)?-? 南北朝臨濟僧;蒙山智明(1366没)の法嗣、「冷泉集」
 E3151 東山(とうざん・牧村まきむら、名;魯)?-? 江前期伊勢桑名の文筆家、
 1687主命で江戸下向:道中記「猩猩行記」著
 E3152 嗒山(とうざん) ? - ? 江前期美濃大垣の俳人:芭蕉/木因門、
 1684及び89芭蕉と一座し歌仙、江戸に三月滞在し秋帰郷の際芭蕉より餞別句文を受、
 [師の櫻むかし拾はん落葉哉](歌仙発句/1684[貞享元]芭蕉と一座;元禄風韵入、
 昔[天和年中]に師に教わった桜のごとき句風に随い今ここで師の余風を受けたい、
 芭蕉付句;薄を霜の髭四十一)、
 [杣まの家やに独活うどのあへものあつらへて](元禄二1689嗒山江戸旅宿の歌仙;第三句)
 [前句;水やはらかに走り行く音;曾良](発句;かげろふのわが肩に立つ紙子かな;芭蕉)
 E3153 東山(とうざん・蘆野あしの、修姓;蘆、岩淵胤昌男) 1696-177681 陸中東磐井郡渋民村の農家の生/儒者、
 1700仙台で経学/医術;僧定山・素忠門、15仙台藩儒田辺整斎門、
 1716(享保元)主命で上京;浅井義斎・三宅尚斎・高屋徹斎門、長崎に赴く/21帰藩;仙台藩儒、
 江戸の室鳩巢に師事/藩学創設に尽力、1738役人と争い譴責/加美郡宮崎村に幽閉24年;
 この間に師室鳩巢の委嘱による「無刑録」著(刑法思想の根本原理を論ず)、
 1761(宝暦11)赦免、渋民村に帰郷/開塾;子弟教育、
 「東山詩集」「東山実記」「甘柿舎叢書」「梅隠集」「蘆野東山上書」「玩易斎筆記」著、
 「東山文詩」「医経千文」「孝享詩」著、「東山先生詩集」「東山先生文集」(岡蔵治くらじ編)
 同藩斎藤竹堂の「蘆東山傳」に逸話入、
 [東山(;号)の名/字/通称/別号]名;胤保/徳林のりしげ、字;世輔/中坨ちゅうけい/茂仲、
 通称;勝之助/善之助/幸七郎/東民、
 別号;渋民/玩易斎がんえきさい/東嶠梅隠/梅隠翁/松叟/貴明山叟

- E3154 **東山**(とうざん・宇野うの/修姓;宇/初姓;小林、名;成之)1735-1813⁷⁹ 代々江戸の医者、古学・清水江東門/訓詁の節に精通、1770「論語集解国字解」83「唐詩選解」89「呉子国字解」、1794「四書国字辨」、「書経国字解」「書経古註諺解」「詩経国字辨」「蒙求国字辨」外著多数、[東山(;)号)の字/通称/別号]字;子成、通称;秀斎、別号;東山逸民/耕斎
- E3155 **東山**(とうざん・松川まつかひ、名;進修、奉親男)1743-94⁵² 陸中磐井郡松川村の儒者;郷人岡充門、1759江戸で諸儒を修学/88林門/89上京、帰郷後寛政異学の禁に反対;運動は諫めで留まる、のち江戸で講説業/足利学校復興を企図;果せず没、「松窓閑話」「松窓詩草」「代耕医録」著、[東山(;)号)の幼名/字/通称/別号]幼名;忠八、字;徳天/世徳、通称;喜三、別号;岐山/松窓/春叟
- E3165 **東山**(とうざん・稲垣いながき/初姓;佐久間さくま、名;長和)1743-91⁴⁹ 岩代森山の儒者:1761江戸の鶴殿本荘・土寧門、儒者稲垣長章[白崑はくがん]の養嗣;1772家督;越前大野藩士、経済に精通し藩政に参画、家塾を開く、詩文「流芳園遺稿」、[東山(;)号)の字/通称/別号]字;恵明、通称;茂助/源五郎、別号;流芳園りゅうほうえん
- E3156 **東山**(とうざん・力丸りきまる、名;之光、氏英男)1757-1815⁵⁹ 越前の儒者;京の伏原家古学を修学、性理学;那波魯堂門/詩文・書を嗜む、和漢兵法を修得;尚武を唱導;京に青松塾を開く、1801「武学啓蒙」、「武器考略」「武教録」「兵法集覧」「東山名所詩纂」「東山先生文集」外著多、[東山(;)号)の字/通称/別号]字;公暉、通称;弾正、別号;松園、力丸藤左衛門の裔
- E3157 **東山**(とうざん・川上かわたみ、名;顯ぎょう)?-1840 江戸の儒者:古賀精里門/史学;頼山陽門、詩書に長ず、山陽の日本外史執筆に強力、「東山詩稿」「東山文稿」「東山詩暦」著、頼三樹三郎の師、[東山(;)号)の字/通称/別号]/字;君璋、通称;儀左衛門、別号;東海/史話楼、法号;儀山居士
- E3159 **濤山**(とうざん・小島/小嶋こじま、名;好謙)1761-1831⁷¹ 阿波徳島の暦算家;京で中根流暦算を修得、土御門家の暦数都講/歌を嗜む;貫名海屋と親交、「開平方」「改正算梯」「鉤股章」編、「初伝算法」「天経或問註釈」、1818「仏国暦象辯妄」/18「捷徑暦書」編、30「地震考」外著多数、[濤山(;)号)の字/通称/法号]字;牧卿、通称;九右衛門/典膳、法号;俊翁濤山居士
- E3160 **峯山**(とうざん・小原おはら、名;俊悦/就正、沢さわ玄住男)1762-1822⁶¹ 阿波徳島の医者;父門、父の上京に従い小原に改姓、本草;小野蘭山門、諸国歴遊;本草を調査、1795徳島藩医;徳島藩医師学問所教授/阿波淡路両国の産物薬品調査方、山本亡羊・乾桐谷らと交流、1808「穴名総目」/11「逍遙漫録」「竜骨一家言」、「菓籠本草」「独脚蜂説」「揆穴寸法」著、「広東人參辨」「切紙伝通解」「銅人引経辨」著、1816-「阿淡産志」編纂(未完;長井琳策ら刊)、[峯山(;)号)の通称/法号]通称;春造、法号;問寿院
- E3161 **東山**(とうざん・伴ばん、望月太介男)1773-1834⁶² 彦根藩陪臣伴佐仲太の養嗣;1788家督嗣、儒;大菅南坡門;徂徠学を修得/漢学、1799藩校稽古館の素読方加役/1815騎馬徒士/儒員、藩主侍講(藩儒)、「学庸詳解」「老子解」「莊子解」「荀子解」「呂覽解」「列子解」「三体詩解」外著多数、[東山(;)号)の名/字/通称]名;徒義よりよし、字;伯徳、通称;兎毛/只七
- E3162 **桐山**(とうざん・鎌原かんばら、名;政幾久/重賢げかた/貫忠、重義男)1774-1852⁷⁹ 信州松代藩士;1792(19歳)兄早世のため家督/藩主真田家3代に出仕;家老職、儒;松山言悦・佐藤嶺南門、藩儒岡野石城・長国寺千丈実巖門/江戸の佐藤一斎門、私塾朝陽館で教授、「桐山詩文集」「桐山漫筆」、1801・24「幽谷余韻」編、1837「開廠賑救法」49「真田氏武功紀盛」、「草津紀行」「軍装紀談」「西遊草」「朝陽館漫筆」著、山寺常山・佐久間象山・立田楽水らの師、[桐山(;)号)の字/通称]字;子斎/子恕、通称;主税ちから/伯耆ほうき/石見いわみ、桐山は門弟佐久間象山・山寺常山とともに[松代の三山]と呼ばれる
- E3163 **東山**(とうざん・山地やまじ/改姓;千早、名;正忠、山地蕉窓男)1824-1901⁷⁸ 江戸本所儒者;亀田綾瀬門、1860桜田門変後幕府から追求;陸中磐井に隠棲/維新後千早に改姓、1857「禄天社吟稿」編[東山(;)号)の字/通称/別号]字;子恕/恕公、通称;武一郎/部一郎、別号;禄天居ろくてんきよ
- E3164 **東山**(とうざん・青木あおき、名;訥とつ、敬度男)1826-84⁵⁹ 美濃日置江村牟田の儒;角田錦江門・のち篠崎小竹門、国学;萩原広道門、詩文に堪能、三余塾を開塾し子弟教育、「東山人詩文集」著、[東山(;)号)の字/通称/別号]字;行蔵/剛蔵、通称;春之助、別号;六幽書楼、法号;剛学院

E3166 東山(とうざん・小林こぼやし) ? - ? 江戸期;経歴生没年不詳/「毛詩鄭箋標註」「詩経国字弁」

東山(とうざん・号・道慶) → 道慶(どうきょう;法諱・東山、天台僧/歌) C 3 1 8 5
東山(とうざん・道号) → 湛照(たんしょう;法諱・東山、臨濟僧) I 2 6 3 7
東山(とうざん) → 道家(みちいえ・九条/藤原、撰関/歌人) B 4 1 1 7
東山(とうざん・木下) → 長嘯子(ちやうしょうし・木下、武将/歌人) 2 8 2 3
東山(とうざん・藤堂) → 高文(たかふみ・藤堂、儒者) D 2 6 6 9
東山(とうざん・酒泉さかいずみ) → 竹軒(ちくけん・酒泉、儒者/国史編纂) C 2 8 9 3
東山(とうざん・平山) → 斐(たすけ・平山/土田、藩士/地誌) P 2 6 0 4
東山(とうざん・伊東) → 武明(たけあき・伊東、国学/勤王派) O 2 6 2 2
東山(とうざん・佐藤) → 延陵(えんりょう・佐藤さとう、儒者/易学) F 1 3 5 1
東山(とうざん・磐瀬) → 玄策(げんさく・磐瀬いわけ、医者) J 1 8 1 3
東山(とうざん・藤堂) → 高文(たかふみ・藤堂、藩国老/漢学者) D 2 6 6 9
東山(とうざん・橋本) → 香坡(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王) F 1 9 3 4
東山(とうざん・小野) → 高潔(たかきよ・小野、幕臣/国学者) C 2 6 6 9
東山(とうざん・小野) → 広胖(こうはん・小野、和算/幕臣/海防) K 1 9 9 9
東山(とうざん・石垣) → 東平(はるひら・石垣いしがき、藩士/画/歌) J 3 6 7 0
東山(とうざん・片野) → 磐村(いむら・片野かたの、藩士/国学者) K 1 1 1 3
東山(とうざん・佐竹) → 延長(のぶなが・佐竹さたけ、三山先達/国学) I 3 5 5 2
東山(とうざん・里見) → 義亮(よしすけ・里見さとみ/石城、国学者) N 4 7 2 2
東山(とうざん・武田) → 巖雄(いわお・武田たけだ、藩士/神職) K 1 1 4 1
棟山(とうざん・宇佐美) → 主善(主膳しゅぜん・宇佐美うさみ、医者) Y 2 1 9 6
棟山(とうざん・万年) → 櫟山(れきざん・万年まんねん、医者) 5 1 7 7
冬山(とうざん・和田) → 正主(まさぬし・和田わだ/橋、商家/国学) L 4 0 8 7
豆山(とうざん・山本) → 通春(道春みちはる・山本やまもと、詩歌人) C 4 1 2 9
宕山(とうざん・小山田) → 春水(しゅんすい・小山田おやまだ、藩士/儒) L 2 1 1 5
甸山(とうざん・池田) → 正慶(まさよし・池田いけだ、和算家) I 4 0 7 6
陶山(とうざん・知白) → 鬼卵(きらん・栗杖亭りつじょうてい、戯作者) D 1 6 7 1
桃山(とうざん・桜井) → 養益(ようえき・桜井さくらい、医者) 4 7 6 3
桃山(とうざん・九鬼) → 隆都(たかひろ・九鬼くき、藩主/江戸開城) N 2 6 0 9

E3167 道三(どうざん・半井なからい/本姓;和氣、名;利長、丹波重長男)?-1507 兄明重の養嗣子;家督継承、京の医者/典薬頭、刑部大輔、大徳寺の一休宗純に参禅、堺に隠棲;堺半井家の祖、「懷宝医海」/1530「周監方」編、「半井道三療治聞書」著

E3168 道三(どうざん・齋藤さいとう、名;正利/規秀/利政、松波基宗男)1494?-155663? 山城乙訓西岡の生、京の妙覚寺に出家/還俗;京の油商人/美濃守護土岐氏氏家臣長井長弘に出仕;武士となる、;西村勘九郎と称す、武将;土岐頼芸に寵愛され頼芸を美濃守護に画策/長井長弘を殺害、守護代齋藤家の家督を継嗣/土岐頼芸を攻め美濃の領主、1543剃髮、長子義竜と不和;敗北、「月詣集」「軍法夜話抄」「齋藤山城守五十箇条」著、[道三(;号)の通称/別号]通称;峰丸/庄五郎/庄九郎/勘九郎/新九郎/秀竜、別号;法蓮房

道三(初世どうざん・曲直瀬まなせ) → 一溪(いつけい・曲直瀬/堀部、医者) G 1 1 9 4
道三(2世どうざん・曲直瀬まなせ) → 玄朔(げんさく・曲直瀬/川崎、医者、一溪養子) J 1 8 1 4
道三(3世どうざん・曲直瀬まなせ) → 玄鑑(げんかん・曲直瀬/今大路、医者/玄朔男) I 1 8 3 1
道三(どうざん・曲直瀬まなせ) → 玄淵(げんえん・曲直瀬/今大路、医者) H 1 8 9 7
道三(どうざん・曲直瀬まなせ) → 親頭(ちかあき・今大路いもおおじ、玄淵男/医/詩歌) 2 8 5 5
道三(どうざん・今大路) → 元勳(もとりの・今大路、医者) D 4 4 8 2
道算(どうざん・永原) → 重興(しげおき・永原/藤原、武将/連歌) Q 2 1 6 9

E3169 道残(どうざん;法諱、法名;然蓮社源立/良智、号;愚同)?-1593 武州の浄土僧;下野円通寺性海門、出家;名越派浄土教を修学/のち敦賀西福寺亮叡門;一条派浄土教を修学;西福寺住職、1579安土宗論に参加/86浄華院32世;金戒光明寺兼帯/93金戒光明寺独立運動に失敗、西福寺に隠居、「西福寺縁起」「浄土座敷法談去此不遠」「念仏安心」/1592「和風安心抄」著

- E3170 **堂山**(どうざん・上田うゑだ、名;修/光陳みつゆ) 1758-1838⁸¹ 周防吉敷郡台道村の代々酒造業/大庄屋、素封家;公共事業に尽力、学問や書画・器物を愛す;詩歌人;菅茶山・頼山陽・菊舎尼と交流、諸名家の題詠を募集し詩歌帳編集/多くの文人墨客来訪、菊子(琴風/絵師)の父/養嗣;光逸みつはや(菊子の婿)、喜代子(清子/琴波)の祖父、「延齡松詩歌集」編(没後に孫の光美みつよし[光逸男]の編刊)、[堂山(;号)の通称/別号]通称;少蔵、別号;不夕(;俳号)/不昧居(;住居名)
- 同山(どうざん・天川) → 友春(ともはる・天川/赤松、酒造業/歌) Q 3 1 2 9
 堂山(どうざん・桜川) → 種清(たねきよ・柳水亭、歌舞伎作者) G 2 6 3 6
 動山(どうざん・植田) → 玄筋(げんせつ・植田、儒者/垂加神道) E 1 8 3 1
 道山(どうざん;字) → 徳翁(とくおう;道号・良高;法諱、曹洞僧) H 3 1 2 1
 東山逸民(とうざんいつみん) → 東山(とうざん・宇野/宇/小林、医/儒者) E 3 1 5 4
 東山隠士(とうざんいんし) → 正豊(まさとよ・橘たちばな、廷臣/兵学者) E 4 0 8 3
 東山隠士(とうざんいんし) → 円雅(えんが、歌僧) 1 3 9 1
 東山隠士(とうざんいんし) → 竹洞(ちくどう・中林なかばやし、絵師/詩歌) D 2 8 6 0
 桃山閣(とうざんかく) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
 東山左府(とうざんさふ→ひがしよまさふ) → 実熙(さねひろ・洞院とういん/藤原、廷臣/故実) D 2 0 5 5
 東山子(とうざんし) → 長嘯子(ちやうしやうし・木下、歌人) 2 8 2 3
 東杉舎(とうざんしゃ) → 玉晁(ぎやくちやう・小寺、随筆家) H 1 6 3 1
 藤三娘(とうざんじやう) → 光明皇后(こうみゆうこうごう、仏教興隆/歌) 1 9 2 1
 東三条院(とうざんじやういん) → 詮子(せんし・梅壺女御、一条帝母/歌) F 2 4 6 1
 東山樵翁(とうざんしやうおう) → 長嘯子(ちやうしやうし・木下、武将/歌人) 2 8 2 3
 東三条殿(とうざんじやうどの) → 兼家(かねいえ・藤原、撰関、歌) 1 5 5 9
 東三条左大臣(とうざんじやうのさだいじん) → 常(とこわ・源、詩歌) K 3 1 3 5
 東三条太政大臣(とうざんじやうのだいじやうだいじん) → 兼家(かねいえ・藤原) 1 5 5 9
 東山人(とうざんじん) → 六枳(ろくし、演慈院琢玄、真宗僧/俳) 5 2 8 9
 東山人(とうざんじん) → 芳麿(よしまる・福居ふくい/藤原/膝、幕臣/蝦夷探検) H 4 7 2 3
 等山人(とうざんじん) → 六枳(ろくし;号・眞恵;法諱、大谷派僧/俳人) 5 2 8 9
 淘山人(とうざんじん) → 丸三(まるみつ・横山、幕臣/淘宮術) K 4 0 2 2
 桃山人(とうざんじん) → 桃園園三千麿(とうかえんみちまる、狂歌/戯作) C 3 1 0 7
 東山進士(とうざんしんし) → 関雄(せきお・藤原、詩歌/書) 2 4 1 6
 藤三品(とうざんぼん) → 義忠(のりただ・藤原、漢学/詩歌人) E 3 5 9 1
 藤三品(とうざんぼん) → 広範(ひろのり・藤原、宴曲集早歌作詩) G 3 7 8 5
 藤三位(とうざんみ) → 大式三位(だいにのさんみ、紫式部女賢子/歌人) 2 6 0 6
 藤三位(とうざんみ) → 親子(しんし・藤原、天皇乳母/歌人) E 2 2 3 4
 藤三位(とうざんみ) → 伊予三位(いよのさんみ、藤原顕綱女) B 1 1 9 2
 東山夢翁(とうざんむおう) → 長嘯子(ちやうしやうし・木下、武将/歌人) 2 8 2 3
- E3171 **登子**(とうし・藤原ふじわら、貞観殿、師輔女/兼家[929-990]の同母妹) ?-? 重明親王妃、969村上帝妃(;尚侍)、道綱母との歌贈答;蜻蛉日記入
- E3172 **藤子**(とうし・孝子?・藤原ふじわら、孝泰女) ?-? 鎌倉後期藤原[西園寺]実兼家の女房、実兼の子を産む、従三位、歌;二条派に近い、臨永集入、宰相典侍(大覚寺統系の女房)との贈答(新千載集)、勅撰7首;新千載(320/1327/1356/1691/2051)新拾遺(1118)新後拾遺(1270)、[吹きむすぶ風よりやがて乱れけりしげれる浅茅あさぢの秋の白露](新千載;秋320)
 [藤子(;名)の女房名]少納言局しやうなごんのつばね、三条局、兼季・性守・道意・後京極院禧子の母?
- T3114 **東子**(とうし・藻水亭そうすい) ?-? 江前期上方の俳人、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、[秋夕ゆうべたり猿ほととぎすなどよりも](難波色紙;39/猿は冬・時鳥は夏の景物)
- E3173 **等子**(とうし) ?-? 岩代須賀川の俳人:調和門、1689等躬「葱摺しのぶずり」入
- E3174 **東菑**(とうし、別号;正名まさな) ?-? 大阪の俳人;大魯たいろ門、1773几董「続明鳥」4句入、1776樗良「月の夜」入、1777破門;大魯と絶交事件、77蕪村「夜半楽」/82蕪村「花鳥篇」入、

[背戸へ出れば門かどへ出れば蚊の鳴く音ね哉](続明烏;甲248)

- 3114 **東子**(東紫とうし・竹塚たけのつか、本姓;谷古宇やこう)?-1815 武州竹塚の農業/酒食の商いを兼業、
俳人;天明1781-89頃越谷の吾山門、合巻作者;山東京伝門、1782「俳風月両話」90「田舎談義」、
1790「磨光世中魂」1803「はしか草紙」07「雷幸蔵轟咄」12「尾笑草」14「穂宝恵美草」外著多数、
[東子[東紫]の通称/別号]通称;四郎左衛門、別号;喬雲齋/素速齋/風水坊/竹塚翁たけのつかおう
冬嗣(とうし・藤原) → 冬嗣(ふゆつぐ・藤原、左大臣/詩歌) 3 8 1 8
董史(とうし・田内/藤原) → 董史(ただふみ・田内、教育者/歌人) Q 2 6 7 6
東市(とうし・黒川/島川) → 鎌満(かままる・島川、藩士/国学/歌人) F 1 5 8 5
東市(とうし・宮川) → 南谿(なんけい・橘、医者/詩歌人) 3 2 3 2
東市(とうし・並河) → 饒石(にぎし・並河なみかわ/高島、国学/歌) H 3 3 1 4
東市(とうし・橘) → 道守(みちもり・橘たちばな/吉田、佳人) I 4 1 0 5
桃枝(とうし・長) → 桃妖(とうよう・長/長谷部、旅宿業/俳人) H 3 1 7 3
藤子(とうし・池田) → 藤子(ふじこ・池田いけだ/黒田、藩主室/歌) H 3 8 9 7
藤子(とうし・本居) → 藤子(ふじこ・本居もとおり、国学/歌人) C 3 8 4 5
藤之(とうし・内藤) → 忠盛(ただもり・内藤ないとう/藤原、幕臣/歌) Y 2 6 4 9
E3175 **唐余**(とうじ) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」4句入、
[氷とけて鮒浮く池の東かな](卯辰集;日の差す東の水面に集まる)
E3176 **濤治**(とうじ・竹柴たけしば) ? - ? 歌舞伎作者/合巻作者、
1819「青砥稿花紅彩」/59「三人吉三郭初買」助作
簡次(とうじ・桐嶋、1788「鳴通力おつき」) → 内親好(ないしんこう、戯作) 3 2 5 3
藤次(とうじ・山内盛道/藤原) → 宗友(そうゆう、武家/僧/早歌) B 2 5 3 4
藤次(とうじ・草刈) → 泰彦(やすひこ・草刈くさかり、藩士/歌人) C 4 5 7 0
藤次(とうじ・林) → 有通(ありみち・林はやし、国学;尊攘思想) F 1 0 8 1
藤次(とうじ・福岡) → 孝弟(たかちか・福岡、藩士/新政府高官) M 2 6 2 5
藤治(とうじ・富田) → 正路(まさみち・富田とみた/岩沢、藩士/歌) R 4 0 0 9
当時(とうじ・源) → 当時(まさとき・源みなもと、廷臣/歌人) E 4 0 2 9
当治(とうじ・竹内) → 惟庸(これつね・竹内たけのうち/源、廷臣/歌) F 1 9 9 6
答次(とうじ・鎌田) → 景岡(かげおか・鎌田かまた、藩士/国学) U 1 5 3 4
桃二(とうじ) → 桃二(とうに、俳人) S 3 1 9 2
棟持(とうじ・むねもち・設楽) → 滴水(てきすい・設楽しだら、医者) C 3 0 0 4
道子(とうじ・荒巻) → 道子(みちこ・荒巻あらまき、歌人) I 4 1 0 8
道止(とうじ;法諱・千岳) → 千岳(せんがく;道号・道止、黄檗僧) L 2 4 9 6
道嗣(とうじ・近衛) → 道嗣(みちつぐ・近衛このえ/藤原、関白) B 4 1 8 6
E3177 **道慈**(とうじ;法諱、俗姓;額田ぬかだ)?-744:70余歳 大和添下郡の三論僧;法隆寺の智蔵門、
法相学;竜門寺の義淵門/701-18入唐;三論の奥義を究明/帰国後大安寺で三論を布教、
729律師/737大安寺大般若会を創始、戒師招請を企画・大安寺を移建、日本書紀編纂参画、
「浴像経開題」「愚志」著、詩;懐風藻2首入
道慈(とうじ・大村) → 可全(よしあき・大村おむら、商家/国学) M 4 7 0 1
道時(とうじ・源) → 道時(通時みちとき・源、廷臣/歌人) B 4 1 9 5
道治(とうじ・川本) → 夏雲(かろん・川本かわもと、俳人) S 1 5 2 2
道治(とうじ・藤井) → 道治(みちはる・藤井ふじい、国学者) K 4 1 3 2
東紫庵(とうしあん) → 庸昌(つねまさ・香川、地誌/俳人) B 2 9 3 1
冬至庵(とうじあん) → 庚年(こうねん、俳人) B 1 9 8 2
等持院贈左大臣(とうじいんぞうさだいじん) → 尊氏(たかうじ・足利、武将/歌) C 2 6 5 2
等持院仁山妙義(とうじいんにんざんみょうぎ;法名) → 尊氏(たかうじ・足利) C 2 6 5 2
藤治右衛門(藤次右衛門とうじえもん・岡見) → 知周(ともちか・岡見、藩士) I 3 1 9 1
東紫園(とうしえん) → 春潮(しゅんちよう・勝川、絵師) K 2 1 2 5
桐子園(とうしえん) → 幹雄(みきお・三森みつもり、俳人) 4 1 6 8
藤式部(とうしきぶ) → 紫式部(むらさきしきぶ、物語作者) 4 2 1 3
E3178 **東竺**(とうじく;法諱・雲外うんがい;道号)?-1730 京の臨濟僧;1673京建仁寺西堂を務める、

1683建仁寺310世、「依幻稿」著

- 桃枝軒(とうしけん) → 桃妖(桃夭/桃葉とうよう・長谷部、俳人) H 3 1 7 3
藤支軒(とうしけん) → 吉福(よしとみ・小町谷こまちや、農業/国学) M 4 7 8 0
堂子彦(どうしげん) → 利濟(としただ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2
道時居士(どうじこじ、合川) → 至導(しどう;道号・無難;法諱、臨濟僧) V 2 1 2 5
桃枝齋(とうしさい) → 桃妖(桃夭/桃葉とうよう・長谷部、俳人) H 3 1 7 3
桐糸齋(とうしさい 高匡(たかまさ・三井、商家/国学者/歌) N 2 6 1 9
東市正(とうしせい/いちのかみ・小槻) → 秀芳(ひでよし・小槻おつき、官人/衣紋術) I 3 7 6 9
当七(とうしち;初名・音羽矢おとわや) → 当軒(とうけん・音羽矢、歌舞伎作者) D 3 1 3 6
稲七(とうしち・;安間) → 浄心(じょうしん;法諱、禅僧/国学者) U 2 2 9 9
藤七(とうしち・亀谷) → 和竹(わちく・亀谷かめたに、藩士、和算家) 5 3 4 8
藤七(とうしち・所) → 典則(すけのり・所ところ/源、藩士/歌人) I 2 3 8 5
藤七(とうしち・所) → 具典(ともすけ・所ところ/源、藩士/歌人) V 3 1 8 6
藤七(とうしち・万屋) → 十千亭(じっせんてい、本草家) F 2 1 0 4

E3179 藤七良(藤七郎とうしちろう・荒井あらい、号;無庵)?-? 江前期1648-73頃代々陸奥の養鷹家:

荒井六郎左衛門の門、1648幕府御鷹方に就任、

「四化秘伝巻」「荒井藤七郎横沢和泉守鷹書之内大緒」著

- 藤七郎(とうしちろう・毛利) → 秀就(ひでなり・毛利もうり、藩主/連歌) D 3 7 4 8
藤七郎(とうしちろう・吉田) → 竹嶺(ちくれい・吉田よしだ、医者/儒/詩歌) D 2 8 9 6
藤七郎(とうしちろう・石田) → 長則(ながのり・石田いしだ、国学) L 3 2 1 4
藤室(とうしつ・佐々) → 鶴城(たづき・佐々ささき、神職/国学) P 2 6 0 1
桃室(とうしつ・葉山) → 相孚(そうふ・葉山はやま、俳人) I 2 5 8 1
等室(とうしつ・内池) → 保承(やすつぐ・内池うちいけ、商家/歌人) F 4 5 4 0
冬実(とうじつ・二条) → 冬実(ふゆざね・二条にじょう、南朝廷臣/歌) E 3 8 2 6
冬実(とうじつ・近衛) → 冬実(ふゆざね・近衛このえ、廷臣/歌人) E 3 8 2 7
道叱(とうしつ;法名) → 秀包(ひでかね・毛利/小早川、武将/連歌) C 3 7 9 9
道質(とうしつ・横尾) → 紫洋(しよく・横尾/黄、藩儒/勤王家) Q 2 2 6 3

E3180 道実(とうじつ;法諱・惟一い;道号、華嚴道人、俗姓鄭、鄭希僑男) 1620-92 73 福建黄檗:隱元門/
1654師に従い渡来/61高泉と再渡来、万福寺双鶴亭の西に華嚴室を創建;没、「幻居艸」著

- 道実(とうじつ;法名) → 義弘(よしひろ・大内/多々良、武将/歌) G 4 7 5 3
冬日庵(とうじつあん) → 猗蘭(いらん・本多忠統ただむね、藩主/詩歌) B 1 1 9 3
冬日庵(とうじつあん) → 忠升(ただたか・本多ほんだ、藩主/儒/詩歌) F 2 6 2 3
冬日庵(とうじつあん→ふゆのひあん) → 武日(ぶえつ・宮沢/宮本/春日、俳人) B 3 8 1 8
冬日居(とうじつきよ) → 泰昌(たいしよく、俳人) B 2 6 6 0

X3149 当子内親王(とうしなしいんのう、三条天皇第1皇女) 1001-23 早世 23 母;藤原濟時女(皇后城子せい)、
齋宮、1016(長和5)帰京;藤原道雅(伊周男/992-1054)と密通/17三条院による勘当で出家、
道雅は左遷、のち内親王は重病で没(栄花物語十二・十三/小右記/袋草紙入)

参考 → 道雅(みちまさ・藤原ふじわら、左京大夫/歌人) 4 1 1 6

E3181 統子内親王(とうしなしいんのう、上西門院じょうさいもんいん、鳥羽天皇皇女) 1126-89 64 母;待賢門院璋子、
女房に讃岐・兵衛・武蔵・冷泉など歌人多数

- 瑒子内親王(瑒子とうしなしいんのう) → 瑒子内親王(瑒子ちやうしなしいんのう、後二条皇女) I 2 8 6 0
瑠子内親王(とうしなしいんのう) → 朔平門院(さくへいもんいん、伏見皇女) B 2 0 4 8

E3182 桃舎(とうしや・赤坂あかさか、霞琴亭桃葉男)?-? 摂津脇浜の俳人;父門、士川・蘭更・几董と交流、
1796父13回忌追善集「ひとへけし」編、1801「花のおく」著

V3173 籐樹(とうしや・玉椿たまかじ、象谷ぞうこく男) 1854-81 早世 28 讃岐高松の彫刻師;父門/儒;藤沢南岳門、
玉椿たまかじ千畝ちうね(槐庵)・斯行これゆき(拳石)・雪堂の弟(すべて彫刻師)、
[籐樹(;名)の通称/号]通称;藤吉郎、号;九江

- 藤舎(とうしや/ふじのや・加藤) → 一周(かずかね・加藤、歌人) M 1 5 1 6
稻舎(とうしや/いなや) → 足穂(たるほ・日下田くさかだ/遠藤、歌人) T 2 6 0 6
悼若(とうじやく・藤) → 珍彦(うずひこ・藤とう/藤原/鍋島、神職) E 1 2 7 9

- E3183 **道寂**(どうじやく) ? - ? 鎌倉後期僧(沙彌)、歌人;比叡社歌合に参加、
[春ごとににはほへる志賀の山桜花も忘れず昔恋ふらし](比叡社歌合;八番右)
道寂(どうじやく;法諱) → 湛然(たんねん;道号・道寂、曹洞/黄檗僧) T 2 6 5 8
鬮雀庵(どうじやくあん) → 雷枝(らいし・為田ためだ、俳人) 4 8 4 9
道蛇楼麻阿(どうじやくらうまあ、洒落本) → 岡持(おかもち・手柄てがら、狂歌) 1 4 0 9
- T3116 **東首**(とうしゆ) ? - ? 江前期江戸の俳人、1682風黒「高名集」入、
[江戸でさへ花は居ながら嵐山](高名集;京の嵐山に負けず江戸でも桜花爛漫を見得る)
- E3184 **桃首**(とうしゆ) ? - ? 尾張の俳人;1698「続猿蓑」2句入
[咲きかゝる花や飯米はんまい五十石](続猿蓑;下)
稲主(とうしゆ・太田) → 稲主(いなぬし・太田おた/源、神職/国学) K 1 1 0 6
稲守(とうしゆ・野村) → 稲守(いなもり・野村のむら、藩士/国学) K 1 1 5 4
董守(とうしゆ・川島) → 董守(ただもり・川島かわしま、歌人) R 2 6 0 3
- 3116 **藤樹**(とうじゆ・中江なかえ、名;原げん、吉次男) 1608-48⁴¹ 近江高島郡小川村の農家の生、
1616祖父の伯耆米子藩士中江吉長の養子/17藩主転封のため伊予大洲に移住/22家督、
風早郡役人;百石取、1634脱藩の近江に帰郷、以後学問に専念/儒:日本陽明学の祖、
近江聖人と称される、京に講筵、門弟多数、歌人、「翁問答」「鑑草かがみぐさ」「藤樹文集」、
「四書考」「景慕詩文集」「江西文集」「文武問答」「藤樹歌集」「藤樹文録」「藤樹先生家集」著、
「後生物語」「孝経啓蒙」「孝経心法」「孝弟論」「湖学紀聞」「伝習録」「藤樹先生聖学集」外多数、
[心の会得なく只目にて文字を見おぼゆるばかりなるをば
眼まなにて文字をよむと云て 真実の読書にはあらず](翁問答)
[藤樹の幼名/字/通称/別号]幼名;原蔵、字;惟命これなが、通称;与右衛門、近江聖人、
別号;西江/頤軒/黙軒/嘿軒/一白/不能叟
[藤樹の門弟] 熊沢蕃山ばんざん・中川謙叔けんしゆく・淵岡山こうざん など
- E3185 **等壽**(とうじゆ・生駒いこま、名;勝政、新三郎男) 1625-1701⁷⁷ 讃岐生駒家の庶流;父の代に長州萩住、
絵師;1666萩藩主毛利綱広に出仕:66京の鷹司家に派遣;房輔の大政所(綱広の妹)に出仕、
のち1700房輔没後に帰藩、「百人一首画帖」「山水画卷」著、
[等壽(;号)の幼名/通称]幼名;金十郎、通称;市郎兵衛/市之允いちのすけ
藤樹(とうじゆ・山本/小樽こぐれ) → 賀前(かぜん・山本、和算家) M 1 5 7 2
桃樹(とうじゆ/ももき・吉/吉田) → 鰲岐(ごうき、吉田、儒者/歌) I 1 9 2 3
桃樹(とうじゆ→ももき・上田) → 百樹(ももき・上田/波伯部、国学者) E 4 4 9 7
桃寿(とうじゆ・村井) → 習静(しゅうせい・村井むらい、藩士/儒者) H 2 1 8 5
冬樹(とうじゆ・坪井) → 信道(しんどう/のぶみち・坪井つばい、蘭医) 2 2 6 5
登寿(とうじゆ・恒川) → 登壽(としひさ・恒川つねかわ、藩士/歌) N 3 1 4 6
洞寿(とうじゆ・狩野) → 克信(かつのぶ・狩野かのう、絵師) N 1 5 7 2
道守(とうじゆ・橘) → 道守(みちもり・橘たちばな/吉田、佳人) I 4 1 0 5
道種(とうじゆ・岡本) → 尚祐(なおすけ・岡本、藩士/文筆家) B 3 2 3 4
道珠(とうじゆ・辛島) → 古淵(こえん・辛島からしま、藩士/儒者) L 1 9 7 5
- E3186 **道壽**(初世とうじゆ・長沢ながさわ、理慶男) ?-1637 土佐の医者;曲直瀬まなせ道三・吉田宗恂門、
土佐藩主山内一豊の侍医、1611家督相続/京で織田信雄に出仕/町の開業医;土佐道寿名、
古林見宜と親交、「医方口訣集」「藪医問答」「藪門医案実録」「道寿先生医案集」著、
[道壽(;通称)の号] 柳庵/丹陽坊/壳薬山人、潜軒(2世道寿)・大庵(3世道寿)の父
- E3187 **道壽**(とうじゆ;通称・藤林ふじばやし、号;玄蒼) ?-? 江中期幕府医官、山城鷹ヶ峰御薬園預で領内住;
1640開園以来代々ここ鷹ヶ峰御薬園で勤務、1715「御薬園薬図」著、
「寛政重修諸家譜」入の玄栄(号;玄常)と同一か?
道寿(とうじゆ、法号) → 親元(ちかもと・蜷川、連歌/日記) C 2 8 0 4
道寿(とうじゆ・渡辺) → 富秋(とみあき・渡辺、国学者) O 3 1 7 9
道寿(とうじゆ、法名) → 正村(せいそん・浅井あさい、俳人) C 2 4 5 5
道樹(とうじゆ;法諱) → 鉄文(てつもん;道号・道樹、曹洞僧) E 3 0 7 9
道樹(とうじゆ・林) → 諸鳥(もろとり・林はやし/塩瀬、商家/歌人) H 4 4 5 5
道樹(とうじゆ・橘) → 道樹(みちき・橘たちばな、歌人) H 4 1 7 9

- 冬寿庵(とうじゅあん) → 景山(けいざん・大野、俳人) 1858
 冬樹院(とうじゅいん) → 信道(のぶみち:字・坪井つばい、蘭医) D3540
 等寿院(とうじゅいん;諡号)→ 僧温(そうおん;法諱、真宗本願寺派学僧)G2541
 道樹院(とうじゅいん) → 日幹(にちかん;法諱、日蓮僧) B3311
- E3188 **東洲**(とうしゅう;道号・円郢えんえい;法諱)?-? 鎌倉末南北期曹洞僧:東明慧日門、師に随侍し鎌倉諸寺住/晩年に肥後寿勝寺住持、「東明禪師語録」編
- 3117 **統秋**(とうしゅう・むねあき・豊原とよはら、法名;註霽、治秋男)1459-1524⁶⁶ 楽人;笙の名手、1518雅楽頭、1519正四上、後柏原天皇の笙の師、歌;三条西実隆門、宗長と親交、茶湯・書を嗜む、1496「豊原統秋千首」1500「五十番歌合」/1509「舞曲口伝」/11・12「体源抄」著、1521家集「松下集」著、「豊原統秋自歌合」「豊原統秋詠草」「豊原統秋述懐長歌」「音楽古事大全」「荒序記録」著
- E3189 **東舟**(とうしゅう・林はやし、名;信澄、信時男/羅山弟)1585-1638⁵⁴ 儒者:藤原惺窩・兄羅山門/幕府儒官、1608家康に拝謁/1612刑部卿法印、羅山を助け武家法度草案を建議、漢和聯句、「東舟詩集」「東舟文集」「樗墩ちよとん雑記」「東武紀年録」「東舟文集」著、「林永喜仮字遣書」著、[東舟(;号)の通称/別号]通称;弥一郎/[剃髮後];永喜[永善]ながよし、別号;樗墩ちよとん
- E3190 **東鷲**(とうしゅう・坂倉さかくら、別号;巨靈堂)?-? 名古屋の俳人:友次・横船門、諸国吟遊、鞭石・才麿と交流、尾張貞門の掉尾とうびの俳人、1697「東鷲歳旦」、99「小弓俳諧集」編、1701「乙矢集」編、03「己が家」06「中国集」12「金竜山」編、1702轍士「花見車」1句入、[桑名から鼻へいるゝや田植歌](花見車;100/桑名は焼蛤の匂いがする)
- E3191 **東洲**(とうしゅう;道号・浄勝じょうしょう;法諱)?-1790 遠州黄檗僧:1735宝泉寺五山元台門/法嗣、1743?正覚庵を創建/47?宝泉寺住持、関東で武蔵多摩郡報恩寺の中興開山、1784「鉄梅香禪師行略」著
- E3192 **洞秋**(とうしゅう) ? - ? 江中期伊賀上野の俳人
1758梢風尼(智周)「木の葉集(智周発句集)」未塵と共編、
参照 → 梢風(しょうふう、智周尼、小川風麦女/俳人) B2235
- E3194 **桃秋**(とうしゅう・広瀬ひろせ、名;貞恒、久兵衛[桃之]男)1751-1834⁸⁴ 豊後日田豆田の商人:役所御用、1781家督相続/秋風庵月化の弟/淡窓・旭莊の父、俳人:兄と共に舎梶しゃぼの門、1822月化「秋風庵文集」編、「箒木」著、[桃秋(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;吾八、字;君亨、通称;三郎右衛門、別号;二江亭/周山/長春庵/秋風庵2世(初世は兄月化)、法号;歓誉浄喜
- E3195 **東洲**(とうしゅう・唐牛からうし、名;満春、満昭男)1759-1803⁴⁵ 弘前藩士/儒者:五井蘭洲門、1796藩校稽古館創設に当り津軽儼淵げんえんの命で学制を整備/学頭に就任、「東洲詩文集」著、[東洲(;号)の字/通称]字;伯陽、通称;大六
参照 → 儼淵(げんえん・津軽つがる、家老/藩校開設) E1882
- E3196 **東洲**(とうしゅう・佐野さの、名;潤)?-1814 江戸の書家、1804(文化元)頃山東京山を婿養子;京山は鑿山佐野栄助を名乗る:のち離縁、1786「臨池便覧」1787「東洲尺牘」92「学書摘要」著、[東洲(;号)の字/通称/別号]字;君沢、通称;文助、別号;東洲山人
参照 → 京山(きやうざん・山東、岩瀬百樹、戯作者) 1633
- E3197 **唐洲**(とうしゅう・山東さんとう)? - ? 江後期戯作者;京伝門、1788「蘇我糠袋」「雪女廓八朔」、洒落本1788「夜半の茶漬」鶏舎と共編、京伝の別号説あり
- E3193 **登洲**(とうしゅう;法諱、号;鷲峰閣)?-? 江後期寛政1789-1801頃京の真宗僧、1797「唱導材」著
- E3198 **東洲**(とうしゅう・長川ながかわ、名;熙、田代得寿男)1814-74⁶¹ 肥前長崎の儒者、1831(18歳)掌書鑿吏長川輔仁の養子;掌書鑿の職を継承、38家塾を開く;子弟教育、1840藩校明倫堂助教/教授、57唐蘭訳司経学鑿、68教授辞任、何礼之・福地源一郎の師、「教義策題」「日本外史文法論」「読外史余論」著、東明・政徳の養父、[東洲(;号)の字/通称/別号]字;元阜/元皞げんこう、通称;彦次郎/退蔵、別号;竹院
- E3199 **桃州**(とうしゅう・松誰翁しょうすいおう)?-? 江後期歌学者、1856秘伝書「三体五儀口決」著
- F3100 **東洲**(とうしゅう・高濃たかの、名;思温/通称;栄次郎)?-? 江後期紀伊和歌山藩士/文学/洋学、

音楽を嗜む;独創的な三味線譜を案出、測量・製図にも通ず;殖産のため紀ノ川浚渫を主唱、
「三味線花宝集」/1842「三絃独稽古初編」54「有客問対」55「横文字早合点」、「海防策」著

東緝(とうしゅう;法諱) → 嗣堂(しどう;道号・東緝、臨濟僧) V 2 1 3 0
東州(とうしゅう・成宮) → 元準(もとりのり・成宮なるみや、歌人) K 4 4 8 9
東洲(とうしゅう・県あがた) → 信緝(のぶつぐ・県あがた、家老/日記) C 3 5 0 6
東洲(とうしゅう・志村) → 東嶼(とうしよ・志村しむら、儒者/詩文) F 3 1 2 0
東洲(とうしゅう・小中村) → 清矩(きよりのり・小中村こなかむら/紀、商家/国学者) H 1 6 5 1
東洲(とうしゅう・竜) → 三瓦(さんが・竜りゅう、儒者) L 2 0 8 8
稻秋(とうしゅう→いなき・長島) → 琴成(琴也ことなり・稲垣いながき、神職/歌) Q 1 9 3 4
洞舟(とうしゅう;法諱) → 功甫(こうほ;道号・洞舟、臨濟僧) L 1 9 1 3
当充(とうじゅう・石井/馬田) → 当充(あつみつ・石井/馬田、蘭学/通詞) E 1 0 8 5
藤十(とうじゅう・外山/深見) → 篤慶(あつよし・深見ふかみ、商人/歌人) E 1 0 9 6
桃戎(とうじゅう・穴戸) → 乙二(おつに・穴戸ししど、藩士/俳人) D 1 4 7 3

F3101 **道秀**(とうしゅう;法諱・松嶺しゅうりょう/しゅうけい:道号、安藤[藤原]尊厳男)1336-1417⁸² 武蔵川越臨濟僧、
1347(12歳)伊豆走湯山の万代法師の侍童/黙翁祖淵・竺仙梵僊・夢窓疎石など諸師に参禅、
備後鉄山に牛欄庵を結ぶ/藤原景貞・師景らに招聘され備中の貞徳寺に住む、
上杉憲方の帰依を受け伊豆虎杖原に臨濟庵を結、1379近江永源寺3世、1314臨濟庵に再住、
「証羊集」「参同契吹唱聞解」編、
[松嶺道秀の諡号] 円朝証智禅師

F3102 **道宗**(とうしゅう;法諱・姓;赤尾あかお、名;弥七郎)?-? 戦国期1469-1594頃越中赤尾の真宗僧:蓮如門、
1501「赤尾道宗二十一箇条」著

F3103 **道宗**(とうしゅう;法諱・悦山;道号、初め;髻輝けいき定珠、俗姓;孫そん)1629-1709⁸¹ 福建黄檗僧:
近雲・亘信門、1657長崎渡来;木庵門、1705万福寺7世、能書;書悦山の称、
「黄檗木庵和尚全録」編、「木庵和尚年譜」編/「悦山禅師語録」著、
「悦山禅師谷雲集」「悦山禅師慈福集」著

道秀(とうしゅう;法諱) → 蘭洲(らんしゅう;道号・道秀、黄檗僧) C 4 8 5 1
道秀(とうしゅう;初法諱・岐山) → 方秀(ほうしゅう;法諱・岐陽、臨濟僧) 3 9 5 5
道秀(とうしゅう;法名) → 持元(もちもと・細川/源、武将/歌人) B 4 4 7 3
道秀(とうしゅう・小槻) → 晴富(はれとみ・小槻おつき/壬生、廷臣/日記) H 3 6 1 0
道収(とうしゅう・暁堂) → 暁堂(ぎょうどう;号・道収;法諱、黄檗僧) O 1 6 3 7
道就(とうしゅう・菅原) → 道就(みちなり・菅原すがわら、藩士/歌人) C 4 1 1 3
道秋(とうしゅう・渡辺) → 吾中(吾仲ごちゅう・渡辺、仏画師/俳人) D 1 9 2 9
道穂(とうしゅう/みちあき・道山) → 壮山(そうざん・道山みちやま、俳人) H 2 5 5 1
道修(とうしゅう・永山) → 道修(みちのぶ・永山ながやま、藩士) C 4 1 2 3
道従(とうじゅう→どうしゅう) → 到徹(とくてつ;法諱・道従;字、真宗僧) G 3 1 6 7
道充(とうじゅう・中島) → 春湖(しゅんこ;号・中島なかじま、藩儒) J 2 1 5 1
洞宗宏振禅師(とうしゅうこうしんぜんじ) → 玄透(げんとう;道号・即中、曹洞宗中興) L 1 8 8 0
東洲斎(とうしゅうさい) → 写楽(しゃらく・東洲斎、絵師) G 2 1 5 9
東洲山人(とうしゅうさんじん) → 東洲(とうしゅう・佐野さの、書家) E 3 1 9 6
道什親王(どうじゅうしんのう) → 道永親王(どうえいしんのう、真言僧/歌/連歌) B 3 1 3 7
道秋羅(とうしゅうら) → 方朗(みちあきら・高林たかばやし、神職/歌人) B 4 1 1 1

3118 **藤十郎**(とうじゅうろう・坂田さかた、市左衛門男)1647-1709⁶³ 上方歌舞役者;杉九兵衛門、
当り芸:夕霧狂言、近松門左衛門と提携;1699「けいせい仏の原」文蔵役など、
3世自笑「役者論語」に芸談入

F3104 **藤十郎**(東十郎とうじゅうろう・品川しながわ、藤兵衛男)1834-86⁵³ 長崎の阿蘭陀通詞;蘭英語に精通、
1854「エゲレス語字書和解」のBの部の編纂参加、「暎咭喇新聞紙」訳

藤十郎(とうじゅうろう・村井) → 親長(ちかなが・村井、藩士/儒者) B 2 8 4 1
藤十郎(とうじゅうろう・水野) → 勝成(かつなり・水野みずの、藩主/殖産) N 1 5 6 6
藤十郎(とうじゅうろう・森) → 篤恒(あつね・森もり、藩士/暦学者) E 1 0 6 9
藤十郎(とうじゅうろう・村井) → 習静(しゅうせい・村井むらい、藩士/儒者) H 2 1 8 5

藤十郎(とうじゅうろう・伊藤/天満屋)→河東(初世かとう・十寸見ますみ、浄瑠璃太夫) 1 5 2 5
 藤十郎(とうじゅうろう・加嶋屋)→かね延(兼延かねのぶ・おほ屋/大家、随筆家) C 1 5 9 5
 藤十郎(とうじゅうろう・山田屋/細井)→貞雄(さだお・細井、商家/国学/故実) 2 0 1 7
 藤十郎(とうじゅうろう・長尾)→秋水(しゅうすい・長尾ながお、遍歴/詩人) H 2 1 7 7
 藤十郎(とうじゅうろう・小塚)→秀得(ひでのり・小塚/山本、藩士/殖産) D 3 7 6 4
 藤十郎(とうじゅうろう・梅津)→忠経(ただつね・梅津うめつ、藩家老/歌人) V 2 6 8 7
 藤十郎(とうじゅうろう・梅津)→忠喬(ただたか・梅津うめつ、藩家老) V 2 6 8 6
 藤十郎(とうじゅうろう・梅津)→忠至(ただより・梅津うめつ、藩士/国学者) F 2 6 6 1
 藤十郎(とうじゅうろう・田中)→散木(さんぼく・田中たなか、藩士/儒者) G 2 0 1 6
 藤十郎(とうじゅうろう・吉川/山本)→全交(初世ぜんこう・芝/司馬、狂言師/戯作) 2 4 2 9
 藤十郎(とうじゅうろう・萩原)→紫由加里(むらさきのゆかり、狂歌作者) D 4 2 1 4
 藤十郎(とうじゅうろう・森)→忠義(ただよし・森もり、藩士/記録) R 2 6 3 2
 藤十郎(とうじゅうろう・山本)→章夫(・山本やまと、本草家/写生画) L 2 2 4 6
 藤重郎(とうじゅうろう・市岡)→猛彦(たけひこ・市岡、藩士/国学・歌) E 2 6 4 9
 東十郎(とうじゅうろう・山口)→履斎(りさい・山口やまぐち、藩士/儒者) B 4 9 0 7
 桃樹園(とうじゅえん)→国貞(初世くにさだ・歌川、絵師) 1 7 2 9
 桃樹園(とうじゅえん)→良斎(こんさい・三宅みやけ、蘭方医者) P 1 9 2 1
 唐樹園南陀羅(とうじゅえんなんだら)→雅敦(まさあつ・正宗、国学者/狂歌) B 4 0 1 6

- F3105 洞叔(とうしゅく;道号・寿仙じゅせん;法諱)?-? 江前期臨濟僧:菊齡元彰門/天童寺住持、
 1641天童寺慈濟院住、聯句を嗜む、1623「元和九年十月初何百韻」(善昌らと)
- F3106 東叔(とうしゅく・根来ねごろ、通称;在原行忠)?-? 紀伊根来寺で根来流眼科の法を始めた東庵の裔、
 大阪の眼科医東源の孫、東叔は江戸中期京住の眼科医、
 1732烙刑の二人の人骨の驗屍;写生図「人身連骨真形図」作製
 白内障研究;眼球中央の支障であることを日本初の指摘、1742「眼目暁解」著
- 東叔(董叔とうしゅく・村尾)→元融(げんゆう・村尾むらお、医/儒/国学者) D 1 8 1 7
 董叔(とうしゅく・狩野)→董川(とうせん・狩野かのう、奥絵師) T 3 1 4 1
 藤淑(とうしゅく;学生字)→行葛(ゆきくず・藤原ふじわら、廷臣/詩人) E 4 6 4 4
 藤肅(とうしゅく)→惺齋(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3
 桃種成(とうしゅせい)→三孝(さんこう・徳亭とくてい、狂歌/戯作) E 2 0 3 1
 藤寿亭松竹(とうじゅていしょうちく)→藤兵衛(とうべえ・山口屋、書肆/合巻) H 3 1 0 8
- F3107 洞春(とうしゅん・狩野かのう、名;兼信/義信/良信/政信/福信、狩野洞雲の養嗣子)?-1723 絵師:
 駿河狩野家2世;1682御目見得/94家督、將軍家の絵師、1720「日光山縁起」著、
 [洞春(;号)の幼名/通称/別号]幼名;三四郎、通称;采女、別号;守静斎、法号;浄慈院
- F3108 東春(とうしゅん・万葉庵) ? - ? 江中期遠江河之内の俳人;雑俳点者、
 1752「常盤の春」評、53刊「合せ鏡」編
 東峻(東峻とうしゅん;法諱・高峰)→高峰(こうほう;道号・東峻/東峻、臨濟僧) L 1 9 2 5
 東春(とうしゅん・加藤)→洞庭(どうてい・加藤かとう、医者) G 3 1 6 3
- F3109 東順(とうしゅん・竹下たけした/のち榎本[;妻の姓]、別号;赤子)1622-9372 近江堅田の俳人;正春門、
 江戸で医業/膳所藩主本多家に出仕、其角の父、其角「句兄弟」に芭蕉「東順伝」あり、
 其角の撰集に句散見(1697末若葉うらわかばなど)、1689「あら野」入、
 [名月や我老楽の門さゝず](末若葉)
- F3110 東巡(とうしゅん) ? - ? 美濃岐阜の俳人;1689「あら野」入、
 [大粒な雨にこたへし芥子の花](あら野;三初夏/こたへしはもちこたえた意)
- F3111 等順(とうしゅん・村上むらかみ、名;凶基)?-? 江戸後期医者:梅毒科専門、薬物に精通、
 1804「続名家方選」/08「黴瘡秘録別記」著
- 当純(とうじゅん・源)→当純(まさずみ・源、廷臣/歌人) C 4 0 9 6
 道舜(どうしゅん;剃髪法名)→定信(さだのぶ・源・三条、廷臣/歌人) C 2 0 2 5
 道春(どうしゅん;法名)→義弘(よしひろ・大内/多々良、武将/歌) G 4 7 5 3
 道春(どうしゅん・藤とう;剃髪名)→羅山(らざん・林、儒・朱子学) 4 8 0 2
 道春(どうしゅん・山本)→通春(道春みちはる・山本やまと、詩歌人) C 4 1 2 9

道俊(どうじゆん・田中) → 恒(こう・田中たなか、藩医/詩歌) Q 1 9 9 4

- F3112 **道潤**(どうじゆん:法諱、関白二条良実男)1266-? 1303存 天台僧;源恵門/1302天台座主/大僧正、1303辞職、道玄・道瑜の弟、歌人;勅撰6首;新後撰(703)玉葉(5首141/313/966/1983/2802)、[行末は迷ふならひと知りながら道を求めぬ人ぞはかなき](新後撰集;九703;僧正道潤)、[道潤(:法諱)の号]本覚院/竹林院/大御堂おみどろ
- F3113 **道順**(どうじゆん:法諱、俗姓;久我/源、左少将源通能男)?-1321 真言僧;1297醍醐寺報恩院憲淳門、1298伝法灌頂を受;三宝院住/1319醍醐寺座主・大僧正、20東寺長者、「真言宗義精談集」著、「常磐井殿記録」著、歌人;1319文保百首参加、続門葉集/藤葉集(2首)などに入集、勅撰9首;新後撰(646)続千(335/1017/1670/1981)新千(1820/2088)新統古(672/1944)、[夏草の事しげき世に迷ひてもなほ末頼むをののふる道](新後撰;九646;権少僧都道順)、[夕立の雲は有間(あま)の山こえて露こそ残れみなのささ原](藤葉;夏150/文保百首;2928)
- F3114 **道純**(どうじゆん:法諱、俗姓;厚見あつみ)?-? 江前期1661-1704頃播磨高砂の学僧: 神・仏・儒の碩学を尋ね諸国遍歴/1673黄檗僧の木庵性瑠しょうとう門、1681-4頃堺で売卜業、1689刊「三教育正宗」、「観音籤」、「三教指帰正宗」著、「靈感観音籤三十二卦占」訳
- F3115 **道順**(どうじゆん:法諱・隆教;字)1777-184670 江戸の天台宗東叡山鹿苑庵の天台学僧、慧澄と並稱、「教証二道」、「十重略辨」、1810「教観綱宗義箋」13「鄙答五章」36「天台四教儀空拳」外著多数
- F3116 **道順**(どうじゆん・鈴木すずき、名;章、元結男)1795-186975 安房谷向村の代々名主/医者(家学)、1817鈴木宗観門;三ヶ島流眼科を修得/18帰郷し開業医/浜松藩主井上正道の医官;江戸住、晩年は帰郷、1846「撥翳鍼決」66「魚本草」、「十眼論」、「外障本因考」著、[道順(;通称)の字/号]字;子宝、号;希秦/三島窟、法号;修斎庵、松塘の父
- F3117 **道珣**(どうじゆん:名・中目なかのめ、号;樗山、藩医道怡男)1808-5043 仙台の医者:中目なかのめ流眼科の祖、1827陸前本吉郡小泉で眼科開業/2・3年後仙台へ帰り諸国修業;のち大阪で開業、「眼科眞宝」、「眼科摘要」、「眼科綿囊正誤」、「眼科療治雑話」、「中日本草」著、1850「眼科方筈」、「古今精選目病眞論」著、道味(藩医;婦人科)の弟
- 道順(どうじゆん:法名) → 時春(ときはる・北条/塩田/平、武将/歌) J 3 1 8 0
道純(どうじゆん・渋江) → 拙斎(ちゆうさい・渋江しぶえ、医者/考証学) G 2 8 0 9
道醇(どうじゆん・太田) → 資始(すけもと・太田/堀田、藩主/老中) H 2 3 1 5
洞春院(どうしゆんいん) → 元就(もとより・毛利/大江、武将/連歌) D 4 4 6 1
東春嶺(とうしゆんれい) → 春嶺(しゆんれい・葛飾かつしか、絵師) P 2 1 3 1
- F3118 **東所**(とうしょ・伊藤いとう、名;善韶、東涯3男)1730-180475 京の儒者:736(7歳)父と死別、母;加藤氏、儒;叔父伊藤蘭岨門、11751古義堂3世を継承;門人多数、詩文/書に秀でる、父の著述刊行、「紹述先生(東涯)遺稿」、「紹述先生遺筆」編、「古義鈔翼」、「論語古義抄翼」、「助字考小解」、「周易経翼通解」、「孟子古義抄翼」、「古学十論」、「詩解」、「意先録」、「黙識録」、「木実雑論」、「楽考」、「東所集」、「東所詩草」、「修成先生南行志」、「修成先生文集」、「修成先生詩集」外著多数、[東所(;号)の字/別号]字;忠蔵、別号;施政堂、諡号;修成先生、妻;井口蘭雪女の定、後妻;大同氏、東里・東阜・東岸・東峯の父
- F3119 **東渚**(とうしよ) ? - ? 江中期丹後宮津の俳人;1782蕪村「花鳥篇」1句入、[さりながら腹はへりけり山桜](花鳥篇;花桜帖8/謡曲調の面白さ)
- F3120 **東嶼**(とうしよ・志村むら、名;時恭/直、実弘男)1752-180251 陸前江刺郡羽黒堂村儒者;河村潤安門、昌平饗修学/舎長、1789仙台藩大番士/藩儒、詩文に長ず、「東嶼詩集」著、「東藩勝史詩纂」編、五城の弟/蒙庵の兄、麗沢の父、[東嶼(:号)の字/通称/別号]字;仲敬、通称;吉之助/義申/東蔵、別号;東洲
- F3121 **桃処**(とうしよ・勝見かつみ、二柳じりゅう[桃居]男)?-? 大阪の俳人:父門/俳諧宗匠、1804父二柳追善集「桃下華葉」編
- 東渚(とうしよ;号) → 南溟(なんめい;法諱、真宗僧) J 3 2 5 7
唐嶼(とうしよ・祇園) → 尚濂(しょうれん・祇園ぎおん、藩儒/詩) M 2 2 0 3
桐処(とうしよ・香川) → 琴橋(きんきょう・香川かがわ、儒者) Q 1 6 8 0
桃処(とうしよ・秋良) → 貞温(さだあつ・秋良あきら、藩士/国事) H 2 0 7 2
桃所(とうしよ・馬場) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
桃所(とうしよ・深江) → 遠広(とおひろ・深江ふかえ、藩士/神道家) W 3 1 2 0

- 陶所(とうしょ・池内) → 奉時(まさとき・池内、医者/漢学/尊攘) E 4 0 4 0
- F3122 **東恕**(とうじょ・伊吹いぶき) ? - 1734 越前敦賀の惣代/医者/俳人:支考門、
1719刊「俳諧四幅対」著、俳文が「本朝文鑑」入、追善集「わか影」(;東吾編)
[東恕(;号)の通称/別号]通称;藤左衛門、別号;桂下園
- F3123 **桃如**(とうじょ・観月楼;号)? - 1788 但馬の俳人:樗良・青蘿・至峰らと交流、
1785「露の月」編、没後の追善集「観月楼句集」(遺稿及び樗良・青蘿等の句;乙坡編/1789刊)
桃序(とうじょ) → 奇淵(きえん・菅沼、俳人) 1 6 8 3
当助(とうじょ・河竹) → 当助(たいすけ・たえすけ・河竹、歌舞伎作者) B 2 6 7 3
藤女(とうじょ) → 藤女(ふじょ、俳人) C 3 8 4 7
藤助(とうじょ)すべて → 藤助(とうすけ)
- F3124 **道助**(どうじょ・平井ひらい、備前守)?-? 武将;大内義弘の家臣/1399大内氏と幕府との調停に当る、
連歌;宗砌「初心求詠きゆうい集」入
- X3108 **道恕**(どうじょ;法諱・長屋)? - ?;1688以前に没 江前期;歌人、
1688浅井忠能[難波捨草]9首入、月次会・百首歌参加、
[限り有るみちをば道としりながら何をねがひの心なるらん](難波捨草;775/述懐の歌)
- F3125 **道如**(どうじょ;法諱・石雲せきうん;道号、初法諱;性如) 1622-1706 85 初;臨濟僧/黄檗僧;慧林・隠元門、
1674美濃東禅寺開/75慧林の法嗣、1676「円山睡余稿」81「慧林大和尚末後日録」著
- F3126 **道恕**(どうじょ;法諱、右大臣久我こが広通男) 1668-1733 66 関白鷹司房輔の猶子、1676仁和寺入、
1678蓮華光院で出家/84真言東大寺別当・法印大僧都;安井門跡、1691東寺で受戒/92大僧正、
1718東寺の189代長者/298東寺長者191代再任、画;狩野永納門/花鳥山水画に堪能、
1692「東大寺尊勝院主次第」1707「広保印可次第」16「大和右京薬師寺縁起詞書」外著多数、
[道恕の号/法号]号;法界心印、法号;後法界身院
- F3127 **道恕**(どうじょ・岡おか、名;昌敏/通称;胡斎、道順男、義兄道伯の養嗣) 1778-1831 54 仙台藩医:
医学;京の吉益家門;侍医、宇和島藩主伊達家夫人付として江戸藩邸住、「金瘡龜伝集」著、
道恕(どうじょ・河間) → 直俊(なおし・河間かわま、通事) B 3 2 8 0
道恕(どうじょ) → 道恕斎(どうじょさい、新吉原名主/随筆) F 3 1 5 4
堂如(どうじょ・松平) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9
東杵庵(初世とうじょあん) → 秋良(しゅうりょう・山岸、俳人) I 2 1 4 0
東杵庵(2世とうじょあん) → 樺柯(さいか・松本、医者/俳人) 2 0 6 6
東杵庵(3世とうじょあん) → 願言(こげん・松本、樺柯男/俳人) C 1 9 4 6
- F3128 **藤松**(とうじょう) ? - ? 江前期京の俳人;
1649刊の立圃「花月千句」参加(;1644以前の作句)
- F3129 **藤昌**(とうじょう、若狭わかさ) ? - ? 江前期若狭?の俳人/大阪住、
1666可玖(吉竹)「遠近おちこち集」入/78西鶴「物種集」入/1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[草々の中で幅する芭蕉はせを哉](難波色紙;82/芭蕉が最も幅をきかせている)
- F3130 **東舛**(とうじょう) ? - ? 江後期安藝瀬野の俳人:紫籬・甘古・玄蛙らと交流、
1825「文政八酉之日記」著
- F3131 **冬松**(とうじょう・和田わだ、東潮[1658-1706]男)?-? 尾張名古屋の俳人;父門、1689「あら野」8句入、
1696父の旅行中に主催「留守見舞」(大魚岡牛らと共編)、
[独り来て友選びけり花の山](あら野;二)
冬松(とうじょう・小貫/初岡) → 敬治(けいじ・初岡はつおか、藩士/儒者) F 1 8 9 0
冬照(とうじょう・橘) → 冬照(ふゆてる・橘たちばな、国学者/歌) E 3 8 3 1
冬涉(とうじょう・牧) → 冬映(初世とうじょい・牧、俳人) B 3 1 2 9
東沼(とうじょう;道号) → 周巖(しゅうげん/-がん;法諱・東沼、臨濟僧) H 2 1 2 7
東昌(とうじょう・田中) → 月歩(げつぽ・田中たなか、俳人/文人) H 1 8 3 6
東升(とうじょう) → 四郎(しろう・三升屋みまさや、歌舞伎作者) N 2 2 0 4
等勝(とうじょう;法諱) → 文山(ぶんざん;道号・等勝、臨濟僧/和漢聯句) H 3 8 5 3
韜照(とうじょう富田) → 景周(かげちか・富田とだ、儒者) E 1 5 9 6
- F3133 **藤城**(とうじょう・村瀬むらせ、名;鞆/綱、重為男) 1791-1853 63 美濃武儀郡上有知の大庄屋、
儒:頼山陽門、門下中の俊才;諸史編纂に参加、1825郷里に私塾(藤城山居・梅花村舎)開;

門弟多数、1840名古屋支藩犬山藩校敬道館創設に招聘され経史講義、
美濃郡上藩校潜竜館でも講義、「藤城詩文集」「梅下村舎課業次第」「梅下前後稿」著、
「三樹柳陰稿」「己卯汗漫稿」「白山遊稿」、1811「二家対策」、「庸齋稿」「東行稿」著、
「白鷗社遊稿」「節義追風録」「蘇黄尺牘」著、「藤城遺稿」、
[藤城(；号)の字/通称/別号]字；士錦、通称；敬治/平助/平次郎、別号；庸齋

- T3185 **統丈**(とうじょう・) ? - ? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[万代は池の汀みぎはに住みなれてのどかに亀のよはひへぬらん](大江戸倭歌；雑1800)
筒城(とうじょう・藤林) → 普山(ふざん・藤林、医者/蘭学) C 3 8 3 3
稲城(とうじょう・山田) → 稲城(いなぎ・山田やまだ、神職/歌人) K 1 1 7 5
棟常(とうじょう/むねつね・山岸) → 半残(はんざん・山岸やまぎし、藩士/俳人) H 3 6 7 4
- F3134 **道昭**(道照どうしょう、姓；船ふね、恵尺えさか男) 629-700⁷² 飛鳥期河内の人；元興寺僧/
653入唐；玄奘門/法相を修得、帰国後元興寺に禅院を創建し法を弘める；本朝法相宗の祖、
諸国を巡り架橋など社会事業；遺言で我が国最初の火葬に付された
- F3135 **道昌**(どうしょう) ? - ? 平安前期僧/836?「広隆寺縁起」共著
- F3136 **道証**(どうしょう；法諱、俗姓；百濟) 756-816⁶¹ 平安前期阿波の僧/南都の法相僧；性相学を究明、
晩年太宰府観音寺の講師、「聖教略述章」「中辺疏」
- F3137 **道清**(どうしょう/どうせい；法諱、俗姓；紀、八幡別当慶清男) 1169-1206³⁸ 母；最清女、1185宮崎檢校、
社僧；1192石清水八幡宮31代別当/96法印/99権大僧都、歌人；
1200「石清水若宮歌合」勸進(通親判；俊成ら参加)、1201石清水社歌合参加、新勅撰1093、
[高円たかまどの尾上の宮の月の影たれしのべとてかはらざるらむ]、
(新勅；雑秋1093/故郷月といへる心をよめる)、
[道清の号] 中坊/田中/宮崎
- F3138 **道性**(どうしょう；法諱、以仁王もちひとりの男) 1170-87^{夭逝} 18 八条院の養子/真言宗仁和寺蓮華心院僧、
歌人；守覚法親王らと仁和寺歌壇を形成、千載334・1002、
[虫のねもまれになりゆくあだし野にひとり秋なる月のかげかな](千載集；五秋334)
- F3139 **道生**(道生どうしょう；法諱、通称；花下幽人月前吟客道生) ?-? 鎌倉中期僧(法師)/歌・連歌師、
1245・1247毘沙門堂や法勝寺で花下はなのもと連歌会催；地下連歌の先達、
連歌式目制定に關与(冷泉家蔵草子目録入)、歌；続拾遺973/連歌；菟玖波集16句入、
[日にそへて青葉になりぬ遅桜](菟玖波；発句2068/1247法勝寺の花下にて)
- F3140 **道性**(どうしょう；法諱、龜山天皇皇子) 1278-? 真言僧；定勝門、1283醍醐寺座主/93三寶院門跡、
大僧正、歌人；1314「春日社三十首」入/続門葉集・藤葉集入集、「宮僧正百首」著、
勅撰21首；新後撰(123/979/1458)続千(9首39/379/1346以下)続後拾(5首)新千(3首)以下、
[散ればこそ風もさそへと思へども花のうきにはなさでみるかな](新後撰；二123)、
[道性の号] 關伽井宮、宮僧正/西院僧正/宝池院僧正
- F3141 **道昭**(道照どうしょう；法諱、摂政一条家経男) 1281-1355⁷⁵ 母；藤原有信女、天台僧；行昭大僧正門、
1319園城寺長吏/36准三宮(園城寺初)、大僧正、北朝光明天皇の護持僧、41四天王寺別当職、
熊野三山・新熊野檢校職/1347長吏に再任、「胎密契愚鈔三昧流」「自行私記」著、
歌；1315京極為兼催「詠法華經和歌」参加/50為世十三回忌和歌参加/53「經旨和歌」、
勅撰17首；玉葉(1201/1440/2571)続千(5首)以下、
[行きくれて宿とふ山の遠かたにしるべうれしきいりあひの鐘](玉葉；八旅1201)
- F3142 **道昌**(どうしょう；法諱) ? - ? 鎌倉末南北期僧(法師)/歌、1364成立「新拾遺集」1876、
[古にいをきくにつけてぞしのぼるわがみし後やうき世なるらん](新拾遺；十九1876)
- F3143 **道勝**(どうしょう；法諱) ? - ? 南北期?僧(法師)/歌、1384成立「新後拾遺集」1050、
[思ひかねまたやしたはん後までほうらみはつべき心ならねば](新後拾；恋1050)
- F3145 **道昭**(どうしょう；法諱・廓山かくざん；道号、俗姓；杉原) 1640-1717⁷⁸ 出雲大社の僧/1653(14歳)曹洞僧、
のち黄檗僧；木庵性瑫しょうとう門/1680嗣法、聖林院住持/1693景德寺の中興開山、
1696江戸白金瑞聖寺5世/1700景德寺隱棲、「廓山供養記」「廓山禅師語録」著
- F3146 **道章**(どうしょう；法諱・悦峰えつほう；道号、初め法賢、俗姓；顧) 1655-1734⁸⁰ 浙江錢塘黄檗僧、1685渡来、
長崎興福寺3世/1707万福寺8世/徂徠と筆談/甲府永慶寺開山、

「悦峯禪師語録」著、「当麻図記」編

- F3147 **洞笑**(どうしょう) ? - ? 俳人;1730方山(1651-1730)追善集「杖の名ごり」編
- F3148 **洞簾**(どうしょう・尾形おた、名;惟民、医者尾形宗因男)1725-1805⁸¹ 肥前多久の儒者;別家を興す、多久聖堂東原痒舎の教諭(禄20石)、「大神物語」「三徳抄」「古本大学類語」「魯論類語」著、[洞簾(;号)の字/通称]字;仲頭、通称;彦右衛門/彦左衛門
- F3149 **道笑**(どうしょう;号) ? - ? 江中期戯作者;市場通笑門、1781「ほへとたんか」1788「人間万事二一天作五」著
実は通笑の変名か? → 通笑(つうしょう・市場、黄表/噺本作) 2 9 0 2
- 道生(どうしょう・鉄庵;道号) → 鉄庵(てつあん・道生、臨濟僧/詩文) C 3 0 1 3
- 道生(どうしょう・小津) → 長正(ながまさ・小津おつ、商家/歌人) L 3 2 4 1
- 道称(どうしょう;法名) → 貞昌(さだまさ・片桐かたぎり、藩主/茶人) J 2 0 6 6
- 道政(どうしょう;法諱) → 道政(どうせい/どうしょう、和田、僧/歌人) F 3 1 9 4
- 道祥(どうしょう;法名) → 法興(のりおき・荒木田、神主/古事記書写) E 3 5 3 1
- 道勝(どうしょう;法名) → 政国(まさくに・細川/源、武将/詩歌人) C 4 0 3 6
- 道聖(どうしょう;法諱) → 無己(むき;道号・道聖/元聖、臨濟僧) 4 2 3 7
- 道昭(どうしょう;法名) → 是円(ぜえん・二階堂、中原章賢/明法家) D 2 4 2 8
- 道照(どうしょう;号) → 智海(ちかい;法諱・心慧;字、真言・律宗僧) 2 8 5 9
- 道照(どうしょう;法号) → 貞久(さだひさ・伊勢/平、故実家) F 2 0 4 9
- 道従(どうしょう;字) → 到徹(とうてつ;法諱・道従、真宗僧) G 3 1 6 7
- 洞松(どうしょう;号) → 亮阿(りょうあ;法諱・実戒、天台僧) G 4 9 0 2
- 洞松(洞昌どうしょう・田中) → 美方(よしかた・田中たなか、絵師/国学) H 4 7 3 7
- F3150 **道成**(どうじょう/どうしょう;法諱、俗名;愛智あいち孫四郎頼貞、阿野頼為男/本姓源)?-? 南北歌僧/歌人;1387浄阿5代奉納[隱岐高田明神百首和歌]2首出詠、新後拾遺906
[ささ枕みなののよはに仮寝してふるさと遠き月を見るかな](新後拾;十羈旅906)、
[宮城野の木の下閣の雨にだにおのが光と飛ぶ螢かな](高田明神歌;31/雨中螢)
- F3151 **道成**(どうじょう;法諱・円通えんとう;道号)1643-1726⁸⁴ 紀伊熊野の黄檗僧;1675独湛性瑩(しょうけい門、独湛の嗣法、1682金沢猷珠寺住寺、紀伊慈光寺・近江梵釈寺を復興、紀伊千光寺・光明寺・天寧寺・永禪寺・莊嚴寺・海音寺・撰津徳岩寺を開創、1725永禪寺再任、「参禅要略」「黄檗第四代独湛和尚行略」、「円通禪師語録」「円通禪師後録」「永禪寺語録」著
- 道浄(どうじょう/みちきよ・村上) → 道慶(どうけい・村上、闘争調停) D 3 1 2 0
- 道常(どうじょう;法名) → 師直(もろなお・高こう/高階、武将/歌人) H 4 4 5 6
- 道正庵(どうしょうあん) → 正賢(まさかた・高橋たかはし/橋、歌人) P 4 0 4 5
- 桐笑翁(とうしょうおう) → 寒瓜(かんが・井上、俳人) D 1 5 4 9
- 当証[正]軒(とうしょうけん) → 十輔(じゅうすけ・並木、歌舞伎作者) 2 1 4 6
- 当証軒(とうしょうけん) → 正三(初世しょうざ・並木、浄瑠璃歌舞伎作者) S 2 2 2 4
- 道生軒(どうしょうけん・舎人) → 重巨(しげなお・舎人とわり、藩士/本草/華道) R 2 1 7 8
- 藤相公(とうしょうこう) → 広業(ひろなり・藤原、廷臣/漢学/詩文) G 3 7 6 8
- 等象斎(とうしょうさい) → 介石(かいせき;法諱・佐田さだ、真宗本願寺派僧) I 1 5 8 2
- 洞笙斎(どうしょうさい) → 八虹(はっこう、俳人) F 3 6 1 9
- 東照神君(とうしょうしんくん) → 家康(いえやす・徳川、將軍/武家法度) 1 1 0 4
- 道勝親王(どうしょうしんのう;初名) → 興意親王(こういしんのう、連歌) H 1 9 3 1
- 投杖堂(とうじょうどう) → 秀穎(ひでかひ・河村かわむら、藩士/国学者) C 3 7 8 9
- 洞松堂(どうしょうどう) → 忠恕(なかつけ・益井ますい、藩校国学教授) O 3 2 7 8
- F3152 **堂性坊**(どうしょうぼう・釈) ? - ? 大阪/談林俳;1679西国と両吟歌仙;西国「見花数奇けんかぜき」入
- 道場坊(どうしょうぼう;号) → 尊猷(そんゆう;法諱・道場坊、真言僧) F 2 5 7 6
- 東照大権現(とうしょうだいこんげん) → 家康(いえやす・徳川、將軍/武家法度) 1 1 0 4
- 東条若狭守(とうじょうわかさのかみ) → 宗竺(そうじく、武家/連歌作者) H 2 5 6 5
- 東寔(とうじやく;法諱) → 愚堂(ぐどう;道号・東寔、臨濟僧) C 1 7 5 2
- 当職(とうじやく・成瀬) → 当職(まさもと・成瀬なるせ、藩士/詩人) H 4 0 9 5
- F3153 **道職**(どうじやく) ? - ? 伊勢山田俳人;1633重頼「犬子集」6句入

[仲よかれ露の姑しとめ嫁が萩はぎ] (犬子集;一283/露の姑は露の臺と・嫁が萩は嫁菜)

- F3154 **道恕齋** (どうじょさい・庄司しょうじ、名;勝富かつとみ、野村良鉄男) 1668-1745 78 西田屋又左衛門の養嗣子、新吉原妓楼西田屋の主人/1719名主、22大岡忠相の諮問に「新吉原由緒書」上程/致仕、俳諧を嗜む、風俗随筆:1720「洞房語園」(吉原の歴史)/25「吉原由緒」著、1733「洞房語園後集」/38「[異本]洞房語園」編/38「饅頭賦」著、
[道恕齋(;)号)の通称/別号]通称;西田屋又左衛門、別号;叙又じよがい、法号;忠誉一貫道恕比丘
- F3155 **道助親王** (どうじょしんのう;法諱、名;長仁、後鳥羽天皇皇子) 1195-1249 55 母;坊門信清女の坊門局、1201真言宗仁和寺の道法法親王門/06出家/10二品/12一身阿闍梨/13六勝寺検校、1219仁和寺総法務;仁和寺12代御室/1230金峰山に隠棲、「泥塔供養願文」著、歌人;定家門、1218「道助法親王家五十首和歌」「道助法親王家十五首和歌」主催、1248「宝治御百首」入、「十首和歌」「道助親王百首」著、秋風集・雲葉集・閑月集・和漢兼作集等に入集、勅撰38首;新勅撰(11首129/130/182/223/317以下)続後撰(9首59/152以下)続古(32)以下、[わすれじな又こむ春をまつの戸にあけくれなれし花の面影](新勅撰:129/暮春の心)、
[道助親王の通称]光台院御室こうたいいんのおむろ/光明寿院御室、土御門天皇・順徳天皇の兄弟
- F3156 **東四郎** (とうしろう・永楽屋、片野直郷なほさと) 1741-95 55 名古屋書肆東壁堂;藩校明倫堂御用達故実家の永楽屋東四郎直郷は別人→直郷(なほさと・永楽屋、15ct故実家) B 3 2 2 1
- F3157 **東四郎** (2世とうしろう・永楽屋、片野善長よしが、狂名;文屋古文) ?-1836 名古屋藩校御用達書肆、江戸出店、狂歌、宣長著書刊行;1810-12「玉勝間」1790-1822「古事記伝」刊
- F3132 **東四郎** (3世とうしろう・永楽屋、片野善教) ?-1858 名古屋書肆;藩校御用達、1814-49「北斎漫画」刊
- F3158 **藤四郎** (とうしろう・中川なかがわ、号;懐玉堂、屋号;河内屋) ?-? 京寺町通仏光寺角の書肆、1851「書画早引一覽大全」編/53「古今書画早引拾遺」著
- F3159 **東四郎** (4世とうしろう・永楽屋、片野善功) 1845-94 50 名古屋/大阪書肆:「狂歌年中行事」編、「近世百家絶句」刊
- 東四郎(とうしろう・永楽屋)→直郷(なほさと・永楽屋、15ct故実家) B 3 2 2 1
東四郎(藤四郎とうしろう・横田)→祈綱(のりつな・横田、商人/尊攘派) F 3 5 1 0
東四郎(とうしろう・馬詰)→親音(もとね・馬詰うまづめ、藩士/歌) D 4 4 6 6
東四郎(とうしろう・近江屋/伊藤)→多羅(たら・伊藤、葉種業/国学) S 2 6 9 7
東四郎(とうしろう・古海)→正顕(まさあき・宇都宮うつのみや、庄屋) N 4 0 9 0
藤四郎(とうしろう・毛利)→秀包(ひでかね・毛利/小早川、武将/連歌) C 3 7 9 9
藤四郎(とうしろう・加藤)→景正(かげあき・加藤かとう、陶工) B 1 5 9 5
藤四郎(とうしろう・勝川)→春水(しゅんすい・勝川/勝宮川、絵師) K 2 1 0 5
藤四郎(とうしろう・安藝)→文江(ぶんこう・安藝あき、材木商/俳人) F 3 8 1 8
藤四郎(とうしろう・水野)→忠央(ただなか/ただちか・水野、城主/学問) Q 2 6 2 8
藤四郎(とうしろう・鎌田)→正純(まさずみ・鎌田かまた、藩士/日記) D 4 0 0 8
藤四郎(とうしろう・山崎)→勝謙(かつかた・山崎やまざき、藩士/国学) W 1 5 1 0
藤四郎(とうしろう・水野)→忠幹(ただもと・水野みずの、家老/藩主/歌) U 2 6 4 1
藤四郎(とうしろう・伊達)→村倫(むらとも・伊達だて、領主) D 4 2 9 5
藤四郎(とうしろう・猿丸)→安時(やすとき・猿丸さるまる、庄屋/溜池築造) F 4 5 9 4
冬至郎(とうしろう・浅井)→凶南(となん・浅井、医者/本草/詩文) O 3 1 5 6
董四郎(とうしろう・狩野)→董川(とうせん・狩野かのう、奥絵師) T 3 1 4 1
藤二郎(とうじろう・伊達)→千広(ちひろ・伊達/宇佐美、藩士/歌) F 2 8 2 2
藤二郎(とうじろう・福井)→末美(すえよし・福井/度会/檜垣/久志本、神職) F 2 3 7 6
藤二郎(とうじろう・宇都宮)→孚(たかし・宇都宮うつのみや、国学/歌人) V 2 6 7 6
藤次郎(とうじろう・伊達)→政宗(まさむね・伊達だて、藩主/詩歌/連歌) H 4 0 7 7
藤次郎(とうじろう・伊達)→重村(しげむら・伊達だて、藩主/歌人) D 2 1 1 2
藤次郎(とうじろう・島津)→久賀(ひさか・島津しまづ、武将/家老) J 3 7 8 3
藤次郎(とうじろう・長尾)→秋水(しゅうすい・長尾ながお、遍歴/詩人) H 2 1 7 7
藤次郎(とうじろう・長谷川)→寛(ひろし・長谷川はせがわ、和算家/教育) F 3 7 8 8
藤次郎(とうじろう・亀田)→佳彦(よしひこ・亀田/度会/松木、神職) G 4 7 1 9

- 藤次郎(とうじろう・撰津国屋つづくにや)→仙塙(せんう・細木ほそき/源、商家/狂歌) L 2 4 6 7
藤次郎(とうじろう・細木) → 香以(こうい・細木、仙塙男/商家/俳人) 1 9 7 0
藤次郎(とうじろう・伊達) → 斉義(なりよし・伊達だて/田村、藩主) N 3 2 7 0
藤次郎(とうじろう・山本) → 広沢(こうたく・細井ほそい/辻、儒/書家) 1 9 1 4
藤次郎(とうじろう・野津) → 基明(もとあき・野津のづ、藩士/軍学) B 4 4 9 9
藤次郎(とうじろう・岡島) → 豊広(とよひろ・歌川うたがわ、絵師) R 3 1 5 3
藤次郎(とうじろう・春海) → 痴漸(ちぜん・春海はるみ、茶人/鑑定/商家) N 2 8 3 5
藤次郎(とうじろう・山田) → 雅信(まさのぶ・山田やまだ、国学者) T 4 0 5 0
東二郎(とうじろう・春田) → 正靱(まさとも・春田はるた、藩士/国学者) S 4 0 0 1
冬次郎(とうじろう・山崎/河内) → 常宣(つねのぶ・河内こうち/山崎、幕臣) D 2 9 0 4
桃次郎(とうじろう・阿部) → 東玉(とうぎよく・桃林亭、講釈師) C 3 1 8 9
銅次郎(とうじろう・七尾) → 宣陽(のぶあき・七尾ななお、紀行文) 3 5 7 5
冬信(とうしん・大炊御門) → 冬信(ふゆのぶ・大炊御門おおいみかど、廷臣/歌) E 3 8 3 5
東親(とうしん・片岡) → 東親(はるちか・片岡りかたおか/秋川、神職/国学) J 3 6 9 2
藤信(とうしん・山本) → 藤信(ふじのぶ・山本やまと、絵師) C 3 8 5 8
F3160 稲人(とうじん) ? - ? 大阪雑俳点者、1748新右衛門「兎の目」入
F3161 桃人(とうじん) ? - ? 雑俳/川柳、万句合、1796「古今前句集」(柳多留拾遺)入
豆人(とうじん;俳名) → 藤吉(とうきち・福泉ふくいずみ、将棋士) C 3 1 6 2
等塵(とうじん・住吉) → 弘貫(ひろつら・住吉、広行男/幕府絵師) G 3 7 4 5
F3162 道真(どうしん/みちざね・太田、資清かけよ、資房男、道灌の父) 1411-9282 武州河越城主;扇谷上杉家宰、
越生おごせ隠棲、連歌:心敬・宗祇を迎え「河越千句」興行、新菟入、道灌歌集「慕景集」の著者説?
F3163 道振(どうしん;法諱) 1772 - 182453 安藝豊田郡小谷の元浄寺の生;真宗本願寺派僧、
本山学林に修学/帰郷後;大瀛だいえい門/宗乗を修得、1811豊田郡本郷の寂静寺8世、
1812安居で「入出二門偈」を講ず/各地で講説教化、「藝陽宗要史」「篷窓閑話」「仏性義論」、
「入出二門偈略解」「仏性論講述」「真宗玄論」「玄義分專想録」「宝典標挙釈」外著多数、
[道振(;法諱)の別法諱/号]別法諱;恵群、号;嵩山そうざん/豊水、諡号;豊水院
道伸(どうしん・熊谷) → 道伸(みちのぶ・熊谷、庄屋/儒者・教育) C 4 1 2 2
道信(どうしん・藤原) → 道信(みちのぶ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 4 1 1 7
道信(どうしん/みちのぶ・有元) → 淵竜(えんりゅう・有元ありもと、医者/俳人) F 1 3 4 7
道信(どうしん・大岡) → 道信(みちのぶ・大岡おおおか、絵師) C 4 1 1 9
道信(どうしん・桂) → 道信(みちのぶ・桂かつら、藩士/詩文) C 4 1 2 0
道信(道神どうしん・伊藤) → 道信(みちのぶ・伊藤いとう、神職/国学) L 4 1 1 7
道臣(どうしん・河合) → 道臣(ひろおみ・河合かわい、家老/殖産/歌) F 3 7 6 1
道真(どうしん・菅原) → 道真(みちざね・菅原、右大臣/詩歌) 4 1 0 5
F3164 道甚(どうじん;法諱) ? - ? 僧(法師)/歌人、1384成立「新後拾遺集」603、
[あらましの心のうちに咲きそめて人に知られぬ山ざくらかな](新後拾;七603)
F3165 道尋(どうじん) ? - ? 南北室町期僧正/歌;1407内裏九十番歌合参加(;3首入)、
[よさの海や浦風わたるはしだての雪のたえだえ見ゆる松原](内裏九十番;五十八左)
道人(どうじん・西山) → 隆従(たかより・西山、藩士/歌人) N 2 6 8 2
等心院(とうしんいん;諡号) → 僧音(そうおん;法諱、真宗本願寺派学僧) G 2 5 4 0
同人館(とうじんかん) → 元珍(げんちん・平岩、藩士/儒/音楽) L 1 8 4 5
同心軒(とうしんけん) → 政香(まさか・渡辺/源、神職/国学/歌) B 4 0 6 4
F3166 道深親王(どうしんしんのう、後高倉院皇子) 1206-4944 母;藤原基家女陳子(北白河院)、仁和寺9代御室、
真言僧;1216道助親王門;出家、1220一身阿闍梨/21親王宣下/29二品/31仁和寺総法務、
六勝寺検校/1244明恵上人十三回忌導師、1224-30「金剛定院御室日次記」、「蒙散問」、
慶政と交流、歌人;秋風集・閑月集に入集/新続古今集849、
[うつつともいとどたのまじ年月の過ぎにしかたは夢となる世に](新続古;八釈教849)、
[道深親王の通称]金剛定院御室/開田院/大聖院だいしょういん
東津堂(とうしんどう) → 麻績一(おみいち・蘆野屋、鍼医/国学) B 1 4 5 8

- 藤津弁(とうしんのべん) → 師賢(もろかた・源みなと、廷臣/歌人) 4 4 3 2
- F3167 洞水(桃水とうすい;道号・雲溪;法諱)1612-1683⁷² 筑後柳川の曹洞僧:熊本^の 圀巖宗鉄門/法嗣、撰津法巖寺住持/肥前島原禅林寺住持;5年後行方不明;乞食姿で京・近江で行脚?、晩年は鷹ヶ峯に住し酢屋業、「光巖寺祖堂再営記」著
- F3168 嶋水(とうすい) ? - ? 京の雑俳点者;1696円水「誹諧住吉おどり」入
- F3169 桃醉(とうすい) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」入;
[牛のゆく道は枯野のはじめかな]
- F3170 洞水(とうすい/どうすい) ? - ? 京の俳人;「根無葛」編、1702轍士「花見車」評判目録入
- S3194 東水(とうすい) ? - ? 武蔵鴻巣の俳人;雑俳/1703不角「広原海わたつみ」入、
[二三首になりて気を持つ歌がるた](広原海/相手が強すぎるが最後に一枚は取りたい)
- F3171 東水(とうすい;号・大恵;法諱)?- ? 江前期羽黒山荒沢寺の修験僧/同寺山内経堂院住、1710刊「三山雅集」編(巢雲窟呂筋の発起)、「中山の記」著
- F3172 東推(とうすい・風雲台) ? - ? 江前期名古屋の俳人;露川門、1707露川「庵の記」、10「船庫集」編
- F3173 董水(東水とうすい・馬場ばば、名;政隆、春水男)1689-1766⁷⁸ 江中期江戸の書家;父[初世春水]門、「三蹟法帖」「筆法宝貝」「三十六歌仙帖」著、政宣(東岡)の父、
[董水(;)号]の通称/別号]通称;久米八/条助、別号;東水/春海堂/春水2世、法号;清顔院
- F3174 東水(とうすい・荒木あき、名;維岳、是水男)?-1793 江中期江戸の書家:丹波篠山藩書吏、「墨妙ひとり言」「正訛字考」「奉札秘伝抄」著、素履もとむの父、
[東水(;)号]の字/別号]字;嵩夫、別号;呉江
- F3176 東吹(とうすい・十二庵、通称;小島屋伊左衛門)?-?1796-99没 寛政1780-96頃広島^の 俳人;風律門、1792「さとのほる」/93「安藝広島十二庵」/95「春の粧」/96「幾代春著」著、安藝阿賀・黒瀬に門人多い、刷物「藝黒瀬乃美尾探題」著(;門人達と)、1799「十二葎東吹翁追悼之喰ざん」著、1789素釣「こてふつか」入、
[春小雨勤さんと儉げんとの簞に鉄](刷物「雞旦」)
- F3175 蝮水(とうすい・三須みす、名;成允)1751-1807⁵⁷ 周防岩国藩士;証文所に出仕/儒:独学で徂徠学、「考訂論語徴」「二弁所載古言」「学庸解」著、
[蝮水(;)号]の字/通称]字;子功、通称;孫兵衛
- W3115 等睡(とうすい・原田はらだ、通称;喜蔵/要右衛門)1756-1808⁵³ 越後蒲原郡国上真木山の庄屋、国学者、鵜斎じやくさい(医者/詩歌人/良寛の学友)の兄、円上寺新田開発のため他の庄屋達と水利事業
- F3177 桃睡(唐水とうすい・曲江亭きょくこうてい)?-? 越後椎谷の俳人/京住:暁台門;暁台の臨終に立会う、「曲江亭小集」著、1793臥央「落梅花」編に参加(:天巻に桃睡の「暁台終焉記」入)
- F3178 桃水(とうすい・河原、名;詮明)?-1801 佐渡の医者;京/江戸に遊学、俳人・俳画を嗜む、1798「塚原まうで」著、
[桃水(;)号]の通称/別号]通称;勇三/作右衛門/養元、別号;五々庵
- F3179 桃水(とうすい・八木田やぎた、名;政名、定常男)1779-1847⁶⁹ 肥後熊本藩士;1801家督/八代城附、八代普請支配頭当分/城附組脇/1825鉄砲頭;熊本住/1837致仕、少年時より肥後事蹟研究、正史・実録・地誌を蒐集・校訂;「新撰事蹟通考」著、1846「桃元問答」問、
[桃水(;)号]の幼名/通称/法号]幼名;亥之助、通称;十郎助、法号;文隆院
- F3180 刀水(とうすい・長沢ながさわ、名;茂泰)?-? 江後期越後長岡藩士、1833紀行「北枕きたまくら」著(;奥羽凶作探索巡察記)
- F3181 塘水(とうすい・諏訪すわ、名;武記、別号;日々庵にちぢあん)1792-? 1851存 仙台藩士/1849瑞巖寺で剃髪、俳人、1849「みつかかみ」編/51「ともあかり」編、「つゆあかり」編
- F3182 東水(とうすい;号・菊池きくち、名;武樹/通称;久之進)?-? 江末期江戸の馬医;馬の解剖を試行、1851「解馬新書」、53「相馬旋毛図解」、「東水経験療馬集」著
- 頭水(投錐とうすい・長野) → 馬貞(ばてい・長野、医者/俳人) F 3 6 3 4
- 稲穂(とうすい・笹屋) → 稲穂(いなほ、蘭秀堂/版元、嘶本) I 1 1 1 0
- 稲穂(とうすい・野田) → 美疎(よしのぶ・野田のだ、庄屋/国学/歌) M 4 7 1 8
- 洞水(とうすい・号) → 月湛(げつたん;法諱・全苗;道号、曹洞僧) H 1 8 2 3
- 洞水(とうすい・山地) → 祐類(すけとも・山地やまじ、和学/歌人) J 2 3 3 5

- 東水(とうすい;号) → 法住(ほうじゅう;法諱、真宗僧) F 3 9 0 6
 東水(とうすい;号) → 俵蔵(2世ひょうざう・勝、歌舞伎役/作者) F 3 7 3 1
 東水(とうすい・三木) → 通識(みちさと・三木みき、郷土史家) B 4 1 5 6
 当水(とうすい・佐々木) → 宇喬(うきょう・佐々木ささき、俳人) 1 2 1 1
 陶水(とうすい・京極) → 高朗(たかあきら・京極きょうごく、藩主/詩人) L 2 6 5 1
 灯瑞(とうずい;法諱) → 卍源(万源まんげん;道号・灯瑞、曹洞僧) K 4 0 4 6
- F3183 **道粹**(とうすい;法諱・純叟;字、号;鷲峯/諡号;本立院) 1713-6452 新潟生れの真宗本願寺派僧、
 教学;若霖・法霖門/漢学;宇野明霞門、羽後酒田の大信寺住職/1757学林の監護職;
 学林諸制度を整備、1758「真宗法要」編纂参画(僧樸・泰巖と)、「真宗秘鑰ひやく」「文軌針骨」、
 1743「安楽集正錯録」編/45「仏土眞仮凶説」56「要門弘願章節」63「般舟讚分科」外著多数
 動水(とうすい・伊村) → 鷗沙(鷗砂おうしゃ/おうさ・伊村、俳人/書) 1 4 4 8
 道吹(とうすい;法号) → 正郷(まささと・久貝くがい/藤原、幕臣/文筆) C 4 0 5 8
 道水(とうすい;字) → 良然(りょうねん;法諱、曹洞僧) L 4 9 5 8
- F3184 **道邃**(どうずい;号・正覚しょうかく;法諱、通称;播磨の道邃) ?-1157 平安後期京or播磨の天台僧、
 1107叡山で出家/諸師に従い天台学研究/1143播磨姫路山に称名寺創建、増位寺の長吏、
 「姫路鈔」「生死覚用抄」「天台三大部鈔」「天台法華疏記義決」1154-7「法華玄義釈籤要決」著
- F3185 **道瑞**(どうずい・有岡ありおか、姓;山田/or佐尾) ?-1736? 江前期摂津伊丹の俳人/茶人、京で活動、
 茶;久田宗也門or宗全門?、1722刊「茶道」著、「芳譚集」編、「一言茗談集」「茶湯百亭百会記」著、
 俳号;人角にんかく・じんかく/;重頼門、1725「和国丸むくまる」入/1702轍士「花見車」入、俳茶一如を主唱、
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 [枕蚊帳まくらがや時分時分の寐覚ねぞめ哉](花見車;175/枕蚊帳で昼寝の子供達は別々に目覚)
 [琴の後人雲に入る月見かな](伊丹発句合;秋)、
 [有岡道瑞(;号)の通称/別号]通称;酢屋庄右衛門、別号;人角/虚舟/隠竹斎
- 道邃(どうずい・北村) → 政従(まさより・北村きたむら、郷土/茶/歌俳) P 4 0 3 1
- 迹水庵(とうすいあん) → 野井(やせい・浅見あさみ音好、俳人/狂歌) D 4 5 6 4
 稲穂庵(とうすいあん) → 沢山人(たくさんじんたくさん、狂歌) O 2 6 0 1
 稲穂軒(とうすいけん・宇井) → 可道(よしみち・宇井うい、庄屋/歌/民俗学) L 4 7 7 0
 投帥子(とうすいし) → 良品(りょうばん・友田ともだ、藩士/俳人) J 4 9 4 5
- F3186 **東随舎**(とうずいしゃ、姓;栗原/通称;幸十郎) ?-? 江後期江戸の戯作者/狂歌:南畝・菅江らと交流、
 1783「閑栖劇話」1805「聞書雨夜の友」、「落葉集」「誠感集」「思出草紙」「憎まれ口」著、
 [東随舎(;号)の別号]二流間主/青雲軒主人/松寿館主人、
 道嵩(どうすう;字・淘空) → 淘空(とうくう;法諱、浄土僧) C 3 1 9 3
 道崇(どうすう・尾形) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8
 道枢(どうすう;字) → 環中(かんちゅう;法諱・道枢、真宗本願寺派僧) R 1 5 3 6
- F3187 **藤助**(初世とうすけ・森野もりの、名;通貞みちさだ) 1690-176778 大和宇陀郡松山の農家;葛粉くず製造、
 本草家/国学、1729(享保14)幕府採葉使植村政勝に随行;大和の薬草探索を手伝う、
 この功で幕府より薬草の種苗を受け自宅裏山に薬草園を開設、1741隠居;息子武貞に譲渡、
 「薬草殖方製法書上」「松山本草」著、1767(明和4)没、薬園は最初の私設植物園となる、
 [藤助(;通称)の号] 賽郭、屋号;大葛屋
- F3188 **藤助**(とうすけ・福松ふくまつ、姓;松延、名;甚左衛門) 1733-9664 筑後上妻郡福島町大庄屋/1757出奔、
 大阪で浄瑠璃作者(陶芋名)/1761豊竹座上演正本に合作者藤助名が出る、1762帰郷、
 俳人;蓼太門、1780再び大阪へ(「浪華日記行」著)、1759読本浄瑠璃「宇賀道者源氏鑑」、
 1760「祇園女御九重錦」「桜姫賤姫桜」/61「曾根崎模様」「人丸万歳台」62「岸姫松轡鑑」著、
 [福松藤助(;号)の別号]福松陶芋とう(初号)、俳号;紫雪庵官蘭/橘雪庵貫嵐
- 東輔(東祐とうすけ・並木) → 十輔(十介じゅうすけ・並木、歌舞伎作者) 2 1 4 6
 東助(とうすけ・滝/柳田) → 為貞(ためさだ・柳田/滝、藩士/歌人) S 2 6 4 0
 桐助(とうすけ・一色/一井) → 鳳梧(ほうご・一井いちのい/一色、儒者/教育) F 3 9 1 6
 登助(とうすけ・近藤) → 貞用(さだもち・近藤、幕臣/黄檗参禅) J 2 0 8 8

藤助(とうすけ・藤堂) → 元甫(もととし・藤堂とうどう、藩士/地誌家) D 4 4 2 9
 藤助(とうすけ・野尻) → 流憩(りゅうけい・野尻のじり、藩儒/教育) D 4 9 4 4
 藤助(とうすけ・恩田) → 周直(ちかなお・恩田おんだ、藩士/記録) B 2 8 3 7
 藤助(とうすけ・山鹿) → 高基(たかもと・山鹿、素行男/兵学者) N 2 6 3 8
 藤助(とうすけ・山鹿) → 高道(たかみち・山鹿やまが、藩士/兵学者) N 2 6 2 6
 藤助(とうすけ・野口屋) → 重門(重角しげかど・大矢/河地、商家/歌) C 2 1 1 0
 藤助(とうすけ・青木) → 桃溪(とうけい・青木、藩士/俳人) D 3 1 0 9
 藤助(とうすけ・益田/真下) → 晩菘(ばんすう・真下ましも、幕臣/詩/書) I 3 6 2 5
 藤助(とうすけ・長尾) → 景東(かげはる・長尾ながお、幕臣/記録) J 1 5 8 5
 藤助(とうすけ・山口) → 常庸(じょうよう・山口、俳人/戯作者) B 2 2 8 9
 藤助(とうすけ・山口) → 昭方(あきかた・山口やまぐち、書肆/国学) I 1 0 6 5
 藤助(3世とうすけ・森野) → 好徳(よしのり・森野もりの、本草学/製薬) P 4 7 6 8
 藤助(とうすけ・高橋) → 秀(しゅう・高橋たかはし、和算家) W 2 1 5 6
 藤助(とうすけ・宇野/細井) → 中台(ちゅうだい・細井/宇野、儒者) G 2 8 6 1
 藤助(とうすけ・中島/歌川) → 芳梅(よしうめ・歌川うたがわ、絵師) C 4 7 2 3
 藤助(とうすけ・向山) → 正方(まさかた・向山むこうやま/源、藩士/歌) T 4 0 0 5
 藤助(とうすけ・宮路) → 恒雄(つねお・宮路みやじ、農業/歌人) F 2 9 9 8
 藤助(藤介とうすけ・鍵屋) → 百樹(もつき・上田/波伯部、国学者) E 4 4 9 7
 藤助(とうすけ・安田) → 貞方(さだかた・安田やすだ、国学者/歌人) O 2 0 0 9
 堂助(どうすけ・笹森) → 重助(2世じゅうすけ・中村、歌舞伎作者) H 2 1 8 1
 銅輔(どうすけ・俵屋) → 立斎(りつさい・銭田ぜいた、商家/詩人) B 4 9 9 1
 道寸(どうすん・夕陽庵/天王寺) → 以春(いしゅん・八丈弘永、連歌/俳人) C 1 1 3 0

- F3189 桐井(とうせい) ? - ? 俳人;1690不角「二葉之松」1句入、
 [染まる気に白無垢着せん女の身](二葉之松;19)
 F3190 東井(とうせい・松葉軒、姓;川瀬かわせ、名;久寛) ?-? 和泉堺の武士、京住;一条家家仕、
 1787諺語辞典「譬喩尽たとえづくし」編、「絵本瀧ほう会立」著
 F3191 稲井(とうせい・鳴子庵なるこあん、通称;川崎屋庄三郎) 1740-180566 備後尾道の商家/俳人、
 1790七夕に「ふたつの星に奉る」主催、1791「塵塚」編、1803菊谿「ゆめのあきふゆ」入
 F3192 桃生(とうせい・鶴田) ? - ? 三河岡崎の俳人;暁台門、
 一族の卓池を暁台に紹介
 F3193 桐栖(とうせい・仁木にき) 1771 - ? 1820存 大阪の俳人:士朗門/享和1801頃摂津兵庫江川住、
 一草と交流、茶道の教授/茶人向け古道具・書画の売買周旋、挿花・書画・六弦琴を嗜む、
 1801「ちとりきゝ」03「そのことの葉」04「高真砂」09「みそさゝみ」11「士朗七部集」編、
 1815「秋の月」20「され翁」「有の儘」編/21「けふりの跡」編、「木魂」「若草集」編、
 [桐栖(;号)の通称/別号]通称;直兵衛/竹輔、別号;五彩/五彩堂
 冬成(とうせい・滋野井) → 公尚(きんひさ・滋野井しげのい、廷臣/日記) R 1 6 6 8
 冬青(とうせい・浅野) → 武経(たけつね・浅野あさの、藩士/国学/歌) U 2 6 3 3
 当清(とうせい・柳川) → 当清(まさきよ・柳川、遣米使随行/日記) C 4 0 3 5
 当政(とうせい・相良) → 当政(あつまさ・相良さがら、藩士/国学者) H 1 0 6 8
 藤政(とうせい) → 秀孝(ひでたか・藤原、詩人) D 3 7 1 2
 藤清(とうせい・藤原) → 藤清(ふじきよ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 3 8 4 4
 藤成(とうせい・上杉) → 藤成(ふじしげ・上杉[相]うえずぎ/藤原、武将/歌) I 3 8 8 1
 東靖(とうせい・和仲;道号) → 和仲(わちゅう・東靖、臨濟僧/文学) 5 3 4 9
 東井(とうせい・曲直瀬まなせ) → 玄朔(げんさく・曲直瀬/河崎、医者) J 1 8 1 4
 東井(とうせい・吉田) → 蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師) L 2 5 1 4
 東成(とうせい・谷口) → 蕪村(ぶそん・与謝、俳人/絵師) 3 8 1 1
 東靖(とうせい・和仲) → 和仲(わちゅう;道号・東靖、臨濟僧) 5 3 4 9
 東井(とうせい・聴松庵) → 直徳(なおのり・外山とやま、歌人) C 3 2 0 9
 棟世(とうせい・藤原) → 棟世(むねよ・藤原、廷臣/清少納言の夫) C 4 2 7 9

- 桃青(とうせい・松尾) → 芭蕉(ばしょう・松尾宗房、俳人) 3 6 1 7
 等清(とうせい・井上) → 寒瓜(かんか/かんが・井上いのうえ、俳人) D 1 5 4 9
 等誠(とうせい;法諱) → 顕室(けんしつ;道号・等誠、臨濟僧) J 1 8 4 1
 董正(とうせい・山内) → 董正(ただまさ・山内やまのうち、幕臣/代官) Q 2 6 8 4
- F3194 **道政**(とうせい/どうしょう;法諱、俗名;和田近江守)?-? 僧(法師)/歌人;1359成立「新千載集」1374、
 [伊勢の海のあまのたく縄我が方に心ひかねばくる夜半もなし](新千載;十三恋1374)
- F3195 **道盛**(とうせい;法名、俗姓;宇佐美うさみ、名;定興、宇佐美祐孝男)?-1491戦死 伊豆宇佐美の武将、
 文正1466頃越後守護上杉房定に請われ嫡男孝忠に越後琵琶島城主を継承させた、
 1491伊豆堀越で北条早雲と戦い没、「歴史略」著、
 連歌;新菟玖波2句入、歌;追善集「幾理乃乎加能歌集」、
 [道盛(;法名)の通称] 能登守
- F3196 **道生**(とうせい・みちお・武石たけいし、名;強恕、角右衛門男)1748-1831⁸⁴ 肥後小国の僧;
 阿蘇山西巖殿寺で出家、叡山延暦寺に修学/のち還俗、医・儒学;豊後の三浦梅園門、
 日向延岡で医業、幹の父、「歴史略」「症治準繩抄」著、
 歌を嗜む;追善集「幾理乃乎加能歌集」(門人甲斐士幹編)、樋口種実の師、
 [道生(:字)の号] 号;霧岡散人むこうさんじん、法号;唯心院
- S3186 **道生**(とうせい;名・古谷ふるや、善次郎男)1815-88⁷⁴ 駿河下小田の農家/和算家;1832岩本常師門、
 1833江戸/関流算学;長谷川弘門/天文・測量;久間修文門、54高輪沖御台場築造の測量掛、
 1855駿河田中藩算学師範;藩主の安房転封;城域測量に従事、1854「算法通書」編、
 [道生の通称/号]通称;定吉/節右衛門、号;藤岳、法号;関流院
- 道性(とうせい、以仁王男) → 道性(どうしょう、平安期真言僧/歌人) F 3 1 3 8
 道性(とうせい、龜山皇子) → 道性(どうしょう、鎌倉期真言僧/歌人) F 3 1 4 0
 道生(導生とうせい) → 道生(どうしょう、鎌倉期僧/歌・連歌) F 3 1 3 9
 道生(とうせい→どうしょう) → 鉄庵(てつあん・道生、鎌倉期臨濟僧/詩文) C 3 0 1 3
 道生(とうせい・人見) → ト幽軒(ぼくゆうけん・人見/小野/野、儒者) E 3 9 0 2
 道生(とうせい・小津) → 長正(ながまさ・小津おづ、商家/歌人) L 3 2 4 1
 道正(とうせい・矢野) → 道正(みちまさ・矢野やの、藩士/国学者) K 4 1 8 7
 道成(とうせい・源) → 道成(みちなり/みちしげ・源、廷臣/歌) C 4 1 1 1
 道成(とうせい・寺村) → 成範(しげのり・寺村、藩士/国学) S 2 1 1 9
 道成(とうせい・森田) → 道成(みちなり・森田もりた/湯口、大庄屋/歌) K 4 1 8 2
 道清(とうせい・源) → 道清(みちきよ・源、歌人) B 4 1 4 0
 道清(とうせい→どうしょう) → 道清(どうしょう・中坊、社僧/歌人) F 3 1 3 7
 道清(とうせい;法諱) → 太虚(たいきよ;道号・道清、黄檗僧) J 2 6 6 4
 道清(とうせい/みちきよ・伊藤) → 長右衛門(ちやうえもん・伊藤、俳/連歌) H 2 8 4 1
 道清(とうせい・幸阿弥) → 幸阿弥(二世こうあみ、蒔絵師) D 1 9 9 4
 道精(とうせい/みちきよ・横地) → 島狄子(とうてきし・横地、医者/書家) G 3 1 6 6
 道静(とうせい) → 古道(こどう・村井、医/俳/地誌) D 1 9 4 1
 道静(とうせい・村井) → 古道(こどう・村井むらい、医/俳人/地誌) D 1 9 4 1
 道誓(とうせい・法師) → 国清(くにきよ・島山はたけやま、武将/歌) C 1 7 7 0
 桃井庵(とうせいあん) → 和笛(わてき・桃井庵、川柳作者) 5 3 5 3
 桐井庵(とうせいあん) → 朝呼(ちやうこ、桐井庵、俳人;雑俳点者) I 2 8 1 7
 冬青園(とうせいえん) → 敷雄(しきお/のぶお・福田/瀬木、歌人) P 2 1 9 8
 冬青園(とうせいえん) → 徳風(とくふう・富田、商家/儒/国学者) L 3 1 3 3
 冬青吟社(とうせいぎんしゃ) → 武経(たけつね・浅野あさの、藩士/国学/歌) U 2 6 3 3
 桐井軒(とうせいけん) → 玉水(ぎよくすい・桐井軒、俳人;雑俳点) P 1 6 1 4
 凍青堂(とうせいどう) → 慈岳(じがく・三上、医者) P 2 1 8 0
 東井坊(とうせいぼう) → 寛佐(かんさ・寛左かんさ;法諱、天台僧/連歌) Q 1 5 4 9
 滕世竜(とうせいりゅう) → 直正(なおまさ・鍋島なべしま、藩主/詩歌) C 3 2 4 7
 冬青老人(とうせいろうじん) → 俊徳(しゅんとく・百々どど、医者) L 2 1 6 7
 東赤(とうせき・板坂) → ト斎(ぼくさい・板坂いたさか、医者) 3 9 6 3

- F3197 **道碩**(どうせき・河端かわはた、名;祐著)?-? 江中期美濃の和算家/京住、
1749「算法演段指南」著(;初心者用演段術)
道碩(どうせき・衣関) → 順庵(じゅんあん・衣関きぬどめ、医者;眼科) M 2 1 1 2
道碩(どうせき・門間) → 嘉寛(よしひろ・門間もんま、医者) G 4 7 5 8
道積(どうせき・前田) → 重教(しげみち・前田/菅原、藩主) S 2 1 8 0
- F3198 **桃雪**(とうせつ) ?-? 下野那須黒羽の俳人;
1689細道行脚の芭蕉・曾良と連句(;等躬「葱摺」入)
[雨晴れて栗の花咲く跡見あとみ哉](葱摺/芭蕉に送った発句/等躬・芭蕉・曾良が付句)
- F3199 **洞雪**(とうせつ/どうせつ) ?-? 京の俳人;1689「あら野」1句/90言水「新撰都曲」1句入、
月洞門の狂歌師か?、[冬枯れに風の休みもなき野かな](あら野;五)
- G3100 **等雪**(とうせつ・桜井さくらい) ?-? 江後期絵師;読本の挿絵、1800「絵本宇多源氏」画
- G3101 **冬拙**(とうせつ;号、姓不詳)?-? 江後期越後俳人;小千谷連、1811「三色のけふり」編
桃雪(とうせつ) → 桃隣(5世とまりん・山口/加藤、俳人) I 3 1 3 8
棟雪(とうせつ・細川) → 昌庵(しょうあん・細川ほそかわ、医者/俳人) V 2 2 2 1
- G3102 **道雪**(どうせつ・岡村) ?-? 室町後期播磨の歌人、「播州古所歌寄」
- G3103 **道雪**(どうせつ・戸次べつき/立花、名;鑑連あきつら、戸次親家男) 1513?-85 73歳? 武将/
豊後の大友宗麟家臣;年寄/各地転戦/1581宗麟の命で立花家を継嗣、
大友義統(宗麟男)が島津に大敗後反乱;筑前の反乱鎮圧に奔走し筑後北野の陣中で病没、
1579「戸次道雪書簡」著、養子;統虎(宗茂、高橋鎮種男)、
[道雪(;法名)の幼名/通称/号]幼名;八幡丸、通称;伯耆守、号;麟伯軒、鬼道雪と称さる
- G3104 **道晰**(どうせつ・鳥養とりかい/鳥飼、初名;宗晰、) ?-1602 京の書家;尊円流系鳥養流の書、
金春喜勝の右筆役、謡に熟達;1581喜勝より謡免許、謡本筆者/節付者、1594豊臣秀次に出仕、
1595「謡抄」編纂に参加、金春流謡本書写;1600-1車屋本整版印刷刊行(山科言経の協力)、
[道晰(;名)の号]号;吟松斎/江斎、屋号;車屋
- G3105 **道雪**(どうせつ・伴はん、名;一安、通称;喜左衛門) ?-1621 京の弓術家;吉田重勝門/雪荷流奥秘を受、
1588吉田流道雪派を立てその祖、細川幽斎の家臣/諸国遊歴、尾張徳川忠告に出仕、
大和郡山松平忠明に出仕;子孫の本系は郡山藩に/門人系統は熊本・広島・会津諸藩に拡大、
「遠矢心持口伝之辨」著
- G3106 **道節**(どうせつ・末吉すえよし、之重ゆきしげ男/祖父増重ますしげの養子) 1608-54 47 撰津平野の回船屋、
俳人;貞徳門、作句から[白禹流里しろりの道節]と喧伝された、1638西武さいむ「鷹筑波集」入、
梅盛「俳仙三十六人」・重以「百人一句」・西鶴「古今俳諧師手鑑」などに入集、
[もしあらば雪女もや白禹流里しろり]、義弟宗久そきゅう[寸計]も俳人、
[道節(;号)の名/通称]名;増則、通称:源太郎
- J118 **道折**(どうせつ・山脇やまわき) ?-? 江前期広島俳;談林系、1669維舟「桜川」75宗信「千宜理記」入、
1676「点滴集」/79言水「江戸蛇の鮓」/80不卜「向之岡」/81西鶴「大矢数」/調和「金剛砂」入
[山高し谷中や花のかくれ里](「江戸蛇の鮓」)
- G3107 **道説**(どうせつ・虎岩とらいわ、名;玄乙、侍医頼直男) 1628-1725 長寿 98歳 陸前仙台の医者;父門、
藩主伊達忠宗の命で内科を修学/1663藩主綱村の侍医、「仙台人物志」「燈前新話」著、
[道説(;通称)の幼名/字/号]幼名;卯之松、字;忍性、号;塞馬
道雪(どうせつ;法諱) → 梅嶺(ばいれい;道号・道雪、黄檗僧) C 3 6 3 0
道節(どうせつ・桑原) → 因碩(4世いんせき・井上、棋士) B 1 1 1 3
道節(どうせつ・富岡) → 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3
道設(どうせつ・人見) → 懋斎(ぼうさい・人見/小野/野/藤田、儒者/藩士) 3 9 8 9
頭雪眼月菴(とうせつがんげつあん) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0
踏雪軒(とうせつけん) → 磐斎(ばんさい、加藤、和学/歌学) 3 6 4 1
灯雪斎(とうせつさい・西郷) → 勝映(かつてる・西郷さいごう、藩士/俳人) N 1 5 5 5
桃雪亭(とうせつてい) → 大蟻(たいぎ・桃雪亭、俳人) B 2 6 2 3
- G3108 **等仙**(とうせん) ?-? 岩代須賀川俳人;調和門、1689等躬「葱摺しのぶずり」入
- G3109 **桃先**(とうせん・太田/大田おた、名;重英、白雪男/桃後の兄) 1678-1725 48 三河新城庄屋/酒・米・質業、
俳人;父門、1691芭蕉から号、1695支考「笈日記」98「続猿蓑」/99涼菟「皮籠摺かわごれ」入、

1699白雪「俳諧曾我」入、1699「茶のさうし」雪丸と共に編(路通の序/書名は芭蕉)、
[五つむつ茶の子にならぶ囲炉裏哉](茶のさうし)、

父	→	白雪(はくせつ・太田、商家/俳人)	D 3 6 4 8
弟	→	桃後(とうご・太田孝知、俳人)	G 3 1 0 9
雪丸	→	雪丸(ゆきまる・酔屋すや、俳人)	F 4 6 6 2

- G3110 **桃仙**(とうせん・内田うちだ、名;崎さき) 1681-1720/40 江戸の女流詩人:1690(10歳)六経を読む、
1691(11歳)で詩作、92(12歳)史記・左伝を読む;女子の神童と称さる、郡山侯奥向に出仕、
1693(13歳)將軍綱吉の前で詩経を講ず、1692「桃仙詩稿」著
- G3111 **棹川**(とうせん) ? - ? 京の俳人;信安門、1729隆志「俳諧草結」入、
[打騎うちりて月渡る橋もしやそれ](俳諧草結;238/渡月橋を渡る影はもしや知人かと)、
(新古今1499紫女;めぐり逢ひて見しやそれともわかぬ間に雲隠れにし夜半の月かな)
- G3112 **東川**(とうせん・大地おち、名;昌言、近知男) 1695-1752/or5458-60 加賀藩士/儒者:室鳩巢門、
経史・詩文に長ず、1725父の家督継嗣;28御書物奉行/48改作奉行、前田宗辰・重熙の侍講、
室鳩巢の外甥、「鳩巢先生文集」編、「献言類」「奚疑斎文録」「奚疑先生文集」著、
「瑟斎先生詩草」外著多数、
[東川(;)号]の字/通称/別号]字;士兪/行甫、通称;新八郎、別号;遜軒/奚疑/瑟斎、
法号;衆帰軒乘巖奚疑居士、印牧直道・加藤惟寅の師、養子;昌業まさなり
- G3113 **桶川**(とうせん・栗原くりはら[栗本]、名;永貞) 1701-62/62 武州足立郡桶川の儒者:太宰春台門、
「嘯風草」著、
[桶川(;)号]の字/通称]字;子元、通称;五郎八
- G3114 **東川**(とうせん・佐久間さくま、名;順助/茂/茂之、平兵衛宜言男) 1727-1796/or180070-74 江戸の書家、
1745大森木殿の猶子、幕臣;御勘定組頭/勘定吟味役、儒/経史:石川隆英門/高野蘭亭門、
細井九阜と親交、1765「天寿随筆」、「対馬国志草」「臨池家伝」著、
[東川(;)号]の幼名/字/通称/別号]幼名;富助、字;思明、通称;甚八/木殿、別号;吏隠亭
- T3105 **東銭**(とうせん) ? - ? 江中期俳人、
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
[爪音の手向も寒し松の風](しぐれの碑/発句)
- S3196 **とうせん**(;)組連) ? - ? 江戸駒込の雑俳;川柳の組連、
取次;1766「川柳評万句合」入、
取次例;[車引しつた娘でたゞ通し](66川柳評万句合/前句;盛り也けり々々)
- 3119 **稲川**(とうせん・山梨やまなし、名;憲/治憲、維亮4男/母;志賀) 1771-1826/56 駿河庵原郡西方村豪農の生、
幼少より学問;威山独雄門/一麟能仁の楽山亭入門、漢学;1781江戸湯島麟祥院の峨山慈棹門、
書;麻布曹溪寺滞在の趙陶斎門、古文辞学:1787江戸陰山かげやま豊洲・大岳太仲門、帰郷後独学、
1792母志賀・叔父塩屋観山・従者平蔵と3ヶ月西国巡遊(「随輿始筆」著/母;「春の道久佐」著)、
1794高木喜左衛門女の豊と結婚;志太郡小屋敷村に新居(;)昆陽堡・昆陽蚕室)し分家、詩作、
1805宣長門村松春枝と交流;触発され音韻学研究、1807江戸で服部季璋と永代橋落橋に遭遇、
1811駿府城付近の有度郡稲川村浅間社家稲河家の株取得;長男清臣に与え稲川村で後見、
この時;治憲・玄度・稲川に改む、1811駿府町奉行服部貞勝より「駿河大地誌」編纂総裁に任命、
貞勝により頓挫:「駿河国巡村記」19冊作成、1818城下大工町転居(薫徳精舎・楽山亭)、
経書・詩文の楽山吟社を結社;大野万斎・毛利伯諧・石上顕之・石上竹隠・新庄柏園らと交流、
1820長男宅住/花圃に新居(華圃精舎)/26次女望ら伴い江戸の陰山仲海宅に住;痼病で没、
著作のうち生前に刊行されたものは「稲川詩草」(5冊)のみ、但し遺稿多数あり;
遺稿は詩稿・文稿・雑稿及雑抄・書簡集などに分類されている、
詩稿;「昆陽詩集」「稲川詩稿」「丁丑戊寅稿」「己卯雜稿」「庚辰雜稿」「乙酉詩稿」「於陵樵唱」等
文稿;伝記「思旧漫録」(旧交27条記載;これで後世に存在判明者も多い)、「文緯ふい」など、
「古音律呂三類」「稲川水草」「山梨稲川集」「山梨稲川書簡」「山梨玄度先生詩稿」、
「晦休録」「九州紀行」「皇水経」「考声微」「古音譜」「説文字原」「駿河国志」外著多数、
[稲川(;)号]の字/通称/別号]字;玄度/子叔/子発/叔子/季発/文行、通称;東平、
別号;昆陽山人こやさんじん/不如無斎/於陵子/楽山亭/煙霞都尉/山野警民さんやごうみん
※「思旧漫録」(旧交27条)に記載された人物;

山梨玄参・永田龍山・蘿逕山人・宮文卿・葛溪山人・釈一麟・釈閔振・調古・調古門某、
 百老・島津玄仲・壽敬・念阿・山梨亮平・吉川禱久・徳田飲龍・無染・二渡無傳、
 野伯憲・徳洲・全提・祖仲・洒来・岩田菊逕・津公・寂公(宗千)・岳和卿

稲川の妻：豊(1771-1825/高木喜左衛門女)

長女：阿佐(1795-1857/儒医戸塚柳斎維春の妻)

長男：孫次郎清臣(1797-1877/浅間神社神官稲河家を継ぐ)

次女：望(1799-1863/視覚障害を負い琴を習う)

三女：登自(1801-?/掘田家に嫁ぐ)

四女：美賀(1805-1834/駿府商人で稲川と共に駿河国地誌編纂の新庄道雄男道昌の妻)

次男：直眩なおき(1807-1880/医学を修学/駿河藩医中村家を継ぐ)

三男：維竝(1809-?/駿府宝泰寺の僧)

五女：須賀(1811-?/山梨本家維久に嫁ぎ星野逸斎へ再嫁)

S3172 **桃泉**(とうせん;号) 1782 - 1853 72 江後期安藝加計の俳人/画、竹林庵を造営、
 「龍孫亭書画帳」著

S3173 **東舛**(とうせん;号) ? - ? 安藝瀬野の商家/俳人;柴籬/玄蛙と親交、
 1825「文政八酉之日記」著、
 1799安藝川尻に神官金竟と芭蕉追悼「薫風塚」を建立した東舛と同一か、
 同一なら通称;白石屋幸四郎/名;信義

V3182 **濤仙**(とうせん;法諱、) 1820 - 1878 59 信濃野尻の妙覚寺住職、歌人
 [濤仙の法名/法号]法名;素音、法号;濤僊

G3115 **藤川**(とうせん・三上みかみ/初姓;不破、名;黙) 1824-? 1863 存 美濃関ヶ原の儒者;神田柳溪門、
 江戸の昌平覺修学、兵法/武術も修得、諸国歴遊/近江湯田村の三上家の養子;医業継嗣、
 尊攘運動に参加;幕府の追求で1863逃亡、「関原図志」、1862「桑陰村莊詩鈔」著、
 [藤川(;号)の字/通称]字;土川、通称;主水

T3141 **董川**(とうせん・狩野かのう、木挽町狩野伊川栄信5男)?-1871 江後期:絵師、
 浜町狩野派狩野友川助信の養子;1841董川に改号、奥絵師、1844法眼、
 江戸城の本丸西の丸の障壁画制作に参加、成島柳北邸に出入(硯北日録入)、
 [董川(;号)の名/通称/別号]名;中信、通称;董四郎、別号;幸川(;初号)/董叔/全楽斎

東川(とうせん・忍岡/藤本)→ 常丸(つねまる・忍岡しのぶがおか、戯作/狂歌) D 2 9 8 1
 東川(とうせん・西田) → 耕耘(こうりん・西田、医者/茶人) H 1 9 4 7
 東川(とうせん;号) → 周斎(しゅうちやう;道号・大周、臨濟僧/詩) I 2 1 1 1
 東川(とうせん・佐久間) → 義明(よしあき・佐久間さくま/平清水、大庄屋/国学) M 4 7 9 5
 東仙(とうせん・伊藤) → 頼長(よりなが・伊藤いとう、藩士/歌人) J 4 7 3 2
 東佐(とうせん;法諱) → 峻厓(しゅんがい;道号・東佐、臨濟僧) M 2 1 6 0
 東泉(とうせん・清水) → 順蔵(じゅんぞう・清水しみず、本草家) L 2 1 3 8
 董宣(とうせん・菅原) → 董宣(ただのぶ・菅原、廷臣/漢学/歌) Q 2 6 3 8
 桃川(とうせん・優遊斎) → 優遊斎桃川(ゆうゆうさいとうせん、挿絵師) D 4 6 9 8
 桃仙(とうせん) → 早苗(さなえ・玉田、代官/文筆家) K 2 0 6 3
 桃仙(とうせん・塩谷) → 淳(じゅん・塩谷しおたに、医者/国学) O 2 1 7 3
 桃泉(とうせん・平林) → 盈淑(みつよし・平林、名主/歌文) F 4 1 2 2
 洞仙(東川とうせん・三浦) → 梅園(ばいえん・三浦、医者/哲学/詩) 3 6 0 2
 洞泉(とうせん;字) → 性善(しょうぜん;法諱・洞泉、真言僧) K 2 2 4 3
 洞泉(とうせん;法諱) → 林篁(りんこう、真宗僧/俳人) K 4 9 2 4
 等詮(とうせん・村上) → 冬嶺(とうれい・村上、医/詩人) I 3 1 4 4
 書川(とうせん;字) → 日潤(にちじゅん;法諱・一雨院、日蓮僧) C 3 3 2 8
 棠川(とうせん・瀬山) → 登(のぼる・瀬山せやま、藩士/故実) E 3 5 1 7
 藤仙(とうせん・所) → 典則(すけのり・所ところ/源、藩士/歌人) I 2 3 8 5
 等全(とうせん・村上) → 冬嶺(とうれい・村上むらかみ、医者/詩人) I 3 1 4 4
 陶然(とうぜん・岡田) → 陶然(とうねん・岡田、造酒家/俳人) G 3 1 8 6

- 東漸(とうぜん;道号) → 健易(けんえき;法諱・東漸、臨濟僧) 1809
東禪(とうぜん;初道号) → 黙洲(もくしゅう;道号・素漸;法諱、臨濟僧) 4494
逃禪(とうぜん・尾形) → 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B1893
- G3116 **道璿**(とうせん;法諱、俗姓;衛) 702-760⁵⁹ 河南省許州の律・華嚴僧/736榮叡・普照の要請で渡来、
大安寺西唐院住;律・禪・華嚴を教導、751律師/752東大寺大仏開眼呪願師、吉野比蘇寺隱遁、
「註梵網經」著、吉備真備「唐福光寺沙門道璿(とうせん)行実」入
- G3117 **道詮**(とうせん;法諱) ? - 876 平安前期武蔵の三論僧;法隆寺寿仁門;出家、
東大寺玄耀門;三論密教を究明/850仁明天皇の戒師/854景勝会第二座講師、
859法隆寺夢殿の再興企画;藤原良房に奏聞、864権律師/876律師/大和福貴寺創建、
「掌珍記」「因明四種相違義」「群家諍論撮要」「劫章頌記」「籤誨迷方記」「破乘章」著
- G3118 **道泉**(とうせん) ? - ? 連歌作者;1508?肖柏「池田千句」参加
- G3119 **道仙**(とうせん・芦屋あしや、号;著光軒(こうけん)?)?-? 安桃期天正1573-92頃播磨の陰陽家、道満の裔、
道海・道建の一族、播磨英賀城主三木氏の家臣、「府中記」著
- 道泉(とうせん;法諱・秋澗) → 秋澗(しゅうかん;道号・道泉、臨濟僧) W2183
道泉(とうせん・樋口) → 淳美(じゅんび・樋口ひぐち、産科医) L2179
道専(とうせん・菊田) → 有隣(ゆうりん・菊田きくた、医者/俳人) E4608
道亘(とうせん;法名) → 政春(まさはる・細川/源、武将/連歌) G4036
道仙(とうせん;法号) → 能氏(よしうじ・大蔵おおくら、能楽師;大鼓) C4721
道仙(とうせん・栗崎) → 道有(どうゆう・栗崎、外科医者) H3164
- G3120 **道禪**(とうぜん;法諱、彈正代弼仲資男) 1169-1256⁸⁸ 天台僧;定恵門/1198伝法灌頂を受、
天台教学;仁暁・禪覚・真円門、1241園城寺別当/権僧正、「胎蔵界口伝」著
- G3121 **道禪**(とうぜん;法諱、号;鳴滝法印/大納言法印、源通資男) 1190-1235 真言醍醐寺僧;
成賢より伝法灌頂を受/仁和寺第教院住/1229醍醐寺32世座主、1231祈雨の功で法印、
1232叡山大衆蜂起により座主を辞す/権大僧都、「灌頂式遍口抄靈尊」、兄弟;源雅親・道順
- G3122 **道全**(とうぜん;法諱) ? - ? 鎌倉末南北期僧(法師)/歌人;京極為兼と交流、
1346刊「風雅集」入(910/935)、
[岩だたみ登りわづらふ峰つづき雲にはづれてみゆるかけはし](風雅;九旅910)
- G3123 **道禪**(とうぜん;号・大坪おおつぼ、名;慶秀/広秀/有成) 1324-1407⁸⁴ 上総の馬術家;大坪流の祖、
馭馬に秀づ/鞍鐙の製作に長ず、応安1368-75頃上京;將軍義満・義持の馬術の師;
三河大坪郷を拝領し大坪氏を称す、晩年剃髮;号道禪、「鞍鐙之事」「鞍法寸之事」、
「大坪道禪鞍鐙事記」「大坪流秘伝書」「馬書大坪流三種之巻」「大坪流息合巻」「馬方百首」著、
[道禪(;号)の幼名/通称]幼名;孫三郎、通称;左京亮/式部大輔
- G3124 **道善**(とうぜん・松山まつやま、名;和民) 1763-1818⁵⁶ 出羽の医者;大森子陽門/中西深斎門;古医方修得、
漢画;福原五岳門/蘭方医学修得/帰郷;学館「生々富春館」を開設、医学用刑屍解剖を建議、
ロシアへの北辺防備をも幕府に建議、1804「踐耶論医道論」、「道無鬼神独往独来論」、
[道善(;通称)の号] 大年/富春館/壺天堂、養子;玄中
- 道全(とうぜん;法名) → 道磨(みちまろ・田中、国学/歌人) 4117
道前(とうぜん・九条) → 道前(みちさき・九条/藤原、廷臣) B4149
道禪(とうぜん;法号) → 朝定(あささだ・ともさだ・上杉/藤原、武将/歌) P3144
東漸院(とうぜんいん) → 日暎(にっえい;法諱、日蓮僧) F3331
湯浅軒(とうせんけん) → 伴鷗(ばんおう・橋本、商家/詩歌/俳) H3631
逃禅居士(とうぜんこじ) → 芝軒(しげん・鳥山とりやま、書家/詩人) D2145
棹川斎(とうせんさい) → 信水(しんすい・植村、俳人) Q2219
冬扇斎(とうせんさい) → 鈍斎(どんさい・小松、和算/天文) S3119
島僊子(とうせんし) → 寿稔(じゅねん・永田、篆刻家) 2177
冬扇子(とうせんし) → 観瀾(かんばん・大塚おつか、藩士/儒者) H1575
桃川舎(とうせんしゃ) → 岸虎(がんど・桃川舎、俳人) Q1536
東船笑楚満人(とうせんしゅうそまひと) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作) B1137
- G3125 **東船笑登満人**(とうせんしゅうとまひと) ?-? 1824-27春水南船笑楚満人「朧月夜」四-五編序(;実作者)
登仙笑苦人(とうせんしゅうとまひと) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作) B1137

- 東漸大師(とうぜんだいし) → 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1
 逃禅堂(とうぜんどう) → 壽安(じゅあん・北山きたやま/馬、医者) W 2 1 4 2
- G3126 桃祖(桃鼠とうそ・二階堂にかいどう)?-? 江中期岩代須賀川の徳善院の修験者、
 俳人:晋流・蓼太門、諸九尼と交流、1774「朝の栗」「軒の栗」「蕉翁八十年集」編、
 1776門人石井雨考に「夜話亭記」執筆、
 [桃祖/桃鼠(;号)の別号] 栗父坊/紅葉庵
- G3127 東走(とうそう) ? - ? 江中期但馬豊岡の俳人、
 蝶夢3回忌追善「俳諧童子教」(瓦全編)の上梓に施版、1773几董「あけ鳥」1句入、
 [菜の花の一反いたんばかり盛りかな](明鳥;187)
- G3128 東叢(とうそう・秋葉あきば、名;俊潤)1765-1837 常陸秋葉村の郷士、1807「北遊記」著、
 [東叢(;号)の字/通称]字;子徳、通称;友衛門
 稲叟(とうそう・三次みよし) → 稲斎(とうさい・三次、医者) E 3 1 2 8
 桃窓(とうそう・深川) → 山夕(さんせき・深川、俳人) G 2 0 4 3
 桐窓(とうそう・喜早) → 定中(さだなか・喜早きそ/度会、神職/記録) J 2 0 0 4
- G3129 藤蔵(とうぞう;通称・菊沢きくざわ)?-? 江前中期1684-1736頃/京の院経・暦師、
 菊沢家は1613以来毎年幸徳井家より暦草を貰い暦を版行、1736「仮名暦吉凶註」著
- G3130 桃三(とうぞう・千葉ちば) ? - ? 江中期大阪の医者/江戸住;関流和算教授、
 1775刊「算法少女」(千葉章子編)
 [桃三(;名)の字/号]字;子常、号;壺中隠者、章子あきこ(和算家)の父
 冬蔵(とうぞう・秋収、1790酒「学通三客」) → 内親好(ないしんこう、俳/戯作) 3 2 5 3
 冬蔵(とうぞう・池田) → 通斎(つうさい・池田いけだ、医者/解剖) 2 9 3 6
 東蔵(とうぞう・中村/水木) → 歌右衛門(2世うたえもん・中村、歌舞伎役者) 1 2 6 3
 東蔵(とうぞう・佐藤) → 信直(のぶなお・佐藤さとう、藩士/文筆家) C 3 5 4 8
 東蔵(とうぞう・野上) → 陳令(のぶはる・野上、藩士/儒者) C 3 5 8 5
 東蔵(とうぞう・荷田) → 御風(のりかぜ・荷田/羽倉/柴崎、国学) E 3 5 3 6
 東蔵(とうぞう・箕浦) → 筋山(せつざん・箕浦みのうら、藩士/儒者) L 2 4 0 6
 東蔵(とうぞう・志村) → 東嶼(とうしよ・志村しむら、儒者/詩文) F 3 1 2 0
 東蔵(とうぞう・松本) → 寒緑(かんろく、松本まつもと、藩士/儒者) R 1 5 9 0
 東造(冬造/藤蔵とうぞう・片山) → 兼山(けんざん・片山かたやま、儒者/経学) 1 8 1 5
 藤蔵(とうぞう・合原) → 窓南(そうなん・合原ごうはら、藩儒/宋学) C 2 5 6 5
 藤蔵(とうぞう・森本) → 甄里((せんり・森本もりもと、藩士/儒者) N 2 4 2 7
 藤蔵(とうぞう・恩田) → 周直(ちかなお・恩田おんだ、藩士/記録) B 2 8 3 7
 藤蔵(とうぞう・岸) → 千治(ちはる・岸きし、国学者) L 2 9 3 8
 藤蔵(とうぞう・前田) → 黙平(もくへい・前田/小西、俳人) B 4 4 0 9
 藤蔵(藤三とうぞう・内山) → 栗斎(りつさい・内山う/源、儒者/俳人) B 4 9 8 9
 藤蔵(藤三とうぞう・梅津/福原) → 資央(もとなか・福原/梅津、藩士/兵法) D 4 4 4 5
 藤蔵(とうぞう・慶徳) → 家雅(いえまさ/いえだ・慶徳けいとく/笠井、神職/歌俳) D 1 1 3 2
 藤蔵(とうぞう・山名) → 豊樹(とよき・山名やまな、藩士/神職/国学) T 3 1 3 5
 藤蔵(とうぞう・林) → 扶正(すけまさ・林はやし、藩士/皇典有職) I 2 3 9 5
 藤蔵(とうぞう・佐藤) → 行道(ゆきみち・佐藤さとう、国学者) G 4 6 8 7
 藤蔵(とうぞう・池永) → 祇徳(まさのり・池永いけなが、藩士/歌人) N 4 0 5 4
 藤三(とうぞう・赤井) → 東海(とうかい・赤井/芦田、藩士/儒者) B 3 1 9 3
 藤三(とうぞう・新井) → 政憲(まさのり・新井あらい/井村、歌人) N 4 0 2 4
 藤三(とうぞう・田原) → 亮昌(すけまさ・田原たわら、神職/歌人) I 2 3 7 3
 陶蔵(とうぞう・寺島) → 宗則(むねのり・寺島/松木、洋学/外交) C 4 2 2 3
 韜蔵(とうぞう・葛井) → 文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌) F 3 8 2 9
 道聡(道臈とうそう;法諱) → 宝洲(ほうしゅう;道号・道聡、黄檗僧) B 3 9 3 4
 道崇(どうそう;法諱) → 光宗(こうそう;法諱、天台僧;黒谷流祖) B 1 9 6 0
 道崇(どうそう・尾形) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8
- G3131 道蔵(とうぞう;法諱) ? - ?721;80余歳存 百濟僧;650-654頃渡来/成実宗を伝う、

- 683・688千魃に降雨の効験、721従来の業績に施物、「成実論疏」著
- 道蔵(どうぞう・松岡) → 道遠(どうえん・松岡まつおか/津村、医者) V 3 1 7 2
- 道増(どうぞう;法諱) → 聖護院道増(しょうごいんどうぞう、天台門跡/連歌) I 2 2 8 1
- 洞宗宏振禪師(どうそうこうしんぜんじ) → 玄透(げんとう・即中、曹洞僧) B 1 7 2 4
- 鬮草子(とうそうし・中島) → 魚坊(ぎよぼう・中島、歌人/俳人) Q 1 6 3 0
- 投宗竹(とうそうちく) → 投李(桃李とうり・駒木根こまぎね、藩士/俳人) I 3 1 0 7
- S3140 桃足(とうそく・上島うえじま、青人あおんど[[1660-1740]男)?-? 撰津伊丹の酒造業、伊丹派俳人、
耳広の兄、鬼貫おつらと同族
- 島足(とうそく) → 島足(しまり;姓不詳、万葉歌人) F 2 1 7 5
- 道足(とうそく)すべて → 道足(みちたり)
- 道則(とうそく・小川) → 道則(みちのり・小川おがわ、国学/歌人) I 4 1 2 4
- 藤蘇守(とうそしゅ) → 蘇守(そもり・伊藤/虚白堂、俳人) 2 5 8 1
- 3143 桐村(とうそん・杉浦すぎうら/本姓;高野、名;長房)1801-4242 仙台の音曲家、亘理邑主伊達家の家臣、
画;東東洋門/音楽;仙台の福井家門、槍術;西域運之進門、家臣を致仕;諸国周遊、
音曲;一絃琴に秀でる、長崎で春徳寺鉄翁に画法を修学、大坂の船中で客死、
「一絃琴四季今様譜」著、
[桐村(;号)の通称/別号]通称;極蔵/渡留/涉/東蘭、別号;隈南かいなん
- 3146 東村(とうそん・村上むらかみ、名;源勤)?-? 儒者/詩;
1790頃巖垣竜溪「松蘿館詩文稿」共編(;吉田南畝と)
- 東村(とうそん;号) → 靈彦(れいげん;法諱・希世;道号、臨濟僧/詩文) 5 1 0 1
- 桐村(とうそん・小室) → 元貞(げんてい・小室こむろ、医者/俳人) L 1 8 6 0
- 桐孫(とうそん・菊池) → 五山(ござん・菊池/修姓;池、儒/詩人) 1 9 2 7
- 桃村(とうそん・桑原) → 成徳(しげのり・桑原くわばら、藩士/詩) S 2 1 1 6
- 道存(とうそん;法諱) → 義規(よしみ・足利/源、武将) H 4 7 2 6
- 道存(とうそん・徳田/金子) → 厚載(あつり・金子かねこ、藩士/測量/歌) E 1 0 7 9
- 糖尊者(とうそんじゅ) → 田鶴樹(たづき・浅見、俳人) 2 6 3 6
- 東村叟(とうそんそう) → 綱村(つなむら・伊達だて、藩主/歌人) B 2 9 3 7
- 東邨野老(とうそんやろう) → 松宇(しょうう・国枝くにえだ、商家/儒者) G 2 2 9 5
- W3165 藤太(とうた・武藤むとう、)1829 - ? 甲斐八代郡上黒駒村の檜峰ひみね神社祠官、
幕末期;国事に奔走、国学者、維新後;権中講義、浅間神社宮司
- 藤太(とうた・俵) → 秀郷(ひでさと・藤原、武将) D 3 7 0 5
- 藤太(とうた・宇院) → 興風(おきかぜ・藤原、歌人) 1 4 1 1
- 藤太(とうた・梅津) → 敬忠(よしただ・梅津/藤原、藩士/兵学) E 4 7 2 4
- 藤太(とうた・佐川) → 魚丸(うおまる・佐藤、狂歌) 1 2 0 1
- 藤太(とうた・柳村/鹿持) → 雅澄(まさずみ・鹿持かもち/飛鳥井/柳村、藩士/国学者) 4 0 0 9
- 藤太(とうた・狩野) → 養長(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学) F 4 5 7 2
- 藤太(とうた・本多) → 俊民(としたみ・本多ほんだ、藩士/神職/歌) V 3 1 3 5
- 稲太(とうた・富田) → 筋斎(せつさい・富田、役人/国学/詩歌) L 2 4 0 3
- 当太(とうた→まささと・杉山) → 大象軒(たいぞうけん・杉山、兵法家) K 2 6 5 7
- 東岱(とうたい) → 波響(はきよう・蠣崎/松前、家老/絵師) C 3 6 4 6
- 東岱(とうたい・鶴飼) → 忠郷(たださと・鶴飼うがい、藩士/国学) V 2 5 7 8
- 藤岱(とうたい・藤) → 広則(ひろのり・藤とう/藤原、暦算家) G 3 7 8 8
- 藤泰(とうたい・山根/桑原) → 黙斎(もくさい・桑原/山根、宿場取締/史家) 4 4 8 5
- 登代(とうたい・毛利) → 登代(とよ・毛利もり/立花、藩主室/歌) W 3 1 6 8
- G3132 道岱(どうたい;法諱・雲崖うんがい;道号)?-1733 京の臨濟僧:天竜寺古靈道充門、1733天竜寺213世、
「江雲隨筆」著
- 東泰院(とうたいいん;諡号) → 光從(こうじゅう;法諱・宣如/真宗大谷派僧) J 1 9 5 4
- 当体院(とうたいいん) → 頼貞(よりさだ・松平まつだいら、藩主/武術) I 4 7 6 4
- 藤太沖(とうたいちゅう) → 荷澤(かたく・畑中、藩儒/詩歌) C 1 5 3 2
- X3123 藤大納言(とうだいなごん・式部卿親王家しきぶきょうのみこけ、)?-? 鎌倉後期:女房歌人;冷泉派歌人、

式部卿久明親王(鎌倉幕府8代将軍/1276?-1328)家に出仕、

歌;為相撰?1310成立[柳風和歌抄]4首入、

[おもひやる都の春のおもかげにむかしをもみるしがのほなぞの](柳風抄;春29)

藤大納言(とうだいなごん) → 実国(さねくに・藤原) D 2 0 0 2

藤大納言(とうだいなごん) → 為世(ためよ・二条/御子左、廷臣/歌人) 2 6 8 2

藤大納言典侍(とうだいなごんのすけ・てんじ) → 為子(ためこ、京極為教女/歌) G 2 6 7 9

藤大納言局(とうだいなごんのつぼね) → 春芳院(しゅんぼういん、持為女、歌人) K 2 1 4 8

陶沢(とうたく・二階) → 道一(みちかず・二階にかい/白上、藩医/歌) K 4 1 0 2

G3133 道琢(とうたく・目黒めぐる、名;尚忠) 1724-9875 岩代会津医者、1765多紀元孝の医学館創立時に助教、
大番青木家に出仕/磐城白河藩主松平家家臣、鈴木良知の師、
「餐英館雑話」「餐英館療治雑話」「驪家医言」「非非十四経弁」「傷寒論集解」「靈樞箋」著、
[道琢(;号)の字/別号]字;恕公、別号;飯溪

藤太左衛門(とうたさえもん・二宮) → 政勝(まさかつ・二宮にのみや、藩士・歌) R 4 0 3 3

G3134 堂駄先生(どうだせんせい、本名不詳)?-? 洒落本;1772-81頃刊「奴通やっこつう」(;葛飾土民序)

G3135 道達(どうたつ/みちさと・宮川、宮川松堅の甥?)?-1701 江前期;江戸の和学者/歌;加藤磐斎門、

漢学・書画にも精通、1682漢和撰俳諧辞書「眠寤(みんご)集」86「瀟湘八景詩歌鈔」編、

1690晩山と両吟漢和(:「千世の古道」に入)、中世からの紀行文を蒐集;「詞林意行集」編、

詩学入門書「和語円機活法」著/「訓蒙故事要言」著、1701(元禄14)8月5日没、

没後;1722松堅[倭譚五十人一首]入/内海頭札[同追加]2首入、

[年の内に立春ありし元日に、

上かみに立たむこともかたしや年の内の春にくらぶる今朝のはつ空)、

(倭譚五十人一首;28/一翠名)、

[佐保姫の糸よりつげるわざなれや限りもあらず永き日影は](同追加;遅日)、

[道達(;名)の号] 一翠/一翠子/和竹軒/如竹軒/三養軒

☆宮川松堅 → 松堅(しょうけん・宮川正由/正行、俳歌人) 2 1 7 4

東太夫(とうだゆう) → 寄園(きえん・榊原さかきばら、絵師) J 1 6 7 3

東大夫(とうだゆう・伊豆) → 盛継(もりつぐ・伊豆いず、神職/歌人) F 4 4 7 3

藤太夫(とうだゆう・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8

藤太夫(とうだゆう・天野) → 桃隣(ももりの・初世とうりん・天野あまの、俳人) 3 1 2 9

藤太夫(とうだゆう・川端) → 陶丘(すえたか・川端かわはた、藩士/俳人) I 2 3 3 0

藤太夫(とうだゆう・明石) → 貞弘(さだひろ・明石、藩士/兵法家) J 2 0 5 5

藤太夫(とうだゆう/ふじだゆう?・森) → 鯨吹(げいすい・森もり、俳人) D 1 8 5 4

藤太夫(とうだゆう・青地) → 浚新(しゅんしん・青地、礼幹、藩士/儒) K 2 1 0 0

藤太夫(とうだゆう・山内) → 俊温(としあつ・山内やまのうち、藩士/学制改革) M 3 1 0 4

藤太夫(とうだゆう・柏淵) → 嘉一(よしかず・柏淵かしづち、儒/国学者) M 4 7 1 6

藤太夫(とうだゆう・柏淵) → 静夫(しずお・柏淵、嘉一男/里正/儒・国学) N 2 1 9 9

藤太夫(とうだゆう・香川) → 庸昌(つねまさ・香川、地誌/俳人) B 2 9 3 1

銅駝余霞楼(どうたようかろう;座敷名) → 棕隠(そういん・中島、詩歌/狂詩) 2 5 0 4

東太郎(とうたろう・波多野) → 春郷(はるさと・波多野はたの、神職/国学) K 3 6 5 8

藤太郎(とうたろう・秋田) → 実季(さねすえ・秋田/安倍、武将/藩主/詩歌) D 2 0 0 8

藤太郎(とうたろう・秋田) → 俊季(としすえ・秋田あきた、実季男/藩主) T 3 1 9 6

藤太郎(東太郎とうたろう・市岡) → 猛彦(たけひこ・市岡、藩士/国学・歌) E 2 6 4 9

藤太郎(とうたろう・武田) → 立斎(りつさい・武田たけだ、儒医/経学) B 4 9 8 7

藤太郎(とうたろう・土肥) → 延平(のぶひら・土肥どひ、藩士/歌/武術) J 3 5 2 6

藤太郎(とうたろう・三宅) → 康高(やすたか・三宅みやけ、藩主/茶人) G 4 5 8 1

藤太夫(とうたろう・坂井/本島) → 松陰(しょういん・本島もとしま/坂井、藩士/海軍) F 2 2 0 8

桃太郎(董太郎とうたろう・浅井) → 紫山(しざん・浅井、藩医者/詩・書) T 2 1 5 9

銅駝老人(どうたろうじん) → 康道(やすみち・二条/藤原/九条、摂政) D 4 5 0 5

道蛇楼麻阿(どうだろうまあ) → 岡持(おかもち・手柄、朋誠堂喜三二、黄表紙/狂歌) 1 4 0 9

道坦(どうたん;法諱) → 万仞(ばんじん;道号・道坦、曹洞僧) I 3 6 0 7

- 道坦(どうたん・桂) → 金溪(きんけい・桂かつら、藩士/儒者) I 1 6 9 8
 道坦(どうたん・矢野) → 容斎(ようさい・矢野やの、儒者/測量術) 4 7 9 0
 道旦居士(どうたんこじ・生白) → 熙近(ひろちか・竜りゅう/竜野、神仏道/俳人) G 3 7 3 4
 桃地(とうち;号) → 巢居(そうきよ;号、僧/俳人) B 2 5 0 6
 疇致(とうち・関) → 良致(よしむね/りょうち・関せき、医者/教育) N 4 7 5 6
 陶痴(とうち・刑部) → 玄(げん・刑部おさかべ、神職/歌/陶器研究) N 1 8 6 6
 G3136 道智(どうち;法諱) ? - ? 俗名;二階堂行氏[1221-71]か?、僧(法師)/歌人、
 1364成立「新拾遺集」1370、
 [今ぞ知るまくずが原に吹く風のうらみも恋にかへるものとは](新拾遺;十五恋1370)
 G3137 道智(どうち/みちとし;名・西にし、号;宗菴) ?-?寛文(1661-73)頃没 江前期;京の医者、古典研究、
 「平治物語大全」、1656「尊卑分脈」編、58「徒然草金槌」59「太平記大全」著、
 「保元物語大全」「本朝雑談抄」「源氏物語綱目」外多数
 道智(どうち;入道号) → 頼景(よりかげ・安達/藤原/関戸、歌人) 4 7 4 1
 道智(どうち;入道号) → 満詮(みつあきら・足利あしかが/源、武将/歌) D 4 1 0 3
 道智(どうち・鉄文) → 鉄文(てつもん・道智、黄檗僧) C 3 0 6 5
 道知(道智どうち・太田) → 道知(道智みちとも・太田おた/池上、藩士/歌) H 4 1 4 6
 道知(どうち・仁木) → 道智斎(どうちさい・二鬼島、商人/史家) G 3 1 4 0
 道知(どうち・神谷) → 本因坊道知(ほんいんぼうどうち、棋士) F 3 9 5 0
 道治(どうち) → 通直(みちなお・河野、武将/城主/連歌) C 4 1 0 6
 東池菴(とうちあん) → 志夕(しせき、俳人) E 2 1 2 9
 桐茅庵(とうちあん) → 曲坡(きょくは、俳人・雑俳点者) D 1 6 0 8
 G3138 東竹(とうちく・須田) ? - ? 岩代の俳人:風虎系、
 1669「百五十番誹諧発句合」右方参
 S3169 東竹(とうちく・宇都宮うつのみや、名;光信) ?-? 安藝矢野村の庄屋/俳人;風律・梅北らと交遊
 G3139 道竹(とうちく・石河いしかわ/石川、名;定源、細川堯有男) 1687-1765 79 山城嵯峨の儒者;中江藤樹門、
 伊勢津藩士石河咸倫の養子/1711家督;津藩藩学教授、伊勢陽明学の祖、
 「藤樹先生学術定論」/1723「知止歌小解」著、
 [道竹(;号)の字/通称/別号]字;孔昭、通称;文左衛門、別号;焉用軒、領全(隠居号)
 道筑(とうちく・成島) → 錦江(きんこう・成島、茶/儒/歌人) 1 6 6 1
 東竹庵(とうちくあん) → 椿堂(ちんどう・徳田、俳人) K 2 8 9 4
 東竹亭(とうちくてい) → 知隆(ともたか・小塚こづか、神職) P 3 1 6 5
 G3140 道智斎(どうちさい・二鬼島にきじま、姓;仁木、名;義治) 1565-1653 89 阿波勝瑞城下の生、
 1585徳島城主蜂須賀家政に招請され徳島に移住;商人として紺屋司となる;
 領内の紺屋・灰屋の租税徴収を担当、史家、出家し二鬼島道智斎と改名;1635大原村に隠居、
 「昔阿波物語」「三好物語」著、
 [二鬼島道智斎(;号)の通称/別号]通称;又五郎/呉服屋又五郎、別号;道知
 東知退(とうちたい・相田) → 信也(のぶなり・相田あいだ、儒者/詩歌) C 3 5 5 9
 桃池堂(とうちどう) → 桃隣(初世とうりん・天野あまの、俳人) 3 1 2 9
 G3141 桃丑(とうちゆう・菅沼すがぬま、新八郎) ?-? 江中期江戸の俳人、
 1733「臥龍梅がりょうばい」編(;亀戸天神奉納)
 藤忠(とうちゆう・山田/速水) → 常忠(つねただ・速水かやみ/山田、故実/歌) C 2 9 4 4
 棟仲(とうちゆう・平) → 棟仲(むねなか・平たいら、廷臣/歌人) B 4 2 9 6
 東仲(とうちゆう・鴨井) → 熊山(ゆうざん・鴨井かもい、儒者/詩文) C 4 6 0 1
 G3142 道忠(とうちゆう;法諱・号;乗円房) ?-1281 叡山僧;聡恵門/南都の蓮乗門/浄土僧;良忠門、
 1260唯識修学;顕静門、1269「浄土群疑論」、「釈浄土群疑論探要記」「両界略次第」著、
 S3179 道仲(とうちゆう/みちなか;姓不詳) ?- ? 大阪住人、狂歌;1666行風「古今夷曲集」入
 [笠鐘も捨てて菩提を悟れかし生木なまきに鉦なたや気の毒な体でい](古今夷曲集;903)、
 (詞書;京のなた屋が発心し鐘を叩き大笠を着て京中を歩くのを見て詠む)
 G3143 道忠(とうちゆう;法諱・無著むちやく;道号、藩士熊田正利男) 1653-1744 92 母;大野徳子、但馬竹野の僧、

幼時に出石如来寺入、臨濟僧；京妙心寺竜華院の竺印祖門門/師没後1677竜華院住持、1707妙心寺住持；14・21妙心寺輪住/22竜華院退隱、宋元の俗語研究、「助字体」「正法山誌」、仏典研究；「勅修百丈清規左觸」「禪籍事類」「圓悟心要助覽」「金剛經考証」「宗鏡録詳約」、詩：「照冰堂詩集」「葆雨堂詩集」、「鎌倉五山誌」「是知録」「筑紫遊記」「風流袋」外著多数、
[無著道忠の号] 照冰堂/葆雨堂、

道中(どうちゆう) → 円環(えんかん・了齋(りょうわ、真宗大谷派) E 1 3 5 4
 道忠(どうちゆう/みちただ) → 自安(じあん・河浪/菅原、医者/儒者) B 2 1 0 6
 道忠(どうちゆう・山崎) → 道忠(みちただ・山崎やまさき、国学/歌人) K 4 1 8 9
 道冲(どうちゆう・小篠) → 敏(御野みぬ・小篠/篠/田淵、藩士/儒・国学) F 4 1 4 2
 道冲(どうちゆう・山崎) → 蘭洲(蘭州らんしゅう・山崎やまさき、藩医) C 4 8 5 8
 稲中庵(どうちゆうあん) → 黒露(こくろ・山口、俳人) C 1 9 4 0
 稲中庵(2世どうちゆうあん) → 稲後(とうご・小倉、黒露門俳人) D 3 1 6 9
 棹中斎(どうちゆうさい) → 信舟(しんしゅう・植村、俳人) E 2 2 4 5

G3144 **東潮**(とうちゆう・和田わだ) 1658- 1706 49 岩代福島の武士；出羽米沢住/江戸日本橋西河岸に住、
 俳人：嵐雪門、諸国行脚、1692「富士詣」「東潮富士百句」/94「松かさ」/95「渡鳥」編、
 1696「平包ひらつみ」編、1700「えの木」/「先日さきのひ」編、「賀之満多知」「枝うつり」編、
 1702轍士「花見車」入、「続猿蓑」入、[願はしや雲雀の中の昼狐](花見車；三79)、
 [東潮(；号)の別号] 一甫/堵中子とちゅうし/東潮庵、西河岸の東潮と称さる、冬松の父

G3145 **東朝**(とうちゆう・松壽軒) ? - ? 江戸洒落本作者；1777「当世穴知鳥」著

G3146 **稲長**(とうちゆう・梨本なしもと、名；信治、信光男) 1770-1841 72 信州高山村の地主・酒造業、
 俳人：一茶門；帰郷後の一茶を支援、「あつくさ」著、妻は俳人梨本牧人女、
 [稲長(；号)の通称/法号]通称；義助、法号；証誠庵釈稲長信士

冬長(とうちゆう・藤原) → 冬長(ふゆなが・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 3 8 3 4
 桃潮(とうちゆう・広瀬) → 月化(げつか・広瀬ひろせ、商家/俳人) B 1 8 0 1
 藤長(とうちゆう・甘露寺) → 藤長(ふじなが・甘露寺かんろじ/藤原、廷臣/詩) C 3 8 5 4
 藤長(とうちゆう・田口) → 藤長(ふじなが・田口、藩士/絵師/狂歌) C 3 8 5 5
 董長(とうちゆう・荻野) → 梅塙(ばい・荻野おぎの、幕臣/天台) 3 6 5 8

G3147 **道澄**(どうちゆう；法諱、太政大臣近衛植家男) 1544-1608 65 聖護院門跡/園城寺長吏/熊野三山檢校、
 大僧正/准三宮、叔父道増に従い得度；1575増鎮より灌頂、歌・連歌、1571大原野千句参加、
 1578羽柴千句巻頭発句/94秀吉家康玄旨紹巴らと「何衣百韻」、外百韻・和漢聯句多数、
 [今日こそは花さかぬ松もをしほ山](大原野千句；第一；何路発句/白名)、
 [道澄の号/一字名]号；照高院/浄満寺、一字名；白/聖

G3148 **勳潮**(どうちゆう；法諱・通紹；字、俗姓；岡野) 1709-95 87 武州忍の真言僧；長久寺光如門/出家、
 智積院で修学/幸心流；醍醐寺実雅門/伝法院流；仁和寺宥証門、幕命で1769江戸眞福寺23世、
 1773智積院22世/正僧正、1779養命坊に退隱、智山第一の事相家、1766「金宝集伝授手鑑」、
 1766「厚雙紙伝授手鑑」81「十八道伝授手鑑」「金剛界伝授手鑑」、「四度手鑑」「秘鈔手鑑」外多

道昶(どうちゆう；法諱) → 蘭山(らんざん；道号・道昶、曹洞僧) C 4 8 2 6
 道澄(道微どうちゆう；法諱・月潭) → 月潭(げつたん；号・道澄、黄檗僧) H 1 8 2 2
 道超(どうちゆう；法諱・天岩) → 天岩(てんがん；道号・道超、黄檗僧) D 3 0 2 6
 道超(どうちゆう；法諱) → 性海(しょうかい；法諱、本願寺派僧) H 2 2 6 0
 道長(どうちゆう・藤原) → 道長(みちなが・藤原、太政大臣/詩歌) 4 1 1 3
 道長(どうちゆう→どちゆう・土岐) → 幸阿弥(初世こうあみ、蒔絵師) 1 9 6 4
 道長(どうちゆう・北山) → 壽安(じゅあん・北山きたやま/馬、医者) W 2 1 4 2
 道長(どうちゆう・片岡) → 道長(みちなが・片岡かたおか/中村、国学/役人) I 4 1 6 9
 道張(どうちゆう・笹川) → 道張(みちはる・笹川ささがわ/源、藩士/歌) J 4 1 2 2
 道朝(どうちゆう；法諱) → 春深(しゅんしん；房・道朝、真言僧/書家) Z 2 1 9 9
 導朝(道朝どうちゆう・法師) → 高経(たかつね・斯波/足利、幕臣/連歌) M 2 6 2 8
 東潮庵(とうちゆうあん) → 東潮(とうちゆう・和田、俳人) G 3 1 4 4
 東蝶庵(とうちゆうあん) → 可叟(かそう・東蝶庵、俳人) M 1 5 7 5
 桃丁庵(とうちゆうあん) → 亀毛(きもう、俳人) G 1 6 2 8

- 東朝軒(とうちょうけん) → 龜伯(きはく・高木たかぎ、俳人/和算家) L 1 6 7 9
 東蝶山人(とうちょうさんじん) → 寿助(寿輔じゅうすけ・宝田、歌舞伎作者) I 2 1 7 6
- G3148 **道朝親王**(とうちょうしんのう;法諱、通称;下河原宮、後円融天皇皇子)1378-1446⁶⁹ 母;四条隆郷女今子、二品/真言僧;乘朝親王門、仁和上乘院門跡、歌;「道朝法親王百首」著、永享百首入、新統古今2首;592/1998
 [時しあれば色をもそへつ五十あまり過ぎし老曾の森の紅葉ば](新統古今:五秋592)
 (老曾の森おそもりは近江安土の奥石おそ神社の森;歌枕)
- 桶蝶楼(とうちょうろう) → 貞房(さだふさ・歌川/大沢、絵師) F 2 0 5 1
- G3150 **当直**(とうちよく) ? - ? 京俳人;1633重頼「犬子集」2句入
 [生まれながら知る鶯や法りの声](犬子集;一196)
- 稲直(とうちよく・足立) → 稲直(いなお・足立あだち、国学/書) D 1 1 1 0
 道直(とうちよく・藤原) → 道直(みちなお・藤原/富小路、廷臣/連歌) C 4 1 0 5
 道直(とうちよく・野口) → 道直(みちなお・野口のぐち、商家/国学者) C 4 1 0 7
 道直(とうちよく・大條) → 道直(みちなお・大條おおえだ、藩士/奉行) J 4 1 5 7
 道直(とうちよく・永島) → 道直(みちなお・永島ながしま、歌人) H 4 1 8 8
- G3151 **道珍**(どうちん;法諱、俗姓;橘)?- ? 825存 奈良・平安前期真言;762下野大山薬師寺で出家、補陀洛山勝道上人門;沙弥戒を受、820下野下向の空海門;密教を受/日光に滝尾寺を創建;のち御願寺とし空海を開山;道珍を2世とす、橘利遠の一族、「補陀洛山建立修行日記」、「日光山記」「日光山滝尾建立草創日記」著
- G3153 **道珍**(道珍どうちん;法諱、太政大臣鷹司基忠男/本姓;藤原)1270-1309⁴⁰ 天台僧;
 1298山城解脱寺静珍門/灌頂を受、1308園城寺長吏、南滝院大僧正、歌;玉葉集661/2690、
 [紀の海や浪よりかよふ浦風に遠山晴れていづる月かげ](玉葉;五秋661)
- G3154 **道珍**(どうちん、隠岐入道、俗名:佐々木ささき信濃五郎左衛門尉)?-? 1356-61頃室町幕府御陪膳人衆、連歌;菟玖波集入1482;
 [おどろけば身より外なる夢もなし](前句;よしやうき世の春はしたはじ)
 道珍(どうちん、沙彌、遠島歌合参) → 忠信(ただのぶ・藤原、歌人) F 2 6 5 4
 道琛(どうちん;法諱) → 慈岳(じがく;道号・道琛、渡来黄檗僧) P 2 1 8 1
 倒枕舎(とうちんしゃ) → 佳方(かほう・三好みよし、俳人) P 1 5 3 3
 藤通(とうつう・近藤) → 正斎(せいさい・近藤、幕臣/儒/千島探検/歌) B 2 4 5 8
- G3155 **道通**(どうつう・前田まえた、名;元春、玄通男)1658-1700⁴³ 京の医者;父門/16672剃髮、儒;1677闇斎門、医学;浅井策庵門/1682父没後医家を継嗣/家塾撫髭斎を經營、
 「花洞涉筆」「奇病類纂」著、1694「草洞集」編、
 [道通(;通称)の字/別通称/号]字;子達、別通称;犬吉/龜曆/薬曆/道察、
 号;花洞/眞逸/杏林通客さきょうりんほく/草父/桂叢/窮軒、法号;博濟院
 道通(どうつう・前田) → 玄通(げんつう・前田好成、医者) L 1 8 4 6
 道通(どうつう・前田) → 葉庵(ようあん・前田、好成男/藩儒/医者) 4 7 5 5
- G3156 **唐庭**(とうてい) ? - ? 伊勢派俳人;支考門、1698乙由ら「伊勢新百韻」入
- G3157 **東亭**(とうてい・桜井さくらい、名;篤忠、川瀬道怡男)1745-1803⁵⁹ 桜井舟山の甥・のち舟山の養嗣子、但馬の儒者;乘竹東谷門/1760上京;伊藤東所門/古義学研修、1775但馬出石藩校教授、
 「毛詩合解」「助字解」「即賦詩材」「新制輪転詩材」「制度図解」「東亭詩草」「東亭文章」著、
 「東亭菟文鈔」編、「道德大意」「上牋」著、
 [東亭(;号)の字/通称]字;子績、通称;俊蔵、東門とうもんの養父
- G3158 **東堤**(とうてい・落合おちあい、名;直養なおかい、直著3男)1749-1841^{長寿93} 羽後平鹿郡角間川かまがわの儒者、郷土の家/闇斎学;中山菁莪門、久保田藩校教授に招聘されたが固辞、
 1795私塾守拙亭を開設;子弟教育専念、医;平沢久敬門、稻の品種改良研究、
 食富の別なく治療や指導;角間川の聖人と称さる、俳諧・和歌を嗜む、国学;本居大平門、
 「四書講義」「詩経講義」「国語講義」「近思録道体講義」「書経講義」「東堤随筆」「東堤劄記」、
 「直養先生夜話」外著多数(253冊、1786(天明6)「落合東堤上書」具申、
 [東堤(;号)の字/通称/別号]幼名/通称;文六、字;季剛、別号;守拙亭

- G3159 **桃亭**(とうてい・二宮にのみや、名;瑤)?- 1829 安藝吉田町の医者;吉益東洞門;娘婿、江戸で医業、画を好み沈金・蒔絵に長ず、1806頃「二宮書画集」編、
[桃亭(;)号)の字/通称/法号]字;子圭/断中/子果、通称;栄蔵、法号;積善院
- G3160 **東堤**(とうてい・谷たに、通称;安五郎、麓谷男)?-? 絵師;谷文晁の弟、1802唐麿「潮来絶句集」序
- G3161 **東隄**(とうてい・石原いしはら、名;和/字;子周、桂園男)?-? 江後期美濃安八郡下宿の儒者/詩人、
「古今詩話粹抄」「東隄小記」「読左氏便覧」著、桂園「愚得鈔筆」補填
- G3162 **東亭**(とうてい・安田やすだ、名;文澄/字;果郷)?-? 江後期江戸の医者、1819「医学劄記」、「本草方攷」、
「脉義鉤沉」「脉症図解」「薬材三解」「医法積義」「金匱要略方攷」「傷寒論燈」「執剂律」著
- 東貞(とうてい・佐藤) → 鶴城(かくじょう・佐藤、医者/国学) K 1 5 0 6
 東汀(とうてい・喜舎場) → 朝賢(ちようけん・喜舎場きしゃば、琉球廷臣/詩人) I 2 8 0 9
 東亭(とうてい・竹村) → 通央(みちなか・竹村/成田、藩士/故実) C 4 1 0 8
 東亭(とうてい・橋本) → 邦直(くになお・橋本はしもと、歌人) E 1 7 4 3
 東隄(とうてい・谷) → 安之(やすゆき・谷たに、書家) D 4 5 3 9
 桐亭(とうてい・飯沼) → 愆斎(よくさい・飯沼いぬま/西村、医者/本草) B 4 7 7 2
 桃亭(とうてい・早崎) → 益裕(ますひろ・早崎はやさき/仙石、藩士/国学) R 4 0 8 7
 陶亭(とうてい・樋口) → 有柳(ゆりゅう/うりゅう・樋口ひぐち、俳人) E 4 6 0 1
 等庭(とうてい・浜島) → 等庭(ともにか・浜島ろはまじま、廷臣/国学) W 3 1 1 2
- X3107 **道貞**(どうてい;号) ? - ? 江前期;大坂の町人、歌人;
浅井忠能ただり[難波捨草]10首前後入、
[明石浦にて明方の月をながめてよみ侍る、
たぐひあらむ物とも見えず明石瀉隴月夜の明方の空](難波捨草;春86)
- G3163 **洞庭**(とうてい・加藤かとう、名;厚明、九臯男)1702-6059 江中期1718常陸水戸の医者/1722彰考館入、
1726「将軍小伝」著、
[洞庭(;)号)の字/通称/別号]字;子高、通称;東春、別号;悠斎/生洲
- 洞庭(とうてい・葛飾/洞庭舎) → 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師) B 2 6 9 1
 道貞(どうてい・山崎) → 道貞(みちさだ・山崎、儒者) B 4 1 5 3
 道貞(どうてい・山田) → 道貞(みちさだ・山田やまだ、文筆家) B 4 1 5 4
 道貞(どうてい・井出) → 道貞(みちさだ・井出いで、神職/史家) L 4 1 1 6
 道貞(道亭どうてい・井岡) → 桜仙(おうせん・井岡いのおか、本草学者) C 1 4 5 7
 唐棣園(とうていえん) → 嵐山(らんざん・馬淵まぶち/馬、儒医) C 4 8 3 3
 洞庭園(どうていえん) → 米都(べいと・鈴木すずき、俳人・狂歌) 2 7 7 4
- G3164 **東滴**(東適/凍滴とうてき;道号)?-1807 江中後期近江の臨濟僧;愚極素堆門/法嗣、
1776妙心寺麟祥院住持、詩人;蘆野東山門、87退隱;洛東菊水橋畔に結庵;詩三昧、
江中期以降の妙心寺詩壇で活躍、1782「豹隱集」著、
[東滴の号]豹隱/笙洲
- G3165 **道的**(どうてき) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子集」1句入
[かいる子の生湯うぶゆかぬるむ池の水](犬子集;二594/かいる子は蛙子オタマジヤクシ)
- G3166 **島狄子**(とうてきし・横地よち/よち、名;道精/正時)?-1702 佐渡相川の医者/書;堀江治部斎逸風門、
能書家;寺社の題額多し、1695光圀依頼の「佐渡地志」編纂、惟正の父/楚山そざんの祖父、
[島狄子(;)号)の通称]通称;善左衛門/玄常
- G3167 **到徹**(とうてつ;法諱・道従どうしゅう;字、諡号;登岸坊、俗姓;島村)?-1830 肥後益城郡上早川の真宗僧、
東光寺環中門/上益郡七滝の真宗本願寺派明尊寺7世/1825司教、聞生・環徹らの師、
明尊寺自坊に学寮竜潜閣を開設;子弟教育、「浄土論講録」「略文類玄談」「礼讃私略」外著多
- G3168 **道哲**(どうてつ;号) ? - ? 江前期1615-44頃京の医者/法眼、晩年は堺住、
鹿苑院听叔顕暉きんしゅくけんたくと交流、連歌:1620頃昌琢と2度百韻(元和六年「何路百韻」等)
- 道哲(どうてつ・横山) → 長知(ながちか・横山、武将/藩重臣) E 3 2 2 6
 道哲(どうてつ;法名) → 之徽(ゆきよし・山路やまち/平、幕臣/天文) F 4 6 9 4
 陶鉄房(とうてつぼう) → 陶鉄房(すてつぼう、洒落本) D 2 3 4 0
- G3169 **洞天**(とうてん;道号・恵水えすい;法諱、号;見慶軒けんまげん、俗姓;瓜生)1634-171077 美濃の臨濟僧;
幼時愚堂東寔門;出家、妙心寺体道門/嗣法、江戸下向;東北寺開祖/1680妙心寺住持;3度、

- 柳沢吉保参禅の師;1694吉保建立の川越藩入間の多福寺の開山、「洞天和尚語録」著
- G3170 **滔天**(とうてん;道号・玄麟/元麟べりん;法諱、俗姓;眞木) ?-1761 築後八女郡本分村の臨濟増、久留米の梅林寺住持/紫衣勅許、久留米藩主有馬頼僮よりゆき建立福聚寺に古月禅材を招聘、古月の碑文を福聚寺境内に建立、1751「古月和尚伝記」著、「滔天和尚遺稿」
- G3171 **洞天**(とうてん;法諱) ? - 1777 江中期の時宗僧;前任昌全門、1763播磨の眞光寺8世院代、1776「三代祖師法語」編
- S3159 **東伝**(とうでん;道号・士啓しけい;法諱) ?-1374 南北期筑前の臨濟僧;南山士雲門;嗣法/京東福寺僧、京の普門寺・東福寺・鎌倉崇壽寺・円覚寺住持/建長寺45世、桐生の崇禅寺を開山
- 東伝(とうでん;道号・正祖) → 正祖(しょうそ;法諱・東伝、禅僧) T 2 2 9 6
- 東田居(とうでんきよ) → 憲(けん・田辺たなべ、書家/篆刻) H 1 8 4 9
- 東天紅廬主人(とうてんこうろしゅじん) → 金鶏(きんけい・奇々羅、医/狂歌) 1 6 6 0
- 統天斎(とうてんさい・戸板) → 保佑(やすけ・戸板/多々良/多、和算/改暦) B 4 5 7 2
- 東渡(とうと;号) → 因静(いんせい;法諱・東渡、浄土僧) I 1 1 6 7
- 道砥(どうと・梅田) → 仙庵(せんあん・梅田うめだ、儒者) L 2 4 4 7
- G3172 **東藤**(とうとう・穂積ほづみ、別号;扇川堂/元日坊) ?-? 江前期尾張扇川の俳人;初め貞門、のち蕉門、熱田住/軽妙な文章に巧み、1695俳撰「熱田皴笈あつたしわばこ物語」編(桐葉の版下)、1702祖月「蓬萊嶋」入、暁台「熱田三詠僊あつたさんかせん」入(;1684芭蕉らと六吟歌仙入)、[面白き野辺に鮒すし売る草の上](熱田三詠僊;六吟歌仙五句目)
- G3173 **東々**(とうとう・秋里庵) ? - ? 江中期羽後土崎湊の俳人;淡々門、渭北・富鈴と親交;1742富鈴を訪問、1742「蕾の梅」編
- G3174 **湯島**(とうとう・日吉ひよし、名;蠡) 1799-1865 67 伊豆の儒者/江戸住、1835「牛牟蛙鳴」38「田制沂源考」著、[湯島(;号)の通称]通称;偉三郎/偉三/移三
- 藤到(とうとう・二階堂) → 藤到(ふじゆき・二階堂にかいどう、藩士/歌) I 3 8 5 6
- 陶東(とうとう・南部) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
- 陶々(とうとう・橋本) → 政方(まさみち・橋本はしもと、与力/記録) B 4 0 9 2
- 陶々(とうとう・木村) → 尚寿(しょうじゅ・木村きむら、和算家) J 2 2 5 0
- G3175 **桃洞**(とうどう・小池こいけ、名;友賢、藩士友政男) 1683-1754 72 母;室鳩巢の妹、水戸藩士、儒者;中村篁溪門/1700水戸彰考館に入、19彰考館総裁、藩命で天文曆算;建部賢弘門、渋川春海・中根元圭門、藩内に曆算学を興隆させた、「陰陽志」編/「享保見草」、1723「天元発蒙合同」「経世天地始終之数図」/30「甘棠遺談」40「玄字俗解」、「桃洞隨筆」、「金蘭唱和集」「陪宴詩集」「通曆長曆引閱指掌図」、「韓客贈酬日記」編、「桃洞遺稿」、[桃洞(;号)の字/通称/別号]字;伯純、通称;伊之助/七左衛門/源太左衛門、別号;大楽
- G3176 **東洞**(とうどう・吉益よしやす/本姓;崑山、名;為則、崑山重宗男) 1702-73 72 広島の外科医;能津祐順門、医学書を読破/張仲景「傷寒論」に傾倒;万病一毒説を主唱/1738上京し医業;吉益に改姓、古医学の研究;山脇東洋の知遇で高名、1764三条東洞院西に移住;69御所西門外に新居、諸侯・名士を治療/門人多数、「医事古言」「難病配剂録」「古方類聚集成」「古書医言」「方機」、1762「観聚方集成」63「建殊録」64「類聚方」、「東洞先生文集」「東洞先生禁方」、「東洞先生丸散解」「東洞先生配剂録」「東洞先生問答」、「東洞翁遺草」(土井正安編)外著多、[東洞(;号)の字/通称/別号]字;公言、通称;周助/周介、初号;東庵、法号;惟徳院
医者の南涯なんがい・羸斎えいさいの父
- G3177 **桃洞**(とうどう・小原おはら/本姓;源、名;良貴) 1746-1825 80 和歌山の医者;京の吉益東洞門、本草学;小野蘭山門、紀州和歌山藩医;1792医学館本草局を主宰、幕命で師蘭山と採集旅、さらに孫の蘭峽を伴い諸国採薬行脚、1809「本草余纂」11「紀州風土記」「南紀土産考別録」、1814「熊野採薬巡覧記」、「南海魚譜」「南海禽譜」「介譜」「魚品図」「御綱柏考」、「桃洞遺筆」、[桃洞(;号)の通称/法号]通称;政之助/源三郎、法号;悟法院
- G3178 **董堂**(とうどう・中井なかい/修姓;井、名;敬義、清助男) 1758-1821 64 江戸日本橋本町紙商/のち浜町住、詩文;山中天水門、明の董其昌の書を研究;書家として活躍/大窪詩仏・菊池五山と交流、狂詩;南畝門、詩「董堂詩稿」「小笠山房詩鈔」、1786狂詩「本丁文酔ほんちやうもんずい」著、「春星閑話」著、狂歌;大屋裏住門/本町連、万載狂歌集・後万載集・才蔵集入、

[道の辺の柳ひと枝もちづきの手向にせんと折つてきさらぎ](後万載/西行忌)、
(本歌;「道のべに清水流るる柳陰しばしとてこそ立ちどまりつれ」(新古今)と
「願はくは花の下にて春死なんその如月の望月のころ」(続古今))

[董堂(;)の字/通称/別号]字;伯直、通称;友吉/嘉右衛門、狂名;腹唐秋人はらからのあきんど、
別号;小笠/小笠外史/小笠山樵/春星/宜松[宣松]老人、俳号;乙乎、諡号;文載先生、
☆洒落本「幸大寺不実録」作者島田金谷と同一説?→ 金谷(きんこく・島田) E 1 6 0 0

G3179 洞々(とうとう・高橋たかはし) 1767-1835 69 相模愛甲郡荻野の農業、国学/俳人:丈水門、
1816俳諧撰集「的申まとうし集」編(成美の序、俳文「蟹殿弁」入)、
[洞々(;)の通称/別号]通称;伊左衛門、別号;木兔みみずく入道/蟹殿かいでん、
法号;幽玄齋蟹殿洞々居士

桐堂(とうとう・兼重) → 慎一(しんいち・兼重かねしげ、藩士;藩政) N 2 2 3 1
薫堂(とうとう;号) → 光闡(こうせん;法諱・法如;号、真宗西本願寺17世) K 1 9 1 8
桃洞(とうとう・片山) → 桃隣(6世とうりん・片山、俳人) I 3 1 3 9
桃堂(とうとう・武重) → 正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、国学者) L 4 0 8 8
韜堂(とうとう・安光) → 南里(なんり・安光やすみつ、庄屋/儒者) J 3 2 6 3
東瞳(とうとう・内田) → 五観(ごかん・いつみ・内田うちだ、和算/天文) F 1 9 5 2
道東(どうとう;法諱) → 実東(宗東じつとう;法諱・青海;道号、黄檗僧) U 2 1 9 9
道棟(どうとう;法諱) → 斉雲(さいうん;道号・道棟、黄檗僧) N 2 0 1 9
道統(どうとう・三善) → 道統(みちむね・三善、廷臣/詩人) C 4 1 6 5
道統(どうとう・宇仁) → 清堅(きよかた・宇仁うに、儒者) O 1 6 7 0
導道(どうとう・田代) → 三喜(三帰さんき・田代、医者;李朱医学) L 2 0 9 5

03152 登々庵(陶陶庵とうとうあん・武元たけもと、名;質ただし/正質、正勝男) 1767-1818 52 備前和気北方村大庄屋、
詩:自宅に滞留した長尾蘭洲門、儒;閑谷鬻入学/諸国遊学後に京住/江戸の柴野栗山門、
蘭学;中井厚沢門、古詩;格調声律の研究/書、菅茶山・頼春水・山陽・田野村竹田らと交友、
「巖島眠雲集」「瓊浦探奇集」「薇山吟月集」「赤馬観濤集」「泛庵余興集」「紫溟弔古集」、
1802「用筆十二画賛」03「名聯法帖」12「古詩韻範」14「行菴詩草」17「登々庵草書」外著多数、
[登々庵(;)の字/通称/別号]字;景文、通称;周平、別号;陶陶庵/行庵/泛庵はんあん

陶々庵(とうとうあん・加藤) → 寛斎(かんさい・加藤、藩士/地歴/俳人) Q 1 5 5 7
豆々庵(とうとうあん) → 通志(つうし・水巻、勤番勤務/俳人) 2 9 3 8
東々庵(とうとうあん) → 肥前掾(ひぜんのかみ・豊竹、浄瑠璃太夫/座本) C 3 7 5 2
陶々逸民(とうとういつみん) → 五一(ごいち・達摩屋初世・岩本、書肆) E 1 9 8 2
豆々花(とうとうか) → 通志(つうし・水巻、勤番勤務/俳人) 2 9 3 8

G3180 陶々居(とうとうきよ) ? - ? 江後期書家、1808「古筆名葉集」秋成序;古筆切参考書

丁々斎(とうとうさい・丁々軒) → 宗左(宗佐・4世そうさ・千せん、茶人) H 2 5 3 6
陶々斎(とうとうさい) → 右一(ゆういつ・荒木あらき、藩士/俳人) 4 6 5 6
蕩々斎(とうとうさい) → 鳳山(ほうざん・原はら、藩士/兵学者) C 3 9 1 0
同々斎(どうどうさい) → 玄通(げんつう・手塚てつか、藩士/医者) L 1 8 4 8
東桐舎(とうとうしゃ) → 山只(さんし・増山ますやま、俳人) M 2 0 2 7
桐洞社(とうとうしゃ) → 梧水(ごすい;号・慈身;法諱、天台僧/俳人) D 1 9 0 4
桃洞舎(とうとうしゃ) → 松風(しょうふう;号、俳人) L 2 2 4 9
陶々生(とうとうせい) → 鞞夫(ゆぎお・静しずか/諏訪、神職/国学) G 4 6 9 2
桃童仙(とうどうせん) → 坡良(はりよう・桃童仙、俳人) F 3 6 8 8
堂堂堂(どうどうどう) → 庭鐘(ていしょう・都賀、医/儒/読本作者) B 3 0 2 0
堂々々(どうどうどう) → 黒露(くろろ・山口やまぐち、俳人) C 1 9 4 0
同道堂(どうどうどう) → 垂穂(たるほ・石井、藩士/儒/狂歌) N 2 6 5 0
桃々坊(とうとうぼう・榎並) → 舍羅(しゃら・榎並、俳人) G 2 1 5 5
道篤(どうとく・水) → 道篤(みちあつ・水もと、歌人;) I 4 1 0 0

東都台嶽良溪樵夫(とうとだいがくこんけいしやうふ) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5

東都台嶺北鄒(とうとだいいほくすう) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5

東都貧士粥腹得心(とうとひんしかゆばらとくしん) → 東作(とうさく・平秩へつ/平原屋、商家/狂歌) 3 1 1 3

- G3181 **堂鞆白主** (堂伴-どうともものしろぬし、丹羽にわ、通称:権助/雀助/嘉十郎)?-? 紀伊徳川家の番頭、江戸赤坂の藩主公邸住、狂歌;スキヤ連、1785「徳和歌後万載」6首入
[かけわたすなりも幾代をへのじにてやはり昔のままの継橋](後万載集;七賀432)
(本歌「足あゝの音せせず行かむ駒もが葛飾の真間の継ぎ橋やまず通かよはむ」(万葉;3387)
東内(とうない・久郷) → 恭慶(たかよし・久郷ひささと、被官/歌人) Z 2 6 2 2
藤内(とうない・酒井) → 忠勝(ただかつ・酒井、藩主/大老) E 2 6 9 3
藤内(とうない・所) → 勝利(かつとし・所ところ/源、藩士/歌人) V 1 5 1 3
東中務入道(とうなかつかさのにゅうどう) → 素暹(そせん・東とう/平、武将/法師/歌/連歌) D 2 5 9 2
- G3182 **東南**(桃南とうなん・近松ちかまつ)?-? 江中期大阪の浄瑠璃作者/俳人、初め近松半二の助作者;
1769「振袖天神記」助作(桃南名)/「近江源氏先陣館」(東南名)/71「妹背山婦庭訓」助作、
1776「三国無双奴請状」安田阿契らと合作(豊竹座)、77「伊賀越乘掛合羽」単独作(浄瑠璃)、
三絃・琴を嗜む;[粹衆二十四輩](大坂風流人)の1、
[近松東南(;号)の通称/別号]通称;伊助/伊輔、
別号;近松桃南(;初号)/近松播磨/綾子播磨(;剃髮号)
- G3183 **東南**(とうなん・梅川うめかわ、別号;雪枝せし/好古斎)1797-186670 江後期京の絵師;浪花周南門、
京御幸四条下ル住、1842「不思議問答」画、伊藤若冲「ひょうたんおどり」の賛
桐南(とうなん・三島) → 中洲(ちゅうしゅう・三島、藩士/儒者) G 2 8 2 3
- X3125 **東南院一王**(とうなんいんのいちおう)?-? 鎌倉期;東大寺東南院の童、
歌人;1237刊[檜葉集]入、
[花月集を借りておそく返しけるをぬしのこひければ返すとて、
よのつねの花と月とのさがなればまつほどいかにひさしかりけむ](檜葉;雑童716)
東南院前大僧正(とうなんいんのさきのだいそうじょう) → 聖忠(しょうちゅう;法諱、真言僧/歌人) U 2 2 1 9
- X3128 **東南院制多迦**(とうなんいんのせいたか、勢多伽丸、佐々木[源]広綱4男)?-? 誅殺 鎌倉期東大寺東南院童、
父広綱・兄惟綱・為綱が1221(承久3)承久乱で戦死後;呼出され叔父信綱に斬首される、
11or14歳で没、歌人;1237刊[檜葉集]入、
[建久(1190-99)の頃ほひ一王がすすめける醍醐の歌合に等しく兩人をこふ、
といへる題をよみ侍りける、
もろかつらまたいそなをばたのめ□□□けて思ふは苦しかりけり](檜葉;雑童740)
東南院僧都(とうなんいんのそうず) → 観理(かみり、真言僧) R 1 5 7 5
東南居(とうなんきよ) → 茶雷(ちやらい/さらい・山県やまがた、俳人) F 2 8 6 0
東南西北雲(とうなんさいほくうん) → 北雲(ほくうん・葛飾かつしか、大工/絵師) C 3 9 9 0
- S3192 **桃二**(とうに) ?-? 江戸期遠江掛川の俳人;1697不角「双子山前集」、
[勘当をゆるすは母の産み直し](双子山前集/前句;思はず知らず抱き付きにけり)、
(頑固な父に息子共々詫びる母心)
- G3184 **道二**(どうに・下石おろし、名;三正)?-? 江前期武道家;宝蔵院流二世禅栄房胤舜門、
大和郡山城主松平家に出仕下が浪人;宝蔵院流下石おろし派の槍術指南、晩年は赤穂住/没、
「秋月集」著、門人;森義豊・旅川政羽など、
[道二(;通称)の別通称]瀬兵衛/平右衛門
- 3115 **道二**(どうに・中沢なかざわ、名;義道)1725-180379 京西陣の機織の家の生/1768家職離れ日蓮宗帰依、
石門心学;手島堵庵門、師の命で関東に下向し教化活動/江戸日本橋に参前舎を創設、
参前舎を本拠に関東東北一円に布教、1789「道二翁前訓」「経世出世第一宝訓」、
1795-1824「道二翁道話」、「道二翁道話続編」「道二翁童蒙訓」「一日ぐらしの辨」外著多数、
[道二(;号)の通称/法号]通称;亀屋久兵衛、法号;貞徳院
道二(どうに・林) → 良適(りょうてき・林はやし、幕府医官) J 4 9 0 2
- G3185 **東日**(とうにち;法諱、別法諱;即生そくしょう)?-? 江中期享保1716-36頃伊勢の浄土僧;
伊勢飯野郡の伊馥寺22世、1726「浄土五会念仏略法事儀讚演底」31「真宗探蹟たんさく」著
東日(とうにち;初道号) → 日巖(ひつがん;道号・一光、臨濟僧) B 3 3 1 6
東入(とうにゅう・近衛) → 前久(さきひさ・近衛/藤原、関白/歌・連歌) 2 0 1 2
藤女(とうによ) → 藤女(ふじよ/ふじよ、俳人) C 3 8 4 7
統仁(とうにん → おさひと;名) → 孝明天皇(こうめいてんのう、歌人) B 1 9 9 4

- 道任(どうにん・巨瀬) → 至信(ゆきのぶ・巨瀬こせ、旗本/藩士/幕臣/歌) G 4 6 8 2
 東寧(とうねい・藍沢) → 無満(むまん・藍沢あいざわ、国学/俳人/教育) D 4 2 0 1
 藤寧(とうねい・人見) → 蕉雨(しょうう・人見ひとみ、蕉雨斎/藩士/詩文) G 2 2 9 3
 道寧(どうねい・小橋) → 静学(せいがく・小橋こはし、儒者/医者) H 2 4 7 9
 東寧山人(とうねいさんじん) → 万(よろづ・生田いくた、国学者/救民活動) 4 7 4 2
- G3186 **陶然**(とうねん・岡田おかだ、通称;与三平) 1790-1841 52 備後尾道の酒造業(屋号;金光屋)/俳人、
 頼山陽と交流、1856木海追善「雲律老人木海発句集」編(梅臣校訂)、
 1820峯梅「無東西」/32三薦「四町よまち集」入、
 [朝酒の味や若葉の一そよぎ]([四町集])
 桃年(とうねん・大島) → 藍涯(らんがい・大島おおしま、儒;藩校助教) B 4 8 6 6
- G3187 **道然**(どうねん:法諱、少納言藤原有家男)?-? 鎌倉前期僧(:上人)/二条系法体歌人、
 現葉集入集、続古今集811、
 [いとふべき世のことわりの苦しさもうき身よりこそ思ひ知りぬれ](続古今;釈教811)
- G3188 **道然**(どうねん:号、市中舎)?-? 江後期羽前鶴岡の僧、1791刊「三社明燈抄」著
 道年(どうねん・中村) → 道紀(みちのり・中村なかむら、医者、国学者) H 4 1 5 9
 道年(どうねん・武田) → 道年(みちとし・武田たけざわ/出川、歌人) J 4 1 6 9
 道稔(どうねん:法諱) → 月耕(月耕げっこう:道号・道稔、黄檗僧) H 1 8 0 3
 当能(とうのう/まさよし・小此木) → 紅磧(こうせき・小此木おこのぎ、俳人) K 1 9 0 9
 藤宰相(とうのさいしょう) → 房子(ふさこ・高野たかの、女官/日記) C 3 8 0 4
 藤式部(とうのしきぶ) → 紫式部(むらさきしきぶ、物語/歌/日記) 4 2 1 3
 藤之進(東之進とうのしん) → 在満(あいまろ・荷田かだ、歌学/故実) 1 0 3 4
 東之進(とうのしん・藤井/羽倉) → 惟得(いとく・羽倉/荷田、国学/歌) B 1 1 6 9
 東之進(藤之進とうのしん・古市) → 南軒(なんけん・古市、藩士/儒/医者) J 3 2 9 1
 東之進(とうのしん・平井) → 澹所(たんしょ・平井ひらい、儒/藩校総督) I 2 6 3 5
 東之進(とうのしん・志村) → 麗沢(れいたく・志村むら、藩儒/詩) 5 1 5 0
 藤典侍(とうのすけ) → 灌子(かんし・藤原) D 1 5 8 1
 藤之助(とうのすけ・久保/古屋) → 菅賢(すがよし・古屋、藩士/歌人) F 2 3 4 3
 藤之助(とうのすけ・増島) → 澧水(れいすい・増島/増嶋ますじま/平、幕臣/儒者) 5 1 4 2
 藤之助(とうのすけ・中山) → 弘矩(ひろつね・中山なかやま、藩士/歌人) K 3 7 4 1
 登之助(とうのすけ・相川) → 景見(かげみ・相川あいかわ、国学/歌人) B 1 5 9 6
 東之助(とうのすけ・朝山) → 嘉基(よしもと・朝山あさやま/勝部、神職) L 4 7 2 3
 東之介(とうのすけ・井伊) → 直致(なおむね・井伊い/藤原、歌人) L 3 2 0 0
 侗之助(とうのすけ・横山/小野) → 湖山(こざん・小野/横山、詩人) C 1 9 6 9
 東の大道(とうのだいどう) → 主計(かづえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9
 藤斐他(とうのひだ) → 稻置(稲木いなき・堀川、医/国学者) I 1 1 0 5
 藤之坊(とうのぼう) → 堯恵(ぎょうえ、天台僧/歌人) 1 6 3 2
 多武峯優婆塞(とうのみねのうばそく) → 良助法親王(りょうじよほつしんのう、天台僧) I 4 9 1 9
 多武峯優婆塞(とうのみねのうばそく) → 尊賀(尊雅そんが;法諱、天台僧) F 2 5 2 2
 多武峯少将入道(とうのみねのしょうしょうにゅうどう) → 高光(たかみつ・藤原、如覚、歌人) 2 6 1 8
 多武峯先徳(とうのみねのせんたく/多武峰上人) → 増賀(ぞうが;法諱、天台僧) 2 5 8 2
 多武峯僧正(とうのみねのそうじょう) → 源諭(げんゆ、物語作者?) D 1 8 1 5
- G3189 **東派**(とうは・坂井さかい、名;積、貞世男) 1772-1834 63 広島藩儒;藩学問所付/1807家督、書翰方列、
 小姓組/藩学問所教授、詩文に長ず、「遊岩鼻記」著、虎山こざんの父、
 [東派(;号)の字/通称]字;善夫、通称;孫三郎
- G3190 **稲坡**(とうは・松岡まつおか、名;菊治) 1808-65 58 陸中盛岡藩士/花巻の邑校揆奮場の学頭、
 俳人:防人・蘭溪・菅園門/花巻俳壇の興隆に尽力、詩/書に優れる、1828-9「俳諧巻草稿集」
 [稲坡(;号)の字/別号]字;三平/芝台、
 別号;一双舎/鷺児/一秀/豊斎/煌々亭/米園/夢梅/抱翠房、法号;唯心院
 到波(とうは;字) → 岸了(がんにょう;法諱・到波、浄土僧) R 1 5 8 1
 東巴(とうは・北村) → 沾涼(2世せんりょう、俳人) N 2 4 3 3

- 稲坡(とうは・石原) → 蒙(もう・石原いしはら、医者) 4 4 3 9
 道派(どうは:法諱) → 源底(げんてい:道号・道派、臨濟僧) L 1 8 5 8
 東梅舎(とうばいしゃ) → 五大(こだい・菊池、俳人) N 1 9 0 4
 G3193 東白(とうはく・里見) ? - ? 書/篆刻:新興におも蒙所[1687-1755]門、大阪住、「弄鉄技淵」
 G3191 東白(とうはく) ? - ? 俳人;1730洞笑「杖の名ごり」(方山追善百韻)入
 G3192 東白(とうはく・竹内たけうち、名;賁かざる、芳右衛門男) 1819-6446 下総香取郡新里の蘭学者/蘭医;
 1845江戸の坪井信道門/46大阪の緒方洪庵門/1848京の広瀬元恭門、医を開業、
 西洋兵制研究:雷管など商う、1853「泰西王氏銃譜」訳、55「洋外礮具ほうぐ全図」著、
 1858「隨機備用方」「皇国火攻神弩図説」著、「西洋砲家問答」訳、
 [東白(;号)の字/通称/別号]字;秀趾/季趾/秀明、通称;武八郎、別号;知不足齋
 東白(とうはく・近江屋/伊藤) → 多羅(たら・伊藤、薬種業/国学) S 2 6 9 7
 東白(とうはく・竹村) → 吉明(よしあき・竹村たけむら、郷土史家) B 4 7 9 2
 東陌(とうはく) → 路景(ろけい、俳人) B 5 2 3 1
 東伯(とうはく・田中) → 五竹坊(ごちくぼう・田中、獅子門4世/俳人) D 1 9 2 6
 等伯(とうはく・明石) → 琴台(きんたい・明石あかし、医者/俳人) R 1 6 3 6
 G3194 道伯(どうはく・畑はた、名;定明、畑道英定赫男) 1785-? 1830存 羽後角館の医者;1790兄夭逝;家督嗣、
 秋田藩医/1819-30医学頭、畑道英定静の曾孫、「素問考」、
 [道伯(;通称)の別通称]代々の通称;道英、
 G3195 道博(どうはく・坂本さかもと) ? - ? 江後期武州比企郡の卜占家:1856「方迪類叢」著、
 「河洛原委」著、水村道弼の師
 道白(どうはく・細川) → 清氏(きよじ・細川/源、武将/歌人) C 1 6 5 3
 道白(どうはく;法諱) → 正山(まんざん;道号・道白;法諱、曹洞僧) K 4 0 5 8
 道白(どうはく・大久保) → 忠隣(ただちか・大久保、藩主) P 2 6 8 0
 道白(どうはく) → 枝賢(えだかた・清原、廷臣/儒者) E 1 3 0 2
 道伯(どうはく・谷川) → 于喬(ゆきたか・谷川/尾崎、医/国学者) E 4 6 6 4
 道伯(どうはく・前田) → 純陽(じゆんよう・前田/菅原/菅、藩医/詩) L 2 1 9 7
 道伯(どうはく・中山) → 静安(せいあん・中山/倉光、医・儒者) H 2 4 1 6
 堂白(どうはく・田中) → 万春(ばんしゆん・田中、暦算家) H 3 6 9 7
 洞伯(どうはく・笹村) → 良昌(よしまさ・笹村ささむら、藩侍医/歌人) N 4 7 2 1
 稲麦庵(とうばくあん) → 巳人(むつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
 陶白居(とうはくきよ・三井) → 嘉菊(かきく・三井高英、俳人) 1 5 0 6
 東白軒(とうはくけん・谷島) → 風山(ふうざん・谷島、俳人) 3 8 7 0
 啣柏堂(とうはくどう) → 呂丸(ろまる・露丸ろまん・凶司/近藤、染物業/俳人) 5 3 6 1
 冬白坊(とうはくぼう) → 有琴(ゆうきん・林はやし、俳人) B 4 6 2 7
 藤八(とうはく・山川) → 山人(さんぱち・藤川/土佐屋、歌舞伎作者) E 2 0 6 6
 藤八(とうはく・熊岡) → 千則(ちのり・2世桑楊庵、狂歌) E 3 9 2 1
 藤八(とうはく・田中) → 頼庸(よりつね・田中たなか、藩士/神職) N 4 7 6 6
 藤八郎(とうはくちろう・谷田部) → 東壑(とうがく・谷田部やたべ、儒者) C 3 1 1 8
 藤八郎(とうはくちろう・徳力) → 竜澗(りゆうかん・徳力とくりき、幕臣/儒者) D 4 9 2 7
 藤八郎(とうはくちろう・平野) → 繁十郎(しげじゅうろう・平野ひらの、唐通事) R 2 1 0 6
 藤範(とうはん・千秋) → 藤範(ふじのり・千秋せんしゅう、藩士/儒者/尊王) C 3 8 6 0
 棟範(とうはん・平) → 棟範(むねのり・平たいら、廷臣/歌人) C 4 2 1 5
 G3196 道範(どうはん;法諱・本覚;字) 1178-125275 和泉真言/14歳;高野山明任門/1202宝光院住/覚海門、
 1243大伝法院事件連座:讃岐配流、49許され宝光院住、高野八傑の1、「南海流浪記」、
 「開宝鈔」「内心鈔」「大原鈔」「聴海鈔」「浄開集」「禅心集」「随聞集」「秘密宗念仏鈔」、
 「金発揮鈔」「用意鈔」「理趣経鈔」「駄都鈔」「道範消息」外著多数、
 [もとより不生ふしょうの生しょうなれば始めて生ずべき生も無し
 もとより不滅の滅なれば始めて死すべき滅もなし](生滅は現象にすぎない;道範消息)
 G3197 道伴(道半どうはん・村越むらこし、名;勝吉/吉勝、直吉男/本姓;藤原) 1601-8181 幕臣;1614家督、
 長門守、膳奉行/二丸留守居/1651勘定奉行/59町奉行、67致仕、

「村越道伴覚書」著(大坂両陣の記録)、
[道伴(；号)の通称]清次郎/治左衛門

- G3198 **道繁**(どうはん) ? - ? 俳;梅盛門、1663木玉千句参;倫員「木玉こたま集」所収、
1676正舎「下主智恵げすのちえ」入
- X3106 **道伴**(どうはん・吉松よしまつ、) ? - ? 江前期;医者/大坂住?、歌人;
1688浅井忠能ただのり[難波捨草]入、
[桜花あかぬ色かに身をかへて山路の奥にけふもくらしつ](難波捨草;春59)
- G3199 **道伴**(どうはん・神田かんだ、名;定盤、定恒男)1678-174972 代々京の古筆鑑定家、「古筆名物切」編、
[道伴(；号)の通称/別号]通称;半之丞/興誉、別号;養心齋、法号;養心齋興誉道伴居士
道範(どうはん;法諱・大機)→ 大機(だいき;道号・道範、黄檗僧) J 2 6 5 6
道胖(どうはん;法諱・鉄心)→ 鉄心(てつしん;道号・道胖、黄檗僧) C 3 0 4 6
道伴(どうはん) → 市右衛門(いちえもん・中野、書肆) D 1 1 5 4
- H3100 **道費**(どうひ;法諱・無隠むいん;道号)1688-175669 or1729没? 長門越浜の曹洞僧;得源門;
雲巖院で出家/1730周防法泉寺の無得良悟門/法嗣、1731因幡興宗寺住持、
石見の円光寺・松林寺・加賀の実性院など諸寺転住、1753長門大寧寺住持、
「無孔笛事考」「無孔笛濫吹」「心学典論」「無隠和尚雜華集」「円通記」「金龍尺牘」、
「坐禅箴註」「無隠和尚四会語録」「無隠禪師止観指南」/1744「無隠禪師無孔笛むくてき」外多数
[無隠道費の号]号;雜華堂
道美(どうび・永原) → 重興(しげおき・永原/藤原、武将/連歌) Q 2 1 6 9
道美(どうび・本庄) → 道美(みちよし・本庄ほんじょう、藩主/歌) H 4 1 6 3
道必(どうひつ;法名) → 一見(いっけん・永崎、俳人/狂歌) D 1 1 7 2
東尾房(とうびぼう) → 教円(きょうえん、天台僧/歌人) C 1 6 2 3
道繆軒(どうびゅうけん) → 逸風(いつふう・堀江ほりえ、書家) H 1 1 7 8
東浜(とうひん・岡本) → 真古(まふる・岡本、郷土史家) K 4 0 1 0
東浜(とうひん・勝田) → 竹翁(ちくおう・勝田かつた、幕府御用絵師) C 2 8 6 7
等珉(とうびん) → 潮白(ちやうはく・等珉、俳人) J 2 8 6 8
稲布(とうふ・荒) → 稲布(いなしき・荒氏、万葉歌人) B 1 1 7 3
東阜(とうふ・林) → 義方(よしかた・林はやし、医者) C 4 7 6 7
- H3101 **ドーフ**(Hendorik Doeff, 日本名:道富)1777-183559 オランダ商館長;
蘭日辞典「ズーフハルマ」吉雄権之助らと完成(F.ハルマの蘭仏辞典翻訳)、「日本回想録」著、
遊女瓜生野(土井よう)との間に道富どうふ/みちとみ丈吉が誕生
- H3102 **道付**(どうふ;法諱・越伝えつでん;道号、初諱;紹付、俗姓松平)1616-8368 尾張熱田臨濟僧;三霊門/
1647妙心寺第一座、54黄檗:隠元門、尾張慈眼寺住持/82長寿寺開山、「黄檗木庵和尚全録」編
道孚(どうふ/みちひろ・桂) → 南野(なんや・桂かつら、藩士/儒者) 3 2 4 1
道夫(どうふ/みちお・杉本/壱岐) → 桐園(とうえん・壱岐いき、藩士/儒者/詩) B 3 1 4 8
道富(どうふ・黒沢) → 道富(みちとみ・黒沢くろさわ、藩士/国学) J 4 1 0 3
道符(どうふ・横尾) → 紫洋(しやう・横尾/黄、藩儒/勤王家) Q 2 2 6 3
道晋(どうふ・山根) → 済洲(せいしゅう・山根やまね、藩士/儒者) B 2 4 9 8
道部(どうふ・杉崎) → 天年(てんねん・杉崎すぎさき、儒者) E 3 0 1 5
- H3103 **東武隠士**(とうぶいんし) ? - ? 戯作者、1765実録「難波の夢」
- 3120 **道風**(どうふう/みちかぜ・小野、葛絃男)894or896-96673or71 廷臣;少内記/木工頭/内蔵権頭/正四下、
醍醐・朱雀・村上の3朝に歴仕、書家:和様の基礎を築く/三蹟(藤原佐理・藤原行成)の1、
篁たかむらの孫、好古よしふるの弟、「海陽湖」「屏風土代」「七徳舞謡」「野跡」「秋萩帖」書、
「玉泉帖」「額尽」「道澄寺鐘銘」「大嘗会屏風」「天徳四年内裏詩合」清書、
歌人:後撰集5首(；267/879/887/888/957)、
[穂には出でぬいかにかせまし花薄はなすき身を秋風に棄てや果ててん](後撰;五秋267)、
(穂に出づは包んでいた本心が外に出る意/秋風は相手の飽きを掛ける)
- H3104 **冬風**(とうふう) ? - ? 撰津西成郡浜村の俳人;1691賀子「蓮実」1句入、
[夏げの櫛はなや独ひとり々の心ざし](蓮実;247/夏の櫛は夏安居げあんどに供える花)
東風庵(とうふうあん) → 虚雄(きよゆう・小林、俳人) Q 1 6 3 8

東風館(とうふうかん) → 肆成(しせい・小山こやま、医者/牛痘接種) U 2 1 1 0
 桃風齋(とうふうさい) → 舟軒(しゅうけん・桃風齋、俳人) H 2 1 2 4
 東風亭(とうふうてい) → 正宜(まさよし・宮下みやした、国学者/歌) T 4 0 0 1
 当富(とうふく/まさとみ・星野) → 葛山(かつさん・星野ほしの、藩士/儒者) H 1 5 7 8
 東福武(とうふくぶ) → 光重(みつげ・福武ふくたけ、国学者/故実) D 4 1 5 5
 東武散人(とうぶさんじん) → 東湖観月(とうこかんげつ、文筆家) E 3 1 0 7
 道富丈吉(どうふじょうきち) → 丈吉(じょうきち・道富どうふ、ドゥーフ男) I 2 2 0 1
 東武杖人(とうぶじょうじん) → 賢盈(けんえい・松井まつい、書肆/雑俳) B 1 8 3 0
 洞仏子(とうぶつし) → 奎堂(けいどう・松本まつもと、儒者/天誅組) 1 8 8 7
 東武野史(とうぶやし) → 轟(けい・石井いしい、藩士/儒者) 5 1 0 0
 東玟(とうぶん; 法諱・荊叟) → 荊叟(けいそう; 道号・東玟、臨濟僧) G 1 8 3 0
 等聞(とうぶん; 法諱・竜溪) → 竜溪(りゅうけい; 道号・等聞、入明臨濟僧) D 4 9 4 3
 董文(とうぶん・田内) → 董史(董文ただふみ・田内たうち、教育者) Q 2 6 7 6
 冬文(とうぶん) → 冬文(ふゆふみ、俳人) E 3 8 3 9
 道聞(どうぶん) → 道聞(どうもん、俳人) H 3 1 4 9

H3105 **東平**(とうへい・中根なかね/初姓; 宇賀/河合、名; 経世、中根定恒の養子) 1741-1805 信州中方村の生、
 高遠藩士中根家の養子; 江戸で儒; 大内熊耳門/徂徠学、高遠藩士; 藩主の侍読/普請奉行、
 金奉行、1794「舒嘯丘記」、「緑竹園集」「玉川園記」「明月館集」、
 [東平(;号)の字/通称/法号]字; 君美、通称; 覺太夫、法号; 義叟宗信

W3146 **藤平**(とうへい; 通称・松尾まつお、名; 為蔭) 1808-66 59 筑前鞍手郡八尋村の庄屋、国学者/歌人、
 国学; 鞍手郡古門村八剣神社神主の伊藤常足門、一策(為嗣)の父

東平(とうへい・谷) → 以燕(いえん・谷たに、暦算家) F 1 1 0 9
 東平(とうへい・桂/玉乃) → 五彦(ごりゅう・玉乃たまの/枝えだ/桂かつら、儒者) N 1 9 9 6
 東平(藤平とうへい・本間) → 忠(ちゅう・本間ほんま、儒者) F 2 8 7 0
 東平(とうへい・山梨) → 稻川(とうせん・山梨やまなし、漢学者/音韻) 3 1 1 9
 東平(とうへい・岡部) → 春平(東平はるひら/とうへい・岡部おかべ、藩士/国学) G 3 6 7 6
 東平(とうへい・石垣) → 東平(はるひら・石垣いしがき、藩士/画/歌) J 3 6 7 0
 東平(とうへい・鈴木) → 典暁(のりあき・鈴木すずき、神職) I 3 5 7 6
 東平(とうへい・矢沢) → 精平(きよひら・矢沢やざわ、陪臣/歌人) V 1 6 4 8
 棟平(とうへい・宮下) → 正岑(まさみね・宮下/源/宮/堀越、名主/歌人) H 4 0 7 4
 春平(東平とうへい・岡部、葛根堅室) → 春平(はるひら・岡部/松田、国学/歌) G 3 6 7 6
 登平(とうへい・源) → 登平(みちひら・源、廷臣/歌人) C 4 1 3 4
 藤平(とうへい・池辺) → 鶴林(かくりん・池辺いけべ、藩士/儒者) K 1 5 6 1
 藤平(とうへい→ふじひら・成瀬) → 石痴(せきち・成瀬なるせ/横瀬、彫刻家) K 2 4 3 8
 藤平(とうへい・加藤) → 素毛(そもう・加藤かとう、遣米使に随行) K 2 5 4 5

H3106 **童平**(どうへい・井上いのうえ) 1689-1744 美濃岐阜笹土井町の酒造業/俳人; 支考門、
 同門有琴と親交、1723「覆盆子文庫」編/33「節(節)分集」編、「つるいちご」「附方八躰」編、
 1743支考追善集「黄山両法会」(有琴と編)、1751「白話伝難陳」、「稻葉山新百韻」、
 「達童集」「八躰論」「黄山句評」、「文通両吟句評並再評」編、
 [童平(;号)の通称/別号]通称; 紀右衛門、別号; 何尾亭/梅長者/白話/笛南子

道平(とうへい・二条) → 道平(みちひら・二条/押小路、関白/歌人) C 4 1 3 5
 道平(とうへい・小川) → 乾山(けんざん・小川おがわ、藩士/儒者) J 1 8 2 4
 道平(とうへい・今井) → 道平(みちひら・今井いまい、製陶家/歌・俳) I 4 1 1 1
 藤兼彝(とうへい、書家) → 加陪仲塗(かべのなかつら・河合、大工/狂歌) F 1 5 8 0

H3107 **藤兵衛**(とうべえ・三輪みわ) ? - ? 江中期加賀金沢藩士、1759「宝暦加州火事之記」
 H3108 **藤兵衛**(とうべえ・山口屋、藤寿亭松竹/松亭竹馬) ?-1835? 江戸地本問屋/合巻: 1802「増補五大力」
 H3109 **藤兵衛**(とうべえ・品川しながわ、名; 緯、吉雄献作男) 1808-57 長崎阿蘭陀通詞、砲術; 高島秋帆門、
 1841-47天文台詰通詞、「海上砲術全書」翻訳に参加、医術に精通;
 1848来日した蘭医モーニッケの聴胸器を模造、「英亞魯仏蘭金銀銭価附横文字和解」著、
 [藤兵衛(;通称)の別通称/号]別通称; 梅次郎、号; 梅園

藤兵衛(とうべえ・蒲生) → 貞秀(さだひで・蒲生/藤原/和田、豪族/歌・連歌) G 2 0 1 1
 藤兵衛(とうべえ・国枝) → 清軒(せいけん・国枝くにえだ、軍記作者) B 2 4 2 1
 藤兵衛(とうべえ・津田) → 房勝(ふさかつ・津田つだ、藩士/随筆家) C 3 8 0 1
 藤兵衛(とうべえ・青木) → 友浄(ゆうじょう・青木あおき、俳人) G 4 6 4 7
 藤兵衛(とうべえ・浦田) → 蘆本(ろほん・浦田うらた、俳人) C 5 2 4 2
 藤兵衛(とうべえ・梶井) → 一室(いっしつ・梶井とがのい、書肆/歌人) B 1 1 4 7
 藤兵衛(とうべえ・吉成) → 充輝(みちてる・吉成よしなり/渡辺、藩士/剣術家) B 4 1 9 3
 藤兵衛(とうべえ・東郷) → 重位(ちゅうい・東郷/瀬戸口、藩士/兵法家) H 2 8 1 8
 藤兵衛(とうべえ・野尻) → 流憩(りゅうけい・野尻のじり、藩儒/教育) D 4 9 4 4
 藤兵衛(とうべえ・青木) → 瑞翁(ずいおう・青木、藩士/古銭蒐集) E 2 3 2 2
 藤兵衛(とうべえ・横井) → 時庸(ときもち・横井/井、藩士/地誌) K 3 1 1 4
 藤兵衛(とうべえ・小山) → 魯恭(ろきょう・小山こやま、俳人) 5 2 7 1
 藤兵衛(とうべえ・木崎) → 正敏(まさとし・木崎、酒造業/歌/地誌) E 4 0 4 6
 藤兵衛(とうべえ・駿河屋) → 一九(いっく・十返舎、滑稽本作) 1 1 2 0
 藤兵衛(とうべえ・和泉屋) → 栗洞(りつどう・如棗亭じよそうてい、狂歌) C 4 9 1 4
 藤兵衛(とうべえ・鯛屋いわしや) → 梧友(ごゆう・岩本いわもと、和算家) N 1 9 8 3
 藤兵衛(とうべえ・西川) → 明雅(あきまさ・西川、地方役人/文筆家) D 1 0 8 8
 藤兵衛(とうべえ・横山) → 秀世(ひでよ・横山よこやま、国学者/歌) I 3 7 3 1
 藤兵衛(とうべえ・八谷) → 梅顛(ばいてん・八谷やたがい、藩士/詩文) B 3 6 8 6
 藤兵衛(とうべえ・国友) → 一貫斎(いっかんさい・国友、砲術/蘭学) G 1 1 8 4
 藤兵衛(とうべえ・牧) → 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3
 藤兵衛(とうべえ・釘屋) → 魚丸(うおまる・佐藤、狂歌/浄瑠璃作者) 1 2 0 1
 藤兵衛(とうべえ・市川) → 鶴鳴(かくめい・市川、儒者) B 1 5 7 5
 藤兵衛(とうべえ・山下) → 花馬池月(かばのいけつき、狂歌) H 1 5 8 9
 藤兵衛(とうべえ・君塚) → 雛群(ひなむら・3世弥生庵、茶亭/狂歌) E 3 7 3 1
 藤兵衛(とうべえ・撰津国屋) → 仙塙(せんう・細木ほそき/源、商家/狂歌) L 2 4 6 7
 藤兵衛(とうべえ・松屋) → 五道(ごどう・松屋、俳人) N 1 9 2 3
 藤兵衛(とうべえ・本間) → 忠(ちゅう・本間ほんま、儒者) F 2 8 7 0
 藤兵衛(とうべえ・岡村屋) → 延寿太夫(2世えんじゅだゆう・清元、清元節) B 1 3 0 6
 藤兵衛(とうべえ・星野) → 輝文(てるふみ・星野、郷土/商家/勤王) C 3 0 9 1
 藤兵衛(とうべえ・前田) → 黙平(もくへい・前田/小西、俳人) B 4 4 0 9
 藤兵衛(とうべえ・池野) → 祐寿(すけひさ・池野いけの、商家/歌人) L 2 3 3 8
 藤兵衛(とうべえ・井上) → 長隣(ながちか・井上いのうえ、国学) L 3 2 0 5
 藤兵衛(とうべえ・新村) → 秀起(ひでおき・新村しんむら、国学者/歌) J 3 7 8 8
 藤兵衛(とうべえ・白糸) → 滝住(たきずみ・白糸しらいと、国学) X 2 6 6 0
 藤兵衛(とうべえ・中村) → 尽忠(みちただ・中村なかむら、歌人) J 4 1 9 2
 東壁(とうへき・安藤) → 東野(とうや・安藤、修姓;藤、儒者) 3 1 2 4
 東壁(とうへき・宗) → 重計(しげかず・宗そう、藩士/国学者) Z 2 1 2 3
 東壁(とうへき・弘) → 通光(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育) C 4 1 6 4
 陶癖(とうへき・五弓) → 雪窓(せつそう・五弓ごきゅう久文、国学/儒) E 2 4 5 1
 東壁堂(とうへきどう) → 東四郎(初世とうしろう・片野、書肆) F 3 1 5 6
 道別(どうべつ→みちわき・信夫) → 槐軒(かいけん・信夫しのぶ/源、儒/国学) I 1 5 5 8
 道別(どうべつ→みちわき・大野) → 道別(みちわき・大野おおの、国学者) C 4 1 9 3
 棠辺(とうへん・多紀) → 元佑(もとただ・多紀/丹波、幕臣/医者) C 4 4 9 5

H3110 唐辺木(とうへんぼく) ? - ? 江中期断本作者;1774「茶の子餅」編序

朱楽菅江説あり → 菅江(かんこう・朱楽あけら、狂歌) 1 5 4 7

H3111 東甫(東圃とうほ・内藤ないとう、名;正誠まさなり/正参) 1728-8861 尾張藩士/絵師;狩野派、俳人;木見門、1770-78藩主の命で「張州雑誌」編纂(;藩内を跋涉し動植物や祭祀などを細密に描く)、1784(天明4)絵を描き米穀に替え飢民救済、郷土地誌を執筆、人見璣邑・細井平洲と交流、1780「面影草」画/81「春興楽事」「西行堂集詩歌」「知多郡古見村只右衛門之婢」記編、

1781(安永10/53歳)府下高齢9人を集め金剛山長栄寺で尚齒会を主催;詩歌連俳を詠出;
 (参加者;都筑高104歳・清水成利93歳・松平秀雲85歳・僧杲照84歳・僧慧胤83歳・
 子鹿存82歳・横井並明80歳・永田忠良80歳・僧覚融80歳)[尾張名所図絵入]、
 1785「孝子林左衛門伝」/85文樵「夢の蹤あと」上巻に東甫の横井也有像と也有自画賛28図入、
 「俳句俳画集」「熱田祭事略」「謾志」著、「張城尚齒会」編、
 [東甫(;字)の通称/号]通称;淺右衛門、号;閑水/朽庵/等甫/千里/是琴/好々舎/
 薜荔園せつれいゑん/泥江隠士/臨模、法号;桂嶺院けいがんいん

- S3166 **東歩**(とうほ) ? - ? 江中期備後府中の俳人;浮風門、
 1762「密語橋ささやきばし」;序芥/貫千と共編(浮風の序)
- 3121 **当補**(とうほ・尾関おせき、家老当官男)1779-1829⁵¹ 上州館林藩家老;父を継承、儒者;稻葉黙齋門、
 黙門三傑の1、佐藤直方「韞蔵録うんぞうろく」(黙齋編/第五編を編)、「黙齋語及講義筆録」編、
 「漫録」「読大記参疏」「手帖」著、
 [当補(;名)の幼名/通称/法号]幼名;金之丞、通称;求馬/隼人、法号;良宏院
- H3112 **東圃**(とうほ・三角みすみ、名;有祐/字;子綽、医者辻村養玄男)1787-1855⁶⁹ 近江坂田国友の儒者;
 中島棕隠門/本草;山本亡羊門/京の医者三角了敬に見出され養嗣子、1809補寮医師、
 従六上石見介/1811肥後藩主の治療/13正六位/14典薬少允/24光格天皇の侍医、
 1833紀伊守/典薬大允/49医博士/50従四上、京堺町三条北に住、「観驗方集」著
- H3113 **冬圃**(とうほ・青葱せいそう堂)? - ? 江後期江戸深川の商人/俳人;冬映3世門、
 隨筆「眞佐喜まさきのかづら」著
- 冬輔(とうほ・松殿) → 冬輔(ふゆすけ・松殿まつどの/藤原、廷臣/連歌) E 3 8 2 8
 東逋(とうほ;法諱・梅仙) → 梅仙(ばいせん;道号・東逋、臨濟僧) B 3 6 7 1
 東圃(とうほ・藤野) → 木槿(もくきん・藤野、儒者/仏/道教) 4 4 7 6
 藤圃(とうほ・広瀬) → 元恭(げんきょう・広瀬、医者) I 1 8 6 0
 桃甫(とうほ・越智) → 古声(こせい・越智、酒造業/俳人) D 1 9 0 7
 等甫(とうほ・横井) → 不見(ふけん・横井よこい、商家/茶道) B 3 8 7 5
 道甫(どうほ・林) → 方斎(ほうさい・林はやし、儒者/詩) 3 9 8 3
 道甫(どうほ・春日部) → 錦江(きんこう・春日部、婆阿、薬種商/狂歌) H 1 6 8 4
 道甫(どうほ・酒泉さかいずみ) → 竹軒(ちくけん・酒泉、儒者/国史編纂) C 2 8 9 3
 道甫(2世どうほ) → 喜三郎(きさぶろう・五十嵐、蒔絵師) K 1 6 5 4
 道甫(どうほ・役) → 藍泉(らんせん・役えき/島田、修験僧/詩人) C 4 8 8 3
 道甫(どうほ・小川) → 心斎(しんさい・小川おがわ、儒者/治水) E 2 2 2 1
 道甫(どうほ・山崎) → 菅江(かんこう・朱楽あけら、幕臣/狂歌/川柳) 1 5 4 7
 道甫(どうほ・小野寺) → 慵斎(ようさい・小野寺おのでら、兵法家) 4 7 9 6
 道輔(どうほ・松殿) → 通輔(みちすけ・松殿まつどの/藤原、廷臣/歌) B 4 1 6 4
 道輔(どうほ・源) → 道輔(みちすけ・源、歌人) B 4 1 6 6
 道輔(どうほ・松浦) → 道輔(みちすけ・松浦まつら/安倍、国学者) B 4 1 6 7
 道輔(どうほ・大谷) → 道輔(みちすけ・大谷おたに、商家/国学者) I 4 1 3 8
 道保(どうほ・伊藤) → 道保(みちやす・伊藤いとう、神職/国学者) C 4 1 7 3
 道保(どうほ・吉和) → 道保(みちやす・吉和よしわ、藩士/歌学) K 4 1 9 5
 童浦(どうほ・鈴木) → 春山(しゅんざん・鈴木すずき、藩医/兵学) J 2 1 7 7
- H3114 **桃方**(とうほう;号) ? - ? 江中期加賀小松の俳人、1770刊「秋のくれ」編
- H3115 **東峯**(とうほう・伊藤いとう、名;弘濟、東所7男)1799-1845⁴⁷ 京の儒者;家学/古義堂5世;兄東里を継承、
 「東峯詩集」「東峯集」「東峯時代古義堂詩集」「伊東宗家系図」「見聞精騎」著、「名字訓輯」編、
 [東峯(;号)の字/諡号]字;壽賀藏、諡号;靖共先生、東里・東岸弟
- H3116 **東鳳**(とうほう・藤尾ふじお、名;貞広)?-? 江後期江戸神田橋外の書家、「一草談話」編、
 [東鳳(;号)の字/通称/別号]字;子岳、通称;半二郎、別号;一草庵
- 東峰(とうほう・黒岩) → 慈庵(じあん・黒岩くろいわ、儒者;南学) B 2 1 0 5
 藤房(とうほう・佐々) → 鶴城(たづき・佐々ささ、神職/国学) P 2 6 0 1
 藤房(とうほう・万里小路) → 藤房(ふじふさ・万里小路、廷臣/詩) C 3 8 6 4
 答坊雪門(とうほうつもん) → 雪門(せつもん・答坊、俳人) E 2 4 6 7

- H3117 **道寶**(どうほう;法諱、左大臣九条良輔男/本姓:藤原)1214-8168 関白九条道家の猶子/真言僧; 1227一身阿闍梨/37勸修寺11代長吏/68権僧正/73神泉苑で請雨経法修法の功;僧正、 1277東寺64世長者/78大僧正/81東大寺別当、「吽字義秘決」「科理趣経道宝鈔」著、 歌人;安撰集入、勅撰5首;続拾遺(556/1265/1374)新後撰(614)続千(988)、「高野物語」著?、 [たちかへりあつめし窓にきてみれば昔忘れずとぶ螢かな](続拾遺;雑春556、 あるところに久しくこもりゐてのち勸修寺に帰りて詠む)、 [道寶の通称] 安祥寺僧正/勸修寺僧正、
- H3118 **道芳**(どうほう) ? - ? 江戸中期の歌人、1743「歌学浅間煙」著
道芳(どうほう;法諱) → 曇仲(どんちゅう・道芳、臨濟僧) S 3 1 4 3
道芳(どうほう・北小路/本荘)→道芳(みちか・北小路きたこうじ/本庄ほんじょう、陪臣/幕臣/歌) L 4 1 2 0
道方(どうほう・源) → 道方(みちかた・源みなもと、廷臣/歌人) B 4 1 3 2
道房(どうぼう・九条) → 道房(みちふさ・九条/藤原、摂政/記録) C 4 1 4 2
桐茅庵(とうぼうあん) → 曲坡(きょくは、俳人) D 1 6 0 8
東方遺老(とうほういろう) → 政村(まさむら・北条ほうじょう、執権/歌人) H 4 0 7 9
- H3119 **東房軒**(とうぼうけん、姓名不詳)?- ? 江前期元禄1688-1704頃和算家:田中佳政門、 1703「教道初述前集」著
- H3120 **道法親王**(どうほうしんのう;法諱、初諱;尊性、後白河天皇皇子)1166-121449 真言宗仁和寺7代御室、 179守覚法親王門;北院で出家、1184一身阿闍梨/85親王宣下;六勝寺検校/95二品、 1203仁和寺総法務/最勝光院・最勝四天王寺・金剛峯寺検校を歴任、 「後高野御室記」、「北院後高野両御室御注」、「山家戒法」「道助親王御入壇記」著、 定家に「後仁和寺宮花鳥12首」詠ませた(拾遺愚草) [道法親王の通称] 西院/光明寿院/後高野御室のちのこうやむら
- S3199 **桐木**(とうぼく) ? - ? 京の俳人/1690言水「新撰都曲みやこぶり」3句入 [名月やそゞろに物の遠き音](新撰都曲;上175)、 蕉門の洞木と同一? → 桐木(洞木とうぼく・佐治さじ、医/俳人) H 3 1 2 2
- H3122 **洞木**(とうぼく・佐治さじ、名;順琢じゆんたく)?-1734 伊賀上野藤堂藩名張付の医者/俳人;芭蕉門、 1691去来ら「猿蓑」94其角「枯尾花」96史邦「芭蕉庵小文庫」入、98沾圃ら「続猿蓑」3句入、 [近道や木の股くゞる花の山](続猿蓑;下春)、 [洞木(;号)の通称/法名] 通称;兵衛、法名;釈恵光
東北院(とうぼくいん) → 彰子(しょうし・藤原、上東門院、一条天皇院中宮) 2 2 0 0
東北院(とうぼくいん) → 覚円(かくえん、法相宗大僧正/歌人) B 1 5 3 7
- X3129 **東北院熊王**(とうぼくいんのくまおう)?-? 鎌倉期;興福寺東北院の童/歌;1237刊[檜葉集]入、 [かぜわたるのぼらの浅茅うらがれてよさむにむすぶ秋の初霜](檜葉;雑835)
- X3126 **東北院文王**(とうぼくいんのぶんおう)?-? 鎌倉期;興福寺東北院の童/歌;1237刊[檜葉集]入、 [うらみける僧のもとにつかはしける、 契をばあだにむすびて草のはのつゆもすごさぬ身を恨むらむ](檜葉;雑童732)
東牧衍源((どうぼくえんげん)→ 湛江(たんこう;道号・衍原;法諱、黄檗僧) T 2 6 4 5
冬木斎(とうぼくさい) → 磐斎(ばんさい、加藤、和学/歌学) 3 6 4 1
- C3056 **東北齋飲居**(とうぼくさいいんきょ、通称;瀬波屋宇一/犀輔)?-? 1818-44頃金沢町内所吏/狂歌;判者、 1840「夷曲歌集百人一首」著、 [東北齋飲居(;号)の別号] 西南宮鶏馬/革山人/託花園/暖雪楼
- H3123 **道本**(どうほん・山口やまぐち)? - ? 安桃江戸前期天正-慶長1573-1615頃山口流眼科医、 内障の眼治療術の秘法で一派を成す、1604「内障一流養生伝皈鏡巻」
- H3124 **道本**(どうほん;道号・寂伝じやくでん;法諱、号;菑亭しやうてい、俗姓;陳)1664-173168 福建福清県の黄檗僧; 1719長崎に渡来/長崎崇福寺6世/24崇福寺竹林院に退隠、詩・書に長ず、 1727「蕭鳴草」、「洛游草」著
道本(どうほん;字) → 憲寿(けんじゆ;法諱・道本、真言僧) J 1 8 4 5
答本春初(とうほんしゅんしよ)→ 春初(しゅんしよ・答本、兵法家/大友皇子の師) J 2 1 8 8
- H3125 **東馬**(とうま、姓不詳) ? - ? 江中期江戸の雑俳点者、 1764「金桂東馬評万句集」著、1796-7「古今こん前句集」入

東馬(とうま・林)	→	罔雄(くにお・林、国学者/狂歌)	C 1 7 6 5
東馬(とうま・林)	→	麿雄(みかお・林はやし、国学者)	4 1 5 3
東馬(とうま・介川)	→	通景(みちかげ・介川すけがわ、藩士/詩文)	B 4 1 3 1
東馬(とうま・堀家)	→	政富(まさとみ・堀家ほりけ、神職/国学者)	M 4 0 9 1
東馬(藤馬とうま・堀家)	→	正樹(まさき・堀家ほりけ、神職/国学)	S 4 0 4 7
藤馬(東馬とうま・梅津)	→	忠致(ただむね・梅津うめづ、藩家老/軍学者)	Q 2 6 9 7
藤馬(とうま・鎌田)	→	正純(まさずみ・鎌田かまた、藩士/日記)	D 4 0 0 8
藤馬(とうま・加藤)	→	泰衍(やすみち・加藤かとう、藩主/学制)	D 4 5 0 6
道摩(どうま・芦屋)	→	道満(どうまん・蘆屋、陰陽家)	G 3 1 5 2
東舛(とうます)	→	東舛(とうせん;号、商家/俳人)	S 3 1 7 3
道俣居翁(どうまたきよおう)	→	貞良(さだよし・栗田くりた、商家/国学)	O 2 0 4 1
唐丸(とうまる・からまる・蔦)	→	重三郎(じゅうざぶろう・蔦屋)	2 1 4 2
唐麿(とうまる・富士)	→	唐麿(からまる・富士、儒者)	F 1 5 9 5
桐麿(とうまる・伊東)	→	矩州(くしゅう・那須/伊東、俳人)	1 7 4 8
道麿(どうまる)すべて	→	道麿(みちまる)	
藤蔓(とうまん・柳原)	→	紀光(もとみつ・柳原/藤原、詩歌/記録)	E 4 4 3 9

G3152 **道満**(どうまん・みちまる・蘆屋/芦屋あしや、道摩) **?-?** 平安期陰陽家;天文博士加茂保憲門、道長時代に安倍保名・清明と法力を争う、宇治拾遺などに逸話、伝説化戯曲化;加賀掾「清明道満行力諍ぎよりきあらそい」・出雲「蘆屋道満大内鑑」など

3122 **胴脈先生**(どうみやくせんせい、畠中はたなか/はたけなか、都築新助男) **1752/3-1801/251-49歳**
 讃岐鶴足郡東分村の郷士の生/京の聖護院宮近習侍畠中正冬の養子、儒者;那波魯堂門、聖護院宮近習、1769「太平楽府たいへいがふ」刊行;狂詩作者として活躍/江戸の大田南畝と並称、洒落本滑稽本作者、晩年は柴野栗山・藤原貞幹らと国書校訂、1771「勢多唐巴詩せたのからはし」、1773「吹寄蒙求」74「針の供養」76「太平楽国字解」78「太平遺響」81「忠臣蔵人物評論」、1786「胴脈先生狂詩画譜」/90「唐土とうと奇談」「二大家風雅」99「太平遺響二編」外著多数、[胴脈先生;観斎(;号)の名/字/通称/別号]名;正春/正盈まさみつ/騏、字;子允、通称;政五郎/頼母、号;観[寛]斎、狂号;胴脈先生/太平館主人/太平道人/片屈[扁屈]へんくつ道人/胡逸滅方海徹斎の父

H3126 **東明**(とうみょう/-めい) **? - ?** 俳:1732巴人「卯花千句」参加

H3127 **東明**(とうみょう:道号・覚沉かくげん:法諱) **?-1758** 臨濟宗法灯派僧:実伝門/法嗣、「東明覚沉和尚語録」著

東明(とうみょう・慧日えにち) → 東明(とうみん・慧日、曹洞僧) H 3 1 3 1

3123 **道命**(道明どうみょう・どうめい:法諱、藤原道綱男) **974-1020/47** 母;源広女、天台叡山僧;987良源門、1001総持寺阿闍梨/16天王寺別当、嵯峨法輪寺住;誦經に秀でる、花山天皇に親近、歌;「道命阿闍梨集」、和泉式部との恋譚など今昔物語以下説話入、玄々集・後葉集(3首)・続詞花集(8首)・雲葉集(3首)入、中古36歌仙の1、勅撰57首;後拾遺(16首;103/182/198以下)詞花(9首;4/32以下)千載(9首)新古(4首)以下、[花見にと人は山辺に入りはてて春は都ぞさびしかりける](後拾遺集;一春103)

H3128 **道明**(どうみょう:法諱) **? - ?** 僧/連歌、1356-70崇永催「紫野千句」連衆

H3129 **道明**(どうみょう:法諱・慧極えごく:道号、俗姓小田) **1632-1721長寿90** 長州生/幼時に父没;江戸住、9歳の時宇都宮興禅寺の快猷門;1648出家/黄檗僧:木庵性瑠しょうとう門/1672河内長安寺復興、長安寺を法雲寺と改名/1687江戸白金瑞聖寺3世、92萩の東光寺開、1714京の慈光寺隠棲、「黄檗木庵和尚全録」編/「一味禅」「瑞聖詩偈」「慧極禅師語録」「慧極禅師東光寺語録」、狂歌;1666行風「古今夷曲集」8首入/1670下河辺長流[林葉累塵集]約40首入、[葛城や天狗のはなのそれならでによつと高間の嶺にみえたり](古今夷曲集;一春歌)、[言の葉の末の世までもささがにのくもりなき名や玉つしまひめ](林葉累塵;雑1331)

S3158 **道明**(どうみょう:法諱・印光いんこう:道号、号;野雲) **?-1766** 武蔵の曹洞僧;瑞光寺の隠之道頭門/嗣法、廓門・妙喜に参禅、元文1736-41頃相模住、晩年は武蔵に野雲庵を結庵;隠棲、1716「抱甕編」/28「埜雲随筆」著、「洞上宗旨」編

- H3130 **道命**(どうみょう;法諱、俗姓河野、田中屋市左衛門忠次男)1771-1812⁴² 安藝安藝郡警固屋長迫の生、真宗本願寺派僧;大瀛^{だいゑい}門、師の推薦で安藝佐伯郡三吉の徳正寺顕道の養嗣;のち徳正寺10世住職/没後1881贈司教、「道命聴記」「助正箋」「助正辨」「正信偈鸚鵡篇」著、[道命の諡号] 眞諦院^{いたいん}
- 道明(どうみょう;字) → 聖然(しょうねん;法諱、三論僧) L 2 2 3 1
道明(どうみょう;法諱) → 良寂(りょうじやく;道号・道明、黄檗僧) H 4 9 7 9
道明(どうみょう;法名) → 鵲斎(せきさい・原田はらだ、医者/詩歌) K 2 4 0 4
- H3131 **東明**(とうみん/とうみょう;道号・慧日^{えいち};法諱、俗姓;沈)1272-1340⁶⁹ 南宋明州定海県曹洞僧;9歳出家、直翁徳挙門/1308北条貞時の招請で渡来/相模禅興寺住、09円覚寺住持、鎌倉諸寺歴住、1340白雲庵に退隠、「白雲東明和尚語録」「東明禅師琴浦小集」著、「東明禅師語録」著(東洲編)
- 等珉(とうみん/とうびん) → 潮白(ちうはく・等珉、俳人) J 2 8 6 8
東民(とうみん・蘆野) → 東山(とうざん・蘆野あし、儒者/詩歌) E 3 1 5 3
唐民(とうみん・藤井) → 恒斎(こうさい・藤井ふじ、医者/詩文) I 1 9 9 1
- H3132 **道民**(どうみん・川崎^{かわさき}、名;勤)1830-81⁵² 佐賀藩医;1862遣米使節に御雇医として随行、米国で銀版写真術を修得;藩主鍋島直大・師大槻磐溪を撮影、「航米実記」著
- 瞳眠子(どうみんし) → 宗珀(そうはく;法諱・玉室、臨濟僧) I 2 5 7 0
瞳眠楼(どうみんろう・号) → 天桂(てんけい;道号・伝尊、曹洞僧) D 3 0 3 9
- H3133 **東溟**(とうめい;道号・際鵬^{さいほう};法諱)1672-? 1750^存 肥前鹿島の黄檗僧;格峰実外門、1716師の法兄月岑海皎の法嗣、鹿島普明寺の子院の祐徳院住持、1750「漏月集」著
- H3134 **東溟**(とうめい;道号・弁日^{べんにち};法諱)?-1743 近江曹洞宗清涼寺6世/甘露寺2世、「天巖祖曉禅師瘞塔^{えいとう}之銘」「海会堂日用毗奈耶」著
- H3135 **東溟**(とうめい;道号・大舟^{だいしゅう};法諱、俗姓;麴谷)1700-56⁵⁷ 若狭曹洞僧;1710越前永建寺慧照門、越中光禅寺睡巖見竜門/嗣法、若狭海蔵寺住持、因幡大竜院住持、「東溟和尚語録」著
- H3136 **東溟**(とうめい・林^{はやし}、名;義卿)1708-80⁷³ 長門の儒者;山県周南門/山県門下三傑と称さる、1720(13歳)藩校明倫館の生員/1731京・大阪で私塾開設;講説、竜草廬の幽蘭社参加・江村北海の賜杖堂に参加/1773江戸住、「林塾学規」「東溟詩稿」、1739「明詩礎」41「詩則」著、1742/72「林塾明月篇」編、51「明官古名考」、「林塾学規」「東溟先生詩文」著、[東溟(号)の字/通称/別号]字;周父、通称;周助/周介、別号;紫碧仙叟
- T3144 **東明**(とうめい・度会^{わたらい}、本名;笹山良意、2世笹山養意男)?-1816 長門長府藩の絵師;若くして出奔、長府藩帰参後[林洞玉]に改名/のち[度会東明]を名告る、1803(享和3)長府藩主毛利元義の前田の別荘閑習庵にて菊舎尼と合作;「前田二十勝」制作、画の技量は唐人物を得意とす;文兆を驚かせたという、[東明(名)の名/号]名;美彦/朗、号;文流斎/松苑
- H3137 **東溟**(とうめい・野口^{のぐち}、名;正安、玄珠男)1833-63³¹ 常陸多賀郡磯原村の儒者;水戸の藤田東湖門、町田村に郷校東溟塾を開く、尊攘運動参加/直弼襲撃計画の予備軍;1863上京;病で帰郷、「鶯谷集」著、[東溟(号)の字/通称/別号]字;仲路、通称;哲太郎、別号;成章館主人
- H3138 **東明**(とうめい・長川^{ながかわ}、名;継、馬田永成男)1839-1911⁷³ 長川東洲の養子、長崎儒者;養父東洲門、1857聖堂助教見習/63諫早の福田渭水門/聖堂世話役見習/広運館漢学助教、維新後は官僚、1857「趨庭紀聞」、「庭園聞講筆記」著、[東明(号)の字/通称/別号]字;公述、通称;新吾、別号;琴屋^{きんおく}
- 東明(とうめい) → 東明(とうみょう、俳人) H 3 1 2 6
東明(とうめい;道号) → 東明(とうみょう;道号・覚沉、臨濟僧) H 3 1 2 7
東明(とうめい・慧日) → 東明(とうみん・慧日えいち、曹洞僧) H 3 1 3 1
東明(とうめい・小林) → 源蔵(げんぞう・小林こばやし、工匠) K 1 8 8 5
東溟(とうめい・善超;法諱) → 善超(ぜんちよう・東溟;号、真宗僧/歌) M 2 4 9 7
東溟(とうめい・蟹) → 養斎(ようさい・蟹かに、儒者) 4 7 9 2
東溟(とうめい・松永) → 良弼(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士) D 4 7 7 8
東溟(とうめい・向井) → 長昇(ながのり・向井、藩士/俳人) F 3 2 3 1

- 東溟(とうめい;号) → 善超(ぜんちよう;法諱、真宗山元派僧/歌) M 2 4 9 7
桃盟(とうめい・今成) → 慮呂(慮呂りよる・今成、商家/俳人) J 4 9 8 3
藤明(とうめい・梅津) → 敬忠(よしただ・梅津/藤原、藩士/兵学) E 4 7 2 4
道命(道明とうめい) → 道命(道明どうみょう・どうめい:法諱、歌人) 3 1 2 3
道明(どうめい:法諱) → 道明(どうみょう:法諱、連歌) H 3 1 2 8
道明(どうめい:法諱) → 道明(どうみょう:法諱・慧極:道号、黄檗僧) H 3 1 2 9
道明(どうめい→どうみょう・良寂) → 良寂(りょうじやく・道明、黄檗僧) H 4 9 7 9
道明(どうめい:法諱) → 道明(どうみょう:法諱・印光:道号、曹洞僧) S 3 1 5 8
道明(どうめい:法諱) → 道命(道明どうみょう:法諱、天台僧/歌人) 3 1 2 3
東明齋(とうめいさい・本多) → 吉道(よしみち・本多ほんだ、神職) P 4 7 0 2
東溟専愚(とうめいせんぐ) → 可彦(よしひこ・陸くが、医者) G 4 7 2 3
道無(どうむ:法諱・雪盤/端愿) → 端愿(たんげん:道号・元珠:法諱、曹洞/黄檗/真言僧) T 2 6 3 8
- H3139 桐茂(とうも・富田とみた) ? - ? 江中期三河吉田の俳人:古市木朶門、
1798刊「月次撰句集」編、
[桐茂(;号)の通称/別号]通称;政右衛門、別号;玉枝軒
藤茂(とうも・藤原) → 藤茂(ふじげ・藤原/星野、武家/歌人) C 3 8 4 6
- H3140 道茂(どうも) ? - ? 京の俳人;1633重頼「犬子集」1句入、
[虎の尾や散るとも踏まじ花の庭](犬子集;二375/虎の尾は桜の一種虎尾桜)
道茂(どうも・新田目あらため) → 道茂(みちしげ・新田目/藤原/橋本、藩士/検地) B 4 1 6 2
- H3141 東蒙(とうもう・黒沢くろさわ、名;信良) 1729-9466 陸前登米郡新田村の医者/儒:遊佐木齋門、
上京し石王塞軒門/医学を修得、帰郷後は医業と儒を教授、「東山実記」編、
[東蒙(;号)の字/別号]字;子方、別号;東蒙山人
東蒙(とうもう・立松たてまつ) → 東作(とうさく・平秩へつ、狂歌/戯作) 3 1 1 3
道孟(どうもう・宮本) → 天姥(てんぼ・宮本みやもと、農業/俳人) E 3 0 2 5
東蒙山人(とうもうさんじん) → 東作(とうさく・平秩へつ、狂歌/戯作) 3 1 1 3
東蒙山人(とうもうさんじん) → 東蒙(とうもう・黒沢くろさわ、医者/儒) H 3 1 4 1
東黙(とうもく・一亩;道号) → 一亩(いちゅう・東黙、臨濟僧) H 1 1 5 8
- H3142 東門(とうもん・陰山/蔭山かげやま、名;元質) 1669-173264 紀州和歌山の町人出身/儒:伊藤仁齋門、
和算;井田法の研究、和歌山藩士;藩校講釈所の総裁、1691「私擬対策」1700「田禄図経」著、
1703「武家職役佩刀鈔」04「今文歌註」、「東門篇」「排釈篇」「井田図説」「東門子講習訓方」著、
[東門(;号)の字/通称]字;淳夫、通称;源七
- H3143 東門(とうもん・山脇やまわき、名;玄侃/陶/玄陶、東洋男) 1736-8247 京の医者;1752父命で奥村良筑門、
1762家督/66法眼、屍体解剖の図譜を作製;解剖を力説、吉雄耕牛の伝授;刺絡の説を唱導、
「玉碎臓図」「東門随筆」著、俳諧;1772几董「其雪影」339/維駒こにま「五車反古」入、東海の父、
[鶯の庭をありくや雨の後](五車反古;巻首79;雨遠号)
[東門(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;阿藤、字;大鑄、通称;道作、別号;雨遠/方学居士
- H3144 東門(とうもん・松田まつだ、名;通居) ?-? 江中期伊予松山藩儒;大月履齋門、闇齋派朱子学、
藩主松平定喬に出仕;150石、「東門夜話」著、佐藤道右衛門(門人佐藤勘太夫男)が家職を継嗣
- H3145 東門(とうもん・森もり、名;球) ?- 1799 美濃加茂の脇本陣8代目/儒;吉田東堂門、
詩に長ず、「桂花楼集」著
[東門(;号)の字/通称]字;求玉、通称;簀助/孫一/孫一郎
- H3146 東門(とうもん・竹内たけうち/是永(;一時期)、名;安孝/安明) 1751-181565 豊後儒・医者;京の堀怨庵門、
豊後三ツ川で医開業/1790豊後府内藩儒:学問所で儒(経義)・医术を教授/医務総官となる、
「春秋左氏伝国字解」「論語集解補義」著、府内藩士安敦の異母弟、安眞・豊洲の父、
[東門(;号)の字/別号]字;文会、別号;輔仁堂
- H3147 東門(とうもん・桜井さくらい、名;惟温、近藤恒邦男) 1776-185681 備前是里の儒者、
赤松滄州の養子、肥後の高本紫溟門/上方の皆川淇園・中井竹山門/江戸の佐藤一齋門、
桜井東亭門/東亭の女婿、但馬出石藩儒、頼杏坪・大窪詩仏・菊池五山らと小不朽社設立、
1803義父東亭没;藩校弘道館講師/出石藩の政争に連座;26蟄居/36赦免/38隠居、
「桜室撰纂」「西遊記」「東遊記」「東遊紀行」「東門文集」「東門詩稿」「海辺一覽」「国のつと」、

「月のをこり」「学典筆答」「井々問答」「坐右観省」「藩校時宜」「丙戌四編」「西遊視聴記」著、
[東門(；号)の字/通称/別号]字；士良/子良、通称；良蔵、別号；迂叟/知非子/馬上隠者

- H3148 **東門**(2世とうもん・竹内たけうち、安眞、安明[東門]男)1789-1853⁶⁵ 豊後府内藩儒員/儒；父門、
古学に長ず；子弟教育、豊洲ほうしゅうの兄
東門(とうもん・菅野) → 恭厚(やすあつ・菅野かんの、儒者/詩文) 4 5 9 1
東門(とうもん・清水) → 柳溪(りゅうけい・清水しみず、藩の茶人) D 4 9 4 9
東門(とうもん・菊地) → 武美(たけよし・菊地、藩士/儒者/武術) C 2 6 9 0
桃門(とうもん・山崎) → 泰輔(やすすけ・山崎やまざき、医者/国学) G 4 5 9 6
藤門(とうもん・岩崎) → 美隆(よししたか・岩崎いわさき、里正/歌人) E 4 7 0 9
- H3149 **道開**(どうもん) ? - ? 摂津の医者/俳人；
1689新宅に鬼貫を招待(1690「大悟物狂」詞書入)
道門(どうもん・神戸) → 道門(みちかど・神戸かんべ、軍記作者) B 4 1 3 7
- X3127 **東門院土用丸**(とうもんいんのどうまる)?-? 鎌倉期；興福寺東門院の童/歌；1237刊檜葉集入、
[師匠法印公縁に具してあづまのかたにまかりけるに、
なれにし遊女歓喜がもとにみやこよりつかはしける、
ちぎりきやうきとし月を重ねてもたえぬ涙をかたみなれとは](檜葉；雑童733)
東門居士(とうもんこじ) → 綱村(つなむら・伊達だて、藩主/歌人) B 2 9 3 7
藤門四天王(とうもんしのてんのう) → 惺斎(せいさい・藤原、儒学；朱子学)の項 2 4 0 3
- 3124 **東野**(とうや・安藤あんどう、修姓；藤とう、名；煥図、旧姓；滝田)1683-1719³⁷ 下野黒羽藩医滝田家の生；
孤児となり江戸の安藤家の養子、儒；中野撫謙門/1706柳沢吉保家臣/古文辞学；徂徠門、
儒官、詩文/書に長ず、「東野遺稿」(山井崑崙編)、
[東野(；号)の字/通称]字；東壁、通称；仁右衛門
- H3150 **東野**(東埜とうや・大原おおはら、名；民声)1771-1840⁷⁰ 奈良の絵師/大阪住・晩年丸亀住、博物学；
昆虫蒐集、人物・山水・花鳥を描く、備後福山の絵師藤井松林と親交、
1802「唐土名勝図会」/1806-35「絵本西遊記全伝」、10「五畿内産物図会」画、
1811「大日本土産図誌」/12「東のつと」外画多数、
[東野(号)の字/別号]字；不楽、別号；如水亭
- H3151 **桃野**(とうや・鈴木すずき、名；成夔せいき、幕臣白藤男/本姓；紀)1800-52⁵³ 幕臣/儒学；父門、
さらに内山壺太郎門、書；叔父多賀谷向陵門、1839昌平黌教授、1852(嘉永5)家督相続、
甲府徳典館学頭任命前に病没、
「無可有郷」「酔桃庵雑記」「復古のうらがき」「桃野随筆」著、姉の松子は古賀侗庵の妻、
[桃野(；号)の字/通称/別号]字；一足、通称；孫兵衛、
別号；詩瀑山人/酔桃子/桃花外史/槿亭ぞうてい、法号；観良院
- H3152 **東野**(とうや・竹村たけむら、名；修、正教男)1804-66⁶³ 土佐香美郡野市村の儒者；国老桐間兵庫の儒臣、
土佐藩校教授館教授に抜擢、1829江戸の佐藤一斎門、安積良斎・山口菅山に従学、
1824帰郷；家塾成美塾を開/41再び江戸で諸学者と交流、兵学；清水赤城門、
帰郷し塾再開；儒・兵学・測量を教授、桐間家の会計役、1865再び藩校教授、「登岳紀行」著、
「富士山に登るの記」/1841「土州舟子万次郎異国江漂流之始末」著、「東野遺稿」、
[東野(；号)の字/通称/諡号]字；静夫、通称；節之進、諡号；温和院、
中岡慎太郎・安岡覚之助・大石円らの師
- H3153 **東野**(とうや・元田もとだ、名；遜/永孚ながさね、三左衛門男)1818-91⁷⁴ 熊本藩士/儒者；1837藩校居寮生、
1851家督嗣、61藩主細川慶順に随従出府/京留守居/中小姓番頭/高瀬町奉行/中小姓番頭、
実学党を結成；藩政改革/1870藩主の侍読/71明治天皇の侍読、教育勅語起草に参与、
1865「沼山閑話」著、
[東野(；号)の字/通称/別号]字；子中、通称；八右衛門、別号；茶陽/東臯/猿岳樵翁
- H3154 **東野**(とうや・国分/国府くくぶ、名；義胤、義明男)1832-1908⁷⁷ 下野都賀の儒者；父の私塾で修学、
江戸で大田玄齡・大橋訥庵門、医術/武道修得、尊攘主唱；志士と交流/帰郷；漢学兵学指導、
農民隊を組織；訓練、維新後郷里に中学開校、「東野田芹」「東野吟稿」著、
[東野(；号)の通称/別号]通称；五郎、別号；吾楼学人/如水軒/巖舟漁者/穀三二
東野(とうや・柴) → 秋村(しゅうそん・柴しば、儒者/藩儒) I 2 1 0 5

- 藤弥(とうや・宮地) → 静軒(せいけん・宮地みやじ、藩儒者) B 2 4 2 3
- H3155 道冶(とうや;通称・富山とみやま、栄冶男)1584-1634⁵¹ 江初期伊勢射和の商家の生、
医者;曲直瀬まなせ玄朔門、医業、仮名草子「竹斎」著、法号;乗誉、
[学道は唯々人に物を問ひ給へ 問ふに損はなし](竹斎)
- H3156 道冶(とうや・一無軒いちむけん)?- ? 江前期延宝1673-81頃の紀州藩に出仕/致仕、
医者;京の養壽院道作(山脇玄心)門/医を開業、地誌家、
1670「高野山通念集」-75地誌「蘆分船」-76「住吉相生物語」-80「難波鑑」著
- 道也(とうや・中野) → 小左衛門(こざえもん・中野、書肆) F 1 9 6 3
- 道也(とうや・今西) → 小道(こみち・初世柳条亭、商家/狂歌) F 1 9 8 8
- 道也(とうや・中田) → 道也(みちなり・中田なかつ、歌人) H 4 1 9 6
- 東野散人(とうやさんじん) → 立斎(りつさい・佐久間さくま、兵学者) B 4 9 8 3
- 東野州(とうやしゅう) → 常縁(じょうえん・つねより・東とう、武将/歌人) S 2 2 0 1
- H3157 道瑜(とうゆ、如意寺僧正、関白二条良実男/本姓;藤原)1256-1309⁵⁴ 道玄の弟、天台僧:隆弁門、
1285道慶より三部大法の職位を受/如意寺門跡、1297園城寺長吏/大僧正/熊野三山検校、
新熊野検校/准三后、
歌;鎌倉歌壇参加/拾遺風体集・柳風抄入/勅撰4首;新後撰(506/999/1356)玉葉(1827)、
[しばしこそ吹くとも風はしられけれ雪にこもれる高砂の松](新後撰;六冬506)、
[はるもなほかすみのうへにたちこえてまがはぬふじの夕けぶりかな](柳風抄;春4)
- H3158 道瑜(とうゆ;法諱) 1422 - ? 1493存 紀伊根来の真言宗大伝法院の学僧;極楽院政秀門、
智積院長盛門、文明1469-87頃根来十輪院住/学頭、「自門心念」「即身義鈔」「大日経縁起」著、
「秘鈔私記」「華嚴五教見聞」「大疏尋求鈔」「理趣教鈔」「大般若法則」「声字義開秘鈔料簡」著、
[道瑜の号/通称]号;玄音房、通称;十輪院能化じゅうりんいんのうけ
- S3164 東雄(とうゆう・指月庵しげつあん)?- ? 安藝広島の俳人:野坡門、本逕寺に隠居、
1764「寝覚集」編
- H3159 稲有(とうゆう・大口屋おおぐちや、通称;平兵衛)?-? 江中期安永天明期1772-89頃の江戸の豪商、
十八大通の1
- 東雄(とうゆう) → 長良(ながよし・菊池まくら、和算家) G 3 2 4 6
- 東雄(とうゆう・福嶋) → 東雄(はるお・福嶋、名主/国学/地誌) G 3 6 0 2
- 東雄(とうゆう・武居) → 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2 9 8 2
- 東雄(とうゆう・児島) → 利涉(としただ・児島こじま、国学者) V 3 1 1 7
- 稲雄(とうゆう・北原) → 稲雄(いなお・北原きたはら、名主/国学) I 1 1 0 4
- 稲雄(とうゆう・西田) → 稲雄(いなお・西田にしだ、歌人) J 1 1 6 3
- 当雄(とうゆう・藤原) → 当幹(まさもと・藤原、廷臣/文筆家) H 4 0 8 3
- H3160 道融(とうゆう、俗姓;波多はた[秦])?-? 奈良期の僧/詩人、古い渡来人の末裔、
懐風藻に伝と「擬四愁詩」(後漢張衡の四愁詩に擬す)5首(4首消失)入、懐風藻によると;
博学多才/性端直/母の喪に寺でたまたま法華経に接し出家;仏道に帰依し勉学を重ねる、
難解と言われた唐の道宣律師の[六帖鈔]を初めて解説;その研究に没頭、
これを称えた光明皇后の法施を断りその場を去ったという、淡海三船と才を並称された、
[我が思ふ所は無漏に在り 往きて従はんと欲すれば貪瞋たんじん難し
路の陰易は己に由るに在り 壯士は去りて復たびは還らず](懐風藻)
- H3161 道猷(とうゆう;法諱) 1279 - 1358⁸⁰ 天台僧:1300園城寺長乗門;得度受戒、園城寺学僧、
1315「烏藷うすう大輪伝受記」著
- H3162 道雄(とうゆう;法名) ? - ? 僧(法師)/歌人:1384成立「新後拾遺集」1409、
[何事を待つとはなくてうつりゆく月日のままに世をやすぐさん](新後拾;十七1409)
- 3125 道祐(とうゆう;法名、道祐居士)?- ? 堺の僧/儒者、
魏の何晏かあんの「論語集解」を1364(正平19)開版刊行(「正平版論語」と称);堺版の最初
- 3126 道祐(とうゆう・黒川くろかわ、名;玄逸、藩医寿閑男)1623-91⁶⁹ 母;堀杏庵女、安藝広島藩医:父門/家督、
儒;外祖父杏庵門(1642杏庵追悼詩を詠む)、林羅山・鶯峰門、京に静庵/遠碧軒を営む、
1655朝鮮通信使と唱和、詳細な史書・地誌や多くの紀行・随筆を残す、1663「本朝医考」、
1663漢文体地誌「芸備国郡志げいびにくんし」、63「本朝医考」64「有馬地誌」75「遠碧軒記」、

1684「雍州府志」85「日次紀事」、「梅林詩草」「近畿歴覽記」「西北紀行」「南方行記」外著多数、
林梅洞・鳳岡・人見鶴山・石川丈山・陳元賛・運徹・伊藤仁斎らと交流、玄通の兄、
[道祐(；字)の号]号；静庵/梅庵/遠碧軒/梅林村隱/梅痴

H3163 **道祐**(どうゆう・福住ふくずみ/本姓；源、名；嘉)1625-89?65? 阿波の医者：大阪で開業、伝記蒐集/蔵書家、
詩人、1686讃岐高松藩に仕官、俳人松山玖也・岡西惟西・儒者清水春流・連歌師西順と交流、
1666俳文紀行「東帰稿」68?「宗長居士伝」著、84「存心軒書籍目録」編、
「吉岡伝」「種玉庵宗祇伝」著、

[道祐(；字)の号] 如松/竹溪/竹溪軒/梅林/存心軒

H3164 **道有**(どうゆう・どう・栗崎くりさき、正家[道有]男/本姓；橘)1660?-172667? 長崎和蘭流外科医：家学、
道喜以後代々南蛮流外科医、1691(元禄4)幕府医官/博物学者ケンペル門、侍医/法眼、
刃傷で負傷の吉良義央よしなかを治療；1701(元禄14)義央の首と胴の縫合、1726致仕、
1721「金瘡師語録」、「栗崎流金瘡秘訣」著、1726(享保11)没

[道有(；通称)の名/別通称/法号]名；正羽まさゆき、別通称；貞悦(；初通称)/道仙(；次通称)、
法号；瑞雲院

☆道有は栗崎家世襲の号；[露]を意味する蘭語dauw(英dew)に由来

H3165 **道猷**(どうゆう；法諱・大含；字)1796-185358 備後福山の真言僧；11歳で高野山正智院乗如門、
正智院継承住持、1842「弘法大師弟子譜」編、「高野山風土記」「高野僧伝」「真言宗年代記」著

道祐(どうゆう；法諱)	→	琛州(ちんしゅう；道号・道祐、黄檗僧)	K 2 8 8 1
道祐(どうゆう・釈)	→	清風(せいふう・鈴木すずき、商家/俳人)	C 2 4 9 4
道有(どうゆう；法号)	→	義満(よしみつ・足利/源、3代将軍/北山文化)	H 4 7 5 0
道有(どうゆう・浅野)	→	嵩山(すうざん・浅野あさの、藩士/奥医師)	F 2 3 2 7
道有(どうゆう・冢田)	→	子常(しじょう・冢田つかだ、医者)	T 2 1 7 9
道雄(どうゆう・藤原)	→	道雄(みちお・藤原ふじわら、廷臣/詩人)	B 4 1 2 3
道雄(どうゆう・太田)	→	道雄(みちお・太田/大田おた、歌人)	B 4 1 2 5
道雄(どうゆう・新庄)	→	道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者)	B 4 1 2 6
道雄(どうゆう・新井)	→	道雄(みちお・新井あらい、国学/歌)	L 4 1 0 9
道雄(どうゆう・重松)	→	道雄(みちお・重松しげまつ、国学者/歌人)	J 4 1 2 5
堂雄(どうゆう・望月)	→	堂雄(たかお・望月もちづき、歌人)	2 7 5 8
島友鷗(とうゆうおう)	→	頼直(よりなお・成田なりた、藩士/藩史編)	J 4 7 2 6
東祐軒(とうゆうけん・越智)	→	古声(こせい・越智、酒造業/俳人)	D 1 9 0 7
東牖子(とうゆうし)	→	橘庵(きつあん・田宮、洒落本)	I 1 6 6 4

H3166 **灯誉**(とうよ；号・良然りょうねん；法諱)1472-155685 和泉堺の浄土宗旭蓮舎14世住職、
和泉上善寺・西福寺創建、歌/連歌；肖柏門、上洛；自詠歌集に正親町天皇より御点下賜、
1552「三社法楽和歌」、「弥陀四十八願和歌」「吾孀問答」著

H3167 **等誉**(とうよ；法諱)1590 - 165869 天台僧；初め園城寺入/のち叡山西塔南谷正光院住僧、
1645横川恵心院に転住；首楞嚴院別当職/権僧正、広学堅義探題職、
1646「十不二門指要鈔」著

H3168 **到誉**(とうよ；法諱) ? - ? 江中期武州八王子の浄土宗極楽寺僧；隠居、
1757「善導大師略縁起」著

東念(とうよ；法諱)	→	悦岩(悦巖えつがん；道号、臨濟僧/詩人)	F 1 3 5 2
統誉(とうよ・広蓮社)	→	円宣(えんせん；法諱、浄土僧)	F 1 3 1 4
藤与(とうよ・藤原)	→	当幹(まさもと・藤原、廷臣/文筆家)	H 4 0 8 3
騰誉(とうよ・神蓮社；法名)	→	実海(じっかい；法諱、浄土僧/大僧正)	U 2 1 5 2

3111 **道誉**(導誉どうよ；法諱、姓；佐々木/京極、京極宗氏男/本姓；源[宇多源氏])1296-137378 武将：
外祖父佐々木宗綱の嗣子、左衛門尉/佐々木家惣領職/檢非違使/佐渡守、北条高時の執事、
1326高時滅亡時に出家、元弘乱以後足利尊氏の家臣、室町幕府政所執事/評定衆を歴任、
近江・摂津・飛騨・上総・出雲等の守護職、驕奢な生活；婆娑羅大名として有名(愚管記入)、
茶/花/香/猿樂能を嗜む、連歌：救済門、自邸でしばしば連歌会催(1354家の千句など)、
歌：1367新玉津島歌合参加/新続古1783、菟玖波集81句入、梶井美也尊胤の連歌会に参加、
[待てばこそ鳴かぬ日もあれ時鳥](菟玖波；発句2089/文和三年[1354]四月家の千句にて)

[道誉の名/通称/法号]名;高氏たかうじ、通称;佐渡大夫判官入道、法号;勝樂寺徳翁道誉、佐々木秀綱・京極高秀の父

- H3169 **道与**(どうよ) ? - ? 江前期京の俳人;1649刊の立圃「花月千句」連衆
道誉(どうよ・磨蓮社) → 貞把(ていは・道誉、浄土僧) B 3 0 5 6
道与(道誉どうよ・馬場) → 信貞(のぶさだ・馬場、兵法家) B 3 5 4 7
洞誉(どうよ・然蓮社) → 文雄(もんおう;法諱、浄土僧/語学者) I 4 4 3 6
- H3170 **東洋**(とうよう;道号・允澎いんぼう;法諱)?-1454 臨濟僧;絶海中津門/法嗣;天童寺住持、
1451室町幕府の遣明正使/53入明(天与清啓・笑雲瑞訢さいきんらと):帰路客死、
1451-54「允澎入唐記」著(笑雲瑞訢の筆録)
- H3171 **等楊**(とうよう;法諱・雪舟せつしゅう;道号、俗姓;小田)1420-1506⁸⁷ 備中赤浜の臨濟僧;宝福寺で得度、
上京し相国寺で修学/画;天章周文門、周防山口に雲谷庵を開く;大内氏の庇護で1467入明、
寧波の天童山景德禪寺の道座/各地を遊歴/帰国後山口拠点に出羽能登歴遊;水墨画大成、
日本水墨画の祖、「秋冬山水図」「山水長巻」「破墨山水図」「天橋立図」「花鳥図」など画多数、
[雪舟等楊の号] 拙宗等楊/雲谷/雲谷軒/備溪斎/米元山主、楊知客
- H3172 **桐葉**(とうよう・林はやし、書号;臨高庵元竹)?-1712 尾張熱田の俳人;芭蕉門/芭蕉の定宿の主人、
書家;北向雲竹門、暁台「熱田三詞僊」入(;1684/85芭蕉らとの歌仙)、
1695東藤「熱田皴篔簹物語」歌仙参加/版下を筆、
[つくづくと榎の花の袖にちる](熱田三詞僊;六吟歌仙発句)、
(脇;独り茶をつむ藪の一家ひとや;芭蕉)
- H3173 **桃妖**(桃葉とうよう・長谷部/修姓;長、名;連秋、豊連[武矩]男)1676-1751⁷⁶ 加賀山中温泉旅宿業;
旅宿[泉屋]の主人、俳人、1689ほそ道途次に芭蕉が宿泊;号を授く、
1691北枝「卯辰集」去来「猿蓑」入/92句空「北の山」98「続猿蓑」入、1732「首尾吟」、
[紙鳶いか切れて白根が岳を行衛ゆく哉](猿蓑;四/紙鳶はいかのぼり/越の白根;歌枕)、
[桃妖(桃夭/桃葉;号)の通称/別号]通称;久米之助/又兵衛/甚左衛門、
別号;桃夭/桃葉/桃蚌とうよう、桃枝、宿鷺亭/桃枝斎/桃枝軒、法号;周孝桃妖居士
- H3174 **東陽**(とうよう) ? - ? 江中期河内?の俳人;
1709河内鷺尾山の鷺仙寺の百韻集録「鷺の尾」編
- H3175 **桃葉**(とうよう) ? - ? 江中期京住の俳人;1729隆志「俳諧草結」1句入、
[浦安のうらに名高し氷魚使ひをがひ](俳諧草結;213/浦安は心安うらやすで日本のこと)、
摂津の桃葉と同一? → 桃葉(とうよう、摂津俳人;蕪村門)H 3 1 8 1
- H3176 **東陽**(とうよう・高橋たかはし、名;長熙、治富男)1700-81⁸² 陸中宮古の儒者;経学、盛岡藩士;父を継承、
1737宮古代官下役/1762謫せらる、井上蘭台と親交、詩人、1763「沢内風土記」著、
「子績詩文集」「宮古八景詩稿」「奥州南部封域志」「横山八幡宮縁起」「黒森山陵志」外著多数、
[東陽(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;直養/平六、字;子績、通称;判左衛門、別号;東陽亭
- H3177 **東洋**(とうよう・山脇まわき、名;尚徳、医者清水立安男)1705-62⁵⁸ 丹波の医者;父門/山脇玄修門、
1726京の山脇玄修の養嗣子、古医方;後藤良山門、儒;渡辺弘堂門、1727家督/29法眼;
養壽院を襲名、1754刑屍解剖を観察;解剖図誌「臓志」著、東門の父、永富独嘯庵の師、
「東洋文集」「山脇腹診」「養壽院医談」「養壽院方録」「濟世余言」「傷寒門温胆」外著多数、
[東洋(;号)の字/通称/別号]字;玄飛/子樹、通称;道作、別号;移山(;初号)/養壽院
- H3178 **東陽**(とうよう・守屋もりや、名;元泰、峨眉男)1732-82⁵¹ 医者;父門/1754家督;美濃大垣藩医、
江戸遊学/儒;服部南郭門、藩主に近侍、詩文、晩年失明後も侍講、
「西遊記」、1781「東陽集」著、
[東陽(;号)の字/法号]/字;伯亭、法号;澄源院
- H3179 **東陽**(とうよう・高木たかぎ、名;成孟)1743-90⁴⁸ 河内久宝寺村の生/大阪で伯父の商家を継嗣、
儒;細合半斎門、詩文;混沌社員、「眉壽遺稿刪」著(1802刊)、
[東陽(;号)の字/通称/別号]字;士寅、通称;油屋善兵衛、別号;眉壽堂、法号;宗善
- H3180 **東洋**(とうよう・服部はっとり/修姓;服/本姓;源、名;圭言)?-? 江中期江戸の儒者;安達清河門、
1776「北遊詩草初編」79「北遊詩草後編」/87「峽宦詩稿」著、
[東洋(;号)の字/通称]字;子訥、通称;武平
- S3198 **桃葉**(とうよう・飯塚いづか、名;秀久)?-? 江中期の蒔絵師;印籠が得意、

明和1764-72頃阿波徳島藩主蜂須賀重喜に気骨を気に入られ藩主抱え絵師、
「鶏蒔絵印籠」「葦鷺蒔絵印籠」「宇治川螢蒔絵料紙硯箱」制作、
[桃葉(；号)の通称/別号]通称;源六、別号;観松齋

- H3181 **桃葉**(とうよう) ? - ? 撰津灘大石の俳人;蕪村門、1782蕪村「花鳥篇」1句入、
[夜桜や檻おぼまちかき君が声](花鳥篇;37/手すりにもたれ夜桜見物・愛しい人の声)
京の桃葉と同一? → 桃葉(とうよう、京の俳人) H 3 1 7 5
- H3182 **東陽**(とうよう・津阪つさか/本姓;菅原、名;孝綽たかひろ、山田房勝男) 1756-1825 伊勢三重郡平尾村生、
郷土出身/儒;父門/1770尾張の医者村瀬家に修学/父の旧姓津阪(津坂)を名乗る、
上京し独学で古学修得/諸公卿の賓師、1789津藩儒;伊賀上野で講義/1807津で侍読学士、
1820藩校有造館創設に尽力;督学兼侍講、22亞執法大夫;4百石、24致仕、「聿修録」編、
1778「伊勢軍談」96「武家女鑑」/96「道の柴折歌合」編、1815「勢陽考古録」16「夜航詩話」著、
1821「整暇堂記」/24「絶句類選」編、「夜航余話」「孝綽こうしやく文集」「東陽詩鈔」「聿修詩」著、
「忠聖録」「義臣録」、「東陽先生詩文集」「東陽津阪孝綽先生詩鈔百首」「東陽遺稿」外著多数、
[東陽(；号)の字/通称/別号]字;君裕、通称;常之進、別号;懸匏庵けんぼうあん/癡叟ちそう、
諡号;文成先生、拙脩せつしゅうの父
- H3183 **桐陽**(とうよう・尾池おけ、名;槃、村岡景福男) 1765-1834 讃岐丸亀の生/経史;大阪の中井竹山門、
医者;讃岐大野原村の尾池薫陵門/師の養嗣、1781丸亀藩医に招聘、町医を兼ねる、詩人、
菅茶山・頼山陽・篠崎小竹と交流、1834「桐陽詩鈔」52「穀似集」著、
[桐陽(；号)の字/通称]字;寛翁、通称;左膳
- H3184 **東陽**(とうよう・猗々庵いあん、別号;花下遊士)?-? 江後期尾張の俳人;士朗門、城北に住、
1807「うくひすきかう」著、「歳華帖」編
- H3185 **東陽**(とうよう・細井ほい、名;徇/順)?-1852 代々福井藩医/医学;多紀元簡門、本草;小野蘭山門、
相法;石竜齋門/声律;南谿門、画;諸品の形状模写、致仕後;京阪を往来し諸士と交流、
1818「四診備要」/47「経験医話」編、50「詩経名物図解」、「製薬録」「本草精義」「傷寒薬量考」著、
[東陽(；号)の字/別号]字;叔達、別号;香祖軒/紫髯しぜん/紫髯道人、法号;洵光院
- T3142 **桃葉**(とうよう・村田むらた、通称;儀兵衛/別号;藜々園)?-? 長門豊浦郡田耕村中河内の庄屋、俳人、
菊舎尼の婚家の本家、1824(文政7)一字庵2世を継嗣;菊舎同席で文台開(2年後菊舎没)
- H3186 **東洋**(とうよう・沢田さわだ、名;哲、東里男) 1804-47 江戸両国の書家;祖父・父を継承、
1840「裁牘十詞」書、
[東洋(；号)の字/通称/別号]字;文明、通称;文二/文次、別号;来禽堂
父 → 東里(とうり、書家) I 3 1 1 5
祖父 → 東江(とうこう、儒者/書家) 3 1 1 0
- H3187 **峒陽**(とうよう・千村ちむら、仲冬/仲泰、仲雄男/本姓;木曾) 1807-91 木曾義仲の末裔、尾張藩士、
美濃久々利領主、儒;鈴木朧あきら門/書;丹羽盤桓門、1824家督継嗣/48弟に譲渡し退隠、
詩文;沢田眉山門、尾張藩主慶勝がその才を藩政に起用しようとしたが果せなかった。
維新後は木曾姓、洋学;伊藤圭介門、「峒陽記勝」編、「明陽詩文集」「西荘集詠」著、
[峒陽(；号)の字/通称/別号]字;大来/埜堂てつどう、
通称;吉之丞/帯刀/平右衛門/十郎右衛門/旭翁、
別号;明陽/退一步堂/八十一峰道人/三学堂、法号;半天巢院
- H3188 **東洋**(とうよう・吉田よしだ、名;正秋、正清男) 1816-62 暗殺 47 母;鮑代、土佐藩士;1841家督、
儒者;安並雅景・齋藤拙堂門、船奉行・郡奉行/1853仕置役、1854山内家一門への非礼で免職、
吾川郡長浜村で少林塾を開く、57仕置役に復帰;藩政改革/公武合体策を堅持し孤立、
保守・勤王両派から反対;那須信吾らに暗殺、
「静遠居集」「東行西帰日録」「吉田東洋手録」著、
[東洋(；号)の幼名/字/通称]幼名;郁助、字;子悦、通称;官兵衛/元吉
少林塾門弟;後藤象二郎・岩崎弥太郎ら
- H3189 **桐陽**(とうよう・高橋たかはし、復齋男) 1817-86 伊予松山儒者(家学);父門、
藩校明教館修学/江戸昌平黌で修学、帰藩し藩の儒官/明教館教授、
「高橋桐陽上書」「高橋桐陽建議稿」「明教館学政一新建議稿」著、
[桐陽(；号)の名/通称]名;焜こう/あきら、通称;弥平次、

- H3190 **桐陽**(とうよう/どうよう・大村おむら、名;成章)1818-9679 美作津山藩士/儒者;稲垣雪洞門、江戸の古賀侗庵門、津山藩学問所頭取;学政参画、維新後文部省/女子師範学校教授、「備作人鑑」「桐陽詩文集」「晁山記勝」「松島遊記」「澡泉日記」著、[桐陽(;号)の字/別号]字;斐夫、別号;、滷灣おうわん
- H3191 **東陽**(とうよう・小笠原おがさわら、名;董、忠良男)1830-8758 小笠原奥山の養子/儒;昌平黌で修学、佐藤一斎・安積良斎・林鶯溪門/加知山藩士;江戸藩邸岳門所の副督学;子弟教育、維新後池上本門寺で教育/相模鳥羽村に私塾、「耕余集」「南湖漁史」「漢史一斑鈔解」著、[東陽(;号)の字/通称/別号]字;公威、通称;鉄四郎、別号;半漁
- 東陽(とうよう;道号・英朝)→ 英朝(えいちょう;法諱・東陽、臨濟僧) 1 3 4 2
- 東陽(とうよう;法諱) → 宗三(そうさん・三上、住職/武将;城主) H 2 5 4 4
- 東陽(とうよう・大江) → 藍田(らんでん・大江おおえ、儒者/詩人) D 4 8 0 5
- 東陽(とうよう・清水) → 長年(ながとし・清水、藩士/紀行) E 3 2 8 4
- 東陽(とうよう・小沢) → 種春(たねはる・柳園、小沢、藩士/戯作) R 2 6 9 7
- 東陽(とうよう・村田) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5
- 東陽(とうよう・関) → 思亮(しりょう・関せき、藩士/書家) D 2 2 2 2
- 東陽(とうよう・伊藤) → 長蔭(ながかげ・伊藤いとう/貴志きし、薬商) L 3 2 0 9
- 東洋(とうよう;初道号) → 周巖(しゅうげん/-がん;法諱・東沼;道号、臨濟僧) H 2 1 2 7
- 東洋(とうよう;号) → 清珠(せいじゆ;法諱、真宗本願寺派僧) I 2 4 5 9
- 東洋(東陽とうよう・並河)→ 魯山(ろざん・並河なみかわ/なびかわ/並、藩儒) B 5 2 5 7
- 東洋(とうよう・瀟洒軒) → 範序(はんじよ・一色いっしき、藩士/郷土史) H 3 6 9 8
- 東洋(とうよう・岸田) → 吟香(ぎんかう・岸田きしだ、新聞/薬業家) S 1 6 5 2
- 宕陽(とうよう・星川) → 正甫(まさとし・星川/鴨沢、藩士/地誌家) E 4 0 4 9
- 膝鷹(とうよう・中山) → 城山(じょうざん・中山/藤原、儒者/詩) S 2 2 6 0
- 当用(とうよう・山口) → 常庸(じょうよう・山口、俳人/戯作者) B 2 2 8 9
- 道膺(どうよう;法号) → 為邦(ためくに・冷泉れいぜい、歌人) G 2 6 7 6
- 道鏞(どうよう・公音) → 公音(こうおん;道号・道鏞;法諱、曹洞僧) H 1 9 7 4
- 道揚(どうよう・金) → 肇(はじめ・金こん、藩士/系譜) E 3 6 4 0
- 桃葉庵(とうようあん) → 錦江(きんかう・馬場、俳人) D 1 6 9 7
- 桃葉庵(2世とうようあん) → 錦江(きんかう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
- 稲葉庵(とうようあん/いなばあん?) → 寸風(すんぷう・筒井つづい、鳥取俳人) E 2 3 0 0
- 当用庵(とうようあん) → 野坡(やば・志太しだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2
- 東洋一狂生(とうよういちきやうせい) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1
- 東陽逸民(とうよういつみん) → 昭道(あきみち・長谷川、藩士/勤王派) D 1 0 9 6
- 稲葉園(とうようえん) → 弘通(こうつう・島しま/中島、浄土僧/歌) Q 1 9 9 2
- 東陽円月(とうようえんげつ) → 円月(えんげつ・浄満院、真宗僧/詩) E 1 3 6 4
- 東陽軒文整(とうようけんぶんせい) → 俊直(としなお・岡おか/藤原、神職/歌人) U 3 1 5 7
- 桐葉舎(とうようしゃ) → 宣秋(のぶあき・吉田よしだ、商家/歌人) K 3 5 3 5
- 東陽蔵主(とうようぞうしゅ) → 宗三(そうさん・三上、住職/武将;城主) H 2 5 4 4
- 東洋釣史(とうようちやうし) → 松塘(しょうとう・鈴木/鱸ずき、詩人) R 2 2 5 6
- 東陽亭(とうようてい) → 東陽(とうよう・高橋、儒者/詩) H 3 1 7 6
- 東陽堂(とうようどう) → 元知(もととも・須藤すどう/土岐沢、国学/歌) K 4 4 1 3
- 東陽坊(とうようぼう) → 覚慶(かくけい、天台座主) B 1 5 4 3
- 東陽房座主(とうようぼうのざす) → 忠尋(ちゅうじん;法諱、天台僧/恵心流碩学) G 2 8 4 7
- 統誉道阿(とうよどうあ) → 円宣(えんせん・浄土僧) F 1 3 1 4
- H3192 **藤羅**(とうら) ? - ? 美濃岐阜の俳人;1689「あら野」3句入、
[すさまじや灯ともしびのこる夏の朝](あら野;三676)
(短夜のため朝まで常夜灯の油が残り点っているのは興ざめ)
- H3193 **東萊**(とうらい・松尾まつお、名;世良/字;子頭)?-? 江後期美濃高須藩儒/儒学;新川門、1816「東萊焚余」著
- H3194 **東萊**(とうらい・渡辺わたなべ/渡部/修姓;渡)?-? 江後期羽前田川郡大泉の和算家;阿部重道門、

- 1848「数学筌」著、「算法神壁論」/「点竄小成」編、
[東菜(；号)の通称/別号]通称；丈吉、別号；東来/度東菜
- H3195 **東菜**(とうらい・東あずま、名；五俊、東洋男)1807-7165 江後期絵師(家学)；父門、法橋、南画修得、
儒詩；油井牧山・大槻磐溪門、1962「拙稿」著、
[東菜(；号)の字/別号]字；子童、別号；俊翁/江山画屋
冬頼(とうらい・藤原) → 冬頼(ふゆより・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 3 8 4 5
道頼(とうらい・藤原) → 道頼(みちより・藤原、大納言、道隆男) C 4 1 9 1
唐来参人(とうらいさんじん) → 参和(さんな・唐来とうらい、戯作者/狂歌) 2 0 5 4
唐来参和(東来三和とうらいさんな) → 参和(さんな・唐来、戯作/狂歌) 2 0 5 4
- H3196 **動楽**(どうらく) ? - ? 京六条の俳人；1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、
[柴人しばひとの道々こぼす桜かな](新撰都曲；下365)、
(本歌；謡曲[志賀]；「道のべの便の桜折り添へて薪や重き春の山人」)
道楽庵(どうらくあん) → 知章(ともあき・永田/林、藩士/郷土史) P 3 1 0 9
道楽庵(どうらくあん) → 敬雄(けいゆう・きょうおう；法諱・韶鳳；字、天台僧/詩人) D 1 8 6 5
- H3197 **道楽山人**(どうらくさんじん、不通坊)?-? 言語遊戯；
1778「指竹篋ゆひしつべい」(不通坊跋)；(1776無智庵「ききはつり」の続編とある)
無智庵と同一? → 無智庵(むちあん) 4 2 8 9
道楽山人(どうらくさんじん) → 克讓(こくじょう；法諱、真宗僧/詩歌俳) C 1 9 3 6
道楽山人(どうらくさんじん) → 一九(初世いっく・十返舎、戯作滑稽本) 1 1 2 0
道楽散人無玉(どうらくさんじんむぎょく) → 無玉(むぎょく・道楽散人、洒落本) 4 2 4 3
道楽苦先生(どうらくせんせい) → 浮世偏歴斎道楽苦先生(うきよへんれきさいどうらくせんせい、洒落本) B 1 2 2 9
- H3198 **東瀾**(とうらん；道号・宗沢そうたく；法諱、俗姓；張)1640-170768 福建永春県の臨濟僧；
1673長崎福濟寺慈岳道琛の招請で渡来/慈岳の嗣法/89長崎福濟寺3世；伽藍修理尽力、
一時靈鷲庵住；1706同寺再任、「靈鷲東瀾禪師語録」著
東蘭(とうらん・杉浦) → 桐村(とうそん・杉浦、音曲家/絵師) 3 1 4 3
冬蘭庵(2世とうらんあん) → 甘谷(かんこく・坪田、俳人) Q 1 5 4 8
東蘭亭(とうらんでい) → 正因(まさよし・高森、医者/歌人) I 4 0 4 5
- H3199 **洞梨**(とうり/どり；号) ? - ? 俳人；1690北枝「卯辰集」3句入、
[垣荒れて菊のうら見るしぐれかな](卯辰集；四459/うら見に裏と恨みを掛ける)
- I3100 **桃里**(とうり；号) ? - ? 尾張俳人；1699荷兮「青葛葉あおくずのは」連句入
- I3101 **東里**(とうり；道号・可西かさい)?-? 大阪藤森の俳人；雑俳点者、1710「神子みこの臍へそ」入
- I3102 **東里**(とうり；号) ? - ? 初世川柳(1718-90)頃の川柳作者；浅草若菜連、
1725沾洲「百千万」入?、1780初世川柳評「川傍柳」初見、
[なきなきもよい方をとるかたみわけ](柳多留；一七)
- I3103 **桃鯉**(とうり；号・鈴木すずき、名；紀隆/通称；吉左衛門、重昭男)1680-175879 三河新城の富商鉦屋、
俳人；白雪門/白雪の妻の甥、白雪後の新城俳壇の中心、1736白雪追善集「雪なし月」編
- I3104 **東里**(とうり；号・星野はしの、名；竜)1694-175461 三河の儒者/博学、丹後宮津藩儒、
「詩学階梯」「続詩学階梯」「富有録」、1745「凌雲楼集」著、
[東里(；号)の字/通称/法号]字；子雲、通称；小平太、法号；文英宗義居士
- I3105 **東里**(とうり；号・中根なかね、名；若思、重勝男)1694-176572 伊豆下田の生/幼時父と死別；出家；
黄檗僧；宇治万福寺悦山道宗門、1711-16頃還俗；江戸で儒者；荻生徂徠門/室鳩巢門、
朱子学を修学/のち陽明学に転ず、深川八幡宮前に住、
1736頃下野植野の宝童寺境内に知松庵を結ぶ；陽明学を講ず/晩年は浦賀に移住、
「知松庵記」「東里外集」「東里新談」「下毛野国天明郷菅神廟碑銘并序」著、「東里遺稿」、
[東里(；号)の字/通称/別号]字；敬父/敬夫、通称；貞右衛門、出家号；澄円(僧名)
- I3106 **桐里**(とうり；号・岡野おかの)? - ? 江中期上州岩井の俳人、1735「菊畑」編
- I3107 **投李**(桃李とうり；号・駒木根こまきね)1717-8670 出羽秋田藩士/俳人、門人多い、
「太平山奉納三千韻」、芭蕉の句をもじった作句が「梅唇曙曾我」狂言に仕組まれた、
[投李(；号)の通称/別号]通称；三右衛門、別号；応林/李翁/投宗竹
- I3108 **桃里**(桃裏とうり；号) ? - ? 近江膳所の俳人；1776江涯こうがい「張瓢はりぶくべ」入、

177江涯「仮日記」3句入、
 [袴着て帰るさ野辺の長閑のどか哉] (仮日記;70/正装し用を済ませての帰りがけ)

- I3109 **東里**(とうり・樋口ひぐち、名; 盈/良民/公英/公瑛、桂かつら六右衛門申之男) 1722-1808⁸⁷ 周防岩国儒者、
 医; 熊谷玄洞門/儒; 藩儒朝枝玖珂(毅斎)門、1735侍医樋口春庵(見壽)の養子、
 1745上京・医経; 浅井頼門/療治; 中村静安門、1746藩命で儒学専修となる; 伊藤蘭岨門、
 1753岩国帰藩; 儒員/新設の講堂を預る; 子弟教育、1790致仕、詩を嗜む/朝鮮使と唱和、
 「東里詩文集」「正韻訓考」「考経諺解」著、義所の父、
 [東里(;)の字/通称/別号]字; 俊卿、通称; 保七/造酒之允みきのすけ/欽蔵、
 別号; 竹廬/三畏軒/畏軒
- I3110 **東籬**(とうり・山本やまと/修姓; 山、名; 惟恭、倉地信満男) 1745-1806⁶² 紀伊儒者、山本寿秀の養嗣子、
 和歌山藩士; 1777養父没後家督、近習/儒者頭取、1791藩校改革; 学習館に改称; 督学、
 「学習館規則」「徳川淵源記序跋訳文」「山東里先生集」著、
 [東籬(;)の字/通称]字; 子謙、通称; 三之助/為之進
- I3111 **東里**(とうり・下河しもかわ、名; 貴慶/貫道、貴章男) 1746-1800⁵⁵ 越前福井藩士/儒; 藩士榊原敬之門、
 清田儂叟たんそう・江村北海門、詩文・和書に精通、武芸; 新影流剣法修得、1788福井藩儒員見習、
 1789父の跡継承; 侍読/96書院番; 近臣に列す、「東里詩文稿」「議論小説注解」著、
 [東里(;)の字/通称/法号]字; 伯余/貴一、通称; 三右衛門/慶一、法号; 映光院
- I3112 **塘里**(とうり; 号・曾我そが、名; 俊祐) ?-? 江中期近江土田の俳人; 1801「はつかつき」編
- I3113 **陶里**(桃里とうり・渡辺わたなべ、通称; 惣五郎、別号; 一楽斎) 1753-1817⁶⁵ 美濃の俳人; 古梁坊門、
 1811「月のおも影」編、12「二師の手向」編、14「日枝の曾羅」編
- I3114 **東里**(とうり・伊藤いとう、名; 弘美、東所長男) 1757-1817⁶¹ 母; 井口蘭雪女の定、京儒者; 家学/; 父門、
 古義堂4世継承、1768「続印淵集」69「続印淵続集」編、88「山水題詩」編、1788-1816「東里集」、
 1792「但行録」1809「新作雑記」、「斎号集」「東里詩草」「恭敬先生詩文集」「東里遺稿」外著多、
 [東里(;)の字/諡号]字; 延蔵、諡号: 恭敬先生、子がなく弟東峯を養嗣子とす
- I3115 **東里**(とうり・沢田さわだ、名; 千之、東江男) 1780-1821⁴² 江戸の書家; 父門、1809「東里書月儀帖」著、
 1816「蘭亭字源考」、「草書蓬源」「隸八分詳説」「書学正論」「定武肥字蘭亭帖」著、東洋の父、
 [東里(;)の字/通称/別号]字; 文己、通称; 文二郎/文太郎、別号; 源千之げんせんし
- I3116 **東籬**(とうり; 号) ? - ? 江後期上州伊勢崎の版木屋、1837「俊才雅集」
- I3117 **桃里**(とうり・岡本おかもと) 1806- 1885⁸⁰ 大和高市郡八木の絵師; 四条派、桜井西極町に移住、
 作陶・茶湯・尺八を嗜む、晩年は御陵研究に従事; 官命で御陵守戸、「文久帝陵凶実写」画、
 [桃里(;)の別号]別号; 武陵斎、法号; 桃誉里山義方禅居士
- I3118 **東里**(とうり・煩惱斎; 号) ? - ? 江後期安藝安藝郡瀬野の俳人; 竜善寺住、
 句帳「久佐原日記」著(1925刊)

統理(とうり・藤原)	→	統理(むねまさ・藤原、廷臣/出家/歌人)	C 4 2 4 5
東籬(とうり・池田)	→	東籬亭菊人(とうりていきくひと、官人/読本)	3 1 2 7
東籬(とうり・溝口)	→	直諒(なおあき・溝口、藩主/文筆)	3 2 5 9
東里(とうり)	→	常庵(じょうあん・竜崇、臨濟僧/東常縁男)	G 2 2 6 6
東里(とうり; 号)	→	常庵(じょうあん; 道号・竜崇、東常縁男/臨濟僧/詩文)	G 2 2 6 6
東里(とうり・武藤)	→	吉紀(よしのり・武藤むとう、藩儒者/侍講)	F 4 7 8 7
東里(とうり・佐久間)	→	熊水(ゆうすい・佐久間さくま、儒者/詩人)	C 4 6 8 1
東里(とうり・曾我部)	→	容所(ようしょ・曾我部そがべ/源、儒/律令)	B 4 7 2 2
東里(とうり・高野)	→	蘭亭(らんてい・高野、儒者詩)	4 8 0 9
東里(とうり・立原)	→	翠軒(すいけん・立原たちばら、儒者/藩士)	2 3 0 1
東里(とうり・田辺)	→	損斎(そんさい・田辺たねべ、藩士/儒者)	F 2 5 3 8
東里(とうり・河野)	→	杏庵(きょうあん・河野/越智/越、医者)	N 1 6 1 6
東里(とうり・田中)	→	恒(こう・田中たなか、藩医/詩歌)	Q 1 9 9 4
東里(とうり・青柳)	→	文蔵(ぶんぞう・青柳あおやぎ、医者/貿易)	G 3 8 0 5
洞李(とうり・佐竹)	→	香斎(こうさい・佐竹さたけ、藩士/図会著)	F 1 9 0 4
桃李(とうり・三蔵院)	→	三蔵院桃李(さんぞういんのとうり、童/歌人)	Q 2 0 0 2
桃李(とうり)	→	斑象(2世はんぞう/はんしょう・春野亭、俳人)	I 3 6 3 3

道利(どうり・小豆沢) → 道利(みちとし・小豆沢あざきざわ、農業/歌) I 4 1 0 7
 桃李園(とうりえん) → 栗間戸(栗窓くりまど・桃李園、狂歌) D 1 7 5 1
 桃李園(とうりえん) → 栞園道間戸(かんえんみちまど・狂歌) P 1 5 9 8
 東籬園(とうりえん) → 菊之丞(3世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者) 1 6 9 9
 東籬園(とうりえん) → 菊丸(きくまる・田中たなか/清妻、文筆家) K 1 6 2 7
 東籬翁(とうりおう) → 正村(せいそん・浅井あさい、俳人) C 2 4 5 5
 東籬軒(とうりけん) → 等躬(藤躬とうきゅう・相楽、俳人) C 3 1 6 4

I3119 道陸(どうりく・渋江しぶえ、名; 允成ただしげ、宿屋稲垣清蔵男) 1764-1837 江戸根津の宿屋茗荷屋の生、
 儒学; 柴野栗山門/医学; 依田松純門、1778弘前藩医渋江本皓の養嗣子、藩主津軽寧親侍医、
 近侍し信頼が厚かった、「定所詩集」「定所雑録」「容安室文稿」「医事難問附治験一条」著、
 渋江抽斎の父、

[道陸(; 通称)の字/別通称/号]字; 子礼、別通称; 専之助/玄庵、号; 定所/容安、法号; 得壽院

東里山人(とうりさんじん) → 鼻山人(はなさんじん・細川、戯作者) F 3 6 4 5
 桃李窓芳国(とうりそうほうこく) → 貞賢(さだかた・藤川ふじかわ、藩士/歌人) H 2 0 9 8
 桃栗(とうりつ・佐藤) → 晩得(ばんとく・佐藤、俳人) I 3 6 4 4
 搗栗(とうりつ・かちぐり・井上) → 頼定(よりさだ・井上いのうえ、神職/歌人) L 4 7 3 6
 道律(どうりつ; 法諱・寂門) → 寂門(じやくもん; 道号・道律、黄檗僧) W 2 1 2 4
 道立(どうりつ・樋口) → 道立(どうりゅう・樋口、儒/俳人) I 3 1 2 5
 道立(どうりつ/どうりゅう・吉益) → 北洲(ほくしゅう・吉益よします/青沼、医者) D 3 9 3 9

3127 東籬亭菊人(とうりていきくひと、名; 正韶まさつぐ/韶、池田いげだ正秀男) 1788-1857 京の主殿とも寮官人、
 左馬大允、読本作者、節用集類・重宝記類など多様な著述活動、国学/歌; 本居大平門、
 1797「花洛名勝図会」/1824「都名所尽」編・「絵本雙忠録」、25「絵本孝勇譚」27「鎌倉太平記」
 1828「絵本忠孝美善録」/31「番匠往来」35「女文章大和錦」36-41「絵本通俗三国志」著、
 「銀河艸子」「平安人物志」外著多数、歌; 大平撰「八十浦の玉」下巻; 長歌入、
 [東籬亭菊人(; 号)の字/通称/別号]字; 鳳卿、通称; 左馬大允/主計少允/薩摩介、

別号; 東籬/尚古館

左馬大允(さまのだいじょう・池田) → 東籬亭菊人(とうりていきくひと、池田、官人/読本) 3 1 2 7

I3120 東流(とうりゅう) ? - ? 俳人; 1690不角「二葉之松」1句入、
 [人目さぞ撫でていつ減る身の汁気しげ] (二葉之松; 382/汁気は浮気心)、
 (人にはさぞ奇妙だろうが浮気心は涸れない/前句; 恋して遊べよしや閑思君わざくれ)

I3121 東柳(とうりゅう・六花堂) ? - ? 近江多和田の俳人; 1691江水「元禄百人一句」目録入、
 1692我黒判「七瀬川」共編?、92常牧「冬ごもり」独吟歌仙入

U3121 東流(とうりゅう・磯部いそべ) ? - 1829? 伊勢神戸の菓子商(松島屋)の生、長恒の父、
 1781俳人; 細田扨郷門、神戸藩主本多忠永門; [東流]の号を賜う、本多忠憲(忠永男)門、
 さらに京の俳人成田蒼門、伊勢神戸の俳壇で活躍、「三拾六句集」「発句類題伊勢海」に入、
 辞世[曙の中に落つく柳かな]

I3122 東笠(とうりゅう・瓦隠斎がいんさい) ? - ? 江戸の茶番、
 1803「今様茶番硝子鏡」序、65「吉例茶番詠草」著

I3123 棟隆(東隆(とうりゅう/むねたか・平井、号; 泗溟) ? - 1820 大阪の卜占家/易学者、
 「考定周易彙解」「続易図例」編/「易占揆方冊」補訂

棟隆(とうりゅう・山口/稲掛) → 棟隆(むねたか・稲掛/山口、商家/国学/歌) B 4 2 4 8

棟隆(とうりゅう・佐々木/疋田) → 棟隆(むねたか・疋田、藩士/史家) B 4 2 5 2

東流(とうりゅう; 法諱) → 巨海(こかい; 道号・東流、曹洞僧) L 1 9 8 4

東流(とうりゅう・加藤) → 俊男(としお・加藤かとう、国学者) U 3 1 6 7

東竜(とうりゅう・溝口) → 直諒(なおあき・溝口、藩主/文筆) 3 2 5 9

東竜(とうりゅう・北原) → 信綱(のぶつな・北原きたはら、名主/政治家) I 3 5 2 1

冬隆(とうりゅう・藤原) → 冬隆(ふゆたか・藤原/壬生、廷臣/歌人) E 3 8 2 9

登滝(とうりゅう・若山) → 花罽(かがく・若山わかやま、兵学者) J 1 5 2 9

洞流(とうりゅう; 法諱) → 逆水(ぎやくすい; 道号・洞流、曹洞僧) M 1 6 1 3

洞竜(とうりゅう) → 豪潮(ごうちゅう; 法諱・寛海; 字、天台僧) K 1 9 6 6

- 3128 **道隆**(どうりゅう;法諱・蘭溪;道号、大覚禪師、姓;冉)1213-7866 宋の西蜀蘭溪(四川省)出身、1226(13歳)成都大慈寺で出家、臨濟僧;浙江杭州の諸師に参禪/陽山の無明慧性門;印可、北条時頼の招聘で1246渡来;筑前博多円泊寺住/47京泉涌寺来迎院入/48鎌倉常樂寺住、1253時頼創建の鎌倉建長寺開山、62後嵯峨天皇招聘で京建仁寺11世/64鎌倉に禅興寺開山、1277鎌倉寿福寺再住、禅宗発展の基礎、1278建長寺に没、79後宇多天皇より禅師号、「坐禅論」「臨濟録提唱記」「大覚禪師語録」「大覚禪師法語」「大覚拾遺録」「辨道清規」外著多
- I3124 **道立**(どうりゅう;法諱・即空そくくう;道号、俗姓;定方)1623-9876 美作真島郡草加部村の臨濟僧:美作仏土寺で出家/竜雲寺の藍岫門/渡来した黄檗僧の超元・隠元・木庵・即非に修学、竜雲寺住寺/1672退席、大和佐保村に黄檗宗瑞景寺を開山/木庵性瑫の法嗣、「瑞景集」著
- I3125 **道立**(どうりゅう・樋口ひぐち、名;彦倫・敬義、江村北海男)1738-181275 漢学者;父北海門、樋口清太夫の養子、武州川越藩松平家の京留守居、儒/俳人;蕪村門、夜半亭社中で活躍、1776写経社を結ぶ、1776金福寺芭蕉庵の再興を發起した記念撰集「写経社集」編(蕪村「洛東芭蕉庵再興記」入)、1776几董「続明烏」序/20句、77蕪村「夜半樂」77江涯「仮日記」82蕪村「花鳥篇」入、1783維駒「五車反古」17句入、「自在庵句集」、清田せいだ僂叟たんそうの甥、
[ゆふだちの露の間またで照る日哉](新雑談集)、
[道立(;号)の字/通称/別号]字;道卿、通称;源左衛門、別号;自在庵/紫庵/芥亭、
- I3127 **道竜**(どうりゅう;法諱) ? - ? 1828存 江後期比叡山双巖韻住の天台僧、1823「前唐院八講并曼供差定草」24「青蓮院准后尊真親王薨去留」26「炎旱御修法記」外著多数
- I3126 **童竜**(どうりゅう;法諱・臥雲がうん;道号、上村清堅男)1796-187075 薩摩東市来村の曹洞僧:1802(7歳)鹿児島南林寺の素戒門;出家、大円瑞峰門/法嗣、鎌倉永林寺・江戸大円寺住寺、下野大中寺住寺/1848永平寺60世、「螺睡録」著、
[臥雲童竜の号] 螺睡翁/不昧/兀庵/万休庵/大晃明覚禪師
- I3128 **道竜**(どうりゅう;法諱、別法諱;南英、俗姓:北畠)1822-190786 真宗本願寺派学僧/宗学;行照門、性相学・因明学;隆賢門、紀伊和歌浦の法福寺住職/学林の年預参事、本山教法改正主唱;本山反対で頓挫/大学設立と僧侶改良論を主唱;教界の反対で挫折;本山と絶縁状態で没、1857「選択集講義」59「因明入正理論随聞記」著、
「観経四帖疏辨叢」「正雑自録」「行信百問答」著
- 道竜(どうりゅう;法諱・化霖)→ 化霖(けりん;道号・道竜、黄檗僧) H 1 8 4 3
 道竜(どうりゅう;法諱・大僊)→ 大僊(だいせん;道号・道竜、黄檗僧) T 2 6 8 2
 道立(どうりゅう・三宅/山脇)→ 玄修(げんしゅう・山脇、医師) J 1 8 5 7
 道立(どうりゅう・三井/黒木)→ 千之(ちゆき・黒木くろぎ、眼科医) H 2 8 0 3
 道立(どうりゅう・吉益) → 北洲(ほくしゅう・吉益よしまつ/青沼、医者) D 3 9 3 9
 道柳(どうりゅう) → 随雲軒(ずいいうんけん、俳人) E 2 3 0 9
 道隆(どうりゅう・藤原) → 道隆(みちたか・藤原、摂政/関白) B 4 1 6 9
 道隆(どうりゅう・小林) → 辰(たつ・小林こばやし、医者) R 2 6 5 2
 東隴菴(とうりゅうあん) → 適園(てきえん・香山、詩人) B 3 0 8 7
 登竜閣(とうりゅうかく) → 環中(かんちゅう;法諱・道枢、真宗本願寺派僧) R 1 5 3 6
 東流館(とうりゅうかん) → 文晔(ぶんぎょう;法諱・藁井、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4
 東柳軒龍麿(とうりゅうけんおぼるまる)→ 遠舟(えんしゅう・和気、俳人) B 1 3 0 3
 登竜斎(とうりゅうさい・勝川)→ 春扇(しゅんせん・勝川かつかわ、絵師) K 2 1 1 3
 東流斎(とうりゅうさい) → 馬琴(ばきん・東流斎/宝井、講釈師) C 3 6 4 8
 東竜斎(とうりゅうさい) → 謙阿(けんあ・渡辺わたなべ、俳人) H 1 8 5 8
 藤柳之(とうりゅうし) → 柳之(りゅうし・斎藤・藤とう、絵師/能書) E 4 9 4 5
 桃流舎文哉(とうりゅうしやぶんさい)→ 文哉(ぶんさい・桃流舎、俳人) F 3 8 3 1
 東流窓(とうりゅうそう) → 燕志(えんし・東とう、俳人) E 1 3 7 8
- I3129 **東陵**(とうりょう・本田ほんだ、名;常安)1749-9648 肥後熊本の儒者:秋山玉山門/上京;伏見で私塾、1771江戸で磐城白河藩主松平定邦に出仕/83白河に移住/1801藩校立教館創立時に教授、経済学に精通/詩文、「東陵文集」「地方要集録」「学館記」「小沢玄淑伝」著、「東陵先生遺稿」、
[東陵(;号)の字/通称/別号]字;文仲/文中、通称;弁助/竜蔵、別号;蘭陵/来去子、

英太郎・金剛郎(竜蔵)の父

- I3130 **東陵**(とうりょう・石野いしの、名;卿鄰)?-? 播州太田村の儒者:大阪の中井履軒門、江戸で古賀精里門/のち昌平黌で修学、文政1818-30頃播磨林田藩に儒者として出仕、「東陵詩集」「東陵文集」著、
[東陵(;号)の字/通称]字;子揚、通称;充蔵
東陵(とうりょう/とうりん;道号)→ 永璵(えいよ;法諱・東陵、曹洞僧) 1 3 4 8
東陵(とうりょう・玉置) → 讓斎(じょうさい・玉置たまき、藩士、兵学者) S 2 2 3 8
棟梁(とうりょう・在原) → 棟梁(むねはり・在原、歌人) 4 2 0 9
棟梁(とうりょう・村上) → 英俊(えいしゅん・村上、医者/語学者) C 1 3 9 4
当亮(とうりょう・深田) → 玄随(げんずい・深田ふかだ、医者) K 1 8 3 4
- I3131 **道良**(どうりょう・馬ば、号;晋陽)?-1801 絵師:幕命で天文機器修理、好んで偽作を描く、「和蘭天地両球修補製造記」著、北山寒巖かんがんの父
道良(どうりょう・土師) → 道良(みちよし・土師宿禰はにしのすくね/万葉歌) C 4 1 8 1
道良(どうりょう・源) → 道良(みちよし・源みなもと、廷臣/歌) C 4 1 8 2
道良(どうりょう・二条) → 道良(みちよし・二条/藤原、左大臣/歌) C 4 1 8 3
道涼(どうりょう・法名) → 太祇(たいぎ・炭たん/すみ、俳人) 2 6 0 2
道亮(どうりょう/みちすけ・加藤)→ 荷豆(かとう・加藤かとう、商家/俳人) O 1 5 1 7
- I3132 **稲葉軒風斎**(とうりょうけんふうさい・姓名不詳)?-? 江中期歌人、1797「秀逸歌集」編
- 3129 **桃隣**(初世とうりん・天野あまの) 1639-1719 81 伊賀上野藩士;致仕/俳人、芭蕉の甥?、大阪で15年位遊民、芭蕉門;1691芭蕉に従い江戸定住、本石町4丁目で点者、芭蕉没後は蕉門から疎まれ雑俳点者、1697「陸奥衛むつちどり」編(細道の跡を辿る紀行)、1706「続百五拾韻」編/10芭蕉17回忌「栗津原」編、「炭俵」25句入、「桃隣句撰」(4世編)、支考「葛の松原」車庸「己が光」入、其角「末うら若葉」に逸話、
[五月雨の色や淀川大和川](炭俵;上/当時大和川は淀川に注ぐ;色合を異にする濁流)、
[桃隣初世(;号)の通称/別号]通称;藤太夫、
号;太白堂(初世)/呉竹軒/桃池堂/五無庵/桃翁(;晩年号)、
蝶磨(ちょうまる、浮世草子作者)と同一説あり→ 蝶磨(ちょうまる・桃林堂) J 2 8 9 0
- I3133 **東林**(とうりん) ? - ? 江中期雑俳;1723書肆「田植笠」「俳諧和哥みどり」入
- I3135 **桃隣**(2世とうりん・切部きりべ) 1696-1776 81 江戸の俳人:1712初世桃隣門、1724「阿満安賀利」68「桃三代」73「巳歳旦」編、「年艸」著、
[桃隣2世(;号)の通称/別号]通称;作左衛門、
別号;有図/枳南舎きなんしゃ/五無庵/呉竹軒/2世太白堂/桃翁
- I3134 **桃林**(とうりん・簗廬きよろ) ? - ? 江中期俳人;涼袋[綾足]門、1762「片歌あづまぶり」編、1765綾足「片歌百夜問答」編/序
- I3136 **桃隣**(3世とうりん・村田むらた) 1734-1800 67 幕臣/俳人:2世桃隣門、「俳諧田毎の日」「むかしの俤」著、
[桃隣3世(;号)の通称/別号]通称;政右衛門、別号;漱石、3世太白堂/桃翁/大練舎/蒼岡
- I3137 **桃隣**(4世とうりん・加藤かとう) 1772-1805 34 幕臣/俳人:3世門;師の縁者か?、1802初世の墓を再興、「花に鳥」著、1804「桃隣句選七卷集」編、
[桃隣4世(;号)の通称/別号]通称;久蔵/九蔵、別号;桃雨/4世太白堂
- I3138 **桃隣**(5世とうりん・山口/加藤) 1779-1820 42 俳人:4世門、「いはひ茶」編、「桃家春帖」著、1818「文化戊寅集」編、
[桃隣5世(;号)の通称/別号]通称;藤屋勘右衛門、
別号;桃雪/菜石らいせき/四夕庵しせきあん/太白堂5世
- I3139 **桃隣**(6世とうりん・片山かたやま)?- ? 信濃高井郡綿内村森の小内神社神主の家の生、俳人:江戸の5世桃隣門、諸国行脚;1818小県郡田中の結庵記念「露のたま葛」著、1826芭蕉句碑を建立、
[六世桃隣(;号)の別号]蘇鉄庵4世、桃洞
- I3140 **棠林**(とうりん;道号・宗寿そうじゅ;法諱、大徹正源禅師、俗姓;熊崎)?-1837 飛騨益田郡の臨濟僧;7歳で禅昌寺芳谷門;出家/美濃瑞竜寺隠山惟琰門/嗣法、1804美濃慈恩寺住持/竜福寺転住、

1832妙心寺住持;紫衣を賜、瑞竜寺で没;禅寺号、「宗門玄鏡録」著/「棠林禅師遺稿」

I3141 **東林**(とうりん・山川^{よしかわ}、名;蒙/字;聖功、寛親男)1784-1843⁶⁰ 豊前中津儒者:福岡亀井昭陽門、久留米の樺島石梁門、中津の田中墨水に従い上京遊学、1792長門府中藩校敬業館教授、1806江戸で中津藩儒倉成竜渚門/1810藩士の父没;家督継嗣;中津藩儒/35儒者本役、1836御城講釈取切、山川塾を開塾;子弟教育、周易・仏典に精通、「東林詩文稿」著、手島物斎・橋本塩巖の師

I3142 **等琳**(3世とうりん・堤^{つみ}、姓;月岡[2世の姓か?])?-? 江後期天明天保1781-1844頃江戸の絵師:2世等琳門(増補浮世絵類考)or初世等琳門(浮世絵師伝)、法橋、雪舟13世の孫と称す、1781-89頃幟面・祭礼行灯・摺物・張交絵等を製作/寛政1789-1801頃伯楽連の狂歌本挿絵、1792「狂歌桑之弓」93「春帖」96「百さへづり」97「柳の糸」1809「諸国無茶修行」著、[堤等琳3世(;号)の幼名/通称/別号]幼名;秋月、通称;吟二(2世の通称か)、

別号;雪山/深川斎^{しんせんさい}、勝川春扇(春好2世)の師、

藤林(とうりん・中条)	→	備資(まさすけ・中条ちゅうじょう、藩史編纂)	C 4 0 9 4
藤琳(とうりん・藤原)	→	広業(ひろなり・藤原、廷臣/漢学/詩文)	G 3 7 6 8
桃林(とうりん・一宮)	→	如雀(じょかく・一宮いちのみや、神職/俳人)	M 2 2 2 2
桃林(とうりん・井手)	→	氏辰(うじとき・井手いで、藩士/歌人)	E 1 2 4 7
東林(とうりん;号)	→	雪象(せつぞう・公鮮、真宗本願寺派僧)	L 2 4 1 7
東陵(とうりん;道号)	→	永瑣(えいよ;法諱・東陵、曹洞僧)	1 3 4 8
等隣(とうりん・朝倉)	→	震陵(しんりょう・朝倉あさくら、絵師)	Q 2 2 1 5
童麟(どうりん;法諱・石天)	→	石天(せきてん;道号・童麟、曹洞僧)	K 2 4 4 2
童隣(どうりん・大島)	→	義苗(よしたね・大島おおしま、旗本/俳人)	K 4 7 6 5
道林(どうりん・長野)	→	祐良(すけよし・長野ながの/藤原/蒔田、官人/歌)	I 2 3 9 4
道倫(どうりん;法諱)	→	桂州(けいしゅう;道号・道倫、臨濟僧)	1 8 6 5
道倫(どうりん・細川)	→	和氏(かずうじ・細川、武将・歌人)	C 1 5 1 5
道隣(どうりん)	→	孤山(こざん・堀ほり、儒・医者)	M 1 9 5 7
道隣(どうりん・杉野)	→	翠兄(すいけい・杉野すぎの、俳人)	2 3 4 4
東隣居(とうりんきょ)	→	寥松(りょうしょう・戀みね、俳人)	I 4 9 1 4
桃林軒(とうりんけん)	→	玄朴(げんぼく・桃林軒、漢学:書研究)	E 1 8 5 2
東林軒(とうりんし)	→	定之(ていし・神戸、俳人)	3 0 9 9
桃林子(とうりんし)	→	竹翁(ちくおう・橋部、俳人/雑俳点者)	C 2 8 6 8
東林舎(とうりんしゃ)	→	棲霞(せいか;法諱、真宗学僧)	H 2 4 5 7
稻隣舎(とうりんしゃ)	→	一中(いちちゅう・稻隣舎、俳人)	H 1 1 5 9
桃林舎(とうりんしゃ)	→	天山(てんざん・出島、俳人)	D 3 0 5 8
東林樵夫(とうりんしやうふ)	→	暈原(かずもと・町尻、廷臣/神道/記録)	M 1 5 5 3
桐林禅鳳(とうりんぜんぼう)	→	元安(もとやす・金春こんぼる、禅鳳、能楽師)	4 4 2 3
桃林亭(とうりんてい)	→	武麿(たけまる・山田やまだ、神職)	2 7 1 6
桃林亭東玉(とうりんていとうぎやく)	→	東玉(初世とうぎやく・桃林亭、講釈師)	C 3 1 8 9
桃林堂(とうりんどう)	→	蝶麿(ちょうまる・桃林堂、浮世草子作者)	J 2 8 9 0
東林坊(とうりんぼう)	→	慶範(けいはん、12-13ct天台僧)	G 1 8 5 5

I3143 **東嶺**(とうれい;道号・智旺^{ちおう};法諱)?-? 臨濟僧;愚溪門/法嗣、1552南禅寺261世、「東嶺録」著

I3144 **冬嶺**(とうれい・村上^{むらかみ}、名;友侘)1624-1705⁸² 丹波桑田郡保津村の医者;禁裡御用の小児科医、東山天皇の皇子を治療;功あり法眼/法印、儒者:那波活所門/詩文に巧み;伊藤坦庵・仁斎・江村毅庵・北村篤所等と親交、養純の父、「冬嶺詩文集」著、東涯「当世詩林」正編81首/東涯「時英文雋^{じえいぶんしゅん}」正編入、1704義端「搏桑名賢詩集」入、[冬嶺(;号)の字/通称/別号]字;漫甫、通称;等詮/等全/謙益、別号;春台院

I3145 **東嶺**(とうれい・関口^{せきぐち}、名;満雅)?-1782 出羽米沢藩士/物頭、藩主上杉鷹山の学問と歌の師、書を嗜む、歌:「米沢百人一首」「稻荷奉納百人一首」著、[東嶺(;号)の字/通称]字;子恭、通称;六蔵

東嶺(とうれい;道号・円慈)	→	円慈(えんじ;法諱・東嶺、臨濟僧)	B 1 3 7 6
東嶺(とうれい)	→	遇所(ぐうしょ・益田ますだ/山口、篆刻家)	C 1 7 2 4

- 東嶺(とうれい・岡) → 熊臣(くまおみ・岡おか、神職/国学) 1 7 2 4
 東嶺(とうれい・中西) → 敬房(たかふさ・中西/加賀屋、書肆/暦算家) N 2 6 1 3
 東嶺(とうれい・沢田) → 良敬(りょうけい・沢田さわだ、医者) H 4 9 2 3
 冬嶺(とうれい・辻元) → 松庵(すうあん・辻元つじもと、幕府医官) F 2 3 2 0
 冬嶺館(とうれいかん) → 敬庵(けいあん・佐藤さとう、儒者) E 1 8 6 3
 筒鈴齋(とうれいさい) → 正伴(まさとも・吉井、儒者) E 4 0 7 2
 筒鈴齋(とうれいさい) → 正伴(まさとも・吉井/田坂屋、和漢学/神道) E 4 0 7 2
 冬嶺堂(とうれいどう) → 松意(しょうい・田代たしろ、俳人) Q 2 2 8 5
- 13146 登蓮(とうれん;法諱) ? - 1181? 近江阿弥陀寺住僧/歌:1164歌林苑会衆/中古六歌仙の1、
 1164歌林苑歌合/72広田社・78別雷社歌合参加、筑紫安楽寺住、教長と親交、
 「登蓮法師集」26首「登蓮法師恋百首」著、「無名抄」にますほの薄の逸話(徒然草等にも入)、
 菟玖波1句入、続詞花4首・今撰・言葉集入、中古6歌仙の1、
 勅撰19首;詞花(415)千載(995/1121/1179/1235)新古(882)新勅(260)続後撰(1327)以下、
 [おどろかぬわが心こそ憂かりけれはかなき世をば夢とみながら](千載集;釈教1235)、
 [難波渦あしの葉末に風吹きて螢なみよる夕まぐれかな](登蓮法師集;水辺晩秋)
- 3131 等連(とうれん;法諱・竺運じくん:道号、俗姓;井伊) 1383-1471⁸⁹ 遠江の臨濟僧:大岳周崇門/法嗣、
 撰津広厳寺・京の万寿寺住寺/1435相国寺47世、44南禅寺155世/1451-56相国寺鹿苑院主、
 天竜寺宝徳院開創/伊勢金剛宝寺開創;金剛宝寺で没、五山文学/詩;横川「百人一首」入、
 1448(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌]参加(詩)、「撃雲集」「瓶梅」「畠山匠作亭詩歌」著、
 [凌霄固有俊邪姿 成立依他不自持 滋蔓貧い縁古松頂 開花占得暮春時]、
 (匠作亭詩歌;5/松藤/対するは持為の歌)、
 [竺運等連の号]自疆/小朶子しょうだし/重良叟/遠江
- 等蓮(とうれん:法名・玉峯:道号) → 豊道(とよみち・久我こが、右大臣/連歌) R 3 1 6 4
 道蓮(とうれん;法諱・香国) → 香国(こうこく;道号・道蓮、黄檗僧) I 1 9 7 7
 騰蓮社空誉(とうれんしゃくうよ) → 義海(ぎかい;法諱・沖黙、浄土僧) J 1 6 7 9
 等蓮社迎誉(とうれんしゃげいよ、無礙行阿) → 貞厳(ていごん;法諱、浄土僧) 3 0 7 6
 灯蓮社伝誉(とうれんしゃでんよ) → 牛沢(ぎゅうたく;法諱、浄土僧) M 1 6 8 0
 東蓮社仁誉(とうれんしゃにんよ) → 性激(しょうちやく;法諱・靈潭、浄土僧) K 2 2 9 0
- 13147 桃路(とうろく・可楽庵;号) ? - ? 江中期越後十日町の俳人;蓼太・麦水・太祇等と交流、
 1790十日町に芭蕉碑建立;記念集「華鳥風月集」編
- 迹路(とうろく・奥手おくのて) → 奥手逃道(おくのてのにげみち、川柳/狂歌) B 1 4 7 7
 東蘆(とうろく;号) → 梵桂(ぼんけい;法諱/維馨いけい;道号、臨濟僧) F 3 9 2 9
 東蘆(とうろく・花廬屋) → 光枝(てるえ・桜井伊兵衛、国学/狂歌) C 3 0 7 0
 桃蘆(とうろく・朝岡) → 正章(まさあき・朝岡、儒/故実/俳) B 4 0 0 5
- 13149 納老(とうろう・沢嵐さわあらし、別称;沢嵐市三) ?-? 江後期歌舞伎作者:近松徳三門、1812市三名;
 大坂市川善太郎座の作者、1819納老に改名;京阪各座の作者、1812「茜染浪花色揚」著、
 1815「敵討浦朝霧」28「玉牛宝蔵入」29「江戸仕入狭安売」30「傾城雪月花」41「大踊切子曙」著
- 東隴菴(とうろうあん) → 適園(てきえん・香山、儒者/詩人) B 3 0 8 7
 螻蛄齋(とうろうざい) → 一宅(いつたく・照井、儒者) E 1 1 2 0
 灯籠大臣(とうろうのだいじん/-おとど) → 重盛(しげもり・平たいら、武将/歌人) D 2 1 1 9
- 13150 藤六(とうろく・野間のみ、沼の藤六) ?-? 織田信忠の家臣/信長近仕の御伽衆的咄家、
 豊臣秀吉の馬廻、醒睡笑入
- 藤六(とうろく;通称) → 輔相(すけみ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 2 3 0 4
 藤六(とうろく・梅内) → 祐訓(すけのり・梅内うめない、藩士/古蹟調査) G 2 3 9 6
 藤六(とうろく;通称・朝倉) → 南北(なんぼく・東西庵、戯作/狂歌) 3 2 3 4
 東麓(とうろく;道号) → 破衲(はのう;法諱・東麓、臨濟僧/辞書) F 3 6 5 3
 東麓庵(とうろくあん;別邸名) → 猿雖(えんすい・窪田/意専、俳人) B 1 3 1 4
 東麓破衲(とうろくはのう) → 破衲(はのう、臨濟僧/辞書編纂) F 3 6 5 3
 洞露齋百喜(とうろうさいひゃっき) → 百喜(ひゃっき・洞露齋、銚かざり職/絵師) E 3 7 9 7

- 東呂子(とうろし・関根) → 白芹(はつきん・関根、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6
- I3151 **等和**(とうわ・中野なかの) ? - ? 江中期歌人、1710静山「和歌継塵集」/32「和歌山下水」入
東倭(とうわ・丸橋) → 東倭(もとかず・丸橋、農業/和算家) C 4 4 2 8
東和(とうわ・賀島がしま) → 道円(どうえん・賀島、藩士/医者/歌) B 3 1 5 6
- I3152 **道和**(どうわ;法諱・喝禅かつぜん;道号、俗姓;方) 1634-1707 74 福建海澄県の黄檗僧:1654木庵性瑠門、
1655師と共に長崎に渡来、1661万福寺入/64師の万福寺2世就任により丈僧として随従、
1669山内に法林院建立/97京伏見の善福寺を重興開山;同寺に没、
「黄檗木庵禅師艸録」編、「喝禅禅師詩集」著、
[喝禅道和の初名]初道号;在恬、初法諱;定和
道和(どうわ・大石) → 千引(ちびき・大石おおいし、国学者/歌) 2 8 1 6
同和(どうわ・谷口) → 重以(じゅうい・谷口、俳人) G 2 1 8 0
藤若(とうわか;幼名) → 世阿彌(ぜあみ、名;元清、能楽役/作者) 2 4 0 1
- I3153 **吐雲**(とうん) ? - ? 俳人;1768秀億「葛藤かつらぶじ」入
吐雲(とうん・甲斐) → 広永(ひろなが・甲斐かい、和算家/教育) G 3 7 6 2
吐雲閣(とうんかく、吐雲亭) → 天龍(てんりゅう、元禄1690-1700頃俳人) E 3 0 5 6
登雲堂(とうんどう) → 養長(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学) F 4 5 7 2
- T3138 **とゑ**(とえ・戸塚とづか、とゑ女・種子たねこ・朝とも、号;柳の屋、旧姓;田原?) 1827-86 60歳 歌人;
松木直秀・石川依平門、駿河有度郡の医者戸塚積斎(戸塚柳斎の養子/のち海軍軍医)の妻、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[さおしかの寝にのみ鳴きてとはぬ間にうつろひぬらん萩が花妻](大江戸倭歌;秋735、
秋735/萩寺にともどもゆかんと契りし人のとはぬまにうつろひぬと思ひて)
土衛(どゑい・市岡) → 殷政(いげまさ・市岡いちおか/源/北原、本陣/勤王) N 2 1 3 9
戸右衛門(とゑもん・小野) → 利泰(としやす・小野おの、国学者) U 3 1 4 4
戸右衛門尉(とゑもんのじょう) → 種久(たねひさ・徳永とくなが、幕臣/紀行) G 2 6 4 0
- I3154 **兔園**(とえん) ? - ? 俳人;東潮門、1696大魚「留守見舞」連句参
- I3155 **斗遠**(とえん・亀齡軒3世、豊後岡藩御客屋伊東家7代) 1778-? 1849存 豊後の生/1818大阪住、
華道家:亀齡軒2世門/23継承、月琴演奏、「松月堂古流出生伝」「花月琴譜」「插花百瓶」著
杜園(とえん・森川) → 扶疏(ともしげ・森川もりかわ、絵師/人形師/狂言師) W 3 1 7 2
兔園会(とえんかい);文政八(1825)滝沢馬琴を中心に正院12名・客員2名の好事家で集まった会
文政八年正月~12月の十二回の会合に奇事異聞の文稿を集め[兔園小説]と称し刊行、
→ 馬琴(ばきん・滝沢、1767-1848) 3 6 0 7
→ 美成(よしげ・山崎、1796-1856) 4 7 1 2
→ 思亮(しりょう・関、1796-1830) D 2 2 2 2
→ 弘賢(ひろかた・屋代やしる、1758-1841) 3 7 1 5
→ 公和(好和よしかず・西原、1761-1844) C 4 7 5 0
→ 良則(よしのり・大郷おおさと、?-?) F 4 7 9 1
→ 修理(しゆり・桑山くわやま、?-?) J 2 1 1 2
→ 文宝(ぶんぼう・文宝亭/亀屋久右衛門、1768-1829) G 3 8 4 7
→ 惟則(これのり・いそく・萩生、?-?) G 1 9 0 3
→ 赤城(せきじょう・清水正徳まさのり、1766-1848) D 2 4 5 7
→ 乾斎(けんさい・中井豊民(とよたみ、?-?) E 1 8 1 2
→ 興継(おきつぐ・滝沢、1798-1835) B 1 4 4
- I3156 **遠明**(とおあき/とおあきら・藤原ふじわら、名;範明、合明男) 1095-1169 75 平安後期廷臣;蔵人/大内記、
歌;1149右衛門督家成家歌合に参加(散位遠明名)、
[入日さす影こそけふは惜しまるれ秋も西へや暮れて行くらん](家成家歌合;九番右40)
- I3157 **遠明**(とおあき・下野しもの、遠歴男) 1823-65死罪 43 水戸藩士/1856徒士組/弘道館訓導・彰考館出仕、
1858勅書問題を機に国事奔走;攘夷論を主唱/64元治元年の役に松平頼徳方で軍議参加、
武蔵岩槻藩に禁固;1865死罪、「下遠明手録」「下野宇寺文書」著、
[遠明(;名)の通称/号]通称;隼次郎、号;緑竹庵/雪篁/竹里/養気堂/竹下鷹之允(;変名)
十一郎(とおいちろう・千) → 宗室(5世そうしつ・千せん、裏千家8世茶人) H 2 5 6 7

- 塗翁(とおう・中村) → 八兵衛(はちべえ・初代中村宗哲、千家塗師) J 3 6 4 3
 都翁(とおう→つじ・安井) → 春海(しゅんかい・渋川/保井/安井、天文家) J 2 1 3 2
- I3158 **遠興女**(とおおきのむすめ・とおき-・小野おの)?- ? 平安前期の歌人;後撰集734、伝不詳、
 [つらからぬ中にあるこそ疎しといへ隔て果ててし衣きぬにやはあらぬ](後撰集;恋734)、
 (疎くなった男に装束を送ったその返しに「衣を贈るから疎く感じる」とあったので詠む)、
 (本歌は拾遺集恋798;衣だに中にありしはうとかりき逢はぬ夜をさへ隔てつるかな)
- V3175 **遠影**(とおかげ・丁野ちやうの、) 1831-1916 86 土佐土佐郡石井村の生/高知藩士、
 国学;松本弘蔭門/儒・歌;奥宮慥齋門、1862(文久2)他藩応接役、
 維新後;司法省に出仕;警視、修史館副監事/京都賀陽宮御付、「土佐藩政録」編、
 [遠影(;名)の字/通称/号]字;良圭、通称;広弥/左右助/鳳吉、
 号;丹山/丹山洞雲深処/丁々道士/余富楼/古言齋/二南学人/志々処、
 三又木堂さんゆうもくどう/玉樹軒/琴影鏡光書院/鶴性野人
- 遠唐沖人(とおからのおきんど;狂名) → 一九(初世いっく・十返舎、滑稽本) 1 1 2 0
 遠興女(とおおきのむすめ・小野) → 遠興女(とおおきのむすめ・とおき-・小野、歌人) I 3 1 5 8
- I3159 **遠里**(とおさと・西村にしむら、名;得一とくいつ) 1718-87 70 大和の生/京で菓種商を営む/算学;池部清真門、
 曆学;幸徳井家に修学、曆算家;1752(宝暦2)陰陽頭土御門泰邦の推挙で宝暦改暦に参加;
 1763(宝暦13)の日蝕を予知し有名、1761「数学夜話」64「日本古今交蝕考」72「居行子」、
 1776「雨中問答」「遠里随筆」/79「言葉の塵」81「雨中問答後篇」「以於惠愚草」著、
 「三日月遅速之辨」「得一曆立成」「天官凶解」「丁亥歳交食考」「異国新話」外著多数、
 [遠里(;号)の通称/別号]通称;左衛門/千助、別号;得一堂/居行
- U3182 **遠里**(とおさと・川喜田かわきた、芝原寛氏男) 1718-87 70 川喜田(川北)夏蔭の養嗣子;久太夫家13代、
 国学;本居春庭・本居大平・富樫広蔭門、妻;川喜田敏則女の三千子(田鶴子)、
 政明まさあき・政治まさはるの父/政臣の養父、
 [遠里(;名)の初名/通称/号]初名;政安、通称;篤之助/久太夫、号;梅屋
- I3160 **遠実**(とおざね・中原なかはら) ?- ? 南北期?連歌;1350成立「菟玖波集」2入(1194/1346)、
 [月寒き浦のかもめの声はして](菟玖波集;1194/前句;白きは雪の色とこそみれ)
 十三郎(とおさぶろう・千) → 宗左(初世そうさ・千せん、江岑宗左/茶人) B 2 5 5 4
- I3161 **延栄**(とおしげ・日野西ひのし、光輝男/本姓;藤原) 1827-61 35 廷臣;1845正五下/51右衛門佐、
 睦仁親王(明治天皇)に祇候、1848-61「日野西延栄日記」著、「石帯」編、
 「諸社臨時祭部類」著
- 遠資(とおすけ・源) → 兼資(かねすけ・源みなもと、廷臣/歌人) C 1 5 7 8
 遠江(とおたおうみ/とほたあふみ) → 遠江(とおとうみ/とほたあふみ、女房/歌人) I 3 1 6 6
- X3150 **遠高**(とおたか・嶋守しまもり、)?- ? 平安後期歌人;藤原清輔(1104-77)と交流、
 [万葉古今後撰が三代集であったが拾遺出来以後古今・後撰・拾遺を三代集と号す];
 (袋草紙に清輔に語る逸話入)
- I3162 **遠忠**(とおただ・中臣なかとみ/家名;大東、延遠男) 1142-1223 82 大和春日社の神職、1160春日社権預、
 1185春日社正預/86春日社若宮神主を兼任/1210土御門天皇行幸の賞で正四下、
 1215「春日社遷宮記」「春日御社造営并御遷宮記」著
- I3163 **遠忠**(とおただ・十市とおち/いち、法名;浄桂、新左衛門遠長男/本姓中原?) 1497-1545 49 大和の豪族;
 武将、春日社被官;興福寺大乘院家坊人、兵部大輔、
 歌人;玄譽・徳大寺実淳門、京の歌界と交流;三条西実隆らの合点作品あり、歌合主催、
 古典を愛し歌書類を書写、連歌師とも交流、
 1526「五十番歌合」31「遠忠五十番自歌合」/1532「住吉法楽百首」「着到百首詠草」著、
 「遠忠詠草」「遠忠自歌合」「遠忠百番自歌合」、「十市遠忠百首」「十市遠忠自歌合」著、
 「三十六番自歌合」/「聖廟法楽和歌」編、外編著多数
- X3139 **遠胤**(とおたね・橘たちばな、)?- ? 南北期;武家、伊予の橘(矢野)遠村との関係?、
 歌人;1375頃細川家(頼之;1329-92)奉納[大山祇神社百首和歌]出詠、
 [いつしかに春をへだつる中がきもたわわに見えて咲ける卯の花](大山祇百首;18卯花)、
 [待ちわびてひとりうきねのすが枕夢さへうとき中となるらん](同;84/寄枕恋)
- I3164 **十市皇女**(とおちのひめみこ、天武天皇皇女)?-676 母;額田王、天智天皇の皇子大友皇子の妃、

葛野王かどののおさきの母、672壬申乱では父と夫とが戦う悲劇の中に身を置く、大和で病没、
万葉集中人物；自身の歌はない/万葉22伊勢神宮参詣(675年の吹茨刀自ふふきのとじの歌)、
万葉；156-8(676年高市皇子による挽歌3首)

- I3165 **遠継**(とおつぐ・ト部うらべ) ? - ? 平安初期9cト占家、「新撰亀相記」著
- W3186 **遠貫**(とおつら・山田) 1771 - 1831 61 紀伊有田郡箕島の医者、国学者、
[遠貫(；名)の初名/号]初名；利見、号；璃頭
- I3166 **遠江**(とおとうみ/とほたあふみ) ? - ? 平安期女房(六条齋院・禊子内親王家?) / 歌人、
六条齋院・禊子内親王歌合3回参加(；1051(永承6)・58(天喜5)?・65(治暦元)?)、
[かきくもり降る春雨にいつしかと柳がすゑはいろづきにけり]；
(永承六年六条齋院歌合；19とほたあふみ名)
- 遠江(とおとうみ・浅野) → 忠(ただす・浅野あさの、藩家老) P 2 6 6 4
- 遠江(とおとうみ・高橋) → 千川(ちかわ・高橋たかはし、国学/神職) M 2 8 7 8
- 遠江(とおとうみ・天津) → 孟雄(たけお・天津あまつ、神職/国学) V 2 6 2 8
- 遠江(とおとうみ・藤井) → 広風(ひろかぜ・藤井ふじい、神職/国学) K 3 7 8 3
- 遠江(とおとうみ・宮川) → 経一(つねかず・宮川みやがわ/山部、神職/国学) G 2 9 5 1
- 遠江守(とおとうみのかみ・南部) → 経行(つねゆき・南部/源、武家/連歌) E 2 9 1 1
- 遠江守(とおとうみのかみ・池田) → 正盛(まさもり・池田/藤原、豪族/連歌) H 4 0 9 8
- 遠江守(とおとうみのかみ・長山) → 頼基(よしもと・土岐とき/源、武将/連歌) 4 7 4 8
- 遠江守(とおとうみのかみ・小笠原) → 忠雄(ただお/ただかつ/ただたか・小笠原、藩主/故実) P 2 6 2 1
- 遠江守(とおとうみのかみ・中山) → 信久(のぶひさ・中山なかやま、幕臣/奉行/歌) K 3 5 4 1
- 遠江守(とおとうみのかみ・伊達) → 宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌) D 4 2 5 4
- 遠江守(とおとうみのかみ・久貝) → 正典(まさのり・久貝くがい、幕臣/歌人) G 4 0 2 3
- 遠江守(とおとうみのかみ・加藤) → 泰恒(やすつね・加藤かとう、藩主/画/歌) F 4 5 6 6
- 遠江守(とおとうみのかみ・加藤) → 泰温(やすあつ・加藤かとう、藩主/俚約令) F 4 5 6 5
- 遠江守(とおとうみのかみ・加藤) → 泰侯(やすとき・加藤かとう、藩主/焼物/書) F 4 5 6 7
- 遠江守(とおとうみのかみ・南部) → 通信(みちのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人) K 4 1 0 1
- 遠江守(とおとうみのかみ・伊那) → 忠告(ただり・伊那いな、幕臣/奉行) U 2 6 4 5
- 遠江守(とおとうみのかみ・跡部) → 良弼(よしすけ・跡部あとべ、幕臣/奉行/歌) K 4 7 9 5
- 遠江守(とおとうみのかみ・井上) → 正敦(まさあつ・井上いのうえ、藩主/歌) N 4 0 3 0
- 遠江守(とおとうみのかみ・飯田) → 正紀(まさのり・飯田いいだ、神職/国学/歌) N 4 0 4 9
- 遠江守(とおとうみのかみ・上田) → 重範(しげのり・上田うえだ、神職/歌人) N 2 1 4 8
- 遠江守(とおとうみのかみ・田谷) → 永修(ながまさ・田谷たや、神職/国学) N 3 2 6 6
- 遠江守(とおとうみのかみ・平山) → 道訓(みちのり・平山ひらやま、神職/国学) K 4 1 2 6
- 遠江守(とおとうみのかみ・松田) → 内直(うちなお・松田まつだ/賀茂、神職・歌) D 1 2 0 9
- 遠江守(とおとうみのかみ・三木) → 左三(さぞう・三木みき/河野、医者/尊攘) P 2 0 4 8
- 遠江正(とおとうみのしょう・矢田) → 秋世(あきつぐ・矢田やだ/源、神職/国学) I 1 0 5 8
- 遠江四郎(とおとうみのしろう) → 時仲(ときなか・北条/平、武将/歌) J 3 1 5 5
- 遠江太郎(とおとうみのたろう) → 清時(きよとき・北条/大仏/平、武将/歌) D 1 6 4 0
- I3167 **遠仲**(とおなか・高階たかしな) ? - ? 平安期廷臣；歌；1096中宮権大夫藤原能実家歌合参加、
[たぐひなきためしにひかむあづまぢのねをながぬまにおふる昌蒲あやめを]
(中宮権大夫家歌合；四番右8)
- 融成(とおなり・田中) → 江雪(こうせつ・板部岡いたべおか、歌/連歌) B 1 9 5 4
- 遠則(とおのり・鎌倉) → 鎌倉遠則(かまくらのとおのり、狂歌) F 1 5 8 4
- I3168 **遠久**(とおひさ・賀茂かも、号；酒殿神主、氏久男)?-1309 賀茂社神主；1272従五上大田社祝/のち四位、
歌人/勅撰6首；新後撰(1275)続千(2052)風雅(2123)新千(2165)新拾(1408)新続古(1490)、
[としをへてわが神山のほととぎすおなじ初音を今もきくかな](新後撰集；十七1275)
- 遐仁(とおひと；親王) → 桃園天皇(ももぞのてんのう、歌人) E 4 4 9 9
- I3169 **遠衡**(とおひら・三善よし、俊衡男)?-? 1325存 鎌倉期廷臣；皇后宮大進/四位、播磨守、
西園寺家諸大夫、1308前「倭詞わか十首懷紙」(寂恵・三善春衡・定蓮・静玄[実時]と10首)入、
1317伏見天皇の死で出家、姉妹；尊円法親王の母(永福門院播磨内侍)、

歌人：西園寺家十首歌合に参加、拾遺現藻集・続現葉集入集、
勅撰4首；続千載(688)風雅(1930)新千載(1731/2056)、

[よしさらば人とはずとも庭の面に跡なき雪をひとりこそ見め](続千載；六冬688)

- W3120 **遠広**(とおひろ・深江ふかえ、)1843-1896 54 肥前松浦郡の平戸藩士、国学；平田鍊胤門、
神道・国学；本居豊穎・矢野玄道・林通通門、維新後；大講義、藩神学寮取締兼助教師、
対馬海神神社権宮司、京都平野神社禰宜、司法省御用掛/帝国大学法典取調所出仕、
[遠広(；名)の別名/通称/号]別名；静雄/純秀、通称；数馬/静江、号；桃所
- I3170 **遠房**(とおふさ・橘たちばな) ? - ? 室町期廷臣；五位/歌：1439成立「新続古今集」1129、
[身を浦のあまの小舟もしるべせよへだつる中の八重のしほちに](新続古；恋1129)
- I3171 **遠藤**(とおふじ・藤原ふじわら) ? - ? 南北期?の連歌作者：1350成立「菟玖波集」入(1679)
[かけふむ山を夜過ぐる人](菟；羈旅1679/前句；橘やすゞのごとくにみえつらん)
- T3101 **遠視**(とおみ・良岑よしみね) ? - ? 平安前期廷臣；左兵衛少輔、
891(昌泰元)宇多上皇の片野等での遊獵に随従、
本朝文粹；911(延喜11)紀長谷雄「亭子院に飲を賜ふ記」に泥酔の記事、左兵衛大尉
- I3173 **とおみ**(とおみ・平たいら) ? - ? 平安期武士；保明親王の東宮坊護衛の帯刀たちき舍人、
歌；保明親王東宮時代(904-23頃)の「保明親王帯刀陣歌合」参加、
[うすしとも見ゆるものから佐保山の峰のあき霧秋立ちにけり](帯刀陣歌合；霧左13)
- I3174 **延光**(とおみつ・日野西ひのし、樋口基康男)1771-1846 76 江後期；1781日野西勝貫の養子/廷臣；
1809従三位、1824権中納言/30正二位/議奏、
1784「日野西延光雑日記」/1790-1846「日野西延光日記」、1792「伊勢例幣発遣参向之記」著、
1801「日野西延光日記」13「日野西延光参議拝賀雑記」外著多数
- I3175 **遠村**(とおむら・矢野やの/本姓；橘、通称；七郎左衛門尉)?-? 南北期武家；六位、
伊予橘家；喜多郡矢野郷出身、歌人；1375細川家(頼之)奉納[大山祇神社百首和歌]出詠、
勅撰6首；新千載(1331)新後拾遺(683/1043/1288)新続古今(1706/1985)、
[いつまでの命とてかは行末をたのむばかりは契りおくらん](新千載；恋1331/橘遠村名)
- X3111 **遠守**(とおもり・水野みずの、) ? - ? 江前期；京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]4首入、
[旅寝する里のかずさへ百羽もはがき鳴たつ沢のやどりかさねて](麓の塵；羈旅378)
- I3176 **遠康**(とおやす・中原なかはら) ? - ? 南北期?連歌作者：1350成立「菟玖波集」2句入
[すゑに見し山をも月に越え過ぎて](菟玖波集；羈旅1639)、
(前句；きのふもけふも急ぐ道かな)
- 3130 **融**(とおる・源みなもと、通称；河原左大臣、嵯峨天皇皇子)822-895 74 母；大原全子[or金子?]、
源姓下賜；臣籍/兄仁明天皇猶子、右中將/850従三位/856参議/872左大臣/881従一位、
政治的実権は摂政藤原基経が掌握のため自らは六条河原に「河原院」造営、
宇治・嵯峨に別業を営み風雅の生活、没後正一位追贈、「大学解正義」著、歌人；古今六帖入、
勅撰4首；古今(724/873)後撰(56/1081)、仁明にみまよ天皇・源信まことの兄弟、湛・昇のほるの父、
[みちのくのしのぶもちずり誰ゆゑに乱れむと思ふ[乱れそめにし]我ならなくに]、
(古今724[百人一首])
宇多法皇が京極御息所褒子と河原院に同行したとき融の霊が出現(江談・今昔に逸話)、
本朝文粹に秦有明「諷誦文」がある
- I3177 **亨**(とおる・嘉会室かかいしつ) ? - ? 俳人；關更門、1800「新五子稿」編(；天明俳人5名類題)
- I3178 **泰**(とおる・橘たちばな) ? - ? 江後期京油小路二条下ル町の書肆、国学；荒木田久老門、
宇治五十槻門、1804「芝居随筆」「筆のすさび」著、篆刻を嗜む；「秋間戯鉄」「香山印譜」著、
[泰(；名)の字/通称/号]字；彦通、通称；七郎右衛門、号；香山/芝屋しおく
- I3179 **融**(とおる・中西なかにし、初名；鴻、石樵男)?-? 江後期尾張藩士/河内茨田郡大窪村の宗家継嗣、
大阪天満の尾張藩邸住、書家、詩・山水画、1813秦滄浪撰「養老八橋」の碑文「八橋碑」書、
今川義元の碑文を書、[融(；名)の字/号]字；仲長、号；石門、衛まるの弟
- I3180 **徹**(とおる・都沢みやこざわ)1785 - 1858 74 陸中一関藩士/儒；林述斎門/儒臣となる、
江戸藩邸住；奥家老、1832「駢題詩哀べんだいしほう」編(；関藍梁と共編)、
[徹(；名)の字/号]字；一貫、号；芥水/乾山/徳翁
- W3103 **徹**(とおる・貫名ぬきな、井伊中頭なかあき男)1830-1902 73 近江彦根藩家老；井伊家庶流の貫名家を再興、

桜田門外で藩主直弼没の彦根藩において幼君直憲らと共に藩の信頼回復に尽力、
のち佐和山神社社司、歌人：[鳩のうみ]入、

[徹(；名)の別名/通称]別名；亮寿、通称；茂次郎/茂代治/筑後

- | | | | |
|--------------------------------------|-----------|---|---------------------------------|
| 徹(てつ・貫名) | → | 徹(とおる・貫名ぬきな/井伊、家老/歌) | W 3 1 0 3 |
| 亨(とおる・菅かん) | → | 仲徹(中徹・菅かん、儒者) | G 2 8 6 5 |
| 亨(とおる・神屋) | → | 立軒(りっけん・神屋かみや、儒者/藩出仕) | B 4 9 7 1 |
| 亨(とおる・柴田) | → | 鳩翁(きゅうおう・柴田しばた、心学者) | 1 6 2 6 |
| 亨(とおる・春田) | → | 九臯(きゅうこう・春田はると、藩士/儒者) | I 1 6 7 3 |
| 亨(亨とおる・石原) | → | 桂園(けいえん・石原いしはら、医者/儒者) | F 1 8 2 9 |
| 亨(とおる・鳥居) | → | 研山(けんざん・鳥居とりい、藩士/詩人) | J 1 8 2 6 |
| 亨(とおる・小沼) | → | 玄竜(元竜げんりゅう・小沼こぬま、本草家) | M 1 8 9 4 |
| 亨(とおる・綿引) | → | 文山(ぶんざん・綿引わたひき、医者/随筆) | F 3 8 4 3 |
| 亨(亨とおる・岡野) | → | 石圃(せきほ・岡野おかの/岡、絵師) | K 2 4 4 6 |
| 亨(とおる・阿部) | → | 櫟斎(れきさい・阿部あべ、医者/本草家) | 5 1 7 5 |
| 徹(とおる・江邨) | → | 磊堂(らいどう・江邨えむら/田中、藩医) | 4 8 8 7 |
| 融(とおる・大竹) | → | 東海(とうかい・大竹、儒者) | B 3 1 8 9 |
| 融(とおる・小国) | → | 玉淵(ぎよくえん・小国おくに、儒者) | I 1 6 8 3 |
| 融(とおる・本田) | → | 宗貞(そうてい・本田ほんだ、医者) | I 2 5 5 1 |
| 融(とおる・河合/岡野) | → | 石城(赤城せきじょう・岡野/河合、藩士/儒者) | D 2 4 5 5 |
| 融(とおる・小谷) | → | 古蔭(ふるかげ・小谷こたに、国学/書家/神職) | E 3 8 6 5 |
| 吐花(とか・古川) | → | 太無(たいむ・古川、俳人) | C 2 6 2 2 |
| I3181 吐海(とかい) | ? - ? | 京の俳人/江戸住、1702轍士「花見車」評判入
土塊[槐]子(どかいし) | → 天叔(てんしゆく;道号・宗眼、臨濟僧) D 3 0 7 8 |
| I3182 渡海里花成(とかいりのはななり) | ? - ? | 江戸の狂歌本町連、後万載集3首:307. 404. 819、
[山の端の錦につゝむ月の玉いるや箱根のふたの明け方](後万載;五404/長月末の箱根越)、
(箱の縁語;錦に包む・月の玉・蓋・明け方) | |
| I3183 兎角(とかく) | ? - ? | 俳人;1776樽良「誹諧月の夜」1句入、
[小夜更けて爪紅粉つまべに元はげる踊りかな](月の夜;34) | |
| 杜格(とかく) | → | 桃翁(とうおう・瀬尾、俳人) | B 3 1 6 1 |
| 斗学(とがく) | → | 兎毛(とも・関せき、狂歌/詩) | P 3 1 0 3 |
| 杜格斎(初世とかくさい) | → | 山奴(さんぬ・北見きたみ、俳人) | M 2 0 6 8 |
| 杜格斎(2世とかくさい) | → | 景山(けいざん・大野、桃翁、俳人) | 1 8 5 8 |
| 戸隠舎(とがくしのや) | → | 昭道(あきみち・長谷川、藩士/勤王派) | D 1 0 9 6 |
| 梅三右(とがさんゆう) | → | 吉仍(よしあつ・梅野とがの、武家/歌・連歌) | C 4 7 0 8 |
| 富樫介(とがしのすけ) | → | 昌家(まさいえ・富樫とがし/藤原、守護/歌) | B 4 0 2 8 |
| 都賀女(とがじよ) | → | 都賀女(つがじよ・戸田とだ、歌人) | G 2 9 0 2 |
| 梅尾上人(とがのおしょうにん) | → | 高弁(こうべん;法諱・明恵みよえ、華嚴密教) | 1 9 1 9 |
| 梅尾宮(とがのおのみや) | → | 義仁法親王(ぎにん/よしひとほつしんのう、箏/歌) | B 1 6 6 2 |
| 樫舎(とがのや) | → | 嘉猷(えみち・山田、国学/歌人) | E 1 3 2 7 |
| I3184 敏鎌(とがま・北原きたはら) | ? - ? | 江後期高知の国学者;土佐藩士鹿持雅澄[1791-1858]門、
土佐柏島の浦役人、1863「万葉集枕詞見安」編 | |
| U3136 敏鎌(とがま・梅本うめもと/旧姓;岡田) | 1839-77 | 39 江戸の売薬業、維新後;越後新津の実兄の家に住、
歌人;加藤千蔭・林甕雄門、火災により遺墨焼失(詠草一卷と短冊数葉のみ残る)、
[敏鎌(；名)の別名/通称/号]初名;黒人、通称;儀兵衛、号;魁香園/眠斎/魯斎/魯幽 | |
| 利上(とかみ・大伴) | → | 利上(としかみ/とかみ・大伴、万葉歌人) | M 3 1 3 0 |
| 戸川不琳(とがわふりん) | → | 不琳(不鱗ふりん・戸川、浄/歌伎作者) | E 3 8 6 3 |
| I3185 都丸(とがん・後町あともち、通称;覚之丞、別号;二時庵) | 1779-1857 | 79 信濃下金子村の俳人;
二時庵自得門、1823「花藻刈」編/23「満都梨草」著 | |
| 土丸(どがん) | → | 梁瓜(りょうか、俳人) | G 4 9 6 5 |
| I3186 登幾(止幾とき・黒沢くろさわ、別名;時子、修験者黒沢光仲女) | 1806-90 | 85 常陸茨木郡錫高野の生、 | |

父没後黒沢助信に養育;助信より和漢学修得/歌・句を詠む、1824(19歳)鴨志田彦造と結婚、
夫没後実家へ、1859上京;徳川斉昭冤罪の長歌を詠;捕縛され江戸へ檻送;のち赦免、
1874朝廷より終身禄米を賜る/晩年;下野茂木に隠棲、1859「上京紀行」/「捕はれの文」著、
[登幾(;名)の号] 李恭/養老舎滝女

図基(とき・村上) → 等順(とうじゅん・村上、医者) F 3 1 1 1

徒義(とき・望月/伴) → 東山(とうざん・伴、漢学者/藩儒) E 3 1 6 1

I3187 時顯(ときあき・西洞院にしのとういん、初名;時定、時兼男/本姓;平) 1434-9360 廷臣;左兵衛佐/左兵衛督、
1489従三位/93参議/正三位、連歌;1493宮中月次連歌参加(実隆公記入)、新菟玖波2句入

I3188 時章(ときあき・萩原はぎわら、通称;三右衛門)?-? 江前期出羽の中西流和算家、
「定率雑集秘法問答」著、宮坂平内・服部金兵衛の師

I3189 時章(ときあき・平松ひらまつ/本姓;平、時行男) 1754-182875 兄時升早世により家督嗣、
廷臣;1782従三位/1807正二位/13権大納言、関西琴道の祖/菊舎尼の弾琴・清音の師、
詩歌人、「詠十二景和歌」「時章詠草」「長坂山荘漢詩集」「探題当座」著、
「那須山温泉八景并序」著/1801-3「関東参向帰洛歌日記」著/09「御賀雑事」編、
[時章(;名)の号]号;琴仙堂/(通称;琴仙公)、法号;広徳院

時章(ときあき・山田) → 勘解由(かげゆ・山田、宮家臣/勤王派) L 1 5 4 3

時章(ときあき・岩橋) → 時夏(ときなつ・岩橋いわし/大江、神職/国学) U 3 1 3 2

時明(ときあき・村林) → 源助(げんすけ・村林むらばやし、商家/和漢学) N 1 8 9 9

時明(ときあき・安井) → 九左衛門(きゅうざえもん・安井やすい、藩士/国学) V 1 6 4 9

I3190 時明(ときあき・源みなもと:文徳流、仲舒男)?-? 997存 平安中期廷臣;従四上左馬権頭/皇太后宮大進、
993讃岐守/996播磨守辞退;出家し吉野に隠棲、歌;960内裏歌合参加(;左方童)、
家集「時明集」(25首)、玄々集・万代集入、時明集の歌が新古今集に1首入(;読人しらず)
[東三条院にさぶらひけるたききといふ人のもとに、

世をすててよよを昔の聖だにたきぎばかりは拾ふとぞきく](玄々集;46)

時明女(ときあきらのむすめ・源/実は時明の養女) → 馬内侍(うまのないし、歌人) 1 2 8 8

時朝(ときあき・笠間/塩谷) → 時朝(ときとも・笠間/塩谷/藤原、歌人) J 3 1 4 7

時朝(ときあき・源) → 時朝(ときとも・源、歌人) J 3 1 4 8

I3192 時敦(ときあつ・北条ほうじょう、政長男/本姓;平) 1281-132040 鎌倉期武将:六波羅探題(南・北方)、
正五下、重村の兄、時益の父、将軍久明親王家歌合参加、
勅撰4首;玉葉(1922)続千(569/1096/1554)、

[わがためのなさけとぞきく時鳥待ち明かす夜のあけぼのの声](玉葉集;十四1922夏歌)

W3163 節篤(ときあつ・六人部むとべ、旧姓;室谷) 1736-8449 播磨の生/山城乙訓郡の神職六人部家の養子、
六人部家は代々向日神社祠官、歌学;日野資枝門、忠篤ただあつ・節香ときかの父、
[節篤(;名)の字/通称]字;敬中、通称;主善/大和守

I3193 時有(ときあり・北条ほうじょう/家名;佐竹、通称;弥三郎、宣房男/本姓;平)?-? 鎌倉後期武将:
五位/左近衛将監、歌人;延慶-正和1308-17頃の関東歌壇で活動、続千載集655、
[晴れぬれば残る山なくつもりけり雲間にみつる峯の白雪](続千載;六冬655)

I3194 時有(ときあり・大中臣おおなかとみ/家名;中東、時徳男)?-1423 南北期大和春日社権神主/従三位;
1362新権神主/1405権神主、1357「春日社正遷宮貞治六年之記」著

時存(ときあり・横井) → 小楠(しょうなん・横井よこい、思想家) B 2 2 0 5

時存(ときあり・坂) → 時存(ときもり・坂さか/矢島、藩士/儒/藩改革) K 3 1 2 1

時家(ときいえ・小田/藤原) → 道円(どうえん・法界寺、鎌倉幕臣/歌) B 3 1 5 5

X3148 時氏(ときうじ・北条ほうじょう、鎌倉第3代執権泰時長男) 1203-123028 母;三浦義村女の矢部禅尼、
鎌倉幕臣、1221承久乱に父と東海道を攻め宇治川を敵前渡河する戦功、
1224父が執権;父を継嗣し六波羅探題北方;京に赴任/27従五下修理亮/28若狭守護、
得宗家の嫡子として南北両探題を主導/将来の執権を期待される、
1229(寛喜元)時氏の配下の三善為清が借金返済を巡り貸主の日吉二宮社僧を殺害事件;
三善の身体を巡り六波羅と比叡山とが対立;泰時による為清配流処分で決着、
その処分に時氏が抵抗;在職中に更迭;1230(寛喜2)鎌倉に帰る途中発病;帰着後没、
4代執権には時氏の長男の経時が就任、正室;安達景盛女の松下禅尼、

経時・時頼・時定・檜皮姫(九条頼嗣室)・足利泰氏室・北条時定室・北条時隆室の父、
[時氏(;)名)の別名/法号]別名;武蔵太郎、法号;月輪寺禪阿

- 3132 **言緒**(ときお・山科やましな、言経男/本姓;藤原)1577-162044 母;冷泉為益女、廷臣;
1598父の勅勘赦免後に出仕/1627従三位/29参議、歌人;宮廷歌会などの参加、
「和歌題林愚抄」編、1601-20「言緒卿記」1615「元和元年九月四日清寿言緒等聯句」著、
[言緒(名;)の法名/法号]法名;空言、法号;韶景院、妻;新庄直定女、言総の父
時興(ときおき・平松/辰) → 時庸(ときつね・平松/西洞院/平、廷臣/歌) J 3 1 3 9
- I3196 **時香**(ときか・北条ほうじょう、泰宗男/本姓;平)?-? 鎌倉中期武将;土佐守、歌人;続現葉入、
勅撰2首;続千載1702/続後拾遺1334、
[待ちわぶる山時鳥一こゑも鳴かぬに明くる短夜の空](続千載;十六雑1702)
- W3164 **節香**(ときか・六人部むとべ、通称;右衛門、節篤ときあつ[1736-84]2男)?-1845 山城乙訓郡の神職家生、
向日神社祠官忠篤(1767-1806)の弟、医者/兄没後;向日神社祠官、和学者、
兄の3男は香よしか(1798-1863)を養子とし向日神社祠官を嗣がせる
- I3199 **時影**(ときかげ・遠藤えんどう、時習男)1834-8855 雪荷派射芸;父門/山内秀雄門、仙台藩射芸指南役、
「吉田流雪荷派臺目行事次第」著、[時影(;)名)の通称]金右衛門
時景(ときかげ・北条) → 義政(よしまさ・北条/平、武将/連署/歌) G 4 7 9 4
- I3197 **時量**(ときかず・平松ひらまつ/本姓;平、時庸男)1627-170478 廷臣;1657従三位/74権中納言/82正二位、
1701出家、「少納言補任」編、1659-84「万治二女院使・寛文五新院使関東下向日諸事覚書」著、
1665-70「東行日次」/1669「関東下向日次」/72-84「関東下向日次記」、「時量卿御記」著、
[時量(;)名)の法名]法名;嘯月、法号;玉光院、妻;飛鳥井雅章女、時広・時方の父
- I3198 **時和**(ときかず;名・平たいら)?-? 江中期神道家;吉見幸和門、「神漏岐神漏美辨」著
- J3100 **時万**(ときかず・中村なかむら、昌平覺勤番組頭中村安八郎男)?-1881 幕臣;従五下/出羽守・石見守、
1853筒井政憲に随従しロシア使節プチャーチンと長崎で交渉、55勘定吟味役/57下田奉行、
1860普請奉行/64佐渡奉行/65致仕、和算家;久保寺正久門、
1828「記録解題」(戸田氏徳と共編)/30「賽祠神算」、「声気余滴」、「数学名家海内揭示録」著、
[時万(;)名)の通称/号]通称;為弥、号;永錫/永斎、法号;至誠院
- U3159 **時和**(ときかず・前谷まえたに、祐治)?-? 江後期;伊予宇摩郡の歌人/今治藩士?、
歌人;半井忠見(梧庵/1813-89)門;忠見「ひなのてぶり」に26首入集
言員(ときかず・小野) → 言員(ことかず・小野、歌人) D 1 9 4 4
時員(ときかず・木村) → 探元(たんげん・木村/平、絵師) T 2 6 4 0
時量(ときかず・北条) → 義政(よしまさ・北条/平、武将/連署/歌) G 4 7 9 4
縄葛(ときかず・藤本) → 善右衛門(ぜんえもん・藤本/佐藤、養蚕家) L 2 4 7 8
- J3101 **時風**(ときかぜ・山中やまなか、名;貞侯、関ト男)1738-9659 伊予宇摩郡入野村の庄屋/俳人;1748淡々門、
入野村の医王寺境内に淡々の句碑建立、上野の麦雨・京の何竜・長崎の湖道などと交流、
1795一茶が訪問、「俳諧海の音」「時風発句集」著、
[時風(;)号)の通称/別号]通称;岩之丞/与一右衛門、別号;暁雨館/拾壺齋
- J3102 **時方**(ときかた・高階たかしな)?-? 鎌倉後期歌人、1300高階宗成「遺塵和歌集」9首入
[ほととぎす人知れずこそ待たるるになど我にしもつれなかるらん](遺塵集;二夏41)
- J3103 **時方**(ときかた・平松ひらまつ/本姓;平、時量男)1651-171060 母;飛鳥井雅章女、時広の弟、法号;竜松院、
廷臣;1687従三位/1701従二位権中納言/故実家;賀茂伝奏、有職四天王の1、歌人、時春の父、
「元服部類」編、「公宴御内会和歌御当座愚詠」/1709-10「中納言様関東御下向日記」著
- J3104 **辰方**(ときかた・松岡まつおか/本姓;丹比たじ、萩藩士酒井黙示男)1764-184077 筑後久留米藩士;
藩主有馬頼種よりゆきの命で江戸藩邸の老女松岡の養子;松岡家を興す、御扶持人/納戸役、
江戸森本住、国学;塙保己一門/和学講談所入、有職故実;尾崎積興門/武家故実;伊勢貞春門、
公家故実;高倉永雅門、松岡流有職故実を創、1793「衣冠考」94「武家装束着用図」95「鞭図式」、
1800「装束織文図会」02「色目編」06「冠帽図絵」17-25「職文図絵」、「服忌便覧」「守囊」外著多数、
[辰方(;)名)の幼名/字/号]幼名;治三郎、字;士弁/子弁、通称;平治郎/清助/清右衛門、
号;梅軒/雙松軒、法号;礼本院
息子も故実家 → 行義(ゆきよし・松岡、雙松亭、故実/歌) 4 6 2 9
時方(ときかた・伊藤) → 定敬(さだたか・伊藤いとう、藩士/和算家) I 2 0 3 7

説方(ときかた・藤原) → 頼佐(よりすけ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) I 4 7 7 5

晨形(ときかた・武田) → 晨業(ときなり・武田たけだ、商家/村政/俳人) V 3 1 7 0

- J3105 季雄(ときかつ・堀ほり、初名;三季、三久男)?-1786 出羽庄内藩士;1753奥小姓;世子酒井忠温の近習、書院目付/1760別家(百石)/66郡奉行/鶴岡町奉行・酒田町奉行/86江戸留守居役;江戸に没、詩;高野蘭亭門/兵法;松宮観山・山県大弼門、歌・俳諧・琵琶を嗜む、商人に読書を奨励、方言研究;1767「庄内浜萩」80「承露盤」、「当代世談集成」「正路置郵」編/「和語考」外著多数、[季雄(;名)の字/通称/号]字;少公、通称;金蔵/平大夫、号;対鷗、法号;清浄院
- J3106 時門(ときかど・平松ひらまつ/本姓;平、法号;幽香院、時章男)1787-1845 母;竹屋光予女、時保の兄、廷臣;1818従三位/23正三位/39参議、「詠草」/1825「鈴虫造様之秘法」著、1831「松虫鈴虫栄籠造伝」/34「松虫鈴虫作方留」/40「松虫鈴虫等秘法書」著
- 敏包(としかね・多田) → 園村竹(そのむらたけ、尾張屋千次郎、狂歌) E 2 5 1 7
- J3107 時清(とききよ・藤原ふじわら、安親男)?-? 平安前期刑部大輔/土佐守/従五下、966内裏前裁合(:父と参加)、守仁の弟、[ももしきによろづの花をうつし植ゑてやちよの秋のためしにぞ見る](内裏前裁合;27)
- J3108 時清(とききよ・佐々木ささき、泰清男/本姓;源)1242-1305 討死64 鎌倉幕臣;1250將軍近習、隠岐守護;父継承/1275引付衆/83評定衆/左衛門尉、1305北条宗方謀反の追討;鎌倉で討死、歌:1261宗尊百五十番歌合参加、勅撰3首;続古1292/続拾493/新後撰1259、新続古927の歌は氏清男の山名時清と考えられる、[みちのにありてふ川のむもれ木のいつあらはれて浮き名とりけん](続古;十四恋1292)、(詞書;中務卿[宗尊]親王家十首歌合歌)、[時清(;名)の通称/法名]通称;隠岐次郎/隠岐入道、法名;阿清
- J3109 時清(とききよ・山名やまな、氏清[1390討死]男/本姓;源)?-? 大夫将監/歌;新続古927、[越えくらす山わけ衣さらでだにほさぬ袂に降る時雨かな](新続古;十羈旅927)
- J3110 辰清(とききよ・寒川さむかひ/かんがわ、中郎土佐守男)1697-1739 膳所藩士寒川辰成の養嗣子、その女の武と結婚;辰清と改名、近江膳所藩儒;家禄2百石、大監察武者別当・寺社往還奉行、藩主本多康命・康敏の侍講/1738讒により追放;大阪の唐金家に寄寓/没、伊藤東涯と交流、「故実集義便蒙」「異説辨証」「弓術要覧」「脱漏事始」著、1730「本朝四民本伝」34「近江輿地誌」著、[辰清(;名)の別名/字/通称/号]幼名;重福丸、初名;原清、字;元水、通称;儀太夫/水右衛門、号;梅野いひや/(晩年号;)鉄心忠肝居士、法号;彝徳院
- J3112 時邦(ときくに・北条ほうじょう、濟時男/本姓;平)?-? 鎌倉後期武将:五位左近衛将監、春時の兄、歌人/勅撰2首;玉葉1840・続千載1582、[咲かぬまの花待ちすさぶ梅が枝えにかねてこづたふ鶯のこゑ](玉葉集;十四1840)
- J3113 言国(ときくに・山科やまなし/本姓;藤原、山科保宗男)1452-1503 廷臣;1462山科頭時の養嗣子、1468右近中将/84従三位/85参議/92権中納言/1501従二位、故実家/歌人/連歌/笙を嗜む、1481-87「言国詠草」92-97「愚詠草」、「着到和歌」、連歌;1486「何人百韻」/新菟玖波3句入、1474-1502日記「言国卿記」著、1493「後土御門院御灌頂記」/「鳳管灌頂記」編、[;名)の法名/道号/法名]法名;盛言、道号;説堂、法号;説尊盛言
- J3114 時子(ときこ・平たいら、平時信女)1124-1185 平清盛の室/1168出家:二位尼にいのあま、徳子などの母、長門壇ノ浦で安徳天皇を抱き入水
- T3122 東起子(時子/登喜子ときこ・桂かつら、旧姓;長井)?-1854 越後の歌人;山本由之[1762-1834]門、越後蒲原郡新津組の大庄屋桂誉正たかまさ[1782-1850]の妻、歌;「桂誉正・とき子・誉重歌集」入(桂尚樹編)
- T3132 とき子(ときこ・松平まつたいら/長門守後妻)?-? 松平近儔(ちかとも1754-1840/豊後府内6代藩主)の後妻、歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[いく千里ちさと照す光ぞかがみ山くもらぬ御代の春のあけぼの](大江戸倭歌;190/春曙)
- U3125 時子(ときこ・市田いちだ、田中)1801-?(30?) 近江神崎郡町屋村の生/彦根藩士中野某に近仕、国学・歌;小原君雄・山本昌蔭・香川景樹門、和漢学を修学;歌文に優れ能書家、法号;静然尼
- W3169 勅子(ときこ・毛利もうり、徳山藩主毛利広鎮7女)1819-79 周防徳山の生、萩藩主毛利元徳の姉、

厚狭呂主毛利元美もとよし(1811-85)の室、夫元美は長州藩一門家老;厚狭毛利家10代当主、
国学・歌;近藤芳樹門、教育者;1873(明治6)船木女兒小学を設立;校長、
[勅子(;名)の別名/号]別名;絢子、号;琴窓

時子(ときこ・黒沢) → 登幾(止幾とき・黒沢くろさわ、歌人) I 3 1 8 6

時子(ときこ・萩原) → 竹子(たけこ・菊池きくち/萩原、歌人) W 2 6 7 4

秋子(ときこ・広瀬) → 秋子(あきこ/ときこ・広瀬ひろせ、淡窓妹) G 1 0 7 5

登岐子(ときこ・柳原) → 安子(やすこ・柳原/正親町三条、歌人) 4 5 2 1

時言(ときごと・伊庭) → 時言(ときごふ/ときごと・伊庭いば、国学/歌) J 3 1 7 3

時貞(ときさだ・益田ますだ) → 四郎時貞(しろうときさだ・天草、キリシタン一揆) N 2 2 1 1

時定(ときさだ・北条) → 為時(ためとき・北条/平、武将/歌人) H 2 6 1 1

時定(ときさだ・西洞院) → 時顕(ときあき・西洞院にしとういん、廷臣/連歌) I 3 1 8 7

U3154 時里(ときさと・大山おおやま、通称;多嘉喜) 1825-1903 79 大隅種子島の国学者/歌人

J3115 時実(ときざね・中原なかはら、行実男)?-? 鎌倉後期廷臣;五位/歌人;続千載集1265、
[はかなくもなほや頼まむ逢ふとみる夢をうつつのなぐさめにして](続千載;恋1265)

J3116 時謙(ときざね・由良ゆら、周孚男) 1767-1830 64 伊勢龜山藩士/1798家督/1803京留守居役、
1812虎の間;代官・備中陣営詰・郡代、曆算;小島壽山門/藩校の道場九思堂の算学指導、
祖父清禎の遺した中国の曆算書・洋書漢訳などを研究、1792「曆学名目鈔」97「七曜曆説」著、
[時謙(;名)の字/通称/号]字;子恂、通称;溪右衛門、号;竜川りゅうせん/潜心堂、法号;時謙しん院

V3132 時実(ときざね・坂田さかた、) 1824-1903 80 伊予松山の国学者/歌人

時実(ときざね・平) → 西音(さいおん;法諱、武士/浄土僧/歌) 2 0 6 4

時三郎(ときさぶろう・明石) → 行憲(ゆきのり・明石あかし、藩士/歌文) F 4 6 3 0

時二(ときじ・成田) → 蒼虬(そうきゅう・成田なりた、藩士/俳人) 2 5 0 7

J3117 時茂(ときしげ/ときもち・北条ほうじょう、重時男/本姓;平) 1241-70 30 鎌倉後期武将;左近衛将監/従五下、
陸奥守/六波羅探題(北方)、歌人/勅撰4首;;続古今1534・1591/続拾遺653/新後撰1420、
長時の弟/義政・忠時の兄、時範の父、
[人しれぬみ山がくれの桜花いたづらに散る春やへぬらん](続古;雑1534)、
[時茂(;名)の通称/号]通称;陸奥弥四郎、号;常葉、

時重(ときしげ・高山/源) → 宗砌(そうせい、高山/源、武家/連歌) 2 5 1 3

時繁(ときしげ・小槻) → 長興(ながおき・小槻おつき、廷臣/歌/連歌) 3 2 0 5

時懋(ときしげ・松岡) → 時懋(ときよし/ときしげ・松岡まつおか、神職/歌) W 3 1 4 8

時次郎(ときじろう・櫛田) → 利恭(利孝としたか・櫛田くしだ、脇本陣/国学) V 3 1 0 2

時次郎(ときじろう・真木) → 佐忠(すけただ・真木まき、神職/国学) J 2 3 2 5

J3119 時助(ときすけ・曾我/本姓;平、曾我祐盛男)?-? 鎌倉後期8代将軍久明親王の家臣、
連歌;菟句波集3句入

[秋ながらはじめの程は月もなし](菟句波;十二1117/前句;此の夕暮れも萩の上かぜ)

X3102 時祐(ときすけ・築瀬やなせ、通称;縫殿)?-? 江前中期;歌人、

[時鳥こよひはまたでこころみんなやにくの世にならふ声かと](茂睡[鳥の迹]夏210)

W3187 時亮(ときすけ・山田やまだ、) 1800-1854 55 京の代々青蓮院門跡家臣;諸大夫、歌人、
山田勘解由(時章/1834-98)の父、
[時亮(;名)の通称]西市佑/筑後守

時亮(ときすけ・末包) → 金陵(きんりょう・末包すえかね、儒者) R 1 6 9 9

允亮(ときすけ・惟宗・令宗) → 允亮(ただすけ・惟宗こむね/令宗よむね、明法家) F 2 6 1 6

十喜助(ときすけ・奈河) → 芝助(しばすけ・金沢かなざわ、歌舞伎作者) F 2 1 4 9

時澄(ときすみ・樺山/村山) → 松根(まつね・村山/木村/樺山、藩士/歌) J 4 0 8 4

時蔵(ときぞう・木下) → 光忠(みつただ・木下きのした、商家/歌人) I 4 1 7 9

斗機蔵(ときぞう・松本) → 胤親(たねちか・松本まつもと、幕臣/洋学者) R 2 6 8 7

J3120 辰敬(ときたか・多胡たご、忠重or久重男) 1503前-1562 自刃 60? 武将;尼子晴久の家臣/諸学に通ず、
石見余勢城に生/1540安藝吉田郡山城攻めに従軍;元就に撃退/43鱒淵寺造宮、
鱒淵寺領の掟制定/石見刺鹿城主;銀山を守る/1554月山富田城内で宗養を招き歌会、
1562毛利軍に刺鹿城を攻められ落城/自刃、「多胡辰敬たごときたか家訓」著、正国の兄、重盛の父、

[カノ入ル事ヲスルハ下也 カモイラナイデ手足ヲハタラカスハ中ノ人也
心を働カシテ心ニテ事ヲナスハ上ノ人ナルベシ](多胡辰敬家訓)

- X3116 **時高**(ときたか・葦名あしな、) ? - ? 江前期:上方の武士/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]8首入、
[くちなしの花はこたへずこはた山こはたがわけし里の通ひち](林葉累塵;雑1226)
- U3138 **允孝**(ときたか・大寄おおより、通称;友右衛門) 1784-1856 73 甲斐八代郡大門村の農家、
かつて富士講の開祖角行の修験の場であった忍野八海の荒廃を嘆く；
1843(天保14)富士講の一つ[大我講]を開き忍野八海を禊ぎの池として再興
時高(ときたか・北条) → 斉時(としとき/なりとき・北条、武将/歌人) N 3 1 0 0
- J3121 **時忠**(ときただ・平たいら、時信男) 1127-1189 63 母;二条大宮半物、廷臣;左衛門尉/右少弁を歴任、
1161憲仁親王立太子の陰謀に連座解官/62二条天皇呪詛罪で出雲配流/65帰京/67参議、
1169出雲に再配流、70復位/78別雷歌合参/79正二位/83権大納言/83平家一門と都落；
1185壇ノ浦で捕縛/能登に配流;同地で没、室は安徳天皇乳母帥典侍、親宗の兄、
姉に清盛室時子/妹に後白河天皇女御滋子がいる、歌;自邸歌合主催/千載1238、
西行や建礼門院右京大夫と交流、「平氏にあらざれば人にあらず」と嘯く、
[頼もしき誓ひは春にあらねども枯れにし枝も花ぞ咲きける](千載;釈教1238/観音の誓)
[時忠(;名)の通称]平大納言/平関白
時忠(ときただ・平/北条) → 宣時(のぶとき・大佛おさらぎ、武将/歌人) C 3 5 2 6
致忠(ときただ・大田原/阿久津) → 竜湖(りゅうこ・阿久津あくつ/大田原、藩士/儒者) D 4 9 6 9
- J3123 **時胤**(ときたね・大和田おおわだ、通称;新助/内記) 1653-? 1705 存 秋田藩士;記録方、佐竹義処に出仕、
「常陽紀行」/1697「金砂紀行」、「常陸経歴日記」著
- J3124 **時胤**(ときたね・小比賀こひが、通称;師陽) ?-? 江後期本草家/和算家;多田弘武門、
1805「蕃薯解」著
- V3163 **時胤**(ときたね・高梨たかなし、) ? - 1813 信濃小県郡の歌人;桃沢夢宅(1738-1810)門、
[時胤(;名)の通称/号]通称;源吾/新蔵、号;眞三
時太夫(初世ときだゆう・豊竹) → 此太夫(2世このだゆう・豊竹、浄瑠璃太夫) N 1 9 3 8
時太郎(ときたろう・万波) → 俊諒(としあき・万波まんなみ、藩士/儒者) M 3 1 0 0
時太郎可候(ときたろうかこう) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2
登吉(ときち・門阪) → 登吉(たかよし・門阪かどさか、商家/国学) W 2 6 5 4
- J3125 **時親**(ときちか・藤原ふじわら) ?-? 鎌倉期廷臣五位/歌;1261宗尊百五十番歌合参加(散位さんにとある)、
続千載集1713、藤葉集入、
[ほととぎす花橘にきこゆなり昔忘れぬよよの古声](続千載;十六雑1713)、
大友時親と同一? → 時親(ときちか・大友おおとも) J 3 1 2 6
- J3126 **時親**(ときちか・大友おおとも/戸次、太郎、法名;道慧、戸次重秀男) ?-1290 鎌倉期廷臣;掃部頭/従五下、
1266藤原為頼より「和歌口伝抄」受く/1290筑前管崎執所で没、
藤原時親と同一? → 時親(ときちか・藤原ふじわら) J 3 1 2 5
- J3127 **時親**(ときちか・大佛おさらぎ/北条、時貞男/本姓;平) ?-? 鎌倉期弘長文永1261-75頃の武将、右馬助、
1266宗尊親王当座和歌会参加、続古今集1555、
[ゆふだちのまだ過ぎやらぬ湊江みなとえの芦の葉そよぐ風のすずじさ](続古今;雑1555)
- J3128 **時雍**(ときちか・交野かたの/本姓;平、初名;匡道、広橋伊光男) 1785-1835 51 交野時利の養嗣子、
廷臣;1801改名;時雍/21従三位/27正三位、
「行事要覧」/1816「新嘗祭豊明節会参仕之備忘」著、
- J3130 **時鄰**(時隣ときちか/ときとし・北条ほうじょう、時澄男/本姓;中臣) 1802-77 76 鹿島神宮祠官/権大講義、
国学/歌;小山田与清門、1823「鹿島名所図絵」、24「十六夜日記残月鈔」(与清と共著)、
1824「徒然草残月抄」、「草縁集」/「帰路日記」、椿仲輔と交流、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[思ひのみしげりぞまさるとがの木のうちとけがたき事のつらさに]、
(大江戸倭歌;恋1575)、
[時鄰(;名)の通称/号]通称;時之助/凶書、号;鳳尾庵

- W3132 **時隣**(ときちか・豊ぶん、)1836-190974 京の楽人/維新後;東京の宮内省雅楽師
- 3133 **言継**(ときつぐ・山科やましな/一字名;仙、言綱男/本姓;藤原)1507-7973 廷臣;1537従三位/1538参議、
権中納言/陸奥出羽按察使/大宰権帥/1548正二位/69権大納言、故実家、皇室経済を再興、
歌人;三条西家に入門、1527-76「言継卿記」、59「歴名士代」編、「口宣案」著、
歌;家集「拾翠愚草集(権大納言言継集)」、1551「拾翠愚草抄」、「山科言継歌集」著、
連歌;1540「何草百韻」48「歡喜天法楽千句」55「一字露頭百韻」著、言経の父
[言継(;名)の法名/道号/法号]法名;照言、道号;月岑、法号;華岳院
時次(ときつぐ・三井) → 秋風(しゅうふう・三井みつゐ、商人/俳人) I 2 1 2 3
時嗣(ときつぐ・近衛) → 前久(さきひさ・近衛/藤原、関白/歌・連歌) 2 0 1 2
- J3131 **時綱**(ときつな・源みなもと、信忠男/母;頼信女)?-? 平安後期廷臣;文章生/大学助/1068六位蔵人、
勘解由次官/肥後守/従五上、1088藤原実政の宇佐八幡射輿事件に連座;安房に配流、
詩/歌;1058師通詩会参加、歌集「時綱草」(散佚)、中右記部類紙背漢詩集・本朝無題詩入、
新撰朗詠集・和漢兼作集・寂超「後葉集」入、勅撰2首;後拾遺303/詞花9、
[吹きくれば香かをなつかしみ梅の花散らさぬほどの春風もがな](詞花集;一春9)
- J3132 **時綱**(ときつな・北条ほうじょう/家名;佐介、時員男or時貞男/本姓;平)?-? 鎌倉期武将、美濃守、
嘉元-徳治1303-08頃関東歌壇で活動、拾遺現藻集入、勅撰;玉葉2115、
[満つ潮に浦の干潟も波越えて空にきこゆるあしたづの声](玉葉集;十五雑2115/平時綱)
- J3133 **時綱**(ときつな・小田おだ、時知男/本姓;藤原;道兼流)?-? 1368存 室町幕府評定衆/足利基氏の家臣、
駿河守、連歌;菟玖波4句入、
[桜散る木陰のあらし雪吹きて](菟;二169/前句;踏む跡もなき山里の庭)
- J3134 **言綱**(ときつな・山科やましな、言国ときくに男/本姓;藤原)1486-153045 母;高倉永継女、廷臣;1518従三位、
1526権中納言/59従二位、歌人;三条西実隆の烏帽子親、定家流の能書家、
「菓種調味抄」編、家集「言綱詠草」著、法号;竜雲院、言継の父
- J3135 **時綱**(時綱ときつな・真野まの/藤波[藤浪]、重綱男)1648-171770 代々尾張海東郡津島神社社家;
津島四家の1(神主は氷室家世襲)、神道・和学;吉見幸勝・久我雅通・ト部兼魚かねな門、
考証的学風を継承/1682父没後家職を継嗣、没後に神主氷室亮長あきなが(多田南嶺門)が活躍、
「尾陽国志」編纂参、1703退隠、1688「神家常談」90「神代図解」95「藤島私記」97「津島祭礼志」著、
1698神道百科辞典「古今心学類篇」編/98「本朝学原浪華鈔」編、1712「詮問叨富記」著、
「暇日録」「疑問録」「神道諸院編」「神道常用集」「独言朗詠」「注進記秘」「藤浪私言稿」外著多数、
[時綱(;名)の通称/号]通称;太郎大夫/縫殿助ぬいのすけ、
号;松陰亭/蔵六翁/稚扇翁しゅうせんおう/藤波(浪)翁、法号;心廓了堂居士
時綱(ときつな・佐々木) → 弘綱(ひろつな・佐々木、国学者/歌人) G 3 7 4 2
- J3136 **時経**(ときつね・平たいら、貞文さだぶん[?-923]男)?-? 若狭守/従五下/歌;960内裏歌合参加、保遠の父、
元興寺僧安快・日向守兼時・信臣の兄弟、
- J3137 **時常**(ときつね・東とう、法名;素阿、行氏男/本姓;平)?-1312 武将、鎌倉將軍惟康親王に出仕/中務丞、
六位、歌人/勅撰4首;新後撰(1000/1453)/続千載1992/新拾遺1681、
[たのまじと思ひなりてもいつはりにかはらで待つは心なりけり](新後撰;恋1000)
- J3138 **時経**(ときつね・平たいら、宗経むねつね男)?-1379 南朝の廷臣;1357参議/74従二位/77権大納言、
歌人;新葉集2首562/1049、
[君ゆゑと思はざりせばいかばかりかかる旅寝も猶うからまし](新葉;八羈旅562)
- 3134 **言経**(ときつね・山科やましな、言継ときつな男/本姓;藤原)1543-161169 母;葉室頼継女、廷臣;1570従三位、
1571参議/77権中納言/85勅勘;出奔;妻の姉婿興正寺佐超を頼り堺住/91帰京、故実家、
家康・豊臣秀次の扶持を受、1798勅免で出仕/1802正二位、歌人;冷泉為満細川幽齋と交流、
1579天正内裏歌合参加、1595豊臣秀次命「謡抄」;楽道・有職故実を執筆、日記「言経卿記」著、
「相頭抄并大中納言参議補任」補填、
[言経(;名)の幼名/法名/道号/法号]幼名;長松丸、法名;白言、道号;唯月、法号;岳春院
妻;冷泉為益女、言緒ときおの父
- J3139 **時庸**(ときつね・平松ひらまつ/家名;西洞院にしどのういん/本姓;平、西洞院時慶2男)1599-165456 平松家の祖、
廷臣;1632従三位/47従二位/54権中納言、歌人;「和歌見聞集」/1617-31「愚詠」著、
1631-33「詠草」、1637「於仙洞御着到百首」44「時庸記」、「春風草」「春日同詠百首和歌」著、

- 「有職雜記」外著多数、
 [時庸(；名)の別名/一字名/法号]初名；時興、一字名；辰、法号；智文院
- T3188 **時庸**(ときつね・阿部あべ) ? - ? 陸奥宮城郡の神職；塩竈神社祠官、
 神道/国学；藤塚知明ともあき(1737-99、塩竈神社禰宜)門、
 [時庸(；名)の通称] 安太夫/山城守
 時庸(ときつね・畑) → 時庸(じょう・畑はた、歌人) U 2 2 5 6
 時経(ときつね・木村) → 探元(たんげん・木村/平、絵師) T 2 6 4 0
- U3176 **時万**(ときつむ・交野かたの、時[晃]交男)1832-1914⁸³ 京の廷臣；権少納言/侍従兼任、歌人、
 1858(安政5)日米条約勅許を阻むため反対運動に参加/1866正三位、安政勤王88廷臣の1、
 維新後；東京巢鴨氷川神社大宮司/日吉両神社大宮司/少教正、御歌所参候、
 [時万(；名)の通称] 左京大夫
- J3140 **怡顔**(ときつら・南部なんぶ、南部義顔よしつら男)1751-1817⁶⁷ 南部藩遠野29代領主、歌；「詠草」著
 時般(ときつら・横井) → 也有(やゆう・横井、藩士/俳人/詩歌) 4 5 1 7
- J3141 **時照**(時照ときてる・岸崎きさき、佐久次の男)1637-90⁵⁴[一説1611生⁸⁰] 出雲松江藩士；1646家督、
 1653-57春秋檢地御用、郷方役/地方役歴任；田地税制に精通/神門郡の郡奉行、
 1662「免法記」82「田法記」著/1682「耕作覚書百箇条」、「出雲国風土記大成」著、
 1683「出雲国風土記鈔」著、
 [時照(；名)の通称/号]通称；佐久治/佐久次(父の称を踏襲)、号；一抱子、法号；潜竜院
- J3142 **時遠**(ときとお・北条ほうじょう、時直男/本姓；平)?-? 鎌倉後期武将、六位、清時の弟、歌人、
 1261宗尊百五十番参加、勅撰3首；続拾遺(1185)新後撰(1274)続千載(473)、
 [我が袖はほすまもあらし世の中のうきにまかする涙なりせば](続拾遺；十七雑1185)
 時遠(ときとお・北条、政村男)→ 時村(ときむら・北条、武将/歌人) K 3 1 1 2
- J3143 **時俊**(ときとし・惟宗これむね、良俊男)?-? 鎌倉後期医者；従四下/典薬権助/玄蕃頭、歌人、
 1297「医家千字文註」、「続添要穴集」著、勅撰2首；続千載1851/新千載1730、藤葉集入、
 [山かげやたれにとはるる宿とてか跡なき庭の苔もはらはん](千載集；十七雑1851)
- J3144 **時俊**(ときとし・大中臣おなかとみ/家名；西、師俊男)1312-? 1381存 南北期春日社神主；1361正神主、
 1381解任、1341(暦応4)「春日神主時俊記」「暦応四年十月記」著
- J3145 **時敏**(ときとし・横井よこい、時直男)1710-61⁵² 尾張名古屋藩士；叔父時尚の養子/1730家督；寄合、
 1758鷹匠頭、儒詩；松平君山門/植物栽培、「嘉卉園隨筆」「鳴海駅唱和」「君山先生奇談」著、
 [時敏(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；弥三郎、字；有功、通称；猪右衛門、号；瀛洲えいしゅう、
 法号；正行院
- W3101 **時敏**(ときとし・西野にしひ、旧姓；中村)1768-1849⁸² 土佐高知藩士、儒・国学；宮地水溪(仲枝)門、
 [時敏(；名)の通称] 寿八/彦蔵/新右衛門
- V3111 **時敏**(ときとし・黒谷くろたに、)1823-1887⁶⁵ 出羽庄内藩士；物頭、国学者、
 1878「くだくだ草」著、
 [時敏(；名)の通称/号]通称；市郎兵衛、号；蘭谷
 時敏(ときとし・前田) → 葉庵(ようあん・前田/玉野、藩儒/医者) 4 7 5 5
 時敏(ときとし・名越) → 時行(ときゆき・名越なごや、民俗研究) K 3 1 2 9
 時敏(ときとし・紀) → 梅亭(ばいてい・紀、絵師/俳人) B 3 6 8 3
 時敏(ときとし・檜林) → 鎮山(ちんざん・檜林、通詞/医者) K 2 8 7 2
 時敏(ときとし・森本) → 黙愿(もくいん；法諱・佚山いつざん；道号、書/曹洞僧) 4 4 6 7
 時敏(ときとし・塩田) → 良珉(りょうみん・塩田しおだ、藩蘭医) J 4 9 5 0
 時敏(ときとし・金井) → 烏洲(うしゅう・金井かない、農家/儒/絵師) B 1 2 7 5
 時敏(ときとし・松岡) → 毅軒(きけん・松岡まつおか、藩士/儒者) I 1 6 6 1
 時敏(ときとし・志村) → 麗沢(れいたく・志村しむら、藩儒/詩) 5 1 5 0
 時敏(ときとし・西郷/横井) → 鉄叟(てつそう・横井、藩士/国事奔走) C 3 0 5 5
 時敏(ときとし・関) → 守一(もりかず・関せき、神職/国学者) F 4 4 3 0
 時鄰(ときとし・北条) → 時鄰(ときちか・北条、神職/国学) J 3 1 3 0
 時富(ときとみ・細田) → 栄之(えいし・鳥文斎ちようぶんさい、幕臣/絵師) 1 3 2 8
- J3147 **時朝**(ときとも・笠間かさま、家名；塩谷[屋]/宇都宮、本姓；藤原[北家道兼流]、朝業[信生]男)1204-65

武将;常陸笠間領主;従五植え/左衛門尉、1242検非違使として上洛、歌人:宇都宮歌壇中心、1258-9為氏「新和歌集」の実質撰者:51首入、定家・家隆・家良・源通光と交流、家集「前長門守時朝入京田舎打聞集」、1252-「異本紫明抄」著者説あり、東撰和歌六帖入集、勅撰3首;続後撰(846)続拾遺(587)新統古今(1931)、雲葉集入、

[あまちはまたあふさかを隔つとも通ふ心に関守かゝるじ](続後撰集;十三恋846)

- J3148 **時朝**(ときとも/ときあさ・源) ? - ? 五位/歌:1364成立「新拾遺集」1584、
[ひぐらしの鳴く山かげの涼しきに風も秋なるならのはがしは](新拾遺集;1584)
- J3149 **言知**(ときとも・山科やましな、忠言ただとき男/本姓;藤原) 1790-1867 78 廷臣;1812従三位/25参議、
1831権中納言/34正二位/49権大納言、1804-13「言知卿記」著、
「言知卿雜記」「八字眉伝授一紙」著、言繩ときなおの父、言成ときなりの養父
- J3150 **時名**(ときな・西洞院にしとういん、法名;風月、範篤男/本姓;平) 1739-98 60 母;桜井氏敦女、廷臣;
1744少納言/45兼備前権介/47兼春宮権大進/48院司/55正四上、桃園天皇の近習、歌人、
神道/儒;竹内式部門、朝権回復を策謀;宝暦事件連座/1758止官永蟄居/60落飾/78赦免、
1891贈正三位、「百首詩歌」「一日百首」著
- J3151 **時直**(ときなお・北条ほうじょう/家名;大佛おさらぎ、執権連署北条時房男/本姓;平) ?-? 鎌倉期中期武将、
従五下式部大夫/遠江守/長門探題、歌人;1261宗尊親王家百五十番歌合参加、東撰六帖入、
勅撰5首;続古今(409/1427)続拾遺(875)新後撰(1228)続千載(1833)、
[水無瀬川こほるも月の影なればなほありてゆく水のしらなみ](続古今;四秋409/平時直)
- J3152 **時直**(ときなお・西洞院にしとういん/本姓;平/一字名;寸、初名;時康、時慶男) 1584-1636 53 廷臣;
1626参議/29周防権守/31従二位、後水尾天皇に近侍、歌学、八条宮家・飛鳥井家の歌会参加、
家集「参議時直卿集」、1604「伊勢物語抄」17「時直卿百首」、「百首和歌」「愚草」著、
連歌;1605「山何百韻」ほか1619百韻・漢和聯句など、「昌琢点六吟百韻」
- J3153 **言繩**(ときなお・山科やましな、言知ときとも男/本姓;藤原) 1835-1916 82 廷臣;左近権少将/右近権中将、
1866従三位/69正三位/1867議奏加勢として国事に参与、故実;装束衣紋の第一人者、
「近臣便覧」著/1849-「言繩卿記」著/1858「開港之儀ニ付公卿建白留」編
言直(ときなお・西) → 言直(ことなお・西にし、篆刻/歌人) N 1 9 2 9
- X3104 **辰直母**(ときなおのは・萩原はぎはら、法名;自性院) ?-? 江前中期;歌人、茂睡[鳥の迹]入、
[萩原辰直におくれて嘆きけるに辰直が読みし歌をすぐに筆してかきたる短尺を、
人の方よりみよとておこせたるを見て、
水茎の跡はそのまま残る世に書流したる人ぞ消えぬる]([鳥の迹]哀傷618)
- J3154 **時中**(ときなか・源みなもと、左大臣雅信男/母;源公忠女) 943-1001 59 平安前期廷臣;986正三位大蔵卿、
986参議、皇太后権大夫/左兵衛督/右衛門督/992権中納言/996大納言/按察使/1000正二位、
1001致仕/出家;病没、管弦歌舞:笛琴/蹴鞠に長ず、歌:960内裏歌合参加
- J3155 **時仲**(ときなか・北条ほうじょう、為時男/本姓;平) ?-? 鎌倉期中期武将、熙時の弟、従五上/近江・尾張守、
1317祖父時村の13回忌に詠歌:続千載2090、[時仲(;名)の通称]遠江四郎/武蔵四郎、
[生きて世にあらばと人を思ふにもけふこそ袖はなほしほれけれ](続千載;哀傷2090)
- U3178 **時中**(ときなか・金子かねこ、) 1810-1873 64 陸奥白川の国学者;富樫広蔭門、伊勢桑名住
[時中(;名)の別名/通称/号]別名;時睦/時盛、通称;鎌吉/登守/権太/権左衛門、
号;卍叟
時中(ときなか・谷) → 時中(じちゅう・谷、儒;南学) E 2 1 5 9
時中(ときなか・鏑木/八木) → 静修(しずさね・八木/鏑木/橘、国学者) U 2 1 0 1
時中(ときなか・名越) → 南溪(なんけい・名越なごや、藩士/儒者) I 3 2 8 3
時中(ときなか・天津) → 眞(まこと・天津あまつ、国学/神道) N 4 0 1 9
時中(ときなか・白井) → 匡之(まさゆき・白井しらい、医者/国学) Q 4 0 2 4
時中(ときなか・永山) → 外記(げき;通称・永山ながやま、藩士/歌) G 1 8 8 7
時仲(時中ときなか・松平) → 康爵(やすたか・松平まつだいら、藩主/歌人) B 4 5 8 7
- J3156 **時長**(ときなが・藤原/葉室、盛隆男/顕時孫) ?-? 民部権少輔、「平家物語」作者説?/従兄弟に行長、
叔母は平時忠室(安德帝乳母帥典侍)
- J3157 **時長**(ときなが・菅原すがわら) ? - ? 1360存 南朝廷臣;修理亮/左大弁、歌;新葉2首301/1148、

- [松風の音はきこえて高砂の尾上をこむる秋の夕霧](新葉集;四秋301)
- J3158 **辰長**(ときなが・滋岡しげおか) ? - 1759 代々大阪天満宮神主、連歌/詩人、
「御社頭連歌」「辰長朝臣詩集」著
- J3159 **時驕**(ときなが・鳥山とりやま) ? - ? 江中期;播磨姫路藩士/詩文を嗜む、
1777「蘭斎先生遺稿」編(伊藤蘭斎1728-76の遺稿)、
[時驕(;名)の字/通称/号]字;子驕、通称;銀十郎、号;虎淵
- J3160 **講修**(ときなが・江沢えざわ、茂公(太郎兵衛)男/本姓;源)1781-1860⁸⁰ 上総夷隅郡原村の郷士/名主、
書;熊木正応門、国学;大寂庵立綱門/漢学;弓削周防(春彦)門/歌;本間游清門、書画鑑定家、
「伊勢物語索萍抄」「野山の桜」「逸今昔物語」「百人一首諸説集覧」「江沢講修詠草」著、
「睦堂歌集」「睦堂詩集」「浪路の月」「ありそのいくり」「磯のいくり」著、詠歌;生涯1万余首、
1836師立綱13忌追善「浮草のよるべ」版行、外著多数;没後書齋に草稿が山積だったという、
[講修(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;久米之助、字;君習、
通称;潤左衛門/縫殿助ぬいのすけ/太郎兵衛、号;伊浜/睦堂/知可之屋、法号;俚讓院
- J3161 **聡長**(ときなが・東坊城ひがしほうじょう、権大納言五条ごじょう為徳男/本姓;菅原)1799-1861⁶³ 京の廷臣;
東坊城尚長ひさながの養嗣子、1822従三位/45参議/51権大納言/57正二位/東宮学士/文章博士、
1854武家伝奏;公武間の斡旋;親幕と非難を受け59永蟄居、1831「聡長卿関東参向記」、
「東坊城聡長日記」「宸翰及勅諭艸案」「東坊城聡長詩稿」「東坊城聡長卿公武御用日記」著
世良親王(ときながしんのう・ときよし)→世良親王(よながしんのう、後醍醐皇子・歌) I 4 7 1 9
- J3162 **時夏**(ときなつ・名越なごえ/家名;北条、長頼男/本姓;平)?-? 鎌倉後期武家;五位/鎌倉歌壇で活動、
続千載集1983、
[うらむべき世にしあらねばなかなか数ならぬ身ぞすみよかりける](続千載集;1983)
- U3132 **時夏**(ときなつ・岩橋いわはし/本姓;大江、時倚[1764-1816]5男)?-? 紀伊有田郡の神職;千田神社祠官、
国学;本居内遠門、広持ひろもちの弟、妻;長子まさこ(歌人)、
[時夏(;名)の初名/通称]初名;時章、通称;和介/主膳
- J3163 **時夏女**(ときなつのむすめ・名越なごえ/本姓;平)?-? 鎌倉後期鎌倉歌壇で活動、続千載集1732、
[思ひやるよそまでくるし七夕の暮待つほどのけふの心は](続千載;十六1732)
- J3164 **時就**(ときなり・大中臣おおなかとみ、師種男)?-1527 大中臣時茂の養子/春日社神主、
1491春日社神供奉行北郷牧務名主職/1525従五上、近衛政家家に出入り、連歌;新菟入
[時就(;名)の通称] 中東民部少輔
- J3165 **時成**(ときなり・横井よこい、夕流男)1702-78⁷⁷ 尾張藩士;犬山城主成瀬家の臣)/1749犬山奉行、
1750肝煎/72隠居、俳人;父門・露川・馬州門、武道にも長ず、1771「犬山旧事記」著、
[時成(;名)の通称/号]通称;弥三右衛門、号;松濤舎/琴流、法号;清照院
- J3166 **時成**(ときなり・若井わかい、姓;衣八、通称;清蔵)?-? 大阪宗是町の戯作者;洒落本/滑稽本作者、
1798「粹学問」99「野暮の枝折」1803「人間生涯好次第すきだい」著、
[若井時成(;号)の別号]別号;玉虹舎鬮麻呂ぎよくこうしやきゅうまる、屋号;釜屋
- J3167 **時成**(ときなり・豊ゆたか、別号;菊丸)?-? 江中期京の戯作者;絵咄本作者、菊雅の師、
1832「滑稽噺図会」、「本朝地震記」著
- V3170 **晨業**(ときなり・武田たけだ、載正としまさ男)1802-68⁶⁷ 尾張西春日井郡清洲村の酒造業、
載緒(載紹としつぐ)の弟/別家[新蔵家]を立てる、国学者;本居内遠・市岡猛彦門、
清洲宿村立合役/総年寄、藩御勝手御用達/村政に参加;治水事業に関与、
俳人;大鶴庵竹有だいかくあんちくゆう門;柯笛かてきと号す、
妻;とな、竹田(武田)晨正ときまさ(1834-1916)の父、
[晨業(;名)の別名/通称/号]別名;晨形ときかた、通称;新次郎/新蔵、
俳号;柯留/柯笛/加笠かりゆう
兄;載緒(載紹としつぐ・武田、長兵衛/騏六きろく、村立合役/俳人;暁台門;清洲俳壇先駆者、
息子;源三郎載周としちか)
- J3168 **言成**(ときなり・山科やましな/本姓;藤原、徳大寺公迪きんなり男)1811-70⁶⁰ 山科言知ときとの養子/廷臣;
1841従三位/45左衛門尉/67権中納言/68正二位、故実家、日記「言成卿記」、「改元記」著、
備忘書「筐底秘記」/「御献奉行記」「言成卿記」著、1834-36「山科言成雑備忘」外記録多数
- W3134 **時成**(ときなり・北条ほうじょう/本姓;中臣、時隣ときちか長男)1832-96⁶⁵ 常陸鹿島神宮祠官;父を継嗣、

国学;父(1802-77/小山田与清門)門、

[時成(;名)の字/通称/号]字;器伯、通称;新次郎/主書、号;春洲

時成(ときなり・寛ゆたかなる) → 寛時成(ゆたかなるときなり、狂歌) E 4 6 6 6

時成(ときなり・平野) → 深淵(しんえん・平野ひらの、藩士/儒者) N 2 2 4 6

時縄(ときなわ→ときつな) → 時縄(時綱ときつな・真野/藤波、神道) J 3 1 3 5

祝之丞(ときのじょう・松平) → 久貞(ひささだ・中川ながわ/松平、藩主) B 3 7 0 5

時之助(ときのすけ・本多) → 壺山(こざん・本多、忠如、藩主/詩人) G 1 9 6 0

時之助(ときのすけ・名越) → 時行(ときゆき・名越なごや/なごえ、民俗研究) K 3 1 2 9

J3169 土岐双馬(ときのそうば、姓;藤田、通称;専助、別号;叟馬) ?-? 江戸牛込住、狂歌作者、
1787「才蔵集」3首(:8. 195. 426)、
恋しさの山ほとゝぎす一言をことづてるまに跡形もなし] (才蔵集)

J3170 時叙(ときのぶ・源みなもと;宇多流、大原少将、雅信男) ?-? 道長の室倫子の兄、廷臣;右少将/出家、
赤染右衛門と恋

J3171 時信(ときのぶ・平たいら、知信男) ?-1149 平安後期廷臣;大学助/蔵人/武将;左衛門少尉、
正五下兵部権大輔、娘の滋子が高倉天皇生母のため没後左大臣・正一位追贈、
「時信記」著、歌;寂超「後葉ごよう集」入、
[水鳥のうきねの床につららみて心のほかによがれしにけり](後葉集;225)

時信の男: → 時忠(ときただ・平、武将/歌人) J 3 1 2 1

親宗(ちかむね・平、参議/歌人) 2 8 6 3

時信の女: → 時子(ときこ、清盛の室、1124-85) J 3 1 1 4

滋子(しばこ、後白河天皇皇后/建春門院、1142-76) C 2 1 1 9

外に;宗盛の室(?-1178)・内大臣平重盛の室・建春門院冷泉(?-1180)・建春門院帥

J3172 辰宣(ときのぶ・北尾きたお) ? - ? 江中期1744-81頃大坂周防町の絵師;美人画/武者絵、
絵本/挿絵多数、狂歌を嗜む、1748「絵本教訓草」51読本「古今辨惑実物語」52「絵本大江岸」
1753「絵本謡姿」57「絵本千代根艸」67「絵本武者宝」「絵本美女遊」78「女今川教文」外画多数、
[北尾辰宣(;号)の通称/別号]通称;銭屋仁右衛門、別号;仁翁じんおう/雪坑斎

J3173 時言(ときのぶ/ときごと・伊庭いば/初姓;野田) 1795-1854 60 下総葛飾郡椿村の国学・歌人;岸本由豆流門、
江戸住、黒川春村と交流、1831「豆々考」、「歌合年表」「作者類字」「作者小伝」著(多く散佚)、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[いづるより光を花とちらしつつ吉野の山を照らす月影](大江戸倭歌;秋860/山月)

[時言(;名)の通称/号]通称;朔次郎、号;桂園、法号;法眞院

齊信(ときのぶ・藤原) → 齊信(なりぶ・藤原、廷臣/詩歌) H 3 2 9 2

節信(ときのぶ・藤原) → 節信(としぶ・藤原、廷臣/歌人) N 3 1 2 8

節信(ときのぶ・喜多村) → 筠庭(いんてい・喜多村、国学) C 1 1 0 6

時信女(ときのぶのむすめ・平) → 時子(ときこ・平、清盛室) J 3 1 1 4

時信女(ときのぶのむすめ・平) → 滋子(しばこ・建春門院、後白河皇后) C 2 1 1 9

時舎(ときのや・久米) → 崧(いねお・久米くめ、国学/歌/神職) K 1 1 1 7

J3174 時範(ときり・平たいら、定家男) 1054-1109 56 母;藤原家任女、実親の父、廷臣;右少弁/因幡守、
1106右大弁/弁官/蔵人/檢非違使を兼任;三事兼帯、藤原師通の家司、1108出家、仏画絵師、
1104「因幡権守重隆家歌合」判/1094「結政録」、「時範記」著

J3175 時範(ときり・北条ほうじょう、時茂男/本姓;平) 1264-1307 44 鎌倉期武将;正五下/備前・遠江守、
左近衛将監/六波羅探題(北方)、歌人;1266將軍宗尊親王家当座御会参加、歌合主催、
夫木抄入集、勅撰2首;新後撰集(449/1539)、範貞の父、
[山風の吹くにまかせてうき雲のかからぬかたも降るしぐれかな](新後撰;六冬449)

J3176 時憲(ときり・秋元あきもと、修姓;菅/秋、本姓;菅原) ?-1783 もと越前間部家家臣、儒者;服部南郭門、
1782「小丘園しゅうきゅうえん集初編」、「春秋園図并詩」著、
[時憲(;名)の字/通称/号]字;習之、通称;辰之進、
号;小丘園しゅうきゅうえん、法号;正法一眼蔵心居士

J3177 時升(ときり・平松ひらまつ、時行男/本姓;平) 1740-1757 天逝 18歳 廷臣;1756少納言/侍従、
「平松家雑記」著、法号;高台院、時章の兄

- J3178 **時憲**(ときり・山本まもと、山本儀右衛門の養子)?-? 江後期因幡の暦算家;和算・天文・暦学に精通、1799山本家の養子;鳥取藩士/1800江戸藩邸出仕/04勘定所数類定加役/05幕府天文方;浅草天文台勤務、1819「天時詹言」27「開商算題術解」、「翦管詳解捷術」「造暦基表」外著多数、[時憲(;)名]の通称/号]通称;文之進、号;揆辰軒/緱山憲こうざんけん
- U3172 **時憲**(ときり・柏淵かむら、) 1759-1831 73 美濃多芸郡高田の国学者;富樫広蔭門、嘉一の父/静夫の祖父、
[時憲(;)名]の字/通称/号]字;聖卿、通称;才蔵、号;貫斎
晋帥(ときり/しんすい・菅波)→ 茶山(ちやざん・菅/菅波、儒/詩/教育者) 2 8 4 0
時升(ときり・新納) → 時升(ときます・新納にいろ、藩士/詩人) K 3 1 0 6
時述(ときり・筒井) → 時述(じじゅう・筒井、武士/連歌作者) D 2 1 9 3
時憲(ときり・近藤) → 南門(なんもん・近藤、儒者/刀剣鑑定) 3 2 3 9
常葉居(ときはきよ) → 麿雄(みかお・林はやし、国学者) 4 1 5 3
- J3180 **時春**(時治ときはる・北条ほうじょう/家名;塩田、義政男/本姓;平)?-? 1313存 武将、国時の兄弟、従五下、越後守、左近将監/引付頭人、歌人;拾遺風体集・柳風抄入、新後撰1104/玉葉727/2128、
[逢はぬ夜のつもるつらさはしきたへの枕のちりぞまづ知らせける](新後撰;恋1104)、
[雪のうちに春まちかねて咲く梅の花さへ急ぐ歳の暮かな](柳風抄;冬119/歳暮梅花)
[時春(;)名]の通称]通称;越後四郎、法名;道順、重貞の父
- J3179 **時春**(ときはる・岡田おかだ/万尾まお、万尾親長男) 1683-1755 73 丹波篠山藩士;母の生家岡田家継嗣、和算家;独学、算学/測量術の大家、藩の農業経済に貢献、門弟教育;松宮観山などの師、1722「規矩分等集」25「勸農固本録」/26「井田考」「井田図考」著、
[時春(;)名]の通称/法号]通称;六兵衛、法号;徳誉時春
- J3181 **時春**(ときはる・平松ひらまつ/本姓;平、時方男) 1693-1754 62 廷臣;従三位/1730出家、1709-12「関東下向日次記」著、時行の父
[時春(;)名]の法名/法号]法名;夕可、法号;憲章院
時治(ときはる・三井) → 秋風(しゅうふう・三井みつい、商人/俳人) I 2 1 2 3
- J3182 **晨彦**(ときひこ/あさひこ・松木まつき、別号;晨久、備彦ともひこ男/本姓;度会わたらい)?-1567 伊勢外宮禰宜;1526十禰宜/60従四下四禰宜、連歌:1542宗牧を迎え荒木田守武らと「何袋四吟百韻」、「晨彦引付」「外宮天文引付」「外宮引付」「天文正遷宮記」著
- J3183 **時久**(ときひさ・横井よこい、時延男) 1570-1643 74 武将/徳川家康の家臣;1600関ヶ原に出陣戦功、1614尾張藩主徳川義直の家臣;大坂冬夏両陣従軍/鉄砲頭/隼鷹匠頭、1603「横井作左衛門尉時久鷹書」著、
[時久(;)名]の通称/法号]通称;作左衛門、法号;一弓永張居士
- J3184 **時久**(ときひさ・交野かたの、西洞院にしとういん時良男) 1647-70 早世 24 交野時貞の養嗣、廷臣;内匠頭、1667正五下、1665「名所絵和歌集」著、
[時久(;)名]の通称/法号]通称;内匠頭たくみのかみ、法号;智通院
- T3119 **時久**(ときひさ・寺田てらだ) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
[へそ土器かはらけに三つの灯火ともび] (物種集/前句;ちつくりと勸請くはんじやう申す稻荷山、
臍土器;小型の土器/続古今集;686神祇・稻荷大明神神詠;
我われ頼む人の願を照らすとてうき世に残る三つの燈火ともび)
晨久(ときひさ・松木) → 晨彦(ときひこ/あさひこ・松木/度会、神職/連歌) J 3 1 8 2
- J3185 **時秀**(ときひで・源みなもと/家名;加地、時綱男/母;狩野為成女)?-? 鎌倉期武将/従五下備前守、法名;昌寂、歌人;頓阿と交流、勅撰2首;新拾遺1181/1534、
[思ひしれまた夕暮れのたのみだになくなくをしき今朝の名残を](新拾遺;十三恋1181)
- J3186 **時秀**(ときひで・鞍智くらち/家名;佐々木/本姓;源、時満[光]男)?-? 南北期武将、/佐々木道誉の甥、連歌:菟1句入、[さゝの枕は夢たにもなし/風まよふ深山の雲に旅寝して](菟玖波集1681)
[時秀(;)名]の通称] 佐渡四郎左衛門尉
- J3187 **時秀**(ときひで・西洞院にしとういん、後名;時当ときまさ、時長男/本姓;平) 1531-66 36 廷臣;右兵衛権佐、少納言/左兵衛督/1560従三位、歌;1554近衛家歌会始に参加、1560「時秀卿聞書」著
- J3188 **時英**(ときひで・横井よこい、孫右衛門時元男) 1637-1716 80 尾張名古屋藩士;1662家督;寄合/84用人、1685病のため辞職/93致仕、連歌/俳人;季吟門、也有の祖父、

連歌;「季吟野双両吟百韻」「湖春野双季吟三吟百韻」「琢如追悼季吟百韻」参加、
[時英(;名)の通称/号]通称;九十郎/孫右衛門/市郎左衛門/孫八、号;野双やそう

- J3189 **時秀**(ときひで・河村) ? - ? 1755存 江中期尾張の人、
「瑞龍院源正公(尾張2代藩主徳川光友)御行状略」著、「泰心院源誠公(3代綱誠)御行状」補訂
- J3190 **時英**(ときひで・渋川しづか、資矩男) 1720-9778 江戸の柔術渋川流4世;父門、父祖伝来の集大成、
1787久留米藩江戸邸出仕、1759「薫風雑話」60「柔術目彙」、「柔術修行目録」「柔術大成録」著、
[時英(;名)の通称/号]通称;伴五郎、号;勝斎/秩山、法号;台山院、加藤浜次郎の養父
- J3191 **時姫**(ときひめ・藤原ふじわら、中正女)?-? 藤原兼家の正室;道隆・道兼・道長らの母、
「蜻蛉日記」入;道綱母と歌贈答
- 3136 **時平**(ときひら・藤原ふじわら、関白太政大臣基経男/母;人康親王女) 871-90939 廷臣;890従三位、
891参議899左大臣、901宇多上皇重用の菅原道真を大宰府に排斥、妹中宮穩子が皇子出産;
外戚として一族の政界地位確立、907正二位/贈太政大臣正一位、律令政治堅持に尽力;
901「日本三代実録」撰修/927「延喜式」編纂を主導、歌人;古今集撰進主導、
「本院左大臣家歌合」主催、秋風集入、詩;「水石亭詩巻」、雑言奉和に詩入、
勅撰16首;古今(230/1049)後撰(14首545/752/755/759/808/821/830/902/933/1062以下)、
[女郎花秋の野風にうちなびき心ひとつを誰によすらむ](古今集;四秋230)、
[時平(;名)の通称]本院大臣ほんいんのおとど/中御門左大臣なみかどのさだいじん、歌舞伎では「しへい」、
弟;仲平・忠平(合わせて三平と称される)、
妹;穩子(醍醐天皇中宮/朱雀・村上天皇の母)、
子; 顕忠・保忠・敦忠・褒子 等
- J3192 **時広**(ときひろ・北条ほうじょう/家名;大佛/本姓;平、時房男or養子?) 1222-7554 鎌倉期武将:越前守、
幕臣;引付衆/評定衆、通称;相模七郎、宗尊親王近習歌人;1261宗尊親王家百五十番歌合参加、
家集「越前前司平時広集」、勅撰7首;続古今(782/1535/1818)続拾(1218)新後撰(1427)以下、
[鷺の山昔の春は遠けれどみのりの花はなほ匂ひけり](続古今;釈教782/霊鷲山りょうじゆせん)
- J3193 **時熙**(ときひろ・山名やまな、時義男/本姓;源) 1367-143569 但馬の武将:1389但馬守護/従四上、
宮内少輔/右衛門督、1389足利義満の命による同族山名氏清・満幸に攻略される、
守護職を失う、1391明德の乱で但馬守護職を回復/1401頃備後守護兼任/1414侍所所司、
1433息持豊に守護職を譲渡、歌人;足利義教歌会参加/1432正月歌会始・2月月次和歌参加、
1435正月歌会参/自邸で月次歌会主催/1429北野社奉納百首和歌に正徹を招聘(草根集)、
新続古今集664、
[風さゆるこの夜やいたくふけぬらん河音すみて千鳥鳴くなり](新続古;冬664)、
[時熙(;名)の幼名/号/法名]幼名;小太郎、号;大明寺/光明庵、法名;巨川常熙、
法号;大明寺爛眞常熙
- J3194 **時広**(ときひろ・平松ひらまつ/本姓;平、時量ときがず男) 1650-67夭逝18 母;飛鳥井雅章女、時方の兄、
廷臣;1656元服昇殿/66従四下、「詠歌」著
- U3186 **時寛**(ときひろ・河地かわち、) 1762-1852長寿91 讃岐香川郡の国学者、
[時寛(;名)の字/通称/号]字;子栗、通称;弥右衛門、号;楊洲/沈流亭
- W3102 **時弘**(ときひろ・西村にしむら、) 1820-189273 大隅熊毛郡の国学者、種子島家家老/用人、
[時弘(;名)の通称/号]通称;甚七、号;慰蝶
- 時広(ときひろ・横井) → 千秋(ちあき・横井、藩士/国学者/歌) 2801
時宏(ときひろ・正木) → 梅谷(ばいこ・正木まさき、藩士/儒者) B3624
- J3195 **時房**(ときふさ・藤原ふじわら、成経男/母;源致時女)?-? 平安期廷臣;蔵人/皇后宮大進/従五上、歌人;
1075陽明門院歌合/83女四宮侍所歌合/96家忠家歌合/91宗通家歌合/96家忠家歌合参加、
続詞花集2首入、勅撰2首;後拾遺1177/金葉557、
[梓弓さこそは反そりの高からめ張るほどもなくかへるべしやは](金葉集;九雑557)、
(反りの強い弓で張る前に君の許に返ってしまう意/藤原公実きんざねへ弓を返却する時の歌)、
(詞書;時房が公実の留守に弓をもらって帰ると、それは院の弓ゆえ返せと公実の使者あり)
- 3137 **時房**(ときふさ・万里小路までのこうじ、法号;建聖院、嗣房男/本姓;藤原) 1394-145764 廷臣;1416参議、
1419権中納言/25権大納言、45内大臣;46洞院実熙の異議で辞退/50従一位、武家・南都伝奏、
建聖院主徹堂恵通の兄、冬房・清浄華院主玄周の父、日記「建内記けんないき」、「放生会記」著

- J3196 **説房**(ときふさ・上杉うすぎ、朝憲男/本姓;藤原)?-? 南北期武将/正四下/中務大輔、氏房の父、
歌人;浄土寺僧正慈勝の主催歌合に参加、新千載1781、
[九重の雲の上にし夜ごろへて秋のとのみは月になれつつ](新千載;1781/慈勝歌合)
- J3122 **言総**(ときふさ・山科、言緒男/本姓藤原)1603-6159 廷臣;1625右中将/36非参議/43参議、
1644権中納言、1652権大納言/正二位、狂歌;行風「古今夷曲集」入
[上下かみしもにもてはやしつゝ味ふや花も実もあるさくら鯛とて](古今夷曲集一;桜鯛)
- J3197 **時芳**(ときふさ・原はら) ? - ? 江中期伊勢内宮神職;地祭物忌、
1741「内宮子良年中諸格雜事記」、「原時芳記」「伊勢山田記」「諸事控」著
- J3198 **時藤**(ときふじ・北条ほうじょう/本姓;平、時直男or清時男?)?-? 鎌倉後期武将、六位/左衛門尉、
歌人;関東歌壇で活動、新後撰1277、
[鳴くかたにまづあくがれて郭公越ゆる山路の末も急がず](新後撰;十七1277/羈中郭公)
- J3199 **時藤**(ときふじ・二階堂にかいどう/本姓;藤原、行藤男)?-? 鎌倉後期の武将、従五下備中守/1301出家、
建武1334-38頃再び活動、歌人/勅撰2首;玉葉2085・風雅1822、行敦の父、成藤の養父、
[このゆうべ浦の潮風吹き荒れていり海しろく浪さわぐなり](玉葉集;十五2085)
- 3135 **時文**(ときふみ/ときふむ・紀き、貫之男/母;藤原滋望女)?-996or997 廷臣;950蔵人/951近江少掾、
963大内記、従五上大膳大夫、歌人;951撰和歌寄人;梨壺5人、能書家、
万葉集訓点作業に参加/「後撰集」撰進に参加、但し後拾遺が初出、
977(貞元2)三条太政大臣頼忠家前栽歌合参加;講師(4-6)、
984円融院大井川御遊に「和歌序」奏上、985円融院子の日御遊の歌人、後葉集1首入、
勅撰5首;後拾遺(586/1085)続後撰(405)続古今(339/1872)、
[年を経て馴れたる人も別れにし去年ごは今年の今日にぞありける](後拾遺;哀傷586)、
(去年亡くした妻の命日に詠む)
[三条おほき大いもうち君(太政大臣)人々に歌よませけるに 草村の夜の虫を、
秋深くなりゆく夜半の虫のねは聞く人さへぞ露けかりける](続詞花;秋246)
- K3100 **時文**(ときふみ・横井よこい、別名;時理ときまさ、時英男)?-? 尾張名古屋藩士;1746家督/馬廻、
儒;松平君山門、1750世子徳川宗睦の供番/52表供番、1736「輔仁詩稿」編、「尾張年中行事」校、
[時文(;名)の幼名/字/通称/号]字;伯章、通称;作之丞/半之右衛門/作左衛門、号;岱宗
時文(ときふみ・山田) → 北海(ほっかい・山田やまだ、儒者) E 3 9 5 1
- K3101 **時雨**(ときふる・藤原ふじわら、四照男)?-? 967存 平安前期廷臣;従五位下/備後守、従四下河内守?、
歌;後撰集1074、
[あらたまの年は今日明日越えぬべしあふ坂山を我や遅れん]、
(後撰;恋1074/年末恋人に贈る歌)
- K3102 **時正**(ときまさ・藤原ふじわら) ? - ? 平安後期歌人、
金葉解(橋本公夏筆本)42(:撰政忠通家で詠)
[彦星のたぎつの波に舟出する心のうちを思ひこそやれ](新編国歌大観金葉解;秋42)、
(詞書;撰政左大臣家にて七夕の心をよめる)
時昌(ときまさ・藤原)と同一? → 時昌(ときまさ・藤原、歌人) K 3 1 0 3
- K3103 **時昌**(時政ときまさ・藤原ふじわら、肥後守盛房男)?-? 1138存 廷臣;従五下/大学助、
歌人;藤原忠通家歌壇の常連、1118-26忠通家歌合に4度参加、
金葉解(橋本公夏筆本)55/千載2首;305/794、
[神のすむ三笠の山の月なればかりそめにゐる雲だにもなし](金葉解;秋55)、
(詞書;撰政左大臣家にて山月といへることをよめる)
時正(ときまさ・藤原)と同一? → 時正(ときまさ・藤原) K 3 1 0 2
- K3104 **時政**(ときまさ・北条ほうじょう/本姓;平、通称;四郎、時方or時家男)1138-121578 母;伴為房女、
北条政子の父、源頼朝の挙兵を助け転戦;制覇後に7国の地頭/頼朝没後鎌倉幕府初代執権、
頼家を廃し娘政子と幕府の実権を掌握、のち出家、
守山連歌付句;古今著聞・犬子集入(沙石集では梶原景時作)
- K3105 **時昌**(ときまさ・大中臣おおなかとみ/家名;中東、時広男)1587-? 神職;春日社社司/1602従五上、
1612「春日下遷宮諸渡方日記」著
- T3173 **辰政**(ときまさ・黒田くろだ) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[みそめてしきのふの夢のほどもなく今宵逢はんと思ひかけきや]、
(大江戸倭歌;恋1435/逢恋)

- V3169 **晨正**(ときまさ・竹田/武田たけだ、農業ときなり[柯笛/1802-68]男)1834-1916 母;とな、載正としまさの孫、尾張西春日井郡清洲村旧家/商家、国学者;熊谷直好・植松茂岳・岡田高穎門、歌人・俳人、清洲総年寄/自邸に道場;農兵組織[非常守]組織、妻;神野金平女ゑい、竹田銀太郎・神野三郎(1875-1961)の父、巖実ごんじつの師、維新後;愛知県第三区長/清流吟社を組織;清洲歌壇を指導、清洲城跡保存会を結成、歌集;「かたみの梅」編/「竹屋詠哥」「標注百人一首夕話」著
[晨正(;)名)の通称/号]通称;長蔵、号;翠陰亭/竹廼舎/柯亭
時政(ときまさ・久津摩) → 季敏(すえとし・久津摩くづま、藩士/国学) I 2 3 4 4
時当(ときまさ・西洞院/平) → 時秀(ときひで・西洞院にしのとしいん、歌人) J 3 1 8 7
時理(ときまさ・横井) → 時文(ときぶみ・横井よこい、藩士/儒者) K 3 1 0 0
辰政(ときまさ) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師) 3 9 6 2
辰政(ときまさ・丸山) → 武雄(たけお・丸山、藩家老/歌/香道) O 2 6 2 9
晨正(ときまさ・竹田/武田) → 晨正(あきまさ・竹田/武田たけだ、国学/歌) H 1 0 9 6
- K3106 **時升**(ときまさ/ときり・新納にいり、時意男)1778-1865 88 母;村の喜平太実勝女の普知、薩摩藩士;1803蔵方目付/08江戸詰/19大坂詰/物奉行金方勤/一時退職、1850お由羅騒動に連座;徳之島に流罪、1854赦免;藩校造士館助教/使番、町奉行格兵具奉行、儒者、儒学・詩;向井滄浪・冢田大峯門、「滄浪詩集」「滄浪遺稿」編、1828「東行録」、「九郎談」、「随手抄録」、1862「遺契集詩部」「遺契文集」「弊政論」63「秉穂編」、「時升翁文章輯録」著、
[時升(;)名)の字/通称/号]字;伯剛、通称;次郎九郎/弥太右衛門/矢田右衛門、号;如泉/空翠/乾々道人
- K3107 **時見**(ときみ・名越なごえ/家名;北条、篤時男/本姓;平)?-? 鎌倉後期武家;越前守、公篤きんあつの兄 歌人、続千載集1238
[いとどまた涙は淵となりにけり逢瀬もしらぬ中河も水](続千載集;十二恋1238)
時通(ときみち・久我) → 通誠(みちとも・久我がが/源、内大臣/歌) C 4 1 0 2
時通(ときみち・河鱒/西洞院) → 時慶(ときよし・西洞院//平、廷臣/歌) 3 1 3 8
- K3108 **時光**(ときみつ・日野ひの/裏松、初名;栄光、資名すけな男/本姓;藤原)1328-67 40 廷臣;文章博士/蔵人頭、1358参議;右大弁/64正三位/67権大納言;40歳で没、持明院統近臣;後光厳天皇歌壇で活動、名子(西園寺実俊母)・宣子せんの兄弟、「時光卿記」著、
文和度大嘗会和歌参加/1357延文百首出詠、1367新玉津島社歌合参加、勅撰9首;新千載(1624)新拾遺(630/734/1030)新後拾遺(5首)、
[川舟の早瀬にむかふ綱よわみ心はひけど絶えぬべきかな]、
(新千載;恋1624/寄船恋/延文百首;2889)
- K3109 **時光**(ときみつ・平石ひらい、別名;時雋、平石弥右衛門繁清男)1696-1771 76 近江彦根藩士;1742家督、曆算家;中根元圭門、鉄砲薬煎合奉行/大津蔵目付役/1752蔵奉行、月食の算出法を考案、易理・歴史・軍学に通ず、1726「日本原志制田法」、「三推暦」「互用変換」「星極運暦」著、「新製日本天文分野図」「堯曆明辨」「井田明疑本朝考」著、左源次の父、
[時光(;)名)の通称/号]通称;作之助/久平治、号;深焉子、
- V3197 **時光**(ときみつ・長沼ながぬま、通称;光輔)?-1801 伊予松山藩士;家老、歌人
- U3197 **辰光**(ときみつ・菊池きくち、)1831-1879 49 常陸河内郡長竿村の文人;
国学・歌;伊能穎則ひでのり・神山かみやま魚貫なつら門、
[辰光(;)名)の通称/号]通称;真胡太郎、号;菅之舎
時光(ときみつ・藤原、時長父) → 盛隆(もりたか・藤原、廷臣) F 4 4 5 4
時睦(ときむつ・金子) → 時中(ときなか・金子かねこ、国学者) U 3 1 7 8
- K3110 **時棟**(ときむね・大江おおえ、匡衡男[養子])?-? 1048存 平安期漢学者;紀伝道を修学、文章生/大学允、1005外記/07(寛弘4)大外記、08従五下讃岐介/12安房守/20出羽守、大学頭/31正後下、1048(永承3)河内守、詩人;季綱「本朝続文粹」入/類聚古詩・新撰朗詠入、

☆時棟は;道長が路上で拾い大江匡衡に養わせたという、
☆袋草紙;征夷大将軍忠文が清原慈藤の詩に感涙の逸話を時棟が語る話入

- K3111 **時宗**(ときむね・北条ほうじょう、通称;相模太郎、時頼男)1251-8434 鎌倉幕府8代執権、
1274・1281再度元寇を防御、円覚寺を建立、
1276屏風絵「現存三十六人詩歌」企画(詩;日野資宣/歌;藤原光俊/絵;藤原伊信)
時棟(ときむね・一色) → 東溪(とうけい・前田/一色、儒/医) D 3 1 0 4
- K3112 **時村**(ときむら・北条ほうじょう/本姓;平、北条政村男)1242-1305討死64歳 母;三浦義村[重澄]女、
武将;鎌倉幕臣;従四下/陸奥・武蔵守/左京権大夫/執権連署/1260昼番衆/78六波羅探題、
嘉元3(1305)侍所所司北条宗方により討死、歌人;拾遺風体集入集、
勅撰14首;続拾遺(285/683/846)新後撰(173/326/766/1049/1255/1440)玉葉(2432)以下、
[むら雲のかかると見ゆる山の端をはるかに出でて澄める月影](続拾遺;四秋285)、
[時村(;名)の別名/通称]初名;時遠、通称;陸奥三郎/新相模三郎、政長の兄、為時の父、
行念(俗名;時村)とは別人;
時村(ときむら・北条、時房男) → 行念(ぎょうねん・北条、定家門歌人) C 1 6 8 0
- K3113 **時望**(ときもち・平たいら、惟範男/母;人康親王女)877-93862 平安中期廷臣;修理大夫/蔵人頭/右大弁、
930参議/937従三位中納言、叡山善学院創建、歌人;後撰615、伊望の兄、珎材の父、妻も歌人、
[かくばかり常なき世とは知りながら人をはるかに何たのみけん](後撰集;恋615)
(詞書;文通はしける女の異人に逢ひぬと聞きて遣はしける)
参考 → 時望妻(ときもちのつま・平、後撰歌人) K 3 1 1 6
- X3151 **時用**(ときもち・赤染あかぞめ、)? - ? 平安期廷臣;941(天慶4)常陸国檢交替使主典明法生、
のち右衛門少志/右衛門志(尉)/大隅守、
檢非違使の時;平兼盛と赤染衛門の母との女子をめぐる相論の沙汰する間に、
赤染の母と密通し同棲(;袋草紙入)、
のち結婚/右衛門尉のとき女子が倫子女房;赤染衛門名で出仕、のち赤染母と離婚?
- K3114 **時庸**(ときもち・横井よこい/修姓;井、横井時信男)1662-170847 名古屋藩士;1683家督;寄合、
1687書院番頭/88用人/94寺社奉行/98藩主命で「尾張風土記」撰述の総奉行、
1698「熱田元禄注進記」著、
[時庸(;名)の通称/号]通称;助之進/藤兵衛/十郎左衛門/天遊、号;活囊子、法号;文忠院
- K3115 **時庸**(ときもち・清水しみず、別名;豊輝、山名時尚男)1712-7261 清水豊秋の養嗣子、幕臣;1725小普請、
大番/組頭、神道/兵学に通ず、「兵器或問」著、時良の父、
[時庸(;名)の通称/神号]通称;又三郎/七之助/佐兵衛、神号;八柱神靈
時茂(ときもち・北条) → 時茂(ときげ北条、武将/歌人) J 3 1 1 7
- K3116 **時望妻**(ときもちのつま・平たいら)? - ? 939存 平安中期歌人;夫[877-938]への哀傷歌、後撰1391、
[別れにし程を果てとも思ほえず恋しきことの限りなければ](後撰;哀傷1391/一周忌頃)
- K3117 **時元**(ときもと・北条ほうじょう/家名;名越なごや/本姓;平、時国男)1242?-1333自害92? 関東の武将、
土佐守、1333新田義貞の討幕軍に侵攻され父と鎌倉東勝寺で自害、
歌人;柳風抄/続現集入集、
勅撰6首;新後撰(1432)玉葉(2137)続千載(231/641/1444/1565)、法名;紹実、貞資の兄弟、
[にぎり江の芦まに宿る月見ればげに住みがたき世こそ知らるれ](;新後撰;1432)
- K3118 **時元**(ときもと・小槻おづき/大宮、初名;頼敏、沢民部少輔男)1471-152050 小槻長興の養子/廷臣;
1480大蔵少輔;時元と改名/94左大史、1501算博士/正四下、「小槻時元記」「下請符集」著
時元(ときもと・中原) → 安性(あんしょう、平安歌僧) C 1 0 1 2
時元(ときもと・林/出雲寺) → 出雲寺和泉掾(2世いずみいずみのじょう、書肆) C 1 1 3 8
- K3120 **時盛**(ときもり・藤原ふじわら、義景[1210-53]男)?-1285 鎌倉期武家;左衛門権少尉/1276出家;高野入、
歌;1261宗尊親王百五十番歌合参加、通称;四郎、頼景・泰盛の兄弟、時長(1285自害)の父、
[行く先に見えつる雲や芳野山今来て手折る桜なるらん](宗尊百五十番合;廿七番左)
- K3121 **時存**(ときもり/ときあり・坂さか、矢島半左衛門直之3男)1679-175981 周防山口の生、儒者;僧行海門、
1693上京/帰国後;坂時澄の養嗣子;長門萩藩士;1706相府右筆/二度辞職;1723復職、
1710(宝永7)家督嗣、当役手元役;民政・財政に尽力、
1718(享保3)藩命で山県周南に協力し藩校明倫館の創設に尽力、代官/矢倉方、

1747(延享4)郡奉行、1748(70歳)隠居；

藩主毛利重就の招きで長沼正勝・山県昌貞と共に藩政改革合議；「三老上書」作成、
1758(宝暦8)藩主命で財政再建策7ヶ条を上書提案；藩の財政再建に転機をもたらす、
「塵抄」「遺塵抄」「本朝官位相当図」「坂翁夜話」著、時連・高杉春善(春信の養子)の父、
[時存(；名)の字/通称]字；子洪、通称；九右衛門/九郎左衛門

時盛(ときもり・安達) → 道洪(どうこう；法名、武将/幕臣/歌人) D 3 1 9 8

時盛(ときもり・金子) → 時中(ときなか・金子かねこ、国学者) U 3 1 7 8

時弥(ときや・長沢) → 赤水(せきすい・長沢ながさわ、名；茂泰) K 2 4 2 6

K3122 時安(ときやす・横井よこい、通称；兵吉/伊織助、時泰男)?-1647 名古屋藩士/1609兄時家没で家督、
家康・忠吉・義直に出仕、1631「養隼方」著

W3110 時保(ときやす・服部はつとり、) 1691-1772?82 伊勢松坂住の紀州藩士、和学者、
時中の父/中庸なかつねの祖父、
[時保(；名)の通称]義中/三右衛門

K3123 時保(ときやす・平松ひらまつ/本姓；平、法号；徳林院、時章ときあき男) 1802-5251 母；勸修寺経逸女、廷臣；
兄時門を嗣ぐ、1838従三位/43正三位、1832「新嘗祭豊明節会参仕之忘備」著

U3187 時雍(ときやす・河地かわち、) 1832-189160 讃岐香川郡の国学者、
[時雍(；名)の字/通称/号]字；寿民、通称；鹿次郎、号；菊園

時安(ときやす・横山) → 玄周(げんしゅう・横山よこやま、鍼医) J 1 8 6 3

時保(ときやす・岩橋) → 時倚(ときより・岩橋いわはし/大江、神職/国学) U 3 1 3 1

時康(ときやす・親王) → 光孝天皇(こうこうてんのう、歌人) 1 9 1 0

時康(ときやす・西洞院にしどういん) → 時直(ときなお・西洞院、歌学/連歌) J 3 1 5 2

K3124 凶牛(とぎゅう) ? - ? 俳人；東潮門、1696「留守見舞」大魚らと共編

K3125 渡牛(とぎゅう・風木庵) ? - ? 江中期京の俳人；不夜庵社中、
1772几董「其雪影」/76維駒「五車反古」入、94西行谷で剃髪隠棲；記念賀集「三都六歌仙」編、
[鮎ふぐに此の命のがれて初鯉はつがつを](其雪影；307/冬の河豚に当たらず初夏の鯉を食べる)

都牛(とぎゅう) → 嬰夫(えいぶ；初号、俳人) D 1 3 3 4

十牛庵(とぎゅうあん) → 曲川(きょくせん・山内、商家/俳人) P 1 6 1 6

K3126 時行(ときゆき・北条、高時男)?-1353斬殺 武将/鎌倉幕府滅亡後諏訪に逃亡/
1335中先代乱を興し鎌倉を攻略/尊氏に敗れ捕虜

K3127 言行(ときゆき・山科まじな/本姓；藤原、藤谷為賢男) 1632-65客死34 母；中御門宣衡女、
山科言総の養子、廷臣；1659従三位/60参議/61左衛門督兼任/63正三位、下野石橋宿で客死、
1649-52「言行卿記」著、
[言行(；名)の法名/法号]法名；性言、法号；竜光院

K3128 時行(ときゆき・平松ひらまつ/本姓；平、時春男) 1714-8673 母；交野時香女、廷臣；1741従三位、
1761権中納言/76正二位、歌人/画を嗜む、1758「放生会私記」60「東路之記」65「明和記」著、
「時行詠草附詩」「百首和歌」「時行私記」「詠草」外著多数、法号；自性清浄院、
時升・時章の父

K3129 時行(ときゆき・名越なごや/なごえ、初名；時敏) 1819-8163 薩摩藩士；代々寄合格で物頭職、武術家；槍術、
1849お由羅騒動に連座；1850奄美に配流/56赦免；島中絵図書調方、奄美大島の民俗研究、
1855帰郷/地頭・寺社奉行、歌・画・書を嗜む、「遠島日記」著(在島中の見聞記4冊現存)、
絵入民俗記「南島雑話」編、「常不止集」「続常不止集」、1845「岩瀬之玉」46「嘉多美農水」著、
1861-67「名越時敏日史」、「鶴戸詣道の記」「見聴雑事録」「群書合輯」著、「群書輯録」編、
[時行(；名)の字/通称/号]字；棲鸞、通称；源太郎/兵部/泰蔵/左源太/時之助、号；欽斎

K3130 言行(ときゆき・倉地くらち) ? - ? 江後期1844-60頃の歌人、「詠草」(5千首詠)

時之(ときゆき・松枝) → 力蔵(りきぞう・松枝まつえだ、藩能楽師) 4 9 5 6

時行(ときゆき・柿岡) → 林宗(りんそう・柿岡かきおか、儒者/教育) K 4 9 6 1

斗興(ときょう・高平) → 斗興(とこう・高平たかひら、俳人) L 3 1 7 0

都響園(ときょうえん) → 市人(いちんど・浅草庵、狂歌) 1 1 1 8

都響園(ときょうえん) → 浅草庵守舎(2世あさくさあん・もりや、狂歌) E 1 0 3 2

- K3131 **杜旭**(とぎよく;) ? - ? 江前期名古屋の俳人;露川系?、1695撰集「ゆすり物」編
都曲園(とぎよくえん) → 河鳥(かちよう)・都曲園、田口/向後、狂歌) N 1 5 1 5
- 3138 **時慶**(ときよし・西洞院にしとういん/本姓;平、一時;河緒姓、安居院僧正覚澄男) 1552-1639 88
安桃江戸期;1564飛鳥井雅春の猶子/64季富後中絶の河緒(かひた)家を再興、
1575時秀没後の西洞院家を再興、1575右衛門佐/94従三位/1600参議/01遠江守、
1611右衛門督/従二位、20致仕/24出家、
歌人;聖護院宮・近衛家・飛鳥井家の歌会に参加、天正内裏歌合参加、「春日同詠百首倭歌」、
家集;「西洞院時慶詠草」「前参議時慶卿集」、「時慶卿百首」「時慶詠草」著、
「石動山古縁起」「夢後記」「時慶卿記」著、
聯句・連歌;1598慶長三年和漢聯句/1614慶長十九年初何百韻等多数、
[時慶(;)名)の別名/号/法名]別名;公虎(;)初名)/時通、号;松庵/木(;)一字名)、法名;円空
- W3147 **時義**(ときよし・松岡まつおか、敬時男) 1706-79 74 陸奥仙台藩士;奉行/禄千石、国学者、
安永疑獄で一時軟禁/解放、時宜の父、
[時義(;)名)の通称/号]通称;長門/朴翁、号;白水軒
- K3132 **時良**(ときよし・清水しみず、時庸ときもち男) 1740-1796 57 幕臣;1764書院番、弓術に秀でる、
1772父の跡継嗣/1796西丸徒頭;没、「箴矢からみ伝書」著、
[時良(;)名)の通称/神号]通称;平三郎/佐兵衛、神号;莊武神靈、時親の父
- U3140 **時賞**(ときよし・小谷おたに、通称;勘解由) ?-? 江中・後期;紀伊和歌山藩士、
歌;芝山持豊(1742-1815)門
- U3188 **時俣**(ときよし・河地かわち、時寛ときひろ男) 1786-1855 70 讃岐香川郡の国学者、
[時俣(;)名)の字/通称/号]字;伯遂、通称;弥左衛門/九郎次、号;星溪/鶴山
- T3174 **時宜**(ときよし・細田ほそだ/本姓;藤原、名;ときのお?・ときまさ?) ?-? 江後期;歌人、幕臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[かわくまもあらぬ袂を今宵逢ふうれしさにさへぬらしつるかな](大江戸倭歌;恋1438)
- U3141 **時宜**(ときよし・小谷おたに、) 1809-1879 71 京の吉田家の家人、歌人;香川景樹門、
[時宜(;)名)の通称/号]通称;木工、号;青斎
- W3148 **時懋**(ときよし/ときしげ・松岡まつおか、通称;彦郎) 1826-83 58 常陸鹿島郡の鹿島神宮祠官、
下総香取神宮祠官、維新後;教部省出仕;出雲大社少宮司/東京亀戸(かめいど)神社祠官、歌人
時芳(ときよし→ときふさ・原) → 時芳(ときふさ・原、神職/記録) J 3 1 9 7
世良親王(ときよししんのう) → 世良親王(よながしんのう、後醍醐皇子・歌) I 4 7 1 9
- K3133 **齊世親王**(ときよししんのう/はるときしんのう、宇多天皇皇子) 888-927 40 母;橘広相女、妃;菅原道真女、
三品兵部卿/上総太守、901道真左遷後真言宗仁和寺に出家、908父宇多法皇より灌頂を受、
仁和寺観音院を開く;千手観音を安置、906益信没後に円城寺住、源英明(ふさあき)・庶明の父、
「慈覚大師伝」「金剛頂護摩鈔篇目」「胎藏曼荼羅指事」「大日経対註」/922「不灌鈴」外著多数、
[齊世親王(;)名)の法諡/号/通称]法諡;眞寂、号;甘露金剛/遍明、
通称;法三宮/円城寺宮/円城王子
- K3134 **時頼**(ときより・北条ほうじょう、時氏男/本姓;平) 1227-63 37 母;松下禅尼(安達景盛女)、経時の弟、武将、
正五下/左近衛将監/相模守/1246家督継嗣;鎌倉幕府五代執権、前將軍藤原頼経を追放、
三浦・千葉氏を滅亡させ独裁政権確立、外様御家人を擁護/領家・農民・庶子等弱者を救済、
1256赤痢で執権を長時に譲り出家/回復し後見政治、諸国遍歴し民情視察;「鉢の木」伝説、
「直心集」「最明寺殿庭訓之書」「西明寺殿教訓書」/1262「最明寺殿教訓仮名式目」著、
徒然草;215・216段に儉約質素な生活の逸話入、
[時頼(;)名)の幼名/通称/号]幼名;戒寿丸、通称;五郎/最明寺殿、覚了房道崇(;)入道号)
☆最明寺は時頼の別宅でのち出家後に持仏堂を改めて寺とす、
母 → 松下禅尼(まつしたぜんに、薰育説話) J 4 0 7 6
- J3146 **時頼**(ときより・齋藤さいとう、通称;滝口入道たきぐちにゅうどう、以頼もちより男) ?-? 平安後期武士;平重盛の家臣、
13歳で蔵人所滝口武士、徳子(建礼門院)の雑仕横笛に恋慕;
父の諫めに背き19歳嵯峨往生院で剃髪、横笛の訪問で心乱れ高野山清浄心院で修行、
横笛が法華寺で尼となったことを聞き贈歌;

[剃るまでは 恨みしかども梓弓 真まとの道に 入るぞうれしき]、
横笛の答歌；[剃るとても 何か恨みん梓弓 引き止むべき 心ならねば]、
横笛は奈良法華寺で没；入道は一層修行に励み[高野の聖]と称さる、
平維盛の師となり出家から熊野入水まで付添う(平家物語；卷十横笛/高野卷/維盛入水)、
後世高山樗牛の「滝口入道」に潤色、

参照 → 横笛(よこぶえ) J 4 7 6 2

U3131 時倚(ときより・岩橋いはいし/本姓；大江、)1764-1816⁵³ 紀伊有田郡の神職；須佐神社神主、
国学；本居宣長門、広持ひろもち・時夏の父、
[時倚(；名)の初名/通称]初名；時保、通称；雅楽うた/城之助

時倚(ときより・畑はた) → 銀鷄(ぎんけい・平亭、藩医/狂歌/戯作) D 1 6 9 5

時頼(ときより・葉室) → 頼親(よりちか・葉室はむろ/藤原、権大納言) J 4 7 0 0

K3135 常(ときわ・源みなもと、通称；東三条左大臣、嵯峨天皇皇子)812-854⁴³ 廷臣；814源賜姓/831従三位、
837左近衛大将/844左大臣/850正二位、「日本後紀」「令義解」の撰に参画、贈一位、
上表文三篇、詩；経国入/歌；古今36、
[鶯の笠に縫ふてふ梅の花折りてかざさむ老いかくるやと](古今集；春36)

K3136 常盤(ときわ・柚木ゆのき、惟郷男)1763-1809⁴⁷ 近江蒲生郡下迫村の眼科医、本草学；小野蘭山門、
木村兼葭堂異斎いんさい・山本亡羊と交流、1801「冬虫夏草写生」「夏草冬虫之図」、「雑草譜」著、
[常盤(；通称)の幼名/名/法号]幼名；常盤太郎、名；季穀、法号；随順院

K3137 常盤(ときわ・宮地みやぢ、本姓；菅原)1819-1890⁷² 土佐土佐郡の潮江天満宮神主、
国学・歌；鹿持雅澄門、画を能くす；師の肖像画を描く、堅磐かきわ(水位/1852-1904)の父、
神道を究め少名彦那神を奉ず；土佐高山手箱山を開/息子堅磐と共に宮地神仙道を主唱、
「万葉品物図絵」画、

[常磐(；名)の別名/通称]別名；文重/重房/大重、通称；佐之助/布留部/上野介

常磐(ときわ) → 磐根(いね・阿部・阿閉あべ、国学者) I 1 1 4 3

常磐(ときわ・天津) → 孟雄(たけお・天津あまつ、神職/国学者) V 2 6 2 8

常磐(ときわ・高子) → 大士(おおこと・高子たかこ/土佐、孟雄の門弟/神職/国学者) D 1 4 9 4

常磐(ときわ・山川) → 浩(ひろし・山川やまかわ、藩士/軍人/官僚) J 3 7 6 7

常盤井其堂(ときわいきどう) → 其堂(きどう・常盤井ときわい、歌舞伎作者) L 1 6 5 9

常盤井殿(ときわいどの) → 後深草天皇(ごふかくさてんのう、持明院統の祖) D 1 9 6 7

常盤井入道前太政大臣(ときわいのにゅうどうさきのだいじょうだいじん；続拾遺以下)

→ 実氏(さねうじ・西園寺) 2 0 3 2

常盤井入道相国(ときわいのにゅうどうしやうこく) → 実氏(さねうじ・西園寺、歌人) 2 0 3 2

常盤井宮恒明親王(ときわいのみやつねあきらしんのう) → 恒明親王(つねあきらしんのう、歌人) B 2 9 5 6

常盤井宮全仁親王(ときわいのみやまさひとしんのう) → 全仁親王(まさひとしんのう、恒明親王男/歌) G 4 0 8 0

常盤園(ときわえん) → 明子(あきこ・南部、歌/紀行) D 1 0 3 6

常盤園(ときわえん) → 松濤(しょうとう・江川えがわ、儒者/歌人) L 2 2 1 3

常盤園(ときわえん) → 重直(しげなお・尾古おこ、神職/歌人) N 2 1 7 0

常盤下(ときわか) → 一青(いっせい、俳人) H 1 1 4 3

常盤居(ときわきよ・林) → 罔雄(国雄くにお・林、国学者/狂歌) C 1 7 6 5

常盤軒(ときわけん) → 安平(やすひら・杉本すぎもと、国学者) G 4 5 0 4

T3166 常磐子(ときわこ・松平まつだいら) ?- ? 江後期；歌人、松平能登守(乗美のりよし?)の室、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[あかつきの寝覚めの枕そばだてて聞くもうれしき初しぐれかな]、
(大江戸倭歌；冬1067/寝覚初時雨)

☆乗美(1791-1845/美濃岩村藩5代藩主)の正室なら；

朽木倫綱(ともつな1767-1803/丹波福知山9代藩主)の3女

常盤窓竹和(ときわそうちくわ) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7

常磐津文字太夫(初世ときわづもじだゆう) → 文字大夫(初世もじだゆう・常盤津) 4 4 0 4

常磐津文字太夫(4世ときわづもじだゆう) → 文字大夫(4世もじだゆう・常盤津) B 4 4 2 0

常磐津若太夫(ときわづわかだゆう) → 扇橋(せんきょう・船遊亭、音曲咄家) F 2 4 1 3
 常磐丹後守(ときわたんごのかみ) → 為忠(ためただ・藤原、常磐に別荘/歌人) G 2 6 9 5
 常磐道林(ときわどうりん) → 弘方(ひろかた・近藤こんどう、商家/歌人) J 3 7 6 0
 常磐三寂(ときわのさんじやく) → 大原三寂(おおはらさんじやく、寂念・寂超・寂然)
 常盤舎(ときわのや) → 繁樹(しげき・山内やまうち、酒造業/国学) C 2 1 1 3
 常盤舎(ときわのや・林) → 罔雄(くにお・林、国学者/狂歌) C 1 7 6 5
 常盤舎(ときわのや・椿) → 仲輔(なかすけ・椿つばき、国学/歌) D 3 2 8 7
 常盤舎(ときわのや・杉浦) → 比隈満(ひくまると・杉浦、神職/国学) 3 7 4 9
 常盤舎(ときわのや・堀家) → 政富(まさとみ・堀家ほりけ、神職/国学者) M 4 0 9 1

K3138 斗唸(とん) ? - ? 江中期山城伏見の俳人;蕪村門、
 1776几董「続明烏」2句入、
 [短夜や朝めし出来て物しづか](続明烏;234/夏の朝の一時)

K3139 とく ? - ? 江中期京の女流俳人、1772几董「其雪影」1句入、
 [行く年や河原かはらで積もる茎の石](其雪影;382/茎漬用に河原の石を見積もる楽しみ)

K3140 徳(とく・片岡かたおか/本姓;源、) 1785-1856 72 備前岡山藩士;船手組/国学;藤井高尚門、
 歌人、1821「詞の花かたみ」/21「文あはせ」編、
 [徳(;名)の別名/通称]別名;徳風、通称;徳四郎

徳(とく・杉林) → 雲鶴(うんかく・杉林すぎばやし、書家) D 1 2 6 4
 徳(とく・関) → 克明(かつあき・関せき、書家/儒者) N 1 5 2 0
 徳(とく・市川) → 霞洞(かどう・市川いちかわ、儒者) O 1 5 2 1
 徳(とく・平元) → 謹斎(きんさい・平元ひらもと、藩士/儒/軍事) J 1 6 0 0
 徳(とく・橋本) → 伯寿(はくじゅ・橋本、蘭医) D 3 6 2 1
 徳(とく・細木) → 香以(こうい・細木ほそき/さいき、撰津国屋、俳) 1 9 7 0
 徳(とく・油井) → 大壑(たいがく・油井ゆい、儒者) J 2 6 4 6
 恵(とく・合田) → 華陽(かよう・合田あいだ、漢学者) P 1 5 5 5
 恵(とく・丹羽) → 思亭(しいてい・丹羽にわ、儒者/家塾教育) V 2 1 1 8
 恵(とく・影田) → 蘭山(らんざん・影田かげた、藩儒/歌人) C 4 8 3 5
 解(とく・著作堂) → 馬琴(ばきん・滝沢、曲亭、読本) 3 6 0 7
 特(とく→ことい) → 信友(のぶとも・伴ぼん、藩士/国学者) 3 5 1 0
 篤(とく→あつし) → 半邨(はんそん・三木みき、藩士/儒者) I 3 6 3 6
 篤(とく/あつし・近藤) → 西涯(せいがい・近藤こんどう、藩儒者) 2 4 8 7
 篤(とく/あつし・加門) → 恭輔(きょうすけ・加門かもん、医者) O 1 6 1 7
 篤(とく・高橋) → 竜蔵(りゅうぞう・高橋たかはし、儒者/詩人) F 4 9 0 6
 篤(とく・高尾) → 篤太郎(とくたろう・高尾たかお、藩士/儒者) L 3 1 1 8
 篤(とく/あつし・久米) → 習斎(しゅうさい・久米くめ、詩人) X 2 1 3 4
 篤(とく/あつし・永井) → 嘉長(よしなが・宮内/清原/永井、神職/和漢学) F 4 7 3 1
 篤(とく・向山) → 誠斎(せいさい・向山むこうやま、幕臣/歌人) B 2 4 6 2
 篤(とく・大鐘) → 篤(あつし・大鐘おおかね/印田、商家/国学) H 1 0 2 2
 篤(とく・大和) → 篤(あつし・大和だいわ、藩士/歌人) H 1 0 9 2
 都矩(とく・北見) → 星月(せいげつ・北見きたみ、和算家/医者) H 2 4 9 7

K3141 得庵(徳庵とくあん・菅かん;一時姓、姓;菅原/土師/鎌田、道西男) 1581-1628 殺害 48 播磨蒲田の生、
 1604上京/医;曲直瀬まねせ道三門/儒;林羅山・藤原惺窩門/歌;僧乘阿門、博学;京に開塾、
 儒学に専念、蔵書家、1628盗賊に殺害(門弟安田安昌による斬殺説あり;虐待の恨み?)、
 「惺窩文集続編三卷」編、「稽古録」「忠鏡録」著、「靈梅録」「登雲四書」「同理要言」著、
 「日本考」「膳所紀行」、1624「土峰録」著、由益ゆうえきの父、
 [得庵(;号)の名/字/別号]名;玄同はるとも/玄洞、字;士徳/子徳、別号;生白/生白堂

K3142 篤庵(とくあん・高木たかぎ、名;良篤/守業、別号;堅苦斎、高木推之叟男) 1704-83 80 名古屋儒者:
 小出侗齋門、「閑居古今話」著、父は俳人

K3143 得庵(とくあん・市河いちかわ、名;三鼎、遂庵男) 1834-? 加賀藩主前田斉泰に出仕、書家、
 1851「米菴先生百舌」編、

[得庵(；号)の字/通称]字；鉉吉、通称；小右衛門/周吾

- 得庵(とくあん・片山) → 恒斎(こうさい・片山/杉野、藩士/儒者) F 1 9 0 3
徳庵(とくあん・松永) → 永種(えいしゅ・松永、貞徳父、連歌師) 1 3 3 1
徳庵(とくあん・藤井) → 社楽(しゃらく・藤井ふじい、俳人) M 2 1 9 8
徳庵(とくあん・加賀美) → 此一(いち・加賀美/加々美かがみ/於曾おそ、藩士/俳人) P 2 1 5 8
徳安(とくあん・飯岡) → 義斎(ぎさい・飯岡いのおか/篠田、儒者/心学) K 1 6 5 1
独庵(とくあん；号・玄光) → 玄光(げんこう；法諱・独庵、曹洞僧) B 1 8 7 7
独庵(とくあん) → 超波(超巴/長巴ちやうは・清水、俳人) J 2 8 6 6
毒庵(とくあん→ぶすあん) → 義府(よしもと・堤つみ、医者/歌人) N 4 7 9 4
得意庵(とくいあん・藤野) → 春淳(しゅんじゅん・藤野ふじの、香道家) K 2 1 9 8
徳一郎(とくいちろう・稲葉) → 大壑(たいがく；号・稲葉いなば、藩士/儒者) B 2 6 1 6
徳一郎(とくいちろう・岡田) → 眞澄(ますみ・岡田、幕府儒員/国学/歌) D 4 0 0 2

K3144 徳一(得一/徳溢とくいっ・会津、藤原仲麿男?)?-?会津没 平安前期興福寺法相僧；修円門、東国下向、筑波山中禅寺創建/会津恵日寺・勝常寺開、815空海より真言弘通の依頼；「真言宗未決文」編、817～最澄と三一権実論争展開、「法華要略」「法相了義燈」「慧日羽足」著、彫刻；自刻像あり

- 得一(とくいっ・西村) → 遠里(とおさと・西村にしむら、商家/暦算家) I 3 1 5 9
得一(とくいっ・神岡) → 竹嶼(ちくしょ・神岡かみおか、医者/詩人) D 2 8 1 9
徳一(とくいっ・深見) → 要言(ようごん・深見ふかみ、日蓮研究者) 4 7 8 8
徳一(とくいっ・大神) → 茂興(しげおき・大神おのが/大三輪、神職) N 2 1 7 3
独一(とくいっ；号) → 道契(どうかい；法諱、曹洞僧) C 3 1 0 5
得一館(とくいっかん) → 太沖(たちゅう・西村/養谷、暦算家) R 2 6 4 8
得一堂(とくいっどう) → 公教(こうきょう；法諱、真宗僧/茶・歌人) I 1 9 3 2
得一堂(とくいっどう) → 遠里(とおさと・西村にしむら、商家/暦算家) I 3 1 5 9
徳胤(とくいん・鐔木) → 溪庵(けいあん・鐔木かぶらき、絵師) F 1 8 2 3
徳胤(とくいん・箕浦) → 筋山(せつざん・箕浦みのうら、藩士/儒者) L 2 4 0 6
篤陰(とくいん・木村) → 篤陰(あつかげ・木村きむら、遊女屋/国学) H 1 0 4 3

K3145 徳雨(とくう・別号；衛足堂/北丘野人)1696?-? 江戸の俳人；沾徳門、1735俳論「魚のあふら」著(40歳頃?)

K3146 徳雨(とくう・梅田うめだ、別号；造化庵、芳隆男)1702-8180 下総関宿久能の医者、俳人；1744初世祇徳門、古学庸道の教えを修得、1775「古学要談」63「松島遊記」編、71「民家教訓袋」著

- 徳雲(とくうん・宮南) → 耕斎(こうさい・宮南みやなみ、書家) I 1 9 8 8
徳雲院(とくうんいん；法号) → 行信(ゆきのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人) F 4 6 2 1
徳栄(とくえい・松永) → 国華(こくか・松永まつなが、藩士/儒/国学) G 1 9 5 4
徳蔵(とくえい・野口) → 年長(としなが・野口/藤原、国学者) N 3 1 2 1
徳栄軒(とくえいけん) → 信玄(しんげん・武田、武将/戦国大名) D 2 2 9 8
詠史先生(とくえいしせんせい) → 春望(はるもち・羽栗はぐり/和栗、儒/国学) K 3 6 5 7

K3147 徳右衛門(とくえもん・小嶋こじま、水雲堂/孤松子)?-? 江戸前期京の書肆、錦小路室町/のち新町通住、1685「京羽二重」(林鴻の俳書とは別)、1689「京羽二重織留」著(；板元は小嶋弥三右衛門)、のち水雲堂の号と前二著の板株は橘屋政右衛門に譲渡

K3148 徳右衛門(とくえもん・秋田屋あきたや、姓；浅井)?-? 江中期大阪の書肆；正徳-天明1722-89頃営業、俳書を多く出版、大坂伝馬町/のち中之島安裏町住、1713「寿福年代記大成」著、[徳右衛門(；通称)の号]素封堂、屋号；秋田屋

- 徳右衛門(7世とくえもん・角屋/中川) → 徳野(とくや・中川、揚屋主人/俳人) L 3 1 5 0
徳右衛門(とくえもん・日野) → 醸泉(じょうせん・日野/岡田、儒者) K 2 2 5 0
徳右衛門(とくえもん・浦井/柳屋) → 有国(ありくに・浦井、商人/俳人) B 1 0 6 7
徳右衛門(とくえもん・北潟屋/岸) → 大睡(だいすい・岸きし、商人/俳人) B 2 6 7 1
徳右衛門(とくえもん・松岡) → 士巧(しこう・松岡まつおか、俳人) T 2 1 3 3
徳右衛門(とくえもん・橋本) → 雲鶴(うんかく・杉林すぎばやし、書家) D 1 2 6 4
徳右衛門(とくえもん・内山) → 眞龍(またつ・内山うちやま、国学者) 4 0 3 0

- 徳右衛門(とくえもん・大枡屋;娼家経営)→徳三(とくそう・近松、歌舞伎作者) 3 1 4 1
 徳右衛門(とくえもん・松永)→ 花遁(かんとん・松永まつなが、商家/詩人) O 1 5 2 3
 徳右衛門(とくえもん・山内)→ 豊城(とよき・山内やまうち、書家/歌人) R 3 1 1 2
 徳右衛門(とくえもん・日置)→ 清親(きよちか・日置へき、友禅染画工) P 1 6 8 9
 徳右衛門(とくえもん・高田)→ 敬輔(けいすけいほ・高田、商家/絵師) G 1 8 1 7
 徳右衛門(とくえもん・佐藤)→ 鼎栄(ていえい・佐藤さとう、国学/歌人) F 3 0 1 0
 徳右衛門(とくえもん・板屋/津田)→元紀(もとりのり・津田つだ/板屋、商家/学者) K 4 4 5 2
 徳右衛門(とくえもん・森島/永田)→敏昌(としまさ・永田/森島、和算家) N 3 1 7 2
 徳右衛門(とくえもん・田中)→ 正躬(まさみ・田中たなか、商家/歌人) Q 4 0 5 9
 徳右衛門(とくえもん・木村)→ 宗臺(そうてつ・木村きむら、庄屋/国学) I 2 5 5 6
 徳右衛門(とくえもん・山本)→ 比呂伎(ひろき・山本やまもと、和漢学/神職) M 3 7 2 4
 徳右衛門(とくえもん・丸山)→ ノ左(べっさ・丸山まるやま、農業/俳人) 2 7 9 6
 徳右衛門(とくえもん・関島)→ 金一郎(きんいちろう・関島せきしま、農民/尊攘) U 1 6 5 4
- K3149 徳円(とくえん:法諱、俗姓;刑部ぎょうぶ) 785-? 844存 下総猿島の生/784(10歳)出家/天台叡山僧;
 広円・最澄・義真門、825梵釈寺十禅師/のち伝灯代法師位、
 844唐の宗穎に教義の質問の書簡を送る:「唐決」問、円珍の師
- K3150 徳円(とくえん:法諱、字;本阿、別法諱;円律) 1786-1842 57 加賀の浄土僧:徳本門;1793出家、
 各地修行、1833「選択集精決」、「深起信論直解」、「私記」著
- K3151 篤焉(とくえん・市原いちばら、名;忠寄/通称;謙助) ?-? 天保1840-44頃盛岡の郷土史家:
 南部氏の伝記逸話を蒐集、
 「盛藩秘鑑」「盛藩年表」、「御家文書」「邦内貢賦記」編、「篤焉家訓」著
- 篤園(とくえん・森本) → 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/国学/歌) P 4 0 3 5
 独園(とくえん→とくおん;道号)→ 禅諾(ぜんだく;法諱・独園;道号、臨濟僧) M 2 4 9 0
 独淵明(とくえんめい) → 虫雄(むしお・吉本、国学者/教育) 4 2 5 8
 得夫(とくお・菱田) → 百可(ひゃっか・菱田、俳人) E 3 7 9 3
- H3121 徳翁(とくおう;道号・良高りょうこう;法諱、字;道山、俗姓;藤原) 1649-1709 61 江戸の曹洞僧;
 1661(13歳)吉祥寺入/63離北良重門;得度、黄蘗僧鉄眼道光・潮音道海に参禅/月舟宗胡門、
 1682下総正泉寺住持/備後玉島円通寺開山/備後西来寺の復興に尽力;同寺に没、
 蔵山良機の師、1692「伝法室内式」1703「護法明鑑」04「洞宗或問」、「洞門亀鑑」著、
 1708「日域洞上諸祖伝」編、外編著多数
- 徳翁(とくおう・松月軒) → 貞世(さだよ・今川了俊、武将/歌/連歌) 2 0 2 8
 徳翁(とくおう・松平) → 正容(まさかた・松平/保科、藩主/歌) B 4 0 8 7
 徳翁(とくおう・兵藤) → 道一(みちかず・兵藤ひょうどう、医者/国学) K 4 1 2 5
 徳翁(とくおう・都沢) → 徹(とおる・都沢みやこざわ、儒者) I 3 1 8 0
 徳翁(とくおう・山本) → 都竜軒(とりゅうけん・山本、茶舗/狂歌) R 3 1 9 0
 徳翁(とくおう・若林) → 正晃(まさあきら・若林わかばやし、商家/詩人) T 4 0 7 7
 徳翁(とくおう・富田) → 篤敬(あつたか・富田とみた、国学者) I 1 0 0 2
 徳応(とくおう;字) → 宗意(しゅうい;法諱・徳応、真宗本願寺派僧) W 2 1 5 8
 得往(とくおう) → 沂風(きふう・塩路、俳人) B 1 6 7 3
- L3153 独雄(とくおう) ? - 1774 越中立川寺僧:詩文、「立川寺縁起」著
 独往(とくおう、独徳) → 利綱(としつな・佐々木、医/詩歌) M 3 1 8 9
 独翁(とくおう・座光寺) → 為忠(ためただ・座光寺ざこうじ/佐久間、領主/歌人) X 2 6 2 7
 徳翁院(とくおういん;法号)→ 春野(はるの・村田、国学者) G 3 6 6 8
 得翁斎(とくおうさい) → 意斎(いさい・山田、書/狂歌/浄作/読本) 1 1 8 3
 徳翁靈神(とくおうれいしん;神号)→ 正容(まさかた・松平/保科、藩主/歌) B 4 0 8 7
- T3149 徳音(とくおん・細井ほせい、通称;左近) ?-? 江後期;歌人、幕臣?、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、細井平洲(徳民)の一族?、
 [風渡る川ぞひ道のうつぎ原なほ行く先も花の白波](大江戸倭歌;夏409/路卯花)
 独園(とくおん;道号) → 禅諾(ぜんだく;法諱・独園;道号、臨濟僧) M 2 4 9 0

- 德音院(とくおんいん;法号)→ 綱通(つなみち・蜂須賀/源、藩主/歌) B 2 9 3 3
 徳恩院(とくおんいん;法号)→ 信成(のぶしげ・松平/藤原、藩主/歌) G 3 5 6 4
- K3152 **得峨**(得蛾/得我とくが・菅谷すがや)?-? 江後期1830-44頃江戸浅草平右衛門町の俳人・絵師、
 のち両国柳橋住、花鳥画・人物画に通ず、1844「送曲集」著、
 [得峨(;号)の通称/別号]通称;谷助、別号;布川斎
 篤雅(とくが・山辺) → 篤雅(あつまさ・山辺やまべ、医者/産科) E 1 0 8 2
 篤雅(とくが・熊谷) → 直彦(なおひこ・熊谷くまがい/山本、藩士/絵師) L 3 2 9 9
 徳雅(徳賀とくが・黒田) → 橋樹園(きつじゅえん・早苗さなえ、歌/狂歌) L 1 6 4 6
 毒華(どくか/どくけ;道号) → 葦海(あしかい;法諱・毒華、曹洞僧) G 2 5 5 4
 得岳(とくが・広沢) → 安任(やすとう・広沢ひろさわ、藩士/牧畜) C 4 5 2 0
 独覚(独鶴どくかく;号) → 知影(ちかげ;法諱、真宗僧/梵唄) 2 8 4 2
 徳川四天王(とくがわしてんのう)→ 家康四天王(いえやすしてんのう)
 徳簡(とくかん・平栗) → 徳馨(とくけい・平栗ひらぐり、歌・俳人) K 3 1 6 0
 徳貫(とくかん・児島) → 幸左衛門(こうざえもん・児島こじま、藩士) J 1 9 0 6
- K3153 **得巖**(得岩とくがん;法諱・惟肖いしょう;道号)1360-143778 備後の臨濟僧:父の戦死に逢い16歳で出家、
 備後護国寺草堂得芳門、上京;南禅寺で修行/撰津棲賢寺・京真如寺住寺、
 将軍足利義持の招聘で京相国寺住寺/のち万寿寺・天竜寺住持/1421南禅寺98世、
 南禅寺少林院に双桂軒を創建し隠棲;没、詩文;義堂周信・絶海中津門、「漁菴小稿」「語録」、
 1434詩文「東海瓊華とうかいけいか集」35「達磨寺中興記」、「少林一曲」著、「正徹詠草」入、
 [惟肖得巖の号] 蕉雪/山陽備人/歇即道人
 徳巖(とくがん;道号) → 養存(ようそん;法諱・徳巖;道号、曹洞僧) B 4 7 4 3
 徳岩(とくがん・秦) → 宗巴(そうは・秦はた、医者/連歌) C 2 5 6 8
 得岸(とくがん;字) → 恵空(えくう;法諱、真宗大谷派学僧) B 1 3 0 1
- K3154 **独幹**(どくかん・猪股いのまた)1794-186774 代々仙台藩医/医:華岡青洲門、藩医学校教授、
 のち藩主伊達慶邦の侍医、「治効随筆」著、「積山筆記外科録」編、
 [独幹(;名)の通称]通称;松順/秀哉
 徳巖院(とくがんいん;法号)→ 正武(まさたけ・阿部、藩主/老中/武家法度) D 4 0 3 3
 得閑斎(とくかんさい) → 得閑斎(とつかんさい、狂歌) 初世～3世
- K3155 **得器**(とくき・方円庵) ? - ? 江後期江戸俳人、千句合発起;1801李岱「五万才」入
- K3156 **德基**(とくき・越村こむら、名;清昶、凶南男)1784-182643 伊勢安濃津の蘭方医;父門、
 蘭語:吉雄南臯門、1820「瘍科精選図解」訳、
 [德基(;通称)の字/別通称/号]字;淳伯、別通称;大輔/士祥、号;凶南(2世)
 德基(とくき;法諱・大業)→ 大業(だいごう;道号・德基、臨濟僧) B 2 6 3 9
 德基(とくき/のりもと・古川)→ 松根(まつね・古川ふるかわ、藩士/歌人) J 4 0 8 3
 德基(とくき・柳原/蒔) → 関月(かんげつ・蒔しとみ/柳原、絵師) D 1 5 5 8
 德基(とくき・北条) → 香雪(こうせつ・北条ほうじょう、書家) K 1 9 1 5
 德基(とくき・中里) → 黙堂(もくどう・中里なかざと、篆刻家) B 4 4 0 6
 德基(とくき・菊池) → 小三馬(こさんば・式亭、商家/合巻作者) C 1 9 7 2
 德基(とくき・加藤) → 德基(のりもと・加藤かとう/清水、藩儒) H 3 5 8 6
 德基(とくき・津守) → 德基(のりもと・津守つもり、歌人/書家) J 3 5 1 4
 徳規(とくき→よしのり・中島)→ 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
 徳輝(とくき・堀孫左衛門)→ 若翁(じゃくおう・堀ほり、藩士/俳人) G 2 1 0 9
 篤輝(とくき・田宮) → 如雲(じょうん・田宮/大塚、藩士/藩政改革) M 2 2 1 5
- K3157 **徳義**(とくぎ;法諱・慧陳えちん;字、号;雷堂道人)?-? 1745存 初め天台僧;叡山の靈空門、
 のち真宗本願寺派僧:西本願寺学林の能化法霖の推挙で京の妙覚寺住、
 1717「教観綱宗贅言」/37「天台伝仏心印記俗詮」著
- K3158 **徳義**(とくぎ;法諱) 1799 - 185557 真宗仏光寺派の坊官、徳常の養父、
 「渋谷歴世略伝附系図」編(;親鸞以下歴代仏光寺法主略伝)
 徳義(とくぎ/のりよし?・井本)→ 為蝶(いちょう・井本いもと、俳人) G 1 1 5 6
 徳義(とくぎ・松原) → 箕隠(きいん・松原まつばら、詩人) J 1 6 6 1

- 徳義(とくぎ・大原) → 重徳(しげとみ・大原おほはら、権中納言) S 2 1 1 3
 徳義(とくぎ・服部) → 壺仙(こせん・服部はつとり、商家/詩人) M 1 9 9 8
 得義(徳義とくぎ・奥村) → 得義(徳義のりよし・奥村、藩士/国学) G 3 5 3 2
 篤義(とくぎ/あつよし・山路) → 重信(しげのぶ・山路やまら、国学/歌人) V 2 1 4 2
 徳橋(とくきつ・牧野) → 康哉(やすとし・牧野まきの/源、藩主/詩人) C 4 5 2 6
 得牛(とくぎゅう) → 晴朝(せいちょう、絵師/俳人) J 2 4 2 5
 徳恭(とくきょう・植松) → 自謙(じけん・植松うえまつ、心学者) D 2 1 5 5
 徳郷(徳卿とくきょう・白瀬) → 永年(えいねん・白瀬しらせ、医者) D 1 3 2 9
 徳郷(とくきょう・岩室) → 斗斎(とさい・岩室/喜右衛門、醸造/俳) S 3 1 7 1
 K3159 得業(とくぎょう、播磨得業はりまのとくぎょう) ?-? 鎌倉期歌人/連歌; 1241「仁治二年連歌懐紙」連衆
 徳九郎(とくくろう・種野) → 友直(ともなお・種野/石井、藩士/漢学) Q 3 1 0 5
 毒華(どくけ/どくか; 道号) → 葦海(そうかい; 法諱・毒華、曹洞僧) G 2 5 5 4
 K3160 徳馨(とくけい/のりか・平栗ひらぐり、五郎左衛門牧朝男) 1767-1839 73 代々信州伊那郡島田村の庄屋、
 歌; 森広主・片桐源栄門・画; 佐竹蓬平門、俳諧、
 1819「島田記」、「雲林書屋詩藻」「島田村年契略」著、
 [徳馨(;号)の幼名/通称/別号]幼名; 禎次郎、通称; 五郎左衛門/六郎左衛門、
 別号; 墨翁/墨卿/愚卿/南中/徳香/徳簡/方壺、法号; 雲林斎墨僊徳馨居士
 K3161 篤敬(とくけい/あつり・土井どい、弘/毅夫、橋窓、本姓; 片岡) 1783-1826 44 伊勢津医者; 荻野台洲門、
 津藩儒医/侍読、藩校有造館講官、聾牙ごうの父
 篤敬(とくけい・久田) → 篤敬(あつり・久田ひさた、藩士/書状) E 1 0 7 7
 篤敬(とくけい・佐竹) → 永海(えいかい・佐竹さたけ、絵師) B 1 3 9 3
 篤敬(とくけい・高橋) → 篤敬(あつたか・高橋たかはし、代官/国学者) H 1 0 9 4
 篤敬(とくけい・富田) → 篤敬(あつたか・富田とみた、国学者) I 1 0 0 2
 篤卿(とくけい・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1
 篤卿(とくけい・神村) → 忠貞(たださだ・神村/鈴木、故実/神道) P 2 6 4 8
 篤慶(とくけい・山本) → 錫夫(せきふ; 字・山本、医者/本草家) K 2 4 4 4
 得慶(とくけい; 法諱) → 針水(しんすい; 法諱、真宗本願寺派僧) O 2 2 9 8
 徳卿(とくけい・小篠) → 敏(御野みぬ・小篠/小筱/篠/田淵、藩士/儒・国学) F 4 1 4 2
 徳卿(とくけい・萩原) → 信芳(のぶよし・萩原はざむら、和算家) E 3 5 0 1
 徳卿(とくけい・白瀬) → 永年(えいねん・白瀬しらせ、医者) D 1 3 2 9
 徳卿(とくけい・隠岐) → 広福(ひろとみ・隠岐おき・藤原、廷臣/儒) G 3 7 5 3
 徳卿(とくけい・高野) → 眞斎(しんさい・高野たかの/広部、藩儒/詩) E 2 2 1 9
 徳卿(とくけい・工藤) → 艶文(えんぶん・工藤どう、儒者) F 1 3 3 4
 徳卿(とくけい・藤堂) → 高嶺(たかさど・藤堂、藩主/詩文) L 2 6 9 1
 徳卿(とくけい・宮) → 栗園(りつえん・宮みや、神職/国学者) B 4 9 5 8
 徳卿(とくけい・高橋) → 済庵(せいあん・高橋/並河、藩医/詩) H 2 4 2 4
 徳卿(とくけい・唐沢) → 徳卿(のりあき・唐沢からさわ、国学/僧) H 3 5 9 7
 徳卿(とくけい・宇津木) → 崑岳(こんがく・宇津木うつぎ、藩士/儒者) G 1 9 5 7
 徳卿(とくけい・荒川) → 栗園(りつえん・荒川/荒河あらかわ、勤王家) B 4 9 6 0
 徳卿(とくけい・平尾) → 他山(たざん・平尾/力丸、藩士/儒者/詩) O 2 6 9 4
 徳卿(とくけい・三宅) → 瓶斎(へいさい・三宅みやけ、藩士/詩歌人) 2 7 3 4
 徳卿(とくけい・中川) → 良俊(よしとし・中川なかがわ、商家/儒者) O 4 7 1 4
 徳卿(とくけい・中里) → 千族(ちえだ・中里なかざと、神職/歌人) N 2 8 1 5
 徳卿(とくけい・本多) → 助成(すけなり/-しげ・本多ほんだ、藩主/詩歌) J 2 3 2 2
 徳卿(とくけい・水上) → 雄風(おかせ・水上みなかみ、修験/国学/歌) E 1 4 1 5
 徳敬(とくけい; 初法諱) → 竺源(じくげん; 道号・徳厚; 法諱、臨濟僧) Q 2 1 4 0
 徳経(とくけい・土肥) → 徳経(のりつね・土肥どひ、国学/歌人) J 3 5 2 8
 篤慶(とくけい・深見) → 篤慶(あつよし・深見ふかみ、商人/歌人) E 1 0 9 6
 K3162 徳猊(とくげい; 法諱、無為信寺順崇男) 1781-1859 79 越後北蒲原郡下条の真宗大谷派無為信寺僧、
 高倉学寮入、宗学; 深励門/梵曆; 天台僧普門門、学寮で講説、

1817越後刈羽郡中浜の勝願寺住職：学生教育・本堂再建、歌人、
「解深光経記聴記」「曆学書」「無尽蔵」「和歌稿」著、没後；贈擬講(1897)、
[徳猊の字/号]字；香雲、号；香海院/得月舎、香樹院徳竜の弟

篤敬斎(とくけいさい・浅井) → 凶南(となん・浅井、医/本草/詩) O 3 1 5 6
得月(とくげつ・松木) → 智彦(ともしこ・松木/度会、神職/歌) Q 3 1 3 3
得月舎(とくげつしゃ) → 徳猊(とくげい；法諱・香雲、真宗僧) K 3 1 6 2
得月楼(とくげつろう) → 信海(しんかい；法諱、僧/国学/尊攘) V 2 2 0 3

K3163 徳見(とくけん；法諱・竜山りゅうざん；道号、初法諱；利見、俗姓；千葉) 1284-1358 75 下総香取の臨濟僧；
1295(12歳)で鎌倉寿福寺寂庵上昭門/一山一寧門、1305-50入元；帰国時に林浄因を伴う、
建仁寺35世/南禅寺24世/天竜寺6世、日本五山文学興隆の端緒をつくる、
「真源大照禅師語録」「黄竜十世録」著、
[竜山徳見の号] 真源大照禅師

K3164 徳軒(とくけん・薩埵さつた、名；敬徳、藁川男) 1778-1836 59 京の儒者；父門/猪飼敬所門、
石門心学；上河淇水門、1805手島堵庵創設の時習舎に住/1830楽行舎を創設；講説、
1836「徳軒道話初篇」著、柴田鳩翁の師、門弟多数、誠斎の父、
[徳軒(；号)の字/通称]字；君恪くんかく、通称；熊三郎/完蔵/与左衛門

徳儉(とくけん・約翁；道号) → 約翁(やくおう・徳儉；法諱、臨濟僧) 4 5 4 5
篤軒(とくけん・桑原/多田) → 東溪(とうけい・多田ただ、書/儒者) D 3 1 0 8
篤謙(とくけん・小野寺) → 鳳谷(ほうこく・小野寺、漢学/海防/詩) 3 9 7 6
徳謙(とくけん・吉田) → 徳謙(のりかた・吉田、卜占家) E 3 5 4 1
徳謙(とくけん・掛山) → 徳謙(のりかね・掛山かけやま、藩士/国学) H 3 5 8 9

K3165 徳元(とくげん・斎藤さいとう、長龍[元忠]男) 1559-1647 89 母；斎藤義龍妹、斎藤道三の曾孫、
安桃・江前期；美濃岐阜の武将；織田信秀に出仕；代官；富加町加治田村地域領地を掌る、
豊臣秀次の臣、従五下/墨俣城城主、1600関原敗戦；若狭亡命/剃髪；徳元号、
1626上京/のち江戸馬喰町医者、俳諧・連歌；昌琢門、松永貞徳門、
1632仮名草子「尤もとも之双紙」、32「徳元千句」33「塵塚俳諧集」編、41「俳諧初学抄」著、
「海道下り」「関東下向道記」「俳諧春清独吟」「徳元等百韻」著、
1633重頼「犬子えの集」116句入、狂歌；行風「古今夷曲集」10首入、
[春立はるたつやにほんめでたき門の松](犬子集巻頭)、
[徳元(；入道号)の名/字/通称/号]名；元信/辰遠/利起としおき、
字；龍幸、通称；斎宮/斎宮頭/又左衛門、
別号；帆亭はんてい/入道号；徳元、法名；斎入

K3166 得玄(とくげん・木崎きさき、号；日々庵) 1716-90 75 京の茶人；表千家如心斎宗左門、
弟に家督譲渡し大坂・姫路に遊ぶ、塩田桃亭の師、「茶話それぞれ草」著

徳元(とくげん・彦坂) → 範善(のりよし・彦坂ひこさか/田中、藩士/和算) G 3 5 3 3
徳元(とくげん・古森) → 亀淵(きえん・古森こもり、書家) J 1 6 7 4
徳元(とくげん/のりもと・毛利) → 治親(はるちか・毛利もうり、藩主/歌) J 3 6 5 7
徳玄(とくげん・木村) → 宗臺(そうてつ・木村きむら、庄屋/国学) I 2 5 5 6
徳言(とくげん・牛尾) → 旗峰(きほう・牛尾うしお、儒者) L 1 6 9 3
徳彦(とくげん・三上) → 竜山(りゅうざん・三上みかみ、藩儒) E 4 9 1 8
徳巖(とくげん；字) → 素真(そしん；法諱・徳巖、天台僧/漢学) J 2 5 9 3
得玄(とくげん・中村) → 獲斎(ぼくさい・7代中村宗哲、千家塗師) J 3 6 4 4
独言(とくげん → とくごん、黄檗僧) → 独言(とくごん；道号・性聞しょうもん) K 3 1 7 1
徳源院(とくげんいん) → 建頭(たけあき・田村、藩主/故実/歌) E 2 6 3 3

W3106 徳子(とくこ・波多野はたの、) 1751-1828 78 筑前遠賀郡の歌人

徳子(とくこ・平) → 建礼門院徳子(けんれいもんいんとくこ) D 1 8 2 8
徳子(とくこ・伊達) → 徳子(のりこ・伊達だて、玉台院/藩主室) I 3 5 9 2
徳吾(とくご；法諱) → 無隠(むいん；道号・徳吾、臨濟僧) D 4 2 4 4

K3167 徳杲(とくこう；法諱・玉翁ぎよくおう；道号) ?-? 鎌南北期臨濟僧；約翁徳儉[仏燈国師]門、大覚派、
「仏燈国師語録」編

- K3168 **徳広**(とくこう;法諱) 1717 - ? 1774存 天台宗叡山清泉院僧;のち大僧都、1769「上乘院大僧都尊明灌頂記」著
- K3169 **徳恒**(とくこう・高橋たかはし) ? - ? 江中期大阪の書肆/俳人、心齋橋筋南久宝寺町のち北久太郎町に住、1783「鬼貫発句集」編、[徳恒(;号)の通称/別号]通称;塩屋しおのや平助、別号;興文堂/随柳軒
- K3170 **徳香**(とくこう・高橋たかはし、名;休)?-? 江後期美濃の儒者:林伯英[世興]門?、1801「伯英遺稿」編
- 徳香(とくこう・平栗) → 徳馨(とくけい・平栗ひらぐり、歌・俳人) K 3 1 6 0
- 徳公(とくこう;諡号) → 頼慎(よりよし・松平、藩主/文筆家) K 4 7 0 3
- 徳公(とくこう・黒瀬) → 淳(じゅん・黒瀬くろせ、国学者) O 2 1 3 5
- 徳光(とくこう・日尾) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5
- 徳光(とくこう・橋本) → 徳光(のりみつ・橋本はしもと、町役/歌人) J 3 5 6 2
- 徳広(とくこう・松前) → 徳広(のりひろ・松前まつまえ、藩主/歌) F 3 5 6 7
- 徳岡(とくこう・小野) → 久勝(ひさかつ・小野おの、廷臣/記録) 3 7 9 6
- 徳岡(とくこう・小野) → 久明(ひさあき・小野おの、廷臣/故実家) 3 7 8 0
- 徳厚(とくこう;法諱) → 竺源(じくげん;道号・徳厚、臨濟僧) Q 2 1 4 0
- 徳高(8世とくこう・恒川) → 極斎(きよくさい・山本やまもと、和算家) O 1 6 9 3
- 徳興(とくこう・伊達) → 直清(なおきよ・山口やまぐち/伊達、旗本/国学) P 3 2 1 6
- 徳行(とくこう・神原) → 徳行(のりゆき・神原かんばん/源、歌人) G 3 5 8 8
- 篤恒(とくこう・森) → 篤恒(あつね・森もり、藩士/暦学) E 1 0 6 9
- 篤好(とくこう・櫛原) → 蒼斎(せつさい・櫛原いちいはら、儒者/教育) E 2 4 2 7
- 篤行(とくこう・阿久沢) → 篤行(あつゆき・阿久沢あくさわ、藩士/歌人) G 1 0 8 4
- 篤興(とくこう・上杉) → 篤興(あつおき・上杉うえすぎ、庄屋/国学者) H 1 0 0 6
- 徳郷(とくこう/とくさと・浜地) → 春山(しゅんざん・浜地はまじ、儒者) K 2 1 8 5
- 徳合(とくこう・村上) → 松堂(しょうどう・村上むらかみ、絵師) R 2 2 6 2
- 独吼(とくこう→どっく) → 独吼(どっく;道号・性獅;法諱、黄檗僧) O 3 1 4 4
- 独航(とくこう→どっこう) → 独航(どっこう;道号・性安;法諱、黄檗僧) O 3 1 4 7
- 禿毫庵(とくごうあん) → 如矢(ゆきや・伊佐庭いさにわ/成川/阿部、教育/町長) G 4 6 5 1
- 読耕園(とくこうえん) → 羅洲(らしゅう・松井、易占家) B 4 8 3 8
- 篤行斎(とくこうさい・鮎川) → 一雄(いちゆう・鮎川あゆかわ、絵/華道家) G 1 1 5 2
- 読耕斎(とくこうさい) → 読耕斎(どっこうさい・林、儒者) O 3 1 4 8
- 徳光眞照禅師(とくこうしんしょうぜんじ) → 和溪(わけい;道号・宗順;法諱、臨濟僧) 5 3 1 8
- 徳光普照禅師(とくこうふしょうぜんじ) → 茂林(もりん;道号・宗植、臨濟僧) G 4 4 9 6
- 篤子内親王(とくこないしんのう) → 篤子内親王(とくしないしんのう) K 3 1 8 5
- 徳五郎(とくごろう・丸山) → 久成(ひさなり・伊藤いとう、国学/国事) L 3 7 1 2
- K3171 **独言**(とくごん;道号・性聞しやうもん;法諱) 1586-1655 70 明福建の黄檗僧;隠元隆琦門;1654師に随従し渡来(69歳);長崎興福寺住、「隠元禅師語録」編/「禅宗彙纂」著、「黄檗和尚扶桑語録」著/「黄檗独言西堂遺稿」「独言禅師遺稿」
- K3172 **徳斎**(とくさい・原はら、名;義胤/義、志賀理斎男) 1800-70 71 江戸本所石原の生/儒者;原念斎門、1817原念斎の養嗣子;家督および家学を継承;幕府御徒/1824致仕、江戸上野山下で処士、学問に専念;「徳斎随筆」、1823「墨水志」25「大和廻覧道中記」「東遊紀行」/32「松の葉」、1844「先哲像伝初輯」57「修徳斎魚余文稿」59「徳斎日新録」、「復讐新話」「得斎百詩」、1863父理斎随筆「三省禄」の後編著、「西游杖」「東得游杖」「雪窓余録」後の形見外著多数、[徳斎(;号)の字/通称/別号]字;正道、通称;米之助/友之助/三右衛門、別号;得斎
- K3173 **得斎**(とくさい・長戸ながと、名;讓、藩士長戸副恭男) 1802-54 53 美濃加納藩士;早く両親を失う、儒者;尾張の冢田大峯門、美濃加納藩主永井尚佐に出仕;吟味奉行格/1819江戸詰/致仕、儒学研究;佐藤一斎・林述斎門、築地で子弟教育/請われて再び加納藩士;世子の侍講、奥州歴遊、「遊奥志」「落花三十律」/1839「北道遊簿」、「得斎詩文稿」/1853「得斎詩文鈔」著、[得斎(;号)の字/通称]字;士讓、通称;寛司
- K3174 **得斎**(とくさい・中村なかむら、名;政水、通称;十左衛門、直斎男) ?-? 江後期尾張藩士、

儒者;父直斎[1757-1839]門、1851儒者遺稿叢書「道学資講」編(;藩主徳川慶勝に献上)、
「大学或問講義」著、「道学資講目次」編

徳斎(とくさい・城島) → 宗嘉(むねよし・城島さじま/吉島、茶・歌人) D 4 2 7 4
徳濟(とくさい;法諱) → 鉄舟(てつしゅう;道号・徳濟、臨濟僧) C 3 0 3 8
徳濟(とくさい・晁ちよう/朝枝) → 玖珂(きゅうか・朝枝あさだ、藩士/儒者) G 1 6 3 7
篤斎(とくさい・橋本) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1
篤斎(とくさい・加藤) → 玄順(げんじゆん・加藤かとう、医者) J 1 8 7 8
篤斎(とくさい・小関) → 三英(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医) E 2 0 1 3
恵斎(とくさい・三井) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7
恵斎(とくさい・小林) → 緑樹園(りよくじゆえん・小林、商家/狂歌) J 4 9 7 7

K3175 徳左衛門(とくざえもん・東海、東海源助[右右衛門]の養子)?-? 江中期長崎唐通事(1717-56)、
東海家4代目、1766「中和堂遺稿」著

徳左衛門(とくざえもん・杉本) → 信清(のぶきよ・杉本、藩士/儒者) B 3 5 3 2
徳左衛門(とくざえもん・本間) → 契史(けいし・本間ほんま、枯木庵、俳人) F 1 8 8 9
徳左衛門(とくざえもん・美濃部) → 雅久(まさひさ・美濃部みのべ、国学/歌) S 4 0 9 1
徳左衛門(とくざえもん・高田) → 敬輔(敬甫けいほ・高田、商家/絵師) G 1 8 1 7
徳左衛門(とくざえもん・山下) → 清臣(きよおみ・山下やました、国学者/歌) V 1 6 5 3
徳左衛門(とくざえもん・赤穂屋) → 正旭(まさあきら・若林わかばやし、商家/歌) T 4 0 7 8
徳郷(とくさと・浜地) → 春山(しゆんざん・浜地はまじ、儒者) K 2 1 8 5
徳三郎(とくさぶろう・島津屋) → 潮水(ちようすい・島津しまう、俳人) J 2 8 1 1
徳三郎(とくさぶろう・慶徳) → 家義(いえよし・慶徳けいとく/秦、歌人) K 1 1 2 4
徳三郎(とくさぶろう・庵原) → 朝成(ともなり・庵原/廬原いおはら、史学者) P 3 1 5 5
徳三郎(とくさぶろう・田中) → 本孝(もとたか・田中たなか、商家/歌人) C 4 4 8 6
徳三郎(とくさぶろう・武嶋) → 茂道(もちみち・武嶋/菅原/丸橋、幕臣) B 4 4 7 2
徳三郎(とくさぶろう・中山) → 文七(3世ぶんしち・中山/紅屋、歌舞伎役者) F 3 8 6 4
徳三郎(とくさぶろう・嵐) → 璃寛(2世りかん・嵐あらし、歌舞伎役者) 4 9 5 1
徳三郎(とくさぶろう・中島) → 黙池(もくち・中島/千葉、古終舎/俳人) B 4 4 0 0
徳三郎(とくさぶろう・広川) → 晴軒(せいけん・広川ひろかわ、商家/洋学者) I 2 4 0 1
徳三郎(とくさぶろう・豊島) → 夏海(なつみ・豊島とよしま、手習師匠/歌) L 3 2 6 4
徳三郎(とくさぶろう・日野) → 資徳(すけのり・日野ひの、商家/神職) J 2 3 0 2
徳三郎(とくさぶろう・横田) → 秋足(あきたり・横田よこた、商家/歌人) I 1 0 7 8
篤三郎(とくさぶろう/あつー・曲江) → 梅賓(ばいひん・曲江いりえ/まがりえ、儒/詩歌) B 3 6 9 7
篤三郎(とくさぶろう/あつー・岩瀬) → 忠震(ただなり・岩瀬/設楽、幕臣/詩/画) Q 2 6 3 7
篤三郎(とくさぶろう/あつー・西岡) → 訓棟(のりたか・西岡/谷/秦、国学/歌) H 3 5 8 0
得三郎(とくさぶろう・松野) → 清邦(きよくに・松野まつの、藩士/詩) P 1 6 3 0
木賊坊(とくさぼう) → 如柳(じりゅう・森/斎藤、国学/歌) V 2 2 3 6

K3176 得参(とくさん・新井あらい) 1654 - ? 1723存 信州木曾の狂歌作者:1724「世法儒教歌」著

K3177 篤山(とくざん・近藤こんどう、敏/春松はるたか、高橋甚内[坦斎]男) 1766-1846⁸¹ 伊予宇摩郡小林村の儒者、
祖父の実家の近藤姓を継嗣/1788大阪で尾藤二洲門;91師の昌平黌に出府後塾を守る、
1794江戸出府/97父母孝養のため帰郷/師の郷里川之江で開塾;伊予聖人と称される、
1802伊予小松藩校養正館教授、「篤山歌集」「篤山詩文集」「篤山日記」「篤山余稿」著、
三品みしな崇たかし(容斎/西条藩校教授)・黒川通侃みちきよの兄、近藤南海(1807-62)の父、
[篤山(;)号)の字/通称/別号]字;駿甫/慎甫、通称;大八郎/新九郎/高太郎、伊予聖人の称、
別号;竹馬/勿斎ぶつさい/尋芳堂/五友園/白芳亭/挹蒼斎ゆうそうさい/緑竹舎、
法号;明応行心篤山居士

K3178 得山(とくざん・大橋おおはし、名;順正) 1775-1842⁶⁸ 江後期1791(寛政3)水戸藩士:「大君御行状録」著、
[得山(;)号)の幼名/通称]幼名;永吉、通称;斧八郎/五百右衛門

徳山(とくざん) → 牛呑(ぎゅうどん、俳人) G 1 6 4 6

K3179 独産(独山とくざん;道号・靈苗/靈明れいみよう;法諱)?-1760 曹洞僧;無得良悟門/法嗣、

伯耆の定光寺22世・長門の大寧寺31世/伯耆鈴宅寺2世、伯耆の宝幢寺を開山、
「独産和尚語録並年譜」「宝幢寺開山遺訓」著

- K3180 **徳師**(とくし;法諱) ? - ? 室町後期京の時宗大炊道場(聞名寺)の僧、
連歌:1560「何船百韻」62「何木百韻」参加
- K3181 **得之**(とくし・湯浅ゆあさ) ? - ? 江前期京の和算家:村松茂清門、
1676刊行「新編直指算法統宗」の訓点、1684「武具訓蒙図彙」著、
[得之(;名)の通称/号]通称;市郎左衛門、号;雪任子
- K3182 **徳子**(とくし) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」入、
[秋の野を壁土かべつちにとる哀れ哉](卯辰集;)
- K3183 **得芝**(とくし・松田まつだ、名;丞政)1780-1835⁵⁶ 尾張小牧南上原の農業/俳人:士朗門/儒学修得、
1811春日井原西屋敷に西行堂建立:記念集「木瓜つゝし」編、1812「曾天廻徒由そでのつゆ」著、
[得芝(;号)の字/通称/別号]字;子次、通称;貞四郎、別号;西涯/西行堂
- 得子(とくし・美福門院) → 美福門院(びふくもんいん・得子、歌人) E 3 7 3 7
徳子(とくし・伊達) → 徳子(のりこ・伊達だて、玉台院/藩主室) I 3 5 9 2
徳之(とくし/のりゆき・村山) → 素行(そこう・村山むらやま/藤原、歌人) D 2 5 7 3
徳枝(とくし・増田) → 徳枝(のりしげ・増田まつだ、藩士/和漢学) J 3 5 9 8
禿氏(とくし;号) → 先啓(せんけい;法諱、真宗大谷派僧) F 2 4 2 4
徳祉(とくし・堀) → 達之助(たつのすけ・堀ほり、通事/英語) G 2 6 2 5
篤資(とくし・細貝) → 栗園(りつえん・細貝ほそがい、国学者) B 4 9 6 1
篤治(とくし・志村) → 蒙庵(もうあん・志村、儒者/藩主侍講) 4 4 4 1
徳二(とくじ・中井) → 履軒(りけん・中井なかい、漢学者) 4 9 0 1
徳而(とくじ・村松) → 善政(よしまさ・村松むらまつ、神職/国学) P 4 7 5 6
徳治(とくじ・長山) → 忠敏(ただとし・長山ながやま、商家/歌人) Y 2 6 7 3
恵次(とくじ・青山) → 恵次(のりつぐ・青山あおやま、家老/公武合体) H 3 5 0 5
独師(とくし;号) → 卍元(まんげん;道号・師蛮;法諱、臨濟僧) K 4 0 8 4
- K3184 **徳七**(とくしち・上島うえじま、青人あおんど[1660-1740]男)?-? 伊丹の酒造業/桃足の兄/伊丹派俳人、
鬼貫と同族、1714月尋「伊丹発句合」参加(才磨判)、
[群儲むらまけの小鮎に放つ礫つぶてかな](伊丹発句合;七番)
- 得失(とくし・丹羽) → 松三郎(しょうざぶろう・丹羽にわ、漢学) J 2 2 1 6
篤実(とくじつ・川畑) → 篤実(あつざね・川畑かわはた、歌人) B 1 0 2 7
篤実(とくじつ・竹村) → 篤実(あつざね・竹村たけむら、歌人) H 1 0 9 7
得失庵(とくしつあん) → 普斎(ふさい・杉木すぎき/荒木田、茶人) B 3 8 9 9
得実斎(とくじつさい) → 一流(いちりゅう・千葉、華道家) G 1 1 6 0
得失檐(とくしつえん;号) → 風紫(ふうし;号、賢嶺、真宗僧/俳人) 3 8 7 6
- K3185 **篤子内親王**(とくしないしんのう・堀河[院]中宮、後三条天皇皇女)1060-1114⁵⁵ 摂政藤原師実の養女、
1066内親王宣下/69三品/73賀茂斎院;父の死で退下/79准三宮/91堀河天皇に入内、
1093中宮/1107堀河天皇に殉じ出家、歌人;堀河天皇後宮の中心:多くの歌合歌会を主催
女房に上総・越後・御匣殿みくしげどのなどの歌人、新拾遺集519、
[咲きぬればよそにこそ見れ菊の花天つ雲みの星にまがへて](新拾遺;秋519)
(詞書;黒戸のまへに菊をうゑられたりけるを)
- K3186 **徳樹**(とくじゆ;号) ? - ? 江後期撰津の満願寺住僧/易学風水に精通、
「周易靈枢」著
- 徳孺(とくじゆ・小谷) → 巢松(そうしょう・小谷おたに、藩儒/詩文) C 2 5 0 8
徳孺(とくじゆ・三井) → 之孝(ゆきたか・三井、書家/篆刻) E 4 6 6 2
徳寿(とくじゆ・西川) → 晩翠(ばんすい・西川にしかわ、心学者) I 3 6 2 0
得寿(とくじゆ・禅定院) → 禅定院得壽(ぜんじょういんのとくじゆ、童/歌) O 2 4 9 2
徳寿院(とくじゆいん) → 鋪綱(のぶつな・朽木くつき、藩主/教育) C 3 5 1 1
- K3187 **得終**(とくしゆう・南無庵、得終尼)?-? 金沢の俳人;闍更[高桑正保1726-98]妻、
1804亡夫7回忌追善俳諧催;「もものやとり」編、

南無庵継承をめぐり門弟蒼虬そきゅうと争う(結局南無庵2世は蒼虬が継承)

- K3188 **徳洲**(とくしゅう) ? - ? 江中期美濃の商人;行商で駿河に住、
学問・医学に通ず、温厚篤実、駿府に没、山科稲川「思旧漫録」記事入
得衆(とくしゅう・日尾) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5
徳洲(とくしゅう;法諱) → 乗恩(じょうおん;法諱・湛然;字、真宗本願寺派僧) H 2 2 4 3
徳洲(とくしゅう) → 利視(としみ・南部、藩主/俳人) N 3 1 7 8
徳修(とくしゅう・並河) → 魯山(ろざん・並河なみかわ/なびかわ/並、藩儒) B 5 2 5 7
- K3189 **得住**(とくじゅう;法諱、俗姓;藤懸) 1793-1874 82 能登羽咋郡鹿頭の真宗大谷派常德寺住職、
加賀江沼郡の生;山代村専光寺で得度/靈眈(正慶しょうきょう)門/華嚴に精通、1835寮司/42擬講、
1861講師/1869舌禍で退任、「往生礼讃記」「往生礼讃講義」「執持鈔講義」「法事讃記」外著多、
[得住の号] 獅子窟/無碍窟/賢殊院
- K3190 **独秀**(とくしゅう;道号・乾才けんさい;法諱、法智普光禪師) ?-1514 臨濟;悟溪宗頓門/嗣法、妙心寺住持、
美濃崇福寺を開山、1502大徳寺66世;住山3日で退隱、崇福寺住、「人天寶鑑略疏」著
独秀(とくしゅう・大含) → 雲華(うんげ・大含だいがん、真宗大谷派僧) B 1 2 0 7
徳拾院(とくしゅういん;法号) → 忠啓(ただあき・水野みずの、藩主/歌) U 2 6 1 8
得終尼(とくしゅうに) → 得終(とくしゅう・南無庵、蘭更妻、俳人) K 3 1 8 7
得十郎(とくじゅうろう・中山) → 武徳(たけのり・中山なかやま、通詞) O 2 6 6 3
徳十郎(とくじゅうろう・松金屋) → 満慶(みつよし・田中たなか、商家/歌人) J 4 1 4 4
得寿軒(とくじゅうけん) → 祐賢(ゆうけん・甲賀こうが、医者) B 4 6 4 3
独樹軒(とくじゅうけん) → 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3
徳濬(とくじゅん;法諱) → 祖溪(そけい;道号・徳濬、臨濟僧) J 2 5 5 6
徳俊(徳儁とくじゅん;法諱) → 伯英(はくえい;道号・徳俊、臨濟僧) C 3 6 6 1
徳春(とくじゅん・吉井) → 友実(ともざね・吉井、藩士/国事) P 3 1 5 3
- K3191 **徳順**(とくじゅん;号) ? - ? 戦国期の連歌師;紹巴と親交、
1577宗牧33回忌百韻/紹巴徳順何人百韻・78羽柴千句・85紹巴昌叱何路百韻などに参加
- K3119 **徳順**(とくじゅん、大坂屋庄兵衛之直) ?-? 安楽庵策伝[1554-1642]と狂歌の贈答
連歌師徳順と同一? → 徳順(とくじゅん、連歌師) K 3 1 9 1
徳潤(とくじゅん・深慧) → 徳潤(とくにん・深慧、真宗僧) K 3 1 9 2
徳潤(とくじゅん・山本) → 都竜軒(とりゅうけん・山本、茶舗/狂歌) R 3 1 9 0
徳純(とくじゅん/のりずみ・伊達) → 斉宗(なりむね・伊達、藩主/歌人) I 3 2 3 0
徳淳(とくじゅん・児島) → 幸左衛門(こうざえもん・児島こじま、藩士) J 1 9 0 6
徳淳(とくじゅん・塩田/村山) → 拙軒(せつけん・村山/塩田、幕府医官) K 2 4 8 5
徳順(とくじゅん・吉岡) → 勇平(ゆうへい・吉岡よしおか/鈴木、幕臣) D 4 6 7 0
- K3193 **篤所**(とくしょ・北村きたむら、名;可昌、勝富男) 1647-1718 72 近江野洲郡の生/京住の儒者;伊藤仁斎門、
和漢学に通ず、大和芝村藩の藩校遷喬館に招聘され儒臣/藩主織田長清の侍講、
靈元天皇命で仙洞御所で講説、
「篤所詩集」「和漢唱和集」「端芝記」1707「古学先生碣銘行状」著、
[篤所(;号)の字/通称/諡号]字:伴平、通称;伊平、諡号;文英先生
- K3194 **篤所**(とくしょ・松浦まつら/修姓;松しょう、名;則武) 1781-1813 33 上州甘楽郡馬山村羽場の儒者:
山中天水門・市河寛斎門、江戸神田泉橋に開塾;学山堂/講説業、
「続茶集」1812「篤所小稿」著、
[篤所(;号)の字/通称/別号]字;乃侯、通称;斎宮、別号;学山堂
- K3195 **得処**(とくしょ・金子かねこ、名;清邦、郡代金子仁兵衛清成男) 1823-67 45 羽前村山郡上山の儒者;
仙台の大槻平泉門/昌平黌に修学、1848帰郷;上山藩校明新館の助講師/徒頭格、
出奔諸国巡歴、のち帰藩;上山藩中老;藩政に功績/幕命の薩摩藩邸襲撃時に重傷;没、
「心の儘」「策言」「輔儲規則」「山田方谷翁ニ与フル書」(;方谷1805-77)、1865「晃山雑詠」著、
[得処(;号)の字/通称]字;謙/鳴卿、通称;与三郎/六左衛門
得所(とくしょ・宮沢) → 正治(まさはる・宮沢みやざわ/橘、神職/国学) T 4 0 0 0
読書庵(とくしょあん) → 随翁(ずいおう・杉山すぎやま、儒者) E 2 3 2 3
- K3197 **徳升**(とくしょう・五柳亭ごりゅうてい、姓;関根) 1793-1853 61 江戸鎌倉河岸の紙商/衰微;

本材木町で貸本屋;本徳と称す、戯作/合卷:7世市川三升の代作、

1822講釈;錦城斎典山門/舌耕業、御納屋書吏、

「頼朝一代記」「義経一代記」「女風俗吾妻鑑」、1816「染分韃靼山染」23「一番太鼓春の曙」

1829「花軍菊水之巻」30「花白梅鎌倉」31「清盛栄花巖島」32「梅暦魁草紙」36「役者手柄競」、

1839「和歌紫東顔見世」41「通子遷」47「頼光勲功記」52「一休禅師諸国物語」外著多数、

[五柳亭徳升(;)号)の通称/別号]通称;豊島屋甚蔵、別号;五柳/山楽、法号;五柳院

- U3170 **徳称**(とくしょう;法諱・姓;養字かいや、)1814-7966 越中砺波郡の光顔寺13世養字円称(芹山)の養子、
浄土真宗光顔寺14世住職を継嗣、神道・詩;伊勢神職の石部(御巫みかなぎ)清直・杉井久重門、
国学・歌・俳諧;京の福田美楯門、1864(元治元)歌会を主催/3日間千首詠;愛宕神社に奉納、
息子15世受称も歌人、桂井順平の師
[徳称(;)法諱)の号]号;黙石/白南

- K3198 **得照**(とくしょう;法諱・臥竜;号、得雄男、俗姓;佐竹)1817-6650 名古屋真宗大谷派福恩寺12世、
蘭学を修得;上田仲敏・伊藤圭介らと研究会、「歎異鈔講義」「最要鈔講記」著

徳昌(とくしょう;法諱・桂林)→ 桂林(けいりん;道号・徳昌、臨濟僧) G 1 8 8 1

徳昌(徳勝とくしょう・宇野/細井)→ 中台(ちゅうだい・細井/宇野、儒者) G 2 8 6 1

徳昌(とくしょう・新城) → 安田(あんでん・新城あらぐすく/毛、官人/歌) G 1 0 8 9

徳昌(とくしょう・安仲) → 徳昌(のりまさ・安仲やすなか/樋口、里正/国学) K 3 5 2 3

徳称(とくしょう・牧) → 詩牛(しぎゅう・牧まさ、詩人) Q 2 1 1 3

徳章(とくしょう・渋井) → 徳章(のりふみ・渋井しぶい、儒者/伝記) F 3 5 7 2

徳章(とくしょう・吉松) → 文山(ぶんざん・吉松よしまつ、藩儒) F 3 8 4 1

徳章(とくしょう・富岡) → 吟松(ぎんしょう・富岡とみおか、女流詩人) S 1 6 9 2

徳勝(とくしょう・野田) → 剛斎(こうさい/ごうさい・野田のだ、儒者) I 1 9 8 6

徳勝(とくしょう・中村) → 鸞溪(らんげい・中村なかむら、藩儒) B 4 8 8 1

得勝(とくしょう;法諱・抜隊)→ 抜隊(ぼつたい;道号・得勝、臨濟僧) F 3 6 2 6

禿樵(とくしょう;号) → 樵禅(しょうぜん;道号・禅鑑;法諱、臨濟僧) K 2 2 4 4

- L3100 **徳成**(とくじょう;法諱、円光寺明逸みょういつ男)?-? 文化1804-18頃伊予松山の真宗大谷派僧;父門、
父に従い内外諸書を修学、15歳でちに代行し寺務/円光寺8世住職、播州の義端と交流、
法相・因明;基弁門/俱舍論の研究、1803高倉学寮の寮司、京・名古屋で講義/美濃墨俣で没、
「法界観門記」「易行品信喜編」「因明正理門論講義」「法界観門記」1803「因明論大疏図」外著多、
[徳成の号] 大吉房/南杯子/化物園げぶつえん

- L3101 **独照**(どくしょう;道号・性円しょうえん;法諱、俗姓;富田)1617-9478 近江の臨濟僧;一絲文守門、
京嵯峨の没縦庵を開く/黄檗僧:長崎渡来の隠元門、隠元の侍者、没縦庵を直指庵と改名、
1671隠元の嗣法/京を中心に活動;[嵯峨の古仏]と称さる、1663「黄檗国師書問集」編、
「隠元禅師語録」編、1676「直指独照禅師語録」88「直指独照禅師統録」、「二種入闡揚鈔」外著多

- L3102 **独笑**(どくしょう) ? - ? 豊前西小倉の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」入、
[若き身も一葉に唱となふ念仏ねぶつ哉](新撰都曲;下379/桐の一葉に無常を感じとる)

- L3103 **独笑**(どくしょう) ? - ? 尾張の俳人;1703素覧「幾人水主いくたりかこ」入

- W3121 **独笑**(どくしょう・深尾ふかお、名;重方しげかた、重次男)1672-173160 父;早世/1689祖父重照没;家督嗣、
土佐高岡郡佐川領主4代;土佐藩重臣、1689(元禄2)谷秦山を佐川に招聘;家臣に儒を講義、
1695江田成章(伊藤東涯門)を儒臣に登用、正室;山内重直女、繁峯・稠治(稠濟)の父、
1706(宝永3)誤報で藩主豊房の重病時に行動せず罷免;蟄居、繁峯が家督嗣、
[独笑(;)号)の通称]八郎/若狭/本江

独笑(どくしょう・木下) → 長嘯子(ちやうしょうし・木下、武将/歌人) 2 8 2 3

独嘯(どくしょう・高) → 雲外(うんがい・高こう、儒/蘭学者) D 1 2 6 2

- L3104 **独笑庵**(どくしょうあん;号、姓;河、名;信敬)?-? 播磨日笠浦の俳人;雑俳点者、
1750?「松の雨」編/1754「俳諧有也無也之関再註」著

- L3105 **独嘯庵**(どくしょうあん、永富ながとみ、名;鳳、庄屋勝原[松岡]治左衛門男)1732-6635 長門豊浦郡宇部生、
下関の医者永富友庵の養嗣子、儒;山県周南門、医;1751山脇東洋門/長崎で西洋医学修得、
1762大阪で開業医、遊歴、詩文を嗜む、隨筆「葆光秘録」、1763経世論「囊語」64「漫遊雜記」、
「独嘯菴文集」「飲食談並吐方考」「疝論」「甲乙篇」「読傷寒論」「黴瘡口訣」「囊中秘方」外著多、

[独嘯庵(；号)の字/通称/別号]字;朝陽、通称;昌安/昌庵/のち鳳介/鳳助、別号;嘯庵、
小田濟川の兄、司馬芝叟の父、月海元昭・大潮元皓・梁田蛻巖らと交流

独笑庵(とくしょうあん) → 朴庵(ぼくあん・佐藤、詩人/俳人) C 3 9 8 6
独笑庵(とくしょうあん) → 立義(たつよし・竹村たけむら、地誌/俳人) R 2 6 7 0
得生院(とくしょういん) → 普聞(ふもん;法諱、真宗本願寺派僧) E 3 8 1 9
得聖院(とくしょういん) → 師賢(もろかた・花山院、廷臣/歌人) H 4 4 1 2
徳正院(とくしょういん) → 宗矩(むねのり・松平まつだいら、藩主/学問) C 4 2 2 2
徳勝院(徳松院とくしょういん) → 禅昌((ぜんしょう;法諱、社僧/連歌作者) M 2 4 5 8
徳照公(とくしょうこう) → 忠光(ただあきら・水野みずの、藩主/和学) Z 2 6 7 4

L3106 独笑斎(とくしょうさい・曾禰そね)?- ? 雑俳:1750?「松の雨」に奉納天満聖廟の前句付選入

得乗坊(とくじょうぼう) → 貫允(かんいん、天台僧) P 1 5 9 5
独松楼(とくしょうろう) → 半江(はんこう・岡田おかだ、文人画家) H 3 6 5 8
読書室((とくしょしつ) → 亡羊(ぼうよう・山本やまと、医者/本草家) C 3 9 6 5
読書堂(とくしょどう) → 貞章(さだあき・中小路なかこうじ/平、国学) O 2 0 9 3
徳四郎(とくしろう・片岡) → 徳(とく・片岡かたおか/源、国学/歌人) K 3 1 4 0
徳四郎(とくしろう・末松) → 則安(のりやす・末松すえまつ、里正/国学) I 3 5 7 2

S3187 徳次郎(とくじろう・眞刀しんとう) 1761-89 処刑 29歳 江中期上野出身の神道流剣術家、
大盗賊;十数人の手下を率い陸奥・常陸・上総・下総・下野・武州を荒らし廻る。
移動時は公儀御用を偽装し警戒網を突破;押込強盗・海賊行為、
火付盗賊改方長谷川宣以(平蔵)により捕縛;武州大宮宿で手下と共に獄門、
通称;神稲小僧しんとうこぞう、没後1793三島正英まさひでの実録小説「天明水滸伝」により有名;
以後歌舞伎に脚色され平蔵の勇名とともに伝説化する

篤二郎(とくじろう・長野) → 南山(なんざん・長野ながの、絵師) J 3 2 1 3
篤二郎(とくじろう・柏屋/村瀬) → 澹(あわし・村瀬むらせ、製造業/歌人) H 1 0 3 8
篤次郎(徳次郎みとくじろう・国重) → 正文(まさふみ・国重くにしげ、藩老/国学) P 4 0 4 0
篤次郎(とくじろう・吉田) → 懿長(よしなが・吉田よしだ、国学/歌人) Q 4 7 0 7
徳次郎(とくじろう・西川) → 晩翠(ばんすい・西川にしかわ、心学者) I 3 6 2 0
徳次郎(とくじろう・守住/庄野) → 貫魚(つらな・守住/庄野、藩絵師) E 2 9 4 2
徳次郎(とくじろう・鈴木) → 李東(りとう・鈴木すずき、里長/俳人) C 4 9 2 9
徳次郎(とくじろう・島津) → 忠寛(ただひろ・島津しまつ、藩主/国学) X 2 6 5 5
徳次郎(とくじろう・谷) → 勤(いそし・谷たに、藩士/神職/歌人) K 1 1 4 2
徳二良(とくじろう・中川) → 昌房(まさふさ・中川なかがわ、読本作者) H 4 0 1 7
徳辰(とくしん・井坂) → 徳辰(あつき・井坂、神職/歌人) E 1 0 7 0
得臣(とくしん・木村) → 梅軒(ばいけん・木村きむら、儒者/詩) B 3 6 0 7
得信(とくしん・中野) → 南山(なんざん・中野、史家/天文/歌謡) J 3 2 0 6
篤信(とくしん・青山/杉山) → 篤信(あつのぶ・杉山すぎやま、廷臣/医者) E 1 0 7 3
篤信(とくしん・栗山) → 篤信(あつのぶ・栗山、サハリン探検) E 1 0 7 5
篤信(とくしん・福田) → 峨山(がさん・福田、藩士/国学) L 1 5 7 2
篤信(とくしん/あつのぶ・穴沢) → 杳斎(ようさい・穴沢あなざわ、藩士/暦学) 4 7 9 1
篤信(とくしん・中川) → 篤信(あつのぶ・中川なかがわ、漢学/神道) I 1 0 1 0
篤親(とくしん・宮田) → 篤親(あつちか・宮田みやた/島崎、神道/国学) L 1 0 6 0
篤親(とくしん・本時) → 篤親(あつちか・本時もととき、神道/国学) I 1 0 5 4
徳信(とくしん・長) → 鷲山(おうざん・長ちよう、儒者) C 1 4 4 3

S3160 徳仁(とくじん・楊よう、文鳳[1744-1806]男)?-? 琉球首里の漢学者/詩人;「四知堂詩集」著

独慎(とくしん・岡島) → 林斎(りんさい・岡島おかじま、幕臣/絵師) K 4 9 3 1
独慎庵(とくしんあん) → 行(すむ・宮沢みやざわ、国学者) J 2 3 2 8
徳信院(とくしんいん) → 直子(たけこ・一橋、歌人) C 2 9 0 8
篤信院(とくしんいん) → 光俊(こうしゅん;法諱、天台僧) J 1 9 5 8
篤信斎(とくしんさい) → 弥九郎(やくろう・斎藤、武芸/兵法家) 4 5 5 2
篤信斎(とくしんさい) → 才尾(さいび・椎本しいのもと・豊島、俳人) B 2 0 0 7

- L3107 **得水**(とくすい・赤井あかい、名;明啓/通称;文[次]治郎)1690-1746⁵⁷ 加賀金沢の儒者;林家門、
書家:井手正水門/佐々木津麿門、1724「筆法蒙引」、1727佚斎樗山「田舎荘子」外編の序、
1729「漢朝文異体」「同文異体」、39「字府永凝帖」書、「誹諧閨梅」「時用文案」「誹諧閨梅」著
- L3108 **得水**(とくすい・金森かなもり)1786or88-1865^{80or78} 伊勢田丸城代(田丸藩)久野丹波守家に出仕/家老、
国学者:本居大平・富樫広蔭門、歌;有栖川宮家入門、
茶道:表千家10世吸江斎宗左門:皆伝を受け宗匠、茶事に精通、陶器の鑑定、
小池流水術の達人、文武両道、晩年;新田開発を実施、
1857「詠物四百首」「本朝陶器攷証」、「古今茶話」(50巻)、「備前国伊部陶甗」著、
「習事十三ヶ条」著、
[得水(;号)の名/字/通称/別号]名;長興ながおき、字;長与、通称;仲、
別号;琴屋/琴屋叟/玄甲舎
- L3109 **徳水**(とくすい・中村なかむら、名;道貫、井原喜平太男)1800-56⁵⁷ 中村徳右衛門の養子/安藝広島藩士、
心学;矢口来応・大島有隣門、江戸で心学講話、1825広島藩勘定所出仕;27江戸詰、
1829京明倫社より三社印鑑を受;広島に敬信舎創設/1845江戸の参前舎主/諸国を遊説、
「祭文」「石門矢口来応先生心学初入話」著、
[徳水(;号)の通称/法号]通称;兵蔵/内蔵助、法号;東護院
- L3110 **得水**(とくすい・吉田) ? - ? 江後期歌人:片岡寛光ひろみつ[1778-1838]門、
清水礫洲[1800-59]の師
- 得水(とくすい・山原) → 千秋(ちあき・山原やまはら、俳人/国学) N 2 8 7 2
 徳水(とくすい・八功舎) → 種清(たねきよ・柳水亭、戯作者) G 2 6 3 6
 得水(とくすい;号) → 理山(りざん;法諱・三津みつ、真宗仏光寺派僧) B 4 9 1 3
 恵随(とくすい・松井) → 徳隣(のりちか・松井まつい、藩医/歌人) J 3 5 9 9
 独酔舎(とくすいしゃ) → 国輝(初世くにてる・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 8
 独酔舎(とくすいしゃ) → 国直(初世くになお・歌川うたがわ、絵師) 1 7 7 9
 徳垂霊神(とくすいれいしん) → 以文(もちぶみ・山田/藤とう、神職/故実) B 4 4 6 3
- 3140 **篤助**(初世とくすけ・奈河ながわ)1764-1842⁷⁹ 和泉の一向宗の僧;還俗/大阪で歌舞伎作者:
初世奈河七五三助しめすけ門、奈河十九助の名で狂言方/寛政年間から合作、
1795京四条南側芝居の立作者;篤助に改名/上方の代表作者;頭髪赤く[猩々の篤助]の称、
1810江戸中村座に滞在;歌右衛門の人気で大当り、歌右衛門の俳名一洗を譲られる、
1816以降は一洗・二世亀輔・金亀堂一泉と次々改名;1835作者廃業/京真葛が原で茶店;
一服一泉と称す、1795「極彩色倭絵草紙」96「雨夜の時鳥」97「浅草霊験記」著、
1800「恵宝大功記」04「風流つり狐」06「けいせい齋佳節なすなのせつく」08「けいせい品評林しなさだめ」、
1810「道中娘菅笠」11「東都名物錦絵始おえどめいぶつにしきえのはじまり」「花菖蒲佐野八橋」、
1812「台頭霞彩幕だいがしらかすみのいろまく」(合作)、13「傾城繁夜話しげしげやわ」20「糸のもつれ」外著多数
[篤助(;号)の別号]十九助[介]とくすけ/亀助/一洗/亀輔2世/金亀堂一泉/一洗堂、法名;達伝
- 篤助(2世とくすけ・奈河) → 芝助(しばすけ・金沢かなざわ、歌舞伎作者) F 2 1 4 9
 篤甫(とくすけ・大井) → 雪軒(せつけん・大井おおい、儒者) E 2 4 1 9
 篤甫(とくすけ・大谷) → 実徳(さねのり・大谷おおたに、勤王過激派) O 2 0 1 3
 十九助(十九介とくすけ・奈河) → 篤助(初世とくすけ・奈河ながわ、歌舞伎作者) 3 1 4 0
 徳助(篤助とくすけ・中島) → 元章(もとあき・中島、大庄屋/郷土史) B 4 4 9 6
 徳助(とくすけ・平井) → 収二郎(しゅうじろう・平井、藩士/尊攘) X 2 1 5 9
 徳甫(とくすけ・黒沢) → 深谷(しんこく・黒沢くろさわ、藩医/詩人) O 2 2 3 6
 徳甫(とくすけ・大立目) → 克明(よしかき・大立目おのだめ、儒者) B 4 7 9 9
 徳輔(とくすけ・鈴木) → 宜山(ぎざん・鈴木すずき、藩士/儒・医者) I 1 6 5 9
 徳輔(徳祐とくすけ・植木/杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
 徳成(とくせい・溝口) → 徳成(のりなり・溝口みぞぐち、藩士/弓術家) F 3 5 3 7
 徳成(とくせい・通用亭/善野) → 徳成(とくなり・通用亭、戯作/狂歌) L 3 1 2 6
 徳成(とくせい) → 徳成(とくじょう;法諱、真宗大谷派僧) L 3 1 0 0
 徳成(とくせい・村沢) → 徳成(のりなり・村澤むらさわ、藩士/歌人) K 3 5 1 4
 徳盛(とくせい・森田) → 千庵(せんあん・森田もりた、蘭学/医者) L 2 4 5 5

徳政(とくせい・堀家) → 徳政(のりまさ・堀家ほりけ、神職/歌人) J 3 5 3 8
 徳精(とくせい・木下) → 徳精(のりきよ・木下きのした、国学/信仰) I 3 6 0 9
 得生(とくせい・貝原) → 東軒(とうけん・貝原/江崎、益軒妻) D 3 1 3 0
 得清(とくせい・小松) → 正徹(しょうてつ;法諱・清巖;道号、臨濟僧/歌人) 2 2 4 1
 篤成(とくせい・花岡) → 篤成(あつげ・花岡なほか、商家/国学者) I 1 0 2 9
 篤静(とくせい・多田) → 東溪(とうけい・多田ただ、書家/儒者) D 3 1 0 8
 独醒(とくせい・横池) → 春斎(しゅんさい・横池/横地、藩士/儒者) J 2 1 6 9
 独醒(とくせい・雛田) → 中清(なかきよ・雛田ひなだ、神職/国学/歌) L 3 2 1 6
 独醒(とくせい・金子) → 杜俊(とくせい・金子かねこ/橋、国学者) F 4 4 9 6
 独清(とくせい;号) → 雲臥(うんが;法諱、浄土僧) D 1 2 5 9

L3111 **独醒菴**(とくせいあん・武嶋/武島たけしま、名;寛容、優々斎男)?-? 江後期武州秩父大田村の医者;父門、
 「傷寒難語解稿」著、
 [独醒菴(;号)の通称] 千代蔵

独醒庵(とくせいあん・平賀) → 蕉斎(しょうさい・平賀、詩人) S 2 2 3 3
 独醒庵(とくせいあん・松岡) → 貞義(さだよし・松岡まつおか/深見、医者) P 2 0 4 0
 徳正院(とくせいいん) → 宗矩(むねのり・松平まつだいら、藩主/学問) C 4 2 2 2
 独醒園(とくせいえん) → 杜俊(とくせい・金子かねこ/橋たちばな、国学者) F 4 4 9 6
 独醒居(とくせいきよ) → 明矩(あきのり・松平、藩主/詩人) D 1 0 7 6
 得生軒(とくせいけん・秋月) → 橋門(きつもん・秋月、儒者) I 1 6 6 6
 得生軒(とくせいけん) → 鎮山(ちんざん・楢林ならばやし、通詞/蘭医者) K 2 8 7 2
 独清軒(とくせいけん) → 玄恵(げんえ、天台僧/宋学/歌/連歌) 1 8 0 8
 独醒軒(とくせいけん) → 国臣(くにのみ・平野/大中臣、国学/勤王/歌) 1 7 0 6
 得正軒主人(とくせいけんしゅじん) → 米山(べいざん・三輪田みわた、神職/書家) 2 7 4 5
 得成寺(とくせいじ;法号) → 道香(みちか・一条/藤原、摂政/歌人) B 4 1 2 9

L3112 **特泉**(とくせん;道号・?琳;法諱)?-? 江中期近江坂田郡梅之原村の曹洞僧:江岸寒沢[1613-94]門、
 「江岸禅師行状」著

得僊(得仙とくせん;法諱) → 竺山(じくざん;道号・得僊[得仙]、曹洞僧) Q 2 1 4 1
 徳先(とくせん・大村) → 周斎(しゅうさい・大村おむら、漢学者) H 2 1 4 2
 徳詮(とくせん・林) → 述斎(じゅっさい・林/松平、幕府儒官) I 2 1 9 4
 徳善院(とくぜんいん) → 玄以(げんい・前田まえた、武将/歌/連歌) F 1 8 1 6
 徳禅師(とくぜんじ) → 有林(ゆうりん;法諱、臨濟僧/医者) E 4 6 0 3
 徳善女(とくぜんのみすめ・胸形部むなかたべ) → 尼子娘(あまこのいらつめ、天武天皇妃) F 1 0 0 5

L3113 **徳叟**(とくそう;道号・周佐しゅうさ;法諱、諡号;宗猷達悟禅師) 1324-1400 77 常陸の臨濟僧:幼少時出家、
 上京し夢窓疎石・春屋妙葩門、1382頃鎌倉瑞泉寺住/1384天竜20世;86再任/92南禅寺49世、
 南禅寺正因庵に退隠、「天竜語録」著、「智覚普明国師語録」編

L3114 **督宗**(とくそう;道号・紹董じょうどう;法諱、号;蹇驢けんろ道人) 1513-75 63 山城臨濟僧:徹岫宗久門/法嗣、
 1564大徳寺109世、「活套」著

3141 **徳三**(とくそう・近松ちかまつ) 1751-1810 60 俳人一炊庵紹廉の孫/大阪坂町の娼家大枡屋経営、
 幼少より芝居好き、歌舞伎作者:近松半二門、1781初世奈河亀輔の二枚目作者;徳蔵名、
 1784徳叟に改名、初世並木五瓶・辰岡万作の助作者/1795徳三と改名;96上方で立作者、
 御家物/世話物を得意/俳人、1793「傾城楊柳櫻やなぎざくら」(万作と合作)、97「浅草靈験記」、
 1798「傾城狭妻櫛」99「けいせい会稽山ゆきみるやま」1801「銘作切籠曙」09「傾城輝草紙いなづまどうし」、
 1809「舞扇南柯話」「競だてくらべかしくの紅翅べにがき」/10「厩喜三太韁勝鬃-きずなのからどき」外著多数、
 [近松徳三(;号)の通称/別号]通称;大枡屋徳右衛門、

別号;近松徳蔵(初号)/近松徳叟、雅亮がりょう(;俳名)、法号;一如院

徳叟(とくそう・近松) → 徳三(とくそう・近松、歌舞伎作者) 3 1 4 1
 徳叟(とくそう・今村) → 真幸(まさき・今村/北原/源、国学者) C 4 0 2 8
 徳操(とくそう・櫻) → 国輔(くにすけ・櫻さくら、農家/儒者/勤王) E 1 7 2 1
 特叟(とくそう・佐野) → 武保(たけやす・佐野さの、藩士/系譜) O 2 6 8 5
 読騒(とくそう・曾谷) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8

- S3185 **徳蔵**(とくぞう・淵辺ふちべ) ? - ? 幕末明治期/幕臣;遣欧使節随員;1862ロンドンに渡航、
オランダ・ロシア・ポルトガルを歴訪/帰国;外国奉行支配調役/68大目付付属、1862「欧行日記」著
- 徳蔵(とくぞう・齋藤) → 永叟(ながのり・齋藤さいとう、藩士/歌人) F 3 2 3 2
 徳蔵(篤蔵とくぞう・齋藤) → 永配(ながとも・齋藤、藩士/歌人) E 3 2 9 7
 徳蔵(とくぞう・齋藤) → 拙堂(せつどう・齋藤、儒者/藩学/詩歌) 2 4 2 1
 徳蔵(とくぞう・近松) → 徳三(とくそう・近松、歌舞伎作者) 3 1 4 1
 徳蔵(とくぞう・野口) → 年長(としなが・野口/藤原、国学者) N 3 1 2 1
 徳蔵(とくぞう・高洲/国司) → 親相(親輔ちかすけ・国司くにし、藩士/歌) B 2 8 0 6
 徳蔵(とくぞう・伊藤) → 輻斎(ゆうさい・伊藤いとう、儒者/古義学) B 4 6 8 0
 篤三(とくぞう・寺田) → 礪山(れいざん・寺田てらだ、俳人) 5 1 3 1
 読騷(とくそう・曾谷/読騷庵) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8
 徳相軒(とくそうけん) → 盛英(もりひで・井関/越智/井門、藩士) G 4 4 3 1
 独叟山房(とくそうさんじん) → 積(せき・勝屋しょうや/静間、国学者) O 2 4 1 9
- L3115 **禿帚子**(とくすうし) ? - ? 大阪の浪花絵本作者;1764「絵本花葛蘿」著;春信画、
1765「絵本江戸紫」著;豊信画/66往来物「百姓往来」著
- 徳則(とくそく・三宅) → 元信(もとのおぶ・三宅みやけ、商人/儒者) D 4 4 7 2
 篤則(とくそく・中山) → 篤則(あつのり・中山なかやま、藩士/歌人) I 1 0 1 5
 篤太(とくたい・高尾) → 篤太郎(とくたろう・高尾たかお、藩士/儒者) L 3 1 1 8
- L3116 **徳大**(とくだい) ? - ? 江中期俳人、
1754潘山「しぐれの碑」貞因貞峨追善集;六々韻入
- 徳大寺前内大臣(とくだいじさきのないだいじん:新拾遺) → 公清(きんきよ・徳大寺とくだいじ) D 1 6 8 9
 徳大寺左大臣(とくだいじさだいじん) → 実能(さねよし・藤原、歌人) D 2 0 7 6
 徳大寺入道前太政大臣女(とくだいじのにゅうどうのさきのだいにじょうだいじんのむすめ) →
 実基女(さねもとむすめ・徳大寺、続拾遺歌人) D 2 0 7 0
 得大理(徳大理とくだいり) → 得大理(徳大理とくだいり・他田日奉直、防人歌人) L 3 1 7 4
- L3117 **篤太夫**(とくたゆう・重松しげまつ/修姓;張、名;驥)?-1800 尾張藩士;藩校明倫堂書記/徒目付、
詩;岡田新川門、能書家、「尾張藩古義」「尾張国古義」「古義」著/1781「尾張地方古義」編、
[篤太夫(;通称)の字/別通称/号]字;千里、別通称;忠左衛門、号;錦江/鷺洞、法号;重松院
- 徳太夫(とくたゆう・島井) → 宗室(そうしつ・島井、豪商/日記) H 2 5 6 6
 徳太夫(とくたゆう・守屋) → 昌綱(まさつな・守屋もりや/磯部、神職/国学) D 4 0 9 9
 徳太夫(とくたゆう・富本) → 竹徳(たけのり・富本とみもと/杉野、神職/歌) Y 2 6 4 3
- L3118 **篤太郎**(とくたろう・高尾たかお、別名:篤/篤太、字:太卿)?-?早世(26歳没) 江後期高松藩士/儒者:
江戸昌平黌に修学、高松藩江戸小石川藩邸で没;松崎慊堂が墓表を揮毫、
塩谷宕陰と親交、「太卿遺文」
- L3119 **徳太郎**(とくたろう・永見ながみ、別通称;福十郎)?-? 江後期肥前長崎の薬種砂糖問屋/薩摩藩御用達、
長崎銅座町住/オランダ貿易と大名貸しで財、1865「算法進学階梯」著
- T3100 **篤太郎**(とくたろう・浅井あさい、名;正典まさつね、樺園かえん男)1848-1903⁵⁶ 尾張の医者/古学;冢田謙堂門、
儒/程朱学;中山梅軒・細野要齋門、脈法;河田春意門、1866尾張藩医学館代講、
1869医学館廃止;藩校明倫堂で教鞭/のち医開業;漢方医学復興に尽力、「古医方小史」著、
[篤太郎(;通称)の別称/号]初通称;徳太郎、号;国幹/淡海/独善庵、法号;正徳院
- 徳太郎(とくたろう・酒井) → 忠以(たださね・酒井、藩主/歌・俳人) F 2 6 0 8
 徳太郎(とくたろう・松平/榊原) → 月堂(げつどう・榊原さかさばら、幕臣/書家) H 1 8 3 0
 徳太郎(とくたろう・田中/安藤) → 広重(ひろしげ・歌川/安藤、幕臣/絵師) G 3 7 0 2
 徳太郎(とくたろう・幡頭/吉野/杉田) → 玄端(げんたん・杉田すぎた、医者) K 1 8 3 6
 徳太郎(とくたろう・頼) → 山陽(さんよう・頼らい、漢学/詩人) 2 0 5 8
 徳太郎(とくたろう・齋藤) → 誠軒(せいけん・齋藤さいとう、儒者/詩人) B 2 4 2 7
 徳太郎(とくたろう・松木/寺島) → 宗則(むねのり・寺島/松木/長野、洋学/外交) C 4 2 2 3
 徳太郎(とくたろう・長谷川) → 貞信(ていしん・長谷川はせがわ、絵師) F 0 3 2
 徳太郎(篤太郎とくたろう・河田) → 小竜(しょうりゅう・河田/土生、絵師) B 2 2 9 6

- 徳太郎(とくたろう・久米) → 習齋(しゅうさい・久米くめ、詩人) X 2 1 3 4
 徳太郎(とくたろう・丹羽) → 嘯堂(しょうどう・丹羽にわ/源、漢学/医者) R 2 2 6 0
 徳太郎(とくたろう・恩田) → 柳圃(りゅうかん・恩田おんだ、儒者/詩人) D 4 9 2 8
 徳太郎(とくたろう・佐々木) → 義高(よしたか・佐々木ささき、歌人) N 4 7 0 2
 徳太郎(とくたろう・梅村) → 眞守(まもり・梅村うめむら/坂本/金子/小林/平、勤王家) O 4 0 0 1
 得太郎(とくたろう・高島) → 米護(よねり・高島たかぼたけ、商家/国学) N 4 7 7 3
 篤太郎(とくたろう・加藤) → 高文(たかふみ・加藤/中田、国学/歌人) N 2 6 1 5
 篤太郎(とくたろう・吉村) → 春峰(しゅんぼう・吉村よしむら、庄屋/国学) L 2 1 9 0
- L3120 **独湛**(どくたん;道号・性瑩しょうけい;法諱、俗名;陳其昌、陳翊宣男) 1628-170679 清福建黄檗僧:隠元門、
 1654隠元隆琦と渡来/64隠元の法嗣、浜松の宝林寺・上州岩宿の国瑞寺を開山、
 1881万福寺4世、92獅子林に退隠、浄土経も兼修し[念仏独湛]と称さる、「隠元禪師語録」、
 「隠元禪師普門草録」「永思祖徳録」編、「雲濤二集」「黄檗国師書問集」編、「当麻図記」、
 「輓偈称讃浄土詠」「独湛性瑩禪師語録」「独湛和尚開堂法語」「独湛禪師全録」外著多数
- L3121 **独癡**(どくち;道号・浄養じょうよう;法諱、初め洪音浄機こうおんじょうき)?-1764 1717黄檗僧;泰宗元雄門、
 泰宗の嗣法、1755河内丹南郡今井村の法雲寺20世/59退隠、「法雲進寺開堂録」著
 独知(どくち;初号) → 性機(しょうき;法諱・慧林;道号、黄檗僧) H 2 2 9 3
 独知翁(どくちおう) → 百庵(ひゃくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
- L3122 **徳忠**(とくちゅう;法諱・節香せつこう;道号、城主伴野光利男) 1475-1570長寿96歳 信州前山の曹洞僧:
 1487出家、茂林寺南溪門/慶徳字嫩桂門/仲孚正異門;嗣法、1521信州前山に貞祥寺を開山、
 埴科郡禅透院・高井郡温泉寺・佐久郡雲興寺開山、1688「洞源家訓」著、
 正親町天皇より禪師号、
 [節香徳忠の諡号] 円明禪師
- L3123 **徳冲**(とくちゅう) ? - ? 江中期天台宗叡山密厳院の住僧、
 1779「弘誓院故権僧正玄照行業記」著
 篤忠(とくちゅう/あつただ・川瀬/桜井) → 東亭(とうてい・桜井、儒者/詩人) G 3 1 5 7
 徳忠(とくちゅう・檜山) → 坦斎(たんさい・檜山ひやま、書画鑑定/花押) T 2 6 5 3
 得中(とくちゅう・田中) → 訥言(とつげん・田中、土佐派絵師/狂歌) O 3 1 4 6
 得中(とくちゅう・吉良) → 通恒(みちつね・吉良きら、歌人) I 4 1 8 4
- L3124 **獨冲**(どくちゅう;法諱・洞雲とうん;道号、俗姓相馬) 1689-174052 信州佐久の曹洞僧;1701月照文江門、
 1723信州自成寺住持/28竜雲寺住持、「洞雲禪師語録」「不忍止稿」(1790刊)/「紅葉下草」著
 得中堂(とくちゅうどう) → 牧斎(ぼくさい・田中/源/富永、儒者) D 3 9 1 0
 篤長(とくちゅう・有馬) → 篤長(あつなが・有馬ありま、藩国老/国学) G 1 0 9 1
 督暢(とくちゅう・青木) → 金山(きんざん・青木あおき、儒者) R 1 6 0 8
 独長庵(どくちゅうあん) → 石斎(せきさい・高石、俳人) D 2 4 4 9
 得直(とくちゅう・松永) → 得直(とくなお・松永まつなが、俳人) T 3 1 1 7
 徳通(とくちゅう・熊谷) → 敬直(のりなお・熊谷くまがい、藩士/記録) F 3 5 2 9
 徳通(とくちゅう・富永) → 芳春(ほうしゅん・富永、商家/和漢学者) B 3 9 6 4
 徳亭三孝(とくていさんこう) → 三孝(さんこう・徳亭とくてい、狂歌/戯作) E 2 0 3 1
 徳天(とくてん・松川) → 東山(とうざん・松川、儒者/詩人) E 3 1 5 5
 徳天(とくてん・渡辺) → 蘆園(こうえん・渡辺わたなべ、医者/詩文) H 1 9 6 7
 得天(とくてん・費) → 晴湖(せいこ・費ひ、渡来商人/絵師) H 2 4 6 1
 得天斎(とくてんさい・高島) → 千春(ちはる・高島/高嶋たかしま、絵師) F 2 8 1 9
 独徳(どくとく・佐々木) → 利綱(としつな・佐々木、医/詩歌) M 3 1 8 9
 独得(どくとく・堅田) → 絨造(じゅうぞう・堅田かただ、医者/本草家) X 2 1 9 0
 得々庵(とくとくあん) → 良致(よしむね・宮川みやがわ、茶道/歌) P 4 7 3 7
 得々山人(とくとくさんじん) → 恒斎(こうさい・片山/杉野、藩士/儒者) F 1 9 0 3
- L3125 **徳内**(とくない・最上もがみ、名;元吉/常矩、字;子員、高宮甚兵衛男) 1755-183682 出羽楯岡村農業、
 1781江戸/医;山田凶南門/算学;串原正峯門/天文・航海;本多利明門、85幕府蝦夷調査参加、
 1789アイヌ蜂起を調査;青島俊蔵問責事件連座;入獄/赦免/普請役;千島樺太探検調査、
 1800材木御用掛/箱館奉行支配調役;シャリ・樺太滞在、アイヌ語・露語学習、「蝦夷志」著、

1786「蝦夷草子(松前風土記)」著;初のアイヌ文学紹介(ユーカラを「蝦夷浄瑠璃」と称す)、「唐太記」「北陸隨筆」「蝦夷新話」「赤蝦夷風説考」「詩文押韻策」、1786「魯齊亞国紀聞」著、
[徳内の通称/号]通称;房吉/俊治/徳内(初世)/億内、
号;鶯谷おうこく/甌山そうざん/白虹斎、効進の父

- T3117 **得直**(とくなお・松永まつなが) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第四若竹脇句入、
[五月雨ふるき宮の拝殿](若竹脇句、降ると古きを掛る、
発句平野市女;若竹の千世もと祈る氏子哉)
- L3126 **徳成**(とくなり・通用亭つうようてい、姓;善野) 1769-? 1856存 下野栃木下町の農具商[釜屋]、
狂歌:唐衣橋州門/判者、釜屋には安永1772-81頃喜多川歌麿が来訪滞在、
戯作、1837「敵鯉差身之業物かたきがつおさしみのわざもの」作、56「都賀のやままつ」編、「四季の遊」編、
[通用亭徳成(;号)の通称]通称;釜喜4世/喜右衛門、屋号;釜屋
得入(とくにゅう・江間・西村/長島)→寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5
- K3192 **徳潤**(得潤とくにくん、塩津しおつ和平治男) 1767-1824毒殺 58 播磨揖保郡広山村の真宗本願寺派僧;
実慧の養嗣子、揖保郡香山の宝林寺住職、宗乗を修学;常照門、三業の徒に破邪顕正の功、
1824制定後最初の勸学職、反論者に妬まれ毒殺?、1814「高僧和讃竜天曇章筆記並科文」著、
[徳潤(;法諱)の字/号]字;深慧しんえ/しんね、号;香嶺
- L3127 **得仁**(とくにん;法諱・学霊;字、俗姓;小野) 1771-1843 73 阿波徳島の真言僧;1782法幢門;出家、
1787荘厳院諦道門;伝法灌頂を受/高野山で修行、1815随心院住/18集議/24幕命で碩学、
1826高野山無量寿院門主、1825「行法義記」「真言深義集」、33「弘法大師年譜」、
「続弘法大師年譜」「課誦規制」「般若心経秘鍵玄談科門」「般若理趣経秘補忘記」著
篤任(とくにん/あつとう・中屋/高山)→寅吉(とらきち・高山、天狗小僧、国学) R 3 1 7 2
徳能(とくのう・河野) → 徳能(のりよし・河野こうの/土持、国学) I 3 5 4 8
徳之丞(とくのじょう・浅香)→ 重昌(しげまさ・浅香あさか、和算家) S 2 1 6 9
篤之丞(とくのじょう・南部)→ 信順(のぶゆき・南部なんぶ/島津、藩主) G 3 5 7 6
- L3128 **徳之進**(とくのしん・戸部とべ/初姓;野見のみ、名;春行) ?-? 戸部愿山の養嗣、土佐藩儒:藩校教授役、
1808「江南商話」著、
[徳之進(;通称)の別通称] 助之丞
徳之進(とくのしん・保崎) → 教貞(のりさだ・保崎ほさき、藩士/歌人) J 3 5 9 3
篤之進(徳之進とくのしん・武田)→ 眞元(しんげん・武田たけだ、暦算家) O 2 2 2 3
篤之助(とくのすけ・山中) → 信古(のぶふる・山中、藩士/本草家) D 3 5 2 2
篤之助(とくのすけ・芝原/川喜田)→ 重盈(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学) O 2 1 1 0
徳之助(とくのすけ・鈴木) → 益堂(えきどう・鈴木すずき、儒者) D 1 3 6 8
徳之助(とくのすけ・中村) → 重助(2世じゅうすけ・中村、歌舞伎作者) H 2 1 8 1
徳之助(とくのすけ・松本) → 魯堂(ろどう・松本まつもと/源、藩儒/城代) C 5 2 2 7
徳之助(とくのすけ・三谷) → 永錫(えいしゃく・狩野かのう/三谷、絵師) U 1 3 0 7
徳之助(とくのすけ・米屋/飯田)→ 桂山(けいざん・飯田、醸造業/詩人) D 1 8 4 8
徳之助(とくのすけ・中島) → 元章(もとあき・中島、大庄屋/郷土史) B 4 4 9 6
徳之助(とくのすけ・村井) → 素大(そだい・村井むらい、地主/俳人) K 2 5 0 3
徳之助(とくのすけ・金子) → 霜山(そうざん・金子、藩儒/藩政改革) B 2 5 6 2
徳之助(とくのすけ・西田) → 楽山(がくざん;法諱、融通念仏僧) V 1 6 6 1
徳之助(とくのすけ・石井/種野)→ 友直(ともなお・種野/石井、藩士/漢学) Q 3 1 0 5
徳之助(とくのすけ・伊地知)→ 貞馨(貞香さだか・伊地知いぢち、藩士/国事) H 2 0 8 7
- L3129 **徳則**(とくのり・林はやし、字;茂仲、広右衛門男) 1804-1861 58 石見邇摩郡五十猛村の豪農:酒造業、
儒;佐和華谷門/のち頼山陽門、画;中林竹洞門、1819(19歳)年寄役/大庄屋兼任;新田開発、
大浦港修築/海防対策;石見海岸に大砲設置、1832上洛;梁川星巖や梅田雲浜らと交流、
1835晩翠学舎を設置;伊藤宜堂・城長洲を招聘し子弟教育/1858幕吏に捕縛;すぐ釈放、
「対潮楼詩鈔」/1845「海防私議」著、
[徳則の号] 晩翠/天民/柏堂/碧濤斎、海防先生と称さる
徳八(とくはち・高橋) → 門限面堂(もんげんめんどう、狂歌) I 4 4 2 0

- 篤斐(とくひ/あつせ・内村)→ 鱸香(ろこう・内村うちむら/本郷屋、藩儒) B 5 2 4 7
 徳美(とくび・中村) → 松洲(しょうしゅう・中村なかむら、商家/儒者) J 2 2 5 3
 独美(とくび・池田) → 錦橋(きんきょう・池田いけだ、医者) Q 1 6 7 9
 秃筆庵可一(とくひつあんかいつ)→ 英寿(えいじゅ・景斎、絵師/戯作) C 1 3 8 9
- L3130 得夫(とくふ) ? - ? 江中期俳人、
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
 [源氏解く昔ぞゆかし綿帽子](しぐれの碑/貞峨の講席の様子を懐旧)
- L3131 徳布(とくふ・横山よこやま、名;重政)?-? 三河の俳人:2世素丸門、武蔵葛飾住、
 1781「辛丑春興」/1785江戸から三河に帰省し京・伊勢に紀行;1786「旅のひとつ」、
 1796「素丸発句集」97「丁巳歳旦」1800「庚申歳旦」編、1803「癸亥元除春遊」外著多数、
 [徳布(;号)の通称/別号]通称;重右衛門、別号;如是庵によぜあん/絢堂けんどう3世/佳日庵
- 篤夫(徳夫とくふ・間宮/大草)→ 公弼(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家) G 1 6 2 3
 篤夫(とくふ・あつお・阿万) → 鉄崖(てつがい・阿万あまん、藩儒) C 3 0 2 1
 篤夫(とくふ・あつお・平沢) → 随菴(ずいりゅう・平沢ひらさわ、卜占家) F 2 3 1 5
 徳夫(とくふ太宰) → 春台(しゅんたい・太宰ださい/平手、儒者) 2 1 6 2
 徳夫(とくふ・賀川) → 有斎(ゆうさい・賀川かがわ、産科医) B 4 6 7 3
 徳夫(とくふ・船曳) → 卓堂(たくどう・船曳ふなびき、医者) H 2 6 7 0
 徳夫(とくふ・永山) → 二水(じすい/にすい・永山ながやま、藩儒) T 2 1 9 6
 徳夫(とくふ・安東) → 貞敏(さだとし・安東あんど、藩士/国学/詩) N 2 0 7 4
 徳夫(とくふ・松田) → 直温(なおほる・松田まつだ、国学者) O 3 2 8 5
 徳夫(とくふ・星野) → 恒(ひさし・星野ほしの、儒者/史家) K 3 7 9 4
 得夫(とくふ・とくお・菱田) → 百可(ひゃっか・菱田、俳人) E 3 7 9 3
- L3132 得蕪(とくぶ・井上いのうえ、別号;福芝斎)?-1858 甲斐の俳人:蓼松門/江戸住、「木かくれ」、
 1829「稻雀」編、48「かり日記」、「やまどり集」著、48言山「蕉風不易体新五歌仙」歌仙入、
 1854「類題漉海苔集」著
- L3133 徳風(とくふう/よしかぜ・富田とみた/修姓;陸)?-1812 代々越中高岡の町年寄;豪商、
 儒者:京の皆川淇園門/国学者;1790本居宣長・大平門、1806修三堂設立;海保青陵等を招聘、
 「高岡湯話」「南瓜集」1812「ふもとのしるべうた」著、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
 [ほととぎすわが待ちをればかきかぞふ二上が根をいづる初声](八十浦;777)、
 [徳風(;号)の名/字/通称/別号]名;助/美宏/可広よしひろ、字;子順/順天、
 通称;横町屋弥三右衛門やそえもん/八十右衛門/横町新左衛門、
 別号;松斎/晴雪窓/冬青園/修三堂/町乃舎/幸廼舎さちのや/恒亭
- 徳風(とくふう・小倉/山路)→ 徳風(よしつぐ・山路/平/小倉、幕臣/天文) E 4 7 6 7
 徳風(とくふう・南部) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
 徳風(とくふう・片岡) → 徳(とく・片岡かたおか、国学者) K 3 1 4 0
 徳風(とくふう・薮) → 関牛(かんぎゅう・薮しとみ、絵師) G 1 5 2 0
 徳風(とくふう・村沢) → 徳風(のりかぜ・村澤むらさわ/桜井、藩士/歌) G 3 5 7 4
 徳風(とくふう・蜂須賀) → 茂韶(もちあき・蜂須賀はちすか、藩主/政治) K 4 4 9 9
 徳風道人(とくふうどうじん) → 鈴応(れいおう;法諱・武川、浄土僧/俳人) B 5 1 5 5
 徳復(とくふく;別法諱) → 聞中(もんちゅう;道号・浄復;法諱、黄檗僧) I 4 4 6 6
 得夫斎(とくふさい・坪川) → 常通(つねみち・坪川つばかわ、和算家) D 2 9 8 8
 得聞(とくぶん→とくもん) → 得聞(とくもん;法諱、真宗本願寺派僧) L 3 1 4 8
 徳柄(とくへい・佐藤) → 南澗(なんかん・佐藤、絵師) I 3 2 8 1
 得平(とくへい・菅原) → 孟(たけし・菅原すがわら、医者) O 2 6 3 8
 徳平(とくへい・岡見) → 知康(ともやす・岡見、藩士/国学/農政) Q 3 1 7 3
 徳平(とくへい・原) → 方揚(まさあき・原はら、国学/歌人) R 4 0 9 3
- L3134 徳瓶(とくべい・橋本はしもと、千代春道/浮世喜楽/鶏舌斎/紫竹堂) 1758-1825 68 江戸筆耕業、
 合巻作者:1808「復讐縁小車かたきうちよすがのおぐるま」10「小野小町戯場化粧しばいのけしょう」、
 1812「黒船染姉川頭巾くろふねぞめあねがわずきん」、「東雲草紙」著

得兵衛(とくべえ・佐保屋)→ 蒼生雄(民雄たみお・西川にしかわ、国学) Y 2 6 8 2
 徳兵衛(とくべえ・天竺) → 天竺徳兵衛(てんじくとくべえ、シヤム交易) D 3 0 6 4
 徳兵衛(とくべえ・廬) → 草碩(そうせき・廬ろ、医者/本草家) I 2 5 1 9
 徳兵衛(とくべえ・西川屋)→ 斜天(しゃてん、揚屋主人/俳人) G 2 1 4 9
 徳兵衛(とくべえ・敦賀屋)→ 敦徳(つるとく、俳人) E 2 9 6 5
 徳兵衛(とくべえ・田中/安藤)→ 広重(初世ひろしげ・歌川/安藤、幕臣/絵師) G 3 7 0 2
 徳兵衛(とくべえ・安藤/歌川)→ 広重(3世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) G 3 7 0 5
 徳兵衛(とくべえ・高田) → 尚徳(なおり・/宮川、兵法家) C 3 2 0 6
 徳兵衛(とくべえ・萩原) → 元克(もとえ・萩原/佐藤、国学/教育者) C 4 4 1 6
 徳兵衛(とくべえ・野口) → 年長(としなが・野口/藤原、国学者) N 3 1 2 1
 徳兵衛(とくべえ・細田) → 恭文(やすふみ・細田ほそだ、農/養蚕/和算) C 4 5 9 1
 徳兵衛(とくべえ・田沢) → 白酔(はくすい・田沢たざわ、俳人) D 3 6 4 2
 徳兵衛(とくべえ・松永) → 花遁(かどん・松永まつなが、商家/詩人) O 1 5 2 3
 徳兵衛(とくべえ・河上/斎藤)→ 琴而(きんじ・斎藤/河上、商家/俳人) H 1 6 9 4
 徳兵衛(とくべえ・井筒) → 四郎(しろう・三升屋みまさや、歌舞伎作者) N 2 2 0 4
 徳兵衛(とくべえ・梅村) → 重得(しげり・梅村うめむら、藩士/和算家) S 2 1 1 4
 徳兵衛(とくべえ・長谷川)→ 貞信(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 2 0 4 3
 徳兵衛(とくべえ・川瀬) → 格誠(のりのお・川瀬かわせ/源、国学/歌) I 3 5 0 1
 徳兵衛(とくべえ・日下部)→ 充徳(みつり・日下部くさかべ、国学者/歌) I 4 1 9 5
 徳兵衛(とくべえ・高橋) → 乗亶(のりのお・高橋たかはし/佐野、国学) I 3 5 9 6
 徳兵衛(とくべえ・玉屋) → 矩道(くどう・村山むらやま、旅籠屋/儒者) C 1 7 5 1

L3135 徳弁(とくべん;法諱) ? - ? 江後期天台宗叡山不動院住僧、1802放生会法事次第を改変、1806「檀那院僧正八百年御忌記」「浚明院殿廿一回忌御法事記」、「安楽心院宮墓去一件記」著

L3136 徳圃(とくほ、いづつ屋新左衛門)?-? 京島原の揚屋いづつ屋主人、俳人;不夜庵社中、1772几董「其雪影」73「あけ鳥」各1句入、[土くれに何の花ぞも春の雨](其雪影;巻尾261/本歌;古今旋頭歌1007)

徳甫(とくほ・とくすけ?・山岡)→ 元隣(げんりん・山岡、俳人/仮名草子) D 1 8 2 7
 徳甫(とくほ・帆足) → 長秋(ながあき・帆足ほあし、神道/歌学) D 3 2 1 0
 徳甫(とくほ・大立目) → 克明(よしあき・大立目おのだめ、儒者) B 4 7 9 9
 徳甫(とくほ・黒沢) → 深谷(しんこく・黒沢くろさわ、藩医/詩人) O 2 2 3 6
 徳甫(とくほ/とくすけ・杉木)→ 有一(あrikazu・杉木すぎき、村役人/地誌) F 1 0 2 7
 徳甫(とくほ/とくすけ・駒井)→ 善政(よしまさ・駒井こまい、医者/郷土史) H 4 7 0 6
 篤甫(とくほ・椿) → 椿山(ちんざん・椿つばき、幕臣/兵学/絵師) K 2 8 7 4
 独歩庵(初世どくほあん→とつぽあん)→ 超波(長巴ちやうは・清水、俳人) J 2 8 6 6
 独歩庵(2世どくほあん→とつぽあん)→ 買明(ばいめい・交/高橋、俳人) C 3 6 0 8
 独歩庵(3世どくほあん→とつぽあん)→ 寛美(かんび・交、買明男、俳人) R 1 5 6 1

3139 特芳(とくほう;道号・禅傑ぜんけつ;法諱、諡号;大寂常照禅師)1419-1506⁸⁸ 尾張熱田臨濟僧;幼時上京、妙喜庵瑞巖門/40余歳で五山派を去り林下に入り諸師に参禅/雪江宗深門/嗣法、1478大徳寺51世;大徳寺中興の祖、妙心寺・瑞泉寺・竜安寺住持、晩年;竜安寺西源院開;隱棲、「西源特芳和尚語録」著

L3137 特芳(とくほう;道号・元英げんえい;法諱)?-? 江前期黄檗僧;1705梅嶺道雪門/嗣法、1737金竜寺広玉に譲渡、「特芳禅師開堂録」著

L3138 徳峰(とくほう;道号・即現そくげん;法諱)1661-1747⁸⁷ 江戸小石川の曹洞僧;安房長庵寺冠海門;出家、諸国行脚/密山道頭門;法嗣、羽前松山総密寺38世、禅律院開山、「蚶溝寺縁起」「観音験記」、「極楽往生要集」「無常觀念集」「童蒙訓」「真北弁惑論」外著多数/1747「統護法明鑑集」画

L3139 徳峯(とくほう・青木あおき、名;喜)1700-69?^{70?} 近江膳所の商家の生/詩文;山本北山門、歌人、「詩門一覽諺解」「唐詩礎諺解」「唐詩礎指南五律七律」著、「諸芸手引草」編 [徳峯(;号)の字/通称]字;字角、通称;芝翁

L3140 徳法(とくほう;法諱) ? - ? 1834存 江後期天台宗叡山不動院住僧;法務に従事、

1816「京都大地震依勅中堂御修法記」30「青蓮院宮御拝堂記」34「妙法院宮御拝堂記」外著多

徳方(とくほう・小牧) → 徳方(のりかた・小牧、儒者; 経史学) E 3 5 4 0
徳方(とくほう・白井) → 磯之進(いそのしん・白井しらい、藩士/紀行) F 1 1 8 9
徳方(とくほう・小林) → 畏堂(いどう・小林こばやし、儒者) E 1 1 1 6
徳方(篤方とくほう・中島) → 九華(きゅうか・中島なかじま、儒者) M 1 6 3 5
徳宝(とくほう・清水) → 蓮成(れんじょう; 法諱、日蓮僧/歌人) B 5 1 5 3
徳峯(とくほう; 道号) → 良賢(よしかた・清原きよはら、廷臣/漢学者) C 4 7 6 2

L3141 徳峰(とくほう; 道号・存雄そんゆう; 法諱、号; 大光仏国禅師、俗姓; 藤原)?-1585 駿河の曹洞僧;
幼時出家/諸方参禅/常陸下妻多宝寺の祥山瑞禎門; 嗣法/常陸頼継寺住持、
1569相模報恩寺住持/常陸下妻城主多賀谷重経の帰依; 多宝寺住/重経と衝突/下野長野住、
長谷寺を開山/のち重経建立覚心院の開山、1582正親町天皇より禅師号「仏国禅師御詠」編

L3142 徳峰(とくほう; 道号・慈秀じしゅう; 法諱)?-? 臨濟僧/相国寺慈雲庵の庵主、
大典頭常[1719-1801]の師

得法院(とくほういん; 諡号) → 寛寧(かんねい; 法諱、真宗本願寺派僧) R 1 5 6 0
徳峯院(とくほういん; 法号) → 忠高(ただたか・青山、藩主/藩校創設) P 2 6 7 4

L3143 徳峯老人(とくほうろうじん) ? - ? 仮名草子作者; 1649「目覚し草」著(; 光広跋)
烏丸光広の作説あり → 光広(みつひろ・烏丸) 4 1 3 1

L3144 独卜(とくぼく) ? - ? 尾張の俳人; 露川門、1703素覧「幾人水主いくたりかこ」入
独歩斎鉄仲(とくほさい → とつぽさいてつちゅう) → 次郎(じろう・赤松、武芸者) N 2 2 0 5

L3145 徳本(とくほん・永田/長田ながた) 1513?-1630?長寿118歳? 三河大浜の医者; 残夢・玉鼎門/甲斐出身?、
諸国巡回:「甲斐の徳本一服十八文」と唱え将軍秀忠の治療にも18文しか受領しなかった、
逸話多数、本草学、「知足斎医鈔」「医の辨」、「関東下向記」「薬物論」、1624「通仙延寿心方」、
「知足斎禁方録」「知足斎徳本秘方」「知足斎十全香」「万病専用集」外著多数(; 多くは偽書?)、
[徳本(; 名)の号] 知足斎/乾室/茅庵

L3146 徳本(とくほん; 法諱、田伏たぶせ三太夫男) 1758-1818 61 紀伊日高郡志賀村の農家出身、
4歳のとき隣家の小児の死に無常を觀ず/1784(天明4)財部村往生寺の大円門; 出家;
大滝川月正寺で30日間独学で苦行念仏/木食行/浄土僧; 念仏の奥義を悟る、
法然「一枚起請文」を手本とす、行脚し日課念仏を授与/1803京都鹿ヶ谷法然院で除髮、
1814(文化11)江戸増上寺典海要請で江戸小石川伝通院一行院住/智嚴門; 宗戒両脈相承、
庶民教化に尽力; 江戸近郊農民に念仏講を組織、関東・信濃・飛騨・加賀・越後を巡教遊化、
一所不住の捨世念仏に徹し各地で崇敬を受く; 木魚と鉦を激しく敲く徳本念仏、
「徳本行者語とくほんぎょうじょ」「言葉の末」著、教化記録は戸松啓真編[徳本行者全集]に収載、
[徳本(; 法諱)の幼名/法名/通称] 幼名; 三之丞、法名; 名蓮社号誉称阿、
通称; 徳本上人/徳本行者と称される

徳本(とくほん・堀尾) → 直馨(なおか・堀尾ほりお/竹村、歌人) O 3 2 6 8
徳本(とくほん・福田) → 金塘(きんとう・福田、暦算家) R 1 6 4 9

L3147 独本(とくほん; 道号・性源しょうげん; 法諱、俗姓; 法本) 1618-89 72 安房荒井出身の僧:
1623(6歳)江戸芝の曹洞宗青松寺春道門; 出家/京竜安寺の竜溪性潜門/江戸深川に自肯庵開、
隠元隆琦渡来; 弟子と共に参禅; 黄檗宗に改宗/1658自肯庵を海福寺と改め開山に隠元招請、
相模浄業寺を中興、「独本禅師語録」著

徳松(とくまつ・大友) → 吉言(よしとき・大友、神職/国学/医者) E 4 7 8 8
徳丸(とくまる・三条西) → 公允(きんあえ・三条西さんじょうにし、廷臣/国学) U 1 6 4 4
独妙(とくみょう・衢く/辻林) → 喜右衛門(きえもん・辻林つじばやし、本草家) F 1 6 0 0
徳民(とくみん・細井) → 平洲(へいしゅう・細井、農家/藩儒/詩) 2 7 0 2
徳民(とくみん・徳川) → 治紀(はるとし・徳川、藩主/歌) G 3 6 5 8
徳民(とくみん・宇野) → 春溪(しゅんけい・宇野うの、商家/漢学/詩) I 2 1 8 1
読無子書楼(とくむししやう) → 飄斎(ひょうさい・平塚、幕臣/俳/狂歌詩) F 3 7 2 4
徳明(とくめい・吉岡) → 徳明(のりあき・吉岡よしおか、国学/歌/神職) K 3 5 3 2
徳明親王(とくめいしんのう) → 邦頼親王(くによりしんのう、伏見宮/歌人) D 1 7 3 7
篤茂(とくも・和氣) → 篤茂(あつげ・和氣わけ、廷臣/典薬頭) I 1 0 9 7

- 徳母(とくも) → 太祗(たいぎ・炭すみ/たん、俳人) 2 6 0 2
 徳母(とくも;字) → 良雄(りょうゆう;法諱・徳母、大谷派僧) J 4 9 5 9
 徳母院(とくもいん) → 神興(じんこう;法諱、徳母院/大谷派僧) O 2 2 3 4
 德基(とくもと・富永) → 謙斎(けんさい・富永仲基なかもと、思想家) E 1 8 8 3
- L3148 得聞(とくもん;法諱、号;不退院/初法諱;念心、俗姓;阿満) 1826-1906 81 大和の真宗善照寺の生、
 撰津武庫郡徳井村の本願寺派円通寺住/43得度、俱舎・唯識・悉曇学;寶雲門、
 1857京伏見西養寺証道の嗣/74学林講師/78西養寺住職/90勸学職;1906不退院の号、
 1864「斥耶蘇」、「荷法集」「時々秘要略」「二十唯識論聞記」「八轉声軌式」著
 得聞(とくもん;字) → 義秀(ぎしゅう;法諱・桜井さくらい、僧/国学) U 1 6 4 2
 徳門(とくもん;号) → 普寂(ふじやく;法諱、浄土僧) C 3 8 6 9
 徳門(とくもん・海賀) → 宮門(みやと・海賀かいが、武術/勤王家) G 4 1 0 0
- L3149 独文(とくもん;道号・方炳ほうへい;法諱、俗姓;劉) 1656-1725 70 福建安溪県の黄檗僧;1693長崎に渡来、
 ;長崎福济寺東瀾宗沢の招聘/1709長崎福济寺5世/1719万福寺11世、「黄檗独文禅師語録」著
 [独文方炳の初道号/初法諱]初道号;梅山、初法諱;聖垂
- L3150 徳野(とくや・中川、通称;徳右衛門7世、徳門男) 1742-1809 68 江中期京島原の揚屋角屋主人、
 俳人;太祗門、1772几董「其雪影」73「明鳥」76「続明鳥」入/77蕪村「夜半楽」82「花鳥篇」入、
 [雨の日やむかし兒がほなる南良ならの花](花鳥篇;43/南都奈良の昔を髣髴させる八重桜)
 [徳野(;号)の別号] 福庵/中常長、
 徳山愚人(とくやまぐじん) → 元次(もとつぐ・毛利/大江、藩主/儒者) D 4 4 0 7
- L3151 徳喩(とくゆ・岡おか) ? - ? 詩人:菅甘谷かんこく門、1775「甘谷先生遺稿」跋文
 徳雄(とくゆう・荒木田) → 徳雄(のりお・荒木田、神職) E 3 5 2 9
 徳雄(とくゆう・鴨田) → 棠功(とうこう・鴨田かもだ、俳人) D 3 1 9 2
 徳雄(とくゆう・金成) → 徳雄(のりお・金成かなり、国学者) I 3 5 0 6
 徳猷(とくゆう;字) → 円遵(えんじゆん;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 9 3
 徳祐(とくゆう・松浦) → 鎮信(しげのぶ・松浦まつら、藩主/茶人) C 2 1 7 1
 徳祐(とくゆう・口羽) → 杷山(はざん・口羽くちば/大江、藩士/儒) E 3 6 3 4
 徳裕(とくゆう・伊藤) → 蘭林(らんりん・伊藤いとう、儒者/詩人) D 4 8 3 1
 篤友(とくゆう・佐々木) → 了綱(りょうこう・佐々木ささき、真宗僧/歌) M 4 9 1 6
- L3152 独幽(とくゆう) ? - ? 越中の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
 S3178 独友(とくゆう・三宅みやけ) ? - ? 大阪の住人/狂歌;;1666行風「古今夷曲集」入
- L3154 独遊(とくゆう;道号・橘仙きつせん;法諱、俗姓;松本) 1799-1874 76 周防平野曹洞僧;伊予法竜寺大梁門、
 撰津吉田村陽松庵睡眠門/法嗣、木部村永興庵2世/野田村南昌庵13世/伊予大洲法華寺15世、
 周防洞泉寺25世、1858能登総持寺妙高庵に輪住、「懶雲草」「従容録註釈」著、日置黙仙の師
 独雄(とくゆう→どくおう) → 独雄(どくおう、僧/詩文) L 3 1 5 3
 独雄(とくゆう・多田) → 竹林(ちくりん;法諱、結庵/詩歌) M 2 8 9 1
 独有(とくゆう・手塚) → 玄通(げんつう・手塚てづか、藩士/医者) L 1 8 4 8
 徳友斎(とくゆうさい) → 光悦(こうえつ・本阿弥、書家/茶人) 1 9 0 5
 得祐斎(とくゆうさい) → 祐尹(すけただ・西川にしかわ、絵師/絵本) G 2 3 4 0
- L3155 徳興(とくよ・荻野おぎの、元凱男) 1772-1840 69 母;飯室義清女、京新町三条南住;典薬寮医師、
 河内守/典薬大允、権医博士、従四上、「親類書」著、
 [徳興(;名)の字/号]字:伯益、号;鳩峯
 得誉(とくよ・即蓮社) → 的門(てきもん;法諱・法巖、浄土僧) C 3 0 0 8
 得誉(とくよ;法名) → 祐全(ゆうぜん;法諱・得誉、浄土僧) D 4 6 2 7
 徳用(とくよう・近藤) → 徳用(のりもち・近藤、幕臣/文筆家) F 3 5 9 8
 得庸(とくよう・川平) → 朝隆(ちようりゅう・川平かひら、琉球朝臣) M 2 8 3 3
 徳誉斎(とくよさい) → 宗全(そうぜん・久田ひさだ;3世、茶人) C 2 5 3 9
 徳与麿(とくよまる→とよまる・加藤) → 千蔭(ちかげ・加藤/橋、国学/歌) 2 8 0 3
 貞明(ていめい・望月) → 貞明(さだあき・望月もちつき、藩士/歌人) P 2 0 5 7
 篤楽(とくらく・望月) → 貞明(さだあき・望月もちつき、藩士/歌人) P 2 0 5 7
 独楽(どくらく) → 大成(だいていよう;道号・照漢、渡来黄檗僧) K 2 6 3 5

- 独楽庵(どくらくあん) → 季義(すえよし・斎藤さいとう、商人/歌人) F 2 3 7 5
 独楽亭(どくらくてい) → 芹水(きんすい・平尾ひらお/西郷、儒者/詩) J 1 6 0 3
 篤利((とくり・山崎) → 篤利(あつとし・山崎やまさき/平/山口、商家/国学) I 1 0 6 7
- L3156 **独立**(どくりゅう;道号・性易しやうえき;法諱、俗姓;戴たい、俗名;観胤/笠、戴敬橋男)1596-1672 77 明の人、
 浙江仁和県の医者;明末期の混乱を避け1653長崎に渡来、1654渡来の隠元隆琦門;黄檗僧、
 隠元に随従/武州平林寺住/長崎に戻り医療活動、儒/書/篆刻/詩画にも長ず、
 「痘疹治方録」「痘疹百死形状伝」「痘瘡論」「戴曼公痘疹唇舌秘訣」「戴曼公治痘用論」、
 「永陵伝言録」「就菴独語」「天外老人全集」「西湖懷感三十韻」外著多数、
 [独立性易の号/字]号;天外一間[閑]人/天間てんかん老人/就庵/戴笠たいりゅう/荷鋤人かそ[しよ]じん、
 字;子辰/曼公
- L3157 **徳竜**(どくりゅう;法諱・召雲/少雲しやううん;字、順崇じゆんしゆう男)1772-1858 87 越後水原の真宗僧、
 高倉学寮;深励門/宗乗を修学、諸山碩学につき余乗を修学、1801無為信寺住職/学寮で講義、
 1820擬講/23嗣講/47講師職、「北山詩集」「往生礼讃記」「往生要集講義」「易行品記」「五常辨」、
 「選択集林香記」「真宗僧家之庭訓」「北山詩集」「唯識三類境記」外著多数、徳猊とくげいの兄、
 [徳竜の幼名/号]幼名;伝記廬、号;香樹院/不爭室
- 特留庵(どくりゅうあん;号) → 春貞(しゆんてい;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 1 5 0
 徳竜庵(どくりゅうあん) → 光精(みつきよ・丹下たんげ、歌人) I 4 1 5 8
 独立軒(どくりゅうけん) → 都由(すべよし・森重もりしげ、砲術家) D 2 3 8 6
 独立斎(どくりゅうさい) → 騰九郎(とうくろう・高尾、武術家) C 3 1 9 9
 独立斎(どくりゅうさい) → 立斎(りつさい・佐久間さくま、兵学者) B 4 9 8 3
 独柳子(どくりゅうし) → 昭道(あきみち・長谷川、藩士/勤王派) D 1 0 9 6
 桃流舎(とうりゅうしゃ) → 文哉(ぶんさい・桃流舎、俳人) F 3 8 3 1
 徳亮(どくりょう/とくすけ・松平/徳川) → 光圀(みつくに・徳川/源、藩主/修史) 4 1 2 5
- L3158 **徳林**(どくりん;法諱・靖叔せいしゆく;道号)1497-1574 78 臨濟宗大覚寺派;南禅寺の藍田崇瑛門;法嗣、
 1562南禅寺262世、「靖叔和尚入寺法語」「靖叔和尚語録」「靖叔乗弘法語」著、以心崇伝の師
- L3159 **徳林**(どくりん;道号・富馨ふけい;法諱)?-1764 遠州曹洞僧;黙子素淵門/法嗣、佐賀宗眼寺11世、
 佐賀法雷寺2世、1750「黙子和尚年譜」編
- T3143 **徳隣**(どくりん;法諱) 1817 - 1847 31歳 飛騨吉城郡の真宗本願寺派本龍寺住僧、
 国学;田中大秀おおひで門、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
 [山がらすうかれいでたるあかつきの月を横ぎる村時雨かな]、
 (大江戸倭歌;冬1058/暁時雨)、
 [徳隣の通称/法名]通称;左門、法名;願昌
- L3160 **徳霖**(どくりん;法諱・大智院;号)?-1866 近江坂田郡多和田の真宗大谷派即往寺住職、
 1855高倉学寮で講義/61擬講/没後贈嗣講、1849「唯識二十論述記揮毫記」55「俱舍論乙卯記」、
 1859「解深密経講義」66「瑜伽師地論釈講義」、「往相還相廻向文類記」外著多数
- L3161 **得隣**(どくりん;法諱・正受院しやうじゆいん、照雲寺戒文男、俗姓;志津里)1822-98 77 豊前真宗本願寺派僧、
 宗学;舎兄の善讓門/1849豊後玖珠郡森の専光寺住職/50学林で修学;司教/85勸学/教授、
 「信卷六要鈔録」「観無量寿経記」「宗義別論八題」「本典要門章講義」著
- 徳林(どくりん→のりしげ・岩淵/蘆野) → 東山(とうざん・蘆野あしの、儒詩歌) E 3 1 5 3
 徳倫(どくりん・若林) → 嘉陵(かりよう・若林わかばやし、儒者) H 1 5 5 6
 徳隣(どくりん・松井) → 徳隣(のりちか・松井まつい、藩医/歌人) J 3 5 9 9
 徳隣(どくりん・酒井) → 徳隣(のりちか・酒井さかい、幕臣/歌人) I 3 5 6 3
 徳隣(どくりん・金) → 蘭斎(らんさい・金こん、医/漢学;老荘) C 4 8 1 3
 徳隣(どくりん・高) → 栄章(よしり・高こう、藩士/国学者) M 4 7 9 1
 徳隣(どくりん・豊田) → 美稻(よしね・豊田とよだ、文武/勤王家) O 4 7 0 5
 独隣(どくりん) → 恵海(えかい・法饒、真宗高田派僧) D 1 3 5 1
 徳蓮社元誉(とくれんしゃげんよ;法名) → 法道(ほうどう;法諱、浄土僧) C 3 9 4 0
 得蓮社荘誉(とくれんしゃそうよ) → 浄嚴(じやうごん;法諱、浄土僧) I 2 2 9 2
 独露庵(どくらあん;号) → 宝山(ほうざん;道号・黙招;法諱、曹洞僧) B 3 9 1 3
- L3162 **篤老**(とくろう/あつおい・飯田いだい、別名;利矩としのり、藩士利純男)1778-1826 49 広島の人;由良養の門、

俳人：玄蛙・六合・關更門、1801大阪で開業医/岸和田の医者南^{みなみ}長賀の養子、子尹^{いん}の父、1808兄の死没；旧家飯田家の家督；広島藩士、1812町方吟味役、凡十・素白・一茶と交流、甘古・路宅らの師、1797「獮法師ものがたり」編、1801「芭蕉翁七書」03「稻垣拾穂」編、1807「あゆくみ集」11「なつの夜」編、12/18/25「巖島奉納集」（初-三編）、13「俳諧山分衣」、1814關更17回忌追善「合歡雨集」編、19「篤老園自撰句帖」/20「温泉津日記」編、1822「合歡雨二編」編、「俳人自筆帳」、広島地誌「知新集」、「官余録」著/「午菴遺稿」編(友人太田午庵の遺稿)、

[梅白し門違へして人の来る]/[山へやる荷にふつつかな海鼠かな](芸藩通志入)
[篤老(；名)の字/通称/号]字；慎平、通称；完蔵、一時称；佐野曾蔵/南^{みなみ}蘭蕙^{らんけい}、
別号；太一/田禾^{でんか}/石兮^{せつげい}/南巴/篤老^{とくろう}/篤老園/佐野屋、

徳郎(とくろう・福田) → 宗禎(そうてい・福田^{ふくだ}、蘭医者) I 2 5 5 2
得郎(とくろう・蒲) → 清民(きよたみ・蒲^{がま}、商家/国学) T 1 6 9 4
独淥子(とくろくし) → 松堂(しょうどう・渋谷^{しぶや}、儒者；古義学) O 2 1 9 2
独炉軒(独芦軒^{とくろげん}) → 珠光(じゅうこう・村田、禅僧/華道/茶人) Y 2 1 7 5
得和(とくわ・深田) → 円空(えんくう・深田^{ふかだ}、藩士/儒/天文) C 1 3 3 3
度径(どけい・武内) → 度径(たぢみち・武内/竹内、和算家) Q 2 6 9 0

T3109 吐月(とげつ) ? - ? 江中期大阪の俳人、

1714月尋「伊丹発句合」；四季発句入、
[風なくて所々^{しよしよ}に声あり夜の雪](伊丹発句合；冬)

L3163 吐月(とげつ・飯島^{いじま}、名；友七) 1727-80⁵⁴ 上総市原郡野毛の俳人：吏登・蓼太門、江戸で判者、「吐月句集」(宜麦編)「吐月句集拾遺」(宜麦編)、「吐月点取帖」付合高点集」著、1763耳徳「芙蓉文集」入、64「百五十番句合」、69「蓼太句集」編、76夜兎「住よし千句」三吟入、追善集「蟬のから」、[残すべきはもなき秋の蟬のから](辞世)、

[吐月(；号)の通称/別号]通称；四郎左衛門、別号；吏中(初世)/子規亭/不白軒/松下山人

L3164 兎月(とげつ・手塚^{てづか}、名；三平) ?-? 江後期文化文政1804-30頃京の読本作者/俳人、1806「敵討朝妻舟」07「絵本胡蝶夢」08「檀乃二葉」「夢裡往事」「甲賀三郎巖岨語」著、1809「絵本鎌倉新話」10「長我部物語」11「夕霜伝奇」17「鶴岡矢筈大紋」29「都鄙物語」外著多、[兎月(；号)の別号] 橘生堂/北溟/北溟合浦

L3165 吐月(とげつ；法諱・水明^{みづあけ}、号、諡号；高山院、光楽寺唯応男) 1811-94⁸⁴ 豊前蠣瀬の光楽寺の生真宗本願寺派僧、宗学：浄光寺月珠門、1844光楽寺住職を継承、1859学林の参事/77開闡教校の教授、1878西山教校の教授/85司教/89勸学、1854「行信問答」、「法門対話私記」「斥邪篇」著

吐月(とげつ；号) → 万光(まんこう；法諱・柏源；号、曹洞僧/詩) K 4 0 5 1

都賢(とけん・都) → 良香(よしか・都^{みやこ}、廷臣、詩人) 4 7 0 3

L3166 吐故(とこ) ? - ? 俳人：1776樗良「俳諧月の夜」1句入、

[竹暮れて涼風^{すずかぜ}わたる座鋪^{ざき}かな](月の夜；107)

T3120 吐虹(とこう) ? - ? 俳人、1717(享保2)「八橋集」編、

信暁(閑水)の甥

3142 杜口(とこう・神沢^{かみざわ}、名；貞幹^{さだもと}/旧性；入江) 1710-95⁸⁶ 京の入江家の生、俳人；兄の卜志門、1719(享保4)爪木晩山主催俳諧会を傍聴；琴思・晩山に添削を受ける、淡々門、1720(享保5)京都町奉行所与力神沢弥十郎貞宜の養子、1725柳谷と交流；俳諧に再熱、養父貞宜の女と結婚；与力を継嗣、向井伊賀守組与力；内裏造営の本殿係を務める、1746(延享3)日本左衛門手下中村左膳を江戸に護送/目付に昇進；40歳後に致仕；家督を婿養子に譲渡；文筆活動に専念、俳人/随筆・歴史家、1753妻と死別、京内各地を転居、1788天明大火に烏丸通六角で被災；百巻まで完成の「翁草」草稿焼失、詳細な被災地図作製、謡曲/碁/香道を嗜む、1789マラリアに罹患；快復するも聴覚を失う、「春興」著、1728柳岡「万国燕」16句入/72几董「其雪影」2句入、77江涯「仮日記」入、1783維駒「五車反古」入、1792随筆「翁草」2百巻著(；1788大火で一部焼失)、「其蝸庵随筆」「其蝸庵杜口発句集」「春興」「睡余寄観」「塵泥^{ちりひじ}りひじ」「ふたりつれ」著[一片ひとひらの日にとどまるや花の星](万国燕；3)、

[その枝にのこのんの雪の翁かな](五車反古;129/双岡に先師晩山ゆかりの樹を詠む)、
[辞世とは即ちまよひたゞ死なん](;辞世句を嫌い事前に用意)、
[杜口(;号)の通称/別号]通称;与兵衛、

別号;可々斎/其蝸庵さぢゅうあん/瘦牛そうぎゅう/静坐百六十翁

- L3167 渡江(とこう) ? - ? 京の俳人:淡々門、1728柳岡「万国燕ばんこくつばめ」16句入
[雨揚あまがり梢こずゑに海の淡路島](万国燕;雪之巻)
- L3148 渡江(とこう・初世二松庵)? - ? 京狂歌師/俳人;2世二松庵万英[?-1780]の師
俳人渡江と同一? → 渡江(とこう、淡々門俳人) L 3 1 6 7
- L3168 都貢(とこう・伊藤、別号;鷗巢)?-1776 名古屋の俳人:暁台門、1774上京;蕪村・田中道麿と交流、
国学に造詣、1768暁台「秋の日」歌仙6句入、1771「堅並たてのなりび集」/74「幣ふくろ」編、
1774「ゑぼし桶」入、徐英の父、
[雪見るや尾上をのへ過ぎ行く雲の跡](ゑぼし桶;73)
- L3169 杜厚(とこう・岩下いわした、名;寛居、寛高男)1757-1815.59 信濃善光寺町の俳人、善光寺俳壇の代表者、
1798「埋木」編、98「百物語」著
[杜厚(;号)の通称/別号]通称;源右衛門、別号;観旭亭/端月亭
- L3170 斗興(とこう・高平たかひら、名;元圭)?-? 江後期1804-30頃陸前黒川郡吉岡の商家/俳人、
「十府菅菰」著、
[斗興(;号)の通称/別号]通称;永七、別号;庭月庵、屋号;穀田屋、
途興(とこう・齋藤) → 途興(みちおき・齋藤さいとう、名主/歌人) J 4 1 1 5
土口齋(とこうさい・堀田) → 仁助(にすけ・堀田ほつた/藤原、暦算家) 3 3 3 3
都勾墩(とこうとん) → 惺齋(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3
斗岡楼(とこうろう) → 墨僊(墨仙ぼくせん・牧まき、藩士/絵師) D 3 9 6 1
- L3171 杜国(とく・坪井つばい、通称;庄兵衛)?-1690;30余歳 名古屋の米商/御園町の町代、俳人・芭蕉門、
1684同志と芭蕉を迎え「冬の日」の五歌仙を巻く;尾張蕉風開拓者の一人、
1685空米売買罪で八月御領分追放;三河島村のち保美村に隠棲/変名し号を野仁(野人)、
1687・88師芭蕉と伊良古崎に旅;万菊丸の名で吉野・高野・須磨・明石に随従;「笈の小文」入、
師と京で別れ保見に帰る;同地に没/芭蕉の愛弟子で「嵯峨日記」にその悲嘆記事入、
冬の日34句/春の日5句、あら野7句入、[行秋も伊良古をさらぬ鷗哉]、
[杜国(;号)の別号]万菊丸まんぎくまる/野仁やじん(野の人の意)、変名;南喜左衛門
- L3172 杜谷(とく) ? - ? 江戸俳人;1767「平河文庫」田社から継承板行
- L3173 兎国(とく・新倉にいくら、名;董宋)1799-1860.62 信濃筑摩郡小曾部村の農業/名字帯刀を許、
俳人:素檠門、手習師匠、1822「琵琶田集」編、
[兎国(;号)の幼名/通称/別号]幼名;永之進、通称;伴右衛門、別号;亭坊/五醉庵
菟谷(とく・奥田) → 大和(やまと・奥田おくた/富永、国学/歌) F 4 5 5 8
杜谷堂(とくどう) → 武雄(たけお・丸山、藩家老/歌/香道) O 2 6 2 9
杜谷舎(とくのや) → 武雄(たけお・丸山、藩家老/歌/香道) O 2 6 2 9
- L3174 得大理(徳大理とことり・他田日奉直おさだのひまつりのあたひ)?-? 755防人/下総海上うなみ郡助丁すけのよほろ、
万葉集;廿4384
[暁あかときのかはたれ時に島陰を漕ぎにし船のたづき知らずも](万葉集;廿4384)
杜惚山人(とこつさんじん) → 緑樹園(りよくじゅえん・小林、商家/狂歌) J 4 9 7 7
常夏(とこなつ→つねなつ・久志本)→常夏(つねなつ・久志本/度会、医者/国学) C 2 9 8 7
常夏の大人(とこなつのうし)→ 暉昌(てるまさ・森もり、神職/国学) C 3 0 9 2
常葉(とこは) → 時茂(ときしげ・北条/平、武将/歌人) J 3 1 1 7
常葉園(とこはその) → 信行(のぶゆき・須川すがわ/清水、歌人) D 3 5 7 8
常葉園(とこはその) → 眞中(まなか・小林/度会、神職/狂言) J 4 0 9 7
常世庵(とこよあん) → 枝直(えなお・加藤、国学/歌) 1 3 8 0
常世麿(徳与麿とこよまる・加藤)→ 千蔭(ちかげ・加藤/橘、国学/歌人) 2 8 0 3
- L3175 土佐(とさ) ? - ? 平安前期女官、歌:貞元親王[-909]平定文[-923]と贈答、
後撰7首;553/683/749/932/1174/1246/1247
[浦わかずみるめかるてふあまの身は何かなにはの方へしもゆく](後撰集;九恋553)

(平定文が難波にまかると聞き贈歌/554に定文の返歌あり)

- L3176 **土佐**(とさ、藤原盛実女?)? - ? 平安後期女房、歌人:
1149右衛門督家成家歌合参加;3首(女房丹波と参加)、
[いかにせん風吹き乱るみちしばの露もとまらぬ秋のをしさを] (成家歌合;左41)
- U3152 **土佐**(とさ・大館おおだち、旧姓;横江))1776-1848⁷³ 尾張海東郡木田村農業大館高門(1766-1839)妻、
夫が医者となって上京;京住、国学者;本居宣長門(夫と同門)
- 土佐(とさ・高階) → 隆兼(たかかね・高階たかしな、大和絵師) C 2 6 6 6
土佐(とさ・藤原) → 基光(もとみつ・藤原、廷臣/絵師/歌人) E 4 4 3 7
土佐(とさ・赤座/永原) → 孝治(たかはる・永原ながはら、藩士/連歌) M 2 6 9 0
土佐(とさ・檜垣) → 貞晋(さだしげ・檜垣/度会、神職) B 2 0 2 9
土佐(とさ・福井) → 末起(すえおき・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 3 6
土佐(とさ・金築) → 春久(春比左はるひさ・金築かねつき、神道) G 3 6 7 3
土佐(とさ・木俣) → 守安(もりやす・木俣きたまた/橋、藩老/歌) J 4 4 7 5
土佐(とさ・木俣) → 守長(もりなが・木俣きたまた/橋、藩老/歌人) J 4 4 7 7
土佐(とさ・木俣) → 守将(もりまさ・木俣きたまた/橋、藩老/歌人) J 4 4 7 6
土佐(とさ・木俣) → 守前(もりちか・木俣きたまた/橋、藩老) J 4 4 8 0
土佐(とさ・木俣) → 守易(もりやす・木俣きたまた/橋、藩老/楽焼) J 4 4 7 9
土佐(とさ・木俣) → 守盟(もりちか・木俣きたまた/橋、藩老) J 4 4 8 5
土佐(とさ・小泉) → 保敬(やすたか・小泉/坂上、国学者) B 4 5 8 4
土佐(とさ・鈴木) → 梁満(梁万呂やなまる・鈴木、神職/国学) D 4 5 9 2
土佐(とさ・椎名) → 紀逸(初世きいつ・慶、俳人) 1 6 0 1
土佐(とさ・橋村) → 正衛(まさえ・橋村/度会、神職/書) B 4 0 3 5
土佐(とさ・清岡) → 里三郎(りさぶろう・清岡/菅原、国学者) B 4 9 1 0
土佐(とさ・矢木) → 重麿(しげまる・矢木やぎ、神職/歌人) N 2 1 0 9
土佐(とさ・牛尾) → 弘篤(ひろあつ・牛尾うしお、神職/国学/歌) I 3 7 6 1
- L3177 **都菜**(とさい) ? - ? 江中期俳人;淡々門、1742「弓はり月」著(竿秋序)
- L3178 **杜哉**(斗哉とさい・大貫おおぬき、名;国寛)1742-1809⁶⁸ 羽前荒砥の糸綿商、美濃派俳人;五竹坊門、
以哉坊と親交、1792「俳諧古集之辯」著(息子桃溪刊)、1800「芭蕉翁発句集蒙引」著、
1803「冬の日集弁議」04「小千谷行日記」著、追善集「二日月」(息子李中編)、
[杜哉(;号)の通称/別号]通称;吉左衛門、別号;茂立/衛足/葛松子/葵堂/遅日庵/遅日坊、
法号;峯鷲院、桃溪・李中の父
- L3179 **都西**(とさい;法諱・竜門;号、戒定の弟)1782-1865⁸⁴ 肥後下益城郡豊田の真宗本願寺派養泉寺生、
宗乗修学;環中・到徹門、のち環中より破門、山鹿光顕寺15世、1852勧学;自坊に寮舎設置;
学徒教育、「横川法語随聴記」「正像末和讃記」「選択集科釈」「論註会記」外著多数
- S3171 **斗斎**(とさい・岩室いわむろ、7代喜右衛門、6代喜右衛門[松宇]男)?-1871 安藝広島の高商;醸造家、
1820(文政3)父松宇の新町組(城下中心部30町村)大年寄後見(見習)、1825父没、
1826(文政9)新町組大年/1828(文政11)中通組(13町)兼帯;広島城下中心部全域を管轄、
1833大割方掛、苗字御免、1846(弘化3)明星院祈禱堂再建に尽力/洪水救援に尽力;褒賞、
俳人、[呼かへす人のひまとる吹雪哉](短冊)
[斗斎(;号)の名/通称/別号]名;致厚/徳郷、通称;7代喜右衛門、別号;圻斎(かつせい?)
- 渡西(とさい;号) → 志玉(しぎよく;法諱・総円;字、華嚴僧) Q 2 1 3 1
菟斎(とさい) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7
土斎(とさい・壺瓢軒) → 調和(ちようわ・岸本、俳人) 2 8 2 9
都斎(とさい・甲良) → 林石(りんせき・甲良、俳人) K 4 9 5 5
渡斎子(とさいし) → 臥溪(がけい・井手いで、書家) K 1 5 7 7
- L3180 **土左衛門**(どざえもん・三ツ枝みつえだ)?-? 江前期大和郡山藩士;藩主本多政勝の命で国内情勢を著述、
のち撰津尼崎藩主青山幸利に出仕、寛文1661-73頃「大和軍記」著
- L3181 **土佐子**(とさこ・黒田くろだ、折井正利女)?-? 柳沢吉保の養女/常陸下館藩主黒田直邦の室、
1717江戸常盤橋の屋敷が延焼し本所石原の別邸に移住:1717日記「石原記」著

土佐入道(とさのゆうどう) → ト伝(ぼくでん・塚原/平/ト部、剣術家) D 3 9 7 8
 土佐院(とさのいん) → 土御門天皇(つちみかどてんのう、配流/歌人) 2 9 0 9
 土佐守(とさのかみ・藤木) → 有久(ありひさ・藤木ふじき/賀茂、神職) F 1 0 6 5
 土佐守(とさのかみ・中江) → 員継(いんけい・中江なかえ、藩主/連歌) D 1 1 2 3
 土佐守(とさのかみ・長宗我部) → 盛親(もりちか・長宗[曾]我部ちようそかべ、武将/城主) F 4 4 7 1
 土佐守(とさのかみ・塚原) → ト伝(ぼくでん・塚原/平/ト部、剣術家) D 3 9 7 8
 土佐守(とさのかみ・山内) → 豊昌(とよまさ・山内やまのうち、藩主) R 3 1 5 8
 土佐守(とさのかみ・山内) → 豊房(とよふさ・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 5 5
 土佐守(とさのかみ・山内) → 豊敷(とよのぶ・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 4 3
 土佐守(とさのかみ・山内) → 豊雍(とよちか・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 6
 土佐守(とさのかみ・山内) → 豊策(とよかず・山内やまのうち、藩主) R 3 1 0 9
 土佐守(とさのかみ・山内) → 豊資(とよすけ・山内やまのうち、藩主) R 3 1 2 0
 土佐守(とさのかみ・山内) → 豊熙(とよてる・山内やまのうち、藩主) R 3 1 3 3
 土佐守(とさのかみ・山内) → 豊矩(とよつね・山内やまのうち、藩主) R 3 1 3 1
 土佐守(とさのかみ・山内) → 豊信(とよしげ・山内やまのうち、藩主) R 3 1 1 8
 土佐守(とさのかみ・梶野) → 良材(よしき・梶野かじの/久隅、幕臣/奉行) D 4 7 0 7
 土佐守(とさのかみ・水野) → 忠央(ただなか/ただちか・水野、城主/学問) Q 2 6 2 8
 土佐守(とさのかみ・新庄) → 直賢(なおかた・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 0
 土佐守(とさのかみ・広瀬) → 春信(はるのぶ・広瀬/勝部、神職) J 3 6 2 8
 土佐守(とさのかみ・三宅) → 康直(やすなお・三宅みやけ/酒井、藩主) C 4 5 3 6
 土佐守(とさのかみ・淡川) → 康民(やすたみ・淡川あわかわ、官人/歌人) F 4 5 2 3
 土佐守(とさのかみ・大神) → 正盈(まさみつ・大神おおが、神職/歌人) O 4 0 2 9
 土佐守(とさのかみ・田中) → 正章(まさあき・田中たなか/佐伯、廷臣/歌) Q 4 0 5 7
 土佐守(とさのかみ・戸田) → 忠友(ただとも・戸田とだ、藩主/国学) Y 2 6 3 6
 土佐侍従(とさのじじゅう・羽柴) → 元親(もとちか・長宗[曾]我部、武将/藩主/南学) D 4 4 0 0
 土佐掾(とさのじょう・山本) → 角太夫(かくだゆう・山本、古浄瑠璃) 1 5 0 8
 土佐道寿(とさのどうじゅ) → 道寿(初世どうじゅ・長沢ながさわ、医者) E 3 1 8 6
 土佐局(とさのつぼね) → 大式(だいに・修明門院女房、歌人) C 2 6 0 1

L3182 **土佐内侍**(とさのないし、源貞亮^{さだすけ}女/源経信の室)?-? 皇后宮寛子(1036-1127後冷泉帝皇后・頼通女)の女房、近衛天皇(1139-1155)出仕の内侍、
 歌人:1056皇后宮寛子春秋歌合参加、栄花物語入、金葉II158(III151)、俊頼の母、
 [よろづ代に君ぞ見るべし七夕のゆきあひの空を雲の上にて](金葉;秋158/君は皇后宮)

土佐局(とさのべん) → 土佐内侍(とさのないし、源貞亮女) L 3 1 8 2
 登三郎(とさぶろう・山内) → 豊敬(とよゆき・山内やまのうち、国学/歌人) W 3 1 8 1
 土佐屋(とさや) → 訥言(とつげん・田中、土佐派絵師/狂歌) O 3 1 4 6
 戸沢検校(とさわけんぎょう) → 芳一(ほういち・戸沢とさわ、三戸、検校) G 3 9 2 9

L3183 **吐山**(とざん、雅木男) 1703?- 1719?**夭逝17歳** 俳人、1719追善集「松三尺」賀子編
 参照 → 雅木(がぼく、俳人) F 1 5 8 3

L3184 **都山**(とざん:号) ? - ? 京の俳人;1728書肆亀岡「峯の嵐」4吟入(;雲峰らと)
 L3185 **吐山**(とざん:号、通称;鑰屋^{かぎや}九兵衛)?-? 江後期名古屋の商家/俳人、1809「ともからず」編
 兜山(とざん・国分こくぶ) → 威胤(たけたね・国分、藩士/詩人) O 2 6 4 3
 斗山(とざん・小川) → 櫻斎(ていさい・小川、医者) 3 0 8 8
 都山(とざん・清野) → 信興(のぶおき・清野きよの、藩士/和算家) B 3 5 0 2
 斗山玄鳳(とざんげんぼう) → 探元(たんげん・木村/平、絵師) T 2 6 4 0

L3186 **吐糸**(とし・江錦舎^{こうきんしゃ};号)?- ?**50余歳** 江中期秋田の俳人;祇空門、
 1741紀州和歌浦で矢数俳諧:玉津島社に独吟千句奉納、42(寛保2)「玄湖集」編
 1726貞佐「代々蚕よかこ」入の吐糸(上方連衆)と同一なら早くから上方住

T3107 **都紫**(とし) ? - ? 江中期;撰津平野の俳人、
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
 [家涼しめぐり来て弔とふ冬牡丹](しぐれの碑/発句)

- L3187 **兎土**(とし・義上園) ? - ? 伊勢山田俳人、1763涼袋[綾足]「古今俳諧明題集」51句入、
後息茶菊が遺句集「義上ぎじょう集」編、
息子 → 茶菊(さぎく・陶後園、俳人) B 2 0 3 3
利(とし・佐竹/黒田) → 義峰室(よしみねのしつ・佐竹さたけ、藩主室/国学) I 4 7 1 1
鋭(とし・本多) → 鋭子(としこ・本多ほんだ、歌人/生花) W 3 1 3 8
敏(とし・松平) → 美濃(みの・松平まつだいら/源、藩主室/歌) K 4 1 5 5
登志(とし・飯田) → 俊子(としこ・飯田いだ/杉本、歌人) T 3 1 9 4
登子(とし・藤原) → 登子(とうし・藤原、村上妃/貞観殿) E 3 1 7 1
- U3127 **とぢ**(とし・今木いまき、森本甚三郎信就の長女)?-1826 信濃飯田郡島田村の生、
飯田知久町の医者今木隆主たかかと結婚/歌人;実母海壽・夫隆主の作歌の影響、鼎かなえの母、
歌道;森広主門、福住清風・森本真弓と交流、法号;当珍院
- S3167 **土芝**(とし) ? - ? 備後三原俳人、1790雅松「其みちのく」入
1796梨陰追善「梨陰老人追善集」共編、1800三原歳旦「庚申春帖」何笠らと共編、
「夏日雜興」著
土子(とし・古谷) → 土子(槌子つちこ・古谷ふるや、歌人) F 2 9 2 5
- 3144 **俊明**(としあき/としあきら・源みなもと、通称;朱雀民部卿、隆国男)1044-111471 母;源経頼女、
廷臣;1075参議、1083正二位/1100大納言/民部卿/大宮大夫/白河院近臣、
隆俊・隆綱の兄弟、能俊・実明・明賢の父、
歌;1094高陽院七番歌合参加、勅撰2首;続後撰1344/続拾115、
[君が代の春にちぎれる花なればまだ行すゑのかぎりなきかな](続後撰集;賀1344)
(1084.3月の詠)
- L3188 **利秋**(としあき・豊原とよはら、光秋男)?-1212 伯父時秋の養嗣子/楽人;笙;一者、左近将監/従五下、
雅楽大夫/楽所勾当/1212出家、「古譜呂律巻」著
- L3189 **俊顕**(としあき・藤原ふじわら/家名;中御門、初名;俊幹、経世男)?-1391 南北期廷臣;春宮亮/従四上、
後宇多院大覚寺統仙洞方として中御門経継・六条有忠らと出仕;後醍醐側からは冷遇、/
春宮邦良親王の側近;1326親王逝去に出家、歌人;1364頃「一万首作者」参加、
1366年中行事歌合参加、連歌;菟玖波集9句入、
勅撰6首;新千載(1834)新拾遺(889/1675)新後拾遺(1110)新続古今(485/530)、
[昔思ふ身は数ならで白雪のふりぬとだにも知る人ぞなき](新千載;1834/頓乘法師名)
[俊顕(;名)の通称/法名]通称;春宮亮入道、法名;頓乗、吉田資顕すけあきの父
- L3190 **利明**(としあき・前田まゐだ、利常男、本性;菅原/松平)1637-9256 母;長連竜女の栗(南嶺院)、
金沢の生/1659兄の加賀大聖寺藩主利治の養嗣子、大聖寺藩主/従四下/飛騨守、
1666「菅生石部神社縁起書」著、
[利明(;名)の幼名/別名/通称/法号]幼名;万吉丸、初名;利成、通称;大蔵、法号;大機院
- V3142 **俊章**(としあき・首藤すどう、通称;又右衛門)1668-171851 江戸の幕臣;表右筆組頭、御家流書家、
国学者
- L3191 **俊章**(としあき・北小路きたのこうじ、俊在としあり男/本姓;大江)1706-6257 廷臣;1746正六上/大学助/蔵人、
1747皇太后宮少進/61一藤/62従五下、1759日記「俊章記」著
- L3190 **利章**(としあき・勝かつ) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃大阪阿波野堀岡崎橋の住人、
詩人;混沌社入、田中鳴門一周忌追善集「愛日余哀」編纂参加、
[利章(;名)の字/通称/号]字;季文、通称;吉右衛門、号;玄鶴
- L3193 **俊昞**(としあき・東儀とうぎ、初名;兼音/文昞、俊元男/本姓;太秦)1766-184277 天王寺方の楽人、
1790播磨守/1842正四上、1808「琴譜」、「舞楽説法」著
- V3110 **利章**(としあき・黒田くろだ、通称;左兵衛)?-?天保1830-44頃没 紀伊和歌山藩士、国学;本居大平門
- L3194 **俊章**(としあき・滝川たきがわ)1772-? 1847存 岡山藩士;砲術兵法に精通;藩主に拔擢;鉄砲頭、
治政に参画/1841致仕、詩歌・書を嗜む、1812「法令集」47「伊呂波竹馬歌」、「晩翠園雜記」著、
[俊章(;名)の字/通称/号]字;伯仲、通称;万五郎、号;睡鷗
- L3195 **利明**(理明としあき・大原おほはら/会田あいだ、初名;理正としまさ)?-1825 武州足立郡梅田村の農業、
和算家;関流日下誠門/1799最上流会田安明門;その門人指導で会田姓使用を許可;
1810自著に算右衛門理正と記し破門、再び日下誠門、「陰陽曆術」「算法索術」「環円通術」、

「算法町見術」「算法点竄法」「算法町分術」「精要算法解」「平方綴術解」外著多数

[利明(；名)の通称/号]通称；彦兵衛/勝右衛門/(一時)算右衛門、号；梅田

- L3196 **利章**(としあき・山下やまた、別名；宗義)?-? 江後期信州高遠藩士/藩主内藤家三代の側衆；江戸詰、1809右筆頭取、書役/小納戸/供番/右筆を歴任/1809中小姓目付格右筆頭取、世子侍講、儒；中根東平門、藩内の古文書整理；藩主内藤家の世譜を編集、1819「高遠世乗」著、1846「侯家御両敬考」、「山下氏世譜」著、
[利章(；名)の幼名/字/通称]幼名；鋸之助しょうのすけ、字；子成、通称；篠右衛門
- L3198 **俊明**(としあき・伊藤いとう) ? - ? 江戸期豊前田川郡猪膝の医師、博学；本草/詩文に長ず、「桑榆日記」「東遊紀行」「古今朝野総録」「傷寒論東西方較」「陰証百問東西方較」著
- L3199 **利明**(としあき・本多/本田ほんだ、伊兵衛男?) 1743-1820 78 越後蒲原村上の和算家；今井兼庭門、天文暦学；千葉歳胤門、蘭学を独学；江戸で天文算学塾を開/外国交易重視の経世思想主唱、松平定信に招聘；出仕、1793定信失脚により幕府から忌憚/1809金沢藩に出仕/のち浪人、1772「四約術」84「算題雑誌」編、89「蝦夷拾遺」1800「常陸遊覧不問物語」08「西洋雜記」、「經濟総論」「国家豊饒策」「経世秘策」「経世秘策後編」「東蝦夷風俗考」「歩日躔通軌」外著多、[異国交易は相互に国力を抜き取らんとする交易なれば 戦争も同様なりき](経世秘策)
[利明(；名)の幼名/通称/号]幼名；長五郎、通称；三郎右衛門、号；北夷/魯鈍斎/音羽亭
- M3100 **俊諒**(としあき・万波まんなみ、通称；時太郎、醒廬せいり男)?-? 江後期備前岡山藩士；藩校教授/儒者、「池田志」著、槐里の父
- U3163 **利章**(としあき・加須屋かすや、) 1787-1862 76 因幡鳥取藩士、国学者、武成たけなりの父
[利章(；名)の通称/号]通称；与一郎/伊織/織部、号；雨亭
- V3141 **儔明**(としあき・神合じんごう、)? - 1868 信濃飯田藩士；側用人、歌人；村沢徳風のりかぜ門
[儔明(；名)の通称] 周之進/周吾
- W3107 **俊章**(としあき・松木まつき、本姓；大神) 1804-48 45 筑前夜須郡の神職、国学；青柳種信・本居大平門、国学・神道；足代弘訓・平田篤胤門、夜須郡弥永村の於保奈牟遲(大己貴おおなむぢ)神社神主、郷里で開塾；書籍蒐集、1848(嘉永元)没、波多野直足の師、
[俊章(；名)の通称/号]通称；百重/大式、号；竹亭/萩の舎/籛竜たくりゅう書屋
- M3101 **利明**(としあき・真藤しんどう、名；登/通称；恒八) 1829-1910 82 江末期筑前福岡藩士/宗像太宰府祠官、歌；大隈言道ことみち門、1857言道「ひとりごち」奥書
俊明(としあき・山田) → 惟雲(いん・山田、商人/儒者) E 1 1 7 6
俊明(としあき・富処/志倉) → 西馬(さいば・富処ふところ/志倉、俳人) B 2 0 0 5
俊章(としあき・晁) → 貞煥(ていかん・晁ちよう、医者/解剖) 3 0 4 8
俊章(としあき・吉田) → 拙藏(せつぞう・吉田よしだ、藩士/儒・蘭学) L 2 4 1 8
- L3197 **俊明**(としあき・坊城ぼうじよう/本姓藤原、勸修寺かじゅうじ経逸つねよし男) 1782-1860 79 坊城俊親の養嗣子、養嗣子；俊克、廷臣；1819参議重三位/24権大納言/36議奏/45武家伝奏を歴任、学習院設置・微禄廷臣救済を幕府と折衝/1853將軍宣下勅使として東下；朝暮考証に尽力、1954従一位；致仕、「豊明節会次第」/1815「石清水臨時祭申沙汰」18「大嘗会申沙汰雑誌」著
- M3102 **聖謨**(としあき・川路かわじ、内藤歳由男) 1801-68 自殺 68 豊後日田の生；川路三左衛門光房の養子、1813家督/幕臣；小普請組/大坂町奉行/勘定奉行；1854日露和親条約調印、西丸留守居、將軍継嗣問題で大老井伊直弼に疎まれ免職；隠居、1863外国奉行に復帰；致仕、1868江戸開城目前に拳銃自殺、歌；前田夏蔭門、「川路聖謨詠草」「川路聖謨歌稿」、「川路聖謨詩稿」、1838「岐岨路の日記」48「よしの行記」55「京都日記」58「川路聖謨都日記」、「長崎日記」「歴史綱鑑補読余」編/「万葉集語言概略便覧」「敬斎叢書」「遊藝園隨筆」著、「自誠録」外著多数、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[青柳のうごかぬねざし有りてこそ姿を風の吹くにまかせめ](大江戸倭歌；春143/柳)、
[聖謨(；名)の幼名/初名/通称/号]幼名；弥吉/初名；歳福、
通称；弥太郎/三左衛門/左衛門尉、号；敬斎/遊藝園/頑民斎、法号；誠恪院
母；高橋誠種女、妻；高子(佐登子)、
妻 → 高子(たか・川路、号；松操、歌人) C 2 6 7 6
- T3148 **俊斐**(としあき・鳥山とりやま/本姓；源、通称；儀右衛門)?-? 江後期；歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

「あをやぎのなびくともなき春の日に人の心のなど動くらん」(大江戸倭歌;春144)

俊明(としあき・源) → 俊明(としあき・源、歌人) 3 1 4 4

俊明(としあき・小谷/久野) → 鳳湫(ほうしゅう・久野/;藤原/藤、儒者) B 3 9 3 8

利章(としあき・堀/戸川) → 安昌(やすまさ・戸川とがわ/堀、幕臣) C 4 5 9 5

- M3103 利厚(としあつ・土井どい/本姓源、尼崎藩主松平忠名男) 1759-1822 64 1777土井利見としちかの養子;襲封、下総古河藩主/1778従五下大炊頭/79奏者番/86寺社奉行兼務/1801京都所司代;01建議書、1802-22老中、大蔵永常を招聘し砂糖製造法を修得;作付を奨励、書・歌を嗜む、1801「土井大炊頭外六名建議」著、歌;1798石野広通「霞関集」入、
[けふつむも老せぬ菊の数々を君が齢よはひにたぐへてや見ん](霞関;秋536、真田右京大夫[松代藩主]の室六十賀屏風)
[利厚(;名)の幼名/初名/通称/法号]幼名;亀丸/熊吉/熊之丞、初名;利和としかず、通称;主膳/大炊頭おおいのかみ、法号;寛敬院

- V3151 利淳(としあつ・田中たなか、) 1765-1820 56 河内石川郡の歌人;賀茂季鷹門、
[利淳(;名)の字/通称/号]字;周春、通称;伊右衛門、号;三缸亭/石川漁者/栗園

- M3104 俊温(としあつ・山内やまのうち、俊重男) 1778-1844 67 岩代会津藩士;幼少より学問精励/天文・軍学修学、1800家督嗣/藩校日新館武講係/寄合組組頭/用所局頭取/大目付を歴任/学校奉行;学制改革実施(日新館統括・修学資料編纂等)/佐渡を巡察;海防策検討、「夙慧叢談」著、
[俊温(;名)の幼名/通称/号]幼名;藤九郎、通称;藤太夫/滝口、号;竹翁、法号;総学院

利淳(としあつ・花園) → 賢蔵(けんぞう;法諱、真宗大谷派学僧) K 1 8 7 1

利篤(としあつ・前田) → 重教(しげみち・前田/菅原、藩主) S 2 1 8 0

每敦(としあつ;名) → 尊性法親王(そんしょうほつしんのう、真言大覚寺門跡) E 2 5 9 1

俊篤(としあつ・木村) → 桂庵(けいあん・木村きむら、儒者/詩) E 1 8 0 0

俊篤(としあつ・本庄) → 普一(ふいち・本庄/本荘ほんじょう、医者) 3 8 3 2

- M3105 俊在(としあり・北小路きたのこうじ、初名;俊尚、俊光男/本姓;大江) 1672-1725 54 廷臣;
1717正六上/大学助、蔵人、禁色昇殿、「俊在記」著、俊章としあき・稚子まさこの父

利在(としあり) → 利在(りざい、連歌) B 4 9 0 9

利有(としあり・前田) → 治脩(はるなが・前田、藩主/日記) G 3 6 6 3

兎耳庵(としあん/とにあん) → 長成(ちようせい・菅、俳人) J 2 8 1 5

- M3106 俊家(といえ・藤原ふじわら、頼宗男) 1019-82 64 母;藤原伊周女、廷臣;1038参議/従三位/49正二位、1080右大臣/82出家;病没、歌人;1035賀陽院水閣歌合頭人、50麗景殿女御歌合;右方読手、1051内裏根合;念人、勅撰2首;千載336(後冷泉天皇内裏九月十三夜宴の歌)、新勅479(1076白川天皇大井川行幸時の歌)、催馬楽の名手、
[澄む水にさやけき影のうつればや今宵の月の名に流るらむ](千載;秋336/後の名月)
[俊家(;名)の通称] 大宮右府/大宮右大臣/壬生、
息子; 宗俊(源隆国女)・師兼・基俊(母;高階順業女)・宗通(母;源兼長女)・寛慶(母;藤原季範)、
息女; 堀河殿(?-1132/母;高階順業女/歌人;郁芳門院根合参加) E 3 9 8 6
全子[1059-1150(92歳)/生母不明、関白藤原師通もろみちの室/忠実ただね母]

- M3107 利家(といえ・前田まえだ/羽柴/豊臣、前田利春[利昌]男/本性;菅原) 1538-99 62 母;長齡院、尾張武将/金沢藩主前田家の祖、織田信長出仕・柴田勝家家臣/1569家督;各地の合戦に功;1580能登領主、1583賤ヶ岳で秀吉側で参戦;加賀半国を追加;金沢に居城/秀吉の五大老の1、1596権大納言;亞相あしょう公と称される、1598致仕、戦では天下無双の鎧と称された、妻;松子(芳春院)、子息;利長・知好・利常・利孝、
1599「遺誠十一箇条」「亞相公(利家)遺誠」、「高德公於末守詠歌」著/「利家公御遺書」、
[利家(;名)の幼名/通称/法号]幼名;犬千代、通称;孫四郎/又左衛門尉、法号;高德院、通称;亞相公

- M3108 年一(といち・飯沼いぬま) ? - ? 会津の儒者;山崎闇斎門、
1724良頭「垂加文集拾遺」に資料提供

- 俊氏(としじ・藤原) → 心阿(しんあ;法名、廷臣/法師/歌人) D 2 2 3 9
- U3167 **俊男**(としお・加藤かとう、)1770- 185283 美濃安八郡の国学者;本居春庭・富樫広蔭門、
[俊男(;)名の通称/号]通称;茂作、号;東流
- M3109 **俊夫**(敏夫としお・木下きのした/初姓;丸尾/榛葉、初名;清蔭きよかげ)1810-6960 遠州掛川宿問屋宿役人、
のち里長、歌:1830石川依平門、八木美穂よほ[中谷]と親交、
「鮫玉集」入、「磯の浪」「懸水筆乗」著、
[俊夫(;)名の通称/号]通称;清右衛門/闇平ぎんべい、平俊夫と称す、
号;榛園/偕楽園/中谷/榛屋
- M3110 **年緒**(としお・菅谷[菅屋]すがや)?-1844 加賀金沢の人/江戸三度飛脚の業/俳人、
1838「草萌集」著、
[年緒(;)号]の通称/別号]通称;半七/宗七、別号;繫舟居けいしゅうきよ/幾暁庵きぎょうあん2世
- T3147 **利雄**(としお/orとしかつ・山口やまぐち)?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[句ひのみみちるをうれしと思ふまに花さへ梅は残らざりけり](大江戸倭歌;春142)
- U3185 **敏夫**(としお・河毛かわげ) 1822 - ? 江後期近江浅井郡竹生島神社祠官、
国学:平田鉄胤門、
[敏夫(;)名の別名/通称]別名;政明、通称;次郎左衛門
- V3129 **敏雄**(としお・佐々木ささき、旧姓;井上)1831-9464 周防徳山藩士、歌;近藤芳樹・桜井武雄門、
[敏雄(;)名の号] 桐園
- V3139 **年緒**(としお・業合なりあい、大枝おえ男)1831-190070 備前邑久郡の神職;父門/国学/歌;藤原忠朝門
妻;藤井家の女、庸敬・藤原元成・森清浩・隼太・山口貞女の父、
[年緒(;)名の通称] 綱太郎
- W3198 **敏雄**(としお・渡辺わたなべ、資政すけまさ男)1847-192882 大坂の神職/国学;六人部是香門(父と同門)、
家督嗣;大坂の坐摩いかり神社社司、阿部野神社宮司、
[敏雄(;)名の号] 榎涯/柞園/小柴舎
- 敏夫(としお・貝原) → 耻軒(恥軒ちけん・貝原かいばら、儒者/史学) E 2 8 0 5
俊夫(としお・瀬尾) → 用拙斎(ようせつさい・瀬尾せお、書肆/詩文) B 4 7 3 3
俊夫(としお・竹村) → 吉明(よしあき・竹村たけむら、郷土史家) B 4 7 9 2
歳雄(としお・奥田) → 紫残(しざん・奥田おくた、俳人) T 2 1 5 5
- M3111 **利起**(としおき・宇田うだ、通称;貞造)?-? 江後期;文化1804-18頃山城の儒者、
1810「指瑕淇園文鈔」編
- 利起(としおき・齋藤) → 徳元(とくげん・齋藤さいとう、武将/俳人) K 3 1 6 5
利興(としおき・前田) → 吉徳(よしのり・前田まえだ、藩主/書翰) F 4 7 8 2
利興(としおき・三宅) → 松庵(しょうあん・三宅みやげ、儒者/教育) G 2 2 5 9
- X3141 **俊臣**(としおみ・中川なかがわ、)1599-164850 江前期陪臣;二条家の家臣/従四上/左京大夫、
歌;1635烏丸光広[春の曙の記]入;二条康道に随行し江戸紀行、
[天の原かすみのころもたちなびきよそほひ見する富士の白雪](春の曙の記;37/富士)
- 俊臣(としおみ・曾根) → 魯庵(ろあん・曾根そね、藩士/教育) 5 2 1 4
- W3140 **利鬯**(としお・前田まえだ、藩主齊泰7男)1841-192080 加賀金沢藩士前田貞事の養子;1854家督嗣、
1855(安政2)大聖寺藩で兄利義・利行が相次ぎ没;利行養子として藩主を継嗣;
加賀大聖寺藩14代藩主、東方芝山を登用;富国強兵、天狗党乱・禁門変・御所警備に功、
1868戊辰戦争では佐幕派から新政府軍に転向;北越戦争に出兵、1869藩知事、
1897貴族院議員補欠選挙で当選、歌;冷泉為理ためただ門、能;宝生流、東京に没、
[利鬯(音はリョウ)の初名/通称/号]初名;貞用/利益、通称;桃之助/飛驒守、号;竹径
- V3156 **年蔭**(としかげ・田端たばた、)1802-186261 紀伊日高郡の大庄屋、
国学・歌;本居大平・千種有功門、春清の父、
[年蔭(;)名の別名/通称/号]別名;正道/長健/年隆、通称;喜兵衛/喜三兵衛/兵衛ひょうえ、
号;岑峨しんが/壽彎じゅわん
- U3101 **利蔭**(としかげ・荒巻あらまき/黒田、本居内遠2男)1836-191378 紀伊和歌山藩士/黒田利章の養子、

- 国学/歌人/邦楽家; 歌曲・小鼓・太鼓・笛に長ず、茶・華道も嗜む、妻; 道子(歌人)、
[利蔭(;名)の別名/通称/号]別名; 常楠/安蔭、通称; 小次郎/小市郎、号; 玉松蔭
- 俊蔭(としかげ・藤原) → 後蔭(のちかげ・藤原、廷臣/歌人) 3 5 6 3
俊蔭女(としかげのむすめ・藤原) → 後蔭女(のちかげのむすめ・藤原、歌人) 3 5 6 4
- M3112 俊葛(としかず・狛こま、豊後守狛葛栄かずひで男)?-? 南北期1368-79頃の楽人、
1379「万秋楽説々注進」著
- M3113 俊量(としかず・綾小路あやのこうじ、法号; 量琇、有俊男/本姓; 源) 1451-1518 68 廷臣; 1483従三位/参議、
1489権中納言/94按察使/1503正二位/14出家(; 量琇)、家学; 郢曲に精通/笛に堪能、
「郢曲今様」1514「五節郢曲事」、「大嘗会五節郢曲」著、
歌; 1503三十六番歌合参加、「俊量百首」著、
連歌; 1498「明応七年儒学十五日何人百韻」、新菟玖波4句入、
[水むすぶ契りもあれやこゝにきて涼しさあかぬ中川の宿]、
(三六番歌合; 水辺納涼廿二番左)
- T3176 利和(としかず・前田まゑだ、加賀藩主吉徳3男) 1735-59 早世 25歳 母; 側室の真如院、江戸住、
第6代-10代の藩主5人の異母兄弟(宗辰・重熙の異母弟、重靖・重教・治脩の異母兄)、
母真如院が前藩主宗辰生母の浄珠院を毒殺しようとした嫌疑; 処分、
さらに母と大槻伝蔵の共謀と不義密通の嫌疑; 加賀騒動、利和は連座; 1749金沢に送致、
小立野上野の屋敷に幽閉; 幽閉中1759(宝暦9)没、
母と大槻伝蔵の不義の子とされ前田家の人とされず供養の列からも除外、
1951(昭和26)村上元三の小説を機に加賀騒動の再調査;
同母弟八十五郎と共に吉徳の実子とされ復権; 前田一族の供養の列に加わる、
[利和(;名)の幼名/法号]幼名; 勢之佐、法号; 心樹院
- T3195 利和(としかず・赤松あかまつ、通称; 喜内)?-1807 讃岐小豆郡安田村の里正、尊王敬神の思想家、
南朝の佐々木信胤の碑を安田村植松に建立、のち上京; 聖護院宮に出仕; 京に没
- U3194 俊和(としかず・紀きの、三冬みふゆ男) 1788-1820 33 紀伊名草郡の神道/国学者; 本居大平門
「名所歌集」「本居全集首」に作品入、
[俊和(;名)の通称/号]通称; 大夫、号; 椿陰
- V3181 利一(としかず・外山とやま、) 1789-1864 76 伊勢津藩士沢田平太夫家の家士、
国学; 本居春庭・富樫広蔭門
[利一(;名)の初名/通称]初名; 頼秀、通称; 三蔵/伝左衛門
- M3114 利和(としかず・吉田よしだ、利恭としか男/利充としみの孫) 1831-1905 75 代々美濃石津郡高須の豪農、
学問/歌; 祖父利充門、笙; 豊原陽秋門/書; 貫名海屋門/茶; 千宗室8世門、のち衆議院議員、
歌人; 香川景樹・熊谷直好門、桂園派最後の歌人、1858-60「あしの一葉」編、利清(歌人)の父、
[利和(;名)の通称/号]通称; 嘉六郎/長右衛門/耕平、号; 芦舎/無名指叟
利和(としかず・巨瀬) → 利和(としより・巨勢、幕臣/歌人) O 3 1 2 2
利和(としかず・土井) → 利厚(としあつ・土井、藩主/歌) M 3 1 0 3
利和(としかず→としよし・前田) → 利和(としよし・前田まゑだ、藩主/歌人) T 3 1 7 5
年和(としかず・石橋) → 知空(ちくう・石橋いしばし、国学/歌/出家) M 2 8 0 4
- M3115 年風(としかぜ/ねんふう・梅田うめだ、名; 季信、金沢伴絵師梅田景直男) 1791-1846 56 加賀金沢の絵師、
代々狩野派絵師として藩に仕えた、俳人; 梅室門/翠台を継承、1824「其如月」編、
[年風(;号)の通称/別号]通称; 九栄、別号; 翠台5世/趙翠台/北枝堂、法名; 菅阿弥、
法号; 三晴庵积道誉、江波ごうはの父
- M3116 俊賢(としかた・源みなもと、高明3男/母; 藤原師輔3女) 960-1027 68 廷臣; 988昇殿/蔵人、
992蔵人頭/従四下/994右兵衛督/995(長徳元)参議/996勘長官/997修理大夫、
1001従三位右中将/播磨守/治部卿、1003正三位/04権中納言/08従二位/10正二位、
1011皇后宮大夫/1017(寛仁元)権大納言兼治部卿皇后宮大夫/18大皇太后宮大夫、
1019権大納言致仕/治部卿・大皇太后宮大夫/20民部卿/27出家; 没
歌; 1024「高陽院行幸和歌」参加、
母・妻・娘ともに歌人、息子は詩歌人と説話編者、
母; → 俊賢母(としかたのはは・源) M 3 1 2 4

妻： → 俊賢室(としかたのしつ・源) M 3 1 2 3
 娘： → 成尋阿闍梨母(じょうじんあざりのはは) O 2 1 0 8
 外に藤原師経もろつね妻(経俊母)と源朝任あさとう妻(師良母)がいる、
 息： → 顕基(あきただ・源、詩人) 1 0 8 6
 → 隆国(たかくに・源、歌人/説話編者) 2 6 0 8

- T3160 **利賢**(としかた・斎藤さいとう、利匡or利胤男)?-1586 母;稲葉通以(越智)女、戦国-安桃期武将、美濃山県郡白檜城主、斎藤道三・義龍父子に出仕、前妻;蜷川親順女;離縁、後妻;明智光継女、子;石谷頼辰(光秀重臣;本能寺変後土佐に逃亡し長宗我部家に出仕)・子;斎藤利三(光秀重臣;本能寺変後戦死)・蜷川親長室・斎藤三統室、初代小田原藩主稲葉正勝の曾祖父、
 [利賢(;名)の通称/法号]通称;右衛門尉/伊豆守、法号;金粟院
- M3118 **利容**(としかた・としひろ・渡辺わたなべ、治太夫政敏男)1653-171866 江前期;陸奥弘前藩士;手廻組頭、兵学・神道・歌;藩主津軽信政(1646-1710)門、藩主津軽信政の側近、信政言行録「高照宮御遺鑑ごゆいかん」著(信政の神号;高照靈社/著者没後1733刊)、
 [利容(;名)の幼名/初名/通称]幼名;菊千代/初名;政方/政繁、通称;清右衛門/将監
- M3119 **俊方**(としかた・坊城ほうじょう/本姓;藤原、俊広男)1662-? 廷臣;1687参議/左大弁/88従三位;出奔、「蔵人権右少辨俊方記」/1680「坊城俊方卿記」85「白馬節会奉行申新作次第」、俊清の兄
- W3123 **俊方**(としかた・福原ふくはら、)1731-179262 長門萩藩士;御用所役、江戸住、歌人、
 [植そへし二葉みつばに瑞垣の松や千歳の後も栄えん](辞世;[萩の歌人]入)、
 [俊方(;名)の字/通称/号]字;公英、通称;与三左衛門、号;温厚斎
- M3120 **利謙**(としかた・土井どい、利徳男)1787-1813早世27 兄利制の養子;1794三河刈谷藩主/1803奏者番、従五下伊予守/1808大坂加番/13山城守、鷹狩・大坪流馬術・画を嗜む、「蓬葎庵鷹百首」著、
 [利謙(;名)の幼名/法号]幼名;三郎、法号;正運院、養嗣子;弟の利以としもち
- M3121 **俊堅**(としかた・北小路きたのこうじ/本姓;大江、北小路俊常男)1806-? 北小路俊方の養嗣子、廷臣、1817非蔵人/47蔵人;禁色昇殿/49左近衛将監、「北小路家記録」著
- M3122 **利堅**(としかた・堀ほり、通称;簾吉/小四郎、利哲男)?-? 母;溝口直福女、江後期幕臣;伊賀・伊豆守、1821書院番/西丸目付/目付/仙洞付/36(天保7)大坂町奉行;37大塩平八郎の乱勃発;東町奉行跡部良弼とともに鎮圧;馬が銃声に驚き落馬するという不名誉な逸話、1841普請・作事奉行/44本丸普請掛/45(弘化2)大目付;日記改・宗門改・道中奉行を兼務、1858(安政5)留守居役/60(万延元)息子利熙が切腹/62(文久2)病氣老衰で致仕隠居、孫の利孟が家督嗣、妻;林述斎女、息子;利熙/孫;堀利孟、「鶯園発会兼題」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸俊歌集」入(;伊豆守堀利賢名で入)、
 [秋風にいばゆる駒をひかへつつ月をふませてかへる露原](大江戸俊歌;秋858馬上月)、
 [あくる夜の空にすずしく残りけり月や鏡の朝顔の花](同;1016)
- S3188 **利器**(としかた・前田まえた、上州七日市藩主前田利和[1791-1839]男)?-? 江戸の幕臣;幕臣前田孝成の養嗣子、「前田采女孝興家系」著
- W3143 **利聲**(としかた・前田まえた、利保7男)1835-190470 母;毎木(橋本家)、1853(嘉永6)兄利友の養子、兄没;1854(嘉永7)家督嗣/越中富山藩12代藩主;文武奨励・植桑奨励・織物機械技術導入、藩政改革着手;1855富山大火・凶作で財政困窮、財政再建に金融混乱;父子の派閥抗争、結果父利保が実権掌握;利聲は政務から離れる、1859利保没;本家の前田利同が養嗣、利聲は隠居/以後富山藩は加賀本家からの富山詰家老が監督、国学者、のち東京住;没、
 [利聲(;名)の初名/通称]初名;利由、通称;房之助/主計かずえ、法号;霜山
- 利賢(としかた・堀) → 利堅(としかた・堀ほり、幕臣/伊豆守/歌) M 3 1 2 2
 俊方(としかた・加藤) → 逸人(いっじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1
- M3123 **俊賢室**(としかたのしつ・源みなもと、藤原忠尹女)?-? 平安中期歌人、後拾遺1045の作者左衛門督北方説(勅撰作者部類)は疑問、
 参照 → 師忠室(もろただのしつ・源、後拾遺歌人) H 4 4 3 8
- M3124 **俊賢母**(としかたのはは・源みなもと、藤原師輔女/母;経邦女、左大臣源高明の室)?-? 平安中期歌人;夫高明との恋の贈答;新古今1000(答歌)、死後に妹の愛宮が高明の室、惟賢・俊賢の母、
 [もろともにあはれといはずは人しれぬ問はず語りをわれのみやせん](新古今;恋1000)

[贈歌;年月はわが身にそへて過ぎぬれど思ふ心のゆかずもあるかな/西宮前左大臣高明]
俊賢女(としかたのむすめ・源)→成尋阿闍梨母(じょうじんあざりのはは、歌人) T 2 2 6 3

- M3125 **利勝**(としかつ・土井い、利昌男(徳川家康男説あり?) 1573-164472 母;葉佐田則勝女、
遠州浜松の生、幼少より家康の側近/1579秀忠誕生時にその側近/1602下総小見川城主、
1606従五下大炊介/1611下総佐倉に転封/老中/大坂冬・夏の陣参画、
将軍秀忠側近の第一人者、1617大炊頭/26従四下侍従/32秀忠没後は家光に出仕、
1633下総古河藩主、38大老、1628「土井利勝遺訓」著、
[利勝(;)名)の幼名/法号]幼名;松千代/甚三郎、法号;宝池院
- M3126 **利雄**(としかつ・南部なんぶ、初名;信貞、利幹男) 1724or25?-177956-55? 陸奥盛岡藩主;1752家督、
1753幕命で日光山本坊普請手伝;54完成、従五下信濃守/大膳大夫、風流人;能/茶/俳諧、
財政窮乏、養嗣;利正、「壺雲亭句集」編/1773「松花集」編、「日毎の華」著、
[利雄(;)名)の通称/号]通称;辰之助/亀五郎、号;万里庵/鶴霈かくてん/鶴舟/智江、法号;養源院
- V3167 **俊勝**(としかつ・高水たかみず/本姓;忌部、通称;越中)?-? 江中期;伊予桑村郡の布都ふつ神社神主、
歌人;鴨祐為すけため(1740-1801)門
- M3127 **俊克**(としかつ・坊城ほうじょう/本姓;藤原、坊城俊親男) 1802-6564歳 母;勸修寺経逸女、
叔父で義兄の坊城俊明の養嗣子、廷臣;1850参議;57激動の安政期に議奏、
1858日米通称条約問題で勅問に関与、条約勅許・将軍継嗣問題にも関与;正二位、
1859武家伝奏;和宮降嫁・将軍家茂上洛の折衝、1861入奥の和宮に随従/62権大納言、
1865従一位、1832「拝賀従事」1840-59「俊克卿日記草」、「和歌御会奉行雑誌」著、
「坊城俊克拝賀従事雑誌」外著多数
- 利勝(としかつ・前田) → 利長(としなが・前田まへだ/菅原、藩主) N 3 1 1 7
利勝(としかつ・前田) → 正甫(まさとし・前田/松平/菅原、藩主) E 4 0 4 5
利勝(としかつ・前田) → 宗辰(むねとき・前田まへだ、藩主/和学) E 4 2 2 3
- M3128 **利廉**(としかど・駒沢こまざわ、服部保耀男) 1789-187587 丹波篠山藩士駒沢利明の養子/篠山藩士、
儒;関南華・川島南溪門/江戸の古賀侗庵門/詩文;頼山陽・梁川星巖・猪飼敬所門、
藩校振徳堂教授、砲術修得;洋式兵法論主唱、1837郡奉行;農本論主唱;上書、野々垣村隠棲、
「杞憂編」「私策蔵言」「晏窓録稿」「土道警論」「瘋憂迫言そゆうはくげん」「聾翁他聞」著、
[利廉(;)名)の字/通称/号]字;士平、通称;沖之丞、号;晏窓/撫松、法号;覚翁宗悟居士
- V3157 **利門**(としかど・田村たむら、) 1822-188968 日向佐土原の国学者
俊兼(としかね/-かね・楊梅やまもも/藤原)→真乗(しんじょう、廷臣/詩歌人) E 2 2 5 9
- X3152 **俊兼**(としかね・源みなもと、清長男/兼長の孫) 1060-111253 母;高階章行女or朝光女、平安期廷臣;歌人、
正五下/中宮少進/美濃・能登、土佐守/治部丞/式部丞、季兼の父、
袋草紙に江記(大江匡房日記)入で;六人党頼家と為仲の確執・棟仲の証歌の逸話を語る
- J3146 **巖包**(としかね・柳生やぎゅう、号;連也斎れんやさい/浦連斎、利巖男) 1625-9470 劍客;新陰流達人、
尾張藩兵法師範
- M3129 **俊包**(としかね・北小路きたのこうじ、初名;国英/茂俊、俊真男/本姓;大江) 1673-175381 廷臣;
1691非蔵人、正六下/1746宮内権少輔/52従四下、1746「俊包としかね記」著
- 敏包(としかね・多田) → 園村竹(そののむらたけ、芬陀利華庵2世/商家/狂歌) E 2 5 1 7
俊兼(としかね/-かね・楊梅やまもも/藤原)→真乗(しんじょう、廷臣/詩歌人) E 2 2 5 9
俊兼(としかね・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8
利包(としかね・前田) → 知好(ともよし・前田、有庵、城代/文筆) Q 3 1 9 0
敏鎌(としかま→とがま・北原)→ 敏鎌(とがま・北原、国学者) I 3 1 8 4
敏鎌(としかま・梅本) → 敏鎌(とがま・梅本うめもと/岡田、商家/歌) U 3 1 3 6
- M3130 **利上**(としかみ/とがみ・大伴おおも) ?- ? 万葉四期歌人/卷八1573
[秋の雨に濡れつつ居ればいやしけど我妹わざもがやどし思ほゆるかも]
村上と同一? → 村上(むらかみ・大伴宿禰) 4 2 1 1
- U3100 **敏樹**(としき・荒尾あらお) 1688 - 175467 幕臣;大坂鉄砲奉行、
[敏樹(;)名)の別名/通称/号]別名;久誠、通称;平九郎、号;閑斎
- W3158 **敏樹**(としき・水野みずの) 1728 - 180477 筑後久留米藩士、
江戸住;国学・歌人;加藤千蔭門、歌;桂谿けいけい(白蓉軒)門、正芳の祖父、

[敏樹(；名)の初名/通称]初名；政樹/正常、通称；門弥/又藏

- T3186 **敏樹**(としき・安宅あたら) ? - 1814 陸奥の歌人；香川景樹門
俊豈(としき・坂本) → 天山(てんざん・坂本、砲術家/詩) D 3 0 5 7
敏樹(としき・山口) → 睦斎(ぼくさい・山口、和漢学者/教育) D 3 9 1 4
- M3131 **利清**(としきよ/のりきよ・松田まつだ)? - ? 江前期伊勢山田の俳人；望一らと初期伊勢俳壇形成、
1650刊「伊勢山田俳諧集」独吟入、「塾居紀談」に逸話；芸林叢書所収、75重徳「新統独吟集」入
- S3181 **利清**(としきよ/のりきよ) ? - ? 江前期撰津住人/狂歌；1666行風「古今夷曲集」2首入
[幾秋もかさね土器かはらけ手にとりて汲めどもつきじ菊の酒壺](古今夷曲集；五賀)
(かさね土器は祝宴用素焼土器で何杯も飲む/下句は謡曲猩々の詞)
俳人池田利清と同一？
- T3118 **利清**(としきよ/のりきよ・池田いけだ)? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第七新酒発句入、
[洩れとまれ新酒流るゝ柳樽](新酒発句；柳樽；両側に把手ある平らな酒樽、
新古今；西行；道の辺に清水流るゝ柳陰しばしとてこそ立ちとまりつれ)
- M3132 **俊清**(としきよ・坊城ぼうじょう、初名；俊安、俊広男/本姓藤原) 1667-1743 77 母；家女房、廷臣；
1688(元禄元)兄俊方が出奔；俊安が家督継嗣；俊清に改名、1690正五下/95正五上、
1694蔵人頭従四下/95従四上/98(元禄11)参議；右大辨/99従三位/1700左大辨、
1704(宝永元)改元定参仕・権中納言/正二位/05賀茂伝奏/07従二位/11(正徳元)権大納言、
1712鴨御祖社奉幣使/16正二位/18按察使/19大納言を致仕；按察使/36(元文元)従一位、
1743(寛保3)没、法号；宝道院、「九条輔実撰政宣下次第」「俊清卿記」著
- M3133 **俊清**(としきよ・鎌田かまた、通称；五郎兵衛) 1678-1747 70 大阪久太郎町の和算家；宅間能清門、
1722「宅間流円理」「宅間周率起源」/38「立円或問」著、「算法樵談九好演段」編
- M3134 **俊清**(としきよ・村上むらかみ) ? - ? 江中期享保1716-36頃大阪船越町住、
「三才因縁辨疑」著(1726/28刊)
- T3171 **俊清**(としきよ・木下きのした/本姓；豊臣、通称；内匠助たくみのすけ)? - ? 交代寄合の旗本幕臣；
豊後立石領主11代、歌人；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[心ゆく年のくれかな梅の花春をもまたで匂ひそめつつ](大江戸倭歌；冬1361/歳暮梅)
- X3135 **俊国**(としくに・源みなもと、初名；国能くによし、権中納言国信くによし[1069-1111]男)? - ? 廷臣；越前守、
肥後守、従五下、歌人；1165清輔[続詞花集]入(国能名)、
顕国・国教・雅国・信時・国範・信顕・延信・信智・従二位信子・従三位俊子の兄弟、
[埋木は昔は花も咲きにけむおもひでもなき我が身なりけり](続詞花；雑875)
- X3136 **俊国**(としくに・藤原ふじわら、宗親[俊親/1183-1227]男)? - ? 文永1264-75頃没 60 母；菅原為長女、
鎌倉中期廷臣、漢学者；侍読、宮内少輔/右京大夫/正四下、
妻；小槻季継女、経雄(参議)・経定・師雄・親誉(権大僧都)の父、
1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に詩入、
[七宝塔婆彰世界 四衆観仏在虚空](定家追善；二十八品並九品；23/宝塔品)
- M3135 **利国**(としくに・吉田よしだ) ? - ? 江中期福山藩士、
地誌；1748「軺浦志ともうらし」藩士日野為臣(所介のぶすけ)と共編
- T3139 **利邦**(としくに・堀ほり、利安男)? - 1857 江後期旗本/幕臣/1830(文政13)父没；家督嗣；
小姓組/中奥番/1848先手鉄砲頭/52日光奉行/54(嘉永7)西丸留守居に抜擢/56槍奉行、
戦国時代の武将堀秀政の弟堀利重を祖とす/祖父の堀長政の代に分家、
息女；徳川家定の側室豊儉院、歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[焚く柴の煙の末のひとなびき我が山里の月の横雲](大江戸倭歌；秋868/山家月)、
[利邦(；名)の通称]尚三郎/文次郎/美濃守/帯刀/内膳
- U3147 **敏国**(としくに・大池おおいけ、織右衛門男) 1831-94 64 飛騨高山の国学者/歌人；富田礼彦(節斎)門、
妻；山崎弘泰女の三保子(歌人)、真澄の父
[敏国(；名)の通称/靈号]通称；平八、靈号；鏡比古真清大人
- M3136 **俊子**(としこ・承香殿じょうきょうでん、藤原千兼ちかぬの妻)? - ? 平安前期女房歌人、千兼女あやつこの母？
醍醐天皇女御源和子(承香殿女御)に出仕/大納言源清蔭邸に出仕、
元良親王と交際；大和物語8首入、藤原仲平・女蔵人一条君と交流、

勅撰7首;後撰(919/1182)拾遺(510)新勅撰(301/365)続後撰(1247)新続古(1008)、
[思ふてふことのはいかになつかしなのちうきものと思はずもがな](後撰集;十三恋919)
(男の歌への返歌)

夫 → 千兼(ちかぬ・藤原ふじわら、後撰集歌人) B 2 8 4 8

娘 → 千兼女(ちかぬのむすめ・藤原、後撰歌人) B 2 8 4 9

U3173 齡子(とし・柏原かしばら、旧姓;三井)1768-1841 74 京の歌人;伴蒿蹊・香川景樹門、
豪商柏原孫左衛門慶章(柏原家7代/法名;正寛)の妻、

[齡子(;名)の別名/号]別名;艶子/縁子/えん/江牟、法号;正寿尼

M3138 俊子(とし・畠山はたけやま、常操つねもち女)?-1837 江戸の歌人、「袖の露」著、追善集「橘の露」

V3193 敏子(とし・中村なかむら、)1780-1845 66 因幡八束郡の歌人;香川景樹門

T3165 俊子(とし・井伊いゝ家) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入

[山鳩のしば鳴く声も冬めきて空さだめなく時雨初めけり](大江戸倭;冬1053/初時雨)

W3111 福子(とし/とみこ・華園はなぞの、西園寺実季女)1814-73 60 京の歌人、西園寺公望の叔母、

出羽酒田の真宗安祥寺住職の華園継尊の後妻、[君様]と称される、

[福子(;名)の初名] 寿子

夫 → 継尊(けいそん・華園はなぞの、僧/歌人) N 1 8 8 8

T3194 俊子(とし・飯田いだ/杉本、名;登志、飯田秀雄女)1817-83 67 母;汐子、

因幡気多郡の加知弥神社神主家の生、飯田輝子の姉、国学/歌;本居大平門、

京の東園家に出仕/東園家家臣の杉本主膳の妻、歌集「飯田俊子歌集」著

W3138 鋭子(とし・本多ほんだ、号;松琴、鳥羽藩主稲垣長剛ながた2女)1835-77 43 志摩の歌人、容姿端麗、

1862(28歳)安房の長尾藩主本多正訥まさむねの継室(正室は松平信発養女の文子)、

国学・歌・生花・茶を嗜む、歌集「松琴遺草」

智子(としこ) → 後桜町天皇(ごさくらまちてんのう、歌人) C 1 9 6 2

年子(としこ→のぶこ・伊達) → 年子(のぶこ・伊達、重村妻、藩政/歌) B 3 5 3 8

V3115 敏言(としこと・小島こじま、旧姓;村松)1749-1817 69 信濃伊那郡の国学者;加藤尚質門、

歌;香川景樹門、飯田藩士、

[敏言(;名)の通称/号]通称;市郎右衛門/与五兵衛/喜三兵衛、号;不学斎

俊言(としこと・藤原) → 俊言(としとき・藤原、歌人) N 3 1 0 1

M3139 俊子内親王(としないしんのう、後三条天皇皇女)1056-1132 77 斎宮、

女房に百合花ゆりはなの河内・大進・筑前乳母など

肅子内親王(としないしんのう) → 肅子内親王(しゅくししないしんのう、歌人) I 2 1 6 1

敏尹(としこれ・木地屋) → 風律(ふうりつ・木地屋きぢや、商家/俳人) B 3 8 0 9

俊左衛門(としざえもん・木村) → 林昱(しげてる・木村きむら、藩士/和算家) R 2 1 6 1

M3140 利貞(としさだ・紀き、貞守男)?- 881 廷臣;少内記/大内記/879叙爵/880弾正少弼/881阿波介、

古今集4首;136/369/370/446、

[あはれてふことをあまたに遣やらじとや春にをくれてひとり咲くらむ](古今集;夏136)、

(卯月に咲ける桜を見て/あはれてふ;素敵だという褒めことば)

M3141 俊貞(としさだ・姓不詳;源or藤原)?-? 平安後期・鎌倉期歌人、1190-8頃「玉花ぎよつか集」撰(散佚)、

左馬允、隆国「宇治大納言物語」正本所持の「侍従俊貞」か?(;宇治拾遺巻頭)

M3142 俊定(としさだ・源みなもと、具定男/通貞の孫)?-1266 鎌倉中期廷臣;従四下右近少将/出家、

歌人;夫木抄入集、勅撰4首;続古今(1083/1797)新後撰(221)続千載(1199)、

[したむせぶあしびのけぶりいかにしてなにはたてじとおもひそむらん](続古;恋1083)、

[風そよぐ軒端の竹にもる月のよのまばかりぞ夏も涼しき](新後撰;夏221)

M3143 俊定(としさだ・坊城ほうじょう/本姓;藤原、吉田[坊城]経俊男)1252-1310 59 母;平業光女、

廷臣;1253従五上右衛門佐/61正五下/83正五上/84従四上/85正四下右中辨/86左中辨、

1287正四上蔵人頭/右大辨/88(正応元)参議;左大辨/従三位;造東大寺長官、

1290(正応3)右衛門督/正三位;権中納言、91左衛門督/従二位、93正二位、95辞任、

1303仰院執権/06大中風/1307(徳治2)権大納言;後二条天皇の傅/2ヶ月で辞任、

1308(延慶元)天皇死去で出家、妻;弁内侍、定資の父、

歌:1292巖島社頭和歌参加、93後宇多院十首に出詠/1303嘉元仙洞御百首参加、新和歌集入、勅撰18首;新後撰(281/421/595/863/1282)玉葉(1929)続千(3首)風雅(2首)新千(2首)以下
[色かはる野辺の浅茅におく露を末葉にかけて秋風ぞ吹く](新後撰;四秋281/五首歌合)

M3144 **俊定**(としさだ・北小路きたのこうじ、北小路俊永の養子/本姓;大江)1508-? 1574存 廷臣;二条家諸大夫、1536弾正大弼/47備後守/71従三位/74出家、連歌;1574「紹巴光秀等何人百韻抄」入、
「藤孝紹巴等何路百韻」参加
[俊定(;名)の通称] 江三位

M3145 **俊定**(としさだ・古藤田ことだ、俊重男)?-? 剣術家(祖父俊直が伊藤一刀斎景久に入門以来家業)、美濃大垣藩主戸田氏信に出仕;一刀流指南役、養嗣;高弟上田又八郎俊矩、1664「一刀斎先生剣法書」、「一刀流剣法口伝書」著、
[俊定(;名)の通称/号] 弥兵衛/弥兵衛尉、禅要居士(致仕後の号)

M3146 **利貞**(としさだ・高志たかし、利次男)1663-173270 泉州堺の人/堺惣年寄;父の職を継承、経史/儒仏/地誌に精通、晩年は世俗を離れ参禅、「全堺詳志」著、泉溟の兄、
[利貞(;名)の字/号/道号法諱]字;松年、号;嘿山もくざん、道号法諱;芝巖昭皓

M3147 **利貞**(としさだ・永山ながやま、潜斎男)?-? 江中期筑前の儒者/父に従い各地巡歴、武将逸話を蒐集:1712「太平将士美談」著

M3148 **俊貞**(としさだ・坂本/阪本さかもと、天山男)1791-186070 信州の砲術家;父門、長崎で父と死別、大阪阪本本家の養子、遠藤但馬守の命で賊を退けるの功あり、砲術を子弟に教授、宋学を主唱、「咬菜秘記」「万字解」「責己論」著、俊元の弟、
[俊貞(;名)の字/通称/別号]字;叔幹、通称;鉉之介、別号;鼎斎/、咬菜軒、私諡号;剛毅先生

T3156 **利貞**(としさだ・上村うゑむら/本姓;源)?-? 江後期;歌人、神職?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[五月雨の雲吹きはらふ山風に栗の花散る岨そはのかけ道](大江戸倭歌;夏671)
[馬を馳せ弓引く業もいにしへを忘れぬまでの御代ぞかしこき](同;雑2018)

M3149 **利貞**(としさだ・世良せら、通称;孫槌)1816-7863 長門萩藩士:代々御膳部方で膳夫がしわでを勤める、国学:近藤芳樹門、江戸祇役の時;松岡辰方・栗原信充門/1860平田篤胤門、故実精通、維新後長門一宮住吉神社宮司、大教院教典編纂に参画、
「古国集録」/1841-43「世良孫槌日記」著

利貞(としさだ・高橋)	→	白山(はくざん・高橋たかはし、儒者)	D 3 6 1 2
利貞(としさだ・中村)	→	焉馬(初世えんば・烏亭うゑい、落語/戯作)	B 1 3 3 3
利貞(としさだ・児玉)	→	金鱗(きんりん・児玉こだま、藩士/儒者/詩)	J 1 6 0 9
利貞(としさだ・菅)	→	周泰(しゅうたい・菅すが/藤野/橘、藩士)	I 2 1 4 1
利貞(としさだ・篠岡)	→	謙堂(けんどう・篠岡ささおか、儒者)	E 1 8 9 7
利貞(としさだ・大内)	→	清衛門(せいゑもん・大内、問屋/藩士)	H 2 4 4 5
利貞(としさだ・福住)	→	松年(まつとし・福住ふくずみ、商家/歌人)	S 4 0 2 4
利定(としさだ・成田)	→	蒼虬(そうきゅう・成田なりた、藩士/俳人)	2 5 0 7
純禎(としさだ・五井)	→	蘭洲(らんしゅう・五井ごい、儒者)	4 8 0 5
敏貞(としさだ・富田)	→	長洲(ちやうしゅう・富田、藩士/儒者/詩)	I 2 8 7 2
俊貞(としさだ・有沢)	→	永貞(ながさだ・有沢ありさわ、藩士/軍学者)	D 3 2 6 5
歳貞(としさだ・桂)	→	久武(ひさたけ・桂/島津、藩士/日記)	B 3 7 2 7

W3141 **利郷**(としさと・前田まへだ、越中富山藩主前田正甫7男)1703-4644 母;側室高木円慶女、1719(享保4)元服;内膳利郷と称す/25(享保10)5百石、越中富山藩年寄、国学・歌に長ず、内山逸峰はやみね(十村)と「長岡八景」を編纂、
[利郷(;名)の通称]又千代/内膳

M3150 **利里**(としさと・土井どい、利清男)1722-7756 母;土肥利益女、兄利延(肥前唐津藩主)の養嗣子、1744唐津藩主襲封/従五下大炊頭/1759奏者番/62古河藩主に転封(利勝以来の旧地)、1763寺社奉行/69京都所司代/従四下/侍従、二条城に没、藩医川口信任に人体解剖を許可、「科条類典」編纂(幕府法典御定書の解釈等);その功績で將軍から表賞、
[利里(;名)の幼名/法号]幼名;幾之助、法号;広智院

- 世達(としと・関) → 思亮(しりょう・関せき、藩士/書家) D 2 2 2 2
俊郷(としと・吉田) → 俊彦(としひこ・吉田よしだ、藩士/国学) W 3 1 9 3
- M3151 としざね(伴とも) ? - ? 平安期保明親王の帯刀/歌;920頃「保明親王帯刀陣歌合」入、
[野辺ごとに心をやらむ秋萩の咲くをりかねて散らさせじとて](帯刀陣歌合;萩右2)
- M3152 俊実(としざね・源みなもと、隆俊男)1046-111974 母;源行任女、廷臣;1060因幡守/61刑部権大輔、
1075左馬頭/76蔵人頭/79右兵衛督/80(承暦4)参議従三位/83、太皇太后宮権大夫、
1086(応徳3)-96檢非違使別当/89左兵衛督/91(寛治5)権中納言/1100治部卿/中納言、
1106(嘉承元)権大納言/1100正二位/11致仕;籠居、
歌人;1093(寛治7)郁芳門院根合/1102内裏堀河院艶書合参加、
勅撰3首;金葉307/千載101/新勅737
[花のみな散りてののちぞ山里のはらはぬ庭は見るべかりける](千載集;二春101)
袋草紙;郁芳根合撰者匡房の批評あり(俊実は檢非違使別当の唐名[大理]名)
- M3153 俊実(としざね・坊城ほうじょう、定資男/本姓;藤原)1296-135055 母;藤原隆氏女、廷臣;1318参議、
1331権中納言/32従二位、持明院統近臣;花山院側近/34出家、歌;頓阿招き自邸歌合催、
風雅集3首(458/663/1750)入、菟玖波3句入、
[影よわき木のまの夕日うつろひて秋すさまじきひぐらしの声](風雅;五秋458)
- M3154 俊実(としざね・二宮にのみや、経実男)1523-160381 武将/佐渡守、安藝新庄城主吉川元春の家臣、
1555陶晴賢との厳島合戦で功、晩年に仏門;周伯和尚を請じ松厳院建立、「二宮佐渡覚書」著、
[俊実(;名)の幼名/通称]幼名;才太郎/興十郎、通称;木工助もくのすけ
- M3155 俊孚(としざね・横田よこた、横田俊晴の養子)1704-7269 岩代会津藩士/医者、1772「先邦物語」著、
「会津古事談」著
[俊孚(;名)の幼名/通称]幼名;竹松、通称;先十郎/先次郎/仙次郎
- M3156 俊信(としざね・千家せんげ/出雲臣、俊勝男)1764-183168 出雲杵築の出雲国造の家/松江で漢学修学、
上京し西依成斎門/1794国学;松阪の本居宣長門、帰郷後出雲杵築で家塾;子弟教育、歌人、
槍術・医学・天文に通ず、「訂正出雲風土記伝」「出雲国式社考」、1801「日本文字伝来考」著、
1807「古訓祝詞」11「道能八千種」/31「杉の小山の記」「阿波国杉之小山之記」著、
「天穂日命考」著
[俊信(;名)の通称/号]通称;世々丸/日古主/清主、号;梅廼舎/梅居/葵斎/建玉、俊秀の弟
- W3116 年実(としざね・原田はらだ、)1809-188779 周防都濃郡の国学者;徳山藩に出仕、直胤の父、
[年実(;名)の初名/通称/号]初名;文成、通称;東作/市郎左衛門、号;瑞穂舎みずほのや
俊実(としざね・二条/藤原)→ 俊言(としとき・藤原ふじわら、廷臣/歌人) N 3 1 0 1
俊実(としざね・後藤) → 九阜(きゅうこう・後藤ごとう、儒者/詩文) M 1 6 5 3
俊実(としざね・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8
俊実(としざね・綾小路) → 重実(じげみ・大原/源/綾小路、廷臣/記録) S 2 1 7 4
- M3157 俊重(としげ・源みなもと、俊頼男/母;藤原清綱女)?-? 平安後期廷臣;1101式部丞(大夫)/従五上、
1013伊勢守に任ぜられたが辞退、能書、俊恵の兄、教縁父、歌人;続詞花・夫木抄入、千載1089、
[いかにせむ伊勢の浜萩水隠みがくれて思はぬ磯の波に朽ちなん](千載1089/伊勢守辞退)、
(大僧正正尊の返歌;しらずやは伊勢の浜萩折れ伏して君が方にとなびく心を)
袋草紙に皇族の女房に[藤の裏葉の]と言われその故を知らず黙した逸話入、
参照;後撰100[春日さす藤の裏葉のうちとけて君し思はば我も頼まむ];源氏卷名の由来
- M3158 俊重(としげ・真山まやま、従重[継重]男)1586-166378 仙台藩士;1607勘定役/近習詰/評定所記録役、
大坂夏の陣に軍功、「真山記」著、遊佐ゆき木斎はくさいは藩史編纂に俊重の覚書を多く引用、
[俊重(;名)の字/通称]字;犬若、通称;正兵衛、純重の弟、重経の父
- X3142 俊重(としげ・姓不詳) ? - ? 江前期;陪臣/二条家の家臣?、
歌;1635烏丸光広[春の曙の記]入;二条康道に随従し江戸紀行;(扶桑拾葉集には俊信)、
[大空に立ちそふ雲とまがひけり霞にもるゝ富士の白雪](春の曙の記;36/富士)
- M3159 俊重(としげ・山森やまもり) ? - 1705 加賀金沢藩士;2千50石/文筆家、
1702「国政雄略」著(;前田利家利長の事蹟)
- S3151 利茂(としげ) ? - ? 江戸狂歌作者;1785「徳和歌後万載集」入、
[ひともしをあにらいもうとかゝげたてせりあふひまにふきけしなしそ](後万載集;817)

(物名;草名十、灯火;一文字[ねぎ]を隠す、兄ら妹;にら・いも・うど、かかげは灯火をともす、
にら・いも・うど・たで・せり・あふひ・ふき・けし・しそ)

- M3160 **利重**(としげ・秋尾あきお) 1765- 1791 早世27 上州沼田藩士/剣術;長沼正兵衛門、
「女訓」著、「古亭遺草」
[利重(;名)の字/号]字;子余、号;古亭
- T3157 **利茂**(としげ・森川もりか) ? - ? 江後期;歌人、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、徳和歌後万載集の[利茂]と同一?、
[衣手にけさ置きそむる露見れば袂よりこそ秋は来ぬらめ](現存百人一首;11)
- M3161 **年繁**(としげ・風間かざま、通称;久太郎)?-?80歳存 幕末期江戸駒込の国学者/歌人、
1840「万葉略解通証標」、「年繁としげ随筆」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[武蔵野や風のとどりの花すすき今宵は草の枕にぞかる]、
(大江戸倭歌;雑1831/夜宿野亭)
- 俊重(としげ) → 俊重(しゅんじゅう、室町期15ct連歌) F 2 2 2 6
- T3178 **とし女**(としよ・市川いちか) ?- ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[待ちわびてねをもなくかな足引の山鳥の尾の長き夜すがら](大江戸倭歌;恋1587)
- 利次郎(利二郎としろう・板倉) → 勝喜(かつよし・板倉、藩主/国学) N 1 5 9 9
俊二郎(としろう・鈴木) → 春山(しゅんざん・鈴木すずき、藩医/兵学) J 2 1 7 7
敏次郎(としろう・杏) → 凡山(はんざん・杏きょう、儒者/訓点改訂) H 3 6 8 3
- T3196 **俊季**(としえ・秋田あきた、実季さねすえ男) 1598-1649 52 母;円光院(細川昭元女)、山城の生、秋田家3代、
1614大坂の陣に東軍で出陣/江戸幕府に忠勤、実父と不仲;1630(寛永7)父失脚;
幕命で家督を継嗣;常陸宍戸2代藩主/従五位下/1645(正保2)陸奥三春に移封;5万5千石、
河内守、1649(慶安2)勤番中に大坂城に病死、
兄弟;俊季・季次・季信・季長・季則、女子(荒木高綱室)・女子(津軽信建正室)、
正室;永寿院(松平信吉女)、息子;盛季/季久、息女;新庄直長正室/植村忠朝正室、
歌;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[漏さじと思ひいとなむことわざのけふになりては猶残るかな](若むらさき;106歳暮)、
[俊季(;名)の通称/法号]通称;安東太郎/藤太郎/伊豆守/河内守、法号;真如院
- 俊季(としえ・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8
利季(としえ・三条) → 実顕(さねあき・三条/転法輪三条/藤原、右大臣/日記) K 2 0 6 8
- M3162 **利助**(利介としけ・梅田うめだ、号;沙明)?-? 江中期江戸の歌舞伎合作者;金井三笑門、
1769「雪梅顔見勢」70「粧相馬紋日」71「梅花銅鉢木」72「江戸容儀曳綱坂」、
1773「江戸春名所曾我」74「旭耀金丸山」著
- V3101 **俊輔**(としけ・久藤くどう、) ? - ? 江中期京の歌人;烏丸光栄みつひで(1689-1748)門、
歌;風早かざはや実積さねつむ(1691or92-1753)門、筑後久留米に住、
[俊輔(;名)の通称/号]通称;紙屋久治郎、号;安雅斎
- V3112 **敏祐**(としけ・黒山くろやま/本姓;物部、) ?-?享和1801-04頃没 江中期;筑前鞍手郡新入の劍神社宮司、
国学者、
[敏祐(;名)の通称] 上総介
- M3163 **俊資**(としけ・綾小路あやのこうじ/本姓;源、庭田重熙2男) 1758-1833 76 母;唐橋在廉女、
権大納言綾小路有美の養嗣、廷臣;1780従三位/84正三位/87宮内卿/96(寛政8)参議、
1797石清水放生会参仕/98従二位/1801(享和元/44歳)権中納言;革命并改元定参仕、
1802石清水放生会上卿/04権中納言辞任/05按察使/07正二位、
1824(文政7/67歳)権大納言;すぐ辞任/1833(天保4)没、国学者、歌人;鶴峯戊申しげのぶの師、
1781「光格天皇御元服記」1813「石清水臨時祭再興図絵」「石清水社再興絵詞」著、
「石清水臨時祭清涼殿東庭舞御覧図並詞書」著、法号;松陰院
- W3117 **利亮**(としけ・引田ひきた、) 1820-1901 82 長門萩藩士、国学者/歌人、赤間神宮宮司、
維新後;山口皇典講究所所長、上野富岡の一宮貫前ぬさき神社宮司、
歌;1870(明治3)[月友会当座探題]参加、

[はかなくも葉ずゑの露にならひてやうつろひはてし萩の花妻]([萩の歌人]入)、
[利亮(；名)の通称]辰之允/新左衛門

V3134 **利亮**(としすけ・酒井さかい、)1823-188866 三河賀茂郡三好村の眼科医、歌人；千種有功門、
松本奎堂いどうらと交流；天誅組に軍資金調達、寺子屋を開設；子弟教育/歌の指導、
[利亮(；名)の通称/号]通称；玄悦/敬造、号；松の舎/松翠/松山/幽静、利泰(眼科医)の父

V3124 **年助**(としすけ・権田ごんだ、直助なおすけ男)1836-7439 武蔵入間郡の神職；平田鉄胤門、
三河砥鹿神社宮司

俊資(としすけ・葛巻/大野木)→ 克明(かつあきら・大野木おのぎ、藩士/記録)N 1 5 2 3

俊祐(としすけ・曾我) → 塘里(とうり・曾我そが、俳人) I 3 1 1 2

俊佐(としすけ・武野) → 俊佐(しゅんさ/としすけ・武野たけの、俳人) J 2 1 6 7

年輔(としすけ・村部) → 貞幹(さだもと・村部むらべ、藩士) J 2 0 9 3

利甫(としすけ・高志) → 泉溟(せんめい・高志たかし/修姓；高、儒者)G 2 4 6 5

M3164 **利純**(としずみ・出口でぐち、吉田利充としみつ[1790-1855]3男)1833-187442 美濃石津郡高須の農業、
美濃岐阜の出口家の養子、歌人；熊谷直好門/桂園派、渡忠秋と親交、
1858-60「あしの一葉」編、利恭としたかの弟/利和(1831-1905)の叔父、
[利純(；名)の通称]房七郎/彦一郎/七左衛門

利住(としずみ・前田) → 慶寧(よしやす・前田まえた/藤原、藩主/歌)H 4 7 8 5

利純(としずみ・大村) → 純熙(すみひろ・大村、藩主/兵学) D 2 3 9 6

俊造(としぞう・堤) → 大防(だいぼう・堤つみ、医者/歌人) Y 2 6 3 2

俊蔵(としぞう・岩瀬/小野)→ 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7

俊蔵(としぞう・松田/香川)→ 景柄(かげもと・香川、歌人) 1 5 1 1

俊蔵(としぞう・宮本屋) → 峨洋堂(がようどう、読本作者) P 1 5 6 2

俊蔵(としぞう・伊藤) → 宜堂(ぎどう・伊藤いとう、儒者/教育) I 1 6 6 7

俊蔵(としぞう・山田) → 寄斎(きさい・山田やまだ、儒者/詩文) K 1 6 4 7

俊蔵(としぞう・川瀬/桜井)→ 東亭(とうてい・桜井、儒者/詩人) G 3 1 5 7

俊蔵(としぞう・河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7

俊蔵(としぞう・上田) → 春荘(しゅんそう・上田、里正/新田開発) L 2 1 3 3

俊蔵(としぞう・安井/市野)→ 天籟(てんらい・市野/安井、藩士/儒者) E 3 0 5 5

俊蔵(としぞう・葛西) → 靖斎(せいさい・葛西かさい/小山田、医者) I 2 4 2 6

俊蔵(としぞう・吉雄) → 南阜(なんこう・吉雄よしお、蘭学、蘭方医) I 3 2 9 6

俊蔵(としぞう・青島) → 俊蔵(しゅんぞう・青島あおしま、蝦夷地調査) L 2 1 3 4

俊蔵(としぞう・尾崎) → 雅嘉(まさよし・尾崎、医/国学/歌人) 4 0 2 4

俊蔵(としぞう・清水) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7

俊蔵(としぞう・橋本) → 弘道(ひろみち・橋本、藩士/神職/歌) H 3 7 3 4

利三(としぞう・斎藤) → 秀麿(ひょうまろ・斎藤・藤原、医者/国学) D 3 7 8 4

利蔵(としぞう・小塚) → 直持(なおもち・小塚こづか、国学者) C 3 2 6 8

M3165 **俊隆**(としたか・源、初名；忠隆、大蔵卿師隆男)?-? 母；藤原為房女、平安後期廷臣；少納言/大宮権亮、
正五下/雅仁親王職事、妻；藤原為隆女、歌；1118(元永元)内大臣忠通家歌合参加、
[さごろもの袂はせばしかづけども時雨の雨は心して降り] (内大臣家歌合；十一番左21、
判者基俊は狭衣・せばしは浅歌重言と批判)

息女 → 皇嘉門院別当(こうかもんいんのべつとう、歌人) 1 9 8 9

M3166 **俊隆**(としたか・清原、教隆男)1241-9050 漢学者；音博士/直講/伯耆守/少外記正五下、
関東評定衆、「皇和律名例」校訂

M3117 **利太**(としたか・前田まえた、別名；利卓/利益/利治、滝川一益男?)1533?-1605?73? 前田利久の養子、
金沢の前田利家(養父利久の弟)に出仕、越中阿尾城主、1590出奔；上洛/会津上杉景勝家臣、
関ヶ原戦後浪人、1601「前田慶次道中日記」、「小野物語」「九生記」「無苦庵の頌」著、
[利太(；名)の通称/号] 通称；宗兵衛/慶次郎/慶次、号；穀蔵院ひよつと斎

U3142 **俊賓**(としたか・小津おつ、旧姓；松本)1683-176381 伊勢松坂の国学者/歌人、本居家の親戚、
1731本居家菩提寺の樹敬寺住職茂鮮の創設した[嶺松院歌会]に参加、
[俊賓(；名)の通称/号]通称；六平、号；祐翁

- V3102 **利恭**(利孝としか・櫛田くしだ、利勝男)?-1860 尾張清洲の脇本陣・問屋役を務める、父利勝はもと中島郡三宅村杉家の当主;櫛田家に婿入りし以後杉家と当主兼任の関係、1820(文政3)神明町分庄屋役/21年寄役;以後4役を兼任/56(安政3)村々惣代役を兼務、苗字帯刀/熨寸目着用許可、国学/歌;本居大平門、利眞としまさの父、
[利恭(;)名)の初名/通称]初名;利孝、通称;時次郎/源兵衛
- W3192 **利恭**(としか・吉田よしだ、利充としみつ[1790-1855]男)1822-48**早世**27 美濃石津郡高須の農業(豪農)、国学・歌人;熊谷直好門;桂園派歌人、出口利純としずみの兄/利和としかずの父、
[利恭(;)名)の通称]長左衛門 [1790-1855]
- W3176 **敏堯**(としか・矢島やじま、敏彦の養嗣子)1798-1868**71** 信濃伊那郡箕輪村の里正を継嗣、関流和算;養父敏彦門、国学・歌;小山田与清門、瀬戸尚芳の和算の師、敏平の父、
[敏堯(;)名)字/通称/号]字;子誠、通称;朋之丞/八郎右衛門、号;桃齋
利高(としか・前田) → 光高(みつたか・前田まえだ、藩主/儒学/歌) D 4 1 7 2
俊隆(としか・坊城) → 定資(さだすけ・坊城/藤原、廷臣/歌人) B 2 0 8 8
年隆(としか・田端) → 年蔭(としかげ・田端たばた、大庄屋/国学) V 3 1 5 6
俊隆女(としかのむすめ・源) → 皇嘉門院別当(こうかもいんのべつとう、歌人) 1 9 8 9
- M3167 **利武**(としたけ・堅山たてやま、通称;武兵衛)?-? 江末期薩摩藩士/藩主島津忠義の側役、記録、1856-7「堅山利武公私日記」、「堅山利武公用控」著
- U3129 **允健**(としたけ・岩崎いわさき/本姓;藤原、)1808-30**早世**23 三河渥美郡吉田天神社神主、国学;1829(文政12)平田篤胤門、
[允健(;)名)の幼名/通称/号]幼名;浜並、通称;典膳、号;帯刀
利武(としたけ・細川) → 宣紀(のぶのり・細川ほそかわ、藩主/詩人) C 3 5 7 2
敏武(としたけ・阿部) → 宗愿(そういん・待田まちだ/阿部、礼法/歌) L 2 5 1 2
- M3168 **俊忠**(としただ・藤原ふじわら、初名;親家、忠家男)1071or3-1123**53or51** 母;藤原敦家女、廷臣;1106参議、1114従三位/22権中納言/権帥/堀河天皇近臣、俊成の父、歌;1102内裏艶書けそらぶみ歌合参加、自邸で歌合歌会主催;1104左近権中将俊忠朝臣歌合・恋十首歌会等を催、「俊忠卿集」著、続詞花・言葉・秋風・万代集入集、勅撰29首;金葉(148/231/468)詞(232)千(7首)新古以下、
[五月闇花橘のありかをば風のつてにぞ空にしりける](金葉;夏148/空と推測を掛る)
[俊忠(;)名)の号]号;二条、通称;二条帥にじょうのそら、
息子 ; → 俊成(としなり・藤原、歌学者/歌人) 3 1 4 7
俊忠女; 俊子[?-1186/藤原頼長の室/長方(ながかた、憲頼1139-91)の母]
- X3132 **利忠**(としただ・度会わたらい、)? - ? 平安鎌倉期;伊勢外宮の神職/権禰宜?、歌;1233刊[御裳濯集]入、
[おもひやれあれたる宿のさびしきに松吹く風の秋の夕暮](御裳濯集;秋350)
- M3169 **利忠**(としただ・梅津うめづ、家老忠国男/本姓;藤原)1637-90**54** 出羽久保田(秋田)藩士、兵法;金光主水・今村正員(不憎)門、連歌;里村玄祥門/歌;佐竹義寛・中院通茂門、禪;慈賢門/書;佐々木志津麿門、
1663致仕、「軍法議論」「兵法相伝系図」著、政景の孫(憲忠の義孫)、忠宴ただよし・敬忠よしただの兄、
[利忠(;)名)の別名/通称/号]初名:忠豊、通称;能登/主馬、号;梅叟/怡軒/敬窩/吟風亭、法号;理精
- S3182 **利忠**(としただ・河内) ? - ? 江前期撰津住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入
- M3170 **利忠**(としただ・西脇) ? - ? 江前期和泉和算、1697入門書「算法天元録」編
- M3171 **俊将**(としただ・坊城ほうじょう/本姓;藤原/一時名;且、初名;忠康、勸修寺尹隆男)1699-1749**51** 廷臣、坊城俊清の養嗣、1728参議/38権大納言/45正二位、茶道織部流;近衛家熙門、俊逸としはや父、1725「往来田訴論記」26「関白宣下愚記」、27「親王元服理髮要次第」編、「詩歌書法抄」、「俊将卿記」「賀茂伝奏記」、「侍拝類覧抄」編/「神宮申沙汰記」「類聚貫首秘抄」外著多数
- W3153 **利忠**(としただ・三浦みづら、通称;順庵)1751-1830**80** 長門萩の藩主侍医三浦利往としゆきの養子、;萩藩主侍医を継嗣、歌人、
[露霜に染る紅葉の薄くこく山はにしきのながめなりけり]([萩の歌人]入)
- M3172 **利濟**(としただ・南部なんぶ、初名;謹明のりあき/信親、利謹としのり男)1797-1855**59** 盛岡藩主;従四下信濃守、はじめ1814父没後に出家/20還俗、22藩主利用の世子となる/25家督を継嗣;過重な課税、

1848退隠後も実権を持つ;飢饉中も奢侈に耽り一揆発生;53その責を問われ謹慎、
「秋色種」「南部信濃守利濟書翰」著、
[利濟(;名)の通称/号]通称;源太丸、

号;堂子彦/子彦/静勝斎/舞鶴亭/揚葩亭/浄祐/常有/鶴堂/三戸修礼、法号;靈承院

V3117 **利涉**(としただ・児島こじま、別名;東雄)1818-9578 備前上道郡の国学者;藤原忠朝門、
[利涉(;名)の字/通称/号]字;大川、通称;幸太郎、号;桑村/梅垣はいえん

M3173 **利質**(としただ・中山なかやま、別名;質)1819-6345 幕臣;茶坊主、読書家、楠木正成関係の事蹟蒐集、
1849「南木誌」編(幕府に献上)、「親類書」著、板倉勝明・齋藤拙堂と交流、
[利質(;名)の字/号]/字;文節、号;惜陰/蟬斎たんさい、法号;恭慎院

M3174 **利忠**(としただ・豊田とよた、号;庸園)?-? 江後期尾張今尾藩竹腰家家臣、
名古屋の地誌家・画;土佐派入門;大和絵修学、

1844「善光寺道名所図会」5巻5冊著(自ら108点の挿画/名古屋書肆美濃屋伊六刊行)

利忠(としただ・稲葉/土井)→ 利意(としもと・土井とい、藩主) N 3 1 9 3

利忠(としただ・志筑) → 辰一郎(たついちろう・志筑しげき、通詞) R 2 6 5 4

M3175 **智忠親王**(としただしんのう・八条宮/桂宮、初名;忠仁ただひと、智仁としひと親王男)1619-6244 古典/歌;父門、
母;宮津藩主京極高知女(常照院)/後水尾天皇の猶子、1648加賀藩主前田利常女富子と結婚、
1657二品/1625自邸歌会主催、書・蹴鞠に通ず、父智仁親王創始の桂別業を嗣/経営;書院増築、
「智忠親王詠草」「智忠親王詠三十首和歌」「智忠親王詠百首和歌」「百人一首聞書」、
「有馬湯治日記」「智忠親王詠十首和歌」「智忠親王着到和歌」「賦物連歌」外著多数、
1638後鳥羽院四百年忌御会参加、1662(寛文2)没、
[春秋をいくよか松に契るらん雲みの庭の友鶴のこゑ](後鳥羽院忌;69/鶴)、
[智忠親王の幼名一字名/法号]幼名;多古磨郎、一字名;色、法号;天香院

M3176 **歳胤**(としたね・千葉ちば/本姓;平/旧姓;浅見)1713-8977 武州高麗郡虎秀村の暦算家:
江戸の幸田親盈ちかみ(幸田元圭の高弟)門、江戸で医者、
天文方渋川光洪のために日月蝕の算法を研究、1759「大議天文地理考」、1766「話法暦」著、
1768「皇倭通曆蝕考」「歳寿万代曆経」「草莽夜話」「月行率」「神道天文意辨」著、
「天文自然歳胤録」「白山曆応編」「皇和通曆蝕考続編」(師の息幸田親平校訂)外著多数、
[歳胤(;名)の通称/法号]通称;陽生、法号;乾道陽生居士、浅見奇助の養父

W3105 **俊胤**(としたね・野村のむら、)1715-178975 陸奥会津の神職;会津藩上邸三社祭主、
神道;吉川従憲門、

[俊胤(;名)の通称/諡]通称;善大夫、諡;山彦靈社

M3177 **利物**(としたね・前田まえだ、利道男)1760-88早世29歳 加賀大聖寺藩主;1782兄利精の養嗣;襲封、
美濃守、1777「尻籠矢繫之巻」「本朝之五段之弩之秘図」著、
[利物(;名)の幼名/通称/法号]幼名;虎次郎、通称;主水、法号;覚成院

V3149 **年胤**(としたね・田中たなか、)1810-186657 信濃伊那郡の薬種商、
国学;平田篤胤・権田直助門、甲斐巨摩郡に移住、

[年胤(;名)の別名/通称/号]別名;久万/貞治、通称;伊平次/貞吉、号;石鼎

T3125 **俊民**(としたみ・藤原ふじわら)?-? 江中期歌人;賀茂真淵門、大平「八十浦の玉」入、
[野辺近く住むこそ春はうれしけれわが屋戸さらず鶯の鳴く]、
(八十浦;上10/1758[宝暦8]真淵家宴)

V3135 **俊民**(としたみ・本多ほんだ、俊茂男)1824-8764 尾張名古屋藩士、歌;馬場守信・氷室長翁門、
国学;植松茂岳門、1853(嘉永5)家督嗣;使番格書院番頭/旗奉行、戊辰戦参加、
維新後;若宮八幡宮祠官/少講義/晩年;三河国碧海郡に帰農/詠歌、妻;いく
[俊民(;名)の字/通称/号]字;伯章(のち廃す)、通称;熊之進ゆうのしん/忠左衛門/藤太、
号;葵園きえん/風翁

V3152 **俊民**(としたみ・田中たなか、)1833-190068 因幡鳥取の歌人、
[俊民(;名)の通称/号]通称;農夫/幸録、号;蓬園

利民(としたみ→としもと・前田)→ 利民(としもと・前田、藩士/絵師) N 3 1 9 5

俊民(としたみ・森田) → 義章(よしあき・森田もりた、医者) B 4 7 9 6

- M3178 **年足**(としたり・石川/石河いしかわ、石足いそり男)688-76275 奈良期廷臣;蘇我氏の末裔、735従五下、739出雲守としての善政に褒賞、陸奥守/左中弁/春宮大夫/式部卿/治部卿/大宰帥/兵部卿、748参議/757中納言/758正三位・大納言/760御史太夫/神祇伯、万葉四期歌人;十九4274、大般若経を浄土寺(山田寺)施入、「別式」撰(未施行だったが諸司別に編纂)、名足の父、[天あめにはも五百いほつ綱延はふ万代よるよに国知らさむと五百つ綱延ふ](万葉集;4274)(古歌か?、752新嘗会の肆宴の詔応歌)
- M3179 **年足**(としたり・安都あと宿禰)?- ? 万葉四期歌人;四663、
[佐保渡り我家がぎへの上に鳴く鳥の声なつかしき愛はしき妻の児こ](万葉集;663)
阿刀(阿都)年足(770-780頃、経師きょうじ)との異同は不明
- M3180 **年足**(としたり・栗原連くりはらのむらじ)?? 801存 漢学;経国集に801菅原清公を問頭博士として対策文、この時文章生・正八上、経国集入
- V3150 **年足**(としたり・田中たなか、)1782-185978 備中浅口郡竹村の大庄屋、
国学・歌人;木下幸文・香川景樹門、歌;藤井尚澄なぞみ編[類題吉備国歌集]5首入、
[年足(;名)の初名/通称/号]初名;長足、通称;武助/夫介、号;藤園
- D3153 **年足**(としたり・堀田ほった、通称;右馬大夫)1789-185163 江後期尾張海東郡の神職;津島神社社司、
右馬大夫家、国学;本居春庭門、妻;花園貞子さだこ(桂園派歌人/1795-1875)、茂之いげゆきの父
- M3181 **敏足**(としたり・松田まつだ)1838-191376 筑前福岡藩士;藩校修猷館で修学/上京遊学、
修猷館国学教授/維新後;宗像神社権禰宜、
「女小学躰草」「神社中心主義」「戊申詔書講話」著
年太郎(としたり・関島) → 良載(よしなり・関島せきしま、医者/歌人) N 4 7 5 7
年太郎(としたり・村田) → 延年(のぶとし・村田むらた、藩士/国学/歌) K 3 5 1 5
- M3182 **敏親**(としたり・伊達だて、初名;宗親)1651-172171 陸前玉造岩出山の領主/詩歌を嗜む、
「宝蔵院十文字鎌槍免許書類一式」著
[敏親(;名)の幼名/通称]幼名;老岐、通称;大膳/内蔵/弾正
- M3183 **俊親**(としたり・坊城ほうじょう、俊逸としはや男/本姓;藤原)1757-180044 廷臣;1789参議/94従二位、
1798権大納言、1778「御祈申沙汰愚記」83「御凶事雑々」84「宣陽殿勸盃記」著、
「賀茂伝奏記」「改元定申沙汰雑誌」「俊親卿記」著、「剣尺」「文跡備要」編、養嗣;俊明としあきら
- M3184 **利愛**(としたり・和泉いづみ、通称;善平)1795?- ? 江後期文政天保1818-44頃伊予宇摩郡野田村の商家、
屋号;更紗屋、国学者;1835最上徳内の紹介で平田篤胤門、妻の竹子も篤胤門、江戸住、
1832「御世の恵」著、
妻;竹子(たけこ・和泉/旧姓;片山/伯耆会見郡出身、国学、?-1832)
- T3136 **要親**(としたり・桜井さくらい、知栄[尼]男)1744-8744歳 信濃伊那郡山本村の旗本近藤家代官、
母知栄尼は歌道に精通、歌人;母門/澄月門、妻の里勢りせ(利勢/ルイ)も澄月門歌人、
道考みちたかの父、
[要親(;名)の通称/号]通称;茂治/八十兵衛、号;蘭道、
- J3129 **載周**(としたり・武田けだ、載縮としつぐ男)1789-186981 尾張春日井郡清洲の郷土史家、
父は;[武田載縮(載紹としつぐ、長兵衛/騏六きろく)、清洲宿村立合役/俳人;暁台門;
清洲俳壇の先駆者]、祖父は;[載正としまさ]、叔父は[農業ときなり]、
「清洲志」「清洲昔噺」著
[載周(;名)の通称/号]通称;源三郎、号;稚川/野堂
- V3199 **利愛**(としたり・南条なんじょう、)?-1857 撰津兵庫の商家、高浜久人ひさと(?-1849)の兄、
国学者;入江珍うず(1781-1843)門、
[利愛(;名)の初名/通称/屋号]初名;御笠、通称;新九郎、屋号;網屋
俊親(としたり・藤原) → 宗親(むねちか・藤原、詩人) B 4 2 5 8
俊親(としたり・鹿之木) → 春民(はるたみ・鹿之木かのこぎ、医者/神職) J 3 6 8 9
利隣(としたり・津田/高林) → 利直(としなお・高林、幕臣) N 3 1 1 1
- X3112 **利次**(としつぐ・菅原すがわら) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]入、
[消えねただぬるる袂を帰るさにわけ来し野辺の露とこたへて](麓の塵;恋501)
- M3185 **俊次**(としつぐ・阿座見あざみ、通称;清兵衛)?? 江中期1716-41頃和算家;宅間能清門;学僕を務む、
1738「立円或問」著、鎌田俊清の師

- M3186 **利次**(としつぐ・塩見しほみ) ? - ? 因幡鳥取藩士;藩主池田治道(松平相模守)に出仕、1788国後騒動の取材:1789「蝦夷騒擾記」、「蝦夷故談」 「巡周蝦夷秘談」(以上「蝦夷三話集」)著、[利次(;名)の字/通称]字;叔工、通称;幸左衛門
- T3198 **懋績**(としつぐ・浅野あさの、藩主長懋男/長訓ながみち弟) 1816-7560 安藝広島の人/歌人/絵師、[懋績(;名)の通称/号]通称;内記、号;松園/学雲林(;画号)
- 利次(としつぐ・井上) → 利恭(としやす・井上、幕臣/日記) N 3 1 9 9
 利世(としつぐ・久保) → 利世(としよ・久保くぼ/藤原、神職/茶人) O 3 1 1 5
 俊次(としつぐ・東) → 寅(いん・東とう、号;長月、絵師) J 1 1 1 6
 俊次(としつぐ・中村) → 尽忠(みちただ・中村なかむら、歌人) J 4 1 9 2
 俊乃(としつぐ・松宮) → 観山(かんだん・松宮/菅、兵学/儒/国学) 1 5 5 2
- M3187 **俊綱**(としつな・橘たちばな、関白藤原頼通男、橘俊遠としとおの養子) 1028-9467 母;藤原種成女の祇子、廷臣;丹波・播磨・讃岐守歴任/正四下/修理大夫/近江守、歌人;1050自邸で歌合主催、歌会をしばしば催/1056皇后宮寛子春秋歌合;左方念人/78内裏歌合;右方頭、管絃に通ず/造園にも精通;「作庭記」の著者か?、通称;伏見修理大夫、能因・藤原範永・通俊・源経信ら多数の歌人と交流、富裕な受領で当代有数の風流人;今鏡・宇治拾遺に豪華な生活や逸話入、勅撰12首;後拾(4/208/400/1146)金(Ⅲ140)千(1183)新勅(77/174/372)続後撰(895)以下、[逢坂の関えをや春も越えつらん音羽の山の今日はかすめる](後拾遺;春4/立春の詠)、
- M3188 **利綱**(としつな・斎藤さいとう/土岐、斎藤妙椿男/本姓;藤原) 1454-? 1514存 美濃守護代、土岐政房家臣、1496兄利国・利親父子の戦死により家督を斎藤家を継嗣、歌人・連歌;宗祇より古今集を受、三条西実隆・宗長・万里集九らとも交流、「土岐家聞書」の作者か?、「家中竹馬記」編、「南宮遷宮開闔」/1511「美濃背山奉納歌」著、新菟玖波3句入、[利綱(;名)の号] 虚舟斎/弾正忠/伊豆守、法名;宗阜
- M3189 **利綱**(としつな・佐々木ささき、玄通男/本姓;源) 1741-180262 伊勢三重郡小杉村の生/江戸で医学修得、儒;京の伊藤東所門/京の伏見宮家出仕;医業、1762伊勢石薬師に移住/詩歌に秀でる、「梅廼舎和歌集」「佐々木家略系図」著、宗六そうろく・徳綱のりつなの父、弘綱の祖父、[利綱(;名)の通称/号]通称;図書、号;独往/独徳/梅廼舎
- M3190 **俊経**(としつね・藤原ふじわら、高快男) ?-1049 平安中期廷臣;右衛門尉、歌人;1035賀陽院水閣歌合の後半部参加、[住吉すみよしの神をうれしみ来て見ればかたわきてこそ波も立ちけれ](水閣歌合;33)
- M3191 **俊経**(としつね・藤原ふじわら、法名;証心/隆心、頼業男) 1113-119179 母;大江有経女、廷臣;1158文章博士、蔵人/摂津守/典薬助/1174従三位/75左大弁/80式部大輔/83参議、1184正三位/85(元暦2)出家;証心(隆心)、近衛・高倉天皇の侍読、「俊経卿記」著、鴨長明と交流の歌人、連歌;菟玖波1句入、和漢兼作集入集・御裳濯集入、[長月のありあけぞらのあけゆくやおほかた秋のくるるなるらむ](御裳濯集;448/証心)女; 俊経女[?-1177/藤原光長(みつなが)室/長房(ながふさ)・宣房(のぶふさ)らの母]
- M3192 **利常**(としつね・前田まただ、初名;利光、利家男/本姓菅原) 1593-165866 金沢藩主;1605兄利長の養嗣、大坂陣出陣/藩政確立、1639長男光高に家督・次男利次に富山藩・三男利治に大聖寺藩を分封、「大坂両陣日記」「小松物語」「前田利常書状」著、妻;徳川秀忠女珠姫、光高・利次・利治・利明の父、[利常(;名)の幼名/通称/法号]幼名;猿千代/犬千代/犬千代丸、通称;小松中納言、法号;微妙院
- X3146 **利恒**(としつね・長井ながい、初名;忠香、忠昌男) 1692-175665 幕臣;御腰物方/のち小普請組頭、歌人;中院家門、石野広通[霞関集]初撰入(宮重信義と同じ追悼歌)、1739芥川寸艸[飛鳥山十二景詩歌]入(;染井夜雨そめぬのやう)、[柘植つげ知清ともきよ(1687-1744/幕臣/歌人)一周忌に夏懐旧、なき人の別れはこぞの此の頃と聞くも卯月の山ほとゝぎす](霞関初撰;卯と憂を掛る)、[千入ちほ待つ木々の梢も夜の雨にあすは染井の里の名にみむ]、

(十二景歌/染井は飛鳥山南方の近景の植木園芸の村)、

[利恒(;名)の通称] 平三郎/新三郎

☆飛鳥山十二景 → 榴岡(りゅうこう・林はやし) D 4 9 7 8

- M3193 利庸(としつね・堀ほり、幕臣岡田善紀男)1699-1767⁶⁹ 幕臣堀利安の養子、幕臣;1717家督嗣、1719小姓組/27組頭/46山田奉行/71辞職;寄合、伊勢山田での住居を[存愛]と称す、歌人;萩原宗固門、「存愛歌集」著(明和7 [1770]奥書)、
[利庸(;名)の通称/号/法号]通称;宮内/兵部、号;存愛亭、法号;寿徳
- M3194 俊常(としつね・北小路きたのこうじ/本姓;大江、北小路俊幹男)1781-1853⁷³ 北小路俊周の養嗣子、廷臣、1819院判官代/47弾正大弼/53従三位、1810「東宮御拝観」23「鷹司政通関白宣下記」著
- M3195 利庸(としつね・黒須くろす、通称;祐吾)?-? 江後期仙台の和算家;武田司馬門、1846「覚夢算法」著
- M3196 俊経(としつね・小森こもり、通称;仁兵衛)?-? 江戸期筑前の歌人/画も嗜む、「玉山吟草」著
- M3197 利恒(としつね・土井どい、利忠男)1848-93⁴⁶ 越前大野藩主;1862襲封/従五下能登守、1864將軍家茂に供奉;従五上/64藩の北蝦夷開拓頓挫/水戸天狗党の領内通過事件、戊辰戦争では功;賞典3千石、1865「水戸浪徒=関スル条件」、「命令書写」著、
[利恒(;名)の幼名/法号]幼名;捨次郎、法号;文良院、利剛の父
利庸(としつね・木下) → 台定(きんさだ・木下、藩主/文教奨励) R 1 6 0 2
- M3198 利位(としつら・土井どい、利徳男)1789-1848⁶⁰ 1813土井利厚の養嗣子;1822下総古河藩主、大炊頭/1823奏者番/25寺社奉行/34大坂城代;従四下/37大塩平八郎の乱を鎮定、京都所司代/侍従、1838西丸老中/39本丸老中;水野忠邦を助け天保改革推進/忠邦と対立、1843老中首座;忠邦再登場で44辞任、蘭学;雪の結晶研究、1832・40「雪華図説」著、利亨の養父、
[利位(;名)の幼名/通称/法号]幼名;六郎、通称;織部正おりのしょう、法号;簡廉院
- U3189 敏貫(としつら・河村かわむら、)1809-1884⁷⁶ 近江堅田の歌人;生源寺希烈れいやく門/歌;[鳩のうみ]入、
[敏貫(;名)の通称/号]通称;悌蔵ていぞう(悌造)、号;愴斎たんさい
- M3199 俊任(としとう・坊城ぼうじょう、俊冬男/本姓;藤原)1346-? 南北期廷臣;1379参議/権大納言/1407出家、歌;1370-71仙洞(崇光院)歌合参加;6首入、
[なびきつづく田の面の稲葉はるばると穂波をたてて風渡る見ゆ](仙洞歌合;33番左65)
- N3100 斉時(としとき・なりとき/ただとき・北条ほうじょう/本姓;平、初名;時高、通時or時基男?)?-? 1317存 武将、従五下/駿河守/鎌倉幕府引付頭人、歌人;1298將軍久明親王家三首歌会参加、為相勸進鹿島社十一首に出詠、拾遺風体集・柳風集・続現葉集入集、勅撰19首;新後撰(1221/1528)玉葉(241/321/776/1145/2574)続千(6首)続後拾(4首)以下、
[稍よりあらし吹きおろすそま川のいかだを越ゆる花の白波](玉葉集;二春241)
- N3101 俊言(としとき・藤原ふじはら、初名;俊実、二条為言ためとき男)?-1325 鎌倉期廷臣;1313参議/従三位、大覚寺統の二条家出身ながら持明院統の廷臣、京極派歌人;京極為兼関係の歌行事に参加、1315[後伏見上皇御所三席会]・[詠法華経和歌]など参加、1317出家、勅撰7首;玉葉(224/382/1348/2091)風雅(330/627/925)、二条為世の甥、為基の父、
[庭のおもは降りしく雪とみるなへに梢は花ぞまれになりゆく](玉葉;二春224)
- N3102 歳徳(としとこ・物部ものべ)?-? 755防人;武蔵荏原郡主帳丁よほろ/万葉廿4415
[白玉しらたまを手に取り持もして見るのすも家なる妹をまた見てももや](万葉;廿4415)
妻の歌 → 刀自売(とじめ・椋椅部くらはしべ) N 3 1 8 9
- N3103 利朝(としとも・若林)?-? 江前期常陸水戸の農学家/若林宗氏と各地歴訪、農業に関する見聞を収集;1689-90「若林農書」(宗氏と共著)
- N3104 利与(としとも・前田まえだ/松平、利隆男/本姓;菅原)1737-94⁵⁸ 初め1741前田内膳の養子、1762兄利幸の嫡子病弱のため養嗣;富山藩主、日光廟修復;1764完成、73飛騨騒動に出兵、1773藩校広徳館を設立;中田高寛を抜擢登用し越中関流算学を興す、1777致仕、側室;山田佳子(自仙院/歌人)、1790「東渠公詩集」著、
[利与(;名)の幼名/通称/号]幼名;芸之助/状之助、通称;鞆負、号;東渠、法号;竜徳院
- N3105 利友(としとも・高田たかだ、通称;一馬)?-? 江後期熊本の国学者;「肥後熊本高田利友書簡」著

- V3133 **敏知**(としとも・坂野さかの、致知むねとも2男)1760-1815⁵⁶ 越前金津の醤油業の家の生、
歌人;越前真宗本願寺派教順寺の昌瑞(父の門人)門、
[敏知(;名)の通称]仁市郎/市郎右衛門
- T3140 **利義**(としとも・森川もりかわ/本姓;源)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[あわ雪のふるのわさ田の初若菜摘めども袖にたまりやはする]、
(大江戸倭歌;春106/田若菜)、
[かりそめのみるめよりしてわたつみの深き思ひになど沈みけん](同;恋1546)
- N3106 **利義**(としとも・南部なんぶ/本姓;源、利濟男)1823-88⁶⁶ 父盛岡藩主が一揆の責任を問われ隠居;
1848家督嗣;盛岡藩13代藩主/従四下甲斐守、北方警備、軍事教練実施、
徳川斉昭・松平慶水と国事を相談、1849参勤交代で江戸赴任中に父の圧力で強制隠居、
養子利剛が家督嗣/父とは不仲で藩内は利濟派と利義擁立の反利濟派が対立、
1849隠居後;粗暴な振舞多し;1855藩邸に監禁、維新後に盛岡に帰る、
楽堂と号し趣味人として晩年を過ごす、「砲術講義」「利義公御自述」著、
[利義(;名)の別名/字/通称/号]別名;謹保(;初名)/信侯/利道、字;君懿、
通称;達次郎/鋌丸でいまる、号;松堂しょうどう/楽堂/純瑕堂
- N3107 **俊豊**(としよ・紀き) ?-? 1431存 南北期廷臣;1431従四下、歌人;新統古1105・1742、
[音羽河音に聞くより袖にはやせきいるる水の行方もなし]、
(新統古今集;十二恋1105/永和百首歌の聞恋より)
俊寅(としら・三井) → 秋風(しゅうふう・三井、商家/俳人) I 2 1 2 3
利虎(としら・前田) → 正甫(まさし・前田/松平/菅原、藩主) E 4 0 4 5
- N3108 **年名**(としな・南淵みなぶち朝臣/本姓;息長真人、南淵永河ながかわ男)807-877⁷¹ 廷臣/漢学者;832文章生、
856蔵人頭、春宮亮/右大弁/勘解由長官/865参議、民部卿/春宮大夫/876大納言/877正三位、
貞観格式選定参加/文徳実録編輯参加、877尚齒会(日本最初)催、875「左右檢非違使式」著
[南淵朝臣の初姓かばね] 槻本公/坂田朝臣
- N3109 **俊名**(としな・北小路きたのこうじ、俊盛男/本姓;大江)1740-83⁴⁴ 廷臣;蔵人/1774大膳権大夫・上北面、
1781従四下、「内侍所仮殿本殿渡御并御神楽記」著
- N3110 **俊直**(としなお・北小路きたのこうじ、通称;江三位、俊永男/本姓;大江)1530-94⁶⁵ 廷臣;近衛家諸大夫、
越前守/1554大膳大夫/63従三位、
連歌;1571「紹巴昌左等何人百韻」/「元龜二年三月千句」著
- U3157 **俊直**(としなお・岡おか/本姓;藤原、隆恭男)1678-1739 元禄12(1699)父没;1701備前岡山酒折宮神主、
1702(元禄15)上京;神道裁許状を受領/神祇管領長上吉田兼敬より十八神道行法を受、
1707・16上京;兼敬に宗源神道の行法・太護摩の行法を受く、歌;香川宣阿門;70歳賀に参、
1720(享保5)神職大頭/22正六下越後守、26(享保11)岡山藩神職惣頭;神道請制度の元締、
1727池田継政の命で山王権現を勧請/正遷宮を行う、36神道学問所東陽軒を設立、
連歌;里村昌億門、藩士等を集めて社中を形成、1739辞職/没、
「岡山神社日記」/「花鳥遊草」(紀行)/「稻荷大明神正遷宮和歌」「山王社記」「道中日記」著、
岡為直・澄女・天留・隆喜・佐藤親賢の父、
[俊直(;名)の別名/通称/号]別名;源五郎、通称;越後/式部/舎人、号;楽軒/乾々齋
諡号;東陽軒文整
- U3153 **俊直**(としなお・大沼おおぬま、本姓;城取)1719-1804⁸⁶ 陸奥会津藩士、国学者/故実家、
礼法;今川・吉良・伊勢・小笠原流研究/1788藩校日新館礼式方礼式生役に就任;小笠原流、
講所で子弟教育、
[俊直(;名)の通称/号]通称;又八郎、号;童齋
- N3111 **利直**(としなお・高林たかばやし、初名;利隣、津田正因男)1730-? 1809存 高林藤四郎明慶の養嗣子、
幕臣;1762小姓組/89小姓組組頭/1800-09先手鉄砲頭、「異国雑事」編、
[利直(;名)の通称] 重之丞/弥十郎
- N3112 **利尚**(としなお・吉田よしだ、通称;石見)?-? 江後期筑前の歌人、1855「西帰日誌」著
俊直(としなお・坊城) → 経広(つねひろ・勧修寺かじゅうじ、歌/連歌) D 2 9 5 4
利亨(としなお・酒井/土井) → 利亨(としなり/としなお・土井、藩主/詩人) N 3 1 2 5
利直(としなお・関/野口) → 在色(ざいき・野口/関、材木商/俳人) 2 0 8 0

- 利直(としな・加藤) → 雪湖(せつこ・加藤かとう、俳人) K 2 4 8 6
- N3113 敏仲(としなが・橘たちばな、公頼男)?- ? 938存 平安前期廷臣:従五下/伊賀守/938主殿頭、敏通・敏貞と兄弟、歌:後撰集610/612(;藤原穩子付女房の大輔たいふと贈答)、[わび人のそほづてふなる涙河おりたちてこそ濡れ渡りけれ](後撰;十恋610)、(そほづはぐっしよりと濡れる意/あなたを恋したばかりに涙に濡れ続けている)、(大輔の返し;淵瀬とも心も知らず涙河おりやたつべき袖の濡るゝに)
- 俊仲(としなが・源) → 師俊(もろとし・源みなと、権中納言/歌人) H 4 4 5 0
- N3114 年永(としなが・小野おの朝臣)?- ? 平安前期廷臣:大舍人助/正六位、詩:827成立「経国集」1首入/「文華秀麗集」入;燕の詩、[嗟峨天皇作]「新燕を観る」に和し奉る一首、早燕双び飛びて曙晴に入り 遙かに聖眼を経て新声を奉ず、還かへりて嗟なげく未だ鴛鴦の帳とばりに狎なれざるに 先づ漢家妖艶の名を負ふことを]
- X3131 俊長(としなが・荒木田あらかだ、)?- ? 平安鎌倉期;伊勢内宮神職/歌人、1233刊[御裳濯集]入、[三月尽の心をよめる、ゆく春を我のみ惜むけふならばうきみからとやながめかねまし](御裳濯集;春184)
- N3115 俊長(としなが・紀き、親文男)?- ? 1408存 母:藤原教行女、俊文の孫、代々紀伊国造、室町期;日前国懸宮(ひのくまにかかすのみや)の神官、1397従三位/98侍従/内蔵大夫、1405出家;撰津琴浦に隠棲、歌人;しばしば上京し歌会に参加/四辻善成より古今伝授を受、家集「紀伊国造俊長集」著、1365正平廿年点取三百和歌(於南朝住吉行宮)祖父俊文と参加、1407後小松天皇催「内裏九十番歌合」参加(宗傑名)、勅撰3首;新後拾遺(1250)新続古今(1025/1960)、新葉(1267)、息女:藤原公長母、[須磨の海士のしほやき衣うらみわびなほもまどほにぬるる袖かな](新後拾;恋1250)[俊長(;名)の法名/通称]法名;宗傑そうけつ、通称;紀三品禅門
- N3116 利永(としなが・斎藤さいとう/本姓:藤原、利政男)?-1460 室町期武将:美濃守護代、歌人;正徹門、「正徹詠草」入
- N3117 利長(としなが・前田まえだ/豊臣/羽柴、利家男/本姓:菅原) 1562-1614 53 母:松子(芳春院)、尾張荒子の生、父と共に信長・秀吉の家臣/1598家督;加賀金沢藩主/豊臣五大老の1、妻;信長女の永、生母を人質に出し家康と和睦/1600関ヶ原で戦功;加賀能登越中120万石、1605隠居、茶湯を嗜む、「両阿相公命書」、「両阿相公遺誠」「前田利長書簡写」著、[利長(;名)の幼名/別名/法号]幼名;犬千代/孫四郎、初名;利勝、法号;瑞竜院
- N3118 利長(としなが・本多ほんだ、法号;広徳院、忠利6男) 1635-92 58 母:井上正就女、三河岡崎藩主;1645襲封、遠州横須賀藩に転封;土木工事・新田開発、1682幕府に領民への苛酷さを咎められ除封、1682羽前村山領1万石で再興、石見守・越前守、1863「本多越前守利長家之覚書」著
- N3119 利永(としなが・青山あおやま) ? - ? 江中期和算家:関孝和or荒木村英門?、1719「中学算法」、「算法方陣之法解」著
- N3120 俊永(としなが・鴨/賀茂かも) 1712-1785 74 下賀茂神社神主/1749正禰宜/従三位/77従二位、1778正禰宜を辞す、「拍手訓義伝」「賀茂社造替款解」著、泉亭梢永の父
- N3121 年長(としなが・野口のぐち/本姓:藤原) 1780-1858 79 阿波徳島藩士沢十郎の家臣(藩陪臣)、国学者:本居内遠門、1812「岡屋祝詞集」編/36「古事記伝遺考」「阿波国式社略考」著、1848「大麻比古神社考証」著、56「粟の落穂」編、「苺藻の玉」「さほの台」「神代文字説」著、市原源兵衛・松浦長年の師、[年長(;名)の別名/通称/号]別名;直道、通称;徳兵衛/徳衛/徳蔵、号;椿園ちんゑん、
- N3122 利永(としなが・細川ほそかわ、細川利愛男) 1829-1901 73 1853細川利用の養嗣子;熊本新田藩主;56襲封、従五下/若狭守、外国人居留地確保のため1867江戸鉄砲洲邸を移居/68熊本高瀬に居住、新田藩を高瀬藩に改名、「細川家記録」著
- 利長(としなが・梶) → 旗山(きざん・梶かじ、藩士/画/茶) K 1 6 7 1
- 利長としなが・丹波/半井) → 道三(どうさん・半井なからい/和気、医者) E 3 1 6 7
- 利長(としなが・松岡) → 牡鹿輔(しかすけ・松岡、藩士/国学者) P 2 1 8 2

- N3123 **敏夏**(としなつ・服部はつとり)?-1818:50余歳没 京錦小路室町西住の歌人:小沢蘆庵門、1801本居宣長門、1801「万葉集長歌類題目録」編、「万葉類句」編、「頓阿五玉集題百首」編、「霜の野中」著、本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌1首短歌1首入、
[見るからにやまごころぞ誇らるる外国とつくになき花の色香と](八十浦;580/翫花)、
[敏夏(;名)の通称/号]通称;中川屋五郎左衛門、号;至誠堂
- N3124 **俊成**(としなり・橘たちばな、俊遠男)?-? 平安後期廷臣;越中守/従五下、藤原頼通邸に出仕、俊綱の弟/俊綱の義弟、歌人:寂超「後葉集」入、続詞花集入、詞花集49、
[老いてこそ春の惜しさはまさりけれいまいくたびも逢はじと思へば]、
(詞花集;春49/後葉集;79/老人惜春)
- 3147 **俊成**(としなり/しゅんせい・藤原ふじわら/葉室はむろ、名;顕広、藤原俊忠男)1114-1204長寿91 母;藤原敦家女、1123(10歳)で父と死別/葉室顕頼の養子、1166非参議従三位/右京・皇太后宮大夫、1167(53歳)実家藤原に復帰;俊成としなりに改名/正三位/76出家(63歳)俊成しゅんせい/法名釈阿、歌;為忠門/1131-35頃より作歌活動、歌学;基俊門/歌風:俊頼門、歌境「幽玄体」を確立、崇徳院・良経・後鳥羽院の歌壇指導者、1153「久安百首」詠進・編、1178家集「長秋詠草」自撰、1188「千載集」撰進、90「俊成卿文治六年五社百首」、97歌論「古来風体[躰]抄」「俊成家集」著、歌合判者;1164歌林苑・70住吉社・71広田社・72三井寺新羅社・93六百番・95民部卿家等多数、1200正治二年初度百首・02千五百番歌合など入集、1155-6寂超「後葉集」入(顕広名)、1165清輔[続詞花集](8首/顕広名)入・雲葉集36首入、勅撰418首;詞花(236)千載(36首24/76/165以下)新古(73首5/15/16以下)新勅(25首)以下、
[夕されば野辺の秋風身にしみて鶉なくなり深草の里](千載集;四秋259)、
[世の中よ道こそなけれ思ひ入る山の奥にも鹿ぞ鳴くなる](千載;十七雑1151)、
[俊成(;名)の通称/法名]通称;五条三位、法名;釈阿/阿覚/澄鑿ちようかん、
[俊成男] → 尊円(そんえん、母;夕霧) E 2 5 6 4
→ 成家(なりいえ、母;藤原親忠女美福門院加賀) H 3 2 0 9
→ 定家(さだいえ、母;藤原親忠女美福門院加賀) 2 0 1 6
→ 覚弁(かくべん、母;為忠女?) B 1 5 7 2
その他;静快・快雲・覚長(覚弁と同一?)
養子 → 寂蓮(じやくれん、藤原定長、俊海男) 2 1 3 9
[俊成女] ① 八条院坊門局(はちじょういんのぼうもん)のつばね、母;顕良女)?-? E 3 6 8 9
② 女(母;為忠女)?-?
③ 前斎院女別当(母;久忠女)?-?→中将(ちゅうじょう・式子内親王家)と同一?
④ 八条院三条(母;親忠女、盛頼妻/俊成卿女の母)?-?
⑤ 高松院大納言局(母;親忠女、家通妻)?-?
⑥ 上西門院五条(母;親忠女)?-?
⑦ 八条院権中納言(母;親忠女/or顕良女)?-?
⑧ 八条院按察(母;親忠女、宗家の室)?-1203
⑨ 俊成女(としなりのむすめ、母;親忠女、建御前)1157-?1219存 3 1 4 8
⑩ 前斎院大納言(斎院没後尼)?-?
⑪ 承明門院中納言(母;親忠女)?-?
養女(孫); → 俊成卿女(としなりきょうのむすめ、盛頼女、母八条院三条)?-1254 3 1 4 5
- U3108 **俊性**(としなり・伊集院いじゅういん)1728-180477 薩摩鹿兒島藩士/歌人;烏丸光祖みつもと門
- N3133 **利徳**(としなり・土井どい/本姓源、初名;村賢、伊達宗村3男)1748-181366歳 1766土井利信の養嗣子;1767(明和4)三河刈谷2代藩主、従五下/山城守、文化活動に専念;藩政をあまり顧みず、1787(天明7)致仕、1805剃髪;嘯月号、歌人:近衛内前門/茶道;石州流、蹴鞠/放鷹に通ず、家集「嘯月集」1798広通「霞関集」入、1804「観心院六十賀和歌」著、伊達重村の弟、利制・利謙・利位・利以の父、
[ほととぎす雨にさはらぬ声のみぞしひて待つ夜の頼みなりける](霞関;夏224)、
[利徳(;名)の幼名/通称/号]幼名;藤三郎、通称;淡路、号;嘯月/宗輔、法号;光顕院
- W3139 **穀生**(としなり・馬島まじま、旧姓;水野)1811-6858 美濃中津川の医者、国学・歌;平田鋏胤門、信濃伴野村の移住、「はいかいまくらの友」/1862-64「紫陽伴野日鑑」著、

[朝日かげ露もまだひぬ片唄に女子なにを独り麦刈る](紫陽伴野日鑑)

[穀生(;名)の初名/通称/号]初名;年成、通称;靖庵、号;桐蔭/紫陽/春秋花園

N3125 **利亨**(としなり/としなお・土井い、酒井忠蓋男)1812-4837 土井利位の養嗣;1848(嘉永元)下総古河藩主、
従五下/大炊頭;襲封後すぐに没、詩人;1848「延佇集」著、法号;至徳院

N3126 **敏成**(年成としなり・吉田よしだ)?-1864 江戸の国学者;一柳千古・中島広足門、林大学頭に出仕、
朝川善庵の命で「八十翁昔物語」「おあむ物語」を校訂、1832「木綿通考」、37「理慶日記」序、
1844-63「千秋楼詠草」1844「敏成判二十一番歌合」判、「堀河百首題」「千秋楼随筆」、
「思誠堂漫筆」「海警妄言」「字音平仄便覧」「経義集説」「左伝後図」「事言類攷」外著多数、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[散る花のうらみをそへし入合の鐘にぞつひに春にくれぬる]、
(大江戸倭歌;春367/暮春鐘)、

[苗代の水にちり浮く花みれば蛙もうたふ種はありけり](現存百人一首;86)、

[敏成(;名)の通称/号]通称;慎之助/信之助、号;千秋楼/月堂/思誠堂

利成(利業としなり・牧野)→ 古白(こはく・牧野まさの/田口、武将/連歌) N 1 9 4 1

俊成(としなり・万波) → 醒廬(せいりう・万波まんなみ、藩士/儒/詩歌) D 2 4 2 2

3145 **俊成卿女**(としなりきょうのむすめ・嵯峨禅尼/越部禅尼、藤原盛頼女)?-1254;80余 母:俊成女八条院三条、
父が鹿谷の変連座後に祖父俊成の養女、源通具の妻;具定ら一男一女の母/のち離婚、
歌;1201八月十五夜撰歌合/千五百番歌合・05元久詩歌合参加、夫通具と歌合を試行、
後鳥羽院歌壇で活動、1213出家、順徳天皇内裏歌壇で活躍、1215建保内裏名所百首参加、
1232石清水若宮歌合/48宝治百首参加、洛西嵯峨のち播磨越部庄住、
1232「俊成卿女百首」/「俊成卿女集」、歌論「越部禅尼消息」著、
勅撰116首;新古(28首47/112/140以下)新勅(8首287/704以下)続後撰(11首)以下、菟1句入
[風かよふ寝覚めの袖の花の香にかほる枕の春の夜の夢](新古今;112/千五百番歌合)
☆三位侍従母と同一? → 三位侍従母(さんみのじじゅうのはは) M 2 0 7 7

3148 **俊成女**(としなりのむすめ・藤原)1157-? 1219存 母:藤原親忠女的美福門院加賀/同母の定家の姉、
異母姉八条院坊門局の養女、建春門院滋子げ[後白河天皇女御、1142-76]の女房、
1183八条院[鳥羽帝皇女暲子]の女房、1195八条院養女昇子内親王(春華門院)の養育係、
1206出家、晩年は定家の九条旧宅住、「建春門院中納言日記[たまきはる][健御前の記]」著、
歌;1170住吉社/72広田社歌合参加、78頭昭判「廿二番歌合」参加、勅撰;玉葉2400、雲葉集入、
[たまきはる命をあだに聞きしかど君恋ひわぶる年は経にけり](たまきはる;冒頭)、
[建仁三年(1203)八月十五日夜月十首歌合侍りけるに 月前松風、
月にだにあくがれはつる秋の夜の心のこさぬまつの風かな](雲葉;秋579)、
[俊成女の女房名/号]女房名;建春門院中納言/建御前げんごぜ/みあみの局、出家号;九条尼
俊嶺(としね・中臣) → 俊嶺(しゅんけい;法諱、本願寺派僧/歌) P 2 1 4 7

N3127 **登之野**(としの・深見ふかみ、村上あい/愛子、松塘園、医者村上忠順女)1833-191179 三河の歌人;
三河碧海郡堤村の生/父の門人深見篤慶あつよし(の妻);三河碧海郡新堀村住、
尊王運動の夫に助力、のち東京住、篤行・篤恭・富子(篤志の妻)・広女の母、
歌;「三河三十六人撰」入、

鈴木小鈴(歌人)・八千代(歌人)・忠明(勤王家)・忠浄(医者)の姉、

夫 → 篤慶(あつよし・深見、商人/歌人) E 1 0 9 6

俊乃(としの→としつぐ・松宮)→ 観山(かんだん・松宮/菅、兵学/儒/国学) 1 5 5 2

俊之丞(としのじょう・上野)→ 常足(つねたり・上野うえの、洋学者/薬品) C 2 9 4 6

年之助(としのすけ・井田)→ 義貫(よしつら・井田いだ、藩官吏/勤王) L 4 7 4 1

N3128 **節信**(としのぶ/たかのぶ/ときぶ、通称;加久夜長帯刀かやくのちはきのおさ)?-1044 平安中期廷臣;
従五下/帯刀舎人たちはきのとねりの長おさ、1044河内権守、袋草子(能因と数寄を競った逸話)入、
歌/勅撰3首;後拾(41/494)金葉105、

[袋草子の逸話;能因が宝物の「長柄の橋を削ったかんなくず」を示したのに対し、
節信は懐中からひからびた蛙を出し「井手の蛙」だと言った]、

[はるばるとやへの潮路におく網をたなびく物は霞なりけり](後拾遺;41/難波の網引)

U3196 **歳信**(としのぶ・紀きの、) 1690 - 175061 近江日野の綿向神社祠官、神道;京の吉田家入門、

- [歳信(；名)の通称] 半助/靱負尉ゆげいのじょう/山城守
- W3182 **利順**(としのぶ・山川やまかわ、) 1749-1797 49 伊予の国学者/歌人、
[利順(；名)の通称/号]通称；門六、号；新甫
- U3137 **利延**(としのぶ・浦上うらがみ、芳久男) 1838-1902 65 阿波阿波郡の神職、
皇漢学；田宮神官新居稻葉(正道)門、
1855(安政2)上京し勅許；神主丹波守従五下、1870神職副触頭；士族/73忌部神社権禰宜、
[利延(；名)の通称/号]通称；丹波守、号；美沢
- V3143 **祀脩**(としのぶ・諏訪すわ/旧姓；工藤、通称；与一郎) 1844-1900 57 出羽由利郡岩谷村の国学者/歌人、
神道家；北海道で活動/帰郷後；門弟指導
- 俊信(としのぶ・源) → 泰光(やすみつ・源みなもと、廷臣/歌人) D 4 5 1 1
俊信(としのぶ・国重/佐々木) → 菴原(りゅうげん・佐々木/国重、藩儒員) D 4 9 6 6
俊信(としのぶ・千家) → 俊信(としざね・千家/出雲、国学/歌人) M 3 1 5 6
俊信(としのぶ・菊川) → 英山(えいざん・菊川きくかわ、絵師) 1 3 2 7
俊誠(としのぶ・万波まんなみ) → 醒廬(せいろう・万波まんなみ、儒者) D 2 4 2 2
- N3129 **としのぶ母**(としのぶのはは、旧作者部類は敏信母/姓不詳) ?-? 平安期歌人；拾遺抄入/拾遺集1294、
[人なししむねの乳房をほむらにてやく墨染めの衣きよ君](拾遺集；二十哀傷1294)、
(息子としのぶが流罪の時に衣服に添えて贈った歌)
年の屋(としのや) → 百雄(ひやくゆう・花月堂、百々政業、狂歌) E 3 7 8 2
- N3130 **俊憲**(としのり・藤原ふじわら、法名；眞寂、通憲[信西]男/母；高階重仲女) 1122-67 46 藤原顕業の養子、
廷臣；後白河近臣の実父の権勢を背景に要職を歴任；東宮学士・蔵人頭・権左中弁、
1159参議/59平治の乱に連座し解官・越後配流/出家；阿波に移送/60召還、漢学/文筆家、
古事談・続古事談・愚管抄に入、1177「貫首秘抄」、「信任辨官抄」「辨官鈔」、
歌人；二条天皇大嘗会和歌出詠、続詞花・万代集入、勅撰3首；千載637/810・新勅1181、
[姿こそ寝覚めの床とに見えずとも契りし事のうつゝなりせば](千載集；恋810)
[あすもありと思ふ心にははかられてけふをむなしく暮しつるかな](続詞花；雑918)
- N3131 **利啓**(としのり・巨勢こせ/本姓；橘、由利男/母；中野当恒女) ?-1765 幕臣；1719家督；奥詰/45御側衆、
1763駿河富士駿東に采地を移動、大和守、歌；冷泉家門、
1732「曲水宴詩歌」、広通「霞関集」入、吉宗の母由利は叔母、
[いつとなき緑の空も霞みつつけふ立つ春の色を見すらし](霞関；2立春)
[利啓(；名)の通称/法号]通称；善之助/十左衛門、法号；了徹
- N3132 **利謹**(としのり・南部なんぶ、初名；嵩信[高信]、藩主南部利雄としかつ男) 1746-1814 69 盛岡藩士/修理亮、
1774病のため廃嫡、歌人、俳人；2世常仙門、有職故実精通、「天つ日も」「北ちとり」、
1774「末広利」、「賀礼拾宝目考」「賀礼拾宝抜要府録」「自述加礼問答」著、利済としだの父、
[利謹(；名)の通称/号]通称；三郎/一郎、号；自弦斎/自玄斎/一松/鳳扇/徳風/能新/陶東、
桃山閣/排仙閣/清葩亭/候鮮/清花揚/清花閣/耳瞑子/屈松園/釈普濟/江都竜門生、
法名；子敏、法号；晋雲院
- N3134 **祀則**(としのり・黒崎くろさき、通称；九兵衛) 1768-1839 72 上州中里村の和算家；石田玄圭門、
「算法解義」著
- N3135 **利義**(としのり・土井どい、彦根藩主井伊直幸男；9男) 1777-1818 42 近江彦根の生、母；池崎氏、
1791越前大野藩主土井利貞の養子/92従五下左京亮/93中務少輔/1805襲封；越前大野藩主、
1808甲斐守/10隠居、詩を嗜み村松公凱を侍読とす、俳諧；蓼太門、「笙洲詩稿」著、
[利義(；名)の幼名/号]幼名；銀之助、号；笙洲/漣漪れい、法号；対松院
- N3136 **利敬**(としのり・南部なんぶ、別名；信敬、利正男) 1777or1782生?-1820 44-39 母；田中氏(涼雲院)、
陸中盛岡藩主；1784家督；幼少のため藩政は重臣の合議制/96元服、
1799幕命で東蝦夷地警備/1808評定所設、神道；吉田家の門、
1812「蝦夷地へ異国船渡来ニ附御届一件」著、
[利敬(；名)の通称/号]通称；慶次郎、号；橋雪、法号；神鼎院
- N3137 **俊矩**(としのり・北小路きたのこうじ/本姓；大江、松尾社司泰は相栄男) 1768-1832 65 母；法印祐良女、
北小路俊冬(；民部大輔)の養子、廷臣；蔵人/院判官/右近衛将監/治部大輔/従五下、
妻；松尾敬子(1774-1817/松尾相美女)・藤井信子(藤井充武女)、俊迪(1794-1840)の父、

1831致仕、1809「皇太子拝観」1817「讓位及日記」著、「詩文稿」「六位侍中記」「御手水」著、「俊矩記」「梶井宮灌頂大江俊矩記」著

- U3183 **敏則**(としり・川喜田かきた、旧姓;大森)1774-1825⁵² 伊勢久居の生/伊勢津の商家;
川喜田家分家の四郎兵衛家の養子、国学者;富樫広蔭門、養嗣子;長谷川邦矩(くにのり)、
[敏則(;名)の通称]次三郎/平八/平八郎/四郎兵衛
- U3145 **驥徳**(としり・小野おの、通称;半太夫)1778-1855⁷⁸ 周防岩国藩士/国学者
- U3191 **利徳**(としり・木下きのした、伊勢津藩主藤堂とうどう高疑たかさと5男)1789-1821³³ 国学・歌を修学、
1805(文化2)備中足守藩9代藩主木下利徹としよしの養嗣子;家督嗣;足守藩10代藩主、
従五下肥後守、正室は木下利忠女、早世/養子利愛(利徹の実子)が家督嗣、
[利徳(;名)の初名/通称]初名;東丸、通称;肥後守、法号;隆徳院
- U3103 **俊則**(としり・栗屋あわや/栗屋くりや?、通称;新之允しんのすけ)?-1858 長門萩藩士、歌人、
剣技・居合術に長ず、語学を修学;富士谷学説を好む
- N3138 **利教**(としり・山田やまだ、通称;左七郎、山田肥後守男)?-1862? 幕臣;1818小納戸/小姓、
1833駿府目付代/51先手弓頭/62隠居;勤仕並寄合、佐渡守、2千5百石、1833「駿府巡見記」著
- T3153 **俊徳**(としり・内藤ないとう)?-? 江後期;歌人、藩士?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山人は照らす螢をしるべにて闇にも渡る谷のかけはし](大江戸倭歌;夏585/橋辺螢)
- U3198 **俊徳**(としり・北小路きたのこうじ/本姓;大江、北小路俊常男?)1807-57⁵¹ 北小路俊広の養嗣子、
京の近衛家諸大夫、歌人;香川景樹門、俊良の父、
[俊徳(;名)の通称]備中守/大炊頭/山城権介/播磨守/刑部権少輔ぎょうごんのしょう
- U3130 **利記**(としり・岩崎いわさき)1811-1883⁷³ 播磨赤穂坂越浦の里正、歌人、「朽葉集」著、
[あしがらの関路を春や越えぬらん富士の裾野ぞかすみ初めたる](朽葉集;冒頭歌)、
[利記(;名)の通称/法名]通称;小吉/直三郎/仁右衛門/甚右衛門、法名;円浄
- U3192 **俊徳**(としり・木原きはら)1828-? 伊予松山の歌人;三上景雄(是庵/1818-76)門、
[俊徳(;名)の通称/号]通称;退蔵、号;残雪
- 利矩(としり・飯田) → 篤老(とくろう・飯田、医/俳人) L 3 1 6 2
利器(としり・恩田) → 仰岳(ぎょうがく・恩田おんだ、藩士/漢学者) N 1 6 4 8
利徳(としり→としなり・土井) → 利徳(としなり・土井、藩主) N 3 1 3 3
俊徳(としり・滝川) → 伯明(はくめい・滝川たきがわ、兵学者) D 3 6 9 7
俊徳(としり・服部) → 壺仙(こせん・服部はつとり、商家/詩人) M 1 9 9 8
俊徳(としり・一見) → 直樹(なおき・一見/市見いちみ、国学者) L 3 2 1 9
俊範(としり・坊城/葉室) → 頼要(よりとし・葉室はむろ/藤原/坊城、権大納言/記録) J 4 7 2 1
敏範(としり・藤原) → 実兼(さねかね・藤原ふじむら、詩/説話筆録) K 2 0 8 4
- N3139 **俊逸**(としはや・坊城ほうじょう、俊将としただ男/本姓;藤原)1727-73⁴⁷ 母;坊城俊清女、廷臣;1752参議、
1754正三位/55権中納言、儒・垂加神道;竹内式部門/神道奥義の伝授の免許;代講の資格、
桃園天皇の竹内式部のよる垂加神道講習に尽力;1758(宝暦8)式部追放の宝暦事件連座;
徳大寺公城きんむら・正親町三条公積・鳥丸光胤らと共に近習職・官位停止/永蟄居、
1760落飾出家、俊親としちかの父、
「皇極丹伝脉」「口宣消息留」「諸論旨案」1745「転任右中辨拝賀記草」著、
法名;常徹、法号;金剛退院
- N3140 **利春**(としはる・高向たかむこ、小野美材男?)?-? 平安中期廷臣;従五下/890刑部丞/910武蔵権少掾、
917武蔵守/928甲斐守、宇多法皇との関係深く法皇御料牧の武蔵秩父牧司を長年務める、
歌:古450(;物名「さがりごけ」)
[花の色はたゞひとさかり濃けれどもかへすがへすぞ露は染めける](古今;十物名450)
(「さがりごけ」はサルオガセか)
- S3176 **俊治**(としはる・竹内たけのうち/本姓;源)1611-47³⁷ 江戸前期;廷臣、正五上/弾正台大弼、
1647(正保4)没/法号;本源院信覚智弁、
歌人;1638[後鳥羽院四百年忌御会]参加、「古今夷曲集」1首目録入、
[涙のみ染ます物よ唐衣おもひは何の色ならねども](後鳥羽院忌;66/思、

- 恋の思いに特別な色はないが流す涙が袖を紅に染める;おもひをと火・緋に掛る)
- N3141 **俊晴**(としはる・横田よた、別名;近俊、俊益[何求]男)1652-1725 74 会津藩儒/儒学;父門、1682家督、外様組士番代/藩校稽古堂指南役、詩文、
「書簡指南抄」「何求先生墓祭事实」「話教録講按」著、
[俊晴の通称]九之進/清四郎/新右衛門、俊孚としげの養父
父 → 何求(可及かきゅう・横田、儒者) H 1 5 2 3
- U3165 **利春**(としはる・加田かた、)1728-1805 78 近江彦根藩士、国学・歌;大菅圭い(中養父)門、のち京都で活動、
[利春(;名)の字/通称/号]字;春水、通称;正右衛門、号;寒楽散人
- N3142 **俊春**(としはる・鴨かも/泉亭)1734-1785 52 下賀茂神社神職/1770従三位権禰宜/78禰宜、1779正三位、「泉亭せんてい記略系記」編、1770「随鷗家系」編/78「鴨社年中行事」、「素尊伝記」著
- N3143 **年治**(としはる・敷田しきた/吉松、宮本包継男)1817-1902 86 豊前宇佐敷田村神職/1839吉松家の養子、吉松伊勢守を名乗る/1847敷田年治と改名、国学;帆足万里・渡辺綱章門、1853江戸游学、1863和学講談所教官、国事奔走;変名使用/維新後大阪国学教習所教官・神宮皇學館学頭、1861「仮名沿革」63「宇佐宮雜徴」、「加不知夫利」「野椎名義考」「明々論」著、
[年治(;名)別名/幼名/通称/号/変名]別名;名;仲治/大次郎/大二郎、幼名;主計之助、通称;上総/伊勢守/蔵人/連、号;百園/百桃園、
変名;大隈蔓根/大隈連/大隈第治郎/大江建丸/苗木百助/敷田蔵人/敷田代二郎
- U3151 **俊治**(としはる・大平おおだいら/本姓;藤原、大平蘆平2男)1836-65 30 母;信濃飯田藩士田中亮太夫女、信濃伊那郡島田村八幡神社祠官;父を継嗣、神道・歌;鎮西清宣門/国学;平田鉄胤門、妻;鎮西清宣の妹
[俊治(;名)の初名/通称]初名;清詮、通称;左馬之介(父の称継嗣)
- V3191 **利治**(としはる・中野なかの、通称;胤三郎)1843-1915 73 筑後久留米の国学者
齊治(としはる・壕越) → 齊治(せい・壕越、歌舞伎作者) B 2 4 9 0
俊治(としはる・高宮/最上) → 徳内(とくない・最上もがみ、探検家/紀行) L 3 1 2 5
利春(としはる・木下) → 台定(きんさだ・木下、藩主/文教奨励) R 1 6 0 2
- N3144 **貴彦**(としひこ・松木まつき、別名;貴久、忠彦男/本姓;度会たらい)1519-93 75 伊勢外宮禰宜、1536十禰宜、1572一禰宜/82従三位、「外宮貴彦引付」著
- W3175 **敏彦**(としひこ・矢島やじま、正常長男)1763-1828 66 讃岐高松藩士の家/江戸生、家学;和算学修学、関流和算家/のち信濃伊那郡南小河内村に移住;子弟教育(石川維徳らの師)、漢学;畑隆泰門/国学;伴蒿蹊門/歌;澄月門/書;入江維則門/神道;梶原舎景(景富)門、信濃伊那郡箕輪村の里正となる、養嗣子;敏堯としか(1798-1868)、「数術集解」著、
[敏彦(;名)の初名/字/通称/号]初名;敏広、字;子恕、通称;八郎左衛門、号;桃舎
- S3168 **敏彦**(としひこ) ? - 1814 江後期広島俳人;六合くごう門、1802升六「癸亥発句集」入、多賀庵4世箴子(六合の養子)の師、
[けうふは又けふの花也かきつはた](1814篤老「合歓雨集」)
- W3193 **俊彦**(としひこ・吉田よしだ、初名;央/俊郷)?-1864 筑後久留米藩士、国学者;中島広足門
[俊彦(;名)の通称/号]通称;若狭、号;観雪
- V3194 **俊彦**(としひこ・中山なかやま、長彦の長男)1815-78 64 紀伊有田郡の神職;立神社社司;父を継嗣、国学;本居大平・内遠門、歌人、
[俊彦(;名)の別名/通称/号]別名;秀雄/長穂、通称;亀丸/内膳/甲斐守、号;錦江/亀山/竹の屋
- W3190 **俊彦**(としひこ・横山よこやま、通称;新之允)1850-76 刑死 27 長門萩藩士、藩校明倫館・松下村塾修学、国学者・歌人、新政府の政策に絶望;前原一誠らと新政府転覆を画策;
1870(明治9)10月28日前原一誠と同志2百余名による萩の乱(明倫館で蜂起)に参加;
広島鎮台司令長官三浦梧楼らにより一週間で鎮圧される;12月3日刑死;斬殺、
[山といふ山はあれどもすめらぎの都の山に似る山ぞなき]([萩の歌人]入)
俊彦(としひこ・檜垣) → 貞俊(さだし・檜垣/度会/松木、神職) I 2 0 8 6
俊彦(としひこ・原) → 穂足(ほたり・原はら、庄屋/国学/歌人) G 3 9 3 3

壽彦(としひこ・便々居) → 便々居壽彦(べんべんきよとしひこ・狂歌) 2708

- N3145 **俊壽**(としひさ・高橋たかはし、俊澄男/本姓;藤原) 1753-1817 65 母;高橋俊秀女、廷臣;鷹司家諸大夫、大隅守/伊勢守/兵庫守、1817刑部少輔/從三位、「高橋俊壽見聞手冊」「服暇雜穢勘物」、1795「関白宣下鷹司家政所記」著
- W3159 **俊壽**(としひさ・宮川みやがわ、) 1784-1857 74 淡路津名郡の国学者
- N3146 **登壽**(としひさ/たかひさ・恒川つねかわ、寿年男) 1795-1862 68 加賀金沢藩士/1808家督、藩主前田斉泰に出仕;側小姓・奥小姓・御使番/藩重職、歌人;歌会を催、「穩楽齋随意集」11巻著/1849「三守御譜」編、[登壽(;)名]の通称/号]通称;判左衛門、号;穩楽齋おんらくさい、法号;貞忠院、寿福の父
- N3147 **俊璠**(としひさ・高橋たかはし、俊彦男/本姓;藤原) 1808-66 59 母;朝山義連女、廷臣;鷹司家諸大夫、1814大隅守/47兵部権大輔/50正四下/56条約勅許問題に連座;安政大獄で捕縛/のち赦免、1858-60「高橋俊璠日記」1859「四英獄窓唱和集」、「高橋俊璠東向日記」著、俊美としよの父、[俊璠(;)名]の通称/号]通称;采女佑うねめのすけ、号;清陰、法号;清巖院
- T3177 **利剛**(としひさ・南部なんぶ、利濟3男) 1826-96 71 母;檜山隆翼女の烈子、陸奥盛岡南部藩主、七戸藩主南部信養嗣子;病で実家に戻る/父と盛岡16代藩主の実兄利義との対立起る、1849(嘉永2)利義隠居;利剛は養嗣として盛岡南部藩15代藩主;從四位下美濃守/1851侍從、藩内には反対根強く1853第2次三閉伊一揆では利義の復歸及び帰国が一揆側の要求、鎮圧され要求は退けられる/1854幕命で利濟は江戸下屋敷で蟄居・利義は藩政介入禁止、藩政再建に関し檜山佐渡と東政因(中務)の家老同士が対立;藩政は迷走、1855(安政2)安政大地震に遭遇し負傷/1861左少将/64正三位中将に任官、1868(慶応4)九条道孝率いる新政府軍の進駐;饗応するが布告に恭順せず、奥羽越列藩同盟に従い秋田に出兵;降伏/明治新政府から隠居・と領地没収の下命、長男利恭が陸奥国白石13万石に減転封;家老檜山佐渡ら3人が切腹、国学;間宮永好・江刺恒久門、妻;松姫(明子、徳川斉昭女)、息子;利恭(16代藩主)・大隈英麿(大隈重信婿養子/後離縁)・信方(七戸藩4代藩主)・利克(八戸南部家12代当主)など、息女;郁子(華頂宮博経親王妃)・麻子(南部栄信正室)・稠子(南部康直室・南部康保入籍)・宗子(秋元興朝正室)・倫子(南部剛隆室)・貴子(松前修広継室のち鍋島直虎継室)、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[つもりては枕の塵も妹いとわが中を隔つる山となるらん](大江戸倭歌;恋1539)、[利剛(;)名]の別号/字/通称/号]幼名;鉄五郎、初名;謹敦/利敦、通称;寿之助/美濃守、号;節齋/忠和/素心齋/致堂/桜園
- T3154 **利寿**(としひさ・斎藤さいとう) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[あらかねの土さくる日はかはほりの風をたたみておくかひもなし]、(大江戸倭歌;夏624/扇、地の割けるほどの日差し)
- U3195 **俊尚**(としひさ・紀きの、通称;清主、) 1735-1896 62 紀伊名草郡の日前国縣神宮祭主、国学/歌、尚長の後継;紀国造77代(維新により廃止)
- 利久(としひさ・佐伯) → 利麿(としまろ・佐伯ささき、国学/神職) V 3 1 2 5
- 利久(としひさ・本多) → 助芳(すけよし・本多ほんだ、藩主/国学) J 2 3 2 3
- 貴久(としひさ・松木) → 貴彦(としひこ・松木/度会、神職) N 3 1 4 4
- 要久(としひさ・横田) → 樗園(ちよん・横田、藩士/詩文/紀行) K 2 8 1 8
- 俊久(としひさ・福田) → 美楯(みたて・福田、商家/国学者/歌) 4 1 0 2
- 敏久(としひさ→みにく・興原) → 敏久(みにく・興原おきはら/物部、廷臣) H 4 1 3 6
- 年古(としひさ・石橋) → 知空(ちくう・石橋いしばし、国学/歌/出家) M 2 8 0 4
- 利剛室(としひさのしつ・南部) → 明子(あきこ・南部なんぶ、松姫[万津姫]、歌) D 1 0 3 6
- N3148 **俊秀**(としひで・坊城ほうじょう、俊国男/本姓;藤原) 1423-65 43 廷臣;1438從五上藏人/44正五上左中弁、1446從四下左大弁/47藏人頭/造東大寺長官/從四下/48正四上、1449(宝徳元)参議、1450從三位・権中納言/51正三位/弾正尹;権中納言を辞任/55從二位弾正尹、1465(寛正6)権大納言;任官翌日没、詩人;1446(文安4)文安詩歌合参加

- N3149 **俊英**(としひで・松宮まつみや、観山男/本姓菅原) 1720-56³⁷ 江戸の北条流兵学者・漢学者:父門、
儒学/柔術/歌に通ず、1739「武備目睫」校、
[俊英(;)名)の字/通称/号]字;子僑、通称;左次馬、号;柳条/麟亭、
- N3150 **俊秀**(としひで・千家せんげ/出雲臣、俊勝男)?-? 出雲杵築の出雲国造家、俊信としげね[1764-1831]の兄、
国学者、1793宣長「出雲国造神壽後稷」序
- N3151 **俊英**(としひで・天野あまの、号;一桜)?-? 江後期文化文政1801-30頃肥前大村の医者、
1801「家方医按」-22「擬似摘要」著
- N3152 **俊秀**(としひで・三沢みさわ/本姓;源/小沢、布川謙斎男) 1818-49³² 出羽久保田の医・薬業、
父の郷地小川・三沢を姓とす、国学;平田篤胤門、鍊胤と交流、
1813篤胤「古道大意」端書筆記(嘉永元年版本の序文執筆)
[俊秀(;)名)の通称]三折
- N3153 **利秀**(としひで・柴谷しばたに) ? - ? 江後期天保1830-44頃伊勢大湊の俳人、
「柴谷利秀謾録」著
- V3145 **俊栄**(としひで・千家せんげ、尊孫たかひこ2男)?-1858 出雲出雲郡の神職/国学者、日吉主俊清の嗣子、
[俊栄(;)名)の通称/号]通称;孫丸/孫麿、号;梅乃舎
- N3154 **年秀**(としひで・折田おりた) 1825- 1897⁷³ 幼時に祖父田中玄淵により養育、薩摩藩士;
1839藩校造士館で修学/45昌平覺で蘭学;箕作阮甫門、蝦夷樺太を視察、砲術海防策を講説、
1863薩英戦争で砲台築造・大砲鑄造に当る、湊川神社創設に参画;1873初代宮司、
「為溪集」/1847「浦賀紀行」著、
[年秀(;)名)の通称/号]通称;要蔵/三国屋要七、号;五峰
- 俊秀(としひで) → 俊秀(しゅんしゅう、源、平安期法師歌人) J 2 1 8 5
俊秀(としひで) → 俊秀(しゅんしゅう、室町期連歌) F 2 2 2 4
俊秀(としひで・村瀬) → 俊秀(しゅんしゅう・村瀬正孝、俳人) J 2 1 8 7
俊秀(としひで・木村) → 聿(いっ・木村きむら、藩士/勤王/日記) G 1 1 7 1
俊秀(としひで・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8
俊英(としひで・和久) → 半左衛門(はんざえもん・和久わく、藩士/書家) H 3 6 7 0
俊英(としひで・日向) → 元秀(げんしゅう・日向ひゅうが、本草家) J 1 8 6 2
- N3155 **智仁親王**(としひとしんのう・八条宮/桂宮、誠仁親王男) 1579-1629⁵¹ 後陽成天皇弟、1589八条宮の初代、
式部卿/一品、桂離宮を造営、歌:幽斎門;古今伝授/後水尾天皇に相伝、連歌;里村家師事、
古典/歌書蒐集「桂宮本」、「智仁親王詠草」「歌連歌聯句之詠草」「煙草説」「江戸道中日記」著、
「女房の名の事」、「名所和歌抄百題」編、昌琢・兄良恕親王らと百韻・和漢聯句多数(名;色)、
[智仁親王の幼名/通称]幼名;六宮/古佐麿[胡佐麿]/員丸、一字名;色、通称;幸丸/友輔、
法号;桂光院
- 利姫(としひめ・佐竹) → 義峰室(よしみねのしつ・佐竹さたけ、藩主室/国学) N 4 7 1 1
- T3102 **俊平**(としひら・賀茂かも、政平男)?-? 平安期神職/歌人;1182重保撰「月詣集」入、
[むれてはむ遠ざとをのの春駒のをぐろにまがふ荻のやけはら](月詣集;二79/春駒)
- N3156 **俊平**(としひら・源みなもと、通称;侍従入道/法名;禪信、泰光[俊信]男)?-1265 廷臣;従五下侍従、
1221承久乱後;土佐配流の土御門院に随従(吾妻鏡入)、歌人;1248宝治百首/51影供歌合参、
1265白河殿七百首参加/万代集・現存六帖・秋風抄・秋風集・雲葉集・夫木抄に入集、
勅撰11首;続後撰(147/350/672)続古今(1112)続拾(870)新後撰(1159)玉(389/2116)以下
[月影に昔の春を思ひいでて我が身ひとつとたれながむらん](続後撰;三春147)
- N3157 **俊平**(としひら・丘崎おかざき/丘岬/岡崎)?-? 江後期寛政-文化1789-1818頃若狭小浜の出身/大阪住、
国学者:本居宣長・荒木田久老門、1813小浜の家に海量法師が訪問、
1804「百千鳥」、「新撰字鏡考異」著、「丘崎俊平雑記」編、
[俊平(;)名)の通称/屋号]通称;忠左衛門/青宇、屋号;木綿屋
- N3158 **年平**(としひら・飯田いだ、秀男2男) 1820-86⁶⁷ 母;汐子(歌人)、因幡多郡寺内町の国学者;父門、
加知弥からみ神社祠官;父を継嗣、国学;本居大平・加納諸平・伴信友門、
1860(万延元)鳥取藩主池田慶徳に認められ鳥取藩国学方履;士斑に列す、
国学所尚徳館教授、挙兵に失敗した天誅組三枝翁を屋敷に匿う、
維新後は政府の史官/神祇大史/神祇大録/神宮神嘗祭奉幣使/式部寮御用掛准奏任官歴任、

歌人三平と称される(諸平/石川依平と)、飲酒と貧窮の逸話あり、没後;従六位、
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、「祝詞式捷徑」「石園集」「万葉集短歌」「新姓氏辨」著、
1841「鮫玉集作者姓名録」59「樟齋集」編、
[晴曇るいり日の影も降る雪のそらにみたるるわしの山風]、
(沖探容画の因幡八景;鷲峰暮雪)

[年平(;)名)の別名/通称/号]別名;足穂たるほ、通称;七郎/主鈴、号;石園

姉;飯田俊子(歌人)/兄;飯田秀臣(歌人)/妹;原田輝子(歌人)/姪;古田むめ(校長)

W3177 **敏平**(としひら・矢島やじま、敏堯としたか長男)1831-190070 信濃伊那郡箕輪村の里正の家、
和算;父門/国学;平田鍬胤門、
[敏平(;)名)の通称/号]通称;朋之進/八朗、号;桃屋

V3177 **老平**(としひら・土屋つちや、武居世平2男)1841-8747 上野高崎寄合町の歌人;橘冬照・橋本直香門、
国学者、父と共に高崎藩主大河内輝声てゐるの歌道師範、郡役所書記/郷土史家、諸国行脚、
義弟;武居梅波、父没後;高崎歌壇の中心と期待されたが病没、「片岡郡志」著、
[老平(;)名)の通称/号]通称;補三郎、号;和堂/歌の屋、

狂号;2代菫庵石文すみれあんいしづみ/多胡石文

俊平(としひら・高階) → 信寂(しんじやく、歌人) E 2 2 4 2

俊平(としひら・寺島) → 天祐(てんゆう・寺島たらしま、儒者) E 3 0 4 4

俊平(としひら・土屋) → 本因坊秀和(ほんいんぼうしゅうわ、棋士) E 3 9 9 6

N3159 **利博**(としひろ・藤原ふじわら) ? - ? 平安期漢学・歌人;

943「天慶六年日本紀竟宴和歌」天稚彦に入

N3160 **俊広**(としひろ・坊城ほうじょう、俊完男/本姓;藤原)1626-170277 母;久我具堯女(岩倉具起の妹)、
廷臣;1643蔵人正五上/49従四下蔵人頭/従四上右大弁/正四下/50正四上、
1652(承応元)参議/54従三位/左大弁/55(明暦元)権中納言/57正三位/踏歌外弁、
1660(万治3)従二位権大納言/63尊号宣下上卿・例幣上卿/66神宮伝奏/67正二位、
1672辞任、87(貞享4)従一位、1702(元禄15)3月3日没、俊方・俊清の父、
「俊広朝臣記」、「改元記」「俊広卿聞書」著、「叙位除目抄」編、
1670「後光明院十七回御聖忌御懺法講伝奏要認」77「御祈事認」外記録多数

W3142 **利寛**(としひろ・前田まねだ、富山藩主利興男)1704-7673 母;高木家、1720元服;利寛に改名、
1725四百石;江戸へ遊学/上京;1758(宝暦8)烏丸光胤・徳大寺公城らの将軍奉還策露見;
利寛は藩内で処断;1744禄没収;蟹江基茂に預け/新築の屋敷に逼塞、1753赦免;30人扶持、
聞我に改号し剃髪、和学者・歌人、
[利寛(;)名)の初名/通称/号]初名;紀寛、通称;又吉/民部/内蔵、号;聞我

N3161 **利容**(としひろ・上田うねだ)1721- 178868 岩代二本松藩士/漢学者;老子研究(独学)、
1785「国音符考」/86「天吉葛」「独覽」、「殷易索考」「復八索」「互卦図」「老子偶考」著、
[利容(;)名)の通称/号]通称;孫太夫、号;復軒

N3162 **利熙**(としひろ・堀ほり、利堅男)1818-60自刃43歳 母;林述斎女、旗本幕臣;1833兄没で家督嗣、
1844小姓/52徒頭/53目付;海防掛/54蝦夷地掛/箱館奉行;従五下織部正/海防・拓殖に尽力、
同行者;玉虫左太夫・榎本武揚・郷純造・島義勇ら、1859(安政5)新設の外国奉行・
神奈川奉行を兼務;外交問題の処理に当る/横浜港開港に尽力;通称条約に日本全権の1人、
1860プロシア使節オイレンブルクと交渉;利熙が裏交渉しているとの風聞;幕府の追及、
一切弁解せずプロシアと通称条約締結直前に突如切腹自刃、村垣範正が日普条約を締結、
1854「蝦夷地覽要」「蝦夷地廻浦録」、「北辺録」「国疆議案」「南北開拓意見」「蝦夷地覽要」、
「堀村垣回浦上申記」「箱館御役所勤方心得」外著多数、
[利熙(;)名)の別名/字/通称/号]初名;利忠、字;欽文/公績/士績、

通称;省之介/省三郎/織部/織部正、号;有梅/梅花山[散]人、法号;爽烈院、利孟の父

利容(としひろ・渡辺) → 利容(としかた・渡辺、藩士) M 3 1 1 8

俊広(としひろ・寺崎) → 広方(ひろかた・寺崎てらさき、藩奉行/宿老) K 3 7 2 3

敏広(としひろ・矢島) → 敏彦(としひこ・矢島やじま、和算家/歌人) W 3 1 7 5

3149 **俊房**(としふさ・源みなもと;村上流/藤原、師房男)1035-112187 母;藤原道長女の尊子、平安後期廷臣;
1050従三位/82右大臣/83左大臣/94従一位、関白頼通の養子として異例の昇進、

後三条天皇の継嗣問題で息仁寛が鳥羽天皇を呪詛;立場が複雑となり弟頭房に家督譲渡、1121出家、故実家、博識/能筆、日記「水左わか記」、「七徳舞」書、「新国史」「最勝寺供養式」著、歌:1095(嘉保2)郁芳門院鳥羽殿前裁合の判者、万代・秋風集入、勅撰4首;後拾遺661/千1208/新古1461/続古564、詩;続文粹入、頭房・仁寛・師忠・麗子の兄、師頼・師時・師俊・仁寛の父、

[われが身はとがへる鷹となりにけり年はふれどもこゝろは忘れず](後拾;恋661左大臣、関白前左大臣師実家で年経る恋を詠、とがへる鷹は鳥屋とやに戻る鷹、鷹の止り木の木居こゝろと恋を掛る)、

[俊房(;名)の通称/法名]通称;堀河左大臣、法名;寂俊

俊房女(1066-1152);藤原長実の室で美福門院(得子、鳥羽皇后)の母

- N3163 利房(としふさ・河合かわい) ? - ? 1686「舞楽大全」
- N3164 利房(としふさ・西脇にしわき) ? - ? 連歌;1697宗静そうじやう輯・良恵編「柴屋寺さいおくじ奉納発句」参加
- N3165 利房(としふさ・山本やまもと・垣内、賜姓;豊臣/本姓;大江、山本正綱の養嗣子) 1698-1746 49 廷臣; 1743従六下、1744内蔵寮大属、1744「歳中雑記」著、嗣子;正興
- U3169 利房(としふさ・狩野かのう、) 1837-1907 71 上野群馬郡の神職;湯之上神社祠官、国学;木暮賢樹かたき門/歌;尾高高雅門、
[利房(;名)の通称/号]通称;嘉三郎、号;桃溪/草廬屋
利藤(としふじ・斎藤) → 妙椿(みょうちん;法諱・斎藤さいとう、武将/連歌) 4 1 4 2
- N3166 俊文(としふみ/としふみ・紀き、淑氏男)?(1290年代生)-? 紀伊国造57代、日前国懸宮ひのくまにかかすのみや祠官、北朝に出仕;紀伊守/従四上、南朝に出仕;従三位刑部卿、大燈国師(宗峰妙超)の門弟、1340「紀国造家蔵文書」編、淑春よしはる弟/種文の兄/親文の父/俊長の祖父、歌人;1365「内裏三百六十首」入/65正平廿年点取三百首参、続現葉・臨永・松花・藤葉集入集、勅撰3首;続千載(1258)続後拾(706)風(2140)、新葉7首(126/609以下)、
[数ならぬみなせの川に行く水の深き思ひぞ有りてかひなき](続後拾遺集;恋706)
- N3167 敏文(としふみ/としふみ・青山あおやま・黒山/本姓;物部、通称;大炊介) 1671-1754 76 筑前鞍手郡の神職、直方妙見社の祠官/官司、1691(元禄3)妙見社を元之多賀大神社に改名、国学者;烏丸光栄・荷田春満門、書/歌に堪能、
1749「岡県魚鳥池記筑前」著
- T3190 敏文(としふみ・青山あおやま、通称;与五右衛門) 1785-1830 46 近江彦根藩士、歌人
- N3168 俊文(としふみ・室木むろき) ? - ? 1828昌平饗史局資料手引書「記録解題」編纂参加
利文(としふみ・向井/久米) → 壮年(暮年ぼねん・久米くめ/高木、俳人) E 3 9 7 6
- N3169 俊冬(としふゆ・坊城ぼうじやう、俊実男/本姓;藤原) 1319-67 49?(年齢に諸説) 母;吉田隆長女、廷臣; 1355参議/59権中納言、持明院統廷臣、詩/歌;花園・光厳歌壇で活躍、1343五四番詩歌合:詩参 1343院六首歌合参/46仙洞詩歌会・仙洞歌会で講師/48七夕仙洞御遊で奉行、風雅1268、
[いかにせむ常のつらさはつらさにて今一しほのさらにそふころ](風雅;恋1268)
年穂(としほ・金野) → 博昌(ひろまさ・金野きんの/横前、国学者) J 3 7 3 2
- W3131 鋭矛(としほこ・古田ふるた/本姓;源、旧姓;萱野) 1849-76 自決 28 肥後熊本藩士、良輝よしかの兄、国学/歌、敬神党春日寺塾派として神風連の乱に参加;敗北し自決、
[鋭矛(;名)の通称] 十郎
- V3118 利昌(としまさ・児玉こたま、利貞男) 1573-1639 薩摩鹿兒島藩士、児玉備前守四郎兵衛の孫、朝鮮出兵に出陣/370石/御船・兵具奉行、晩年;納殿役/給良地頭、兵法家/示現流;東郷重位ちやうい門;五高弟の1、
[利昌(;名)の通称]新四郎/四郎兵衛尉/筑後守
- N3170 利正(としまさ・堀ほり、利庸としゆ男) 1735-96 62 幕臣/1767家督嗣/69西丸小姓組/72中奥番士、1779致仕、「観水集」著、
[利正(;名)の通称/法名]通称;喜之助/兵部/図書ずしょ、法名;慈道
- N3171 利正(としまさ・南部なんぶ、南部利視としみ男) 1751 or 52?-1784 34-33? 母;瀬山文治女(智勝院)、南部信起のち南部利雄としかつの養嗣子;利雄の長男利謹としのり廢嫡のため世子;1780家督、盛岡藩主襲封/在位中5年間飢饉で財政窮乏/病中に江戸参勤し没、俳諧:常仙門、1778「玉の春」/79「俳諧常磐の里」「両節唸」、「沾蘭公点俳諧」「歳旦集」「天明二年歳旦帖」著、

[利正(；名)の別名/通称/号]初名；信由、通称；幸吉、号；玉集庵/沾蘭せんらん[てんらん]/玉樹階、
法号；養徳院

V3123 識正(としまさ・武田たけだ、旧姓；白玉)1769-1844 76 信濃埴科郡の国学/歌；荒木田久老・木島菅麿門、
国学者/歌人；石黒守稲・越こし決信ひろのぶの師、

[こもまくら高いのやまは天雲のおくかもしらにさみたれのふる](高井山の詠)、

[識正(；名)の別名/通称/号]別名；常人/政益、通称；宗吾、号；五岳楼/廓翁

U3181 敏政(としまさ・上代かみしろ、)? - 1840 伊予松山の歌人、

[敏政(；名)の字/通称/号]字；子道、通称；門左衛門、号；風月楼/有芳亭/蘭溪/石牛

V3100 利正(としまさ・桐生きりゆう、)? - ? 江後期信濃伊那郡の歌人；

森本眞弓(1788-1854)・福住清風(1778-1848)門、

[利正(；名)の別名/通称/号]別名；貞正/貞盛、通称；周治郎、号；清河

N3172 敏昌(としまさ・永田ながた/森島もりしま、別名；勇次郎、森島延昌男)1808-80 73 美濃の関流和算家、

尾張の永田有功の養子；1831家督相続/39隠居/実家の姓森島を継承、「三友軒算艸」、

「幽斎算約」「簡斎算艸」「簡斎算艸卷六」「簡斎社中算艸」「算法簡斎録」編/「算法廿一問」著、

[敏昌(；名)の字/通称/号]字；忠告、通称；牧平/徳右衛門、号；三友軒/簡斎(；養父と道号)

N3173 寿昌(としまさ・戸田とだ)1823 - ? 1885存 尾張藩士/本草家；尾張嘗百社所属、

1848伊藤圭介薬品会の幹事、1857「皇和眞影本草」著、「禾本類眞影図」補、

1885「救荒草木一覽」「三友軒算艸」著

[寿昌(；名)の字/通称/号]字；孟諤もうがく、通称；五郎兵衛、号；禅友庵

N3174 利政(としまさ・石川いしかわ、通称；謙三郎、源兵衛男)?-? 幕臣/駿河・河内守、1863小納戸、

1866ロシア使節/67外国奉行/68勘定奉行、

「魯行日記」「魯行御用留」「魯西亞国御使書留」著

V3103 利眞(としまさ・櫛田くしだ、利恭としたか男)1832-95 64 尾張清洲の脇本陣の家/問屋役/清洲駅庄屋、

郵便業務を担当/西春日井郡長を務める、国学/歌；植松茂岳いげおか門、

[利眞(；名)の通称]源兵衛(代々の称)/佐太郎

N3175 俊昌(としまさ・北小路きたのこうじ/本姓；大江、北小路俊常男)1836-84 49 北小路俊文の養嗣/廷臣；

1848蔵人/正六上/左近衛将監/68皇太后宮権少進、「北小路俊昌手記」著

俊正(としまさ) → 俊正(しゅんせい、神官/連歌) K 2 1 1 0

俊正(としまさ・県) → 宗知(そうち・県あがた、茶人) I 2 5 4 1

俊正(としまさ・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9

俊雅(としまさ・佐々木/湖) → 混浄(こんじょう・佐々木、神職/文筆) G 1 9 2 7

利政(としまさ・斎藤) → 道三(どうさん・斎藤、武将/領主) E 3 1 6 8

利正(としまさ・加藤) → 空山(くうざん・加藤、儒者/詩) C 1 7 2 1

利昌(としまさ・前田) → 正甫(まさとし・前田/松平/菅原、藩主) E 4 0 4 5

利昌(としまさ・山嶺) → 梅山(ばいざん・山領やまりよう/やまみね、藩士/儒者) B 3 6 3 0

理正(としまさ・大原/会田) → 利明(としあき・大原、和算家) L 3 1 9 5

利和(としまさ・松平/巨勢) → 利和(としより・巨勢、幕臣/歌人) O 3 1 2 2

俊将(としまさ→としただ・坊城) → 俊将(としただ・坊城ぼうじょう、廷臣/日記) M 3 1 7 1

敏政(としまさ・池田) → 治政(はるまさ・池田いけだ、藩主/日記) G 3 6 8 6

敏政(としまさ・永田) → 有功(ゆうこう・永田ながた、藩士/和算家) B 4 6 6 2

N3176 俊雅母(としまさのはは・源みなもと、源頼綱女)?-? 源能俊の室/能賢・俊雅の母、平安後期歌人；詞花328、

[夕霧に佐野の舟橋音すなり手馴たなれの駒の帰り来るかも](詞花集；九328/手馴駒は愛馬)

俊益(としまさ・横田) → 何求(かきゆう・横田、儒者) H 1 5 2 3

歳松(としまさ・佐々木) → 徳綱(のりつな・佐々木、医者/詩歌) F 3 5 1 5

N3177 豊島采女(としまのうねめ/てしま-/とよしま-)?-? 万葉歌人/武州豊島郡出身か？、

万葉集卷六2首/1026:橘諸兄の伝承する故豊島采女の歌/1027;高橋安麿の伝承(苑臣作説)、

[ももしきの大宮人は今日もかも暇いとまをなみと里に出でざらむ](万葉；六1026)

参照 苑臣 → 園臣生羽之女(そののおみきはのむすめ、三方沙弥の妻、歌人) E 2 5 1 5

外島法師(としまほうし、興福寺僧) → 小島法師(こしまほうし、太平記作者?) 1 9 3 0

- V3128 **年麿**(としまる・佐々木ささき、旧姓;小山)?-?天保1830-44頃没 備前児島郡の国学者;
 国学・神道;業合なりあ大枝おえ門(1792-1851)、備前岡山の玉井宮祠官、
 [年麿(;)名)の通称]対馬
- V3125 **利麿**(としまる・佐伯ささき、)1845-1921 77 石見鹿足郡の国学者/津和野藩皇典少助教、
 物部神社権宮司、国学;大国隆正・福羽美静ひい・平田鉄胤門、維新後;東京住
 [利麿(;)名)の初名/通称]初名;利久、通称;太郎
 敏麻呂(としまる・松平) → 頼慎(よりよし・松平、藩主/文筆家) K 4 7 0 3
- N3178 **利視**(としみ・南部なんぶ、初名;信賀、南部信恩男)1708-52 45 母;黒沢定治女(浄智院)、
 南部利幹の養嗣子;1725家督;盛岡藩主/従四下修理大夫/大膳大夫、儉約/新田開発に尽力、
 俳諧;沾洲門、利正・信居のぶとの父、
 「壺雲亭句集」「のみくひろん」「水かけ論」「書簡」、1746「丙寅引附」著、
 [利視(;)名)の通称/号]通称;吉助、号;徳洲/壺雲亭/沾雁/花虹、法号;天量院
- N3179 **利躬**(としみ・丸田まるた、通称;十郎兵衛)?-? 江後期紀伊和歌山の国学者:本居大平門、
 歌;1802「享和二年五月十番歌合」参?
- T3133 **利見**(としみ・羽田はねだ/本姓;藤原、通称;龍助)?-? 江後期幕臣;西丸裏門番頭/勘定吟味役、
 1844(弘化元)海防掛兼帯、1850(嘉永3)佐渡奉行;知行2百俵・役料1500俵、
 1851佐渡相川着任、53柏崎にて罹病;江戸帰着、病のため免職/隠居;息子正見が家督嗣、
 歌人;1585蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [足柄の山の白雪消えぬらし富士の高根に霞たなびく](大江戸倭歌;356春山)
 [文月の日数はいまだ残れどもかりねの宿はあきはてにけり](同;雑1851/佐渡にて)、
 俊実(としみ・綾小路) → 重実(しげみ・大原/源/綾小路、廷臣/記録) S 2 1 7 4
 利見(としみ・前田) → 重靖(しげのぶ・前田まえだ、藩主/詩歌) R 2 1 9 6
- 3150 **俊通**(としみち・橋たちばな、為義男)1002-1058 57 平安中期廷臣;1023左衛門尉/41下野守、
 1057信濃守/従五上、菅原孝標女(更級日記作者)の夫、仲俊らの父
- N3180 **俊通**(としみち・富小路とみのこうじ/本姓;源・藤原、法名;示縁、富小路通治男?)?-1513 九条家の諸大夫、
 一条家諸大夫源康俊の猶子/藤原に改姓;系図を新作し富小路家を興し祖となる、歌人、
 修理大夫/宮内卿/1503従三位/04出家;示縁、古典;三条西実隆門、1473親長家歌合参加、
 1475甘露寺親長催「公武歌合」参加/92「竹内僧正歌合」参加、
 1496「三源一覽」(源氏物語註釈書;紫明・河海・花鳥余情を一括)、
 連歌;宗祇と交流;新菟玖波1句入、蹴鞠・医学にも通ず、
 [塩やかめ志賀の唐崎ひともの松の煙は月もくもらむ](公武歌合;五番左)
- T3137 **要道**(としみち・桜井さくらい)1687-1766 80歳 信濃飯田村の生/伊那郡の旗本近藤家代官、
 歌人;依田正純門、桜井知栄尼の父、要親としちかの祖父、
 [要道(;)名)の通称/号]通称;兵三郎/権重良、号;了誓
- V3114 **敏通**(俊通としみち・久我こが、通兄男)1735-1756 早世 22 母;家女房、京の廷臣;1748(寛延元)従三位、
 左中將/1750(寛延3)権中納言/1751敏通に改名/52正三位/1753(宝暦3/19歳)権大納言、
 1755石清水放生会上卿、神道;竹内式部門;日本書紀神代巻を受講、1756(宝暦6)致仕病没、
- V3195 **利通**(としみち・永幡ながはた、旧姓;尾崎、)1755-1831 77 美作勝北郡の国学者、
 [利通(;)名)の通称]和平
- W3150 **利通**(としみち・丸毛まるも、)1757-1806 50 江戸の幕臣;国学者/書家、幕府奥御右筆
 [利通(;)名)の通称/号]通称;宗三郎/権左衛門、号;景進堂
- R3178 **利通**(としみち・大久保おおくぼ、初名;利濟、利世男)1830-78 暗殺 49 母;皆吉鳳徳女のふく子、
 薩摩藩士:幼少より西郷隆盛と親友;反幕派形成/1866薩長連合/維新政府樹立の主導;
 東京遷都を実現、内治優先を主唱し征韓論の西郷と決裂、西郷失脚後は政府の中心人物、
 東京紀尾井坂で各地の旧藩族により暗殺、1860「鞅掌録」66「大久保一蔵出兵一件」著、
 [利道(;)名)の幼名/通称/号]幼名;正袈裟しょうげさ、通称;正助しょうすけ/一蔵/市蔵、号;甲東
 利道(としみち・南部) → 利義(としとも・南部なんぶ、藩主) N 3 1 0 6
 俊道(としみち・杉村) → 宗友(むねとも・杉村さぎむら、神職/俳人) B 4 2 9 2
 老通(としみち・宮島) → 則壽(のりひさ・宮島みやじま/藤原、大庄屋/国学) K 3 5 1 0
- N3181 **俊光**(としみつ・日野ひの、法名;澄寂、資宣すけのぶ男/本姓;藤原)1260-1326 67 母;賀茂能継女、廷臣;

文章博士/蔵人頭/1293参議/1309正二位/治部卿/17権大納言、後伏見・花園天皇の乳父、勅使として関東下向；鎌倉で客死、持明院統臣/大覚寺統とも近い、日記「俊光卿記」、歌人；伏見院歌壇で活動、1297八月十五夜歌合参加/1303「嘉元百首」参加、1315京極為兼「詠法華経和歌」・19「文保百首」に詠進、家集「俊光集」、夫木和歌抄14首入、閑月集・柳風抄・拾遺現藻集・続現葉集・藤葉集4首入集、勅撰33首；新後撰(238/970/1134)玉(5首742以下)続千(7首)続後拾(5首)風(2209)以下、[夕やみはおのが光をしるべにてこのしたかくれゆく螢かな](新後撰集；三夏238)、

姉妹 ；資宣女すけのぶのむすめ(歌人)、

息子 ；資名すけな・資朝すけとも・柳原資明すけあき・宣実・光恵・賢俊・俊承・光海・浄俊・光円、

息女 ；伏見院中納言典侍・俊光女としみつのむすめ(花山院師賢室)・後伏見院中納言典侍

N3182 **俊光**(としみつ・北小路きたのこうじ、俊祇男/本姓；大江) 1642-1718 77 廷臣；大学助/蔵人/1717大膳大夫、従五下、1670-73「大江俊光日記」1714「官事記」、「北小路俊光日記」著、俊在としありの父

N3183 **俊光**(としみつ・田中たなか/本姓；源) ?-? 安桃期会津塔寺村の神職(八幡社官司か?)・従五下主殿頭、1591「長帳続年日記」著(1350-1591の出来事の記録、田中宗景1414「長帳略記」の続編)

K3199 **利充**(としみつ・吉田よしだ、通称；詠甫/長右衛門) 1790-1855 66 美濃石津郡高須の豪農、国学・歌人；石塚竜麿・本居春庭・富樫広蔭門、桂園派歌人、利恭としたか・出口利純としずみの父、利和としかずの祖父

V3192 **利満**(としみつ・中村なかむら、) 1800-1861 62 筑前福岡藩士；浮組/のち永蔵(米蔵)附、国学者・歌人；大隈言道ことみち門、彫刻家；根付作者；[弾正縄]の考案者/藩命で作品献上、[利満(；名)の通称/号]通称；仁平、号；守拙軒石珏せこう、甚八(；藩士)の父

U3166 **年充**(としみつ・加藤かとう/本姓；藤原、通称；摠右衛門そうえもん) 1824-46 早世 23 出羽仙北郡の国学者、平田篤胤門、加藤景澄かげずみ(地役/篤胤門国学者・1821-81)の同族？

利光(としみつ・前田) → 利常(としつね・前田まへだ、藩主/日記) M 3 1 9 2

利光(としみつ・富川) → 玄嶽(げんがく・富川とみがわ、儒者) I 1 8 2 8

歳充(としみつ・桂) → 久武(ひさたけ・桂/島津、藩士/日記) B 3 7 2 7

N3184 **俊光女**(としみつのむすめ・日野ひの、俊光女) ?-? 鎌倉後期歌人、大納言花山院師賢の室、伏見院中納言典侍や後伏見院中納言典侍と姉妹、藤葉集2首入、勅撰6首；続千載(1383)続後拾遺(1107)新千載(1140/1310)新拾遺(403)新後拾(270)、[いかにせんうき中河のあさき瀬に結ぶちぎりのさてもたえなば](続千載；十三恋1383) 姉妹

→ 中納言典侍(ちゅうなごんのすけ・伏見院、家雅妻、歌；玉葉入) G 2 8 7 4

→ 中納言典侍(ちゅうなごんのすけ・後伏見院、民部卿典侍、玉・風葉入) G 2 8 7 5

N3185 **俊宗**(としむね・橘たちばな、俊経男/母；橘義通女) ?-1083 平安後期廷臣；従五下/太皇太后宮少進、詩歌人；1073後三条院天王寺御行の歌会参加/中右記部類紙背漢詩集入、後拾981、[思ひきや衣の色をみどりにて三代みまで竹をかざすべしとは](後拾遺；十七981)(賀茂臨時祭の試楽に六位蔵人に交じり緑の袍を着て竹を挿頭して東遊を舞う時の詠)

女 → 安藝②(あき・待賢門院、歌人) 1 0 4 1

N3186 **俊宗**(としむね・綾小路あやのこうじ、法号；松寿院、有胤男/本姓；源) 1690-1770 81 母；家女房、廷臣；1703(元禄16/14歳)元服昇殿/従五上侍従、06正五下右少将/09従四下右中將、1712従四上/15正四下/1719(享保4)従三位非参議/23右兵衛督/24正三位/25参議、1729石清水放生会参向/30東照宮奉幣使/参議辞任/33(享保18)権中納言/34従二位、1735石清水放生会上卿/36清水放生会宣命奏上卿/37中納言辞任/38按察使、1747(延享4)正二位；按察使、1758(宝暦8)権大納言；すぐ辞任、「飴抄目錄」著

V3196 **年宗**(としむね・長瀬ながせ、) 1717-1797 81 信濃飯田の商家/歌人、歌；澄月・桃沢夢宅門、宗敏の父/福住清風の祖父、[年宗(；名)の通称/号]通称；五郎右衛門/小左衛門、号；素人

N3187 **俊宗母**(としむねのは・橘たちばな、橘義通女、俊経の妻) ?-? 平後期歌人、金葉Ⅲ458[別本では俊宗女作]

N3188 **俊宗女**(としむねのむすめ・橘たちばな、待賢門院安藝の姉妹) ?-? 平後期歌人、金葉Ⅱ418/448/458/697 [いかにせんなげきの森はしげけれど木この間の月の隠れなきよを](金葉集；八恋448)

参考 → 安藝②(あき、待賢門院安芸、橘俊宗女) 1 0 4 1

- N3189 **刀自売**(とじめ・椋椅部くらはしべ、物部歳徳ものべのとしこの妻)?-? 武蔵荏原郡の人、
755防人として行くの夫との別離の歌;万葉集廿4416、
[草枕旅行く背なが丸寝せば家なる我は紐解かず寝む](万葉集;廿4416)
夫の歌 → 歳徳(としこ・物部ものべ) N 3 1 0 2
- N3190 **刀自売**(とじめ・物部ものべ、藤原部ふじはらべの等母麻呂ともまろの妻)?-? 武蔵埼玉さきたま郡の人、
755防人に行く夫との別離歌;万葉廿4424、
[色深く背なが衣は染めましをみ坂賜たばらばまさやかに見む](万葉集;廿4424)
夫の歌 → 等母麻呂(ともまろ・藤原部) Q 3 1 6 1
- N3191 **利以**(としもち・土井どい、幼名;福丸/法号;享楽院、刈谷藩主利徳男)1796-1829 兄の利謙の養嗣子;
1813三河刈谷藩主、従五下淡路守/1823奏者番、歌/書/茶道:「土井家茶会之記」、
妻;堀田正敦女の栄
- N3192 **俊基**(としもと・日野ひの/本姓;藤原、種範男)?-1332殺害 後醍醐天皇廷臣/少納言/大内記/右中弁、
日野資朝と天皇の討幕計画参画/1331計画失敗(元弘の乱)捕縛/関東配流中殺害
- N3193 **利意**(としもと・土井どい、小田原藩主稲葉正則男;7男)1664-172461 1675土井利長の養嗣;
1678従五下式部少輔/81家督;三河西尾藩主;雁間詰/1704奏者番/山城守/13寺社奉行兼務、
1714伊予守/1720江戸回船番所を下田から相模浦賀に移設/24致仕、
1701「三河国郷帳」著、22「享保七年寺院法度」編、
[利意(;名)の幼名/別名/法号]幼名;縫殿助ぬいすけ、初名;利忠、法号;靈応院
- N3194 **俊元**(としもと・坂本さかもと、天山男)?-? 江後期信州の砲術家:父門/高遠で天山流師範、
「荻野流砲術伝書」「銃術単騎伝」著、俊貞の兄
- N3195 **利民**(としもと・前田まゐだ、富山藩主前田利幹男/本姓;菅原)1806-7166 富山藩士/1827江戸に遊学;
流行の打毬を改良し二毬門とし家中の兵学訓練に利用、狩野派写生画;滝川竹沙門、
帰郷後は風雅に遊ぶ、晩年は華道;鳥山芝山門/北栄古今流を開く、
「禽譜図解」、1851「天満宮奉納詠歌」、「鶏道初学」著、
[利民(;名)の幼名/号]幼名;銀三郎/頼母、号;竹圃/翠袖堂
俊幹(としもと・藤原) → 俊顕(としあき・藤原、頼乗、廷臣/歌) L 3 1 8 9
- V3168 **載守**(としもり/ときもり・竹田[武田]たけだ、載光男)1836-190964 尾張春日井郡の酒造業、国学者/歌人;
国学;岡田高穎たかひで門/歌;小出繁つばら門、朔六の父。
[載守(;名)の通称]長兵衛(;父の称)
- N3196 **利哉**(としや・後藤ごとう、別名;利人/利刃/利也)1811-8676 豊後臼杵藩士;家老/国学:中島広足門、
画・歌を嗜む、「奈牙遠なげお歌集」「わすれがたみ」著、類題清風集初編に入集、
[利哉(;名)の通称/号]通称;市之允/市之丞いちのすけ/槌之助、号;奈牙遠なげお
- N3197 **杜若**(とじゃく・土田つちだ、名;正祇)?-1729;50余歳 伊勢津藩士/伊賀上野藤堂家出仕、郷代官、
俳人;芭蕉門、1691「猿蓑」98「続猿蓑」入、1695土芳蓑虫庵五歌仙参;「雪の五歌仙」入、
「伊賀名所記」補訂、[みの虫や形なりに似合ひし月の影](続猿蓑;下/月光に浮かぶ朧な姿)
[杜若(;号)の通称/別号]通称;小左衛門、別号;柞良さくりょう(初号;)/杜若軒、法号;光源院
- N3198 **都雀**(とじゃく・高城たかしろ、通称;主水)?-1799 伊勢の俳人:文誰門、本願寺門跡家臣/京住、
1782「わすれ草」89「紅絵うり」90「はまくり集」92「法の水」93「道の影」1803「雪のやま」編、
[都雀の別号] 黄花亭/菊溪庵/宗賀房、法号;菊溪庵正阿孝順法子
杜若(とじゃく;俳名) → 半四郎(4世はんしろう・岩井、歌舞伎役者) I 3 6 0 3
杜若(とじゃく・岩井) → 半四郎(5世はんしろう・岩井、歌舞伎役者) I 3 6 0 4
杜若軒(とじゃくけん) → 杜若(とじゃく・土田つちだ、藩士/俳人) N 3 1 9 7
- T3164 **利安**(としやす・斎藤さいとう、利永男)?-? 戦国期の武将、長井長弘と同一説(美濃明細記)、
1490(延徳2)白檜城を築城、1495土岐成頼の後継争いが起る;
妙純の命で土岐元頼方の古田氏討伐に利綱と共に陣(船田合戦)、
1498(明応7)斎藤妙純・利親父子が戦死;幼い利親息子利良の後見のため稲葉山城山麓住、
永正年間1504-1520;長井長弘と共に美濃長良天神神社を修復、斎藤利三の祖父、
[利安(;名)の別名/通称/法号]別名;利隆/利賢/利直、通称;四郎左衛門、
法号;崇福寺桂岳宗昌

- N3199 **利恭**(としやす・井上いづえ、初名;利次、利守男) 1749-? 1798存 幕臣;1767家督/御小姓組/御目付、京都町奉行/1791作事奉行;日光御霊屋修造に功/98大目付、美濃守/従五下、「井上日記」、[利恭(;)名)の通称] 民之助/内匠たくみ/助之進
- 03100 **俊休**(としやす・万波まんなみ、字;世美/通称;甚吉)?-? 江中期備前岡山藩儒臣(;)明和1764-72頃登用)、藩校で講説、藩儒井上子休等と親交、1790「大学開示」、「大学衍義考義」、醒廬・茅山の父
- V3116 **利安**(としやす・小林こばやし、) 1757-1831 75 近江犬上郡の国学者/歌人;[彦根歌人伝:亀]入、[利安(;)名)の通称/号]通称;寿平、号;審斎
- U3144 **利泰**(としやす・小野おの、) ? - 1820 遠江周智郡の国学者;石川依平(1791-1859)門、[利泰(;)名)の通称] 彦造/戸右衛門
- 03102 **利安**(としやす・寺沢てらさわ、通称:卯蔵)?-? 江後期阿波徳島藩士、国学者:本居大平門、「みそさゝいの考」著、大平撰「八十浦の玉」下巻:長歌[淤能基呂島]入
- 03101 **利保**(としやす・前田まねだ/松平、利謙男/本姓;菅原) 1800-59 60 江戸の生/母;稲(芳心院)、1811兄前田利幹の養嗣子、1835家督;富山藩主/侍従、国産振興;1837藩産物方創設、1846病氣理由で致仕隠居;6男利友に家督譲渡、本草;岩崎灌園・宇田川榕庵門、1849(嘉永2)城外に千歳御殿造営;植物園・菓草園設置;楮鞭会を主催、歌学:冷泉・富士谷家門・海野遊翁門、能学も嗜む、但し藩政は掌握、1853(嘉永6)利友没、7男利聲としかたが藩主;父子で対立;御家騒動;1857(安政4)実権掌握;再度藩政を主導、正室;浅野斉順女の久美(延子のぶ) /側室;每木(橋本家)・峰(糸賀家)・艶(渡辺家)、1837「履校約言」38「秦皮図説」41「啓蒙虫譜図解」52「清薫日知鈔」53「歌道詠事15ヶ条」、1856「古今集大論」58「神用昌々」、「清薫詠草」「古今和歌集夜話」/「龍沢公随筆」外著多数、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[笑ゑの眉ひらきて人のことぶくは花の春立つしるしなりけり](大江戸倭歌;3立春)、
[利保(;)名)の幼名/字/号]幼名;啓太郎、字;伯衡、
号;益斎/自知館/自知春館/万香/万香亭/万公亭/弁物舎/恋花圃/恋花亭/知春館、
清薫/在樹/千歳、法号;竜沢院
- T3163 **利安**(としやす・斎藤さいとう、通称;千之助/万九郎/次郎右衛門)?-? 江後期;幕臣、歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[賤のをかくぼたの稲をかけて干すあぜのぬるては色付きにけり](大江戸倭歌;秋1019)
- W3162 **老安**(としやす・宮島みやじま/本姓;藤原、通称;貞吉) 1810-34 早世 25 越後蒲原郡の国学者;平田篤胤門、則寿のりひさ(老通)の弟
- U3199 **考保**(としやす・北村きたむら、) 1825-1896 72 近江大津の米商、国学/歌人;[鴉のうみ]入、
[考保(;)名)の通称/号]通称;兵助/木屋兵右衛門、号;花実/瓢三
利安(としやす・前田) → 重熙(しげひろ・前田/菅原、藩主/歌人) S 2 1 4 6
利安(としやす・安藤/中井) → 酔亭(すいてい・中井、心学者) E 2 3 8 6
俊安(としやす・坊城) → 俊清(としくよ・坊城ほうじょう、廷臣/日記) M 3 1 3 2
登守(としやす・高島) → 清矣(きよなり・高島たかしま/一井、藩士) U 1 6 6 2
- 03103 **斗洲**(としゅう) ? - ? 江中期俳人;1772几董「其雪影」2句入、
[しぐるゝや置きかへて行くにはたずみ](其雪影;巻尾396/にはたずみは水たまり)
- 03104 **兎舟**(としゅう) ? - ? 江中期俳人;1776樗良「俳諧月の夜」1句入、
[白浜に玉藻ひろはむ月今宵](月の夜;21)
- 03105 **登舟**(としゅう・閑鷗舎) ? - ? 江戸の俳人;1783維駒これま「五車反古ごしゃほうぐ」1句入
[よく見れば朝露持ちぬ夏の草](五車反古;巻首197)
- 03106 **斗周**(としゅう・仙子園;号)? - ? 1789頃存70歳 江中期豊後杵築の俳人、「尚齒帖」編
- 03107 **杜鷲**(としゅう・北国きたぐに/北村きたむら、北国卯兵衛男) 1781-1852 72 大阪堂島の米穀商、1802江戸麹町住;万屋五兵衛と称す、諸国を俳諧行脚、1821京四条橋東に住、1827剃髪:北村庵ほくそんあん土鳥と号す/1831改号;杜鷲、京麩屋町四条南に旅籠北村庵開業、1835「俳諧浮葉集」/37「あけやすき」編、39-48「としこと集」編(4回)/43・45「類題年毎集」編、
[杜鷲(;)号)の通称/別号]通称;万屋よつや五左衛門/五兵衛、別号;北村庵/土鳥
- 03108 **斗徒**(としゅう) ? - ? 伊勢の俳人;1694芭蕉門、98「続猿蓑」2句入、

[山雀やまがらのどこやらに啼く霜の稲] (続猿蓑; 下/晩秋山里の朝; 早霜の稲と山雀)

- 03109 兎十(としゅう・野村のむら、通称; 与三右衛門よそえもん) ?-? 江中期筑前久留米の俳人: 秋虎門、
1785「夕日影」編/1810刊「柴の戸」編
杜十(杜什としゅう・慶徳) → 麦浪(ばくろう・中川、俳人) E 3 6 1 8
兎什(としゅう・並木) → 一叟(いっそう・飛鳥園2世、俳人) B 1 1 5 6
- 3151 敏行(としゆき・藤原ふじわら、富士麻呂男) ?-901or907没 母; 紀名虎女、平安前期廷臣; 少内記/大内記、
895蔵人頭/897右兵衛督/従四上、能書家; 892渤海国への勅書/神護寺鐘銘/屏風絵など、
歌人; 家集「敏行集」、893仁和二宮[是貞親王家]歌合・寛平御時后宮[班子女王]歌合参加、
逸話: 江談・今昔物語等に入、伊衡の父、和漢朗詠集・新撰朗詠集・秋風集・雲葉集等に入集、
勅撰28首; 古今(19首169/197/218/228以下)後撰(1/110/7951126)続古(961)玉葉以下、
[秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる](古今; 秋169)
[住の江の岸による波よるさへや夢の通ひ路人目よくらむ](古今; 恋559)、
- 03110 利行(としゆき・齋藤さいとう、基行男/本姓: 藤原) ?-1326 鎌倉期武家: 左衛門尉/兵衛尉、武家歌人、
勅撰3首; 玉葉2383(1311北条貞時没後の詠)/続千載1394/1871、娘も歌人(藤葉集入)、
[おなじ世のめぐみたえぬと歎きしにあとまで残るなさをぞ聞く](玉葉2383)
[利行(; 名)の通称] 太郎左衛門尉門たろうざえもんじょう
- 03111 俊之(としゆき・山内やまのうち) 1562-1628 67 会津滝谷岩谷城主山内家の長男、
1599上杉景勝の会津入封に伴い地方支配の大割元を任; 滝谷村周辺120余村の支配役、
村内に鉛鉱床を発見; 採掘、「会津四家合全」著
- W3152 利往(としゆき・三浦みづら、通称; 順庵) 1690-1762 73 長門萩の藩主侍医、歌人、
養子; 利忠としたり(1751-1830/侍医を嗣)、
[君となし友とちぎりて世の中のうき事しらぬ窓の呉竹]([萩の歌人]入)
- 03112 利往(としゆき・土井どい、通称; 定次郎/主税ちから、利意としもと男) 1754-? 1799存 母; 大屋信行女、
代々幕臣; 祖父利道の時柴山を土井に改姓、1778御書院番士/90本丸勤務; 家督相続、
故実家、「故実名義」「故実秘抄」「麻々伎考」「弓術或問」「差矢問答」、「今川家射儀抄」編、
1795「故実目安」「武射器制」「産所墓目鳴弦式」/99「弓矢進退記」外著多数、
- 03113 敏行(としゆき・古原こはら、通称; 三平) 1777-1841 65 豊後杵築藩士、和算; 二宮兼善門、
1806藩計吏に登用される、田中勝成・藤田子影門、「交会術」「角術演段門」「雑門解」著、
1813「立円積率」30「塵跡弧解」、「変商式数解」著、「互約術」「混沌招差」「約術」「分果術」編
- T3155 俊行(としゆき・山内やまうち、通称; 仁左衛門) ?-? 江後期; 歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[松かげを流るる水のみなかみや今こん秋のすみかならまし]、
(大江戸倭歌; 夏632/松下泉)
- T3170 利行(としゆき・山田やまだ/本姓: 源) ?-? 江後期; 歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[軒端もる月も枕にやどる夜は山風寒く身にぞしみける](大江戸倭歌; 冬1340)
- 03114 敏行(としゆき・武部たけべ、字; 子訥) ?-? 江末期越中砺波郡の十村の庄屋/農政に精通、
1846「五十嵐五考補遺」、60「利常公御夜話」編/62「微妙公御夜話補」編(微妙公は前田利常)、
1865「瑞泉寺記考拠」、「王制租税考」「御改作始末聞書」「御改作始末聞書追加」「農政記聞」著
利行(としゆき・渡辺/齋藤) → 弥久馬(やくま・渡辺/齋藤、藩士/日記) 4 5 5 1
利之(としゆき・前田) → 正甫(まさとし・前田/松平/菅原、藩主) E 4 0 4 5
俊之(としゆき・石川) → 流宣(ともぬぶ・石川、画/俳/浮草子) Q 3 1 1 9
敏行(としゆき・梅園うめぞの) → 直雨(ちよくう・梅園、儒/天文暦数) K 2 8 2 4
- X3120 利行女(としゆきのむすめ・齋藤さいとう/本姓藤原) ?-? 南北期; 歌人、1345刊[藤葉とよ集]入、
[ことのはを猶やたのまん偽にまじるまことのありもこそすれ](藤葉; 恋490)
杜俊(杜駿としゅん・金子) → 杜俊(杜駿もりとし・金子かねこ/橘たちばな、国学者) F 4 4 9 6
- 03115 利世(としよ/としつぐ・久保くぼ/本姓: 藤原、利亮男) 1571-1640 70 大和奈良春日神社の禰宜、
茶人: 本住坊宗和門、室町末期の茶の湯や名物道具に精通、
奈良郊外の野田村に住/松花堂昭乗・佐河田昌俊・小堀遠州と親交、
俊乗坊重源ちようげんの影堂の古材で茶室建設; [長閨堂]と称す、1640茶道書「長閨堂記」著、

[振舞はごまめの汁にえびなます 亭主給仕をすればすむなり](長闇堂記)、
[利世(；名)の通称/号]通称；権太輔ごんだゆう、号；長闇子/長闇堂/七尺堂

- W3151 **俊世**(としよ・万波まんなみ) 1836-1903 68 備前和気郡の国学者、歌；藤原忠朝門、
国学・歌；中村良顕よしあき門
- 03116 **兎城**(とじょう・篠崎しのざき、通称；新助) 1662-1730 69 筑前朝倉郡杷木の庄屋、
俳人；西国・素閑・野坡門、惟然・丈草・孟遠らと交流、
1729「門鳴子かどなるこ」編(自序/洒堂跋)、追善集「初陽炎集」、
[兎城(；号)の別号] 岩国がんこく/蘭舟軒/閑夕/藪家散人そうかさんじん
- 03117 **兎丈**(とじょう) ? - ? 江中期俳人；1776樗良「月の夜」1句入、
[行き違ふ人もさびしき秋のくれ](月の夜；86)
- 03118 **吐丈**(とじょう；号) 1758 - 1829 72 信濃の浄土僧；埴科郡宗安寺・長福寺住職、
1795埴科郡屋代の生蓮寺17世、俳人；天姥てんぼ門、一茶・柳莊・士朗と交流、
1802「於保無可之」編/07「俳諧十二月」「俳諧春夏秋冬」著、
[吐丈(；号)の別号/法諱]別号；円志/六不庵、法諱；隆苗りゅうみょう/闡せん与よ
- 03119 **俊賀**(としよ・財部たからべ、通称；三郎右衛門尉) ?-? 室町期周防山口の武家、大内政弘の家臣？、
1481周防滞在の宗祇を迎え連歌会催；「文明十三年二月二十四日宗祇俊賀等何船百韻」
- T3175 **利和**(としよ・前田まえだ、6代藩主武宣3男) 1791-1839 49 母；貞光院、上野七日市藩藩主利以の養嗣、
1808(文化5)利以隠居(鶴心齋宗啓)；上野七日市藩第10代藩主襲封/七日市藩前田家10代、
従五位下/大和守、1809(文化6)駿府城警護、利以(鶴心齋)は隠居後も藩政掌握し贅沢生活、
利以の奢侈で藩財政逼迫；利以と利和との軋轢；本家加賀藩の怒りで藩主の本家出入禁止、
1812(文化9御用人格)須藤岡之進夫婦が仲介のため遺書を残し切腹；本家との関係修復、
財政の逼迫は人口減少・税収減等の誘因/1816生育講を創設し貧民救済・育児手当支給、
1820大坂城の警護、儉約令を出し財政再建を目指すが1821大旱魃、
1828贅沢を続ける利以の死まで財政逼迫が続く、1836(天保7)藩祖利孝二百年忌を催；
御宝塔を建立、正室；岩城隆恕女(恵照院)/継室；南部信鄰女、養子前田利豁が家督嗣、
歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[いたづらに逢はでふるやのむら時雨もらぬ夜どこも袖はぬれつつ]、
(大江戸倭歌；恋1530/寄時雨恋)、
[利和(；名)の幼名/別名/通称/法号]幼名；松之助、別名；孝恒、通称；隼人、法号；碧譚院
- T3184 **俊良**(としよ・) ? - ? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、平部嶠南きょうなん、名；俊良、日向儒者/1815-90)と同一？、
[須磨の浦にかよふしるしの舟けぶりもえて幾夜を待ちあかすらん]、
(大江戸倭歌；恋1426/連夜待恋)
- 03120 **俊良**(としよ・北小路きたのこうじ、俊徳男/本姓；大江) 1834-? 1854 存 廷臣；近衛家諸大夫/備中守、
1854五位上、詩人；「大江俊良詩稿」/1848-54頃「北小路俊良懐紙集」著
- T3192 **俊嘉**(俊義としよ・岡本おかもと、寿麿ひさまろ男) 1836-1912 77 美作勝田郡和気郷高比野神社神主、
歌人；賀茂季鷹・平賀元義・宇都宮大潔門、
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入；父と共に入集、
[俊嘉(；名)の通称]通称；和泉守/近江守
- 03121 **雋吉**(としよ・伊藤いとう、別名；雋、勝介男) 1840-1921 82 丹後舞鶴藩士/和算・航海術；内田弥太郎門、
砲術；江川太郎左衛門門/藩命で村田蔵六塾入門、のち日清戦争で功；海軍中将、
「三哲累円術」編、「鄙解」、1865「新訳弧三角術余考補」著、
[雋吉(；名)の通称/号]通称；一介、号；橘庵
- T3100 **俊美**(としよ・高橋たかはし、俊壽としひさ男/本姓；藤原) 1840-? 母；源宗明女、江後期廷臣；鷹司諸大夫、
1848佐渡守/従五下、「御用召ニ付東向一件」著
- U3149 **祀善**(としよ・大口おおくち) 1844-1925 82 京の中山家諸大夫/のち近江多賀大社社司、
「多賀神社縁起考抄」著
- 利義(としよ・前田) → 正甫(まさと)・前田/松平/菅原、藩主) E 4 0 4 5
利義(としよ・南部) → 利義(としよ・南部なんぶ、藩主) N 3 1 0 6
利義(としよ・土井) → 利義(としよ・土井どい、藩主/詩/俳諧) N 3 1 3 5

- 利義(としよ・森川) → 利義(としよ・森川もりかわ、歌人) T 3 1 4 0
 利義(としよ・今井) → 直方(なおかた・今井、和算家) B 3 2 0 0
 利義(としよ・飯田) → 鷹鷹(ようえん・飯田いいだ、俳人) K 4 7 2 5
 俊良(俊了としよ・寺村) → 泰壽(やすひさ・寺村てらむら、医者/歌人) G 4 5 2 9
- 3152 俊頼(としよ・源みなもと;宇多流、法名;能貧、経信男)1055?-1129 75? 母;源貞亮さだすけ女(土佐内侍)、一時橘俊綱の猶子、廷臣;左京大夫/1105従四上木工頭/1111致仕、歌人;中古六歌仙の1、堀河朝歌壇を主導/革新派;父の新風を発展、1124-27白河院の院宣で「金葉集」撰進、歌学「俊頼髓脳」著、家集「散木奇歌集」「田上たなかみ集」、「十二仏歌」著、1096高陽院七番歌合参加、堀河院百首参画、判者;1104俊忠歌合/05無名歌合/09師頼家歌合/18内大臣家歌合(2度)/22無動寺歌合、1126撰政左大臣家歌合判者、後葉・続詞花(10首)・御裳濯・万代・秋風・雲葉集(18首)等入、勅撰約210首;金葉(Ⅱ35首16/50/59/92以下、Ⅲ27首/解17首)詞花(11首26/38以下)、千載(52首1/7/14以下)新古(11首)新勅(13首)続後撰(3首)続古(14首)続拾(5首)以下、[憂かりける人を初瀬のやまおろしよはげしかれとは祈らぬものを](千載708)筆筆を奏す楽人でもある、妻;藤原敦隆女、俊重・俊恵しゅんえ・待賢門院新少将の父、
 父 → 経信(つねのぶ・源、廷臣/詩歌/管絃) 2 9 1 1
 母 → 土佐内侍(とさのないし、歌人) L 3 1 8 2
- 03122 利和(としよ/としまさ・巨勢せせ、松平信直男)1767-1834 68 母;松平光雄女、巨勢至親の養嗣;1786家督、幕臣/従五下/日向守;5千石、1789御使番/火事場見廻/小普請組支配/御書院番頭/御側衆、歌人;加藤千蔭門、清水浜臣と交友、「椿園詠草」「有職画集覧」「東海道旅中覚書」著、1822「宇津保物語新治」23「柳宮御遊記」著、「巨勢記録」「巨勢日記」編、外多数、歌;1814堀田正敦催「詠源氏物語和歌」入、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、[向むかつをの上野の奥の杉むらを過ぎがてに鳴くほととぎすかな](大江戸倭歌;夏479)、[利和(;名)の通称/号]通称;幸十郎/縫殿助ぬいすけ/六左衛門、号;椿園、法号;天桜院
 兔次郎(とじろう・葛目) → 朝風(あさかぜ・葛目くずめ、藩士/国学者) C 1 0 6 7
- 03123 都真(としん・青簞舎せいせんしゃ、米都男)?-? 狂歌、1783-87貞柳「狂歌鳩杖集」刊
 土津公(としんこう/土津神君) → 正之(まさゆき・保科、藩主/幕政/歌) I 4 0 1 9
 都塵舎(とじんしゃ) → 雲峰(うんぼう・居初いそめ、俳人/戯作) B 1 2 2 2
 土心水師(としんすいし) → 堅慧(けんえ・けんね;法諱、真言僧) H 1 8 8 1
 土津霊社(としんれいしゃ;神号) → 正之(まさゆき・保科、藩主/幕政/歌) I 4 0 1 9
 利安(としやす・安藤/中井) → 醉亭(すいてい・中井、心学者) E 2 3 8 6
 菟次郎(とじろう/つじろう・岡本) → 宣忠(のぶただ・岡本おかもと、商家/歌人) H 3 5 8 4
- 03124 都水(とすい) ? - ? 江初期京の俳人;風水門、
 1691「風水塵ふうすいぢり」編(師風水の資料)、1691江水「元禄百人一句」/1702轍士「花見車」入、[くるゝ日に人は欲なき月見哉](花見車;四153/昼間は欲で動くが月見は無心)
- 03125 斗醉(とすい・伊東、別号;幾夜庵)?-1803 肥前長崎の行脚俳人/1772頃上洛;美角・定雅と交流、関東へ行脚/1795頃近江水口住、1776「春興」/96「はるの吟」/98「こそこのしほり」編、1774美角「ゑぼし桶」入/76樗良「誹諧月の夜」入/77江涯「仮日記」14句入、[さればこそ我より先に花見人はなみひと](仮日記;86/さればこそは予想通りやはり)
- 03126 杜水(とすい、号;棋園ばいえん、通称;鎌田屋幸八)?-? 遠江目附の俳人、1804「あられ灰」編
 兔水(とすい・浅野) → 清左衛門(せいざえもん・浅野あさの、文筆家) I 2 4 4 0
- 03127 怒誰(どすい・高橋たかはし、名;喜兵衛/条助、曲水の実弟)?-? 近江膳所藩士/俳人;芭蕉門、1690珍碩「ひさご」6吟歌仙;6句入、1691去来ら「猿蓑」1句・94野坡ら「炭俵」1句入、1692車庸「己が光」1725支考「三千化さんぜんげ」入、[顔かんばせや葎むらの中の花うつぎ](猿蓑;六/顔は芭蕉/在庵中の師の世話をした)
 奴睡(どすい) → 奴睡(ぬすい、俳人) 3 4 1 0
 兔睡堂(とすいどう) → 立詠(りゅうえい・松井まつい、俳人) C 4 9 8 4
 戸枢庵(とすうあん) → 了雨(りょうう・吉田よしだ、俳人) G 4 9 2 7
 鳥栖寺僧都(とすでのそうず) → 貞崇(じょうすう;法諱、真言醍醐寺座主) K 2 2 1 8
 とせ(・中島) → 歌子(うたこ・中島なかじま/林、歌人) E 1 2 8 0

- 都盛(とせい・河辺) → 都盛(くにもり・河辺かわべ、神職) D 1 7 2 8
 土盛(どせい) → 三笑(さんしょう・金井、歌伎作者) 2 0 5 2
- 03128 兎夕(とせき;号、法諱;嶺雲れいうん)?-1784 出羽の禅僧/俳人;支考・兎土門、全国行脚、
 1759「傘の雪」編/73筑那珂郡住吉村の無耳庵に入/80筑前宝山精舎で支考50回忌法要、
 1781「無耳庵句集」、83芭蕉90回忌百韻興行、「養老石集」「続枯尾花集」「誹諧物よろこび」編、
 追善集「薫風集」、座朝・三考・披雲らの師、
 [兎夕(;号)の別号] 無耳庵/風羅堂/至元坊/桐橋庵
- 03129 斗昔(とせき・深沢ふかざわ、十知[十雉]じゅうち男)1728-1802?75 羽前鶴岡の俳人;父門、
 1761父一周忌追善集「春の雪」編、
 [斗昔(;号)の通称/別号]通称;与兵衛、別号;古柵園こしゅうえん、 法号;視誉孝栄居士
- 03130 とせ子(東世子とせこ・橘/旧姓;河合、橘冬照の妻)1806-82?77 歌人;橘守部門、
 夫の遺稿集「椎能故夜提いのこやで」下巻に長短歌294首入、「明治歌集」撰、
 夫 → 冬照(ふゆてる・橘たちばな、国学者/歌人) E 3 8 3 1
- T3111 吐拙(とせつ) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [礎きぬたやみて幼き琴の小亭哉](丁卯集;琴/亭は旅籠)
- 03131 都雪(とせつ・三上みかみ) ? - ? 京新町三条上ル住の俳人;「遠眼鏡」入、
 1690言水「新撰都曲」4句/92助叟「俳諧新始ちようなはじめ」入、
 [撰待せつたいや卒塔婆の中の一烟ひつけわり](お盆で撰待の湯茶をふるまう・新仏にも釜の烟が)
- 03132 斗拙(とせつ) ? - ? 尾張藩士/俳人;暁台門、望南舎連中、1776頃江戸住、
 1768暁台門「秋の日」歌仙参加;5句入、1774美門「ゑぼし桶」/76几董「続明鳥」入、
 [木枯しにきつとむかふや鹿の角](ゑぼし桶;97)
- 03133 吐屑(とせつ・木下堂) ? - ? 江中期江戸の俳人;雑俳点者、風車と交流、
 1777刊「芝さかな」撰
- 03134 斗雪(とせつ・入江いりえ、別号;五章堂/弄時庵)?-? 江後期京の俳人;嘯山門、
 1794「井出玉川」編/1807「花の杖」編
- 杜雪(とせつ・塚田) → 与右衛門(よえもん・塚田つかだ、蚕種家/俳人) B 4 7 6 8
 兎雪(とせつ・岩田) → 双飛(そうひ・岩田いわた、俳人) C 2 5 8 0
 吐屑庵(とせつあん、度雪庵) → 慈延(じえん・大愚、天台僧/和学/歌) 2 1 0 5
 杜川(とせん・須藤) → 恵典(よしのり・須藤すどう/松村、商家/国学) N 4 7 3 8
 渡船(とせん) → 底阿(ていあ;法諱、時宗僧;8世遊行上人) 3 0 2 0
 斗瞻(とせん・高/深見) → 玄岱(げんたい・深見/高こう、儒/書家) E 1 8 3 4
 吐仙(とせん・堀) → 麦水(むくすい・堀ほり、医/俳人) 3 6 0 9
 徒然庵(とぜんあん・つれづれあん) → 祐海(ゆうかい;法諱、僧/歌人) 4 6 9 7
 徒然庵(とぜんあん・つれづれあん) → 宗耄(そうてつ・木村きむら、庄屋/国学) I 2 5 5 6
 徒然庵(とぜんあん・つれづれあん) → 光精(みつきよ・丹下たんげ、歌人) I 4 1 5 8
 斗善一(とぜんいち・山田) → 斗善一(とよいち・山田検校、箏曲家) R 3 1 0 5
- 03135 兎足(とそく) ? - ? 京の俳人;巴人門?、几圭の友人、
 1732巴人「卯花千句」参、72几董「其雪影」1句入
 [春喰ふた草にてあつき垣根哉](其雪影;276/春の七草も夏は暑苦しい雑草)
 兜率僧都(とそつのおうず) → 覚超(かくちょう;法諱、天台僧) B 1 5 6 8
- 03136 斗樽堂主人(とそんどうしゅじん)?- ? 1757洒落本「新月花余情しんげつかよじょう」序:作者か?
- 03137 図大(とだい・花隈はなぐま、別号;新樹庵/多少たしょう)?-? 江中期江戸俳人;上洛;太祇門、
 其角座存義側、1754竹翁「誹諧童の的」点句入/69太祇/嘯山ら「平安二十歌仙」入、
 のち[多少]に改号、1772几董「其雪影」73「明鳥」76董「続明鳥」入、
 1773五雲「石の月」(太祇3回忌追善集)序[:「その秋」所収]、83維駒「五車反古」入
 [上手ほど罪恐しき鶺鴒かな](続明鳥;甲255/多少号)
- 戸太夫(とだゆう・広岡) → 宗瑞(2世そうずい・広岡/菅、藩士/俳人) I 2 5 1 2
 都太郎(とたろう・松平) → 頼胤(よりたね・松平まつだいら、藩主/幕政) P 4 7 2 4
 斗瞻(とたん・高/深見) → 玄岱(元泰げんたい・深見ふかみ/高こう、儒/書家) E 1 8 3 4
 とぢ(とぢ・今木) → とぢ(とぢ・今木いまき/森本、歌人) U 3 1 2 7

- 析舎(とちのや) → 句仏(くぶつ・三谷、研師俳人) D 1 7 3 9
 十千万亭(とちまてい・鶴亀) → 鶴亀十千万亭(つるかめのとちまてい、狂歌) E 2 9 7 7
 堵中子(とちゅうし) → 東潮(とうちゅう・和田わだ、武士/俳人) G 3 1 4 4
- 03138 **杜蝶**(とちゅう・尚古堂) ? - ?1820頃没 大阪の生/江戸の狂句作者;2世川柳門、
 1810頃の2世川柳の句会に参加、1811「如雀・箕山・未学追悼」の評者、素行堂松鱸しょうろの師、
 3世川柳の嗣号の会で選者/1818眠亭賤丸催「五霊追善会」6人選者の1(柳多留七八)、
 1822「溜池茶店額面」奉納の催主(扇朝と)、[文王は菊て武王は葵也](柳多留六一)
- 03139 **都蝶**(とちゅう・石野いし、通称;宗福、別号;翁坊[翁家]楽丸)?-? 江後期江戸湯島天神女坂の住人、
 落語:2世三笑亭可楽門、四つ竹の名人、1831「大仏柱」著
- 土鳥(とちゅう・北村庵) → 杜鷺(としゅう・北国/北村、商家/俳人) O 3 1 0 7
 訥(とつ・青木) → 東山(とうざん・青木、儒者/詩) E 3 1 6 4
 訥(とつ・大木/坪井) → 芳州(ほうしゅう・坪井つばい/大木、医者) B 3 9 5 6
- 03140 **訥庵**(とつあん・陶山すやま、名;以直・存ながらう、玄育[拙斎]男)1657-173276 代々対馬藩士;儒医、
 儒:木下順庵門;室鳩巢と共に木門の賢と並称、1674藩に出仕/79家督;馬廻/家業の医業、
 1690医を廃し農政をもって出仕/1699郡奉行/竹島帰属問題を解決;朝鮮に使5回、
 農政では窮民救済等により対馬聖人の称を得る、賀島怨軒・雨森芳洲と親交、
 「大意録」「竹島文談」「訥庵詩文稿」「訥庵雜藁」「詠学歌」「詠学歌続」「詠学詩」「論語鈔記」、
 1698「水屋荒瀬境川記録」1699・1727「津島紀略」、1721「潜商議論」22「老農類語」編、
 1726「伊奈郷農事録」27「農書輯略」、29「食兵宗旨」「食兵宗旨続録」、32「足食談」外著多数、
 [訥庵(;号)の字/通称/別号]字;士通、通称;五一郎/庄右衛門、
 別号;鈍翁/西丘老夫/海隅生
- 03141 **訥庵**(とつあん・大橋おおはし/酒井、名;正順、兵学者清水赤城男)1816-62獄死47 江戸飯田町の生、
 1829信州飯山藩士酒井義重の養子、儒者;1835江戸の佐藤一斎門、養家と離縁し旧姓、
 1841江戸の豪商大橋淡雅の女婿、宇都宮藩士;藩主の侍講/江戸に思誠塾を開、
 朱子学/詩人、尊攘派で王政復古を企画;1862坂下門事件連座投獄;病死、「訥庵詩抄」、
 1852「關邪小言」/53「隣疝臆議」「元寇紀略」/60「恐惶神論」、「政權恢復秘策」「財用説」、
 「大橋訥庵先生詩集・文集」「訥庵遺稿」「訥庵遺文」外著多数、妻;大橋淡雅女の卷子、
 [訥庵(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;亀蔵、字;周道、
 通称;順蔵/安本屋良介/梅/梅隠/竜岡/玄竜、別号;曲洲/承天/屠竜居士/順周
- 参考 → 卷子(槇子まきこ・大橋、歌人) 4 0 5 9
 訥庵(とつあん;号) → 法樹(ほうじゅ;法諱・智幢;字、真言僧) B 3 9 3 2
 訥翁(とつおう・狩野) → 宗朴(初代そげぼく・狩野かろう、茶人/鑑定) K 2 5 8 7
 訥翁(とつおう・天野) → 重国(しげくに・天野あまの、歌人) N 2 1 2 0
 凸凹斎(とつおうさい) → 政行(まさゆき・三島、幕臣/地誌家) I 4 0 3 0
 凸凹堂(とつおうどう) → 伊三郎(いさぶろう・中屋/中、蘭学/銅版画) F 1 1 5 0
- 得閑斎三大人(とつかんさいさんうし)・・・京の同号の3人の狂歌作者(得閑斎繁雅・茂喬・砂長)
- 03142 ①**得閑斎**(初世とつかんさい・山田やまだ)1748-181366 京堺町筋錦小路の狂歌作者;九如館鈍永門、
 得閑斎三大人の1、1796「興歌かひあはせ」1800「狂歌かひこの鳥」「はさくら集」編、
 1807「狂歌芦の若葉」/09「狂歌みちづれ」/11「狂歌紅葉集」/19「面迎計百人一首」編、
 「六々狂歌撰」「狂歌野中の水」編、
 [得閑斎初世(;号)の名/通称/別号]名;繁雅しげまさ、通称;太右衛門、別号;以閑
- ②得閑斎(2世とつかんさい・茂喬)→茂喬(しげたか・文屋ぶんや、得閑斎三大人の1/書肆/狂歌) C 2 1 3 2
- 03143 ③**得閑斎**(3世とつかんさい・砂長さちやう、林はやし、名;久敬)?-? 江後期京錦小路東の狂歌、三大人の1、
 1815「狂歌千種園」16「狂歌絵入春興集」19「面迎計百人一首」/27「つきをともし」編、
 [得閑斎3世(;号)の通称/別号]通称;八兵衛、別号;為山軒/砂長さちやう/魚の屋初世、
 魚の屋二世砂兄の父
- 03144 **独吼**(どく;道号・性獅しょうし;法諱、俗姓;朱)1624-8865 福建福州府鎮東衛の黄檗僧;隠元門、
 1654隠元隆琦と長崎に渡来;以後も随従、1661万福寺入/71万福寺内に漢松院を創建、
 1677「五雲集」「五雲別集」、「独吼禅師語録」著、
 [独吼性獅の初号諱] 道号;秀峰、法諱;性一

- 03145 **独見**(どっけん) ? - ? 江前期俳人;1690不角「二葉之松」入(260)
 [丸腰といはれじ笛をさす涼ずみ](二葉之松;260/前句;世は忽ゆるがせに成って住みよき)
 (刀の代わりに笛を腰に差し涼みに行く;規則はゆるい方がよい)
- 03146 **訥言**(とつげん・田中たなか、名;敏)1767-182357 尾張の人/幼時に延暦寺の僧;還俗し上京、
 絵師:石田幽汀・土佐光貞門/土佐派の大和絵を修得、1788法橋、土佐光孚(光貞男)の補佐、
 土佐派画風の刷新に関与、故実に通、狂歌を嗜む、1799「閑田耕筆」1804「四方の硯」画、
 1818「色のちぐさ」、「公事十二月月」「戸山庭園之図」画、浮田一蕙・渡辺清の師、
 [訥言(;号)の字/別号]字;虎頭、
 別号;痴翁/大孝斎/過不及子/晦存/求明/得中/大年斎/土佐屋、法号;安祥院
 訥言(とつげん・前野) → 清臣(きよおみ・前野まゑの/竹中、国学/歌) V 1 6 2 0
 訥言斎(とつげんさい) → 黙老(もくろう・木村、家老/儒/随筆) B 4 4 1 4
- 03147 **独航**(どっこう;道号・性安しょうあん;法諱)?-1665 黄檗僧;隠元隆琦/木庵性瑠門、万福寺の初代知客、
 1664黄檗監院/隠元没後木庵の2世住寺に尽力、「雲外集」編/「宗統録」編(没後1669刊)
 読耕園(どっこうえん) → 羅洲(らしゅう・松井、易占家) B 4 8 3 8
- 03148 **読耕斎**(どっこうさい・林はやし、名;守勝/靖、羅山男)1624-6138 京の儒者;;父門/松永貞徳・尺五門、
 1634父に従い江戸住/46幕府儒官/56法眼、「豊臣秀吉譜」「中朝帝王譜」(;父に代わり編修)
 「本朝編年録(のち本朝通鑑)」編集参、1643「日本国事跡考」編/53「癸巳紀行」55「百人一詩」、
 「異国往来」「静廬摘要帖」編/「静廬客談」「聞見録」「考槃余録」「書籍漫題二百首」「八人一筆」、
 「六花汁」「和漢補袞録」/1658「本朝遼史」59「羅山先生行状」、「読耕斎先生全集」外著多数、
 [読耕斎(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;右兵衛、字;子文/彦復、通称;右近、
 別号;函三子/考槃窩/考槃邁/剛訥子/欽哉亭/静廬/甚斎、(剃髪後;)春徳、諡号;貞毅
 鷲峰の弟、晋軒の父
 徳光眞照禅師(どっこうしんしょうぜんじ) → 和溪(わい・宗順、臨濟僧) 5 3 1 8
 独鈷山人(どっこさんじん) → 孟綽(たけひろ・川名かな、儒者/詩人) O 2 6 7 0
 突故亭(とこてい) → 義和(よしまさ・佐竹、藩主/藩政改革) H 4 7 0 9
- 03149 **訥斎**(とつさい・江村むら、名;宗流、剛斎男)1623-7351 京の儒者;父門、伊予宇和島藩儒臣;文学、
 「西游紀行」「東游紀行」「排悶集」著、「后山詩集」校、
 [訥斎(;号)の字/別号]字;若水、別号;節斎
- 03150 **訥斎**(とつさい・沢田さわだ、名;貞三/貞、字;宗堅、春斎男)1624-170784 京儒者;熊沢活所・石川丈山門、
 1665前田綱紀に招聘され金沢藩儒;父子で出仕/85致仕;帰京、菖庵の父、「訥斎集」著、
 「蜻州談苑」「群碎録」「飡英そんい録」「万楼一統」、1669「寛文紀行」71「辛亥東行記」著
- 03151 **訥斎**(とつさい・日下部くさかべ/海江田、名;崇義/通称;連)?-?1841前没 薩摩藩士/小姓組;藩校読師;
 藩情に慷慨し脱藩、本姓日下部を称す、儒者;私塾を開く/水戸藩太田郷校益習館の幹事、
 1796「一日百題」著、妻;水戸榎村喜三郎女、伊三治の父、田中鳴鶴(女婿)が日下部家継嗣
 咄哉(とつさい;号) → 周沢(しゅうたく;法諱・龍湫りゅうしゅう;道号、臨濟僧) I 2 1 0 6
 咄斎(とつさい) → 宗旦(そうたん・千せん、茶人) C 2 5 4 6
 訥斎(とつさい・増田) → 繁徒(しげかつ・増田、儒者) Q 2 1 8 3
 訥斎(とつさい・藤井) → 高豊(たかとよ・藤井/大中臣、神職/歌) M 2 6 5 0
 訥斎(とつさい・江幡) → 春庵(しゅんあん・江幡えばた/田口、藩士/儒/医) 2 1 9 7
 訥斎(とつさい・増田) → 繁徒(しげかつ・増田/別所、幕臣/経学) Q 2 1 8 3
 訥斎(とつさい) → 雪麿(ゆきまる・下溪主人、俳人) F 4 6 6 3
 訥斎(とつさい・水野) → 陸沈(りくちん・水野みずの、藩士/儒/尊王) 4 9 7 9
 訥斎(とつさい・山田) → 惟孝(これたか・山田やまだ、薬舗/絵師/詩) R 1 9 4 8
 訥斎(とつさい・喜早) → 清在(きよあり・喜早そ、神職) N 1 6 0 6
 訥子(とつし、俳人、撰集「置土産」編) → 宗十郎(初世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) 2 5 1 0
 訥子(とつし;俳名) → 宗十郎(2世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 8 8
 訥子(とつし;俳名) → 宗十郎(3世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 8 9
 訥子(とつし;俳名) → 宗十郎(4世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 9 0
 訥子(とつし;俳名) → 宗十郎(5世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 9 1
 トッチリトンの王(とつちりとのおう) → 円馬(えんば・花枝房はなしばう・立川、噺家) C 1 3 2 0

- 訥堂(とつどう) → 竹陰(ちくいん・篠崎/加藤、儒者) C 2 8 5 2
 咄々齋(とつとつさい;号) → 春林(しゅんりん;道号・宗俣;法諱、臨濟僧) M 2 1 1 0
 咄々齋(とつとつさい) → 宗旦(そうたん・千せん、茶人) C 2 5 4 6
 訥夫(とつふ・井岡) → 公毅(こうき・井岡いのおか、医者) I 1 9 2 0
 訥弁(とつべん・沢村) → 宗十郎(5世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 9 1
 独歩庵(初世とつぽあん) → 超波(長巴ちようは・清水、俳人) J 2 8 6 6
 独歩庵(2世とつぽあん) → 買明(ばいめい・交/高橋、俳人) C 3 6 0 8
 独歩庵(3世とつぽあん) → 寛美(かんび・交、買明男、俳人) R 1 5 6 1
 独歩齋鉄仲(とつぽさいてつちゅう) → 次郎(じろう・赤松、武芸者) N 2 2 0 5
 独歩叟(とつぽそう) → 月林(げつりん/がつりん;道号・道皓、臨濟僧) H 1 8 4 1
 とてつも内侍(とてつもない) → とほうも内子(とほうもない、狂歌作者) S 3 1 5 3
 X3134 **とと**(;遊女) ? - ? 平安後期歌人;清輔[続詞花集]入、
 [備中守仲実朝臣(能成男か?) 国へ具してまかれりけるに 思ひ薄くなりて、
 常はひとりのみ侍りけるに月のあかき夜ながめあかして あしたに遣しける、
 数ならぬ身にも心のありがほにひとりも月をながめつるかな](続詞花;恋633)
 忠度(とど→ただり・平) → 忠度(ただり・平たいら、武将/歌人) 2 6 3 1
 登登庵(ととあん・武元) → 登登庵(とうとうあん・武元、儒者/詩) O 3 1 5 2
 都々一[逸]坊(初世とどいつぼう) → 扇歌(せんか・都々一坊、うかれ節祖) E 2 4 9 9
 都々一坊(2世とどいつぼう) → 女雷(めらい、落語/音曲咄) 4 2 0 3
 03153 **兎堂**(とどう・植田うえだ、通称;七三郎) 1758-1818 61 三河吉田藩御用達商の植田義方の養嗣子、
 俳人/古流生花を嗜む、1810「蓼廼穂」編、「弥生の雨」編
 杜堂(とどう・神原) → 友子(ともゆき・神原かんばら、醸造家/歌人) U 3 1 9 0
 渡道(とどう・平尾) → 周竹(2世しゅうちく・平尾、俳人) I 2 1 0 8
 度道(とどう・武内) → 度道(ただみち・武内/竹内、和算家) Q 2 6 8 8
 渡頭一舟子(ととうしっしゅうし) → 庭鐘(ていしょう・都賀つが、医者/唐話/読本) B 3 0 2 0
 度東菜(とどうらい) → 東菜(とうらい・渡辺/渡部/渡、和算家) H 3 1 9 4
 十時庵(とときあん) → 道彦(みちひこ・鈴木、医者/俳人) 4 1 1 5
 都督亞相(ととくあしょう) → 経信(つねのぶ・源、廷臣/詩歌/管絃) 2 9 1 1
 03154 **整**(ととのう・源みなもと、等ひとし男)? - ? 935存 平安期廷臣;従五上撰津守、済わたるの弟、
 歌;後撰427/1022、
 [君恋ふと涙に濡るゝわが袖と秋の紅葉といづれまされり](後撰集;七秋427/血の涙の意)
 魚屋北溪(ととやほっけい) → 北溪(ほっけい・魚屋ととや、魚商/絵師) E 3 9 6 0
 砺波の荒虫(となみのあらむし) → 綾足(あやたり・建部、涼袋、歌/俳/絵/国学) 1 0 2 8
 S3152 **図南女**(となじよ) ? - ? 江戸女流狂歌;1785「後万載集」4首/橘洲「酔竹集」入、
 [町屋早春 元日はまだ春霞たちこめて二日にみせをあけぼのの空]
 砺波荒虫(となみのあらむし) → 綾足(あやたり・建部たけべ、俳/歌/戯作) 1 0 2 8
 V3108 **隣**(となり・倉八くらはち、旧姓;梶原) 1828-1902 75 筑前福岡の神職;1872香椎宮禰宜/73中講義、
 1874権宮司兼権大講義/75香椎宮宮司/80権少教正/87宗像大社宮司
 儒学・歌;石松元啓門/歌;長野種正門、
 [隣(;名)の別名/通称]別名;熊寿/正誼/正隣、通称;誠/権九郎ごんくろう
 03155 **徒南**(となん) ? - ? 江戸の俳人;1686仙化「蛙合かわずあわせ」参加、
 [あまだれの音も煩わらふ蛙哉](蛙合:19)
 03156 **図南**(となん・浅井あさい、名;政直/惟寅、東軒男) 1706-82 77 京医者;父門/1753尾張藩医;父を継嗣、
 医学訓導、本草学;松岡恕庵門、詩文:田中東泉門、墨竹を嗜む、平安四竹の1、「図南文集」、
 1733「告徒録」「黄老二経」/47「砭脇へんきょう録」、「客遊観花記」「腹診法」「経脛捷徑」、
 1778-82「篤敬齋文稿」「図南先生詩集」、「図南雑誌」「浅井先生惟寅発句集」「浅井氏切紙」著、
 [図南(;号)の字/通称/別号]字;夙夜、通称;冬至郎/藤五郎/周北/頼母、
 別号;幹亭/篤敬齋、
 03157 **図南**(となん・劉りゅう/彭城さかき、劉[彭城]素軒男) 1722-56 35 肥前長崎の稽古通事;1738別家を立つ、
 1747致仕/上京;吐血して没、詩人、狂詩文「烈婦七首れつぷひしゅ」著、

- [凶南(；号)の通称/別号]通称;義藤太/儀藤太/武岡多仲、別号;斗南
- 03158 **斗南**(となん・細合ほそあい/修姓;合、名;離/方明、方紀男)1727-1803⁷⁷ 伊勢河曲郡江島の儒者、1741大阪の菅甘谷門/のち清人の考証学を修得、詩人:明和1764-72頃混沌社参加、書家;松花堂流を習熟、京に家塾学半塾を開く/漢学・書を教授、池大雅・高芙蓉と交流、詩文「合子家集」、「神風集」「後神風集」「淡水集」「小南遊草」「青山集」「東遊草」「北遊草」著、1781「小南遊草」85「逝川集」、「斗南書話」「書説統」外著多数、俳人;1776樗良「月の夜」入、上田秋成[[藤簾冊子つづらみ六]に円山応瑞梅の墨画の題言(漢文)入、[斗南(；号)の字/通称/別号]字;麗玉、通称;江嶋屋八郎右[左]衛門、別号;半齋/学半齋、太乙真人/大益居士/白雲山人/華翁、張庵ちやうあんの父
- 03159 **凶南**(となん・山田やまだ、名;正珍、正熙男/本姓;菅原)1749-87³⁹ 代々幕府医官:医;加藤筑水門、儒;山本北山門、本草;田村藍水門、1764朝鮮使節と筆談;医書を入手、古医方注釈研究、1763「骨度辨誤」64「桑韓筆語」71「天命辨」75「金匱類纂」、「傷寒論集成」「凶南詩鈔」外著多、[凶南(；号)の字/通称/法号]字;玄同、通称;宗俊、法号;傑山宗俊居士
- 03160 **凶南**(となん・端山はやま) ? - ? 江中期大阪舟越町・松屋町の書家、1776「木蘭帖」、[凶南(；号)の字/別号]字;馬潮/子潮、別号;駿台/蘭阜堂
- 03161 **凶南**(となん・鶴飼うかい) ? - ? 江中後期1764-1810頃の書家:江戸の平林惇徳門、京の西洞院住、1766「出放題」1807「凶南和文章」書/09「眞草千字文」書 [凶南(；名)の字/通称/号]字;温卿、通称;五郎左衛門、号;蘇州/盤礴はんぱく舎
- 03162 **斗南**(となん・原はら、名;存之/字;子希/通称;義助)?-? 江後期京の儒者;中井甃庵[1693-1758]門、懷徳堂教授、「斗南稿」「理学發揮」著
- 03163 **斗南**(となん・谷たに、名;立木/立恵りつとく)?-? 江後期播磨赤穂藩医/儒詩;井上金峨[1732-84]門、1819「唐宋元明変体偽集」28「唐詩後選」39「全唐声律論」、「百首如一集」「東海道名勝詩集」、「談唐詩選」「梅花九百集」「詠物三百首」「嗑然こうぜん集」「嗑然余稿」「好好園詩話」、「古事附談」「金匱要略注」「脚氣雜病論」「古今痘瘡論」「静寿館医談」著、「斗南遺書」、[斗南(；号)の字/別号]字;太公、別号;梅花長者
- 03164 **凶南**(となん・越村こしむら、名;深蔵、照清男)1759-1814⁵⁶ 伊勢安濃津代々の医者、蘭学:杉田玄白門、大槻玄沢門/帰郷;蘭方外科医;門人多数、晩年は大和十市郷に移住;蘭方外科を主唱、1812「翁こゝろえ草」「濟世備急撮要十術」著、德基とくき・大輔(2世凶南)の父、[凶南(；号)の字/別号]字;子虚、別号;幽蘭/幽蘭齋

凶南(2世となん・越村)	→	德基(とくき・越村こしむら、凶南男/蘭医)	K 3 1 5 6
凶南(となん・高橋/紀)	→	宗直(むねなお・高橋、国学/故実家)	B 4 2 9 5
凶南(となん・井上)	→	蘭台(らんだい・井上いのうえ、儒者/折衷学)	C 4 8 9 1
凶南(となん・亀田)	→	鵬斎(ほうさい・亀田、儒者/詩/教育)	3 9 5 4
凶南(となん・鎌田)	→	柳泓(りゅうおう・鎌田、医/心学者)	D 4 9 8 0
凶南(となん)	→	太白(たいはく;道号・眞玄、臨濟僧/詩文)	K 2 6 9 6
凶南(となん・小林)	→	風徳(ふうとく・小林こばやし、吸月房/俳人)	3 8 9 7
凶南(となん・加藤)	→	竹亭(ちくてい、加藤/春日、儒者/書)	D 2 8 5 0
凶南(となん・伊藤)	→	蘭腕(らんえん・伊藤いとう、儒者/藩儒)	B 4 8 5 6
凶南(となん・岡井)	→	文皮(ぶんび・岡井/門馬、藩士/儒者)	G 3 8 3 5
斗南(となん・鶴田)	→	皓(あきら・鶴田、儒者/法律家)	E 1 0 2 3
斗南(となん・森脇/玉乃)	→	九華(きゅうか・玉乃たまの/森脇、藩士/儒者)	I 1 6 7 0
渡南(となん・岡田)	→	秀厚(ひであつ・岡田おかだ/田熊、国学/神職)	I 3 7 9 3
斗南軒(となんげ)	→	伽陵(かりょう;字、禅僧/国学者)	U 1 5 0 9
凶南齋(となんさい;号)	→	亮勇(りょうゆう;法諱・義山、曹洞僧)	J 4 9 6 0
凶南亭(となんてい)	→	蘆庵(ろあん・小沢おさわ/平、歌人)	5 2 0 1
十二庵(とにあん)	→	東吹(とうすい・小島屋、俳人)	F 3 1 7 6
斗入(とにゅう)	→	元室(げんしつ・村、俳人)	J 1 8 4 2
土入(とにゅう・石谷)	→	貞清(さだきよ・石谷いしがや、武将)	I 2 0 1 0
刀禰(とね/とねり・広田)	→	助侑(すけなみ・広田ひろた/度会/橋村、神職)	J 2 3 0 8
刀禰(とね・安藤)	→	野雁(ぬかり/のかり・安藤、国学/歌人)	3 4 0 2

- S3195 **利根川**(とねがわ;組連) ? - ? 武蔵八条(八潮)の雑俳の組連、
取次;1740「収月評万句合」48「雲鼓評万句合」入、
取次例;[家賃をば覗きをくれる代に消し](1739万句合/覗き込む代金で帳消し)
利根姫(とねひめ・伊達) → 温子(はるこ・伊達だて/徳川、藩主室) K 3 6 3 5
- W3145 **舍人**(とねり・正木まさき、名;重駕しげゆき、)1649-1724/76 近江彦根藩老、歌:[彦根歌人伝・亀]入、
[舍人(;通称)の号]野草亭、正木次傍つぎかた(1724-99/舍人/一及斎)と同族
- 舍人(とねり・高林) → 方朗(みちあきら・高林、神職/国学) B 4 1 1 1
 舍人(とねり・岩井田) → 昨非(さくひ・岩井田いわいだ、藩士/儒者) H 2 0 2 8
 舍人(とねり・菊池) → 半隠(はんいん・菊池、儒家、耕斎男) H 3 6 2 2
 舍人(とねり・朽木) → 倫綱(ともつな・朽木くつき、藩主) P 3 1 8 3
 舍人(とねり・葛巻/大野木) → 克明(かつあきら・大野木おおのぎ、藩士/記録) N 1 5 2 3
 舍人(とねり・香川) → 琴山(きんざん・香川かがわ、藩家老/詩歌) R 1 6 0 7
 舍人(とねり・久田) → 蘭州(らんしゅう・久田ひさだ、儒者) C 4 8 5 7
 舍人(とねり・榎倉/二見) → 忠知(ただとも・二見ふたみ、神職/連歌) M 2 6 0 6
 舍人(とねり・丸山) → 武雄(たけお・丸山、藩家老/歌/香道) O 2 6 2 9
 舍人(とねり・高林) → 方朗(みちあきら・高林たかばやし、神職/歌人) B 4 1 1 1
 舍人(とねり・正木) → 次傍(つぎかた・正木まさき、藩老/歌人) G 2 9 3 6
 舍人(とねり・岡) → 俊直(としなお・岡おか・藤原、神職/歌人) U 3 1 5 7
 舍人(とねり・馬淵) → 嵐山(らんざん・馬淵まぶち/馬、儒医) C 4 8 3 3
 舍人(とねり・鍋田) → 三善(みつよし・鍋田なべた、藩士/儒者) F 4 1 2 1
 舍人(とねり・渡辺) → 盧舟(ろしゅう・渡辺わたなべ、地役人/俳人) B 5 2 7 0
 舍人(とねり・多賀谷) → 雅広(まさひろ・多賀谷たがや、藩士/歌人) Q 4 0 6 1
 舍人(とねり・河原) → 綱徳(つなりの・河原、藩士/文筆家) B 2 9 2 0
 舍人(とねり・栗田) → 菅麿(すがまろ・木島きじま、歌人) B 2 3 6 5
 舍人(とねり・樺山) → 久舒(ひさのぶ・樺山かばやま、藩士) B 3 7 7 6
 舍人(とねり・古川) → 盛之(もりゆき・古川ふるかわ、神職/勤王家) L 4 4 2 0
 舍人(とねり・高橋) → 光則(みつり・高橋たかはし、神職/国学) J 4 1 6 2
 舍人(とねり・高橋) → 光春(みつはる・高橋たかはし、国学者) J 4 1 6 3
 舍人(とねり・香川) → 景晃(かげあき・香川かがわ、家老/国学/歌) U 1 5 1 1
 舍人(とねり・大高坂) → 南海(なんかい・大高坂おおたかさか/山本、藩士/詩/画) O 3 2 9 4
 舍人(とねり・河津) → 祐之(すけゆき・河津かわづ/船橋、医者/歌) I 2 3 2 8
 舍人(とねり・大野) → 泰珠(やすよし・大野おおの、藩老/歌人) F 4 5 1 7
 舍人(とねり・水野) → 忠一(ただかず・道一・水野みずの/源、幕臣) U 2 6 9 4
 舍人(とねり・今井/鈴木) → 眞年(まとし・鈴木すずき、商家/国学者) J 4 0 9 4
 舍人(とねり・小林) → 眞中(まなか・小林/度会、神職/狂言) J 4 0 9 7
 舍人(とねり・猪熊) → 夏樹(なつき・猪熊いのくま、神職/国学/歌) P 3 2 1 4
- 3154 **舍人親王**(とねりしんのう、天武天皇皇子/母;新田部皇女)676-735/60 695浄広弑の位を受/713一品、
718勅を受け720「日本書紀」30巻と「系図」1巻(散佚)を奏上、731長屋王を窮問、
732知太政官事/薨後贈太政大臣(759皇帝の追号)、万葉3首二117/九1706/二十4294、
[ますらをや片恋せむと嘆けども醜しのますらをなほ恋ひにけり](万葉;相聞117)、
(舍人娘子への贈歌)、
[舍人親王の別称/追号]別称;舍人皇子/皇子舍人、追号;崇道尽敬皇帝すうどうじんけいこうてい、
参考 → 舍人娘子(とねりのいらつめ、女官、万葉歌人) 3 1 5 3
- 3153 **舍人娘子**(とねりのいらつめ/とねりのをとめ)?-? 文武期持統上皇の女官;702上皇の三河行幸に従駕、
舍人親王と乳兄妹か?、万葉集3首;61/118/1636、
[嘆きつつますらををこの恋こふれこそ我が結ふ髪の漬ひちてぬれけれ](万葉;二118)、
(舍人親王の恋の贈歌への返歌/愛されると髪がほどけるといふ俗説があったか)
- 舍人吉年(とねりのきね/-よとし/-えとし) → 吉年(きね・舍人、女官;万葉歌) B 1 6 6 4
 舍人助(とねりのすけ・箕輪) → 重澄(しげすみ・箕輪みのわ、武将/合戦記録) R 2 1 1 3
- 03165 **杜農**(とのう) ? - ? 名古屋の俳人;士朗門

- 登之助(とのすけ・相川) → 景見(かげみ・相川あいかわ、国学/歌人) B 1 5 9 6
 兎之助(とのすけ・望月) → 貞明(さだあき・望月もちづき、藩士/歌人) P 2 0 5 7
 殿肥後(とのひご) → 肥後(ひご・京極前関白家、女房歌人) 3 7 5 1
 S3141 殿野保町(とのほまち) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;377
 [神よ神辛気辛苦の紐とりて淡路結びとなどむすびけん](狂歌才蔵集;+377)
 (辛苦と真紅の紐/淡路結と逢はじ結びを掛ける/神のいたずらで逢えないことだ)
 03166 主殿(とのも・四条宮、四条太皇太后宮寛子[1036-1127]女房)?-? 後冷泉皇后寛子晩年の女房、
 出家、歌人;自撰「主殿集」、風雅集1581、
 [のこりなく思ひすててし世の中にまたをしまるる山の端の月](風雅集;十五1581)
 W3167 主殿(とのも・毛利もより、名;茂しげる、梶原景審かげあきら長男)1827-1907⁸¹ 飛騨大野郡の神職、
 国学;山崎弓雄門、一宮水無瀬神社大宮司4代目;父を嗣、毛利に改姓、
 ☆1773(安永2)農民一揆で山下・森家追放後信濃から梶原家が招聘され大宮司となる、
 家熊(1723-1801)一景直一景審(1798-1872)一毛利茂(主殿)
 主殿(とのも・松平) → 輝綱(てるつな・松平、藩主/兵学/平曲) C 3 0 8 0
 主殿(とのも・伊達) → 村望(むらもち・伊達/三沢、領主/詩文) D 4 2 2 2
 主殿(とのも・藤木) → 生直(なりなお・藤木ふじき、書家) H 3 2 8 4
 主殿(とのも・松木) → 命彦(のりひこ・松木/檜垣、神職) F 3 5 4 5
 主殿(とのも・大伴) → 宣光(のりみつ・大伴おおも、神職/国学) F 3 5 9 0
 主殿(とのも・知久) → 頼中(よりなか・知久ちく、旗本/領主/歌) N 4 7 9 1
 主殿(とのも・田中) → 定賢(さだよし・田中、定格男/幕臣/国学) O 2 0 8 0
 主殿(とのも・日置) → 風水(ふうすい・日置へき/島、神職/俳人) 3 8 8 4
 主殿(とのも・橋村/荒木田) → 久老(ひさおゆ・荒木田/度会、神職/国学) 3 7 0 5
 主殿(とのも・中西) → 弘佐(ひろすけ・中西/度会、神職/歌) G 3 7 1 1
 主殿(とのも・本庄) → 道貫(みちつら・本庄/本荘、藩主/歌) B 4 1 9 1
 主殿(とのも・桂) → 南野(なんや・桂かつら、藩士/儒者) 3 2 4 1
 主殿(とのも・本多) → 政行(まさゆき・本多ほんだ、藩士/記録) I 4 0 2 5
 主殿(とのも・本多) → 政礼(まさり・本多ほんだ、藩士/記録) G 4 0 1 4
 主殿(とのも・狩野) → 探雪(たんせつ・狩野かのう、絵師) T 2 6 9 3
 主殿(とのも・井上) → 鶴洲(かくしゅう・井上のうえ教親、易占家) H 1 5 3 0
 主殿(とのも・小堀) → 政方(まさみち・小堀こぼり/滝田、幕臣) H 4 0 4 1
 主殿(とのも・安藤) → 為実(ためざね・安藤、国学/歌人) G 2 6 8 6
 主殿(とのも・南部) → 政智(まさとも・南部なんぶ/東あずま、家老/歌) E 4 0 7 5
 主殿(とのも・幸田) → 親平(ちかひら・幸田こうだ、幕臣/奉行) B 2 8 7 1
 主殿(とのも・福原) → 元間(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌) C 4 4 8 8
 主殿(とのも・浜田) → 春庵(しゅんあん・浜田はまだ、儒者) 2 1 9 5
 主殿(とのも・並河) → 尚美(ひさよし・並河なみかわ/平、医者/歌) K 3 7 4 8
 主殿(とのも・二見) → 定員(さだかず・二見、神職) G 2 0 8 7
 主殿(とのも・伊東) → 祐春(すけはる・伊東いとう、幕臣/旗本) L 2 3 2 9
 主殿(とのも・寺村) → 成相(しげみ・寺村てらむら、藩士/歌人) S 2 1 7 3
 主殿(とのも・藤堂) → 高菘(たかすけ・藤堂、高嶺男/国学) C 2 6 8 9
 主殿(とのも・矢田部) → 弘岡(ひろおか・矢田部やたべ、神職/国学) I 3 7 3 6
 主殿(とのも・浅野) → 忠(ただす・浅野あさの、藩家老) P 2 6 6 4
 主殿(とのも・太田) → 竹城(ちくじょう・太田おた、藩家老/国学) D 2 8 2 2
 主殿(とのも・山崎) → 勝謙(かつかた・山崎やまざき、藩士/国学) W 1 5 1 0
 主殿(とのも・田村) → 顕寛(あきひろ・田村たむら、旗本寄合/歌) H 1 0 8 9
 主殿(とのも・鈴鹿) → 正路(まさみち・鈴鹿すずか、雑掌/歌人) Q 4 0 3 8
 主殿(とのも・土方) → 雄興(かつおき・土方ひじかた、藩主/歌人) V 1 5 4 9
 主殿(とのも・梅木) → 春堅(はるかた・梅木うめき、神職) J 3 6 7 8
 主殿(とのも・寺部) → 宣光(のぶみつ・寺部てらべ/大伴、神職/歌) G 3 5 4 4
 主殿(とのも・大藪) → 信親(のぶちか・大藪おおやぶ/藤原、神職/国学) H 3 5 7 6

- 主殿(とのも・大藪) → 延親(のぶちか・大藪おおやぶ/香川、神職/国学) H 3 5 7 5
 主殿(とのも・水野) → 忠格(ただのり・水野みずの/松平、藩家老/歌) Z 2 6 7 6
 主殿(とのも・横山) → 永臣(ながおみ・横山よこやま/源/玉田、神道) P 3 2 2 7
 主殿頭(とのものかみ・水野) → 忠通(ただゆき・水野、幕臣/歌人) F 2 6 9 9
 主殿頭(とのものかみ・松平) → 忠侯(ただこれ・松平、藩主/歌) P 2 6 4 5
 主殿助(とのものすけ・松平) → 家忠(いえただ・松平、藩主/日記/連歌) 1 1 3 9
 主殿助(とのものすけ・石野) → 寛氏(ひろうじ・石野いしの、藩士/記録) B 3 7 8 6
 主殿助(とのものすけ・牧田) → 尚常(なおつね・牧田まさた、神職/歌学) O 3 2 7 4
 主殿助(とのものすけ・小野) → 職登(もとより・小野おの/佐伯、官人/歌) J 4 4 4 7
 蠹の室(とのや) → 吉福(よしとみ・小町谷こまちや、農業/国学) M 4 7 8 0
 とは(馬目/岩上) → 登波子(とわこ・岩上、歌人) S 3 1 0 1
 渡白人(とはくひと) → 文晔(ぶんぎょう; 法諱・藁井、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4
 登波子(とはこ・岩上) → 登波子(とわこ・岩上、歌人) S 3 1 0 1
 土橋亭扇好(とはしていせんこう) → 扇好(せんこう・土橋亭、落語) M 2 4 2 6
 土橋亭竜馬(とはしていりょうま) → 竜馬(りょうま・土橋亭、落語) J 4 9 4 6
 鳥羽僧正(とばそうじょう) → 覚猷(かくゆう、天台画僧) 1 5 0 9
 鳥羽僧正(とばそうじょう) → 範俊(はんしゅん; 法諱、真言僧/権僧正) H 3 6 9 6
 鳥羽僧都(とばそうず) → 宗命(しゅうみょう; 法諱、真言僧) Y 2 1 4 2
- 03167 **土髮**(どはつ) ? - ? 江中期俳人; 1772几董「其雪影」1句入、
 [桃おれば皮むくれけり花ながら](其雪影; 265/乱暴に花の枝を折り皮がめくれて無残)
- 03168 **鳥羽天皇**(とばてんのう、名; 宗仁むねひと、堀河天皇第1皇子) 1103-5654 母; 藤原実季女苺子[茨子じし]、
 1107踐祚; 在位1107-23、1129院政、41出家(法名; 空覚)、自子を強引に即位; 保元乱の因、
 後は待賢門院璋子しょうし・高陽院かやいん泰子やすこ・美福門院得子とくし、
 崇徳天皇(実は白河院の子)・後白河天皇・近衛天皇などの父、笛の名手、
 歌人; 歌合・歌会主催; 1114内裏歌合/25鳥羽殿和歌会など、続詞花集・後葉集入、
 勅撰8首; 金葉(30)/千載(582/1052)新古(1221/1465)続千(70/936)続後拾(337)、
 [尋ねつる我をや春も待ちつらん今ぞさかりに匂ひまそける](金葉; 春30、
 白河花見御幸; 保安五1124閏2月12日白河院・鳥羽院・待賢門院の法勝寺・白河院への御幸)
 参考; → 璋子(しょうし・待賢門院) → 泰子(やすこ・高陽院) → 美福門院(びふくもんいん・得子)
 鳥羽法印(とばほういん) → 光室(こうむろ; 法諱、真言醍醐寺僧) L 1 9 2 0
 鳥羽屋里長(とばやりちやう) → 里長(初世りちやう・鳥羽屋、三味線/作曲) B 4 9 5 2
- 03169 **とばりあげの女王**(褰帳女王とばりあげのおおきみ・じょおう/とばりあげの君) ?-? 平安中期歌人、誰か不詳、
 褰帳けんちやうは即位礼・朝賀に、高御座たかみくらの御帳を掲げること; 内親王・女王が当たる。
 藤原伊尹これまさ[924-972]と贈答、新勅撰715;
 [あくるまもひさしてふなるつゆの世はかりにもひとをしらじとぞ思ふ]
 (伊尹[謙徳公]「たとふればつゆも久しき世中にいとかくものを思はずもがな」への返し)
- 度繁(どはん・平) → 度茂(のりしげ・平、廷臣/阿仏尼の養父) E 3 5 6 4
 斗半軒(とはんけん・向井) → 吉重(よししげ・向井むかい、藩士/軍学者) D 4 7 5 9
- 03170 **飛大夫**(とびだゆう) ? - ? 越前猿楽能役者/「望月」作(観世大夫書上); 佐阿彌説あり
 飛兵衛(とびへえ・大坂屋) → 長泰(ながやす・三輪みわ、廻船問屋/地誌) G 3 2 1 7
 土夫(どぶ・島崎) → 土夫(つちお・島崎しまさき、藩士/国学/歌) F 2 9 8 1
- 03171 **怒風**(どふう・高宮たかみや/高岡たかおか、名; 吉重、高岡斜嶺の弟) 1663-174381 大垣藩士/高宮家を継ぐ、
 俳人; 1687芭蕉門、一時京/長崎滞在、「有磯海」「笈日記」など入、「炭俵」/「猿蓑」入
 [団うちは売る侍町さむらひまちのあつさかな](炭俵)
 吐風楼(とふうろう) → 千梅(せんばい・田中、鋳物師/俳人) G 2 4 5 0
- 03172 **飛塵馬蹄**(とぶちりのばてい/とばちりの、上野山六郎右衛門、本姓; 咲山) ?-? 田安家臣; 四谷寺町左門町住、
 狂歌; 橋州門/四谷連の古参、1785「俳優風わざおぎぶり」の会に唐衣連の一員として参加、
 1782橋州「狂歌若葉集」10首/赤良「万載集」4首/85「後万載集」1首/87「才蔵集」2首(48/551)入、
 [夕立や旧ふるき例ためしもありの穴つゝみをくづせ天の川水](才蔵集; 十三551)

- 3155 **斗文**(とぶん・藤本/沢村) ? - ? 江中期享保宝暦1716-57頃江戸の歌舞伎役作者；初め歌舞伎役者；初世沢村宗十郎門、歌舞伎作者；沢村斗文と称す/1737藤本斗文に改称、1738江戸河原崎座で立作者、趣向の巧みさ作詞の工夫に特色；二世津打治兵衛と並称、1736「遊君鎧曾我」九平次と合作、1740「孤東柳」51「初花隅田川」56「呼子鳥印の柳」外多数、[藤本斗文(；通称)の別称] 沢村長作/沢村斗文
- 03173 **斗文**(とぶん) ? - ? 江中期京の俳人；蕪村門、几圭と知友、1772几董「其雪影」4句入/76几董「続明烏」2句/77蕪村「夜半楽」2句入/83維駒「五車反古」入、[羽を干すや小島の松にはなれ鴛をし](五車反古；巻尾470)
斗文(吐蚊とぶん・俳名) → 如臯(3世じょう・瀬川、歌舞伎作者) C 2 2 4 6
土糞(とぶん) → 芭蕉(ばしょう・松尾、俳人) 3 6 1 7
都文園(とぶんえん・木村) → 春雄(はるお・木村きむら、仏画師/歌) K 3 6 0 6
- 03174 **ト平**(戸平とへい・市山) ? - ? 江中期1764-72頃上方歌舞伎立役者/1752脇作者に転向、1755山八「女文字平家物語」56山八「傾城花街蛙さとのかわず」合作
[ト平の別号] 役者初名；伴十郎/万九郎/戸平、作者名；呉石/ト平
登平(とへい・源) → 登平(みちひら・源、歌人) C 4 1 3 4
斗米(とべい・伊藤/斗米庵) → 若冲(じゃくちゅう・伊藤、商家/絵師) G 2 1 3 3
土鼈庵(とべつあん) → 鬼武(おにたけ・感和亭、戯作者) 1 4 2 3
- 03175 **土偏窟**(どへんくつ) ? - ? 狂詩；1839安穴[棕隠]「天保佳話」入
- 3156 **杜芳**(とほう・岸田きしだ/櫻川さくらがわ) ?-1788 江戸芝神明前櫻川三島町の表具師、黄表紙作者・狂歌スキヤ連(狂歌知足振入)、1782「擲討鼻上野」83「絵雙紙年代記」、1783「能時花卉」/84「跡目論嘘実録」「全盛大通記」/85「嘘皮初音鼓」86「平仮名盛通記」、1787「仮名手本不通人蔵」「光茶太平記」/88「敵討南枝花」、「於昔今南楼通臣」外多数、[杜芳(；号)の通称/別号]通称；豊治郎、狂歌号；言葉綾知ことばのあやち、櫻川慈悲成の師
- 03176 **吐鳳**(とほう) ? - ? 江後期俳人：1789素外「一物連歌」跋
登宝(とほう・岡田) → 梅間(ばいかん・岡田おかだ、藩士/俳人) 3 6 8 9
- 3157 **土芳**(とほう/とほう・服部はつとり/初姓；木津きつ、名；保英、木津保何or保好男) 1657-1730 伊賀上野藩士、服部平左衛門の養嗣、内海流槍術をもって出仕/30歳頃致仕、俳人；芭蕉門；芦馬の号、1688結庵蓑虫庵；芭蕉の[蓑虫の音を聞きに来よ草の庵]より命名/89芦馬を土芳に改号、師没後も伊賀蕉門の中心として活躍、「三冊子」「蓑虫庵集」、「蕉翁句集」「蕉翁文集」編、「横よ日記」「庵日記」、1695「雪の五歌仙」編/1730「土芳文稿」、[おもしろう松笠もえよ薄月夜すづくよ](猿蓑；翁[芭蕉]を茅舎[自庵]に宿して)、[あはれなる味あたたまる火桶哉](辞世)、[土芳(；号)の通称/別号]通称；半左衛門、別号；芦馬(；初号)、些中庵/蓑中庵さちゅうあん、蓑虫庵みのむしあん、法号；些中庵浄山土芳居士
土芳(とほう) → 也寥(やりょう・碓花庵、禅師) 4 5 2 9
土芳(とほう・秦) → 蘭汀(らんてい・秦はた、儒者) D 4 8 0 3
- S3153 **とほうも内子**(とほうもない、とてつも内侍) ?-? 江戸女流狂歌作者；堺丁連/1785「後万載集」1首入、[友だちもいまちと待てくれあひの鐘のなるまでみよし野の花](後万載；一春105)
- 03177 **斗墨**(とぼく) ? - ? 江中期俳人；蕉門/1775伊賀の桐雨と交流；1775「俳諧こゝの所」編
土ト(とぼく・原) → 光為(みつため・原はら、庄屋/歌人) K 4 1 1 5
- X3110 **苦雄**(とまお・藤原ふじわら、) ? - ? 江前期；京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]7首入、[すてて今世のうき事を聞きかへつふもとの里の入あひの鐘](麓の塵；雑593)
都末起庵(とまつきあん→つまつきあん) → 文喬(ぶんきょう・村井、俳人) F 3 8 0 3
登満人(とまひと・東船笑) → 東船笑登満人(とうせんしょうとまひと、戯作) G 3 1 2 5
苦屋鴛寝(とまやおうしん) → 小稻(おしね・田中たなか、和漢学者) D 1 4 9 8
土麻呂(とまろ・山田) → 土麻呂(ひじまる/つちまる・山田、万葉歌人) C 3 7 3 4
土麿(とまろ・栗田) → 土満(土麿ひじまる・栗田、岡廼屋、歌人) 3 7 0 7
土麿(とまろ・三神みかみ) → 土麿(ひじまる・三神、医/歌人) C 3 7 3 5
怒麿(とまろ・井伊) → 直容(なおなり・井伊い、藤原、国学) K 3 2 9 7

- 土満(どまん・栗田) → 土満(ひまろ・栗田、神職/国学/歌) 3707
- 03178 **とみ** ? - ? 江中期女流俳人; 春夜楼連、1774美角「ゑぼし桶」入、1777江涯「仮日記」入、[下水したみずのあだに流れて枯柳](ゑぼし桶;56)
- W3113 **富**(とみ・林はやし、別名; 登美、旧姓; 服部) 1759-1826⁶⁸ 尾張海東郡の生、大館民(多美)の姉、国学・歌人; 本居宣長・春庭門(妹と同門)、尾張名古屋の医者林良元の妻、[富(;名)の法号] 法樹院
- W3161 **とみ**(・宮下みやした、) 1781 - 1814³⁴ 信濃伊那郡飯島村名主の宮下正岑まさみねの妻、国学・歌人; 夫(1774-1838/澄月・夢宅門歌人/国学者) 門、正宜まさよし(1797-1859)の父
- W3130 **とみ**(・古庄こしょう/ふるじょう、旧姓; 後藤) 1820-1906⁸⁷ 豊後国東郡姫島の里正古庄家に嫁ぐ、国学・歌人; 物集高世門、[とみ(;名)の初名/号] 初名; 富子、号; 梅廼舎
- 富(とみ・君田/井伊) → 富子(とみこ・井伊い/君田、藩主側室/歌人) U 3 1 0 5
- 富(とみ・伊達) → 徳子(のりこ・伊達だて、玉台院/藩主室) I 3 5 9 2
- 刀美(登美とみ・高島) → 式部(しきぶ・高島たかばたけ/石井/矢部、歌人) B 2 1 5 5
- 03179 **富秋**(とみあき・渡辺わたなべ) 1684-1764⁸¹ 三河宝飯郡御馬湊の船問屋、国学: 平松可然門、古歌/旧記の考証、和算、1723「統叢考」36「三州名所和歌集」「三河国名所和歌集」、1736「三河藻塩草」、「三河国古城墨地理誌」、33回忌追善「算術問答集」(息の統虎とうこ編)、[富秋(;名)の字/通称/号] 字; 頽翁、通称; 久右衛門/要蔵、号; 魯贖ろかい/老竜斎/道寿棣卿(とみあき・和智わち) → 東郊(とうこう・和智、儒者/詩) D 3 1 7 5
- W3122 **富有**(とみあり・福井ふくい、) 1836-1893⁵⁸ 尾張名古屋藩抱え能楽師七代目小鼓方、国学・歌; 伊部い義成門、西尾豊作(教育者)の父、[富有(;名)の初名/通称] 初名; 富保、通称; 五郎吉
- 03180 **富兄**(とみえ・高橋たかはし、富有男) 1825-1914^{長寿90} 加賀金沢藩士/国学; 田中躬之門、1852藩校明倫堂皇学講師、歌人; 幕末金沢歌壇の中心、1851「八幡大神々号辨」著、1860「四十八番歌合」編、67「詠梅二百一首」、「古今類句拾遺」「征夷私言」「結階指掌図説」著、[富兄(;名)の初名/通称/号] 初名; 富季とみすえ、通称; 肇/日理えり、号; 古学舎/梅園、富正の父
- 富重(とみえ・小笠/長岡) → 言子(あやこ・到津いとう、宮司妻/歌人) H 1 0 0 1
- 富右衛門(とみえもん・加藤) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0
- 富右衛門(とみえもん・小島) → 桃魚(とうぎよ・小島、俳人) C 3 1 7 6
- 富右衛門(とみえもん・難波) → 政尹(まさただ・難波なんば、歌人) R 4 0 3 1
- 富吉(とみきち・能美) → 隆庵(りゅうあん・能美のうみ、医者/藩医) C 4 9 6 9
- 富吉(とみきち・熊谷) → 豊澄(とよずみ・熊谷くまがい、藩士/国学) V 3 1 0 6
- 富草屋(富草舎とみくさのや) → 亮澄(すけずみ・石津いしづ、国学/歌人) C 2 3 2 6
- 03181 **富子**(とみこ・日野ひの、政光女、母; 北小路禅尼苗子) 1440-96⁵⁷ 室町期; 1455将軍足利義政の室、1465義尚を出産/将軍義尚の母として権力、義政の弟義視と対立; 1467応仁乱の一因、乱後義尚の権勢確立; 1489義尚は近江鉤の陣で病没/90夫義政も病没、富子は出家; 細川政元と共に義澄(足利政知男)を擁立し義視・義材と対立、諸大名への高利貸で蓄財、勝光の妹、歌/連歌; 1477「七夕歌合」参加、連歌; 新菟玖波14句入、兼良より「小夜寝覚」受く、[心なき海女もや今宵人なみに潮たれ衣ほしにかすらむ](七夕歌合/四番左/前左大臣室)、(ほしは干しと星とを掛ける)、[富子(;名)の号] 号; 妙善院、法号; 妙善院慶山大禅定尼
- U3105 **富子**(とみこ・井伊い、旧姓; 君田) 1770-1819⁵⁰ 近江彦根藩主井伊直中の側室、歌人; 江戸で活動、直弼(藩主/大老)・内藤政義・穠(じゆ/阿波徳島藩主蜂須賀齐昌室)の母、直元の実母か、允姫(繁子/日向延岡藩主内藤政順室)・知(越後高田藩主榊原政養室)・芳(松平忠侯室)の母、[富子(;名)の初名/通称/法号] 初名; 富とみ、通称; お富の方、法号; 要妙院
- W3154 **富子**(とみこ・三沢みさわ、旧姓; 三浦) 1821-1915^{長寿95} 出羽山本郡の生/出羽秋田に住、1890(明治23)歌書「寄松祝」著(古稀の祝に出版)
- V3148 **とみ子**(とみこ・田島たじま、旧姓; 近藤) 1830-1906⁷⁷ 飛騨高山の田島知平ともひらと結婚、国学・歌; 富田節斎(礼彦いやひこ)門(夫と同門)、春園はるぞの(神職)の母
- W3185 **登美子**(とみこ・山田やまだ、旧姓; 矢部/梅田、) 1842-? 若狭小浜生、藩士梅田雲濱うんびん(1815-59)の姪、

京の山田勘解由時章(1834-98青蓮院宮出仕/雲濱門)の妻、
自伝「夕話」並遺詠([梅田雲浜遺稿並伝]入)

富子(刀美子とみこ・石井)→ 式部(しきぶ・高島たかばたけ/石井/矢部、歌人) B 2 1 5 5
富子(とみこ・伊達) → 徳子(のりこ・伊達だて、玉台院/藩主室) I 3 5 9 2
富子(とみこ・猪木) → 伊登(いと・猪木いのき、歌人) J 1 1 8 7
富子(とみこ・古庄) → とみ(・古庄こしょう/ふるじょう/後藤、歌人) W 3 1 3 0
都美子(とみこ・毛利) → 延子(のぶこ・毛利もり、都美姫、藩主室) K 3 5 1 6
福子(とみこ・華園) → 福子(としこ/とみこ・華園はなぞの/西園寺、歌) W 3 1 1 1
富五郎(とみごろう・片山/相馬)→ 九方(きゅうほう・相馬/片山、儒者/詩) I 1 6 7 7
富五郎(とみごろう・栗田) → 土満(ひじまる・栗田、神職/国学/歌) 3 7 0 7
富五郎(とみごろう・渋川) → 正陽(まさてる・渋川/川口、幕臣) E 4 0 2 4
富五郎(とみごろう・岡井) → 蓮亭(れんてい・岡井おかい、儒者) B 5 1 3 0
富五郎(とみごろう・原) → 武太夫(ぶだゆう・原、幕臣/音曲/狂歌) D 3 8 1 7
富五郎(とみごろう・安藤) → 千里(ちさと・安藤あんど、家老/国学) M 2 8 0 0
富五郎(とみごろう・梅津) → 忠喬(ただたか・梅津うめつ、藩家老) V 2 6 8 6
富五郎(とみごろう・田中) → 千村(ちむら・田中たなか、藩士/国学者) M 2 8 7 4
富三郎(とみさぶろう・市山/瀬川)→ 菊之丞(きくさくのみじょう・瀬川、歌舞伎役者) 1 6 9 9
富三郎(とみさぶろう・阿部)→ 松園(しょうえん・阿部あべ、藩士/儒者) F 2 2 5 4
富三郎(とみさぶろう・久保田)→ 豪秀(たけひで・久保田、藩士/軍学者) O 2 6 6 6
富三郎(とみさぶろう・大久保)→ 忠保(ただやす・大久保おおくぼ、幕臣/歌) U 2 6 5 6
富三郎(とみさぶろう・前野)→ 清臣(きよおみ・前野まえの/竹中、国学/歌) V 1 6 2 0
富次(とみじ・竹鼻) → 正修(まさなが・竹鼻たけはな、藩家老/歌人) P 4 0 4 9
富次(とみじ・近藤) → 源左衛門(げんざえもん・近藤こんどう、幕臣) J 1 8 0 9

03182 富成(とみしげ・牧野まきの、関宿藩主牧野信成男/本姓;源) 1628-9366 1655兄親成の養嗣子、
丹後田辺藩主;1673襲封/従五下因幡守、1679日光山祭礼奉行/81奏者番、
「牧野侯覚樹院諭言」「徳川伝記」著、

[富成(;名)の幼名/別名/法号]幼名;大吉、初名;教成、法号;覚樹院

V3138 富重(とみしげ・島しま、通称;一之丞) 1753-180856 出雲出雲郡の出雲大社祠官、国学者

3158 富十郎(初世とみじゅうろう・中村、初世芳沢あやめ男) 1719-8668 江中期上方の歌舞伎役者;
1779大至極上上吉;惣芸頭、時代物・世話物・若女形が得意、俳諧・画を嗜む、
俳諧;1782蕪村「花鳥篇」1句入、画;1786「慶子画譜」著、
[ちりがてに人待がほのさくらかな](花鳥篇;50/慶子)

[富十郎(初世)の号] 芳沢崎弥、俳名;慶子けいし/画号;嶺琴舎/屋号;天王寺屋、

03183 富十郎(2世とみじゅうろう・中村/市川、名;熊太郎) 1786?-185570? 江後期上方の歌舞伎役者、
1833中村富十郎襲名、当り役は女団七・女五右衛門、42天保改革;奢侈の咎で大坂を追放、
[富十郎(2世)の号] 中村三光・松江、俳号;慶子、屋号;八幡屋

富次郎(とみじろう・間部/遠山)→ 則象(のりかた・遠山とおやま、幕臣) E 3 5 3 9

富次郎(とみじろう・安原) → 方斎(ほうさい・安原やすはら、儒者) 3 9 8 1

富次郎(とみじろう・小寺/木村)→ 玉晁(ぎょくちやう・小寺こでら、随筆家) H 1 6 3 1

富次郎(とみじろう・原) → 武太夫(ぶだゆう・原、幕臣/音曲/狂歌) D 3 8 1 7

富次郎(とみじろう・原) → 宏平(ひろへい・原、商家/歌人) L 1 9 0 8

富次郎(とみじろう・岡本) → 通理(みちまさ・岡本おかもと、儒者/国学) C 4 1 5 5

富次郎(とみじろう・天野) → 宗歩(そうほ・天野あまの/平、棋士) I 2 5 8 7

富次郎(とみじろう・広沢) → 安任(やすとう・広沢ひろさわ、藩士/牧畜) C 4 5 2 0

富次郎(とみじろう・大島) → 為足(ためたり・大島おおしま、藩士/歌人) W 2 6 1 5

富次郎(とみじろう・中島) → 栄武(よしたけ・中島なかじま、大庄屋/歌人) O 4 7 1 8

富次郎(とみじろう・益岡) → 広海(ひろみ・益岡ますおか、国学者) K 3 7 9 9

富次郎(とみじろう・原) → 宏平(ひろひら・原はら、国学/歌人/町長) K 3 7 7 1

富季(とみすえ・高橋) → 富兄(とみえ・高橋、国学者) O 3 1 8 0

03184 十三助(とみすけ・奈河ながわ)? - ? 江後期1791-1824頃上方の歌舞伎作者:

2世奈河七五三助しめすけ門、1818「絵合忠臣蔵」著

富助(とみすけ・長坂) → 在綱(ありつな・長坂ながさか、藩士/歌) G 1 0 5 6

03185 富蔵(とみぞう・木田きだ) ? - ? 江戸中期会津の文筆家、1742「老媪茶話」著

03186 富蔵(とみぞう・近藤こんどう、名;守真もりざね、重蔵[正斎]男)1805-8783 旗本の家の生、
1826塚原半之助と地所境界争い;半之助とその妻子・母の7人を殺傷し殺人罪で八丈遠島、
連座で父は獄死、1880赦免されたが父の墓参後82再び八丈に帰島;観音堂の堂守として没、
地誌家;1847-61「八丈実記」72巻執筆、

[富蔵(;通称)の号] 聞斎/講武軒、

富蔵(とみぞう・堀口/小山/尾高)→ 高雅(たかまさ・尾高/堀口/小山、歌人) D 2 6 7 5

富蔵(とみぞう・井田) → 金洞(きんどう・井田いだ、日蓮僧/詩人) R 1 6 5 2

富蔵(とみぞう・相沢) → 朧(おけら・相沢あいざわ/石川、医者/歌人) D 1 4 7 7

富太郎(とみたろう・長) → 三洲(さんしゅう・長ちよう、詩人/尊攘) F 2 0 8 6

富太郎(とみたろう・堀口/尾高)→ 高雅(たかまさ・尾高/堀口/小山、歌人) D 2 6 7 5

富太郎(とみたろう・工藤) → 他山(たざん・工藤/古川、藩士/儒者) E 2 6 6 0

富太郎(とみたろう・長) → 三洲(さんしゅう・長ちよう/長谷、儒者/尊攘) F 2 0 8 6

富太郎(とみたろう・安斎) → 保美(やすよし・安斎あんざい、名主/歌人) F 4 5 2 4

富太郎(とみたろう・坂井) → 居平(やすひら・坂井さかい、庄屋/国学/歌) F 4 5 9 3

富太郎(とみたろう・宮城) → 御楯(みたて・宮城みやぎ、藩士/国学/歌) K 4 1 7 1

富千代(とみちよ・千家) → 豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌) C 3 1 4 2

03187 富嗣(とみつぐ・中西なかにし/斎部いんべ/本姓;大中臣)1797-? 京の平野神社神官/国学者;本居大平門、
「平野社略記」「平野宮御瑞験記」「大平野宮御伝記略」「古瓦譜」/「斎部氏先代考証」編、外多、
歌;本居大平「八十浦の玉」下巻入、

[鶯の鳴きにし日よりいつしかと園の桜の花ぞ待たるる](八十浦;719待花)、

[富嗣(;名)の通称/号]通称;陸奥守、号;蓋山

富利(とみとし・数楽かずら) → 耕文(こうぶん・長尾ながお/数楽、書家) L 1 9 0 6

03188 富直(とみなお・和田わた、別号;富且/富旦)?-? 1819存 越後新発田藩士/和算;会田安明門、

1819江戸浅草寺境内に師の算子塚建立の33人の1、1800「懸諏訪社額起源」著、

[富直(;名)の通称] 栄吉/藤七郎

03189 富仲(とみなか・五辻いつつじ、泰仲男/本姓;源)1461-1502 母;冷泉為之女、廷臣;左近将監/中務大丞、

左兵衛佐/右衛門佐/1502従四上、諸仲もろなかの父、

1481「文明十三年五月二十一日御・海住山大納言等和漢聯句」参加、

03190 福長(とみなが・高辻たかづじ、胤長たねなが男/本姓;菅原)1761-181959 母;五条為成女、廷臣;1789従三位、

1811権中納言/12正二位、「賢聖障子小伝」著、

[福長(;名)の字/号]字;在中、号;孝靖

W3188 富野(とみの・山本やまもと、名;登見野、旧姓;下河原)1809-8779 大和生駒郡の歌人;香川景樹門、

河内若江郡の山本元孝の妻、国学;伴林光平門(夫と同門)

富小路(とみのこうじ・藤原)→ 道直(みちなお・藤原/富小路家祖、連歌) C 4 1 0 5

富小路右大臣(とみのこうじうだいじん)→ 顕忠(あきただ・藤原、廷臣/歌) 1 0 6 9

富小路大納言(とみのこうじだいなごん)→ 実教(さねのり・小倉おぐら、廷臣/歌) D 2 0 4 3

富小路殿(とみのこうじどの) → 後深草天皇(ごふかくさてんのう、持明院統祖) D 1 9 6 7

富之丞(とみのじよう/とみのすけ・三宅)→ 興道(おきみち・三宅みやけ、藩士/日記) C 1 4 9 9

富之丞(とみのじよう/とみのすけ・本多)→ 忠敬(ただたか・本多、藩主/文筆) P 2 6 7 5

富之丞(とみのじよう/とみのすけ・原) → 武太夫(ぶたゆう・原、幕臣/音曲/狂歌) D 3 8 1 7

富之丞(とみのじよう/とみのすけ・松平)→ 直克(なおかつ・松平まつだいら/有馬、藩主/国学) O 3 2 8 8

富之丞(とみのじよう/とみのすけ・河鱈)→ 省斎(せいさい・河鱈かわばた、藩儒) B 2 4 6 4

富之進(とみのしん・酒井) → 忠寛(ただひろ・酒井、藩主) Q 2 6 7 3

富之進(とみのしん・久保寺)→ 正久(まさひさ・久保寺くぼでら、幕臣/和算家) G 4 0 6 0

富之進(とみのしん・稲川) → 好徳(よしのり・稲川いながわ/水野、家老/歌) L 4 7 5 9

富之丞(富之介とみのすけ・西尾)→ 定静(さだやす・西尾/源、藩士/歌人) 2 0 8 4

富之助(とみのすけ・狛) → 諸成(もろしげ・狛こま/野田、楽人/国学) H 4 4 2 9

- 富之助(とみのすけ・板倉) → 勝任(かつとう・板倉いたくら、藩主/歌人) N 1 5 5 6
 富之助(とみのすけ・日下部) → 勝臯(かつしか・かつたか・日下部くさかべ、幕臣/国学) N 1 5 3 7
 富之助(とみのすけ・小出) → 英陳(ふさのぶ・小出こいで、幕臣/国学) I 3 8 2 3
 富之助(とみのすけ・吉川) → 従方(よりかど・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 5
 富之助(とみのすけ・古森) → 省吾(しょうご・古森こもり、俳人) I 2 2 7 0
 富之助(とみのすけ・太田) → 中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌) L 3 2 4 5
 富之助(とみのすけ・本多) → 忠永(ただなが・本多、藩主/兵学/俳人) Q 2 6 3 3
- 03191 富延(とみのぶ・細田ほそだ、喜左衛門男) 1783-1828⁴⁶ 伯耆会見郡定常村の国学者; 出雲の千家俊信門、和漢学に通ず、「谷のかけはし」「冬の詠歌」「うき橋」「聖代考」著、1815註釈「神代正語常盤草かみよのまさごとときわくさ」著、[富延(;名)の通称/号]通称;喜太郎、号;玉の舎、法号;徳隣院
- 03192 福宣(とみのぶ・檜山ひやま、通称;源太郎) 1809-58⁵⁰ 曆法家/1834水戸藩彰考館入、「歳実蒼萃」「算則」著
 富信(とみのぶ・歌川) → 国富(初世くにとみ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 3
 登美宮(とみのみや・有栖川) → 斉昭正室(なりあきのせいしつ・徳川とくがわ、歌人) N 3 2 9 7
 富之屋(とみのや・金子) → 宜胤(よしたね・金子かねこ、国学者) M 4 7 2 5
 富教(とみより・志賀/宮川) → 政運(まさかず・宮川/松岡/志賀、随筆家) B 4 0 7 8
- 03193 富春(とみはる・小神おがみ) 1784- 1858⁷⁵ 備前津高郡金川の七曲社神官; 父を継承、国学/歌; 平賀元義・藤井高尚門/神道; 若林叢亭・平田篤胤門、言霊ことだま学派の創始者、京の御所歌人、業合大枝と親交、1852「芒園歌集」/57「芒園詠草」著、[富春(;名)の通称/号]通称; 信象/均、号; 芒園ぼうえん/松蔭舎/言霊
- U3113 富寿(とみひさ・伊原いはら) 1766- 1829⁶⁴ 備前上道郡の国学; 藤井高尚門、[富寿(;名)の字/号]字: 万年、号: 竹屋
 富久(とみひさ・松下) → 矩久(のりひさ・松下、神職/日記) F 3 5 5 0
 富仁(とみひと) → 花園天皇(はなぞのてんのう、京極派歌人) 3 6 2 2
 都美姫(とみこひめ・毛利) → 延子(のぶこ・毛利もり、藩主室/国学) K 3 5 1 6
- 03194 富平(とみへい・中村なかむら) ? - ? 江中期京の高辻通雁金町の書肆、1710「辨疑書目録」編
 [富平(;名)の通称/号]通称; 永原屋孫兵衛、号; 百川
 富丸(とみまる・中村)と同族 → 孫兵衛(まごべえ・中村、京書肆/俳) 4 0 8 4
- 03195 富房(とみふさ・立川たてかわ、通称;小平/小兵衛) ?-? 江中期幕府作事方配下の大工、1763「大和絵様集」71「和様ノ一軒」、「木匠雛形集」「軒廻種雛形」著、立川富棟(?-1807)の師
 富房(とみふさ・長谷川) → 知仙(ちせん・長谷川、棋士; 囲碁) E 2 8 5 3
- 03196 富雅(とみまさ・夏秋かじゅう、通称; 忠左衛門) 1789-1850⁶² 肥前佐賀の儒者; 朱子学経学に通通、私塾を開き子弟教育、「文義奥伝」「朱王或問」著
 富丸(とみまる、俳諧「常陸帯」入) → 孫兵衛(まごべえ・中村、書肆) 4 0 8 4
 富丸(とみまる・広田) → 正愛(まさちか・広田ひろた/度会、神職/国学) S 4 0 2 0
 富丸(とみまる・山崎) → 一郎(いちろう・山崎やまさき、神職/国学) K 1 1 7 4
 富麿(とみまる・風早; 続日本後記) → 審麿(あきまる・風早、孝養の人) G 1 0 3 9
- 03197 富元(とみもと・宇仁うに/宇仁館うにだて、別名; 信富、宇仁館清成男) 1779-1841⁶³ 代々ト部家神職、易学に通通; 占ト方位家、詩人、「勸懲輯略」「時家指掌大意」「浪花竹枝百首」「暦日集註」著、[富元(;名)の字/通称/号]字; 介夫、通称; 兵馬/太郎太夫、号; 雨航/観魚漁人
 富保(とみやす・福井) → 富有(とみあり・福井ふくい、能楽師/国学) W 3 1 2 2
- 03198 富行(とみゆき・度会わたらい) ? - ? 鎌倉末南北期伊勢外宮禰宜、歌; 1321伊勢豊受大神宮「外宮北御門歌合」参加、[ことのはの情もあらばおのづから憂にや残る涙ならまし](外宮歌合; 三十番左59)
- T3151 富之(とみゆき・竹中たけなか) ? - ? 江後期; 歌人、歌; 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[むすばねど涼しくもあるか夏の夜の月影すめる庭の池水](大江戸倭歌; 夏549/池夏月)
 富雪(とみゆき・六花亭、千錦亭) → 六花亭富雪(りっかていとみゆき、絵師) B 4 9 6 4

- 03199 **富椒**(とみよし・石原いしはら) ? - ? 江後期近江膳所藩士、
1790「膳所侯御行状記」編/「通行御行状記」著
富芳(とみよし・辻林) → 喜右衛門(きえもん・辻林つばやし、本草家) F 1 6 0 0
十三郎(とみろう・朝山) → 芳房(よしふさ・朝山あさやま/勝部、神職) G 4 7 7 4
とめ → 羽紅(うこう・野沢凡兆妻、俳人) B 1 2 6 8
とめ(・牧野) → とめ女(とめじよ・牧野まきの、歌人) T 3 1 6 8
- P3100 **土明**(どめい・野見山のみやま、通称;源太夫)?-? 筑前漆生の俳人:朱拙門、1707「漆川うるしがわ集」編
留吉(とめきち・細井) → 寧雄(やすお・細井ほそい、絵師/和算家) B 4 5 0 3
留吉(とめきち・後藤) → 若雄(わかお・後藤ごとう、歌人) 5 3 0 8
- U3122 **止子**(とめこ・板倉いたくら、鯖江藩主間部詮勝あきかつ2女) 1845-1911 67 名;鉦りゅう、
備中庭瀬藩主板倉勝弘の妻;江戸住;歌人
- T3168 **とめ女**(とめじよ・牧野まきの)? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[おもしろく神もきらくそ月雪の光りをそへて星うたふこゑ]、
(大江戸倭歌;冬1323/神楽)
- P3101 **留次郎**(留治郎とめじろう・成田屋なりたや/成田)?-? 江後期江戸下谷坂本入谷の朝顔屋、
1854-57頃当時流行の変化朝顔の図譜編纂;1854「朝顔図譜」「朝顔三十六花撰」編、
1854「三都一朝」、55「両地秋」著、
[成田屋留次郎(;通称)の号] 万花園主人
留次郎(とめじろう・木戸) → 善英(よしひで・木戸きと、国学者) M 4 7 3 9
- P3102 **留蔵**(とめぞう;通称・斎藤さいとう)?-? 幕末明治期;1860咸臨丸提督木村撰津守芥舟の従者/鼓手、
「丑行新書」著
止蔵(とめぞう・林至) → 正蔵(しょうぞう・林屋はやしや、嘶家/合巻作者) 2 2 6 4
留之助(とめのすけ・本多) → 忠永(ただなが・本多、藩主/兵学/俳人) Q 2 6 3 3
留之允(とめのすけ・鳥田) → 智庵(ちあん・鳥田からすだ/修姓;田、藩医/本草) 2 8 3 5
東明宮(とめのみや) → 直子(あきつねこ・一橋/伏見宮、歌人) C 2 9 0 8
- P3103 **兔毛**(とも・関せき、名;盛匡/忠行) 1761-1828 68 秋田藩士/儒者;柿岡林宗門/1788藩右筆、
記録/系図を整理、狂歌;前句付/狂詩を嗜む、「関兔毛狂詩集」「鍋の道行」「途端の堇」、
「木堇返し」「武蔵鏡」「日雇咄し」著、
[兔毛(;号)の幼名/字/別号]幼名;弁蔵、字;士幹、
別号;斗学/六郷庵木斎/撫道/眼槻岡敷めつきおかしき/開、法号;寿量院
朝(とも・戸塚) → とゑ(とゑ・戸塚とづか種子たねこ、歌人) T 3 1 3 8
とも(・浅野) → とも女(ともじよ・浅野あさの、歌人) T 3 1 7 9
度茂(とも・平) → 度茂(のりしげ・平、廷臣/阿仏尼の養父) E 3 5 6 4
- U3117 **具集**(ともあい・岩倉いづくら、具選男) 1778-1853 76 母;綾小路有美、廷臣;1839権大納言/正二位、
歌;大国隆正門、妻;綾小路俊資女、具満の父/具賢・具慶の養父
- P3104 **具顕**(ともあき・中院なかのいん、具氏男/本姓;源;村上流) 1260?-87 早世 28 母;法印任快女、廷臣;左中將、
伏見天皇春宮時の側近、歌人;京極派歌風の先駆、1280「弘安源氏論議」参加;16番筆録、
1286「詠百首和歌」著、玉葉集352/1954、
[ときぬとおりたつ田子たごのてもたゆくとるや早苗も今いそぐなり](玉葉集;三夏352)
- P3105 **知顕**(ともあき・橘たちばな、知嗣男)?-? 鎌倉末期廷臣;刑部卿/正四位/氏長者、
「学館院別当職事」著
- P3106 **知商**(ともあき・今村いまむら、通称;仁兵衛)?-1668 河内狛庄の和算家;京の毛利重能門、
磐城平藩士;寺社奉行/53農政改革、1639「堅亥録」40「因婦算歌」42「日月会合算法」著、
平賀保秀・安藤有益の師
- P3107 **倫秋**(ともあき・豊原とよはら/一字姓;豊、岡[太秦]昌倫男) 1698-1767 70 母;賀茂清昌女、楽人;笙、
豊原資秋の養嗣子/1712左近将監/33伊賀守/67正四上、1747「竜笛譜」著
- P3108 **知明**(ともあき・富岡とみおか、通称;金治)?-1790? 信州松代藩士;右筆、国学者、「滋野親王外伝」著
- P3109 **知章**(ともあき・永田ながた、初名;治章、林はやし治知男) 1722-1811 89 尾張熱田市場村の生、
三河挙母村の叔父永田顕治の養子/挙母ころも藩士;吟味役/郡役/寺社奉行/藩校崇化館奉行、

文庫祠堂係を兼任、郷土史研究、詩/俳諧を嗜む、秋本澹園・源京国と親交、
1794「挙母記」1803「三河吟稿」、「衣里八景」著、
[知章(；名)の幼名/通称/号]幼名；猪之助、通称；六兵衛/治郎右衛門/祖部右衛門、
号；道輝/蘭泉/道楽庵/養素軒

P3110 **知明**(ともあき・藤塚ふじか、漁夫の喜惣治男)1737-99⁶³ 陸前桃生郡十五浜村大須浜の生、
幼少時両親死亡/叔母に養育され仙台の魚問屋永野屋に奉公；独学で読書、
学問を好む永野屋主人利右衛門はその才を認め仙台祠官の山田家に預ける、
20歳頃に塩竈神社神職藤塚知直の養子；知直女の順と結婚/神道を修得/国典涉獵、
1785(天明5)塩竈神社別宮三禰宜/復古神道を主唱、
塩竈社別当法蓮寺の専横を咎め紛争；社家は勝利したが知明は有罪(藤塚事件)；
桃生郡鹿又村梅ノ木の瀬上景福家に拘禁幽閉；景福は知明の学徳を慕い師事；
庵を与えられこの地に没、中山高陽・高山彦九郎・蒲生君平・林子平と交流、
1781「坪碑史証考」83「燕沢古文碑考」93「雙生説」95「花かつみ考」、「古碑考」外著多数、
[知明(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；子之助/千之助、字；子章、通称；式部、
号；塩亭/金花[華]楼/煙波亭、
知機(図書ずしよ)・知周・頤庵いあん(君敬・俣ひろし/前野良沢嗣)・知能ともよしの父

P3111 **誠明**(ともあき・多田ただ、高得男)1777-1844⁶⁸ 出羽庄内藩士/鶴岡住、儒詩；石川朝陽門、諸国歴遊、
1816藩校致道館助教、1819-藩命で米沢に游学/江戸游学；佐藤一斎門、
支藩出羽松山の幼い藩主酒井忠方付として「心得書」上申、1830致道館に復帰；司業を兼任、
「宏廬こうろ集拾遺」著、多田守保(もりやす、膳所藩家老)の甥、誠成の父、
[誠明(；名)の字/通称/号]字；叔靖、通称；良助、号；宏廬こうろ/南風館、

P3112 **知彰**(ともあき・野田のだ)1803 - 1879⁷⁷ 伊勢津藩士/天文・算学；父門、1824上京、
儒；猪飼敬所・頼山陽門、津藩校有造館養正寮の教読、1835家督嗣；天文指南を兼任、
1837上京；土御門家で天学秘伝を受、藩校有造館講官/1870藤堂高潔の侍講、
「煙話」編/1845「太史公律歴天官三書管窺」校訂、
[知彰(；名)の字/通称/号]字；士明、通称；剛治郎/九十郎、号；竹溪

U3114 **朝明**(ともあき・庵原いはら/本姓：源、朝光男)1804-40³⁷ 近江彦根藩家老；5千石、稽古館総裁、歌人
[朝明(；名)の通称]主税助/彦根大夫の異名

P3113 **友明**(ともあき・堀ほり、字；武次/号；春湖)1810-76⁶⁷ 仙台藩士；1854大番士/維新後は青葉神社祠官、
神道；小梁川・境野氏に修学、天文暦数修得、「伊達秘録」「仙台邦内古城略記」著、
1866「伊達武徳遺聞録」編

友章(ともあき・向井) → 滄浪(そうろう・向井、藩士/儒/詩人) J 2 5 2 2
友章(ともあき・小島) → 晴海(せいかい・小島、藩士/儒者/詩) H 2 4 7 1
知章(ともあき・春田/曾我) → 耐軒(たいけん・曾我/春田/伊藤、儒者/詩) B 2 6 3 1
知明(ともあき・築山) → 桐雨(とうりゅう・築山、俳人) B 3 1 1 7
知顕(ともあき・小瀬/田中) → 朋如(ともゆき・田中/田、藩士/国学) Q 3 1 8 0
知彰(ともあき・三野) → 謙谷(けんこく・三野みの、藩士/漢学者) E 1 8 1 0
知彰(ともあき・荘野) → 秋平(あきひら・荘野しょうの、藩士/神職/国学) H 1 0 4 2
智明(ともあき・荻野/斎藤) → 彦磨(ひまろ・斎藤/藤原、藩士/国学) 3 7 0 3

P3114 **朋理**(ともあきら・杉浦すぎうら、別名；浜純はまづみ、国頭男)1710-33^{早逝}24 遠州浜松国学者；荷田春満門、
「日本書紀歌口解」、「日本紀歌筈記」「神代卷劄記」「神代聞書」「令義解劄記」著、
[朋理(；名)の通称]内記/大蔵

知明(ともあきら・藤原) → 茂明(もちあきら・藤原、文章博士/詩人) B 4 4 2 9

P3115 **倫篤**(ともあつ・三須みす/本姓；藤原)?-? 1369^存 南北期1334-57頃雅楽允、室町幕府奉行人、
連歌作者；1356成立「菟玖波集」4句入、
[夜すぐる人をや関にとゞむらん](菟玖波；羈旅1705/前句；むまやの鈴の山近き声)、
[倫篤(；名)の通称/法名]通称；雅楽允うたの掛け、出家入道法名；禪休

P3116 **知篤**(ともあつ・辻つじ、通称；忠左衛門)?-? 江後期幕臣；御徒おかし、歌；石野広通門、紀行文、
1798刊広通「霞関集」入、1803「小金井橋花見の記」、06南畝「ひともと草」狂詩文入、

大田南畝と交流、

[埋もれ木の谷の光も春にけさあらはれてなく鶯の声](霞関;春34/谷鶯)

- T3172 **朝温**(ともあつ・駒井こまゐ、兜十郎男)1823-9673 旗本;家督嗣;上野連取など領す、西丸目付、本丸目付/従五位下山城守、1860(万延元)老中松平乗全らと桜田門外変の吟味掛、久貝正典のあと大目付就任、1862小姓組番頭;安政の大獄に連座;免職、後赦免、1864(元治元)歩兵頭/大目付再任/勘定奉行/65(慶応元)勘定奉行再任/66大目付再任、1866(慶応3)陸軍奉行並、息子忠道は小栗忠順の養子(忠順が斬首後上野高崎で斬首)、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[いはぬ間は人こそしらね恋しさのますほのすすきほにやいでなん]、

(大江戸倭歌;恋1380/不言出恋)、

[朝温(;名)の通称/号]通称;山城守/甲斐守、号;玉虹

- P3117 **伴存**(ともあり・畔田くろだ、本姓;源)1792-185968 代々紀州和歌山藩士/国学・歌:本居大平門、医/本草学:小原桃洞門、藩主に認められ藩医;藩の薬草を管理/熊野で採薬中に急病死、1827「水族志」43「古名録」45「紫藤園攷証」、「魚譜」「獣譜」「和蘭介図」「野山草木通志」、「海の記」「介志」「海藻譜」「紀州分産物絵図」「熊野草木図」「野山草木通志」「草木図」外多数、

[伴存(;名)の通称/号]通称;十兵衛、号;紫藤園/翠山/翠嶽/翠嶺軒/円窓書齋、法号;義光院

- 3159 **知家**(ともいえ・六条ろくじょう/本姓;藤原、藤原頭家男)1182-125877 母;源師兼女、廷臣;1219従三位、美作守/1229正三位/1238病で出家、歌:1200石清水若宮歌合初参加/05元久詩歌合参加、1215内大臣道家家百首・内裏名所百首/16内裏百番歌合/18中殿和歌御会参加、1218道助法親王家五十首和歌参加/32石清水若宮歌合参(読師)・洞院摂政家百首参加、自邸で和歌・連歌会主催、藤原為家に反発;反御子左派を結成(源承口伝入)、1247百三十番歌合の為家判に反発;後嵯峨天皇に「蓮性陳情」を奉ず、私撰「明玉集」編、1248宝治百首参加(蓮性名)/53為家勸進[定家13回忌追善詩歌]参加;歌(蓮性名)入、「新撰六帖題和歌」「二十八品詩歌」「蓮性法師百首」著、1237刊[藤葉集]・雲葉集入、勅撰121首;新古(1192)新勅(12首29/188以下)続後撰(19首42/96以下)続古(31首)以下

[知家(;名)の号/法名]号;九条/大宮三位、法名;蓮性

[これもまたながき別れになりやせん暮れを待つべき命ならねば](新古今;恋1192)

朝家(ともいえ・藤原) → 朝家(あさいえ・ともいえ・藤原、歌人) 1 0 9 4

- P3118 **弁子**(ともい・野村のむら、野村長平の妻)?-? 国学/1764賀茂真淵の講義を筆記;「古今和歌集打聴」
- 兎毛(ともう・南部) → 畔李(はなり・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0
- 兎毛(ともう・望月/伴) → 東山(とうざん・伴ぼん、漢学者/藩儒) E 3 1 6 1
- 兎毛(ともう・平井) → 樗堂(ちよう・平井ひらい、藩士/詩人) K 2 8 4 4
- 兎毛(ともう・富田) → 無三(むさん・富田、農家/代官/俳人) 4 2 5 6
- 兎毛(ともう・浅野) → 武経(たけつね・浅野あさの、藩士/国学/歌) U 2 6 3 3
- 兎毛(ともう・千家) → 之正(ゆきまさ・千家せんげ、神職/茶・歌人) G 4 6 9 5

- P3119 **具氏**(ともうじ・中院なかのいん、通氏男/本姓;源;村上流)1232-7544 母;法印政喜(珍喜)女、廷臣/学者、堀川(源)具実の養子、侍従/三河守/右中将/播磨守/左中将/1265蔵人頭、1267(文永4)参議従三位/70正三位/75(建治元)従二位/没、歌人;1256内大臣基家百首、59後嵯峨院[正嘉三年北山行幸和歌]・65白河殿七百首参加、1266続古今集竟宴和歌講師、徒然草135段;二条資季に挑まれ問答に勝った逸話入、勅撰17首;続古(200/479/547/1099/1614)続拾遺(2首)以下、

[ほととぎすなれよなにとてなく声の五月待つまはつれなかるらん](続古今;夏200)

- P3120 **具氏**(ともうじ・中院なかのいん/本姓;源、具光男)?-? 1381存 南朝廷臣;権大納言、歌人;1375五百番歌合参加、新葉集4首(146/432/534/824)、

[枝よりはあだにちるとも木のもとにしはしは残れ花の白雪](新葉;146;五百番歌合)

- V3180 **知氏**(ともうじ・戸田とだ、)1844-191774 伊予西条の神職;新居郡角野村の内宮神社社家、神道・国学;田内逸俊([阿沼美神社所在考]編者)門、歌人、維新後;権少教正

和氏(ともうじ・細川) → 和氏(かざうじ・細川、武将・歌人) C 1 5 1 5

- T3103 **巴**(ともえ・中原なかはら/源、通称;巴御前、中原兼遠女)?-? 平安鎌倉期の女性武将、今井兼平の妹、武勇に優れた美女/源義仲に嫁ぐ;武将として最後まで随従/1184義仲戦死、

のち鎌倉幕臣和田義盛と再婚;1213北条氏により義盛戦死;尼になり越中に赴く、
のち伝説化され能・浄瑠璃・歌舞伎など多くの戯曲に脚色

- S3197 **ともゑ**(ともえ;組連) ?-? 江戸戸山御門前(牛込)の雑俳の組連;
取次;1766「錦桂評万句合」入、
取次例;[のりかけは名所の方へかしぐなり](前句;はたらきにけり々々)、
(のりかけは客一人に二十貫の荷を付けた馬/名所の方を見るので荷が偏る)
- P3121 **友衛**(ともえ;通称・藤原ふじわら、名;恭治)?-? 1871存 肥前福江藩士;1808目付軍師;
要害地見分のため下五島地区へ出張、1822城山宮(藩主等を祀る宮)建立の御用掛用人、
1837蔵奉行、維新後;大参事/福江藩筆頭官、1833「勸業余録」/37「壁書」
- 友恵(ともえ・長谷川) → 須賀子(すがこ・原はら、歌人/国学) I 2 3 9 6
伴衛(ともえ・大原) → 景寛(かげひろ・大原おおはら、農業/国学) T 1 5 9 7
巴之助(ともえのすけ・島) → 重老(しげおい・島しま、神職/国学/歌人) B 2 1 9 4
巴大将(輅絵大将ともえのたいしょう) → 公経(きんつね・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 3 5
友衛門(ともえもん・秋葉) → 東叢(とうそう・秋葉、郷土/文筆) G 3 1 2 8
友衛門(ともえもん・後藤) → 重興(しげおき・後藤、郷土/郷土史家) Q 2 1 7 1
友右衛門(ともえもん・伴) → 仙路(せんろ・伴、藩士/俳人) N 2 4 3 9
友右衛門(ともえもん・土田) → 資方(すけかた・土田つちだ、儒者/詩歌) I 2 3 8 3
友右衛門(ともえもん・北村) → 初子(もとたね・北村きたむら、藩士/歌人) J 4 4 8 9
友右衛門(ともえもん・佐野) → 友行(ともゆき・佐野さの、藩士/歌人) V 3 1 3 1
友右衛門(ともえもん・大寄) → 允孝(ときたか・大寄おおより、農家/富士講) U 3 1 3 8
友右衛門(ともえもん・高杉) → 友義(ともよし・高杉たかすぎ/源、藩士/歌) V 3 1 6 2
友右衛門(ともえもん・大滝) → 昌誌(まさふみ・大滝おおたき、国学者) O 4 0 3 3
友右衛門(ともえもん・地主) → 昌明(まさあき・地主じぬし、商家/国学者) Q 4 0 1 0
友右衛門(ともえもん・館) → 通因(みちよし・館たち、藩士/国学/詩歌) J 4 1 7 0
友右衛門(ともえもん・中柳) → 重方(しげかた・中柳なかやぎ、陪臣/歌人) Z 2 1 5 8
友右衛門(ともえもん・堤) → 信足(のぶたり・堤つみ、陪臣/国学/歌人) J 3 5 2 1
伴右衛門(ともえもん・伊地知) → 貞馨(貞香さだか・伊地知いち、藩士/国事) H 2 0 8 7
伴右衛門(ともえもん・中津) → 元義(もとよし・中津なかつ、国学者) E 4 4 7 5
伴右衛門(ともえもん・竹内) → 経成(つねなり・竹内たけうち/葛城/日野、藩士/勤王) F 2 9 9 7
- U3180 **知雄**(ともお・長坂ながさか) 1769-1820 52 相模戸塚の国学者;太田南畝門、
金子宜胤よしたねの師、
[知惟(;名)の通称/号]通称;玄節、号;百枝/春垣津
- W3126 **知雄**(ともお・藤塚ふじつか) 1787-1852 66 陸奥宮城郡の神職;塩竈神社祠官、知明ともあきの孫、
国学;平田篤胤門、
[知雄(:名)の字/通称/号]字;守雄、通称;権之進/式部、号;晋斎
- P3122 **知雄**(ともお・山崎やまさき) 1798-1861 64 江戸伝馬町の手習の師匠/国学;塙保己一・岸本由豆流門、
日本紀略・日本後記・三代実録の校訂校本など諸本を考証、肖像画;喜多武清門、
「吾妻類標」「類聚符宣鈔年表」編、「東鑑類彙纂稿」「東鑑地名人名索引」「和名抄類字」、
1827「本草和名類字」39「絵本勲功草」46「下学集類字抄」52「東海道旅文車巻一」
「古事記万葉集人名類字」、1855笠亭仙果「なみの日並」逸話入/清宮秀堅「古学小伝」入、
[知雄(;名)の通称/号]通称;弥左衛門、号;武陵/蝸牛舎/瓢巷廬
- T3131 **知雄**(ともお・滝野たきの/本姓;物部)?-? 江後期;伊勢飯高郡宮前村本陣の家、国学者、
国学;本居大平(1756-1833)・本居春庭(1763-1878)門、
国学者長野義言が自宅に寄寓;義言は妹多紀子(滝/歌人)と結婚、
大平撰「八十浦の玉」下巻;「鈴屋宣長の書を見ての詠五首」入、
[書み見ずはいかで知らまし外国のしこ草しげる我が国の道](八十浦;946)
[知雄(;名)の別名/通称]初名;守雄もりお、通称;次郎祐/滝之助/蔵人
- P3123 **伴雄**(友雄ともお・長沢ながさわ/本姓;源、吉岡義知男) 1808-59 自刃 52歳 紀伊和歌山藩士;
1831長沢政寛の養子、経済・有職故実を修学、藩主の内命を受け京・江戸を往来、
国学/歌人;向井重房門/1822富樫広蔭門/本居春庭・大平門、柿園派;のち加納諸平と対立、

妻;上田ちか(重女じゅうじょ/歌人1828-94);離婚、1853罪を得て蟄居入獄;自刃、
1843歌文集「絡石の落葉たのおちば」、1848-54「類題和歌鴨川集」52「詠史歌集」編、「物名歌集」、
「冠位位色便覧」「踏歌考」「随筆目録便覧」「史籍目録」「男女頭髪沿革考」「流鏑馬考」外著多、
大平撰「八十浦の玉」下巻入、

[みなとのあしの葉さやぎ初秋風けさはすすしくなりにけるかも](八十浦;800/初秋)、
[伴雄(;名)の幼名/通称/号]幼名;十蔵、通称;隼人/貫一郎/衛門、
号;絡石舎つたのや、柿園/垣園/白木翁/清廼家/鞆ゆぎの家/蔦之軒

T3146 知雄(ともお・関せき) ? - ? 江後期歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[すさまじき影はうすれて在明の月は霜にぞ朧なりける](大江戸倭歌;冬1175)
[朝庭の雀の声をしづめつつ一声高くなのる鶯](現存百人一首;40)

T3159 知雄(ともお・中村なむら) ? - ? 江後期歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[さやかなる月には老も忘られて千年の友と契りてぞみる](大江戸倭歌;秋857)

W3100 鞆雄(ともお・南城なんじょう、通称;藤三郎)?-1877 飛騨高山の和漢学者、南城蘆村あしむら・の兄、
国学・歌;上木うぎ清成(1797-1862)門/国学・漢学;富田節斎(礼彦いひこ/1811-77)門

U3174 伴雄(ともお・片岡かたおか) 1825-1905 81 備前邑久郡幸島村神社祠官、
国学・歌;業合大枝・上田及淵しきぶち・藤原忠朝・川崎田豆雄門

U3120 知雄(ともお・石黒いぐろ、通称;紋次郎) 1827-1900 74 信濃埴科郡の国学者;唐木善武門、
守稻もりしの弟

W3129 友雄(ともお・古沢ふるさわ) 1832-1914 83 陸奥会津若松の生/古沢藤八の養子;会津藩士、
国学・歌;橘道守門、剣術家/戊辰戦争敗戦後も一時会津若松に留まる、
1870(明治3)9月青森斗南に移住/71北海道余市郡黒川村へ会津藩士団として集団移住、
子弟に柔術指導、士族籍復帰運動に当る/1876余市郡の副戸長/1893士族籍復帰、
[人しれずはこにをさめし剣太刀とりいだすけふ嬉しかりける](復帰祝宴時の歌)
余市歌壇を牽引、歌集「嘉斐飛呂比かいひろい」著

U3156 伴雄(ともお・太田黒おたぐろ・大野、飯田熊助3男) 1834-76 43 肥後熊本被分町の生、
大野家の養子;大野鉄兵衛と称す;熊本藩士、江戸で儒学修学/帰郷;国学・神道;林有通門、
尊攘思想を主唱、新開大神宮の太田黒伊勢守の入婿;祠官となる、勤王党から信頼、
1876(明治9)廃刀令に激怒;神風連頭首となる;神風連乱を起こす/銃弾を受け重傷;自刃、
[おきて祈りふしてぞ思う一筋は神ぞ知るらむ我が国のため]、

[伴雄(;名)の別名/通称]別名;安国、通称;鉄兵衛

朝雄(ともお・宮後)	→	朝雄(ともたけ・宮後みやじり、神職)	P 3 1 6 7
知雄(ともお・藤原)	→	知雄(ちかお・藤原ふじわら、歌人)	N 2 8 8 5
知雄(ともお・辛島)	→	塩井(えんせい・辛島からしま、儒者)	C 1 3 1 8
知雄(ともお・早川)	→	丈石(じょうせき・早川はやかわ、俳人)	T 2 2 8 6
知雄(ともお・鷹野)	→	素風(そふう・鷹野たかの、俳人)	E 2 5 2 9
知雄(ともお・中山)	→	武徳(たけのり・中山なかやま、通詞)	O 2 6 6 3
友雄(ともお・中村/秦)	→	永主(ながかず・中村なむら/大野、歌人)	D 3 2 3 9
鞆雄(ともお・野瀬)	→	道任(みちとう・野瀬のせ、地役人/国学)	K 4 1 0 5

P3124 友興(ともおき・葦田あしだ、通称;松助/空助もくのすけ)?-? 1500存 武将;赤松家家臣(被官)、
丹波芦田荘と関り?、連歌;宗祇門、1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」連衆(11句入)、
師と越智久通との仲介;1500宗祇「浅茅」成立(書写奥書も担当)、新撰菟玖波12句入

P3125 具起(ともおき・岩倉いぐら/本姓;源、久我具堯男) 1601-60 60 母;園基継女、廷臣;岩倉姓を称す、
1642従三位/52権中納言/従二位、書・歌・連歌を嗜む、後水尾院より古今伝授を受、
「岩倉具起書状」「後陽成院聖忌次第」著、
歌:「道晃具起三十首和歌」「仙洞御着到百首和歌」、連歌:「昌琢玄的点仙洞六吟百韻」参加、
1638後鳥羽院四百年忌御会参加、

[宮木野や往來ゆききに分くる萩が枝は風をもまたぬ露こぼるらし](後鳥羽院忌;54)、
[具起(;名)の法号]曹源院祖月文昇

P3126 倫興(ともおき・秦はた/河島)? - ? 江中期伊勢の郷土史家;喜早清在門、

- 1744「伊勢国旧蹟聞書」、46「古老茶物語」「山田故実集」、「伊勢浜荻」「勢陽旧跡聞書」著
- V3120 **朝興**(ともおき・神白こうじろ) 1782-1857 76 出雲安来の神職;飯生・賀茂神社祠官、
国学;長岡久紀門/歌;吉田芳章よしあき・久世通理みちあや・烏丸光政門、国学者/歌人、
息子;朝善ともよし・孫;朝広、
[朝興(;名)の初名/通称/号]初名;益穂、通称;八重吉/総亮/上総/宮内/主水、
号;八重舎/長詠館
- P3127 **知音**(ともおと・小槻おづき/壬生みぶ、盈春男) 1729-77 49 母;西大路隆業女、廷臣;1749左大官、
式部権少輔/1759主殿頭/76従三位、1749-52「小槻知音詠草」、「知音宿禰記」著
友臣(ともおみ・田鶴家) → 友鶴(ともつる・千歳軒、狂歌) P 3 1 8 9
- E3158 **伴鹿**(ともか・山平やまひら、通称;礼助) 1783-1829 47 江戸の歌人:村田春海/加藤千蔭/清原雄風門、
1828「新学異見弁」;景樹「新学異見」に反駁;
(1819稿の業合大枝なりあいおのおえの同名「新学異見弁」[景樹「新学異見」に反駁]の書がある)、
相模保土ヶ谷に住
- V3144 **友聞**(ともか/ともひろ・住友すみとも、旧姓;今橋[岡村]) 1788-1853 66 大坂豊後町の住友友端の養子、
金融業両替商;住友家9代を継嗣、国学者、友視ともみ(10代嗣)・友善ともよし(1810-71)の父
[友聞(;名)の通称] 吉次郎/甚兵衛/吉左衛門(;代々の称)
- S3154 **友垣古文**(ともがきのふるぶみ) ? - ? 江戸の狂歌作者;1785「後万載集」/87「才蔵集」入
[布ふくろ垢落さんと湯浴ゆあみして豆のから子も使ふなるべし](徳和歌後万載集;779)
(布袋の湯浴みする絵に/から子は豆殻と唐子を掛る;布袋の絵には唐子が描かれる)
- P3128 **友景**(ともかげ・中原なかはら) ? - ? 1230 存 鎌倉前期廷臣;1198内記/従五下/檢非違使、
歌人:続後撰集1154
[よるよるはいかなるかたにかよふぞと問へば答ふる沖つしらなみ](続後撰;十七1154)
(檢非違使の時に過怠の囚に思いを問う歌)
- W3155 **伴蔭**(友蔭ともかげ・三輪みわ、) 1806-1882 77 阿波徳島藩陪臣、国学;小山清音きよね・本居内遠門、
阿波一宮の大麻比古神社祠官、歌人、
[伴蔭(;名)の別号/通称/号]別号;千足/伴広/友蔭、通称;介一郎、号;進木舎
友蔭(ともかげ・高野/林) → 十江(じゅう・林/高野、篆刻家) E 2 1 8 6
- P3134 **朝葛**(ともかず・狛こま、初名;近葛、光葛みつかげ男) 1249-1333(or1247-1331) 85 楽人;正五上、
周防・因幡守、38年間左方の一者を勤める、1270頃「続教訓鈔」著、葛榮かざひでの父
- X3103 **朝三**(ともかず・小山こやま、号;守中) ?-1684 江前期の儒者、和泉堺の生/儒;江戸の林鶯峰門、
対馬府中藩に出仕;1682(天和2)朝鮮使節に礼儀に欠けるとの徳川光圀の詰問を通詞;
使節は非礼を詫び改めたと伝える、歌人、1684(貞享元)没、
歌人;茂睡[鳥之跡]入/1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]2首入、
[塩かぜに磯こす波の秋の色草木にかぎるゆふべとはなし](茂睡[鳥の迹]秋379浦秋夕)
[土岐山城守(頼行1608-84)が許にて新樹しんじゅ花に勝るといふ事を人々読み侍りけるととき、
散りしその花やおよぶ来ぬ秋の紅葉をも見る庭の若葉に](若むらさき;37)
[降り積る木々の中にも花といはば桜なるべき雪の松が枝](同;98/松雪)
- V3164 **知一**(ともかず・高橋たかはし、通称;半蔵、旧姓;橋都はし) 1817-79 63 信濃伊那郡の国学者;平田鍊胤門
- W3137 **知和**(ともかず・本荘ほんじょう/本姓;本庄、通称;脩造) 1843-1917 75 近江蒲生郡の医者、本荘知貞の弟、
国学;平田鍊胤門
友数(ともかず・石橋) → 知空(ちくう・石橋いばし、国学/歌/出家) M 2 8 0 4
友和(ともかず・細井) → 友和(ゆうわ・細井、俳/狂歌) E 4 6 1 5
朝和(ともかず・宮後/檜垣) → 常和(つねかず・檜垣/度会、神職/謡) B 2 9 8 7
友風(ともかぜ・植木) → 環山(かんざん・植木うえき、儒者) Q 1 5 8 2
- P3129 **友賢**(ともかた・小泉こいずみ、名;瑞、俊玄男) 1622-91 70 歳 備前岡山の生、
1632藩主国替で父に随い因幡鳥取に住、鳥取藩士/儒;1648林羅山門、
医;半井亀庵[驢庵]門、鳥取藩の江戸医師/帰国後に藩医となる、1669致仕、
以後文筆活動/郷土地誌研究、1688地誌「因幡民談記」、「吉岡温泉記」「宇部神社縁起」著、
[友賢(;字)の号] 雪蕉/鬼隣/白水先生
- P3130 **共方**(ともかた・梅小路うめがこうじ、初名;共益、定矩男/本姓;藤原) 1653-1727 75 江前後期廷臣;

1666民部大輔従五上/74従四上;共方と改名/83中宮亮/86非参議;従三位/92正三位、
1697参議/98踏歌節会外弁(御酒勅使)/99右兵衛督兼任/1702参議辞任/05従二位、
1709権中納言/10將軍宣下上卿/11辞任/16正二位/19権大納言;辞任、
1709「共方卿記」、「年代号略頌」著、法号;天心院

- P3131 **知賢**(ともかた・茂木もてぎ、知亮ともすげ[1686-1753]男)?-1806 江中期出羽秋田藩士/歌;冷泉為泰門、
「茂木家集」著、知教ともりの父
- P3132 **与方**(ともかた・下河辺しもこうべ)?- ? 江後期1789-1801頃江戸の和算家;古川氏一・高山忠直門、
1799「数学余勇」「呈西算譚」著
- W3179 **等賢**(ともかた・柳生やぎゅう、)1843-191674 大和奈良の国学者/歌人;中村良顕門
友賢(ともかた・小池) → 桃洞(とうどう・小池こいけ、儒者/暦算) G 3 1 7 5
知方(ともかた・大村) → 知方(ちほう/ともかた・大村、俳人) F 2 8 3 5
具方(ともかた・北畠) → 材親(きちか・北畠、武将/文筆/連歌) L 1 6 2 3
- P3133 **友勝**(ともかた・山角やまかど) ? - ? 江中期江戸の神道家:
「旧事大成経」による注釈:「中臣祓伐柯」著
- U3133 **友勝**(ともかた・岩橋いわはし、通称;大助)?-?安政(1854-60)頃没 江後期;紀伊和歌山藩士、
国学者;本居内遠門
朝勝(ともかた・宮後みやじり) → 朝勝(あさかつ・宮後/度会、神職/歌) 1 0 9 6
朝葛(ともかた・狛) → 朝葛(ともかた・狛こま、楽人) P 3 1 3 4
- X3137 **具兼**(ともかね・源みなもと、師具2男)?- ? 鎌倉後期廷臣:侍従/左中将/右兵衛督、
1330(元徳2)従三位、(31以後尊卑分脈不見)、師俊の兄弟/具有(右中将)の父、
歌;1330元徳二年八月御会参加、
[君が代のみぐみあまねきつゆやおく玉しく庭に咲ける秋萩](元徳御会;13)
- P3135 **倫兼**(ともかね・高野たかの)1701- 178282 仙台藩士/刈田郡平沢邑主、伊達吉村以下家三代に出仕、
詩歌/茶湯を嗜む、1772「往古記事」、「初年之記」、「燈前随筆」、「燈前示教」、「編年記略」著、
[倫兼(;名)の通称/号]通称;左太郎/隼人/備中、号;詠帰亭/後楽
- P3136 **知周**(ともかね・栗田あわた)1737- 180165 尾張熱田神宮の祠官、歌;芝山重豊・冷泉為村・為泰門、
「翁草」「草堂随筆」「椀鳴声」「尾張三十六歌仙」著、
[知周(;名)の字/通称/号]字;守数/濟夫、通称;東三郎/左衛門/内記/郡司、
号;草堂/培根堂/培翁
友兼(ともかね・門田/水間) → 沾徳(せんたく・水間みづま/門田、俳人) 2 4 3 5
友樹(ともき・安藤) → 一訓(かずのり・安藤あんど、歌人/吹奏) T 1 5 4 8
- P3137 **友吉**(ともきち・大津屋おおつや)?- ? 京の物真似師、1772「物真似狂言尽鸚鵡石」著(:鸚鵡石初)
友吉(ともきち・高橋) → 杏村(きょうそん・高橋たかはし、絵師/詩) O 1 6 2 7
友吉(ともきち・中井) → 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8
友吉(ともきち・小島) → 省斎(せいさい・小島こじま、儒者/藩政) B 2 4 6 1
友吉(ともきち・地主) → 昌明(まさあき・地主ぢぬし、商家/国学者) Q 4 0 1 0
友吉(ともきち・平山) → 正義(まさよし・平山ひらやま、漢学者/歌人) S 4 0 1 6
友吉郎(ともきちろう・社) → 信順(のぶより・社やしる、神職/国学者) K 3 5 2 1
朝吉郎(ともきちろう・松浦) → 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4
- P3138 **知清**(ともきよ・寺井てらい) ? - ? 室町中期武家;若狭武田氏家臣、寺井賢仲(宗功)の一族?、
連歌;宗祇らと百韻;1498「明応七年正月二十七日山何百韻」、
1500「明応九年七月十一日何人百韻」、
[知清(;名)の通称]五郎/兵衛尉/五右衛門
- P3139 **友清**(ともきよ・岡嶋おかじま) ? - ? 江前期和算家;入門書著作、1668「算法明備」
- P3140 **知清**(ともきよ・柘植つげ、利清男/本姓;平)1687-174458 幕臣;1709大番/19家督遺跡を継嗣、
歌人;林直秀門/武者小路実陰門、武者小路公野・烏丸光栄・中院通躬門、
家集「岡下集」、1711「老後百首」/21私撰集「浜木綿」撰、21「かた糸」著、広通「霞関集」入、
1739芥川寸艸「飛鳥山十二景詩歌」入(;梶原村田家かじはらむらのでんか)、
[たが里のことばの花にまちとるやけさあらたまの春の初風](霞関;春4)、
[門田守もる川辺の里の名をとへば世渡る舟の梶原の村](十二景歌/梶原堀之内の里)

[知清(；名)の通称/法名]通称；伝左衛門、法名；知清、
☆飛鳥山十二景 → 榴岡(りゅうこう・林はやし) D 4 9 7 8

- 3160 与清(ともしよ・小山田おやまだ/高田、田中本孝男) 1783-1847 65 母；平戸稻、隠居後；小山田姓、
武蔵多摩郡小山田の郷土の出、1801江戸で国学/歌；村田春海門、儒学；古屋昔陽門、
1803見沼通船方の豪商高田好受の養嗣子；家業に出精/江戸派国学者(考証学)として活躍、
1831水戸藩主徳川斉昭に招かれ小石川史館に出仕、蔵書家；蔵書文庫[擁書楼]、
1846水戸藩に2万巻献納、「八洲文藻」「扶桑拾葉集註釈」撰、「歌学大成」「下学集字類」著、
「作歌故実」「松屋家集」「松屋千首」「松屋文集」「松屋筆記」「松屋叢書」「松屋内外集」著、
「万葉集索引」「栄花物語類字」「源語目録」「古文類葉集」「初句類句」著/「随筆目録」編、
1812「俳諧歌論前編」/16「万葉仙覚字類」編/22「鹿島日記」42「浜の松葉」著、外編著多数、
歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入(息子与叔ともよしと共に入集)、

[濁りには染まぬ心もしばしよの風にしたがふ蓮のなびきは](大江戸倭歌；夏599)

[与清(；名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名；寅吉、初名；貴長、字；文儒ふひと、
通称；寅之助/庄次郎/仁右衛門/将曹/外記

号；玉河亭/葉山堂/松屋まつや/擁書倉/報国恩舎/知非斎、法号；天真院、与叔ともよしの父

- V3153 知邦(ともくに・田中たなか、通称；七右衛門) 1847-? 近江栗太郡の国学者；平田鍊胤門、
維新後；島根県参事官、「衛生事務要書」編
- P3141 友九郎(初世ともくろう・百村もむら)?-? 大阪の歌舞伎役者；大立者、井筒一斎の兄
友九郎(2世ともくろう・百村、初世の弟) → 一斎(いっさい・井筒/百村、歌舞伎役/作者) C 1 1 7 9
伴九郎(ともくろう・原) → 眞武(まさたけ・原はら/吉岡、歌人) R 4 0 9 8
- U3116 知子(ともこ・池田いけだ、号；寛彰院、関白左大臣一条忠良女) 1797-1858 62 京の生、
備前岡山藩主池田斉政男の池田斉輝(なるとる)(1797-1819早世23歳没)の正室、歌人
- W3144 譜子(偕子ともこ・前田まえだ、將軍徳川家斉21女) 1813-68 56 母；中野碩翁養女の於美代、江戸大奥生、
1827(文政10/15歳)加賀12代藩主前田斉泰の正室；本郷上屋敷溶姫御殿入(正門が赤門)、
前田慶寧(加賀藩主)・池田慶栄(鳥取藩主)の母、1866夫斉泰隠居；慶寧が藩主、
親幕派の夫と尊皇派藩主慶寧との対立や溶姫取巻の専横で藩士は將軍家出の溶姫を恨む、
1868(慶応4)戊辰戦争で江戸を発ち金沢到着後没、
徳川家慶の異母妹/家定・家茂の叔母/近衛文麿の外曾祖母、歌人、
[譜子(；名)の別名/通称]別名；溶姫(やすひめ)/偕子ともこ、通称；景德夫人、法号；景德院
- V3160 備子(ともこ・伊達だて、別名；綱姫/号；備晃院、鷹司政熙[1761-1840]24女) 1828-52 早世 25 京の生、
近衛忠熙養女、歌人、1852陸奥仙台藩13代藩主伊達慶邦(よしく)(1825-74)の正室、
鷹司政通・依子・隆子・吉子・繫子・景子・祺子・定子・并子・任子・祥子・定演らの妹
倫子(ともこ・源) → 倫子(りんし/ともこ・源みなもと、道長妻/歌) K 4 9 3 6
- U3148 知言(ともこと・大江おえ、豊前守広惟の長男) 1774-1846 73 加賀江沼郡菅生石部(すどういそ)神社神主、
歌人；芝山持豊門、従五位下撰津守、和漢学を修学；国学者、
1831(天保2)大聖寺藩主前田利之(菅生神官)の命で日本書紀に訓点；衣服を賜る、
[知言(；名)の通称]通称；撰津守
具言(ともこと・源/堀川) → 具言(ともとき・源/堀川、歌人) P 3 1 9 1
- P3142 共惟(ともこれ・山国やまぐに、共昌ともまさ男) 1814-65 斬刑 52 母；山川源兵衛正誠女、水戸藩士/槍術・文学、
藩校弘道館槍術指南役/1838床机廻/馬廻組/小納戸役/小姓頭取、1858以後尊攘派；
父と共に天狗党蜂起に参加/越前に敗走/父と敦賀で処刑、「旭桜雑誌」著、
[共惟(；名)の幼名/通称]幼名；喜太郎、通称；淳一郎
友五郎(ともごろう・飯川) → 定文(さだふみ・飯川いかわ、藩士/歌人) N 2 0 8 3
友五郎(ともごろう・小守/小野) → 広胖(こうはん・小野、和算/幕臣) K 1 9 9 9
伴五郎(ともごろう・渋川) → 時英(ときひで・渋川しぶかわ、武道家；柔術) J 3 1 9 0
伴五郎(ともごろう・三好) → 想山(しょうざん・三好みよし、藩士/書家) J 2 2 3 0
友左衛門(ともざえもん・市川) → 忠雄(ただお・市川いかわ、国学者) V 2 6 6 6
友左衛門(ともざえもん・沢野) → 明善(あきよし・沢野さわの/藤原、藩士/歌) H 1 0 7 0
- P3143 具定(ともさだ・堀河ほりかわ/本姓；源、源通具男) 1200-36 37 母；俊成卿女(俊成の孫・猶子)、廷臣；
1221従三位/25正三位/1207侍従(終生)、連歌；1470刊「北畠家連歌合」入、歌人；

- 勅撰5首;新勅(1037/1185)続後撰(1171)続古今(1624)風雅(677)、源俊定の父、
[春の月かすめる空の梅むめが香に契りもおかぬ人ぞ待たるる](新勅撰;1037/百首歌の詠)
- P3144 **朝定**(朝貞ともさだ/あささだ・上杉うえすぎ、重頭男/本姓藤原) 1321-52³² 武将;正五下/弾正少弼/左将監、
室は尊氏の姪、頼成の甥、重藤・重能の兄弟、歌人、1346足利直義「貞和百首」の清書、
直義が尊氏と不和の後も直義に出仕、風雅集3首;815/909/1373、
[篠の葉の上ばかりには降りおけど道もかくれぬ野辺の薄雪](風雅集;八冬815)、
[朝定(;名)の法号] 道禅
- P3145 **朝定**(ともさだ/あささだ・大田垣おたがき/本姓;日下部くさかべ、忠説ただとき男)?-? 武将;但馬山名家家臣、
能登守、連歌:父と共に宗砌門、1512連歌論書「連歌の覚悟」、連歌論書「童子問答」著
- P3146 **知貞**(ともさだ・土屋つちや、円都男) 1594-1676⁸³ 母;朝比奈信置女、幕臣;1614大阪陣で軍功、
1615上総に采地5百石、33武蔵に2百石加増/45御船手頭/74致仕、歌人、
「関原記」「土屋忠兵衛知貞私記」著、
[七十年のとしふりまさる鈴鹿川八十瀬にあすは渡りつかなん]、
(茂睡[鳥の迹]冬520/七十九の暮に読みける)、
[知貞(;名)の通称/法号]通称;左門/忠兵衛、 法号;日忠
- P3147 **朝貞**(ともさだ・宮後みやじり/本姓;度会、檜垣常純男/朝雄ともたけ養子) 1596-1682⁸⁷ 伊勢外宮禰宜、
従四上、1644「二宮諸社名式図」編、「神皇雜用先規録」著
- P3148 **友貞**(ともさだ・井上いのうえ) 1626-1695⁷⁰ 江前期京の俳人;立圃門、1664独吟千句「神子舞みこのまい」著、
1665「天神法楽集」、77「唐人踊」編、重徳「続独吟集」上巻入、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
後半生は歌人:[井上友貞亭会]を催、
[松梅や神の右の手左の手](神子舞の巻頭発句)、
[友貞(;名)の通称/号]通称;十右衛門、号;随入軒/渺宇子
- U3128 **知貞**(ともさだ・今田いまだ、) 1780-1840⁶¹ 備前岡山藩士、歌人、妻;糸子(;歌人)、
[知貞(;名)の通称/号]通称;長八、号;待風
- P3149 **知貞**(ともさだ・山口やまぐち、通称;半平/吉太夫) 1790-1870⁸¹ 加賀大聖寺藩士;算用吏/60石、
和算家;河島偕矩門、藩札手形元締役、「関流算法天地人目次」著
- T3193 **友貞**(ともさだ・長尾ながお、通称;津守)?-? 江後期;美作勝田郡美野村の社務、歌人、
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- W3136 **知貞**(ともさだ・本荘ほんじょう/本姓;本庄、) 1830-79⁵⁰ 近江蒲生郡の医者、本荘知和ともかずの兄、
国学;平田鏝胤門、
[知貞(;名)の通称/号]通称;敬造、号;彩石
具定母(ともさだのはは・源、藤原俊成養女、源通具妻;離婚、1231日吉社撰歌合参)
→ 俊成卿女(としなりきょうのむすめ・越部禅尼/嵯峨禅尼、藤原盛頼女) 3 1 4 5
- T3113 **ともさと**(知郷?・藤原ふじわら)?-? 左衛門尉佐藤公清の孫(尊卑分脈)、知基の実父、
歌;後葉集1首入(525)、
[五月とて軒にあやめもふかざりきねばかりこそは袖にかけしか](後葉;雑525、
かじこまりに侍りける五月の比 女の許に贈る)
- P3150 **友郷**(ともさと・浅加あさか、幼名;左太郎/通称;左藤次、久敬男)?-1727 加賀金沢藩士、
詩歌を嗜む、友郷口述「武家耳底記」(;1731朝倉東軒筆記/跋)、大伯父が浅香を浅加に改姓
- T3191 **知哲**(ともさと・赤川あかがわ、岩松藤市2男) 1761-1838⁷⁸ 信濃飯田藩士赤川常宣の長女里枝りえの婿、
飯田藩士/歌;桃沢夢宅門、知至ともゆきの父、妻の里枝りえも歌人、
[知哲(;名)の別名/通称/号]別名;正道、通称;内藏太くらた/七郎左衛門/武兵衛、号;格徴
- P3151 **知郷**(ともさと・志野しの) ? - ? 江後期天保1830-44頃紀州藩士、
和算;内田五観/和田寧門、1832「測量町見術」/34「髻機算法」編、根来正庸・杉田直孟の詩、
[知郷(;名)の字/通称/号]字;操夫、通称;庄之助、号;権山
友郷(ともさと・鈴木) → 房政(ふさまさ・鈴木すずき、国学/歌人) I 3 8 3 7
- P3152 **友実**(ともさね・藤原ふじわら、初名;保実やすざね、季綱男) 1062-97³⁶ 平安後期廷臣;能登少掾/文章得業生、
1090対策に及第/91院蔵人・式部少丞/94院昇殿/勘解由次官/従五下、師通と交流、
詩人;中右記部類紙背漢詩集・和漢兼作集入/続文粹入、実兼の兄、源頼政母の父
- P3153 **友実**(ともさね・吉井よい、初名;徳春、友昌男) 1828-91⁶⁴ 薩摩鹿児島藩士;1856大坂藩邸留守居、

1859帰国;利通・隆盛らと国事奔走、1861徒目付/62島津久光と上京/変名し江戸へ、
戊辰戦従軍;鳥羽伏見で藩兵を指揮/維新後は天皇側近、憲法案参画、「吉井幸輔書簡集」著、
[友実(名)の幼名/通称/変名]幼名:仲助、通称:幸輔/仁左衛門/中介、変名;山科兵部

友真(ともざね・天川) → 友春(ともはる・天川あまかわ/赤松、酒造業/歌) Q 3 1 2 9

友三郎(ともさぶろう・京極) → 高朗(たかあきら・京極きょうごく、藩主/詩人) L 2 6 5 1

友三郎(ともさぶろう・外山/深見) → 篤慶(あつよし・深見ふかみ、商人/歌) E 1 0 9 6

友三郎(ともさぶろう・飯島) → 温郷(おんきょう・飯島、歌人) D 1 4 3 9

友三郎(ともさぶろう・井上) → 亀友(きゆう・春河亭、井上いのうえ、俳人) M 1 6 2 1

友三郎(ともさぶろう・宇津木) → 静斎(せいさい・宇津木うづぎ、儒者) I 2 4 3 1

友三郎(ともさぶろう・袴田) → 勝彦(かつひこ・袴田はかまだ/藤原、歌人) V 1 5 3 6

朝次(ともじ・坂本) → 秋郷(あきさと・坂本さかもと、国学/神職) H 1 0 6 7

伴鹿(ともしか→ともか・山平) → 伴鹿(ともか・山平やまひら、歌人) E 3 1 5 8

P3154 倫重(ともしげ・三善みよし/矢野、行倫男) 1190-1244⁵⁵ 武将;越中大掾/少外記/日向介、
民部大夫/外記、1225鎌倉幕府初代評定衆、1232大和守/37対馬守/41従五上、
「鶴岡八幡宮勘文」著

P3156 友茂(ともしげ・藤原、能茂よしげ[1205-68]男) ?-? 鎌倉期廷臣;嘉陽門院判官代、
歌人・1236遠島歌合(後鳥羽院の隠岐での机上歌合);10首入
[朝まだきたつや霞の波まより昨日は見えし淡路島山](遠島歌合;八番左15)

P3157 具茂(ともしげ・堀川ほりかわ/本姓;源、具世男) ?-? 1501存 戦国期廷臣;左中将/正四下、
1467(応仁元)参議、従三位、1470(文明2)参議辞任;左中将(1476まで)、
1486-1500(文明18-明応9)消息不明(公卿補任)、1501(永正)正三位(前参議)/以後不明、
連歌:1470教具催「北畠家連歌合」参加、
[うら見てだにも君したふ色

ちぎりばや末つむ花のから衣](北畠家連歌合;恋百十二番左、右は平千盛)

P3158 倫重(ともしげ) ? - ? 江前期俳人;1666一雪「阿波千句」百韻参加

T3104 備重(ともしげ・広瀬ひろせ、通称;弥兵衛) ?-? 江中期和算家;岡井茂兵衛門、江馬久重と同門、
1718(享保3)「通俗平かな天元」/93(寛政5)刊「算法智恵海大全」著

W3172 扶疏(ともしげ・森川もりかわ、通称;友吉/号;杜園とえん) 1820-94⁷⁵ 大和奈良の人形師/絵師/狂言師、
絵画;内藤其淵門/刀法;1837岡野保伯門/奈良人形を制作、国学・歌;伴林光平門、
1842(23歳)大蔵流狂言師山田弥兵衛を襲名、[三職](絵師・狂言師・奈良人形師)を名乗る、
「舞楽納蘇利置物」(天皇に献上)/「法隆寺九面観音模像」/「正倉院宝物の模造と模写」、
辞世[罷り出てあらぬ手業てわざを世に残しさも恥しと身は隠れつる]

友重(ともしげ) → 友重(ゆうじゅう、江戸俳人) C 4 6 3 0

友重(ともしげ・梶谷) → 友重(ゆうじゅう・梶谷かじたに、大和俳人) C 4 6 6 6

友重(ともしげ・山浦) → 友重(ゆうじゅう・山浦やまうら、越後俳人) C 4 6 3 1

友七(ともしち・飯島) → 吐月(とげつ・飯島、俳人) L 3 1 6 3

伴七(ともしち・根岸) → 友山(ゆうざん・根岸、農業/儒者/武術) C 4 6 0 2

伴七(ともしち・根岸) → 武香(たけか・根岸ねざし、友山男/国学者) O 2 6 3 0

伴七郎(ともしちろう・小林) → 長義(ながよし・小林こばやし、国学者) M 3 2 1 2

伴十郎(ともじゅうろう・大幸) → 岱巖(たいげん・大幸おおさか/児玉、漢学) T 2 6 9 4

T3179 とも女(ともじょ・浅野あさの) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[うき事に心くだくとみし夢も覚めてうれしきにはとりの声](大江戸倭歌;雑1785)

伴四郎(ともしろう・上野) → 片石(へんせき・上野うえの、藩士/俳人) B 2 7 3 2

友次郎(ともじろう・鶴沢) → 清七(初世せいしち・鶴沢、義太夫三絃) B 2 4 9 2

友次郎(ともじろう・池内) → 信夫(のぶお・池内いけうち、藩士/養蚕) H 3 5 2 8

友季(ともすえ・藤原) → 寂阿(じやくあ、廷臣/出家/連歌) V 2 1 8 7

X3133 知資(ともすけ・藤原ふじわら、資隆[平安後期従四下肥後守/歌林苑衆]男) ?-? 母:駿河守藤原説定女、
鎌倉期廷臣/正五下民部少輔、歌人;1234-5成立[雲葉集]入、師隆・聖兼(法印)の父、
[前内大臣(九条基家/1203-80/雲葉集撰)家五首歌に、

みつしほにかたえはなみの花なれや入りぬる磯のおふのうらなし](雲葉:春235)

- P3159 **友傳**(ともすけ・賀茂かも/幸徳井こうとくい、友種男)1648-8235 陰陽家:1661陰陽頭/79従四下/81曆博士、1682「天和三年曆歳次」編、友信の父
- P3160 **知亮**(ともすけ・茂木もてぎ、通称;頼母)1686-175368 秋田藩士/歌;冷泉為久門/俳人;也柳門/美濃派、「茂木家集」「伊勢宮奉納百首」「名所百首詠」「男鹿巡島の記」著、「拾藻集」補訂、知賢ともかた父、[知亮(;名)の号] 是好齋/足軒主人/好文/文贅
- P3161 **友輔**(ともすけ・久世くげ、名;栄長ひでなが、光当男)1751-181464 美濃大垣の心学者:手島堵庵とあん門、帰郷後;深造舎設立;子弟教育、藩侯より3度の恩賜、各地を遊説、俳人;五竹坊門、1790「道のしをり」1811「心得草」12「泊船集註解」13「俳諧花鳥千句」著、順允じゅんいの兄、[友輔(;通称)の字/別通称/号]字;子陽、初通称;治郎右衛門、号;軽花坊/麗沢園/廬甫、法号;文誉友輔居士
- V3186 **具典**(ともすけ・所ところ/本姓;源、)1791-183242 近江彦根藩士;大津蔵目付、歌人:[彦根歌人伝・亀]入、[具典(;名)の別名/通称]別名;具長/長典/具良、通称;藤七
- 朝弼(ともすけ・園田) → 不時宜(ふじぎ・園田、藩士/儒/教育) C 3 8 4 3
- 友輔(友助ともすけ・加藤) → 景範(かげのり・加藤かとう、儒/歌学者) B 1 5 9 0
- 友輔(ともすけ・飯泉) → 喜内(きない・飯泉いづみ、勤王派志士) L 1 6 6 8
- 友輔(ともすけ・岡野) → 黄石(こうせき・岡野おかの、藩儒臣/詩人) K 1 9 0 8
- 友輔(ともすけ→ゆうすけ・内村) → 鱸香(ろこう・内村うちむら/本郷屋、藩儒) B 5 2 4 7
- 友助(ともすけ→ゆうすけ・岡田) → 玉山(ぎよくざん・岡田おかだ、絵師) D 1 6 0 0
- 伴助(ともすけ・玉置) → 喬直(たかなお・玉置たまき、書家/歌人) M 2 6 5 3
- 高靱(ともすけ・城子) → 高靱(たかとも・城子しろこ、商家/国学者) X 2 6 6 1
- P3162 **和澄**(ともずみ・榎並えなみ、通称;権右衛門)?-? 江戸前期1630-60頃大阪の和算家、古算法の格式の乱れを正し商立術式を案出、1653「参両録」58「曆学正蒙」著
- U3135 **知澄**(ともずみ・内山うちやま、)1780-184970 母;本子もここ、飛騨高山の国学者/歌人;田中大秀門、[知澄(;名)の通称/号]通称;忠三郎/忠右衛門、号;緑蔭
- 与清(ともずみ・小山田) → 与清(ともきよ・小山田/高田、国学/歌学) 3 1 6 0
- 伴蔵(ともぞう・三刀谷) → 扶明(すけあき・三刀谷みや、藩士) F 2 3 9 6
- 伴蔵(ともぞう・依田よだ) → 伴蔵(ばんぞう・依田よだ、藩士/残年さん) H 3 6 7 5
- 伴蔵(ともぞう・三浦) → 柴居(さいきよ・三浦みうら、俳人) G 2 0 6 3
- 伴蔵(ともぞう・中里) → 常秋(つねあき・中里なかざと、国学者) G 2 9 0 6
- 伴造(ともぞう・横前) → 博久(ひろひさ・横前よこまえ、国学者) M 3 7 3 2
- 友三(ともぞう・市川) → 忠雄(ただお・市川いちかわ、国学者) V 2 6 6 6
- 友蔵(ともぞう・田中) → 月歩(げつぽ・田中たなか、俳人/文人) H 1 8 3 6
- 友蔵(ともぞう・城戸) → 芙蓉(ふよう・城戸きと、儒者/詩人) E 3 8 4 8
- 友蔵(ともぞう・天野) → 重国(しげくに・天野あまの、歌人) N 2 1 2 0
- 友蔵(ともぞう・中里) → 常季(つねせ・中里なかざと、国学者) G 2 9 0 7
- 知蔵(ともぞう・三輪) → 経年(つねとし・三輪みわ、製造業/歌人) G 2 9 5 0
- 靱太(ともた・矢野) → 高靱(たかとも・矢野やの、庄屋/国学/歌) 2 7 0 4
- P3163 **友隆**(ともたか・阿蘇あそ、友貞男)?-1718 代々阿蘇神社の神官;大宮司/宮内権大輔、1716(享保元)辞職、書に通ず、1676「阿蘇宮井蛙問答」/79「中臣祓一毛抄」著、1688「神道故実問答」著、1690(元禄3)「阿蘇名所集」編
- U3109 **友嵩**(ともたか・伊藤いとう、友次男)1665-172157 常陸水戸藩士;執政、徳川光圀の従弟、1690(元禄3/26歳)家督嗣;父同様に書院番頭/大番頭/1707老中・従五下、玄蕃頭を称す、歌人、息子なく末弟の友益が家督嗣、[雲はらふ風もときどきおとづれて月澄みのぼる峰の松原](茂睡[鳥の迹]秋319)、[友嵩(;名)の通称]通称;久内/勘解由かげゆ/玄蕃頭げんぼのかみ
- P3164 **朝番**(ともたか・津軽つがる)1732- 177645 陸奥弘前藩士;千五百石/1748表書院番頭、1757書院大番頭兼寺社奉行/61致仕/65隠居、雑俳;風雲斎風状・句星庵田鶴樹門、1768「みそささい」69「続みそささい」/71「此春帖」「四十賀帖」、「千尋草」「鶯一口」著、

- [朝喬(；名)の通称/号]通称；定五郎/百助、号；文卿/風石/桜梅軒/此君亭/可也庵/石城山人
P3165 **知隆**(ともたか・小塚こづか) 1787- 1842⁵⁶ 尾張愛知郡本郷村の白山神社15代神主、
「四季近郷集」著、
[知隆(；名)の通称/号]通称；甚太夫、号；東竹亭/白龍/濃陽軒
- P3170 **知孝**(ともたか・志村むら) ? - ? 絵師；本草写生、1828岡村尚謙「桂園竹譜」画、
幕命；1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂参加
- P3166 **朝喬**(ともたか・宮後みやじり、朝榮男/本姓；度会) 1787-1861⁷⁵ 伊勢外宮神職；1844一禰宜/従二位、
篆刻；2代目浜村蔵六門/歌；荒木田久守門/画；竹山門、茶人、「朝喬卿日次」著、
[朝喬(；名)の別名/通称/号]初名；高朝、通称；久寿大郎、号；袴田/袴田館磯水/鶯軒
- T3199 **友嵩**(ともたか・渥美あつみ、通称；新左衛門)?-? 江後期；越前福井藩士/国学；八木静修に触発、
上京；歌人；冷泉家に入門、1861松平慶永(春嶽)「古今百人一首」入、
[大空の月は心の鏡かも忍べばうつるいにしへの秋](古今百人一首；63)
- 友隆(ともたか・九鬼) → 守隆(もりたか・九鬼くき/藤原、藩主) F 4 4 5 7
知孝(ともたか・福住) → 清年(きよとし・福住ふくずみ、国学者) V 1 6 1 1
智匡(ともたか・鈴木) → 智匡(ちきょう・鈴木すけ、歌人) L 2 8 5 6
- P3167 **朝雄**(ともたけ・宮後みやじり、通称；又七郎、朝直男/本姓度会) 1570-1644⁷⁵ 伊勢宮後神職；
1606外宮禰宜、1627二禰宜/歌、「大神宮仮服令」著
- P3168 **朝豪**(ともたけ・土岐とき、朝旨ともむね男)?-?1830-44頃没 1820幕臣/左兵衛佐、1811「柳営婦女伝」著、
[朝豪(；名)の通称] 銓之助/詮之助せんのかげ
友竹(ともたけ・人見) → 直養(なおやす・人見ひとみ、医者) C 3 2 7 8
友竹(ともたけ・童部/笑陪) → 童部友竹(笑陪-わらべのともたけ、狂歌) 5 3 6 6
- P3169 **友忠**(ともただ・小川おがわ、藩医岡本瑞庵男) 1791-1853⁶³ 小川善之助の養嗣子；出雲松江藩士、
1813大番組、江戸銀奉行/納戸役、天文観測と研究；暦日自鳴鐘(時計)を発明；藩主に献上、
1838「西洋時辰儀定刻活測」、「渾天儀略解」著、
[友忠(；名)の通称/号]通称；大之進、号；観流
- W3171 **知忠**(ともただ・森もり、旧姓；斎藤) 1814-1882⁶⁹ 信濃伊那郡の国学者/歌人、
[知忠(；名)の通称/号]通称；丈助、号；麦兄
- V3130 **友忠**(ともただ・佐田さだ/本姓；藤原、内川野村庄屋の友貞男) 1839-68斬殺³⁰ 豊前宇佐郡佐田村の生、
歌；本家の熊本町奉行の佐田玄景門、国学・歌；物集高世門、皇典；近藤弘之門、
幕末期；東西の志士と交流/家督を弟に譲る/同志と楠公会を創設；勤王倒幕思想を鼓吹、
1865(慶応元)山国谷木ノ子岳の高橋清臣邸で討幕計画を密議；日田代官捕吏による監視、
長州報国隊入隊/1868(慶応4)鳥羽伏見後；花山院家理を奉じ御許山に挙兵計画；
長州藩の誤解により斬殺、
[友忠(；名)の初名/通称/号]初名；秀、通称；五郎作/内記兵衛、号；轟秀/日出留
朝尹(ともただ・藤原男) → 朝尹(あさただ・あさまさ・藤原、廷臣/歌人) B 1 0 0 2
智忠親王(ともただしんのう) → 智忠親王(としただしんのう・八条宮、歌人) M 3 1 7 5
- P3171 **朝竜**(ともたつ・片桐かたぎり、河兵衛朝高男) 1700-81⁸² 会津藩士；1749郡奉行、
岩代二本松藩との境界争いの功績、「不問語」「風車軍旅」著、
[朝竜(；名)の通称/号]通称；八左衛門、号；習元井堂/武水軒/伏翼子/蘇計、法号；厚信院
友太夫(ともたゆう・寺沢) → 友斎(ゆうさい・寺沢てらさわ、書家) B 4 6 7 1
友太夫(ともたゆう・蔵田) → 茂穂(しげほ・蔵田くらた/藤原/小宮山、役人/歌人) O 2 1 3 0
- P3172 **知足**(ともたり・高橋たかはし、通称；吉太郎/丈右衛門)?-? 江後期越後長岡藩士/和算家；太田正儀門、
「解義」「算類五十問」著
- P3173 **鞆足**(ともたり・岡本おかもと) 1787-1835⁴⁹ 紀伊の銅印鑄刻を嗜む、郷土史家、
「紀伊国人物誌」著、
[鞆足(；名)の通称/号]通称；晋平、号；鳩方/立誠堂/傍丘里人
- P3174 **知足**(ともたり・前田まえだ/本姓；菅原、通称；三九郎)?-? 江末期加賀金沢藩士、前田知辰の裔、
1866-7「前田三九郎系図帳」著
知足(ともたり・小島) → 成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0
是足(ともたり・高浜) → 久人(ひさと・高浜たかはま/南条、商家/歌) K 3 7 1 3

友太郎(ともたろう・長野) → 豊山(ほうざん・長野ながの、儒者) B 3 9 1 0
 友太郎(ともたろう・高橋) → 盛的(もりただ・高橋たかはし、絵師/歌人) K 4 4 4 0
 友太郎(ともたろう・川波) → 素行(もとゆき・川波かわなみ、国学者) E 4 4 6 2
 友太郎(ともたろう・井上) → 信友(のぶとも・井上いのうえ、藩士/国学者) H 3 5 2 1
 友太郎(ともたろう・稲葉) → 英好(ひでたか・稲葉いなば、国学者) I 3 7 5 2
 友太郎(ともたろう・中島) → 健彦(たけひこ・中島なかじま、藩士/軍人) Y 2 6 5 3
 頼太郎(ともたろう・川崎) → 千虎(ちとら・川崎かわさき、絵師/故実家) F 2 8 0 7

- P3175 **具親**(ともちか・源みなもと;村上流、法名;如舜によしゆん、師光[生蓮]男)?(1185以前)-?1262存(80余歳)、
 母;巨勢宗茂女(後白河院安芸)、鎌倉初期廷臣;従四下左近少将、歌人;後鳥羽院に招かる、
 1200後鳥羽院正治後度百首に妹の宮内卿と参加;院側近歌人となる/院当座歌合参加、
 1201千五百番歌合参加/01和歌所寄人、05新古今竟宴に参加、1233以前に出家;法名如舜、
 1253為家[定家13回忌追善詩歌]参加;歌入、「五蘊歌」著、
 無名抄に寂蓮が非難した逸話入、御裳濯集/万代集/秋風集/雲葉集等に入集、
 勅撰21首;新古今(7首57/121/295/587/597/598/1559)新勅(3首)続拾(2首)新続古(3首)、
 [難波瀉かすまぬ浪も霞みけりうつるもくもるおぼろ月夜に](新古今;一春57)、
 [行末のほどをも空に朝たてばまだ山の端に有明の月](正治後度百首;366/暁)、
 父 → 師光(もろみつ・源、歌人) H 4 4 9 7
 弟 → 泰光(やすみつ・源、廷臣/歌) D 4 5 1 1
 → 尋恵(じんえ、天台僧/歌人) V 2 2 8 2
 → 澄覚(ちようかく、天台僧/歌人) N 2 8 9 7
 妹 → 宮内卿(くなくさう・後鳥羽院女房、歌) 1 7 0 5
- P3176 **知親**(朝親ともちか・内藤ないとう/本姓;源)?-? 鎌倉初期幕臣/歌人;藤原定家門、実朝の歌の師、
 実朝の使者として定家と連絡をとる、歌;新古今読人しらず入?
- K3196 **友親**(ともちか・丸山まるやま) ? - ? 備後の俳人;立圃門/1670種寛「俳諧詞友集」入
- I3191 **知周**(ともちか・岡見おかみ、初名;森準)1666-1702³⁷ 秋田藩士、知愛ともなるの父、「田沢紀行」著、
 [知周(;名)の通称/号]通称;専之助/藤治右衛門/藤次右衛門、号;幼童堂
- P3177 **友親**(ともちか・天川あまかわ、政友男/本姓;赤松)1722-82⁶¹ 播磨御着村の郷土史家、継父;定清、
 少年時上京/1736帰郷;祖父友春の養子;友春の感化で歴史に関心、「古処蹟略説」著、
 1753「大酒社略縁起」著/60「播陽万宝智恵袋」62「赤松諸家大系図」編、「名所古歌集」著、
 「寺院異物語」「諸所古今物語」「武名事实記」「十六郡寺院縁起」「十六郡神社略説記」著、
 [友親(;名)の幼名/通称/号]幼名;彦太郎、通称;与四松/喜右衛門/嘉兵衛、号;喬木堂
- P3178 **知親**(ともちか・青山あおやま、通称;九郎兵衛、晩年号;一阿)?-1802⁷⁰余歳 加賀藩士、歌人、
 前田土佐守に歌で出仕、和歌指南、「百官抄略要覧私稿」著、奥村尚寛の師
- P3179 **知周**(ともちか・前田まえだ、知定男/本姓;菅原)?-? 江後期金沢藩士;1782家督/寺社奉行/定火消、
 1802家老;1812世子前田斉泰付御用/32致仕、「前田知周筆記」1809「前田知周覚書」著、
 [知周(;名)の通称] 隼人助はやとのすけ/修理しゆり
- P3180 **知周**(ともちか・高橋たかはし、知格男)1794-1852⁵⁹ 伊賀上野の生/伊勢津藩士;1813津城に移住、
 家職の薙刀師範を継承;門弟を指導、1819郡奉行、武具奉行/武場目付、国学:本居宣長門、
 歌;香川景樹門、1829「古代連歌抄」編、「伊勢地誌」「田租考説」「田令考説」「瀬戸潭碑」著、
 [知周(;名)の通称/号]通称;省五郎、号;菅廼舎/目細園
- V3105 **知周**(ともちか・熊谷くまがい、)1808?-1868⁶⁰余歳 陸奥(陸中)一関藩士、国学者、
 [知周(;名)の字/通称]字;礼美、通称;軍記
- U3118 **知新**(ともちか・石川いしかわ、)1828-1906⁷⁹ 加賀金沢の神職/白山比咩しらやまひめ神社宮司、
 国学・歌人;田中躬之門、
 [知新(;名)の通称/号]通称;昌三郎、号;澹堂/楓廼舎
- W3124 **友愛**(ともちか・藤田ふじた/本姓;秦、旧姓;永本)1835-1905⁷¹ 伊勢度会郡の師職家/国学者、
 [友愛(;名)の初名/通称]初名;千束、通称;定次郎/勇輔/与太夫
 知周(ともちか→ともかね・栗田) → 知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人) P 3 1 3 6
 知周(ともちか/ともかね?・浦野) → 神村(しんそん・浦野/源/田中、藩士/儒者) P 2 2 3 3

- 知慎(ともちか・細井) → 広沢(こうたく・細井ほせい/辻、儒/書家) 1 9 1 4
 知親(ともちか・大岡/渡辺) → 眞楫(まかじ・渡辺/大岡、幕臣/教育) 4 0 4 8
- P3181 知次(ともつぐ・青山あおやま、勇次の孫)?-1848 加賀藩士;1797祖父勇次の遺領を継承;7150石、
 1823藩家老;学者保護/蘭医招聘/器械購入、書画嗜む、
 1835「富山表へ御名代之御使一件」著、
 [知次(;)名]の通称/号]通称;与三/将監、号;淇水軒/清陰亭/碧鮮堂
 友次(ともつぐ・沢野) → 明善(あきよし・沢野さわの/藤原、藩士/歌) H 1 0 7 0
- P3182 共綱(ともつな・清閑寺せいかんじ、共房男/本姓;藤原) 1612-1675 母;光源寺知祐女、廷臣;1639参議、
 1655権大納言/75従一位、1651日記「共綱卿記」著、法号;覚寿院、熙房・共子の父
- P3183 倫綱(ともつな・朽木くつき、鋪綱のぶつな男) 1767-1802³⁶ 1786兄昌綱の養子;
 1802相続;丹波福知山藩主;まもなく没、1802「岩間の水」著、妻;松平直紹女、
 綱条つなえだの父、
 [倫綱(;)名]の幼名通称/法号]幼名(通称);周三郎/千之助/舍人、法号;義運院
- T3167 智綱(ともつな・鈴木すずき) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [隅田川水のみどりの色はえて岸のかれふに積る白雪](大江戸倭歌;冬1300/河上雪)
- 朝綱(ともつな・佐々木) → 松雨(しょうう・佐々木ささき、町役/俳人) F 2 2 2 8
- P3184 知綱母(ともつなのは・藤原ふじわら、日野資業女)?-1057 尾張守藤原惟経の室、白河天皇の乳母;今鏡入、
 藤原知綱(従四下阿波守)の母、兄弟;藤原(日野)実綱・実綱、
 歌;金葉Ⅲ604(Ⅱ612は知信ともつな[知綱男]の作)、
 [流れても逢瀬ありけり涙川きえにし泡を何にたとへん](金葉三奏本;604)、
 (我が子知綱の死後に流刑者が赦免され帰京するのを聞き詠む)
- P3185 五常(ともつな・高丘/高岳たかおか)?-? 平安前期廷臣/857文章得業生/881左少史/少外記、
 885大外記/897大学助/従五下、詩人/紀長谷雄と親交、扶桑集・新撰朗詠集・文粹入
- P3186 朝常(ともつな・津田つた、朝親ともちか男) 1638-1706⁶⁹ 岩代会津士:寺社奉行/事に連座し罷免、
 歌人:山本春正門、「津田朝常百首」著、
 [朝常(;)名]の通称/法号]通称;刑部左衛門/刑部右衛門、法号;嶺響院
- P3187 知常(ともつな・大口おおぐち) ? - 1822 近江八幡の町人/心学者:上河洪水・鎌田柳泓門、
 1810頃郷里に汎愛舎設立;舎主となる/近江の心学普及に貢献、
 1798「知常道話稿本」1815「心学寿草」18「湖山心得書」著、
 「心学道しるべ」「いろはちなみ草」著、
 [知常(;)名]の字/通称/号]字:子容、通称;丁字屋善次郎、号;湖山
- P3188 知常(ともつな・古宇田こうだ、通称;伯明)?-? 江後期医者:灌水による治療法の研究、
 1811「灌水論」12「灌水編」、37「灌水伊呂波歌」、「和し考」「万病水療治いろはうた」著
 ☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の[知常]と同一?
 [手ならせば風のやどりとなるままにしばしも団扇おかれざりけり](大江戸倭;628)
- W3125 知恒(ともつな・藤田ふじた、旧姓;尾崎) 1805-51⁴⁷ 伊勢度会郡の国学者、
 [知恒(;)名]の通称/号]通称;作太郎/与右衛門、号;再可
 共常(ともつな・竹内/松永) → 蘄斎(けいさい・沖、藩士/儒者) E 1 8 6 9
 知常(ともつな・望月) → 武然(ぶねん・望月もちづき、書家/俳人) D 3 8 6 0
 知常(ともつな・関) → 常明(つねあき・関せき、医者/神職) F 2 9 8 6
- P3189 友鶴(ともつる・千歳軒せんざいけん、田中たなか、名;久福/了源、庄屋田中久継男)?-1824 信濃東上田村の生、
 狂歌:江戸の大田南畝・四方滝水門、師の蜀山人南畝を郷里に招待、村内に真言供養塔建立、
 伊勢・京を行脚、1818「賀筵友鶴集」著、法号;幸松院、
 [千歳軒友鶴(;)号]の通称/別号]通称;左内、別号;千鶴亭友年/田鶴家友臣/鶴廼友年/鶴友
 倫任(ともつる・下平) → 倫訓(ともつる・下平しもひら、神職/国学) V 3 1 4 0
- P3190 知辰(ともとき・井関いぜき、通称;十兵衛)?-? 江前期元禄1688-1704頃の和算家:島田尚政門、
 1690「算法發揮」、「峽知算法」著
- P3191 具言(ともとき・堀川/本姓;源、具信男/祖父具親の養子)?-1418 南北期廷臣;右中将/1379参議、
 正四下/1382従三位;辞任/84還任/85土佐権守兼任/86正三位/88権中納言;90辞任、

1404権大納言/従二位/06致仕/08正二位/16出家、歌;1407内裏九十番歌合参加;3首入、
[あきらけき君が光をなほそへて雲井にさゆる冬の夜の月](内裏九十番;十一番右22)

P3192 **朝辰**(ともとき・成田なるた/羽生) 1759-1833 75 豊前中津藩士/砲術・武芸に精通;20余歳で致仕、
卜占家;売卜、江戸住、狸の絵が得意、工藤行広・高山彦九郎と交遊、「狸説」編、
[朝辰(;)名の通称/号]通称;源十郎、号;狸庵/狸隠道人/櫟山/淡水斎

T3161 **知言**(ともとき・犬甘いぬかい) ? - ? 江後期;歌人、豊前小倉藩主小笠原家の家臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ますらをがししおふ声も小夜更けて山田のいほにすめる月影]、
(大江戸倭歌;秋877/田家月)

知言(ともとき・村井) → 知衡(ともひら・村井、藩士/兵法) Q 3 1 3 8

共時(ともとき・柴田) → 善伸(よしのぶ・柴田しばた、藩士/測量術) F 4 7 6 8

P3193 **具俊**(ともとし・惟宗これむね) ? - ? 鎌倉中期弘安1278-88頃の医者、
1284「節用本草」著、1286「本草色葉鈔」編、「医談抄」著

T3115 **友俊**(ともとし・星野ほしの) ? - ? 江前期上方の俳人、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[白炭やふたたびつもる木々の雪](難波色紙;84/白炭;茶の湯用の飾炭;雪に見立てる、
原木時の雪と合わせて2度)

P3194 **友俊**(ともとし・中原なかはら/家名;山口、羽田幸成男) 1684-1756 73 母;河原実治女、中原友昌の養子、
廷臣;1729少外記/38少内記/45従五上、1735「三日鈔」、「続日本綱要記」/「化粧眉作の事」、
「桜町天皇御即位次第三日抄」「享保十二年御即位第三日抄」「友俊記」著、
「御即位大嘗会ふみ」著

P3195 **友俊**(ともとし・入江いりえ、住友友芳男) 1718-99 82 大坂豊後町両替商/1743住友から豊後町に分家、
入江家を独立、異母兄友昌の依頼で本家の家政改革:
1751本家豊後町家・別子銅山・江戸店など各店部ごとに「勤方帳」など種々家法書を制定、
江戸浅草札差店の開設/別子・立川銅山の合併など事業拡大;住友事業精神の基礎を築く、
1758友昌没後の19歳の友紀が家督嗣;その後見となり実権把握/1786隠居、友直の父、
漢学;五井蘭洲門/国学・歌;冷泉為村門/儒・神道;原清茂門、
[友俊(;)名の通称/号]通称;理兵衛、屋号;泉屋、隠居号;育斎、法号;義泉院

W3166 **知利**(ともとし・茂木もてぎ、?)-弘化(1844-48)頃没 出羽久保田(秋田)藩士;郊外で農業、
国学者/歌人、1811(文化8)秋田遊覧の菅江眞澄と揮毫会を催す、那珂通博と親交、
滝沢馬琴と交流/諸家から染筆(揮毫)收拾;「芝蘭選」編(馬琴跋;1814)
[知利(;)名の別名/号]別名;巽たつみ/知貴、号;蕉窓しょうそう

友俊(ともとし) → 友俊(ゆうしゅん・杵春きねはる、俳人) C 4 6 3 9

友俊(ともとし・風月庵) → 風月庵眉住(ふうげつあんまゆずみ、狂歌作者) 3 8 5 0

友年(ともとし・千鶴亭/鶴廼) → 友鶴(ともつる・千歳軒、狂歌) P 3 1 8 9

知利(ともとし・都筑) → 十蔵(じゅうぞう・都筑つぎ、藩士/詩人) X 2 1 9 1

知利(ともとし・下村) → 助之進(すけのしん・下村しもむら、武芸者) G 2 3 8 0

具豊(ともとし・織田) → 信雄(のぶお/のぶかつ・織田おだ、武将/茶人) B 3 5 0 0

P3196 **知虎**(ともとし・土屋つちや、後藤祐元男) 1724-94 71 土屋知見の養嗣子、羽後秋田藩士;
1739大小姓番頭、66寺社奉行/67家老;73御叱御免:退任/76致仕、詩人、「雲窩亭随筆」著、
[知虎(;)名の字/通称/号]字;文甫、通称;外之助/富之丞/弥五左衛門、
号;泗橋/遊鷗/雲窩亭、法号:泰盛院

朝名(ともな・度会) → 朝名(あさな・度会わたらい、神職/歌) E 1 0 3 5

X3124 **朝直**(ともなお・北条ほうじょう/本姓;平、時房男) 1210-68 59 鎌倉幕臣;武蔵守/正五下、歌人;柳風抄入、
時盛・時村・時直・資時の兄弟/朝房・宣時(大佛/歌人)・時貞の父、孫の宗宣・時親も歌人、
北条義時の甥、
[おほかたのならひとしりてみる時にかすめる月のかげもうらみぬ](柳風抄;春19)

P3197 **友直**(ともなお;名・川崎屋、通称;源左衛門、剃髪後法名;宗立) ?-? 撰津大阪の商人/俳人;立圃門、
1652「若狐わかぎつね」編、「俳諧独吟集」著、1656休安「ゆめみ草」入、
1660重頼「懐子ふところ」・65立圃「小町踊」・74宗旦「遠山鳥」入/76西鶴「古今俳諧師手鑑」入、

[秋鹿の寄る笛の音や想夫恋](手鑑、

徒然草九段;女の履ける足駄にて作れる笛には秋の鹿必ず寄るとぞ)

- V3176 **友直**(ともなお・土橋つはし、三宅孫左衛門友政男)1687-173044 和泉貝塚の生/1701三宅如幽の養子、1708摂津東成郡の菓種業土橋家を継嗣、歌学;河瀬菅雄門/古学;伊藤仁斎門、陽明学:三輪希賢(執斎)門、陽明学の知行合一に共鳴;恒久的な儒学学習会設立、1717(享保2)郷町民有志と[同志中](組合)結成;庶民運営の郷学[含翠堂]設立、民衆教育に尽力、含翠堂はのちの懐徳堂設立に影響を与える、[友直(;名)の字/通称/号]字;公諒、通称;平八郎/七郎兵衛/四郎兵衛、号;誠斎/好古堂/含翠堂
- P3198 **朝直**(ともなお・土岐とき、土岐[豊島]朝治男)1695-176167 和歌山藩士;徳川吉宗家臣、1716吉宗将軍となり江戸随従;幕臣/45西丸勤仕/6017寄合、弓術に秀づ;「騎射秘抄句解」著、[朝直(;名)の通称/法号]通称;藤之丞/左兵衛、法号;道機、
- P3199 **友直**(ともなお・相原あいはら)1703-178280 陸前気仙郡高田の医者;1720仙台の大島三設門、儒(経史):大島東岡・富春叟・佐久間洞巖門、京に游学、1729帰郷;医業、1717「塩竈巡覧記」、1744「松島名勝記」、53「平泉実記」、60「平泉旧蹟志」61「気仙風土草」、73「平泉雑記」著、1778「松島巡覧記」、「大木戸合戦記」「増広仙台領名所記」「続平泉雑記」著、「偃台名勝志」編、[友直(;名)の通称/号]通称;三畏、号;嘯嗷軒しょうごうけん
- Q3100 **知直**(ともなお・藤塚ふじつか)1715-7864 代々陸前塩竈神社の祠官;祖父高理の代に藤塚を称す、1736頃上京/神道・有職を修学、神道・龜卜・礼楽;吉見幸和門、歌;武者小路公野門、1743「神学初会記」(将軍家献納)、45「塩竈神社記」著、46「生死口訣解」編、知明ともあきの養父、[知直(;名)の通称/号]通称;式部/雅楽うた、号;恭軒、神号;豊魂霊神
- Q3101 **友直**(ともなお・桃井ももい、通称;又七郎)?-? 江中期信州松代藩士、1733真田家歴代の事績「滋野世記」編
- T3129 **友直**(ともなお・野口のぐち/本姓;藤原)?-? 江後期;紀伊和歌山藩士/国学者;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[早苗]・短歌入、[庭の雪いや降りつもれおもふ人とひてののちは消けなばけぬとも](八十浦;848雪)
- V3190 **友直**(ともなお・中川なかがわ、)?-? 佐渡羽茂郡小木町の国学者/歌人;本居大平(1756-1833)門、[山の端の月待つ暮のひとゝまやなかしてふよの初なるらん](待月;現存歌選)、[友直(;名)の通称]七郎兵衛/吉郎兵衛
- Q3102 **友直**(ともなお・小西こにし)?-1849 阿波藩地誌家、藩命で精密な淡路地誌編纂中未完で病没、「味地草」著;1857息頭あきらが補完/刊
- Q3103 **友直**(ともなお・滝川たきがわ、有又ありはる男)1816-6247 加賀金沢藩士;算用場勤務、和算家;規矩亭を継承、「規矩亭免許状扣」著、[友直(;名)の字/通称/号]字;子益、通称;秀蔵、号;規矩亭2世
- Q3104 **友直**(ともなお・堀ほり/新田)1816-188166 陸前仙台藩士、儒;大槻平泉門、仙台藩校養賢堂指南統頭、1868会津征討の際に藩兵の指揮;小姓頭/のち県会議員、1855「御上知ノ節仙藩堀氏建言」57「大学指趣解」、「大学験心録」著、「平泉著書序目」編、[友直(;名)の幼名/通称/号]幼名;小七郎、通称;省治、号;瀧西こうせい
- Q3105 **友直**(ともなお・種野たねの、石井徳之助)1817-7862歳 種野家を継嗣;安藝広島藩士、漢学;香川南浜に私淑、天文に精通、1866藩校修道館の儒員、維新後;家塾を開く、「学庸説」「老子筆解」「孟子説」著、[友直(;名)の字/通称]字;子諒、通称;徳之助/徳九郎
- 友直(ともなお・島田左内)→ 瓢空酒(ひさごのからざけ、狂歌) B 3 7 0 2
友直(ともなお・岡見) → 友愛(ともなる・岡見おかみ、藩士/地誌) Q 3 1 1 0
友直(ともなお・井伊) → 仁山(じんさん・井伊い、藩士/詩人) O 2 2 6 5
友直(ともなお・吉田) → 芝溪(しげい・吉田よしだ、商家/儒者) Q 2 1 6 0
友直(ともなお・横谷) → 葛南(かつなん・横谷よこや、儒者) C 1 5 5 0
友直(ともなお・林) → 子平(しへい・林/岡村、兵学者/海防) 2 1 3 3

- 兼直(ともなお・土屋) → 廉直(ただなお・土屋つちや、幕臣/記録) Q 2 6 2 3
- Q3106 知長(ともなが・藤原、定長[1149-1195]男)?-? 母;能盛女、鎌倉前期廷臣;治部大輔、詩;1213内裏詩歌合参加(群書類従223所収)
[雲飛樵客漸帰地 月伴隠倫独往春](内裏詩歌合;廿一番左)
- Q3107 知長(ともなが・丹波たんば、尚康男)?- ? 1323存 鎌倉後期医者;正四下/典薬頭/施薬院使、中務大輔;院・内昇殿を許させる、園太暦に入、歌;新千載1915
[踏分けしそのいにしへの跡はあれど今さらまよふ敷島の道](新千載;十七1915)
- W3173 知栄(ともなが・森本もりもと、通称;平左衛門)1764-1832 69 信濃伊那郡の商家(屋号;白木屋)、国学者・歌人;内山真竜・森広主門
- Q3108 知修(知脩ともなが・林はやし、号;三斎)?-? 江後期下野佐久山の領主福原家の家臣、1832「塩原考」著
- U3184 知修(ともなが・川島かわしま、通称;奥六おうろく)?-1861 江戸の生/飛騨高山郡代郡丞(地役人)、国学/歌;田中大秀門
- U3111 友寿(ともなが・伊能いのう、)1826-1909 84 陸奥遠野藩士/八幡宮祠官、国学/神道;小原実風門、
[友寿(;名)の通称/号]通称;早速、号;友山
- 知長(ともなが・東坊城) → 恒長(つねなが・東坊城ひがしぼうじょう、詩歌) C 2 9 8 4
- 智長(ともなが・小槻) → 盈春(みつはる・小槻おつき/壬生、廷臣/日記) E 4 1 5 2
- 具長(具良ともなが・所) → 具典(ともすけ・所ところ/源、藩士/歌人) V 3 1 8 6
- 朝濤(ともなみ・木室) → 白鯉館卯雲(はくりかんぼううん、幕臣/俳人) 3 6 1 2
- Q3109 友成(ともなり・川北かわきた) ? - ? 語学者、1816「字音仮字用格早引」「かなづかい早引」著
- P3155 朝成(ともなり・庵原/廬原いおほら/いはら、家老朝弘ともひろ男)1755-1841 87 近江彦根藩士、1788(天明8)家老職継嗣/史学者、歌人/書家・茶人;石州流・歌人、武術に通ず、1796藩校稽古館創設に尽力;99(寛政11)開校し総裁、
[朝成(;名)の通称]徳三郎/主税助/助右衛門/大学/彦根大夫
- U3155 知足(ともなり・大田垣おおたがき、)?- ? 因幡邑美郡の歌人;中島宜門よしかど(1807-94)門、大田垣蓮月れんげつ(1791-1875)と同族/鳥取藩士、
[知足(;名)の通称/号]通称;八十右衛門/八十平、号;深耕園
- V3136 友成(ともなり・向坂さきさか、)1679-1756 78 近江彦根の歌人;沢村維顕これあき(琴所)門
歌:[彦根歌人伝・亀]入、
[友成(;名)の通称/号]通称;佐平、号;一宮館
- T3189 知成(ともなり・阿部あべ)1839-1875 37 肥後熊本藩士/国学;林有通門、
[知成(;名)の別名/通称]別名;友成/景器、通称;団助
- 知至(ともなり・中村) → 知至(ともゆき・中村、国学・歌) Q 3 1 8 8
- 友也(ともなり) → 友也(ゆうや、俳人) D 4 6 8 8
- 友成(ともなり・太田) → 満穂(みつほ・太田おた、藩士/神職/国学) I 4 1 5 0
- 朝業(ともなり・塩谷しおや/宇都宮/藤原) → 信生(しんしゅう、領主/幕臣/浄土僧/歌人) E 2 2 5 4
- Q3110 知愛(ともなる・岡見おかみ、別名;友直、知周ともちか男)1701-49 49 秋田藩士/境目奉行、兵法;平沢通有門、1730「六郡郡邑記」44「柞山峯之嵐」、「渋江政光伝註解」「御三代世記」著、知康の父、
[知愛(;名)の通称/号]通称;専之助/左平治/織部、号;青竜堂
- W3112 等庭(ともむ・浜島はまじま、)1747-1821 75 京の廷臣(官吏);内膳司/民部権少輔/志摩守、養子高橋清章きよあき(1773-1828)が家督嗣、国学者、
[等庭(;名)の通称]志摩守
- Q3111 伴主(ともぬし・相沢あいざわ、絵師相沢五流男)1768-1849 82 武州多摩郡関戸村の名主、詩・書・画、蹴鞠・造園等、華道;禊雲斎たうんさい/桐谷鳥習門;袁中郎流秘奥を許認、1827允中流を創始、1822「瓶花月表」41「允中流插花鑑」45「調布玉川画図」、「武蔵国多摩川記」著、
[伴主(;名)の通称/号]通称;玄介/源左衛門、号;禊雲斎たうんさい/嗜山楼じざんろう、忠生の父
[内孝(;名)の初名/通称]初名;以孝、通称;
- 俱主(ともぬし・北島) → 内孝(うちのり・北島きたじま、歌人/書家) E 1 2 6 5
- 友之丞(ともものじょう・成田) → 次充(つぐみつ・成田なりた、藩士) 2 9 8 7

友之丞(とものじょう・福井)→ 末質(すえかた・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 3 8
 友之丞(とものじょう・大島)→ 朝信(とものぶ・大島おおしま、藩士/歌) U 3 1 5 0
 朋之丞(とものじょう・矢島)→ 敏堯(としたか・矢島やじま、和算/国学) W 3 1 7 6
 友之進(とものしん・三輪)→ 照寛(てるひろ・三輪みわ、国学/歌) C 3 0 9 0
 友之進(とものしん・松下)→ 圃丈(ほじょう・松下まつた、医者/俳人) E 3 9 2 8
 友之進(とものしん・阿部)→ 照任(輝任てるとう・阿部あべ、本草家) E 3 0 6 9
 友之進(とものしん・阿部)→ 為任(ためとう・阿部あべ、本草家/英語) S 2 6 5 5
 朋之進(とものしん・矢島)→ 敏平(としひら・矢島やじま、和算/国学者) W 3 1 7 7
 ともの宿禰(とものすくね)→ 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学) J 4 0 6 6
 友之助(とものすけ・幸田、友之進とも)→ 親盈(ちかみつ・幸田/中山、幕臣/暦算) B 2 8 9 3
 友之助(とものすけ・藤懸)→ 則定(のりさだ・藤懸ふじかけ、藩士/記録) E 3 5 5 4
 友之助(とものすけ・坂根)→ 白鹿(はくろく・桃もも/とう・桃井もものい、儒者) E 3 6 1 9
 友之助(とものすけ・馬淵)→ 高定(たかさだ・馬淵、藩士/弓馬故実) L 2 6 8 9
 友之助(とものすけ・小出)→ 松斎(しょうさい・小出こいで、藩士/国学者) J 2 2 0 2
 友之助(とものすけ・藤懸)→ 頼善(よりよし・藤懸ふじかけ、藩士/手記) K 4 7 0 4
 友之助(とものすけ・幸田)→ 親平(ちかひら・幸田こうだ、幕臣/奉行) B 2 8 7 1
 友之助(とものすけ・志賀/原)→ 徳斎(得斎とくさい・原はら、儒者/紀行) K 3 1 7 2
 友之助(とものすけ・戸川)→ 安昌(やすまさ・戸川とがわ/堀、幕臣) C 4 5 9 5
 友之助(とものすけ・大沢)→ 基明(もとあきら・大沢おおさわ、幕臣/侍従) J 4 4 5 2
 友之介(とものすけ・足代)→ 弘敷(ひろのぶ・足代/度会、神職/儒者) G 3 7 8 4
 伴之助(とものすけ・太田)→ 資武(すけたけ・太田おた/源、幕臣) G 2 3 3 9
 侶之允(とものすけ・松平)→ 定能(さだまさ・松平/小笠原、幕臣/地誌) J 2 0 7 0
 朝之助(とものすけ・森本)→ 如平(ゆきひら・森本もりもと、商家/国学者) H 4 6 3 7

- Q3112 伴中義(とものなかよし) ? - ? 京の滑稽本作者;1821「鳥歌話からすかあ」;春川五七画
- Q3113 知信(とものぶ・藤原ふじわら、法名;孝念、知綱男)1076-? 母;藤原資経女(郁芳門院の乳母)、平安後期廷臣;蔵人、檢非違使/従五下/1091中宮権少進、郁芳門院没後出家;日野に隠棲、歌;金葉集Ⅱ612(Ⅲ604では知綱母の作;知綱母の項参照)/706(知陰とあるが誤字)、[虫の音はこの秋しもぞ鳴きまさる別れの遠くなるここちして](金葉;補遺706)
- Q3114 知信(とものぶ・平たいら、経方男)?-1144 母;藤原雅信女、平安後期廷臣;中宮権大進、兵部大輔、従四上、関白藤原忠実の政所家司、晩年出羽守として赴任、「知信記」著
- Q3115 朝脩(とものぶ・小峯こみね/結城ゆうき、直常男)?-1510 武将/連歌;1481白河万句の連衆、90修理大夫
- X3109 具信(とものぶ・秦はた、) ? - ? 江前期;歌人;
 1682河瀬菅雄[麓の塵]7首入、
 [心にかかる事侍りける比夏草を見て、
 行末の道こそわかねことしげき浮世のさかの野辺の夏草](麓の塵;雑629)
- Q3116 友信(とものぶ・住友すみとも、2代住友友以男)1647-1706 60 大阪住友家3代/銅山経営、4代住友友芳の父、1662家督嗣/銅鉱業・貿易成功;1681備中吉岡銅山稼行で銅山師の名声、1685隠居、京に住、歌/画/茶/香を嗜む、狂歌;生白堂行風門、「後撰夷曲集」37首入/「葦垣日記」著、
 [友信(;名)の通称/法号]通称;吉左衛門/甚兵衛、法号;永泉院
- Q3117 与信(とものぶ・穂積ほづみ、屋号;播磨屋)?1655前に生-1731 77歳以上 大和郡山藩士、1679藩主本多忠国の岩代福島移封・82姫路移封に随従;材木御用/町役、1704藩主本多忠孝の越後村上移封に同行/1709藩主忠良の減封により郷士となり致仕、大阪で材木商経営;不振/1713山城伏見/17姫路に移住;家運を挽回、和算;中西正好門、播磨和算の創始者、1715「下学算法」著、姫路書写山蓮乗隠主眞岡阿闍梨の兄、穂積以貫・乾元亭(和算家)・穂積之富・穂積勝重の父、
 [与信(;名)の幼名/通称/号]幼名;熊之助、通称;伊助、号;浄白、法号;雲空浄白居士
- Q3118 友信(とものぶ・賀茂かも/幸徳井こうとくい、友傳ともすけ男)1666-1723 58 母;長谷部信重女、陰陽家;父門、暦法;保井算哲門、陰陽助/従五下/1683暦博士、84改暦の宣旨を受ける/85辞職、1882「天和三年暦歳次」編

[友信(；名)の字/通称/号]字；孝的、通称；修理、号；恒齋、(隱居改名；)五条定濟、
法号；恒齋孝的居士

Q3119 **流宣**(ともぶ・石川いしかわ、名；俊之) **?-? 1721存** 江戸浅草待乳山の版下筆耕図画業、画；菱川師宣門、
俳諧；不角門、浮世草子作者、1686「好色江戸紫」87「本朝図鑑綱目」89「江戸図鑑綱目」、
1690「枝珊瑚珠」95「好色旅枕」97「江戸本所図鑑」1714「万宝塵劫記大全」16「武道江戸紫」、
1708「本朝年代記大成」09「吉原大黒舞」、「繪本年中行事」「懐中道中鑑」「好色伊勢暦」、
「吉原不殘記」「諸国安見廻文之繪図」「数寄屋雛形」外著多数、俳諧；不角「蘆分船」入、
[流宣(；号)の通称/別号]通称；伊左衛門、(戲作号；)流宣・流舟、(俳号；)芳月堂文角、
(画号；)画俳軒・踊鶯軒

Q3120 **友信**(ともぶ・佐藤さとう、正信男) **1718-8669** 岩代伊達郡掛田町の養蚕製種業：
家伝の養蚕帳をもとに養蚕技術を纏め蚕種「野蚕」を大成；販路を全国に拡大、
生糸真綿問屋；白河藩御用達、大庄屋格、俳人；馬州門/歌も嗜む、
1766・83「養蚕茶話」/1783「養蚕日記」、「剛柔録」著、
[友信(；名)の通称/号]通称；源太兵衛、号；桃黒居士、法号；白虚院

Q3121 **具選**(ともぶ・岩倉いづくら/本姓；源、初名；淳吉/淳古/家具いとも、柳原光綱男) **1757-182468** 廷臣、
岩倉広雅の養子；1788従三位/1796勅勘；蟄居/97落飾、詩歌人/書画を嗜む、
篆刻；高芙蓉門、1785「楷林」編、
[具選(；名)の号] 出家号；可汲、法号；受福院

W3156 **友信**(ともぶ・水無瀬みなせ/本姓；藤原、師成男) **1760-9132** 廷臣；左近少将/従四下、和学者

Q3122 **友信**(ともぶ・三宅みやげ、三河田原藩主三宅康友男/母；銀) **1806-8681** 江戸麹町藩邸の生、
蘭学；渡辺崋山門、父急逝後財政救援のため姫路藩主酒井家から養嗣子を迎える、
巢鴨に隱居；蘭書購入；高野長英・小関三英に翻訳させ蘭書解説/西洋軍事技術を研究、
「桂陰瑣語」「括囊録」「芳春園寓筆」著/「泰西兵鑑初編二卷」訳、「蘭書目録」編、
「鈴林けりん必携」(家臣の上田亮章の名を借用)、
[友信(；名)の字/通称/号]字；子信、通称；鋼蔵/剛蔵、
号；毅齋/玉山/芳春堂/片鉄翁、法号；芳春院

上田亮章 → 亮章(すけあき・上田うねだ、藩士/洋学者) F 2 3 9 8

V3113 **友信**(ともぶ・佐藤さとう、) **1819-188365** 阿波徳島の国学者/歌人、
国学・歌；小出直城・古山千丈門、溪潭(阿波小松島光善寺僧)の師、
[友信(；名)の通称/号]通称；吉三郎、号；修心齋

T3150 **友信**(ともぶ・石川いしかわ) **? - ?** 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[朝露に匂へる色もなつかしきすがたの池のあやめをぞ引く](大江戸倭歌；夏497/菖蒲)

T3107 **智信**(ともぶ・井上いづえ、智徳[桐齋]男) **?-1870** 越後蒲原郡の国学者；斎藤彦磨門、能書家、
[智信(；名)の通称/号]通称；鎮平、号；顧齋/萩之屋/雲涯

Q3123 **知伸**(ともぶ・大橋おおはし、別名；珍、仏師大橋守行9世男) **1836-190671** 会津絵師；萩原盤山・盤谷門、
書；星研堂・莊田胆齋門、仏師；父門、篆刻・俳諧・墨画、「会津広益諸家人名録」「雲烟過眼」著、
[知伸(；名)の幼名/号]幼名；忠蔵、号；醒仙/水香/子玉/三伸/克布庵、法号；即心即身即仏

Q3124 **友信**(ともぶ・武田たけだ、通称；金三郎) **?-?** 幕末期加賀金沢藩士、
1864武田耕雲齋らを阻止するため越前葉原に出陣；軍功、1865「葉原出張筆記」

U3150 **朝信**(ともぶ・大島おおしま、半男) **1826-187247** 対馬府中(厳原)の対馬藩士、
父が藩の譴責を受け代々120石の上士格が中士に格下げとなり；家計逼迫、
朝信の長崎での韓国漂民の処理の功で120石に復禄、幕末期尊攘論主張；蟄居処分、
赦免され藩政復帰；大坂留守居役/国事周旋掛/側用人の要職を歴任、
維新後；外務省に出仕/神祇官出仕兼任；旧藩主宗重正と韓国に派遣、
砲術・馬術・劍術・柔術等に通ず/国学・歌/俳句を嗜む、
[朝信(；名)の初名/通称/号/変名]初名；正朝、通称；友之丞、号；似水、
変名；中村信造

友信(ともぶ・狩野) → 伯円(はくえん・狩野かのう、絵師) C 3 6 6 5

友信(ともぶ・留守/遊佐) → 希齋(きさい・留守るす/遊佐ゆき、儒者) I 1 6 5 2

- 友信(とものぶ・中村) → 信齋(しんさい・中村なかむら、漢学者) E 2 2 1 5
 智宣(とものぶ・井上/井) → 鷗笑(おうしょう・井上、庄屋/俳人) C 1 4 5 3
 朋信(とものぶ・秋山) → 景山(けいざん・秋山あきやま、藩士/儒者) E 1 8 7 1
 友の部弥一(とものべのやいち・仮名) → 都の錦(みやこのにしき、浮世草子) 4 1 3 9
 軛の屋(とものや・今泉) → 蟬守(かにもり・今泉、国学者) F 1 5 6 6
 軛之舎(とものや) → 千虎(ちとら・川崎、絵師/故実家) F 2 8 0 7
 軛之舎(とものや) → 瑞穂(みずほ・高沢たかさわ、神職/国学) J 4 1 5 8
 軛舎(とものや) → 眞虎(まとら・大石おおいし、絵師) J 4 0 9 5
- J3111 軛遊女(とものゆうじょ・姓名不詳)?-? 江中期備後軛ノ浦の遊女、
 俳人;1702白雪「三河小町」入
- 3161 友則(とものり・紀き、有朋男) 845-905 61 平安期廷臣;897土佐掾/六位/898少内記/904大内記、
 歌人;905「古今和歌集」撰者(撰進前に没)、892是貞親王家歌合・寛平御時后宮歌合参加、
 「友則集」、貫之とは従兄弟、
 勅撰65首;古今(46首13/38/57/60/84/142以下)後撰(9首11/241以下)拾遺以下、
 [ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ](古今集;84)
- X3154 友範(友則とものり・姓不詳) ? - ? 平安前中期廷臣;加賀守/歌人;
 988(永延2)7月27日[蔵人頭藤原実資(957-1046)後度歌合]に参加、
 [ほのかなる折はわかねど花の色いきりたちまさる秋のゆふぐれ](実資歌合;一番右勝、
 霧が濃くなると色が目立ってくる)
 ☆平倫範か?;権記・実資日記[小右記]入
- S3183 知度(とものり・上下、狂歌)? - ? 撰津住人/狂歌;1666「古今夷曲集」入2首、
 [風の手もさへな恐ろし所がら仇をなすのの石の竹にや](夷曲集;137、下野国那須野にて、
 さへなは触るなの意/那須野の石は殺生石/石の竹は撫子の異名)
- V3158 友規(とものり・多ヶ谷たがや、通称;五郎太夫) 1634-1715 82 陸奥仙台藩士/国学者、舎興いおきの父
- Q3125 知教(とものり・茂木もてき、通称;頼母/又蔵、知賢ともかた男)?-1810 出羽秋田藩士/歌;冷泉為泰門/狂歌、
 藩主佐竹義和の歌の師、「茂木家集」「旅の記」/1775「和歌集」著
- U3177 朝矩(とものり・勝部かつべ、) 1739-1808 70 出雲出雲しゅう郡坂田村の大庄屋、栄忠いげただの祖父、
 歌人;京二条派に入門、
 [朝矩(;名)の字/通称]字;友直、通称;善蔵/本右衛門
- Q3126 知紀(とものり・八田はつた、善助男) 1799-1873 75 薩摩藩士;1825京藩邸勤務、歌;1830香川景樹門、
 1863島津貞姫(近衛忠熙妻)の入輿に随従し近衛家に出仕/勤王運動に関与、皇学所勤務
 桂門十哲の1/景樹没後に師説「自然の声」解釈をめぐる熊谷直好と論争、「元治千首」、
 歌論「調の説」「調の直路」、家集「しのぶ草」「都鳥集」「八田知紀翁歌集」、「桃岡雑記」外著多、
 [よしの山かすみのおくは知らねども見ゆるかぎりは桜なりけり](八田知紀歌集)
 [知紀(;名)の幼名/通称/号]幼名;彦太郎、通称;喜左衛門、号;桃岡、
 門人;高崎正風・黒田清綱・是枝生胤・村上松男ら
- T3183 供徳(とものり・) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [狐鳴く岡のやかたの薄月夜くもるともなく降る時雨かな](大江戸倭歌;冬1066)
 [月日さへ流れてはやき桜川きのふの春も花のあだなみ](同;雑1673)
- U3158 友儀(とものり・岡沢たおかさわ、) 1803-1836 30 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入、能書家、
 [友儀(;名)の通称/号]通称;才之丞/桂三、号;桂花舎/三五蔭
- V3140 倫訓(とものり・下平しもひら、) 1826-1916 長寿 91 信濃伊那郡別所村八幡宮神官、国学;平田鍊胤門、
 [倫訓(;名)の初名/通称]初名;倫任、通称;宮内/相模
- 友則(とものり・菊池) → 武胤(たけたね・菊池きくち、庄屋/歌人) W 2 6 7 5
 友識(とものり・小池) → 友識(ゆうしき・とものり・小池こいけ、藩士/武術/歌) C 4 6 2 0
 友徳(とものり・加藤) → 豈苟(かいう・加藤かとう、藩儒/神道家) I 1 5 6 3
 智徳(とものり・井上) → 桐斎(とうさい・井上、儒/国学) E 3 1 2 9
 与伯(とものり・金井) → 宗禎(そうてい・金井かない、歌人) K 2 5 9 2
 友八(ともはち・坂内/三浦) → 親馨(ちかか・三浦/坂内、儒者;藤樹学) 2 8 6 6
 友八(ともはち・三河屋) → 千則(ちのり・2世桑楊庵/浅草、狂歌) E 3 9 2 1

- 友八(ともはち・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂くまさか、絵師/藩士) B 3 0 9 4
- Q3127 知春(ともはる・小田おだ、知貞男/本姓;藤原)?-1364 伯父;時綱ときつな、室町幕臣;評定衆、伊賀守、寺家奉行か?、連歌:菟玖波8句入;[水もなき氷の上に雪ふりて](菟;十二1209)、(前句;橋を渡らぬ道もありけり)
- Q3128 友春(ともはる・杉村すぎむら)? - ? 連歌;宗因門、1676作法書「温故日録おんこじつろく」著(1685刊)
- Q3129 友春(ともはる・天川あまかわ/水野、初名;友眞、友則男/本姓;赤松) 1678-1754 77 播磨御着村の酒造業、地主/質業も兼る、一時水野与右衛門正慶の養子、故実に精通/歌・俳諧、「所景詩歌」著、[友春(;名)の通称/号]通称;善助/参兵衛、号;同山/松簾亭、友親ともちかの祖父
- Q3130 友春(ともはる・八尾やお、通称;勘四郎)?-? 京の書肆、古典類・日本書紀などを出版
- Q3131 知春(ともはる・谷山たにやま、通称;勝右衛門)?-? 江後期筑前福岡の歌人/中島広足と交流、「築紫白河藻芥」著
- 友春(ともはる・宇治田) → 雲庵(芸庵うんあん・宇治田うじた、医者) D 1 2 5 5
- 友張(ともはる・小見山) → 天老(てんろう・小見山こみやま、医者/俳人) E 3 0 6 2
- 友治(ともはる・柏淵) → 道恒(みちつね・柏淵かしぶち、国学者) I 4 1 6 8
- 伴治(ともはる・島崎) → 春景(はるかげ・島崎しまさき、国学/歌人) K 3 6 2 5
- 滋春(ともはる・在原) → 滋春(しげはる/ともはる・在原、業平男/歌人) C 2 1 8 5
- Q3132 備彦(ともひこ・松木まつき、是彦男/本姓;度会たらい) 1483-1563 81 伊勢外宮禰宜;1496十禰宜、1536一禰宜/59正四上、戦乱荒廢の伊勢両宮再興、連歌;1544宗牧盛孝らと「何人百韻」、[備彦(;名)の初名] 朝彦ともひこ/朝久ともひさ
- Q3133 智彦(ともひこ・松木まつき、別名;智敬、直彦男/本姓;度会たらい) 1679-1752 74 叔父松木親彦の養子;のち実家に戻る、伊勢外宮禰宜;1700九禰宜/46従三位一禰宜、神学;出口延経門;神典修学、歌;中院通躬門/茶;杉木普斎門、外宮内玉垣御門の扉再興/松木神社創建、「度会系図」校訂、1713「伊勢国神名帳考証」編、「松木社造営記」「本朝三徳辨」、歌:「智彦詠歌扣」、外著多数、[智彦(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;竹松、字;公叟、通称;外記/雅楽助、号;得月/鶯馴亭おうじゅんてい
- 朝彦(ともひこ・松木) → 茂彦(しげひこ・松木/度会、神職/記録) S 2 1 3 3
- 頼彦(ともひこ・佐伯) → 稜威雄(いずお・佐伯さえき、神職/尊攘) K 1 1 2 6
- X3117 友尚(ともひさ・藤原ふじわら、) ? - ? 南北期;廷臣/歌人;1400[菊葉集]6首入、[折る袖に深くもうつる梅が香を散りては花の形見とやせん](菊葉;春67/梅移袖)[忘れめやかかりの旅ねの一夜妻露のちぎりのふかき情は](菊葉;恋1416/百首歌奉)
- Q3134 友寿(ともひさ・渡辺わたなべ、通称;大和守)?-? 江前期肥後上益城郡甲佐の人、阿蘇大宮司家家臣の渡辺秀村の裔、「渡辺家譜益城郡甲佐早川」著(秀村~玄察の家譜)
- Q3135 友久(ともひさ・八尾やお、勘兵衛)?-? 京の書肆、漢詩類・源氏物語を出版
- V3174 伴古(ともひさ・樽井たるい、通称;弥右衛門)?-1760 江前期;撰津兵庫の醸造業;屋号正直屋、兵庫津の岡方惣会所の名主役、歌人
- V3161 友敵(ともひさ・高杉たかすぎ/本姓;源、通称;宮内) 1782-1823 42 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- Q3136 朝久(ともひさ・相田あいだ、別名;乗政)?-? 江後期大阪の御家流書家;1801加藤景範門、「入木筆法抄」著 [朝久(;名)の通称] 善三郎/小膳
- W3127 友古(ともひさ・二川ふたがわ、旧姓;鶴原) 1793-1864 72 書家/歌人;筑前福岡の二川相近すけちか門;婿養子、相近の長女鶴子つこ(鶴/1796-1869/書家/歌人)と結婚;子なし、義妹瀧子の子が後嗣、[友古(;名)の通称] 方作
- 友寿(ともひさ・本間) → 三千矛(みちぼこ・本間ほんま、国学/歌人) K 4 1 4 4
- 朝久(ともひさ・松木) → 備彦(ともひこ・松木/度会、神職/連歌) Q 3 1 3 2
- Q3137 友秀(ともひさ・長野ながの、通称;内蔵允くらのすけ)?-1618 幕臣;1603伊勢山田奉行、「長野内蔵允書状」著(外15通)
- 3162 友英(ともひさ・寺田てらだ、通称;菱屋与平次[治]、重徳男)?-? 江前期京寺町通二条上ルの書肆、1696父重徳じゅうとく(俳人)の追善集「ねさめのとも」編
- 朝秀(ともひさ・尾崎) → 総左衛門(惣左衛門そうざえもん・尾崎おさき、藩士/勤王) H 2 5 4 2

- 兼仁(ともひと) → 光格天皇(こうかくてんのう、歌人) 1 9 8 6
 知仁(ともひと) → 後奈良天皇(ごならてんのう、歌人/連歌) D 1 9 4 7
 朝仁(ともひと) → 東山天皇(ひがしやまてんのう、歌人) 3 7 4 5
 智仁親王(ともひと・八条宮) → 智仁親王(としひとしんのう、歌人) N 3 1 5 5
 伴姫(ともひめ) → 姫大伴氏(ひめおおともし、漢詩人) E 3 7 4 1
- Q3138 **知衡**(ともひら・村井むらい、初名;知言ともとき)1768-1857長寿90 伊予松山藩士/兵法:1782野沢弘道門、1805印可を受/10師の臨終に際し奥秘皆伝を許可;兵法塾の塾頭、源家古法を主唱、「兵学門人録」「必笑雑話上」著、野沢勝隼・大関増業らの師、[知衡(;名)の通称/号]通称;仙五郎/又右衛門、号;蛙齋あさい/固帯こたい
- V3247 **知平**(ともひら・田島たじま、通称;茂平)1827-189266 飛騨高山の国学者/詩歌;富田節齋(礼彦)門、妻;近藤とみ子(同門の国学/歌人)、春園はるその父
- U3164 **与平**(ともひら・加瀬かせ、通称;与兵衛)1849-? 下総匝瑳郡の里正、国学;佐々木信綱門
 共平(ともひら・竹内/松永) → 薊齋(けいさい・沖、藩士/儒者) E 1 8 6 9
- Q3139 **具平親王**(ともひらしんのう・村上天皇皇子)964-100946 母;代明親王女麗景殿女御莊子女王そうしによおう、965親王宣下/977兵部卿/987中務卿/1007二品、詩文;慶滋保胤門/自邸で詩会主催、博学多芸/歌道・仏典、書・管絃に通ず、「真字[真名本]伊勢物語」/991「弘決外典鈔」著、歌;家集「後中書王集」「六条御子御集」、詩;本朝麗藻・本朝文粹入、源師房(道長の婿)の父、歌;「古今和歌六帖」撰者、玄々集2首(中務親王名)/続詞花集2首(六条宮名)・雲葉集入、勅撰43首;拾遺(4首432/1005/1152/1153)後拾(127/89)金葉以下、[世にふるに物思ふとしもなけれども月にいくたびながめしつらん](拾遺;八432)[具平親王(;名)の通称]中務親王なかつかさのみこ/後中書王のちのちゅうしよおう/六条宮/千種殿、☆前さきの中書(中務の唐名)王;中務卿兼明親王;共に詩文の才に秀でたため並称
- Q3140 **友広**(ともひろ・藤原ふじわら/家名;宇都宮)?-? 1486存 豊後船岡山の新宮八幡神社の神主/筑前守、「新宮八幡宮縁起」著
- Q3141 **友広**(ともひろ・樹下じゅげ/祝部はふりべ)?-? 1495存 近江坂本日吉神社の社司、連歌:新菟入
- Q3142 **友広**(ともひろ・有賀ありが/遠山とおやま/本姓;藤原)?-? 江中期美濃の郷土史家、1713「老人物語」著、[友広(;名)の通称] 次右衛門
- Q3143 **朝弘**(ともひろ・庵原/廬原いおはら/いはら)1719-8264 近江彦根藩士;家老、歌人、家集「九臯和歌集」著、[朝弘(;名)の通称/号]通称;助右衛門、号;九臯、朝成ともなり(史学者)の父
- Q3144 **智寛**(ともひろ・市岡いちおか、忠智男)1739-180870 信濃飯田役所の手代;父を継承、武道/茶道、医・儒;上京し村瀬栲亭門/博物学者・本草学に精通、参禅;白隠慧鶴門、1799「信陽菌譜」「鉈物図譜」「伊奈郡菌類図譜」「介品明鑑」「本草考」著、[智寛(;名)の通称/号]通称;芳太郎/佐蔵かけぞう、号;此静せい/山齋、法号;温恭院
- Q3145 **知寛**(ともひろ・犬甘いぬかい/初姓;長坂、犬甘知徳の養子)1753-1803幽閉死51 豊前小倉藩の家老、節儉により財政再建/私利を糾弾され1802解任;企救郡の岩窟に幽閉:没、1790「石増二先生文鈔」編、[知寛(;名)の字/通称]字;仲恭、通称;兵庫、
- Q3146 **知礼**(ともひろ・渋谷しげや、通称;助十郎/号;格一)?-? 江中期陸前亶理郡の伊達安房家に住、和算家;中西流を修学、1768「中西流車平方交商術」伝、「鳥木鈔」著
- U3106 **咸熙**(ともひろ・井上いのかげ、中村参里の長男)1754-183077 筑前遠賀郡の農家の生、山鹿村の農業井上景見の養子;家督嗣、歌人、[咸熙(;名)の通称/号]通称;忠助、号;南山
- Q3147 **知弘**(ともひろ・徳久とくしき、知章男)?-? 江後期伊予宇和島藩士/和算家:父門/内田五観門、1846「弧三角通」「測天義解」「弧三角術象解」「十字環解」「十字環積解」「測量航海術」著、[知弘(;名)の字/通称]字;伯毅、通称;定之助
- V3122 **朝広**(ともひろ・神白こうじろ、通称;八重吉、朝善ともよし男)1834-9259 出雲安来の神職;神道事務支局長、国学・歌;祖父神白朝興ともおき門
 友弘(ともひろ・小村) → 宗訊(そうじん・小村こむら、連歌師) C 2 5 2 2
 友裕(ともひろ・赤松/芦田) → 小三郎(こさぶろう・赤松/源、兵学者) M 1 9 5 5
 友聞(ともひろ・住友) → 友聞(ともか/ともひろ・住友すみとも/岡村、商家/国学) V 3 1 4 4

朝弘(ともひろ・塚田/小山)→ 春山(しゅんざん・小山おやま/塚田、漢学者) J 2 1 7 8
朝弘(ともひろ・川北) → 丹靈(たんれい・川北かわきた、国学) T 2 6 6 4
伴寛(ともひろ・高井) → 蘭山(らんざん・高井たかい、与力/戯作者) 4 8 0 4
伴広(ともひろ・三輪) → 伴蔭(ともかげ・三輪みわ、国学/神職/歌) W 3 1 5 5

Q3148 知房(ともふさ・藤原ふじわら、源みなもと良宗男/母;藤原公能女)1046-1112⁶⁷ 藤原信長の猶子、廷臣;
淡路・因幡の国司/1099正五下美濃守/民部少輔従四下、1112出家、藤原永実と歌の贈答、
詩人;「中右記部類紙背漢詩集」「本朝無題詩」入、歌;金葉Ⅱ371Ⅲ387

[面影は数ならぬ身に恋ひられて雲みの月を誰と見るらん](金葉;七恋371)

(中宮賢子に出仕することになった恋人への慕情/数ならぬ身は作者自身)

☆藤原永実との贈答(続詞花集732)→永実(ながさね・藤原) D 3 2 7 6

☆袋草紙;知房の詠歌を伊家が褒めたところ侮辱されたと思ひ知房が立腹した逸話入

Q3149 具房(ともふさ・久我こが、初名;雅良/雅緒、通忠2男/本姓;源)1238-89⁵² 母;家女房、廷臣;
1246侍従従五上/50(建長2)従四下/父没、51従四上/52右近中将/53(16歳)改名;具房、
1255正四下/67蔵人頭/68(文永5/30歳)参議・右中将/69従三位/71正三位/74左大弁・侍従、
1275(建治元)勘解由長官/造東大寺長官・権中納言、76従二位/79左衛門督/80正二位、
1282(弘安5/45歳)興福寺の訴により安藝国に配流;権中納言左衛門督のまま/1283帰京、
1286(弘安9/49歳)権大納言;88辞任、89(正応2)没、
歌人/勅撰5首:続古(1806)続拾遺(430/675/967)新後撰(357)、
1259後嵯峨院[正嘉三年北山行幸和歌]入、
[過ぎぬればうつつも夢に変わらぬを寝ぬるがうちとも思ひけるかな](続古;雑1806)、
[具房(;名)の通称] 愛宕あいとう、

Q3150 共房(ともふさ・清閑寺せいかんじ/本姓;藤原、中御門資胤長男)1589-1661⁷³ 母;家女房、
1600(慶長5)故清閑寺家幸を継嗣;清閑寺家を再興、廷臣;1612(慶長17)正四上蔵人頭、
右大弁/1614(慶長19)正四上・参議・左大弁/15従三位/15正三位/19(7元和5/31歳)中納言、
1620従二位/29讓位節会宣命使/31正二位/32(寛永9/44歳)権大納言;37辞任/52武家伝奏、
1654従一位/61(寛文元/73歳)内大臣;2ヶ月後辞任;没、
1632日記「共房公記」56「公儀向へ遣状認帳」著、
[共房(;名)の法号] 清徳院心月常照 、共綱の父

Q3151 友房(ともふさ・小見山こみやま、通称;宗法)?-?1836^存 名古屋の医者、国学;1811本居春庭門、
歌人;1817「春風集」入、1823「たまかしは」著、小宮山天老てんろう(医/俳人)の子孫

具房(ともふさ・田丸) → 常山(じょうざん・田丸たまる、軍記作者) S 2 2 5 8

Q3152 友文(ともふみ・中島なかじま、友永男)1828-97⁷⁰ 名古屋藩士/国学;岡田啓俊[文園]・山田千疇ちうぬ門、
起倒流柔術;荒井十内門、1868脱藩、大和鎮撫総督久我通久の配下、1872白山神社祠官、
晩年は万葉研究に没頭、「時自久考」「校正万葉集通解」著、
[友文(;名)の通称/号]通称;久之進、号;竹盧、

知文(ともふみ・細井) → 九阜(きゅうこう・細井ほそい、書家/篆刻) C 1 6 0 0

共平(具平ともへい・小崎)→ 長流(ちよりゅう・下河辺しもこうべ、国学/歌) 2 8 2 8

饒穂(ともほ・相田) → 饒穂(じょうすい/ともほ・相田あいだ、国学者) T 2 2 6 9

Q3153 共政(ともまさ・藤原ふじわら、佐衡男/母;正倫女)?-? 平安期廷臣;962頃文章生/966頃式部丞、
美濃守/正四下、歌人;962(応和2)内裏歌合/966(康保3)内裏前裁合参加、
[五月雨のけふまでしのぶほととぎすいつかあくまで声をふりいでむ](内裏歌合;17、
文章生共政名、掛詞;何時か・五日/飽く・明く)

妻の肥前も歌人 → 共政妻(ともまさのつま・藤原、村上天皇の乳母) Q 3 1 5 8

Q3154 奉政(ともまさ・浅井あさい/本姓;源、下田六右衛門由正男)1697-1734³⁸ 高松藩主松平家に出仕、
浅井政朗の養子;1719徳川吉宗に出仕;自編の著述を献上/幕臣;大番/1732御書物奉行、
国史・故実精通、1725「事纂」編/26「分類国史綱」編、「貞観儀式目録」「日本紀考定」、
「武具抄」「倭銭考」「儀式考」「衣服品集」「衣服考」「錫紵并染色之考」「矢奏弓場始考」外著多、
[奉政(;名)の字/通称/法号]字;士徳、通称;順次郎/稻左衛門/左衛門、法号;徳風院

W3184 知昌(ともまさ・山口やまぐち、旧姓;今大路)1759-1826(地下家伝1745-1812)⁶⁸ 京の廷臣;官人、
従五上神祇少副、1788天明大火で御所焼失;1817(文化17)仁孝天皇即位に資料収集;

知昌は行事官として高御座丈尺寸書等を資料集積担当の即位伝奏甘露寺国長に提出、故実家/1826(文政9)没(1812[文化9]没説あり)、
[知昌(；名)の通称]長門介/大和守

- Q3155 **友政**(ともまさ・宇佐美うさみ、字；子孝/通称；兵蔵)1751-182070 三河吉田藩士/史家、1814「本藩高士略伝」、「大河内系譜略記」著
- Q3156 **友真**(ともまさ・野間のみ、字；溪卿/通称；宥節)？-？ 江中期宝暦1751-64頃大阪の医者；長堀橋本町住、1794「古方翼」著、「袖中証哥集」校訂
- Q3157 **共昌**(ともまさ・山国やまぐに、共綿男)1793-1865斬刑73 常陸水戸藩士；馬廻組/軍用掛/小納戸役兼務、徳川斉昭の側近；目付/軍用掛/武具奉行格、斉昭と直弼の対立；幕命で免職処分、目付に復し徳川慶篤に出仕、攘夷派の筑波山の天狗党挙兵に途中参加、金沢藩に降伏、息子共惟ともこれと共に越前敦賀で処刑、「山国兵部建白書」著、田丸稻之衛門直允の兄、
[共昌(；名)の通称/号]通称；鍋吉/喜八郎/兵部、号；止戈しか堂、
- V3188 **知正**(ともまさ・直原なおはら/本姓；菅原、通称；健介)1808-8477 備前赤坂郡の国学者
- T3181 **朝昌**(ともまさ・土岐とき、朝旨ともむね男)？-？ 江後期；幕臣、書院番；番頭/浦賀奉行、1857勘定奉行/1859(安政6)-62(文久2)駿河城44代城代、豊後守/撰津守/下野守、
[朝昌(；名)の通称]綱五郎
☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入集の[下野守土岐頼昌]と同一？、
[かげたかき尾上の松に風荒れて下枝残らずむせぶ声かな](大江戸倭；雑2005、天保十二[1841]年春将軍家斉没に)
- U3161 **朝匡**(ともまさ・荻野おぎの、旧姓；鈴木)1833-8755 伊予吉田藩士；大参事、国学者/歌人、書画を嗜む、
[朝匡(；名)の字/通称/号]字；靖卿、通称；弥治馬、号；春泉
共昌(ともまさ・平賀) → 鷹峰(ようほう・平賀ひらが、藩士/詩/兵法) B 4 7 5 7
知昌(ともまさ・鈴木) → 恕信(じょしん・石井いひ、棋士；囲碁) M 2 2 5 1
友正(ともまさ・岸本/木村) → 調和(ちやうわ・岸本/木村、俳人) 2 8 2 9
友正(ともまさ) → 友正(ゆうせい、上方？俳人) G 4 6 6 0
友昌(ともまさ・塩谷) → 淳(じゅん・塩谷しおたに、医者/国学) O 2 1 7 3
智匡(ともまさ・鈴木) → 智匡(ちきやう・鈴木すずき、歌人) L 2 8 5 6
- Q3158 **共政妻**(ともまさのつま・藤原ふじわら、女房名；肥前、平たいら安直女)？-1007 正四下美濃守藤原共政の室、村上天皇の乳母、親重(従五下右馬助)の母、命婦、筑紫に下向、共政没後に出家、勅撰3首；拾遺(487/1305)金葉(Ⅱ341[；為政朝臣妻]、Ⅲ352[；友政朝臣妻])、
[沖つ島雲みの岸を歩き帰りふみかよはさむ幻もがな](拾；487/金；341)
(対馬守小野[小槻]あきみちの妻隠岐に宛てた別離の歌/幻は長恨歌の幻術士)
- Q3159 **友益**(ともまさ・速水はやみ、武益男/本姓；藤原)1557-160751 廷臣官人；左衛門大尉/1572従五下、1597従四下、歌；1592尹豊ただよ九十賀和歌に参加、連歌；1575初見、紹巴・昌叱・昌琢と百韻、1582信長追善懐旧百韻・90紹巴「何船百韻」・94古今伝授開祝言百韻・96玄仍「何人百韻」参、1598「夢想百韻」「初何百韻」・99「北野裏白連歌」参、昌叱の千句に参加、法名；月船宗円
- Q3160 **友益**(ともまさ・森もり、吉成[仲和]男)1631-171282 京の医者；江戸の大原五雲門/江戸住；難病治療、「愚臈口授」著、共之ともゆき父、
[友益(；名)の通称/号]通称；養竹/雲竹、号；寿然/愚然、法号；不遷院無為愚然居士
友益(ともまさ・加藤) → 缶楽(ふがく/ふらく・加藤、庄屋/神儒学) B 3 8 3 2
友益(ともまさ・渡辺) → 友益(ゆうえき・渡辺、梅香庵、歌人) 4 6 7 1
- Q3161 **等母麻呂**(ともまさ・藤原部ふじはらべ)？-？ 755防人/武蔵国埼玉郡上丁、万葉集廿4423
[足柄のみ坂に立して袖振らば家なる妹はさやに見もかも](万葉集廿4423)
妻の答歌 → 刀自売(とじめ・物部もののか) N 3 1 9 0
- Q3162 **具視**(ともみ・岩倉いから、堀河康親男)1825-8359 母；勸修寺かじゅうじ経逸女、岩倉具慶の養嗣、廷臣；1854孝明天皇の侍従/58日米条約勅許阻止；88人に参列/公武合体派として活動；和宮降嫁を尊攘派から糾弾され蟄居落飾/王政復古を図り明治新政の中心となる、1858「神州万歳堅策」62「対岳公日記」、「国事意見書」「岩倉家記録」著、
[具視(；名)の字/号]字；周丸、号；華竜/対岳/対鶴、剃髮号；友山
- Q3163 **具通**(ともみち・久我こが、太政大臣通相男/本姓；藤原)1342-9756 母；葉室長隆女、廷臣；1393従一位、

1395太政大臣;96致仕;出家、歌人;歌壇で活動、1366「久世相国具通公記」、「元日節会」著、勅撰3首;新後拾遺(512/1539)新続古今(149)、通宣みちのりの父、

[下くぐる道と見しまに鳩鳥のうき巢をかけて氷る池水](新後拾;六冬512)、

[具通(;名)の法名/通称]法名;紹侃しょうかん、通称;久世相国/久世入道前太政大臣/中院、

X3145 俱通(ともみち・天方あまた、通直[1589-1630]男) 1618-7962 母;堀利重女、通次・近藤用治妻の兄弟、幕臣/旗本;3千石/書院番組頭/駿河城番、

堀通周・致通・山岡景保・堀利雄・青山成天母の父、1679(延宝7)没、

歌;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]2首入、

[こりずまに待つもはかなし時鳥あふはわかれの花もこのごろ]、

(若むらさき;40/花に続いて性懲りもなく時鳥を待つ;逢うは別れなのに)

[この宿の春を重ねてくれなみのこぞめに匂ふ梅の初花](同;206/こぞめ;濃く染める)、

[俱通(;名)の法号]一雨院隆哲日照

Q3164 知通(ともみち・稲葉いなば、初名;通周、信通男) 1652-170655 白杵藩主;1681兄景通の継嗣/94家督、1701「豊後国郷帳」編

[知通(;名)の通称/法号]通称;市正、法号;本靈院

Q3165 朝通(ともみち・小浦こうら) ? - 1801 紀伊和歌山藩士/歌人;1790本居宣長門、

「道の記」著、和歌山を来訪した宣長をもてなした、

[朝通(;名)の通称/号]通称;彦之丞/十郎左衛門、号;遠山窓

T3158 知通(ともみち・藤田ふじた) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[時雨かと思しは松吹く嵐にて隈なき夜半の月ぞもりくる](大江戸倭歌;秋851/松間月)

与通(ともみち・金井) → 宗栄(そうえい・金井かない、歌人) K 2 5 9 1

智道(ともみち・岩崎) → 綱雄(つなお・岩崎、里正/国学) B 2 9 0 4

知道(ともみち・田口) → 霞村(かそん・田口たぐち、書家) C 1 5 5 1

Q3166 知光(ともみち・藤原ふじわら、藤原為昭男)?-? 母;在原棟梁女の本院侍従?、則友の弟、藤原文範の養子、平安中期廷臣;正四下/備中守、歌人;藤原国用(くにもち;?-988)と贈答;「仲文集」第二部入、国用女と恋愛(拾遺;915詞書)

V3171 友光(ともみつ・武野/竹野たけの) 1627-168963 近江彦根藩士;徒士衆御料理人、歌人;[彦根歌人伝・亀]入

U3115 朝光(ともみつ・庵原/廬原いおはら/いはら) 1781-182848 近江彦根藩士;家老、歌人、

[朝光(;名)の字/通称]字;後光、通称;助右衛門

W3178 知充(ともみつ・矢彦やひこ) 1832-192089 信濃伊那郡の儒・書家/国学者;平田鍊胤門、戊辰戦争に参戦/兵部省に出仕、俳人;小野素水門、東京の小林一茶仮居[蝸牛庵]を再興、信濃上水内郡霊泉寺温泉で俳諧指導;大火に遭う/実家で矢彦神社の神官補佐、1910(明治43)歴史愛好の[憑史談会]発足;初代会長、[陽炎や鬢鬘石に萌ゆる影](句碑)

[知充(;名)の通称/号]通称;縫右衛門、号;水香/雨露(;俳号)

V3126 友光(ともみつ・佐伯さえき) 1847-192478 伯耆八橋郡の国学者;川合保門、

[友光(;名)の別号/号]別号;太郎、号;槻廼舎つきのや主人/松石

Q3167 朝宗(ともむね・藤原ふじわら、光隆男)?-? 平安後期廷臣;駿河権守/歌;1170住吉社歌合右方講師、1172広田社歌合参、高松院姝子内親王[1141-76]の非蔵人?

藤原朝仲と同一? → 朝仲(あさなか・藤原/初名朝宗、宗賢男/千載歌人) B 1 0 0 4

Q3168 知宗(ともむね・平たいら、宗宣[1177-1231]男)?-? 鎌倉期廷臣;少納言;歌人;

1232良実「光明峰寺撰政家歌合」参加(10首)、

[独り寝の夜をさむしろの霜をだにおく所なき心ともみよ](撰政家歌合;八七番左)

Q3169 朝宗(ともむね・笠間かさま/家名;塩谷・塩屋/本姓;藤原、朝景男)?-? 時朝(歌人1204-65)の孫、

鎌倉後期武将;周防守、宇都宮歌壇で活動、朝業(信生しんしゅう)の曾孫、

1303成立「新後撰集」1290、

[風の音はまだ吹きかへぬ草の葉の露にぞ秋の色は見えける](新後撰集;十七1290)

Q3170 朝旨(ともむね・土岐とき、深津盛徳男) 1773-183866 土岐朝堯の養嗣子/幕臣;1786家督、

従五下肥前守、1794小納戸/97西丸小姓/將軍家慶に出仕;本丸小姓、
「善事須修」「幼童教諭本具三宝」著、
「武家必要童形用心大略」著、朝豪の父

[朝旨(;名)の字/通称/号]字;承之、通称;金三郎、号;愚叟、

朝宗(ともむね・依田) → 学海(がつかい・依田よだ、儒/詩/日記) F 1 5 4 0

朝棟(ともむね・宮後みやじり) → 朝棟(あさむね・宮後/度会、歌人) 1 0 1 7

具元(とももと・柏崎) → 永以(えい・柏崎かしわざき、国学者) B 1 3 8 9

知元(とももと・早田) → 簾山(しょうざん・早田はいだ、藩士/儒者) J 2 2 3 1

Q3171 知盛(とももり・平たいら、清盛男) 1152-85入水34 平安末期武将;重盛・宗盛の弟、権中納言、
1180源頼政・81行家に戦勝、85壇ノ浦で敗戦;[見るべきほどの事は見つ]と言って入水;
のち謡曲・浄瑠璃に脚色されていく

X3119 具守(とももり・堀川ほりかわ、太政大臣基具男) 1249-131668 母;平惟忠女、鎌倉中後期;廷臣、
村上源氏庶流、1250(建長2)従五下/53従五上侍従/56正五下/58従四下右近中将、
1260(正元2)正四下信濃介/66因幡介兼任/67従三位/69(文永6)参議、70正三位、
1271従二位/74(文永11)権中納言/75(建治元)熙仁親王(伏見天皇)立太子に春宮権大夫、
左衛門督を兼帯/1278正二位/84(弘安7)権大納言:96辞任/98還任、1299従一位、
1309近衛大将/14(正和2)内大臣;15辞任/1316(正和5)出家;法名覚乗/即日没、
基俊・道源・宗助の兄弟/妻;御子左為雄女・吉田経俊女・平親継女、
具俊(1273-1303)・静源・顕守(法印)・道守(法眼)・信助・基子・琮子・西園寺公顕室の父、
娘基子(1269-1355)が後宇多天皇后宮入(西華門院);後二条天皇生母;天皇外祖父となる、
家司に一時吉田兼好、徒然草;107段に宮中女房との逸話入、
[具守(;名)の通称]堀川内大臣

T3197 知守(とももり・秋山あきやま、?)-1769 安藝広島の神道家;垂加流、
[知守(;名)の通称/号]通称;琢磨、号;寛斎/不躰子ふし

友也(ともや/ともなり・松永) → 長鯨(ちようこん;法諱、儒学/真言僧) I 2 8 3 4

3163 倫寧(ともやす・藤原ふじから、惟岳男/母;垣基王女) ?-977 954陸奥守/963河内守、丹波・伊勢守/正四下、
蜻蛉日記作者[道綱母]の父、歌;後拾遺471/詩;文粹入、
[君をのみ頼む旅なる心には行く末遠くおもほゆるかな](後拾遺;別471/蜻蛉日記;上)
(陸奥へ旅立つ時に婿藤原兼家に娘を託す親の心情)

男 ; 理能・長能ながとう

女 ; 藤原道綱母・菅原孝標たかすえの妻(更級日記作者の母)

参考 → 道綱母(みちつなのはは・藤原、歌人/蜻蛉日記) 4 1 1 0

Q3172 知康(ともやす・丹波たんば、法名;覚蓮、重基男?) ?-? 1181存 平安後期医者;権侍医/医博士/典薬頭、
1157主税頭/66正四下/出家;法印、灸法に通ず;当時の名医5人の1、
「灸穴抄」(灸穴取対方)著

Q3173 知康(ともやす・岡見おかみ、知愛ともなる男) 1762-183372 秋田久保田藩士;小姓/大御番/境目奉行、
財用奉行、農政に精通、国学;本居宣長門、秋田鈴屋門のため藩校和学方(国学部)設置尽力、
大友直枝・菅江真澄の後援者、1824「勸農撮要」25「農業子訓」、「勸農新編」「産語志」著、
[知康(;名)の通称] 藤吉/徳平/和平/順平

Q3174 友泰(ともやす・上田うえだ) 1829- 189971 阿波徳島藩士;蜂須賀家の郡奉行/戊辰戦で転戦、
1870罪を得て八丈へ流罪/のち赦免、軍学/歌に長ず、「御簞記」著、
[友泰(;名)の通称] 権之介/甚五衛門

知康(ともやす・丹波) → 親康(ちかやす・丹波、室町期医者) C 2 8 1 1

倫寧女(ともやすのむすめ・藤原) → 道綱母(みちつなのはは・藤原、歌人/日記) 4 1 1 0

軒屋のあるじ(ともやのあるじ) → 御民(みたま・泉いづみ、歌人) B 4 1 0 0

X3155 友子(ともゆき・在原ありはら、中納言行平男) 843-91068 平城天皇の曾孫、平安前期廷臣;左京少進、
主殿権助/879右兵衛権佐/清和上皇龍門寺参詣に源昇と共に供奉/883右近権少将;武官、
895(寛平7)蔵人頭/897醍醐即位;左近中将兼修理大夫/900(昌泰3)参議/左兵衛督、
906正四下/907大宰権帥兼任、910(延喜10)没、
898(昌泰元)宇多上皇の宮滝御行参列;歌が詠めず白紙を置く逸話(扶桑略記/袋草紙入)

- Q3175 **偕行**(ともゆき・平たいら、興我王男orその弟忠望王男)?-? 光孝平氏、平安中期廷臣;文章生、左衛門尉/954勘解由次官、檢非違使/958右衛門權佐/965右少弁/左少弁、山城守/從四下、是忠親王(これだしのう)の孫、興我王男なら篤行(歌人)の弟、平元平の父、歌人:977三条左大臣頼忠前裁歌合参加(3首)、
[水の上に落ちたる月の影深み底にしづめるころあるべし](頼忠前裁歌合;55)
- Q3176 **知行**(ともゆき・大江おおえ、範能男)?- ? 鎌倉期廷臣;尾張守/五位、歌:新千載1939
[つれなしやさても程なき世の中の憂うけくにあかですてぬ心は](新千載集;十七1939)
- Q3177 **俱行**(具行ともゆき・北畠きたばたけ、師行男/本姓;源)1290-1332**斬殺**43 廷臣;1324(正中元)藏人頭/1325左中将/26(嘉暦元/37歳)正四下参議:從三位/29正三位侍從/30(元徳2)権中納言、1331從二位(元弘元);主上供奉、後醍醐天皇の寵臣、1331天皇の笠置遷幸に供奉;笠置落城後に捕縛;1332鎌倉へ護送中近江柏原で斬殺(増鏡太平記に逸話)、歌人;1315為世[花十首]参加(左少将具行名)/30元徳二年癸月御会参加、新葉集2首(538/539)入、菟玖波入
勅撰10首:続千載(1341)続後拾(372)新千載(4首223/756/1160/1554)新拾遺以下、
[帰るべき道しなればこれやこのゆくを限りの逢坂の関](新葉;538/1332年鎌倉連行)
- Q3178 **朋之**(ともゆき・ほうし・団野だんの)?- ? 江前期肥前佐賀の俳人;1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、1679旨怨「わたし船」何袋百韻入、79?惟中「次郎五百韻」入
1679落髮記念三吟歌仙興行;惟舟[重頼]と(惟舟「名取川」所収)、
[楊梅やまももに昔しのぶの奥歯哉](手鑑)
- X3114 **知之**(ともゆき・林はやし、) ? - ? 江前期;上方の歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]2首入、
[おほくうゑば見るめもくるし我が宿はただ秋萩の花のひと村](林葉累塵;秋416)
- Q3179 **共之**(ともゆき・森もり、友益ともます男)1670-1746**77** 江戸の医者;父門/父を継承;五雲子流医術、漢学;佐善雪溪門、束髪し老子を愛読、「老子道德経国字解」著、
[共之(;名)の通称/号]通称;養竹/嘉内、号;中虚/額浪/竹翁
- Q3180 **朋如**(ともゆき・田中たなか/修姓:田、名;知顕/**定顕**さだあき、小瀬復庵男)1707-**7064** 田中式如のぶゆきの養子、家督継承;金沢藩士/役銀奉行/近習番、国学者;和語五音の秘奥に到る、1767非行のため越中五箇山に配流;謫居中に没、1744「倭語拾補」、「日本紀秘訓抄」、「国学正義」、「中臣祓記聞」、「高津島之事」、「越中紀行」、「越浜土産」著、
[朋如(;号)の字/通称/別号]字;岡陵、通称;長蔵/平之丞、別号;侗斎/鶴溪/九阜舎、
- Q3181 **知之**(ともゆき・堀田ほった、之仲ゆきなか[善蔵]男)1719-**9779** 尾張海東郡津島の酒造業(家業継承)、津島神社社家堀田家から派生した商家[番頭太夫家]、
歌人:宇都宮尚綱・川合一叢門/1772澄月門、俳諧;蕪村と交流、1736「之仲歌集」編、1752「大原山清学話」62「一叢師追善和歌」/71-90頃「愚詠随筆」「和歌随筆」/73「妙興寺吟行」、1774「筆のついで」「吉野紀行」編/77「茂呂津葉左」/78「奇談雑著」「遅ざくら」/88「古稀の賀」、1791「藤川百首」「笹蟹の歌」92「羈中日記」、「はいかい随筆」「津嶋渡集」「知之随筆」外著多数、
[知之(;名)の幼名/通称/号]幼名;弥五市、通称;理[利]右衛門/治右衛門、
号;木吾/似琴じきん[舎]/愚斎/墨斎、屋号;大黒屋、法号;大機院、憲之・敬之の父
- Q3182 **知之**(ともゆき・滝山たきやま) ? - ? 江後期国学者;小山田与清ともきよ門、1822与清「鹿島日記」校訂/序
- V3131 **友行**(ともゆき・佐野さの)1767 - 1814 近江彦根藩士/歌人;石尾洋方(1702-67)門系?、歌;[彦根歌人伝・寿]入
[友行(;名)の字/通称/号]字;林水、通称;亀吉/延三郎/友右衛門、号;茶山亭
- W3183 **友之**(ともゆき・山口やまぐち/本姓;源、)1777-1842**66** 近江彦根藩士/国学者/歌人、歌;[彦根歌人伝・鶴]入、
[友之(;名)の通称/号]通称;平次、号;此君亭しくんてい/竹舎
- T3187 **知至**(ともゆき・赤川あかがわ、知哲ともさと男)1783-1825**43** 母;里枝、信濃飯田藩士、1802(享和2)江戸小姓、1804(文化元)御側御用人/07宗門奉行、歌人;桃沢夢宅・香川景樹門、同門の阿久沢篤行・岡田重威いげたけや岩澤幸年・村澤徳風のりかぜ・三浦元簡・鏑木雅直と交流、
[知至(;名)の通称/号]通称;仙吉/武兵衛、号;格容、法号;大仙院、格定たださだの父

- Q3185 **知致**(ともゆき・芳賀はが、通称;孫吉)?-? 江後期三河吉田の和算家:長谷川寛門、
1825「算盤近道」/25「改正算法近道」編
- W3118 **知行**(ともゆき・彦部ひこべ、信有男)1789-186880 上野山田郡広沢の郷士/機業、足利將軍旧臣家、
学問・詩歌・書;父門、染色術;父門/京西陣の織屋入門/帰郷後;黒繻子織を開発、
桐生領内の絹業者団結を促し桐生市場保護を幕府に訴状、
[知行(;名)の通称/号]通称;栄太郎/五兵衛/数馬(父の称)、号;草之/竹林舎/松広齋
- U3190 **友于**(ともゆき・神原かんばら、)1790-185566 阿波那賀郡富岡の酒造業;高石屋、
歌;外山光施とやまみつはる門、詩書・歌・墨竹を能くす、業広なりひろの父、
[友于(;名)の字/通称/号]字;子扱、通称;五郎右衛門、号;聴雨/北齋/士芳/杜堂
屋号;高石屋
- Q3186 **友于**(ともゆき・倉谷くらたに/本姓;藤原)1791-? 1862存 京の医者、歌人:賀茂季鷹門、
1862家集「蒼山和歌集」、当世百哥仙入集
[友于(;名)の通称/号]通称;多門/主水もんど、号;水園/桂園/松園
- Q3187 **友于**(ともゆき・宝生ほうしゅう、英勝の孫で養嗣子)1799-186466 能楽師;大和猿楽の一座;
宝生大夫15世、1848江戸筋違橋門外で勸進能を開催(諸国から宝生流役者招集)、
1853家督を石之助に譲渡、1856頃加賀金沢に移住、
1853「能の本」(宝生大夫本)/61「謡曲秘伝書」「乱舞秘伝書」著、
[友于(;名)の通称/号]通称;弥五郎、号;紫雪、石之助(九郎知栄)の父
- Q3188 **知至**(ともゆき・中村なかむら/本姓;源、大津藤右衛門男)?-? 江後期;出羽庄内藩士、
分家して禄50石、国学・歌;白井重固/橘守部門、1832離縁の妻の子を川に投込む;追放、
下野鬼怒川に住;著述活動に専念、1860追放を解除される、
1843「古今集遠鏡補正」49「長歌規則」著、1867「直日靈新註」注、
[知至(;名)の通称/号]通称;又右衛門、号;良庵、
- Q3184 **知行**(ともゆき・三浦みうら) ? - ? 江後期下総佐倉の和算家:内田五観(1805-82)門
「観齋先生変数草」編
- T3162 **知至**(ともゆき/ともよし?・高野たかの/本姓;平)?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[名も知らぬ草木もなべて染めにけり山路は秋よあきは山の端](大江戸倭歌;秋969)
- W3114 **友幸**(ともゆき・林はやし、周蔵の長男)1823-190785 母;冬子、長門阿武郡土原の生、
長門萩藩士;宝蔵院流槍術;[槍の半七]の称/劍術にも長ず、1863(文久3)奇兵隊参謀、
1864下関戦争で負傷/戊辰戦争で活躍、1868徴士/70民部大丞兼大蔵大丞/75内務少輔、
1880(明治13)元老院議官/90貴族院議員/1900枢密顧問官、富美宮・泰宮養育主任、
[友幸(;名)の通称/号]通称;周次郎/半七、号;秋畝
- Q3183 **友之**(ともゆき・若林わかばやし、柳村りゅうそん男)1840-66早世27 仙台藩士;小姓/武頭;扱捉・京の警備、
藩講武場の洋砲術指南役、儒;相田椽園門/砲術;大槻栄長門、1860「高島流砲術伝書」著、
[友之(;名)の字/通称/号]字;威遠/毅卿、通称;新九郎、号;柏園/樽園ちよえん
知行(ともゆき・源) → 行阿(ぎょうあ、源氏物語研究、歌人) C 1 6 1 4
知之(ともゆき・白井/菅江) → 眞澄(ますみ・菅江すがえ、国学/地誌) J 4 0 2 3
友幸(ともゆき・寺沢;改名) → 麦宇(ぼう・小川おがわ、俳人) C 3 6 5 9
友従(ともゆき・片桐) → 宗幽(そうゆう・片桐かたざり、幕臣/茶人) J 2 5 0 3
具之(ともゆき・柏崎) → 永以(えい・柏崎かしわざき、国学者) B 1 3 8 9
倫之(ともゆき・宮川/大浦) → 筋翁(せつおう・大浦/宮川、藩老) K 2 4 7 2
- Q3189 **具世**(ともよ・堀川/堀河ほりかわ/本姓;源、号;堀幸くさい、宰相中将入道)?-? 北畠一族、室町期廷臣;
左中将、1439参議/従三位/加賀権守/41参議辞退/47正三位、52前参議;出家、53以後不詳、
連歌:1445「文安月千句」参加;第十何草発句/52頃北畠教具のりとも「初瀬千句」参加、
友世(ともよ・金松) → 友世(ゆうせい・金松かねまつ、俳人) G 4 6 6 5
友節(ともよ・人見) → 直養(なおやす・人見ひとみ、医者) C 3 2 7 8
- Q3190 **知好**(ともよし・前田まえだ、初名;利包としかね、利家3男/本姓;菅原)1590-162839 母;存(金春院)、京の生、
1596加賀金沢に移住;石動山で出家、1604還俗;金沢藩士、10金沢藩七尾城代、

- 待遇に不満;1616致仕/22京で剃髪、藩主利常らの説得で帰国途中に京で病没、
「国祖遺言」編、利長の異母弟、
[知好(;名)の通称/号]通称;三九郎/七左衛門/修理しゅり、号;有庵、法号;大巖院
- Q3191 **倫良**(ともよし・三善みよし) 1609 - ? 江前期国学者/神道家/詩歌に長ず、
1660「一貫和風抄」-81「常山愚草後集」著、
[倫良(;名)の号] 余齋/常山散人/以春庵/鄭貫
- U3139 **知義**(ともよし・小田切おだぎり) 1642-1699 58 江戸の幕臣;御金奉行、国学者、
[知義(;名)の通称] 太郎左衛門/庄三郎
- Q3192 **朝良**(ともよし・吉村よしむら、通称;重右衛門、重右衛門朝実男)?-? 江前・中期岩代会津藩士、
1708「落葉集」著
- V3198 **知能**(ともよし・夏目なつめ、) 1721-1757 37 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、
[知能(;名)の初名/通称] 初名;治能はるよし、通称;外記げき
- V3162 **友義**(ともよし・高杉たかすぎ/本姓;源、通称;友右衛門) 1722-99 78 近江彦根藩士、
歌人;[彦根歌人伝・鶴]入
- U3110 **友吉**(ともよし・伊藤いとう/旧姓;伴、) 1732-1804 73 近江彦根藩士、国学・歌人;大菅中養父門、
[友吉(;名)の通称/号] 通称;与三右衛門、号;藤之舎ふじのや/苗丸/雷門楼
- V3178 **朝吉**(ともよし・土屋つちや/本姓;平、) 1738-1800 63 近江彦根藩老戸塚家家臣、
歌人;[彦根歌人伝・鶴]入
[朝吉(;名)の通称] 惣八郎
- Q3193 **知義**(ともよし・阿部あべ、通称;九兵衛) 1748-1811 64 陸中盛岡藩士/和算家;菊池弥右衛門・
山路弥左衛門門、1804「郷村古実見聞記」、「得幸録術解五条」「自好五十条」著
- Q3194 **知能**(ともよし・藤塚ふじつか、知明ともあき男/本姓;源) ?-1824 陸前塩竈神社の社司、
知機(図書ずしよ)・知周・頤庵(君敬)の弟、兄頤庵の友人松崎慊堂が訪問(游東禄入)
1802「名山蔵書目録」編、16「陸奥名碑略」著、
[知能(;名)の通称/号] 通称;元吉、号;東卿
- W3189 **友壽**(ともよし・桐ゆずりは/本姓;荒木田、邦孚男) 1774-1826 53 伊勢度会郡の伊勢神職;師職、
国学者;本居宣長・春庭門、正六上権禰宜、1726(文政9)没、
[友寿(;名)の初名/通称] 初名;邦壽、通称;少進/権之助/専助
- Q3195 **智義**(ともよし・金田かねた) 1785-1853 69 陸前栗原郡刈敷村の国学者/撃剣を嗜む、
「栗原旧地考」(:同郷の岩崎綱雄と共著)、
[智義(;名)の字/通称/号] 字;一忍、通称;安左衛門、号;奥民
- Q3196 **知宜**(ともよし・酒井さかい、通称;丹下、号;月松軒)?-1823 名古屋の文筆家、兼好・大石良雄を崇拜、
「見聞雑記」著
- Q3197 **知義**(ともよし・桐山きりやま) ? - ? 江後期文政1818-30頃近江坂田郡加田村の医者、
京烏丸二条で医業/能書家、1820「天龍帖」「五体法帖」書/23「桐山知義五体書帖」書、
[知義(;名)の字/通称/号] 字;君虎、通称;虎三郎/元中、号;南鶴
- Q3198 **節義**(ともよし・桜井さくらい、通称;金吾)?- ? 江後期上州碓氷郡剣崎村の和算家;岩井重遠門、
1830「算法円理氷積」編
- T3182 **与叔**(ともよし・小山田おやまだ/本姓;高田、与清ともきよ[1783-1847]男) 1805-68 64 江戸の国学者;父門、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」(父与清と共に入集)、小山田は父が隠居後の姓、
[万代とうたふ声さへ高砂の松にむれみる君がともづる](大江戸倭歌;雑2037)、
[与叔(;名)の号] 松廬舎
- V3121 **朝善**(ともよし・神白こうじろ、朝興ともおき男) 1805-66 62 出雲安来の神職、国学者/歌人、朝広の父
- Q3199 **友善**(ともよし・住友すみとも、住友家9代友聞ともか男) 1810-71 62 大坂豊後町の金融業両替商、
1819本店出店を経営、銅座掛屋/金銀貸引替業;諸大名・代官の掛屋の用務、歌;村田春門門、
「住友友善歌集」著、
[友善(;名)の字/通称/法号] 字;仲直、通称;甚次郎、号;松谿、屋号;泉屋
- R3100 **友好**(ともよし・吉田よしだ、通称;丈太夫) 1811-65 55 陸前仙台藩儒;藩校養賢堂指南役、
1857「仙台金石志」編(;墳墓録)

- R3101 **知義**(ともよし・寺島てらしま、治左衛門男)?-1888 越前福井藩士;1835家督/松栄院普請掛、
1843御目附物書役/70記録方兼筆者、旧藩記録を保存、「越国寄人并名物記」「温故集」著、
[知義(;名)の幼名/法号]幼名;岩次郎、法号;信受院
具慶(ともよし) → 具慶(ぐけい・住吉、絵師) 1 7 4 5
具慶(ともよし・柏崎) → 永以(えい・柏崎かしわざき、国学者) B 1 3 8 9
智義(ともよし・菅井) → 梅閑(ばいかん・菅井すがい、絵師) 3 6 9 0
知義(ともよし・田中) → 千梅(せんばい・田中、鋳物師/俳人) G 2 4 5 0
知義(ともよし・高谷) → 美蔭(よしかげ・高谷たかたに/奥野、代官/儒/歌) N 4 7 7 0
知良(ともよし・大橋/菊池) → 淡雅(たんが・菊池/大橋、商家/儒者) T 2 6 2 1
朝芳(ともよし・長田) → 美年(よしとし・長田ながた、藩士/歌人) N 4 7 8 4
友吉(ともよし・桂川/森島) → 中良(ちゅうりょう・なかよし・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9
友吉(ともよし・森川) → 扶疏(ともしげ・森川もりかわ、絵師/人形師/狂言師) W 3 1 7 2
友呼(ともよび・青雲亭) → 紫文斎(初世しぶんさい・宇治、名主/一中節/狂歌) F 2 1 6 0
- R3102 **知頼**(ともより・前田まえだ、知巨男/本姓;菅原)1662-1742⁸¹ 加賀金沢藩士/1705若年寄、07家老、
1716小松城代;6千石/前田修理家の祖と称す;加賀の三前田の1、曾祖父は知好ともよし、
「甲申東北道記」/1705-10「御用日記」/17「江戸御留守詰日記」著、
[知頼(;名)の通称/号]通称;修理しゅり/万之助/斎宮、号;秋庵、
斗門(ともん・松平) → 治郷(はるさと・松平、藩主/茶道) G 3 6 3 8
都門売菜翁(ともんばいさいおう) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
菟谷(とや・奥田) → 大和(やまと・奥田おくだ/富永、国学/歌) F 4 5 5 8
戸屋(とや・林) → 広海(ひろみ・林、国学/歌人) H 3 7 1 8
都や子(とやこ→つやこ・丹羽) → 久子(ひさこ・丹羽にわ/戸田、藩主妻/歌) I 3 7 4 1
埜出鷹久(とやでのたかひさ;狂名) → 雨什(うじゅう・生方、俳人) C 1 2 8 0
- T3127 **外山**(とやま;女房名) ? - ? 江前中期;歌人;賀茂真淵門、藩主土井家の女房、
三河西尾藩主のち刈谷藩主の土井利信(1728-78)の正室久米子(松平忠救女)の侍女、
年寄、1758(宝暦8)真淵家会宴歌参加(;本居大平「八十浦の玉」入)、茂睡[鳥の迹]627入、
[鶯の百轉さへりの春くればふふめる花も今ぞ咲きいでむ](八十浦;上23;真淵家宴)
出仕先 → 久米子(くめこ・土井どい、薫梅くんばい/歌人) D 1 7 7 6
外山翁(とやまのおきな、洒落本) → ばく(松田、俳人/浄瑠璃作者) C 3 6 4 9
- R3103 **外山霞**(とやまのかすみ、野村梅翁)?- ? 江戸大久保住、狂歌、1787「才蔵集」入:183
[うえ置て世話をやくしにあらねども瑠璃のつぼみを持ちしあさがほ]
都由(とゆう・森重) → 都由(すべよし・森重もりしげ、砲術家) D 2 3 8 6
土雄(どゆう・肥田) → 土雄(ひじお・肥田ひだ、医者/歌人) K 3 7 7 3
- W3168 **登代**(とよ・毛利もうり、登代姫、柳川藩主立花貞淑2女)1732-69³⁸ 母;側室しつ(白井家)、
1748(寛延元)萩藩主毛利重就しげたか(1725-89)の正室;
友子(山内豊雍室)・勢代子(有馬頼貴室)・艶子・毛利治親(1754-91/長州藩主)の母、
国学者/歌人、1769(明和6)没/法号;瑞泰院
- U3143 **とよ**(・小野おの、歌島の局)1790-1865⁷⁶ 陸奥(陸前)仙台の生/歌人、
1816(文化13/27歳)仙台藩江戸藩邸の老女/伊達斉宗・斉義・斉邦・慶邦4代に出仕、
1852(嘉永5)仙台に帰郷;吟詠を楽しむ
- W3135 **登与**(登與とよ・堀家ほりけ、守安畏郷女)1818-1900⁸³ 備中窪屋郡山手村地頭片山の旧家の生、
備中賀陽郡の吉備津神社社家堀家輔政すけまさ(1816-89)の妻、国学・歌人;義弟藤井高雅門、
2男3女出産;作政(長男;1847-1929/社家を嗣)・賀陽好謙(次男)の母
- U3102 **豊秋**(とよあき・有賀ありが/本姓;菅原)1790-1882^{長寿93} 遠江長上郡有玉幡屋村の生、
国学者;幼少より高林方朗みちあきら門、1802(13歳)本居大平門、歌人・俳人、
1864頃浜松中心に国学研究会(のち報国隊)設立;講師に招聘;皇学・歌道・俳諧を指導、
大久保春野・長谷川貞雄・賀茂水穂の師、「伎倍廼舎きべのや詠草」著、
[佐保姫の霞のころも立かへりけさより春とあらたまりけり](墓石の歌碑)、
[豊秋(;名)の通称/号]通称;彦太郎/八十右衛門やそえもん、

号;伎倍廻舎きべのや/烏玉/菅齋/幽篁齋

- V3137 **豊秋**(とよあき・米原よねはら、)1802-184847 因幡鳥取藩士;御祐筆、国学;衣川きぬがわ長秋門、篠田惟成の師、
[豊秋(;名)の通称]千之助/甚右衛門/次右衛門
- V3107 **豊秋**(とよあき・菅原すがら、通称;**善兵衛**)1816-5742 出羽仙北郡大巻村の農業;村の有力者、国学者;平田篤胤門/気吹舎の活動を支援、神職熊谷直房(周蔵)と仙北郡の平田門人拡大に尽力
- V3165 **豊珪**(とよあき・高橋たかはし、)1817-187256 尾張名古屋の剣術家;二刀流;父門、名古屋藩撃剣師範、国学者/書家、維新後;東京住;書家として活躍、
[豊珪(;名)の字/通称/号]字;子玉、通称;幸次郎、号;**石齋**/煙岳/松谷
- U3146 **豊秋**(とよあき・織田おだ、大曾根八幡宮神主織田能登介長男)1821-9878 尾張名古屋の神職、県社若宮神社社司/那古野神社社司、国学者;中尾義稲よしね・市岡和雄にぎお・上田仲敏・植松茂岳門/歌人、
[豊秋(;名)の通称]通称;志津麻
- W3180 **豊章**(とよあき・山内まのうち/やまうち、通称;整之助、豊栄とよし男)1843-191573 土佐高知藩士、藩主山内家の分家出身/国学者、1879土佐神社宮司/82少教正/84中教正、1897藤並神社社司兼山内神社社掌/99神宮奉齋会理事/1900神宮神部署参務
豊章(とよあき・小林/久保田)→ 東鴻(とうこう・小林、医/本草) D 3 1 8 7
豊章(とよあき・北川) → 歌麿(うたまる・喜多川、絵師) 1 2 7 0
豊秋(とよあき・安田) → 広治(ひろはる・安田/秦/藤本、神職/国学) G 3 7 9 5
- R3104 **豊明**(とよあき・朝倉あさくら、天方あまた通網男)1609-9789 母;朝倉政元女、幕命で朝倉政明家を相続、幕臣;家光に出仕;小姓番/手水番/御徒頭/小普請/知行千石、1654「理学抄」編、
[豊明(;名)の通称/法号]通称;堅次郎、法号;日利
豊明(とよあき・小曾根) → 乾堂(けんどう・小曾根こそね、書/篆刻家) L 1 8 7 5
- U3126 **豊厚**(とよあき・稲葉いなば、)1794-186269 伊予大洲藩士;1799家督嗣、国学者/歌人、
[豊厚(;名)の通称]猶次郎(幼名)/鹿之助/八左衛門
- R3105 **斗養一**(とよいち・山田やまだ、山田検校、宝生流能楽師三田了任男)1757-181761 尾張生;幼時に盲目、箏を修得、のち山田松黒門/母方と同姓のため山田に改姓;山田流箏曲を江戸に創める、新曲数百、1797検校/1817総録検校18世、門人数千人、「山田流箏曲譜」/1809「吾妻箏譜」編、
[斗養一(;通称)の号] 勝善/幽樵、法号;覚涼院
都容(とよ・藤/斎藤) → 柳之(りゅうし・斎藤/藤とう、絵師/能書) E 4 9 4 5
- R3106 **豊氏**(とよじ・有馬ありま、則頼男)1569?-164274? 母;別所忠治女の御振、播州三木の生、秀吉臣;1594遠州横須賀3万石/家康臣;家康の養女連姫と結婚、関ヶ原大阪陣で戦功、1620筑後久留米藩主21万石、禅学/儒学修学、従四下/侍従、1642「有馬家系」編、
[豊氏(;名)の幼名/通称/法号]幼名;万助、通称;玄蕃頭、法号;春林院
土用松丸(とよまつまる・新田)→ 尚純(ひさずみ・新田/岩松、武将/連歌) B 3 7 1 8
土用丸(とよまる・東門院)→ 東門院土用丸(とうもんいんのとよまる、童/歌) X 3 1 2 7
- V3187 **豊浦**(とよら;女房名、初女房名;若江、通称;和歌山、姓;山村)?-1839 江戸の生、信州飯田藩主堀親審(ちかしげ/1789-1848)の妾(側室・初名;若江)、歌;桜井知栄尼ちえい(親審正室成子なりこの師)門・多田千枝子門、親審の浪費で財政逼迫し国老安富主計かづえにより藩主寵愛の若江は糾弾され出仕停止、しかし1年後;1830(天保元)姫君御介添老女豊浦として出仕;江戸藩邸の奥の実権把握、1839(天保10)江戸藩邸上屋敷で奥女中の藤ふじ(若江の歌の門人)に斬られ重傷;落命、藤は飯田に護送され処刑、
参照 → 親審(ちかしげ(1786-1848/藩主/老中) 2 8 9 8
→ 藤(ふじ・山口、1818-39/奥女中/歌) I 3 8 7 7
国老の主計 → 季記(すえり・安富やすとみ主計かづえ、1772-1841/家老) J 2 3 3 2

豊浦筑前介)?-? 大坂の国学者/伯家神道

豊浦筑前介(とよらちくぜんすけ)→大年(おおとし・名和なわ、神道家/廃仏) E 1 4 0 1

- U3179 **豊雄**(とよお・金子かねこ、)1829- 190072 越後蒲原郡沼垂の乙子おとご神社祠官;兄没後嗣、歌;野矢常方門・国学;本居豊穎とよかい(秋屋)門、
[豊雄(;名)の通称/号]通称;信吉、号;善養
- V3146 **豊雄**(とよお・豊城とよき、)1837- 191781 信濃更級郡の佐良志奈神社祠官、国学者;出雲路定信・足代弘訓門、佐久間象山門、維新後;長野県皇典講究所教官、
[豊雄(;名)の初名/号]初名;重枝、号;鶴巢/田鶴舎たづのや
豊雄(とよお・大江/大蔵/神田)→ 重方(しげかた・原田、神職/勤王家)Q 2 1 7 6
- V3189 **豊岳**(とよおか/ほうがく・中尾なかお、旧姓;三木/原田)1847-8337 豊前上毛郡の生/豊前中津藩士、国学者;道生館入門;渡辺重春(重石丸いかりまる)門、一時、筑前福岡藩士;原田衛士の変名、1870福岡藩の太政官札偽造事件で入獄/のち岡山県警部/典獄/福岡県警部長
[豊岳(;名)の通称]直二郎/衛士/直之助
- R3107 **豊香**(とよか・森田もりた、初名;豊松/登代松)?-1828 武州児玉郡本庄の商家、歌人;儘田柳軒門、京の伴蒿蹊・慈延・小沢蘆庵門/江戸の村田春海・加藤千蔭門、1802「曝井辨」著、「荒川日記」「常盤集」著(1839刊)、13回忌追善集「橘廼なごり」、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[ともすれば捨てしうき世に捨てられぬ友したはしき草の庵かな]、
(大江戸倭歌;雑1712)、
[豊香(;名)の通称/号]通称;助左衛門/安平次、号;橘廼屋/松陰居、屋号;橘屋
- R3108 **豊穎**(とよかい・本居もとお、初名;八千穂、内遠男)1834-191380 母;藤子、紀州和歌山藩士/国学;父門、1855家督継嗣;江戸藩邸内の国学所教官/59和歌山の国学所教官、維新後は政府の神祇職、1852「打聴鶯蛙集初編」編/57「小鳥合」判者、家集「秋屋あきのや集拾遺」、「古今和歌集講義」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[みま草の露分け分けて立ち寄れば日かげも寒しあすか井の水](大江戸倭歌;夏630)、
[眺むれば心の底に響くなり名草の山の入合の鐘](同;雑1668/夕山)
[豊穎(;名)の幼名/通称/号]幼名;稲楠、通称;中衛/平造、号;秋の舎/秋屋
- V3119 **豊蔭**(とよかげ・上月こうづき、為彦男)1840-190061 播磨姫路の神職;海神わたつみ神社宮司、国学者;本居豊穎とよかい門、能書家、
[豊蔭(;名)の通称/号]通称;修理之進、号;桜花真人
豊蔭(とよかげ・伊藤) → 嵐牛(らんぎゅう・伊藤、国学/俳人) B 4 8 7 2
- R3109 **豊策**(とよかず・山内やまのうち/やまうち、賜姓;松平、豊雍とよちか男/本姓;藤原)1773-182553 母;毛利重就女、1789土佐藩主;襲封/父の天明の藩政改革を継承、従四下/筑後守/土佐守、学問の奨励;藩校教授館に馬詰親音もとねを登用/塙保己一の群書類従編纂に協力、808致仕、歌人、「秦嶺院様御詠草」(秦嶺院は豊策の諡)、豊敬ゆきの兄、正室;藤堂和泉守高嶷女順子まさこ、豊興・豊資とよすけ・豊道・豊栄とよしの父、
[豊策(;名)の幼名/字/号]幼名;邦之丞、字;君籌、号;滄洲、法号;秦嶺院
豊一(とよかず・西山) → 宗因(そういん・西山にしやま/西、俳人/連歌) 2 5 0 3
- R3110 **豊風**(とよかぜ・山口やまぐち、通称;惣右衛門)?-? 江後期下総埴生郡押畑の歌人;神山魚貫なら門、「詠草」著
豊勝(豊雄しちん・蜂須賀)→ 至鎮(よしげ・蜂須賀/源、藩主/連歌)D 4 7 5 8
豊兼(とよかね・三橋) → 花城(かじょう・三橋、俳人) L 1 5 9 6
- R3111 **豊河**(とよかわ・紀朝臣きのあそみ)?- ? 奈良期廷臣;739外従五下、万葉集八夏相聞1503:
[我妹子が家の垣内かきつのはさ百合花ゆりはなゆりと言へるは否と言ふに似る](万葉;八1503、ゆりは後日[逢いましょう]の意)
- R3112 **豊城**(とよき・山内やまうち、徳右衛門男/本姓;藤原)1802-6867 江戸の生/幕臣旗本伊豆家に出仕、親友佐藤信圭と湯島天神下に書塾を開設/武蔵秩父に移住して開塾、国学;前田夏蔭門、1864幕府医官松本良順と西洋衛生学を本邦初紹介、歌人、「蘆田鶴日記」著、1849「やまひの草子追加」64「養生法」註釈、33回忌追善歌集「作樂戸さくらと家集」著、佐[作]左衛門(箱館奉行役人)・隄雲ていんの父、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、

[見ればかつ涼しくなりぬ久方の月のみやこやとはに秋なる](大江戸倭歌;530)、
[とるたびにまづは心の正されて筆の諫めを忘れやはする](現存百人一首;18)、
[豊城(;名)の通称/号]名;豊樹、通称;徳右衛門(父名を踏襲)、号;楽齋/作楽戸翁さくらとおう

T3135 **豊樹**(とよき・山名やまな)1807 - 1890⁸⁴歳 豊前小倉藩士、国学者;西田直養なおかい門、
1863(文久3)田野浦占拠の長州軍と交渉;難航するも七卿落等で藩主処分は中止、
武芸者;今枝流剣術・宝蔵流槍術家、維新後;英彦山神社宮司;1873大宮司、大講義、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[襖ぎ川越えて来にけりあなたにてあはんと思ひし秋の初風]、
(「大江戸倭歌;夏683/六月立秋)

[豊樹(;名)の通称/号]通称;転/小平太/藤蔵/太郎三郎/次郎兵衛、号;一止

U3175 **豊樹**(とよき・片山かたやま、)1829-75⁴⁷ 豊前中津郡の今井祇園社神職;大宮司、
国学;西田直養なおかい・佐久間種(果園)門、歌人、

[豊樹(;名)の初名/通称/号]初名;岩彦、通称;一/靱負/出雲守、号;清室

T3152 **豊城**(とよき・武田たけだ、助右衛門千穎ちかひ男)1833-86⁵⁴ 伊予大洲藩士/国学者;本居内遠門、
歌人;香川景樹門、幕末期大洲藩勤王派、維新後;土佐正義党大石圓らと交流、
宇和島の鈴木譲ら隠密謀議;1877(明治10)西南役に呼応中逮捕;懲役5年士族籍剥奪、
囚中日記「花加多満」著;「君が世の民安かれと思ひ入るひとやに月の影ぞとひ来る」、
出獄後;獄中記執筆中に没、

[豊城(;名)の別名/字/通称/号]別名;維樹/維楸、字;士介、通称;喬蔵/豹太郎、
号;寿仙/迂直齋

☆1856蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の[寿仙]と同一?

[風吹けば入江の芦の末葉よりあらはれそめて螢飛び交ふ](大江戸倭歌;夏582)

U3171 **豊城**(とよき・景山かげやま、旧姓;河村)1834-99⁶⁶ 近江滋賀郡の三尾神社社司、歌人;[鴉のうみ]入、
[豊城(;名)の別名/字/通称/号]別名;之昭、字;元紹/甘棠、通称;良吉/右近/大学、
号;桂廼舎/梅塘

豊城(とよき・渡辺) → 重石丸(いかりまる・渡辺、国学・神道家) B 1 1 4 0

豊吉(とよきち・清水) → 貞徳(さだのり・清水しみず、測量家) C 2 0 2 0

豊吉(とよきち・川本) → 衡山(こうざん・川本かわもと、同心/詩人) J 1 9 3 6

豊吉(とよきち・加倉井) → 松山(しょうざん・加倉井かくらい、医/儒者) S 2 2 5 2

豊吉(とよきち・菅沼) → 鼠仙(そせん・菅沼/新美、商家/詩人) K 2 5 0 2

豊吉(とよきち・木内) → 惺堂(せいどう・木内きうち、儒者/詩人) J 2 4 3 2

豊吉(とよきち・大陽寺) → 盛胤(もりたね・大陽寺だいようじ、藩士/文筆) F 4 4 6 6

豊吉(とよきち・今井) → 成忠(しげただ・今井いまい、代官/国学者) N 2 1 4 3

豊吉(とよきち・西尾) → 公龍(きみたつ・西尾にしお、医者/歌人) K 1 6 4 6

R3113 **豊清**(とよきよ・歌川うたがわ、通称;金蔵、歌川豊広男/本姓;岡島)1799-1820^{早世22} 江戸芝の絵師:
歌川豊春門、師より豊清の名を受、父豊広と初世歌川豊国との不和が解消後に豊国門、
1810草双紙「筆始日出松」挿画、12東西庵南北「女合法恋修行者」・馬琴「糸佐蔵春蝶奇縁」画

3164 **豊国**(初世とよくに・歌川うたがわ、人形師倉橋くらはし五郎兵衛男)1769-1825⁵⁷ 江戸芝神明の浮世絵師:
歌川豊春門;歌川を称す、役者似顔絵に長ず;寛政1794-96頃「役者舞台之姿絵」(出世作)、
1801絵本「俳優三階興」/02「絵本戯場年中鑑」/05読本「櫻姫全伝曙草紙」挿画、
1806読本「昔話むかしがたり稲妻表紙」09「本朝酔菩提全伝」挿画、10「一對男時花歌川はやりうたがわ」、
1817「役者似顔早稽古」(教本)、美人画「風流八景」、風俗画「豊広豊国両画十二候」など多数
[初世豊国(;号)の通称/別号]通称;熊吉/熊右衛門?、別号;一陽齋、法号実彩麗毫信士
門弟;2世豊国・国政・国貞・国芳など多数

R3114 **豊国**(2世とよくに・歌川うたがわ、初世の養子)1802?-35?^{34?} 浮世絵師:初世門/1824養子、
1825二世襲名、役者絵・美人画・風景画を描く/陶器業も経営?、1825-35「傾城水滸伝」挿画、
1826「傾城揚羽蝶花形」/27「詭染娘八丈」31「天津空村雨物語」「今昔虚実録」外著多数、
[2世豊国(;号)の通称/別号]通称;源蔵、

別号;歌川豊重/一竜齋/一瑛齋/一陽齋/後素亭/満穂庵

- 豊国(3世とよくに・歌川) → 国貞(初世くにさだ・歌川、絵師) 1 7 2 9
 豊国(4世とよくに・歌川) → 国貞(2世くにさだ・歌川、初世国貞の婿養子/絵師) B 1 7 5 0
 豊国(とよくに・山名) → 禰高(ぜんこう・山名/源、武将/連歌) 2 4 2 8
 豊前国白水郎(とよくにのみちのくちのあま) → 豊前国白水郎(ぶぜんのかくにのあま、万葉歌人) 3 8 0 9
 豊後国白水郎(とよくにのみちのしりのあま) → 豊後国白水郎(ぶんごのくにのあま、万葉歌人) 3 8 2 2
- T3126 登与子(とよこ・本多ほんだ、永井、本多康桓やすたけ[1714-69]女の逸姫/のち豊姫)?-? 歌;賀茂真淵門、異説;康桓の義兄弟牧野忠周女、越後長岡藩主牧野忠利の妻(;逸姫/茂姫)、夫没後;永井直珍なおし(1742-70)と再婚(;豊姫)、(☆直珍の夫人[側室]に千歌代子ちかよこ[歌人]がいる)、本居大平「八十浦の玉」入、[若菜生ふる野辺ものどかになりぬらし垣内の梅の咲きゆく見れば]、(八十浦;上19/1758[宝暦8]真淵家宴)
- T3124 とよ子(とよこ;女房名) ? - ? 尾張藩の大奥に出仕、歌;1798刊石野広通「霞関集」入、[待ちえてし夜半も明くれば七夕の遠きわたりにかへる別路わかれち](霞関;秋373)
- 登与子(とよこ・堀家) → 登与(登與とよ・堀家ほりけ、歌人) W 3 1 3 5
 豊子(とよこ・水沢) → 豊子(ゆたかこ・水沢みずさわ、歌人) H 4 6 3 1
 東世子(とよこ→とせこ・橘) → とせ子(東世子とせこ・橘/河合、歌人) O 3 1 3 0
- R3115 豊子女王(とよこじょう/-によう、京極宮家仁いねひと親王女) 1721-7454 母;鷹司兼熙女の基子、1742久留米藩主有馬頼僮よりゆきの妻;江戸住、歌人;父門、歌集「京極宮家当座和歌短冊帖」著、[豊子女王(;名)の幼名/法号]幼名;登与宮、法号;景福院
- 豊五郎(とよごろう・関) → 当義(まさよし・関せき、藩家老/財政再建) I 4 0 5 6
 豊五郎(とよごろう・戸田) → 氏房(うじふさ・戸田とだ、藩主/歌) E 1 2 3 2
 豊五郎(とよごろう・早川) → 忠顕(ただあき・早川はやかわ、源、藩士/国学) Z 2 6 0 1
 豊五郎(とよごろう・犬塚) → 正稔(まさしげ・犬塚いぬづか、歌人) N 4 0 7 6
 豊坂翁(とよさかおう) → 香実(こうじつ・深田ふかだ、藩士/儒/歌学) B 1 9 2 5
- R3116 豊前王(とよさきおう、栄井王男) 805-86561 漢学;紀伝道に修学、826大学助/式部大丞、大宰大監/833従五下参河守/大蔵大輔/伊予守/大和守/民部大輔/864従四上、非参議、詩;経国集入
- 豊策(とよさく→とよかず・山内) → 豊策(とよかず・山内やまのうち、藩主) R 3 1 0 9
 豊作(とよさく・京極) → 高明(たかあきら・京極/水野、幕臣/詩人) L 2 6 5 0
 豊作(とよさく・勝野) → 台山(たいざん・勝野かつの、勤王家) K 2 6 0 9
 豊郷(とよさと・吉岡) → 恕翁(じょう・吉岡よしおか、藩医) M 2 2 1 8
 豊三郎(とよさぶろう・今村) → 真幸(まさき・今村/北原/源、国学者) C 4 0 2 8
 豊三郎(とよさぶろう・富処/志倉) → 西馬(さいば・富処ふどころ/志倉、俳人) B 2 0 0 5
 豊三郎(とよさぶろう・河村) → 殷根(いんね/滋根しげね/のぶね・河村、国学者) C 2 1 6 6
 豊三郎(とよさぶろう・大形) → 安重(やすしげ・大形おおかた、飛脚/歌人) F 4 5 5 0
 豊三郎(とよさぶろう・山田) → 信胤(のぶたね・山田やまだ/山崎、神道家/郡長) K 3 5 2 7
 豊敷(とよき→とよぶ・山内) → 豊敷(とよぶ・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 4 3
- R3117 豊重(とよしげ・斎藤さいとう、通称;覚之助)?-? 江前期仙台藩士;大番組、武芸;佐藤信良門、一宮流居合など六流を皆伝、宮流武術を創始し藩内に伝承、「面影草」「柔勤肝要集」著
- R3118 豊信(とよしげ・山内やまのうち/やまうち、賜姓;松平/本姓;藤原、豊著男) 1827-7246 1846南屋敷山内家相続、1848宗家山内豊惇没;養嗣子;土佐藩主襲封/従四上/土佐守/侍従、藩政改革/幕政に参画;1859条約勅許をめぐり井伊直弼と対立;謹慎/家督を譲り品川鮫洲に謫居、62謹慎解除、公武合体論に専念、1867大政奉還の建白書、従二位/権中納言、69致仕/麿香間祇候/正二位、浅草橋場別邸に隠居、没後;贈従一位「容堂公詩集」「直養集」「函嶺遊記」/詩歌集「鯨海酔侯集」著、[豊信(;名)の幼名/字/号]幼名;輝衛/兵庫助、字;無功/巖嶂/源泉/直養/酔卿、号;容堂/璋/九十九洋外史/東海外史/東海老人/五斗先生/春村桑者/白雲山人、方外道人/水竹生/水竹人/鯨海酔侯/丁亥生/借庵先生、

(謫居中の号); 鮫洲外史/武陵罪人/罪逆余生/三叉漁民/四恩亭
☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の[侍従豊成朝臣]と同一?

[花紅葉散りにし後も山里は雪にとひこん人ぞまたある](大江戸倭歌; 冬1286)

豊重(とよしげ・歌川) → 豊国(2世とよくに・歌川うたがわ、絵師) R 3 1 1 4
豊重(2世とよしげ・歌川) → 国鶴(初世くにつる・歌川、絵師) C 1 7 9 2
豊重(とよしげ・宮崎) → 豊水(ほうすい・宮崎みやざき、坊官/記録) B 3 9 9 1
豊志太夫(とよしだゆう・富本) → 豊前掾(初世ぶぜんのかげ・富本、浄瑠璃太夫) 3 8 1 0
豊七郎(とよしちろう・賀集) → 惟一(これかず・賀集かほ、製陶/国学) Q 1 9 6 1
登与島玉和軒(とよしまぎやくわけん) → 玉和軒(ぎやくわけん・登与島、浄瑠璃作者) H 1 6 3 6
豊島采女(とよしまのうねめ) → 豊島采女(としまのうねめ、万葉歌人) N 3 1 7 7
とよ女(とよじよ・小野) → とよ(・小野おの、歌島の局/藩老女/歌) U 3 1 4 3
豊城(とよしる→とよき・山内) → 豊城(とよき・山内やまうち、国学) 3 1 1 2
豊四郎(とよしろう・伊藤) → 李山(りざん・伊藤いとう、大庄屋/俳人) B 4 9 1 2
豊四郎(とよしろう・速水) → 氏紀(うじのり・速水はやみ、酒造業、歌人) E 1 2 8 4
豊二郎(とよじろう・豊田) → 潔常(きよつね・豊田とよた、国学者) U 1 6 8 8
豊治郎(とよじろう・岸田) → 杜芳(とほう・岸田/櫻川、黄表紙・狂歌) 3 1 5 6
豊次郎(とよじろう・和田) → 恭寛(きょうかん・和田、和算家) N 1 6 5 3
豊次郎(とよじろう・富処/志倉) → 西馬(さいば・富処ふところ/志倉、俳人) B 2 0 0 5
豊次郎(とよじろう・岡村) → 御蔭(みかげ・岡村、神職/歌人) H 4 1 4 1
豊次郎(とよじろう・小林) → 信誠(のぶまさ・小林こばやし、庄屋/国学) I 3 5 4 2
豊次郎(とよじろう・七里) → 不着翁(ふちやくおう・七里しちり、国学者) I 3 8 3 3
豊次郎(とよじろう・西野) → 前知(さきとも・西野にし、商家/歌人) P 2 0 0 5
豊次郎(とよじろう・三輪田) → 高房(たかふさ・三輪田みわた、和漢学/神職) Z 2 6 7 2

R3119 豊季(とよすえ・小倉おぐら、見季男/本姓; 藤原) 1781-1830 50 廷臣; 1812参議/18権中納言/23正二位、
1818「大祀小忌中納言豊季卿記」著、法号; 後雲從院

R3120 豊資(とよすけ・山内やまのうち/やまうち、賜姓; 松平/本姓; 藤原、豊策とよかず男) 1794-1872 79 兄豊興が夭逝;
1809土佐藩12代藩主嗣/從四下土佐守、祖父豊雍とよかの藩政改革復活を企画したが頓挫;
1843隠居、藩校教授館に日野根鏡水を招聘し学者を育成、左近衛少将/右近衛少将、
1852「孕門観花和歌」、「猪鹿狩牒」、「入野」著、
歌; 1858蜂屋光世[大江戸倭歌集]入、

[立ちならぶ松の緑のときは山千年の色のさかえをぞ見る](大江戸倭歌; 雑1766)、
[豊資(;名)の幼名/号]幼名; 金寿/政太郎、号; 景翁/尚徳/鵬、豊熙とよてるの父

豊助(とよすけ・竹内) → 信生(のぶお・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 0
豊助(とよすけ・竹村) → 盈仲(みつなか・竹村たけむら/松尾、庄屋/歌) J 4 1 6 7
豊輔(とよすけ・師岡) → 正胤(まさたね・師岡もろおか、国学者/神道) D 4 0 6 2
登与助(とよすけ・川原) → 慶賀(けいが・川原/田口、洋画家) 1 8 3 7

V3106 豊澄(とよすみ・熊谷くまがい) 1799-1868 70 信濃飯田藩士; 作事奉行、国学/歌人、一澄かずみの父、
[豊澄(;名)の通称] 富吉とみきち/伝治

豊住(とよすみ・蜂須賀) → 至鎮(よしげ・蜂須賀/源、藩主/連歌) D 4 7 5 8
豊蔵(とよぞう・阿万) → 鉄崖(てつがい・阿万あまん、藩儒) C 3 0 2 1
豊蔵(とよぞう・杉原) → 佐邦(すけくに・杉原すぎはら/多羅尾、国学) I 2 3 6 4
豊太(とよた・西宮) → 奎斎(けいさい・西宮、藩の儒者) F 1 8 6 6
豊太(とよた・梯) → 方教(まさのり・梯かけはし、藩士/国学/書) O 4 0 8 0

R3121 豊高(とよたか・藤田ふじた、通称; 伊右衛門)?-? 紀州藩出仕の能楽春藤流脇師、春藤流六世休意門、
1701-58「豊高日記」著

R3122 豊敬(とよたか・奈古屋なごや、豊兼男) 1743-93 51 周防徳山藩士; 1758家督/1758馬廻組頭/藩政参画、
藩主を補佐; 君命で藩校鳴鳳館創設; 藩学振興の基盤確立、詩文/書画を嗜む、
「御旧記問答並文書」著、亀井南冥と親交、
[豊敬(;名)の字/通称]字; 子信、通称; 蔵人

V3166 豊鷹(とよたか・高林たかばやし) 1795-1859 65 遠江長上郡有玉村神明社祠官高林方朗みちあきらの養子、

国学/歌;養父方朗門、古学・歌道に長ず、高林家9代を継嗣、
有賀豊秋と共に方朗の学問を継承、

[豊鷹(;)名)の別名/通称]初名;眞蔭、通称;周助/芳三郎/伊兵衛/左衛門

- X3105 **豊武**(とよたけ・吉田よしだ、通称;助右衛門/号;幽居、助右衛門豊覚男)?-? 江前期日置流弓道家、
父豊覚は[的之作法卷(弓術指南秘卷)]を相伝、歌人、

[秋のの千種の花も色そへて幾世かぎらぬ詠ながめなるらし](茂睡[鳥の迹]秋野804)

豊武(とよたけ・奥村) → 栄実(てるざね・奥村おくむら、藩士/和漢学) C 3 0 7 4

豊竹越前少掾(とよたけえちぜんしょうじょう) → 越前少掾(えちぜんしょうじょう・豊竹、浄瑠璃太夫/作者) 1 3 0 9

豊竹戸志太夫(とよたけこしだゆう) → 夢羅久(初世むらく・朝寝房、嘶家/狂歌) D 4 2 1 2

豊竹此太夫(とよたけこのだゆう) → 此太夫(2世このだゆう・豊竹、浄瑠璃太夫) N 1 9 3 8

豊武彦(とよたけひこ・奥村) → 栄実(てるざね・奥村おくむら、藩士/和漢学) C 3 0 7 4

豊竹肥前掾(とよたけひぜんじょう) → 肥前掾(ひぜんじょう・豊竹、浄瑠璃太夫/俳人) C 3 7 5 2

豊竹若太夫(とよたけわかだゆう) → 越前少掾(えちぜんしょうじょう・豊竹、浄瑠璃太夫/作者) 1 3 0 9

豊田産子(とよたさんし) → 産子(さんし・豊田、歌舞伎作者) M 2 0 2 8

- R3123 **豊忠**(とよただ・片岡かたおか、通称;伝右衛門尉)?-? 江戸前期武蔵の和算家、1670「根源起算法直解」

- R3124 **豊忠**(とよただ・広幡ひろはた/本姓;源、久我こが通名男) 1666-1737 72 広幡忠幸の養嗣子、
廷臣;1684従三位/1723内大臣/26従一位、1696-1720「豊忠公記」、「広幡豊忠書状」著
[豊忠(;)名)の法号] 自浄光院、長忠ながただの父

- S3175 **豊玉毘売**(とよたまひめ、海神の娘)?-? 記紀神話/歌謡1首、火遠理命(火火出見尊/山幸彦)の妻;
息子鵜葺草葺不合を産出、夫に課した禁忌が破られ海に帰る;禁制破綻伝説、神武天皇祖母
[赤玉は緒さへ光れど白玉の君が装よひし貴たふとくありけり](古事記上)

- V3104 **豊民**(とよたみ・国方くにかた、) 1821-1903 83 阿波徳島藩士、国学/歌;太田豊年門、
のち佐古諏訪神社社司、

[豊民(;)名)の通称/号]通称;藤太郎/太平/昇平、号;日涉園

豊民(とよたみ・中井) → 乾斎(けんさい・中井、漢学者/詩人) E 1 8 1 2

- R3125 **豊足**(とよたり・中島なかじま、別名;種樹、号;桃屋)?-? 江後期豊前宇佐郡の医者/大阪住、
国学(古学);本居大平・衣川長秋門、長秋が豊足宅に寓居中「大同類聚方」注釈を託し没、
豊足もその完成をまたず没、1824「疫瘡新論」、「大同類聚形病名目録」著

豊太郎(とよたろう・河波) → 有道(ありみち・河波かわなみ、儒者/教育) F 1 0 8 3

豊太郎(とよたろう・南部) → 景春(かげはる・南部なんぶ、藩士/儒者/詩) L 1 5 2 4

豊太郎(とよたろう・酒井) → 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2

豊太郎(とよたろう・五弓) → 雪窓(せつそう・五弓ごきゅう久文、国学/儒) E 2 4 5 1

豊太郎(とよたろう・那須) → 資礼(すけひろ・那須/藤原/佐竹、旗本/幕臣) C 2 3 6 4

豊太郎(とよたろう・那須) → 資興(すけおき・那須なす/藤原/本庄、資礼の養子/旗本) H 2 3 9 0

豊太郎(とよたろう・服部) → 甫庵(ほあん・服部はつとり、医者) 3 9 0 4

豊太郎(とよたろう・中原) → 政安(まさやす・中原なかはら、和算家) I 4 0 1 2

- R3126 **豊雍**(とよちか・山内やまのうち/やまうち、賜姓;松平/本姓;藤原、豊敷とよぶ男) 1750-89 40 母;加恵(貞光院)、
1768土佐藩主、従四下/筑後守/土佐守、藩財政再建のため天明の改革断行、
闇齋学統による文教政策、業半ばで病没、土佐藩中興の祖、
歌;冷泉為村門、正室;毛利重就3女女子(1749-80)、豊策とよかず・豊敬とよゆき・采子の父、
1785「建依集」、「北山紀行」著、

「豊雍侯家集」著、大平「八十浦の玉」上巻末入(245長歌・246読人不知2首)、

[をさまるも乱るるもまた心ぞと身をかへり見てすぐる年月](八十浦;246)、

[豊雍(;)名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名;松之丞/国松、別名;峯善(;)初名)/恭豊/厚豊、
字;君肅、通称;筑後守/土佐守、号;/蘭稀/南邦、法号;靖徳院

- W3128 **豊彭**(とよちか・とよみち・古川ふるかわ、旧姓;前田、) 1831-89 59 甲斐八代郡の生/古川躬行の養子、
国学;平田鏡胤門、東京の富岡八幡宮祠官、

[豊彭(;)名)の初名/通称]初名;義素、通称;周輔/三郎/帯刀

- R3127 **豊継**(とよつぐ・阿倍朝臣あべのあそみ)?-? 奈良期廷臣;737従五下、734聖武難波行幸時の歌;万葉1002
[馬の歩み押さへ留めよ住吉すみのえの岸の殖生はにふににほひて行かむ](万葉;1002)

- R3128 **豊次**(とよつぐ・持永もちなが、通称;十郎兵衛)?-? 江前期和算家;宮城清行門、師の命で1687「改算記綱目」編纂(大橋宅清と共編)
- U3119 **豊次**(とよつぐ・石川いしかわ/本姓;藤原、通称;常陸)1753-182068 肥後菊池郡の神職、益城郡辺田見八幡宮祠官、国学・歌;本居宣長門
- U3160 **豊嗣**(とよつぐ・岡本わかもと、)1809-187769 周防佐波郡宮市の木綿商/村の大年寄、国学;鈴木直道門/皇道を修学;志士の来訪多数/藩主の公武周旋に調度を弁ず;藩主より二人扶持・帯刀を許可/七卿落ちに三田尻で慰諭/贈正五位、歌人、[豊嗣(;名)の通称/号]通称;八十八/三右衛門、号;桜園/稜威神習所
豊次(とよつぐ・高畑) → 我泉(がせん・高畑、俳人) M 1 5 7 4
- R3129 **豊綱**(とよつな・吉田よしだ、通称;助左衛門、豊隆男)?-? 江前期弓術家;日置流助左衛門派弓術の祖、「弓村之書」伝
- R3130 **豊綱**(豊綱とよつな・真野まの、猶綱男)1734?-9461? 代々尾張津島神社神官/25歳父没;祠官、50歳で隠居、国学/俳諧;津島神島連に参加/也有と交友、1751「神道伝授記」74「風月楼八勝詩歌稿」88「雲史伊勢紀行」著、「秘話集録」「日本紀神代講私記」「私言行状稿」編/外著多数、[豊綱(;名)の通称/号]通称;門之太夫/紋治、号;霞鳥/元志/雲史/雲翹、常遊亭/満月堂/璉峰大器
先輩の尾張俳人で1689「あら野」入集の元志がいるが関係不詳
- U3134 **豊綱**(とよつな・碓田うすだ、)1823-188866 信濃埴科郡新田村の名主、歌;橘忠香門
[豊綱(;名)の通称/号]通称;万右衛門、号;美篤舎(びんとしや)
- W3191 **豊庸**(とよつね・吉井よい、旧姓;和田)1700-5051 安藝広島の子/安藝賀茂郡竹原の吉井家の養子;商家[米屋]の製塩・酒造業を継嗣/町年寄を務める、国学/歌;有賀長伯・鳥丸光栄門、歌人として広く活動;頼亨翁(こうおう)(惟清)の歌の師、
[豊庸(;名)の通称]上米屋半平
- W3157 **豊経**(とよつね・水無瀬みなせ、)1814-189784 信濃小県郡塩田村の神職、国学・歌;岩崎長世・飯塚久敏・願海(がんかい)(天台僧)門
- R3131 **豊矩**(とよつね・山内やまのうち/やまうち、賜姓;松平/本姓;藤原、豊資とよすけ男)1825-49早世25 土佐藩士、1842「諸鏡」著、豊熙とよてる弟、通称;内膳/土佐守
- R3132 **豊常**(とよつね・岡部おかべ、通称;主税ちから、戸田とど松公男)?-1865客死 岡部左近の養嗣;幕臣、1853京町奉行/59槍奉行;62免職、1864西丸新番頭/65長州遠征従軍;大阪で客死、「探索書」著
豊常(とよつね・滝原) → 宋閑(そうかん・滝原たきはら、医者/歌人) G 2 5 7 3
豊常(とよつね・岡島) → 木兵(もくべい・岡島おかじま、俳人) B 4 4 0 8
- W3104 **豊貫**(とよつら・沼沢ぬまざわ/本姓;藤原、号;広太(こうた)1851-76自刃26 肥後熊本藩士、国学;林有通門、詩人、1877(明治9)神風連の乱に参加;第一隊で熊本県令安岡良亮宅を襲撃;敗退、金峰山に逃れ自刃
辞世[神州の皇運流れて水の如し 濟なさんと欲して濟らず此の窮に及ぶ
磊々らいらいたる雄心ゆうしん猶なほ未だ撓たはず 青天月下清風に臥す]
- R3133 **豊熙**(とよてる・山内やまのうち/やまうち、賜姓;松平/本姓;藤原、豊資とよすけ男)1815-4834 1843土佐藩主、従四下/対馬守/土佐守、藩政改革;馬淵嘉平を登用、藩校充実/医学館開設/武芸所新築、西洋砲術採用、儒;山口菅山・佐藤一斎門、「時務論」「徳用録」/1846「神童記」「用法論」、「輔儲大意」「和歌会席作法」/1834「天保五年十月二十五日日次会詠三首和歌霜鴨夢」著、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[春の夜は照る月影も朧にてほのかになびく青柳の糸](大江戸倭歌;春150)、
[豊熙(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;直寿/政太郎/晟太郎、字;君裁、通称;侍従、号;三鏡/鏡齋/芳洲、法号;養徳院
豊輝(とよてる・山名/清水) → 時庸(ときもち・清水、幕臣/神道/兵学) K 3 1 1 5
- W3194 **豊辰**(とよとき・吉田よしだ、新居頼母繁興3男)1824-9471 備後福山藩弓術師範の吉田豊穰の養子、阿部正弘以下4代藩主の日置流弓術師範、執政(家老)/1859(安政6)藩校誠之館文武総裁、

1865(慶応元)老中に尊攘姿勢を嫌われ隠居、68福山城包囲の長州軍と交渉;城下を防ぐ、
維新後;大監察/沼名前神社宮司/吉備津神社宮司、
自慢の息子4人を養育;豊文とよみ・弘蔵・下宮長三郎・彦六郎、
[豊辰(;名)の通称/号]通称;助左衛門/助右衛門、号;水山(蟄居号)

- R3134 **豊年**(とよとし・賀陽かや) 751 - 815⁶⁵ 廷臣;大学及び宅嗣の芸亭院で学習/795文章博士、
806式部大輔、詩人、「凌雲集」編纂参画/没後正四下、小野永見ながみと親交、凌雲・経国入
- X3101 **豊年**(とよとし・渡わたり、通称;是三) 1689-1754⁶⁶ 近江蒲生郡の生、
信濃飯田で医者/歌人、国学・歌;依田正純門
- U3168 **豊年**(とよとし・加藤かとう/旧姓;長坂、) 1758-96³⁹ 遠江白須賀の国学者;本居大平門、郷土史研究、
[豊年(;名)の別名/通称]別名;義賢、通称;久三郎
- R3135 **豊年**(とよとし・太田おた) 1767- 1834⁶⁸ 阿波名東郡沖洲村の庄屋の生、医;小原春造門、
上京し本草学;小野蘭山門/国学・歌;永井精古・大江広海・本居宣長・本居大平門、
1801小原春造に従い祖谷で採薬、永井精古と共に阿波復古派国学の先達、
徳島藩蜂須賀喜瑞・昭順の歌の師/小出清音・直城父子の師、
1827「紐鏡中の心」、「茂山日記」(小原春造に採薬随行の記録)著、
[豊年(;名)の通称/号]通称;正輔、号;浦安ほあん/合歓舎ねむのや/蘆の屋
豊俊(とよとし・山内) → 吉右衛門(きちえもん・山内やまのうち、村役/教育) L 1 6 2 2
豊聡耳皇子(とよとみのみこ) → 聖徳太子(しょうとくたいし、皇太子/摂政) Q 2 2 3 0
- R3136 **豊直**(とよなお・菅原すがら、別名;泰定/号;雪斎)?-? 1860^存 常陸那賀郡の三輪神社の神官、
1859「下野掌覽」、「中臣祓正義」著
豊直(とよなお・森) → 僊斎(せんさい・森もり、医者/国学/歌) M 2 4 3 3
- R3137 **豊長**(とよなが・大島おおしま、通称;左源太)?-? 江前期1624-81頃武蔵忍藩士/藩主松平信綱に近侍、
1638島原乱鎮圧に功、1677「信綱記」編
- R3138 **豊長**(とよなが・高辻たかつじ/滋岡、本姓;菅原、東坊城ひがしほうじょう長維男) 1625-1702⁷⁸ 廷臣、
母;広橋総光女、大納言高辻長純の養嗣子;1651高辻家を相続、1670従三位/1684権大納言、
1695正二位、1649-68「豊長卿日記」、「亀戸天神八百年御忌二千句」著、
[豊長(;名)の一字名/別名/号]一字名;長、初名;良長、号;王苕子おうちょうし、法号;真光院
豊長(とよなが・松井/氷室) → 長翁(ながとし・氷室ひむろ、神職/歌人) E 3 2 8 7
豊長(とよなが・大館) → 信郷(のぶさと・大館おおだち、国学者) H 3 5 7 0
豊成(とよなり・中井) → 梅成(うめなり・中井なかい、商家/歌人) E 1 2 3 9
- S3157 **豊庭**(とよわ・石上朝臣いそのかみのあそみ)?-718 奈良期廷臣;707造山陵師陽司/711兵庫守備将軍、
714騎兵右将軍、万葉集の石上卿(いそのかみのまへつきみ)説がある
- R3140 **豊主**(とよぬし・滋賀/大伴/藤原、藤原大継男)?-? 平安初期廷臣;播磨守/従四下、歌人:
923?「論春秋らんしゅんじゅう(黒主豊主家)歌合」(大伴黒主との歌合;躬恒判/別称「躬恒自歌合」)、
[春はただ花こそは咲け野辺ごとに錦をはれる秋はまされり](
豊主(とよぬし・北島) → 重孝(しげり・北島きたじま、神職/国学) O 2 1 2 2
豊之丞(とよのじょう・村岡) → 良毅(りょうき・村岡むらおか、藩士/家老) H 4 9 0 3
豊之進(とよのしん・関) → 当義(まさよし・関せき、藩家老/財政再建) I 4 0 5 6
豊之進(とよのしん・和田) → 寧(やすし・和田わだ、和算家) B 4 5 6 1
豊之進(とよのしん・戸倉/坪内) → 伊八郎(いはちろう・戸倉、洋学者) I 1 1 1 8
豊之助(とよのすけ・酒井) → 忠明(ただあきら・酒井さかい/源、忠蓋/藩主) U 2 6 0 5
豊之助(とよのすけ・成島) → 東岳(とうがく・成島なるしま、幕臣/儒者/歌) C 3 1 2 0
豊之助(とよのすけ・岡村) → 御蔭(みかげ・岡村、神職/歌人) H 4 1 4 1
豊之助(とよのすけ・座光寺) → 為磧(ためかた・座光寺ざこうじ、領主/歌人) X 2 6 2 8
豊之助(とよのすけ・牧野) → 成著(しげあきら・牧野/田口、幕臣/文筆家) Q 2 1 5 3
豊之助(とよのすけ・大島) → 義苗(よしなね・大島おおしま、旗本/俳人) K 4 7 6 5
豊之助(とよのすけ・賀集) → 惟一(これかず・賀集かほ、製陶/国学) Q 1 9 6 1
- W3174 **豊信**(とよのぶ・八木やぎ、正信男)?-1627 安桃・江前期の武将、但馬の国人八木家当主、
但馬の豪族;八木城主;守護山名家の家臣、垣屋・太田垣・田結庄ら但馬国人衆と共に謀反、
1512(永正9)豊信は垣屋・太田垣・田結庄ら但馬国人衆と謀って山名致豊に離反、

以後;豊信と垣屋光成・太田垣輝延・田結庄是義が但馬を四分割、のち毛利家の家臣、1579(天正7)頃但馬侵攻の羽柴秀吉に属す;因幡侵攻に参加;1850(天正8)若桜を守る、因幡智頭郡2万石領有/1581(天正9)毛利勢の攻撃に若桜鬼ヶ城を守れず逃亡;行方不明、薩摩鹿兒島の島津家を頼り島津家久の右筆となる/藩士;大坂蔵奉行、代々歌人の家;曾祖父八木宗頼は室町歌壇で活動、豊信の歌;[都城八木家文書]入、津田宗及の茶会に参加する文化人、
[豊信(;)名)の通称]新右衛門/丹後/但馬守

R3141 **豊宣**(とよぶ・斎藤さいとう、彦右衛門男)?-1692 上総の生/出雲松江藩世子松平綱隆に出仕;扈従、1658家督;4百石/松江藩隠岐国郡代役/用人役/留守居番頭役/88大番役;5百石、1667「隠州視聴合記」85「飯石神社石記」著、
[豊宣(;)名)の通称/号]通称;勘介、号;弗緩/遊外、

R3142 **豊信**(とよぶ・石川いしかわ、石川宗貞[庄五郎]男)1711-8575 江戸の浮世絵師:西村重長門、紅摺美人画に長ず、1735小伝馬町旅宿糠屋ぬかや[加藤七兵衛]の婿養子;糠屋主人、「石川豊信画譜」「天神記」画、1751「絵本俚諺草」52「絵本東の森」63「絵本花農緑」画、1765「絵本江戸紫」69「百人一首千尋海」79「絵本教訓種」、「ねつみのゑんくみ」画、「桃太郎昔咄」画、狂歌;1787「才蔵集」1首入(;526)、
[齒はかけて耳は聞こえず目も見えず老ては智恵も猿が三匹](才蔵集;十二526/秀葩名)
[石川豊信(;)号)の通称/別号]通称;石川孫三郎/のち糠屋七兵衛、
別号;秀葩しゅうは、孫三郎重信/西村重信、咀篠堂つじょうどう、石川雅望まさもちの父

R3143 **豊敷**(とよぶ・山内やまのうち/やまうち、賜姓;松平/本姓;藤原、家老山内規重男)1712-6759 藩主豊常養嗣、母;西大路隆栄女、1725土佐高知藩主襲封、侍従、火災飢饉の窮民対策に苦慮、学問を奨励、1760藩校教授館創設;山崎闇斎の学統を教学の基本とする、儒;尾池存斎・三宅尚斎門、侍読に宮地静軒・中村七友斎を登用、歌;荷田蒼生子たみに門、1739「時習録」、「道の記」、「玉山講義性情図」「儒臣講義聞書」、「大昌院文集」「大昌院様御詠」「豊敷公御詠」著、本居大平「八十浦の玉」上巻末入(242-244読人不知3首)、
[池のへの松を春風吹くからにかげさへなびく藤なみの花](八十浦;243池藤)、
[豊敷(;)名)の別号/幼名/通称/法号]別名;重固(;初名)/市正、幼名;正之助/政之助、
通称;伊右衛門、法号;大昌院、 豊雍とよちかの父

R3144 **豊陳**(とよぶ・朝倉あさくら、幼名;又太郎、法号;日容、豊芳男)1762-78夭逝17歳 幕臣;
1763(宝暦13;1歳)家督相続、禄千石、夭逝、詩人:「芙蓉草」著

豊信(とよぶ・山内) → 豊信(とよぶ・山内やまのうち容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8

R3145 **豊矩**(とよりの・田辺、行名;北行鏡月)?-? 富士講神道家、1716-36頃富士山北口御師、甲斐吉田住、1733富士講行者断食入定に随行;記録「烏帽子岩三十一日之巻」編、1733「不二行者食行録」84「扶桑国御祭めし」著、1713「不二烏帽子岩食行禄真伝」(伝)
[豊矩の通称/屋号]通称;十郎右衛門、屋号;菊屋

R3146 **豊矩**(とよりの・田村) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃の和算家;関流、「解題雑録」編

R3147 **豊矩**(とよりの;通称・竹内たけうち/矢田、名;要)?-? 江後期上総の和算家:1834「一線標」

V3179 **豊矩**(とよりの・出淵でぶち、)1813-190088 伊予松山の歌人、
[豊矩(;)名)の通称]七兵衛/文太夫/孫右衛門

豊記(とよりの・桜井) → 政重(まさしげ・桜井さくらい、神道家) C 4 0 7 8
豊範(とよりの・中野) → 忠順(ただのぶ・中野なかの、藩士/書家) Y 2 6 6 2
豊旗(とよはた・大空) → 大空豊旗(おおそらのとよはた、狂歌作者) D 1 4 5 2
豊八(とよはち・吉田、豊八郎) → 鶯湖(が・吉田よしだ、藩士/儒詩) H 1 5 8 1
豊八(とよはち・高橋) → 緑園守清(りよくえんもりきよ、狂歌作者) J 4 9 7 3

R3148 **豊春**(とよはる・歌川うたがわ、名;昌樹)1735-181480 出身地;豊後白杵・但馬豊岡・江戸の3説、江戸芝三島町の絵師;鳥山石燕門(西村重長・石川豊信門の説あり)、浮世絵歌川派の祖、画工、風景画に遠近法を定着、1804「絵本江戸錦」08「宝入船七福大帳」画、豊秀・豊広らの師、
[豊春(;)号)の通称/別号]通称;但馬屋庄次郎/新右衛門、
別号;一竜斎/潜竜斎/松爾楼しゅうじろう

- 豊春(とよはる・岩橋) → 豊流(ほうりゅう;号・岩橋いわし、俳人) C 3 9 6 9
- W3196 豊彦(とよひこ・若林わかばやし、) 1751-1821 71 近江彦根の国学者/歌人;[彦根歌人伝・亀]入、
[豊彦(;名)の通称/号]通称;喜右衛門、号;其石きせき
- R3149 豊彦(とよひこ・岡本おかもと、清左衛門行義男) 1773-1845 73 備中窪屋郡水江村の絵師:黒田綾山門/
1791福原五岳門、上京;松村呉春[月溪]門/円山四条派、京住、山水画、画塾「澄神社」を開、
宮中御用;修学院離宮襖絵「泊舟」制作、「近江八景」「美都の咏め」「豊公遺宝図略」画、
「写生帖」、「松下鹿蝙蝠図」(呉春・岸駒らと合作)、田中日華・塩川文麟の師、
[豊彦(;名)の字/通称/号] 字;子彦、通称;主馬しゅめ、
号;鯉橋/鯉山/葦村こうそん/丹岳/澄神斎、亮彦あきひこの養父
- 豊彦(とよひこ・伊能/楫取) → 魚彦(なひこ・楫取/伊能、名主/歌人) 3 2 2 4
- 豊彦(とよひこ・大平) → 蘆平(あしひら・大平おおだいら/鎮西、神職/詩歌) H 1 0 2 5
- 豊日子(とよひこ・朝比奈) → 泰吉(やすし・朝比奈あさいな、神職/歌人) D 4 5 5 9
- X3115 豊久(とよひさ・井上いのうえ、)? - ? 江前期;歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、
[むさしのによわたる月の舟みれば尾花の波のちさとをぞこぐ](林葉累塵;秋540)
- U3123 豊久(とよひさ・一定いちさだ、) 1823-1910 88 淡路三原郡の国学・歌;大国正武門/経史;友成周宣、
勤王の志士、淡路廢帝の諡号(淳仁天皇)を奉称することに尽力、
[豊久(;名)の通称/号]通称;文八、号;丘松樵夫
- W3109 豊久(とよひさ・畑はた、通称;吉松/惣兵衛) 1825-1902 78 近江蒲生郡の歌人;[鳩のうみ]入
豊久(とよひさ・岡本) → 善悦(ぜんえつ・岡本おかもと、絵師) L 2 4 7 4
豊尚(とよひさ・後藤) → 尚豊(ひさとよ・後藤ごとう、庄屋/地誌) I 3 7 0 9
- R3150 豊秀(とよひで・歌川うたがわ) ? - ? 江後期1804-44頃上方絵師:歌川豊春門、読本・滑稽本の挿画、
1807「倭琴高誌」/08「脚栗毛」「車僧轍物語」「聚義雑法談」著、
1826「鶏が啼東都暁」32「窃潜妻」外著多数
豊秀(とよひで・青山) → 白峯(はくほう・青山、幕臣) D 3 6 9 2
豊栄(とよひで・山内) → 豊栄(とよよし・山内、藩士/文武教育) R 3 1 7 0
- 3165 豊人(とよひと・巨勢こせ朝臣、字;正月麻呂むつきまろ)?-? 万葉三期歌人;
色が黒かったため土師水通が[小黑おぐろ]の綽名をつける(巨勢斐太を大黒と呼ぶ);
万葉嗤笑歌3845(:土師水道みみちに答歌)、
参考 → 水道(みみち・土師はにし宿禰、3844作者) 4 1 3 8
→ 巨勢斐太朝臣(こせのひだのあそみ) D 1 9 1 4
- 豊仁(とよひと) → 光明天皇(こうみょうてんのう、北朝、歌) B 1 9 9 3
- 豊姫(とよひめ・松平) → 頼起夫人(よりおきふじん・松平まつだいら、藩主室/歌) P 4 7 1 9
- 豊姫(とよひめ・本多) → 登与子(とよこ・本多ほんだ/永井、藩主の妻/歌人) T 3 1 2 6
- 登代姫(とよひめ・立花) → 登代(とよ・毛利もうり/立花、藩主室/歌) W 3 1 6 8
- R3151 豊平(とよひら・木村きむら、別名;眞楳まがし、文内男)?-1832 周防三田尻の蘭方医者;長崎で修学、
国学:鈴木直道・本居大平・村田春門門、儒詩;1823広瀬淡窓門、「鏡乃屋歌集」「蒲園文草」、
「大君の定」「古言清濁考稿」、1826「五十鈴之河水」27「五十連音麻曾鏡」30「徽家要領」著、
大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[わが屋外の梅もかつがつ咲きにけり鶯来鳴く春立つらしも](八十浦;709)、
[豊平(;名)の通称/号]通称;陽藏、号;秋亭/周亭/鏡乃屋、蒲園
- R3152 豊平(とよひら・真鍋まなべ/本姓;藤原、家教[河内]長男) 1809-99長寿91 伊予宇摩郡の神職、
父は伊予宇摩郡千足たる神社宮司、上野村天満宮神主・牛頭天王宮神主、
歌;足代弘訓・千種有功・近藤芳樹門、長歌を詠む、
1830生家滞在の絵師杉浦桐邨の一弦琴(須磨琴)を修得、多く作曲;九州など巡遊、
1847(弘化4)上京し歌・琴を教授、正親町おぎまち中納言家より一弦琴取締役を拝命;
公家・勤王志士らに教授、琴台の使用等の弾法を制定;一弦琴の奏法を確立、
一弦琴の中興の祖、門弟多数;平野国臣・佐久間象山・中根香亭・門田卯平ら、
1848(嘉永元)・琴譜「須磨の枝折」編刊、維新後;権少教正、東京住、
1848・66琴6「須磨の枝折」編、「一弦琴譜」「老のすさび」「雪月花」「水穂舎詠草」著、

[豊平(；名)の幼名/通称/号]幼名；采女之助、通称；相模守、号；蔡斎/水穂舎(の翁)、
神号；足彦命

W3133 **豊平**(とよひら・穂積ほづみ、通称；順亭)1819?-1849**30余歳** 伊豆田方郡の国学者；竹村茂雄門
豊平(とよひら・岩坂) → 建平(たけひら・岩坂いわさか/大神、神職) V 2 6 7 3

R3153 **豊広**(とよひろ・歌川うたがわ/本姓；岡島)1765-1829**65** 江戸芝片門前町の歌川派絵師；歌川豊春門、
同門豊国と伯仲、美人画、1810三馬「一对男時花歌川いついおとこはやりうたがわ」(豊国と共同画)、
風俗画「豊広豊国両画十二候」(豊国と)、絵本；1804「絵本東物語」06-35「絵本西遊全伝」、
馬琴の読本挿画；1808「旬殿実実記」「松浦佐用媛石魂録」、08-9「俊寛僧都島物語」、
1809「松染情史しょうせんじょうし秋七草」1815-58「朝夷巡島記あさいなしまめぐりのき」外画多数、
[豊広(；号)の通称/別号]通称；藤次郎、別号；一柳斎、法号；顕秀信士、広重の師

C3142 **豊広**(とよひろ・千家せんげ/出雲臣いずものおみ、俊勝男)1770-1851**82** 出雲杵築の出雲国造家、
国学者；本居宣長門、歌人、千家俊秀・俊信の弟

[豊広(；名)の別名/通称/号]別名；敬通/俊徳/勝信、

通称；富千代/愛寿丸/主水/筑後/茂賀美/愛之進/清太理/清足、号；松廼舎、

豊弘(とよひろ・山名) → 宗三(そうさん・三上みかみ、住職/武将；城主)H 2 5 4 4

豊寛(とよひろ・内田) → 饒穂(にぎほ・内田うちだ、庄屋/歌人) H 3 3 0 7

R3154 **豊房**(とよふさ・和泉いづみ、通称；三河守)?-? 戦国期永正1504-21頃の日向の武将、
連歌；宗碩と親交、1517宗碩と「永正十四年三月廿二日何人百韻」

R3155 **豊房**(とよふさ・山内やまのうち/やまうち、賜姓；松平/本姓；藤原、山内一俊男)1672-1706**35** 母；鳥居忠春女、
1675家督(藩主分家指扇山内家)/藩主山内豊昌の養嗣子；女婿；1700土佐藩主襲封、侍従、
藩政刷新に尽力；学問奨励；谷秦山を登用、儒者、歌；中院通茂門、文治政治実施；財政窮迫、
家集「松葉まつば集」、「土鑑義解」「宇津野山の勝記」「土佐国式内神社考」「山内豊房雑記」著、
本居大平「八十浦の玉」上巻末入(浦戸の観海亭で月見の詠)、

[民草の願ひもともに満たむ夜は心もすめる月を見るかも](八十浦；240/観海亭にて)、

[豊房(；名)の幼名/字/通称/法号]幼名；兵助、字；芳性、通称；民部/民部大輔/土佐守、
法号；天暉院てんけいん

R3156 **豊房**(とよふさ・清閑寺せいかんじ、共福男/本姓；藤原)1822-72**51** 江後期廷臣；1867正四上参議、
1868従三位権中納言/従二位、1869正二位、1867「例幣沙汰文」著

豊房(とよふさ・佐野) → 石燕(せきえん・鳥山とりやま/鳥、絵師) D 2 4 3 5

R3157 **豊文**(とよふみ・水谷みづたに、光和男)1779-1833**55** 名古屋藩士；1802家督/馬廻組/大番組、
本草学；浅野晴道・小野蘭山門、蘭学；初世野村立栄門、1805藩薬園御用、各地に草本採集、
本草同好者と嘗百社を結成；尾張本草学を振興に寄与、自邸薬園に2千余種の草本を栽培、
1826熱田でシーボルトに面談、「本草図譜」「草木性譜」「豊文朝顔図譜」「豊文虫譜」著、
1801・09「知多紀行」10「木曾採薬記」16「熊野採薬記」、「水谷禽譜」「水谷助六先生記聞」外多、
[豊文(；名)の字/通称/号]字；士猷/伯猷、通称；助六、号；鉤致堂こうちどう、法号；運祥院

W3195 **豊文**(とよふみ・吉田よしだ、豊辰(とよとき)の長男)1842-1914**73** 備後福山藩士；準家老、国学；鈴木重胤門、
維新後；堺県令/香川県知事歴任、弘蔵・下宮長三郎・彦六郎の兄、

[豊文(；名)の通称/号]通称；助左衛門(代々の称)/勝介、号；黍山しよざん

登世平(とよへい・高橋) → 壽世(ひさつぐ・高橋たかはし、幕臣/国学) K 3 7 1 1

R3158 **豊昌**(とよまさ・山内やまのうち/やまうち、賜姓；松平/本姓；藤原、忠豊男)1641-1700**60** 母；池田利隆女、
1669土佐藩主/従四下/筑後守/土佐守、貢租の体系化；元禄大定目により藩法制基準、兵学、
剣術の奥義/茶道を嗜む、「軍術聞書」「戦物語聞書」「茶道歌道書画聞書」「茶道聞合書」著、
[豊昌(；名)の幼名/法号]幼名；国松、法号；覆載院

R3159 **豊雅**(とよまさ・石川いしかわ、豊信男?)?-1788? 絵師；「風流十二月」画、雅望の少年時の雅号説あり、
→ 雅望(まさもち・石川、国学/読本/狂歌、1753-1830) 4 0 2 1

R3160 **豊正**(豊雅とよまさ・中山なかやま/本姓；丹治部たじべ)1810-45**36** 備前岡山の歌人、岡山藩池田家出仕、
国典に通ず、「萩園の落葉」著、「吉備百人二首」入、

[豊正(；名)の通称/号]通称；権太夫/松太郎、号；萩園

豊昌(とよまさ・松村) → 月溪(げつけい・松村、絵師/俳人) B 1 8 0 4

- 豊松(登代松とよまつ・森田)→ 豊香(とよか・森田もりた、歌人) R 3 1 0 7
 豊松(とよまつ・真田) → 菊貫(きくつら・白日庵、藩主/歌/俳人) 1 6 9 8
 豊松(とよまつ・富樫) → 広蔭(ひろかげ・富樫/井手、商家/国学) 3 7 1 4
 豊松/登代松(とよまつ・森田)→ 豊香(とよか・森田もりた、歌人) R 3 1 0 7
 豊松丸(とよまつまる・小笠原)→ 長裕(ながかた・小笠原おがさわら、歌/神職) L 3 2 3 6
- R3161 豊丸(初世とよまる・叢くさむら)?- 1817 絵師:歌川豊春・初世勝川春朗[葛飾北斎]門、
 玩具絵/役者絵/洒落本挿画、1794頃2世春朗襲名、「市川団十郎極楽実記」「通俗雲談」、
 「岩屋村紅葉紀行」「孔雀染勒記」/1787「半奈手本万歳蔵」88「鳴通力」89「雙床満久羅」画、
 [初世豊丸の別号] 春朗/寿亭/前豊丸春朗/2世勝川春朗
- R3162 豊丸(2世とよまる・叢くさむら)? - ? 江後期絵師:初世叢豊丸門、
 1794頃師が2世勝川春朗襲名の際2世叢豊丸を継承、洒落本挿絵/絵暦、1795「わらひ鯉」、
 1796「廓寿賀書」99「市川団十郎評判図会」「御聖代節用学問」1800「疇夕の茶唐」著
- T3128 豊麿(豊麻呂とよまる・佐倉さくら/桜/本姓;水野) 1757-1806 50歳 遠江城飼部桜池ノ宮神社の神主、
 国学;栗田土満・本居宣長・本居大平門、真邦まくにの父、大平「八十浦の玉」4首入、
 [向つ峰に鹿ぞ鳴くなるこの夕ゆが妻恋ふらしもあはれその鹿](八十浦;497/鹿)、
 [豊麿(;名)の通称]式部
- R3163 豊麿(豊丸とよまる・歌川うたがわ、別号;琴風舎)?-? 江後期寛政1789-1801頃の絵師:美人画に長ず、
 1791「福徳人紋三津引」「御請合戯作安売」画、1802評判記「花折紙」画
- V3109 豊麿(とよまる・黒川くろがわ、) 1842-1904 63 下野都賀郡の神職;黒川勝清の孫、
 国学;祖父黒川勝清門/平田鉄胤門、壬生宿の雄琴神社神主、のち権少講義、
 [豊麿(;名)の初名/通称]初名;勝正、通称;静馬
- 豊麿(とよまる/とよまる・井上)→ 淑麿((よしかげ・井上、国学/戯作/歌) 4 7 0 5
 豊麿(とよまる・高崎) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3
- V3127 豊水(とよみ・佐々さき/本姓;源、) 1837-1907 71 肥後菊池郡の熊本藩士/国学者/地誌家、中教正、
 森本一端「肥後国志」(1772)を1884(明治17)水島貫之と共に増補刊行、
 [豊水(;名)の通称/号]通称;少左/維一郎、号;蛭村しつそん
- 豊視(とよみ・飯田) → 正隆(まさたか・飯田いいだ、神職/歌) N 4 0 4 7
- R3164 豊道(とよみち・久我こが、道号;玉峯/法名;等蓮[等運]、通博男) 1459-1536 廷臣;1497内大臣、
 1499右大臣、1501従一位/26出家、連歌:新撰菟玖波集入
- R3165 豊道(とよみち・山内まのうち/やまうち、賜姓;松平/本姓;藤原、豊策とよかず3男) 1795-1862 68 母;児玉ルエ、
 東屋敷山内家の祖、土佐藩士;1825藩校教授館総宰、学制改革/1841総裁辞任/43致仕、
 歌;宮地仲枝門、「室津御紀行」著、稲毛実らに命じ「為宝録」撰述、
 [豊道(;名)の通称]通称;元次郎/周右衛門/大炊助(介)おおいのすけ/大隅、
 豊興・豊資の弟、豊栄とよしの兄
- R3166 豊光(とよみつ・烏丸からすまる、法名;祐通、資康男/本姓;藤原) 1378-? 廷臣;1408参議/23権中納言、
 正二位、1423出家/歌;1407後小松天皇催「内裏九十番歌合」参加(3首)、
 [浮雲をはらひつくして山風のふけゆくままに月やさゆらむ](内裏歌合;廿九番右58)
- R3167 豊充(とよみつ・間瀬ませ/旧姓;内山、号;道焉どうえん) 1640-1721 82 遠江敷智郡堀江の歌人、
 「堀川院初度百首題」著(鹿島社奉納)
- R3168 豊光(とよみつ・河根かね、通称;善之助)?-? 江後期三河の文筆家、
 1843祖父米寿賀集「よねのよはひ」編
- 豊充(とよみつ・藤野) → 専斎(せんさい・藤野、香道家) M 2 4 3 1
- T3130 豊村(とよむら・中山なかやま/本姓;多治比、美石よし男) 1801-35 35歳 三河吉田藩士の家、
 国学;父美石門/本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻入(;父美石と)、
 [たかまとの野辺の秋萩馬なめていざ見にゆかむ花散らぬとに](八十浦;805)、
 [豊村(;名)の別号/通称]別名;玉村/広材、通称;弥作/弥藤次
- U3192 豊持(とよもち・木村きむら、豊政男) 1673-1743 71 肥後熊本藩江戸詰家老、歌人;中院通躬門、
 伯母が將軍家綱の乳母、1万石直参に推薦されたが辞退;京住、養嗣;細川利昌男豊幸、
 [豊持(;名)の通称/号]通称;半平、号;秋山
- W3149 豊幹(とよもと・松田まつだ、直温なおはる男) 1838-98 61 伊勢津の国学者・歌;神宮禰宜の御巫清直門、

1893「三重県下商工人名録」著、江戸住、
[豊幹(；名)の字/通称/号]字；正甫、通称；米三郎/平八/八兵衛、
号；吳舟/翠巖/翠の舎

- R3169 **豊安**(とよやす・山本やまと、号；楊雪) ?-? 江前期元禄1688-1704頃の神道家；吉田流、
吉田流の神書「神代巻」「中臣祓」等を相伝受、1690「中臣祓諺解」著
- W3181 **豊敬**(とよゆき・山内やまのうち/やまうち、通称；登三郎、豊雍とよちか3男) 1779-1839⁶¹ 母；友子(1749-80)、
豊策とよかず(1773-1825)の弟、国学者/歌人；馬詰親音もとね門
- X3100 **豊之**(とよゆき・渡辺わたなべ、通称；左兵衛、) ?-? 江後期；備前岡山の金刀比羅宮祠官、
神道・国学；藤井高尚(1764-1840/吉備津神社宮司)門/歌；香川景樹(1768-1843)門
- W3197 **豊善**(とよよし・脇むき、本姓；源、通称；内記、豊房男) 1758-1823⁶⁶ 近江彦根藩士；脇五右衛門家、
家老；2千石、豊達の父、国学者/歌人；[彦根歌人伝・亀]入、
- R3170 **豊栄**(とよよし・山内やまのうち/やまうち、賜姓；松平/本姓；藤原、豊策とよかず男) 1815-63⁴⁹ 母；西宮キヌ、
追手屋敷山内家の祖/土佐藩士；1843藩校教授館総宰、48諸士武芸世話方；文武教育に専念、
1862藩校文武館創設に伴い総宰、勤王派を登用、歌を嗜む、砲術/測量術に精通、豊章の父、
1844「泰雄公(山内豊房)遺事」編/48「山内豊栄奉納百首」著、
1851「八番歌合」判、「二月八日八番御歌合」判、
[豊栄(；名)の通称/法号]通称；熊弥太/大学、法号；大恭院
- 豊由(とよよし・安井) → 豊由(ほうゆう・安井やすい、俳人) F 3 9 9 8
豊義(とよよし・柳川) → 調興(しげおき・柳川、藩士/国書改竄事件) Q 2 1 7 0
寅(とら・桃井) → 桃庵(とうあん・桃井もい、医者) 3 1 8 1
寅(とら・和久田) → 叔虎(よしとら・和久田わくだ、藩士/儒/医) F 4 7 1 0
寅(とら・天野) → 公敬(きみよし・天野あまの/河本、商家/国学) T 1 6 4 2
寅(とら・三宅) → 鴨溪(おうけい・三宅みやけ、絵師/歌人) E 1 4 1 8
虎(とら・味木) → 立軒(りっけん・味木あじき、兵法/儒者) B 4 9 6 9
虎(とら・阿虎おとら・伊東) → 松寿院(しょうじゅいん、藩主室/藩政参加) U 2 2 8 2
虎(とら・虎一・花井) → 一好(かずよし・花井はない、蘭学/崑山を密告) M 1 5 5 8
虎(とら・小林) → 寒翠(かんすい・小林こばやし、藩士/漢蘭学) H 1 5 6 9
虎(とら・吉益) → 恬庵(てんあん・吉益よしまつ、医者/儒者) D 3 0 1 1
虎(とら・松平/宗) → 貞心院(ていしんいん、宗そう/松平、藩主室/歌) F 3 0 1 1
虎(とら・和泉屋) → 雲煙(-烟うんえん・安西あんざい、書画鑑定) D 1 2 5 7
とら(・栗田) → 羅蝶(らちよう・栗田くりた、俳人) B 4 8 4 5
- R3171 **虎明**(とらあきら・大蔵おおくら、初名；虎時、虎清とらきよ長男) 1597-1662⁶⁶ 母；小鼓方幸正能[月軒]の女、
山城平尾の生、狂言大蔵流宗家13世、幕府抱え金春座付狂言方、1602(6歳)で狂言大夫を受、
諸師に入門、文武十九箇条の印可を受領/父と共に実質的流義の創立、清虎の兄/栄虎の父、
「虎明本狂言集」「狂言昔語鈔」、1651(慶安4)「わらんへ草」著、
[大方嗜たしなみて十人並と言へるにはなる物なれども十一と越すことなりがたし
其の一は十より大義也](わらんへ草)、
[虎明(；名)の通称/法号]通称；弥太郎/弥右衛門、法号；一叟庵透関道徹
- 虎一(とらいち・佐藤) → 圭陰(けいいん・佐藤さとう、医/詩人) F 1 8 2 4
虎市(とらいち・竹川) → 政恕(まさひろ・竹川たけがわ、国学/歌人) M 4 0 5 3
- S3184 **寅右衛門**(とらえもん・歌沢、豊屋の寅) ?-? 豊屋/端唄；うた沢節；歌沢大和太掾やまとのだいじよう門、
歌沢の初代；寅派を樹立
- 対立 → 金吉(きんきち・柴田、哥沢初代；芝派) H 1 6 5 4
銅鑼和尚(どうらしょう) → 雲阿(うんあ・円竜、神職/僧/狂歌) D 1 2 5 3
- R3172 **寅吉**(とらきち・高山たかやま、名；篤任あつとう、中屋与惣次郎男) 1806-? 1829^存 江戸池之端の生、
僧侶；1816(11歳)正慶寺入/覚性寺・崇源寺に移住、幼少時より予言占いを能くす；
天狗に伴われ仙境幽界を旅した経験を語り評判となる/国学者が身柄を預かり聞書；
山崎美成は「平児代答」を・平田篤胤は「仙境異聞」を著す、
国学；1820篤胤門(1829迄篤胤の日記入)29以後の消息不明、1822「七生舞記」著、
[寅吉(；通称)の別通称] 嘉津間/嘉津馬/平馬/大童子、綽名；天狗小僧、

虎吉(とらきち・阿部) → 有清(ありきよ・阿部、和算家/天文) F 1 0 3 2
 虎吉(とらきち・柴田) → 丈助(じょうすけ・横地よこち、言語研究) K 2 2 2 1
 虎吉(とらきち・田中) → 義近(よしちか・田中たなか、儒者/詩文) E 4 7 5 9
 虎吉(とらきち・荒瀬) → 真纒(まさで・荒瀬あらせ/鈴木、商家/国学) L 4 0 8 2
 虎吉(とらきち・筑紫) → 義門(よしかど・筑紫、藩士/国事奔走) C 4 7 9 7
 虎吉(とらきち・山内) → 伊明(これあき・井手いで/山内、藩士/歌人) Q 1 9 2 8
 虎吉(寅吉とらきち・和泉屋) → 雲煙(-烟うんえん・安西あんざい、書画鑑定) D 1 2 5 7
 虎吉(とらきち・三宅) → 高炳(たかあき・三宅みやけ、絵師) Z 2 6 7 0
 寅吉(とらきち・孫福) → 弘孚(ひろさね・孫福まごふく、神職) F 3 7 8 5
 寅吉(とらきち・志茂) → 実明(さねあきら・志茂しも、藩士/歌/経史) K 2 0 7 0
 寅吉(とらきち・阿部) → 定珍(さだかね・さだよし・阿部あべ、庄屋/詩歌) N 2 0 6 8

R3173 **虎清**(とらきよ・大蔵おおくら、虎政男) 1566-1646 81 母;山城稻荷神主の女妙玉、奈良の能楽師;
 狂言方大蔵流宗家12世、秀吉・のち家康に出仕、幕府抱狂言師、流儀の確立者、
 1596南都薪能で狂言大夫の称号を受、「虎清本狂言集」著、嶋岡順正の兄、虎明とらあきらの父、
 [虎清(;)名)の通称/法号]通称;亀蔵/弥太郎/弥右衛門、法号;凌雲庵仙溪道倫

虎五郎(とらごろう・柴屋しばや) → 喜左衛門(きざえもん・三保みほ、船頭/樺太見聞口述) F 1 6 3 6
 虎三郎(とらさぶろう・内藤) → 笨庵(ほんあん・内藤ないとう、儒者) E 3 9 9 0
 虎三郎(とらさぶろう・富永/田中) → 寅亮(とらすけ・田中、藩士/尊王) R 3 1 7 6
 虎三郎(とらさぶろう・小林) → 寒翠(かみすい・小林こばやし、藩士/漢蘭学) H 1 5 6 9
 虎三郎(とらさぶろう・桐山) → 知義(ともよし・桐山きりやま、医者/書家) Q 3 1 9 7
 虎三郎(虎三郎とらさぶろう・小橋) → 武曆(武麻呂たけまる・小橋こばし、神職/歌) V 2 6 1 6
 虎三郎(寅三郎とらさぶろう・佐藤/金沢屋) → 解記(げき・佐藤、商家/和算家) G 1 8 8 6
 虎三郎(とらさぶろう・三谷) → 有信(ありのぶ・三谷みたに/狩野、藩絵師/政治) L 1 0 5 3

R3174 **虎沢検校**(とらざわけんぎょう) ? - 1654 文禄頃三味線の名手;長唄・端唄などの創作演奏

虎二(とらじ・古庄) → 白翁(はくおう・古庄こしょう、里正/国学) K 3 6 7 7
 虎次(とらじ・鳥居) → 清安(きよやす・鳥居とりい、絵師) Q 1 6 3 7

R3175 **虎女**(とらじよ・とらによ) ? - ? 江前期江戸俳人;1684西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入、
 [歳徳としとくのか文字おはする飾り物](女哥仙;15/か文字は女房詞;神の略/蓬莱飾り)

虎次郎(とらじろう・前田) → 利物(としたね・前田、藩主) M 3 1 7 7
 虎次郎(とらじろう・毛利) → 正直(まさなお・毛利もうり、藩士/戯作者) F 4 0 0 3
 虎次郎(とらじろう・福井) → 公清(きみきよ・福井/栗野・足代、神職) M 1 6 0 2
 虎次郎(とらじろう・鳥居) → 清安(きよやす・鳥居とりい、絵師) Q 1 6 3 7
 虎次郎(とらじろう・稲葉) → 雍通(てるみち・稲葉いなば、藩主/歌人) C 3 0 9 5
 虎次郎(とらじろう・桑原) → 真清(まさあき・桑原くわばら、神職/勤王) I 4 0 9 6
 虎二郎(とらじろう・水原) → 史郎(ふみお・水原みずはら、国学者/歌人) I 3 8 7 4
 寅次郎(とらじろう・吉田) → 松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育) 2 1 6 7

R3176 **寅亮**(とらすけ・田中たなか、富永南陔男/田中家を継嗣) 1812-60/59 49-48歳 尾張藩士;
 広敷物頭兼御納戸頭取、尊王派/名古屋七寺に楠木正成像を奉納、1849「均調図解」著、
 [寅亮(;)名)の通称/号]通称;虎三郎/虎助/儀兵衛、号;其風堂/山君/櫛園

寅助(とらすけ・京極) → 高本(たかもと・京極きょうごく、幕臣) N 2 6 3 9
 寅亮(とらすけ・藤堂) → 光寛(みつひろ・藤堂/多羅尾、家老/詩歌) E 4 1 7 0
 虎助(寅助とらすけ・寺山) → 吾鬢(あざら・寺山、藩士/歌人) E 1 0 4 8
 虎助(寅亮とらすけ・木下) → 菊潭(きくたん・木下きのした、藩士/儒者) F 1 6 2 1
 虎助(とらすけ・奥山) → 良和(よしかず・奥山おくやま、幕臣/国学者) M 4 7 0 8
 虎助兵衛(とらすけひょうえ・寺山) → 吾鬢(あざら・寺山、藩士/歌人) E 1 0 4 8
 虎蔵(とらぞう・谷/大神) → 垣守(かきもり・谷たに、藩士/国学者) B 1 5 2 5
 虎蔵(とらぞう・谷) → 真潮(まほ・谷/大神、垣守男/神道/国学/歌) 4 0 2 6
 虎蔵(とらぞう・藤木) → 寂源(じやくげん・法諱・一如、社僧/書) V 2 1 9 4
 虎蔵(とらぞう・山県) → 二承(にしゅう・山県やまがた、絵師/俳人) 3 3 2 2

- 虎蔵(とらぞう・前田) → 玄通(げんつう・前田まへだ、医者) L 1 8 4 6
 寅蔵(とらぞう・梅園) → 直蔵(なおぞう・梅園うめぞの/藤原/富依、国学) L 3 2 3 2
 寅三(とらぞう・武井) → 守正(もりまさ・武井たけい、和漢学/政治) K 4 4 4 8
 寅太(とらた・服部/山岸) → 貞文(ていぶん・山岸/服部、藩校助教) B 3 0 6 5
 寅太郎(とらたろう・吉村) → 重郷(しげさと・吉村、庄屋/天誅組) R 2 1 0 4
 寅太郎(とらたろう・浅井) → 速馬(はやま・浅井あさい、和算家) F 3 6 7 4
 虎太郎(とらたろう・菊池) → 蔭亭(かげてい・菊池/菊地、藩士/医/貿易) C 5 2 1 9
 I3172 虎継(とらづぐ・紀さ) ? - ? 平安期詩人、827成立「経国集」入
 虎綱(とらつな・高坂) → 昌信(まさのぶ・高坂、弾正、武将/軍学) F 4 0 5 3
 虎時(とらとき・大蔵) → 虎明(とらあきら・大蔵おおくら、狂言宗家) R 3 1 7 1
 R3177 寅直(とらなお・土屋つちや、藩主彦直男) 1820-9576 常陸土浦藩主;1848襲封/48奏者番/50寺社奉行、
 大阪城代、1864雁之間詰、藩政改革、1868致仕、水戸藩徳川斉昭と従兄弟、「手留」著
 [寅直(;名)の通称/法号]通称;多仁丸/采女正うねのしょう、法号;太亀院、挙直の父
 虎成(とらなり・今村、狂名:渋柿齋成) → 楽(たのし・今村、医/国学/歌) G 2 6 3 4
 寅之丞(とらのじょう/とらのすけ・伊東) → 祐之(すけゆき・伊東いとう/牛島、藩士/歌) L 2 3 3 4
 虎之進(とらのしん・中村) → 善武(よしたけ・中村なかむら、藩士/国学) O 4 7 2 2
 虎之助(とらのすけ・加藤) → 清正(きよまさ・加藤かとう、武将/聯句) Q 1 6 3 1
 虎之助(とらのすけ・中川) → 経晃(つねてる・中川/荒木田、神職/歌) C 2 9 5 6
 虎之助(とらのすけ・吉沢/橋村) → 正竹(まさたけ・橋村/度会、神職/古典) D 4 0 3 2
 虎之助(とらのすけ・八羽) → 光尚(みつひさ・八羽はつば/はちは、和学者) K 4 1 1 0
 虎之助(とらのすけ・本多) → 直盛(なおもり・本多ほんだ/笹瀬、幕臣) O 3 2 7 2
 虎之助(とらのすけ・味木) → 立軒(りっけん・味木あじき、兵法/儒者) B 4 9 6 9
 虎之助(とらのすけ・渋谷) → 良信(よしのぶ・渋谷しぶや、幕臣) F 4 7 5 8
 虎之助(とらのすけ・稲垣) → 重氏(しげうじ・稲垣いながき、幕臣) Q 2 1 6 4
 虎之助(とらのすけ・近藤) → 孟卿(たかあきら・近藤/藤原、幕臣、歌人) C 2 6 4 7
 虎之助(とらのすけ・寺西) → 元永(もとなが・寺西、幕臣/国学) D 4 4 5 5
 虎之助(とらのすけ・榊原) → 政邦(まさくに・榊原/源、藩主/歌人) C 4 0 3 7
 虎之助(とらのすけ・布施) → 御膳(みかき・布施、藩士/記録整理) 4 1 5 4
 虎之助(とらのすけ・河野) → 元虎(もととら・河野こうの、棋士) D 4 4 3 7
 虎之助(とらのすけ・式亭) → 小三馬(こさんば・式亭、商家/合巻作者) C 1 9 7 2
 虎之助(とらのすけ・上田) → 竜郊(りゅうこう・上田うへだ、儒者/教育) D 4 9 8 5
 虎之助(とらのすけ・吉田) → 松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育) 2 1 6 7
 虎之助(とらのすけ・松下/奥田) → 額輔(がくすけ・絵馬屋えまや、絵師/狂歌) E 1 5 7 4
 虎之助(とらのすけ・大給) → 近陳(ちかのぶ・大給だいぎゅう/松平、藩主) M 2 8 1 8
 虎之助(とらのすけ・片桐) → 宗幽(そうゆう・片桐かたぎり、幕臣/茶人) J 2 5 0 3
 虎之助(とらのすけ・甘粕) → 継成(つぐしげ・甘粕/甘糟、藩士/史家) 2 9 7 1
 虎之助(とらのすけ・川口) → 常文(つねふみ・川口かわぐち、神職/国学) F 2 9 5 5
 虎之助(とらのすけ・上里) → 済(わたる・上里こうざと、神職/国学) 5 3 8 3
 虎之介(とらのすけ・山本) → 経為(つねため・山本たまもと、神職/国学) G 2 9 6 8
 虎之介(とらのすけ・藤田) → 東湖(とうこ・藤田、儒者/藩士/尊攘論) 3 1 0 8
 虎之介(とらのすけ・浅井) → 政達(まさみち・浅井あさい/藤原、歌人) N 4 0 0 9
 寅之介(とらのすけ・阿部) → 正武(まさたけ・阿部、藩主/老中/武家法度) D 4 0 3 3
 寅之介(とらのすけ・住谷) → 信順(のぶより・住谷すみや、水戸藩士/尊攘) E 3 5 1 3
 寅之介(とらのすけ・荻野) → 保己一(ほきいち・埴はなわ、国学者) 3 9 6 0
 寅之助(とらのすけ・大和屋) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9
 寅之助(とらのすけ・桜井) → 盈栄(みつひで・桜井さくらい、商家/歌人) J 4 1 2 1
 寅之介(とらのすけ・広瀬) → 淡窓(たんそう・広瀬、儒/詩人) 2 6 9 3
 寅之助(とらのすけ・田中) → 与清(ともきよ・小山田おやまだ/高田、国学者) 3 1 6 0
 虎之助惟一(とらのすけいち) → 有清(ありきよ・阿部、和算家/天文) F 1 0 3 2
 U3162 虎彦(とらひこ・印具おしすみ、竜鷹男、通称;文庫) 1786-182136 近江彦根藩士、歌人;小原君雄門

- R3179 **虎寛**(とらひろ・大蔵おおくら、虎里[弥太郎]男)1758-1805⁴⁸ 狂言大蔵流宗家19世:
幕府抱え金春座付狂言方、「虎寛本狂言集」著
[虎寛(；名)の通称/法号]通称;貞吉/弥右衛門、法号;道順
寅平(虎平とらへい・藤原)→ 忠朝(ただとも・藤原ふじわら/岡田、商業/歌)W 2 6 2 8
虎松(とらまつ・小出) → 英輝(ふさてる・小出こいで、旗本/国学) I 3 8 2 1
虎松(とらまつ・柳田) → 勝太郎(かつたろう・柳田やなぎだ、藩士/歌) W 1 5 0 7
虎丸(とらまる・野呂) → 天元(たかもと・野呂のろ、医者) Y 2 6 9 4
- R3180 **虎光**(とらみつ・大蔵おおくら、虎良男)1784-1842⁵⁹ 狂言大蔵八右衛門家7世;6世八右衛門の養嗣子、
八右衛門家は虎清の次男清虎(通称八右衛門)の創始した分家、初めは金春座付;
のち幕府抱え金剛座付狂言方、1823「狂言不審紙」著、
[虎光(；名)の通称/法号]通称;孝之助/幸之助/八右衛門、法号;道帰
虎屋伊織(とらやいおり:通称)→ 伊織(いおり・虎屋とらや、菓子商) F 1 1 1 3
虎若丸(とらわかまる・広辻)→ 光春(みつはる・広辻ひろつじ/橘/小林、歌/茶人)K 4 1 2 8
- R3181 **土卵**(とらん・富とみ/本姓;下毛野、名;敦光、調子ちようし武音男)1769-1819⁵¹ 京近衛府隨身家の生;
1651富家再興、廷臣;1771従六下右府生/左将曹/85左近将監/1809従五下、
洒落本/雑俳、蕪村・定雅と交流、1793「花実都夜話」/95洒落本「粹包丁すいぼうちよう」著、
「東山春色麗」著、西村定雅と役者評判記著作、[似合ふかとうしろ向たる紙子かな]、
[土卵の通称/別号]通称;数吉、別号;土籃/狼狽窟(初世)、狼狽散人/俳諧三昧堂、花篠咲折
- R3182 **土籃**(とらん・富とみ、名;敦寅、狼狽窟2世、土卵男)1794-1845⁵² 廷臣;1807従六下右府生/08右将曹、
1835従五上左近衛将監/31女院北面、1831「亡父十三回忌」編
吐嵐(とらん・沢) → 近嶺(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0
- 3166 **鳥**(とり・丈部はせつかべ) ? - ? 奈良期;755防人/上総天羽郡あまほのこおり上丁、万葉廿4352
[道の辺の茨うまらの末うれに這はほ豆のからまる君をはかれか行かむ](万葉集;廿4352)、
(君は女性か?/はかれは離れの詠か?)
鶏籠山人(とりかごさんじん) → 尺籠(せきりゅう・吉沢、俳人) D 2 4 9 6
- R3183 **鳥兼**(とりかね・2世萩の屋)? - ? 江戸の狂歌;本町連、大屋裏住おおやのうらざみ門、
1821「詠詠寄譚」「浜荻集」著
鳥兼(とりかね・平明亭) → 平明亭鳥兼(へいめいていとりかね、狂歌) 2 7 8 1
西三郎(とりさぶろう・林) → 十江(じこう・林/高野、篆刻家) E 2 1 8 6
登里女(とりじよ・歌川) → 芳鳥女(よしとりじよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 1 2
刀利宣令(とりせんによう) → 宣令(みのり・刀利とり、漢学者) F 4 1 6 6
西之助(とりのすけ・小島) → 洪卿(こうけい・小島/児島、商家/漢学) I 1 9 4 2
西之助(とりのすけ・小島) → 大梅(だいばい・小島/児島、洪卿男/詩/俳人) C 2 6 0 9
- R3184 **鳥空音**(とりのそらね) ? - ? 江戸狂歌;芝連、1785徳和歌後万載集入:510(1首)、
[忍びあふ中はたがひの耳と口きこえませぬと恨をやいふ](互聾恋/後万載:八510)
鳥廼舎(鳥の屋とりのや) → 正勝(まさかつ・田中たなか、歌人) C 4 0 1 1
鶏之舎(とりのや) → 可都里(葛里かつり・五味、俳人) C 1 5 5 6
- R3185 **吐竜**(とりゅう) ? - ? 近江大津の俳人;1696長水「桃舐ももねぶり集」歌仙入、
1699「車路くるまじ」編
- R3186 **兎柳**(とりゅう、兎柳園) ? - ? 江戸中期伊勢南部の俳人、1749「いつれのはな」著
- R3187 **徒流**(とりゅう・耳洗庵) ? - ? 江中後期文筆家;1789「洞房語園異本考異」編
- R3188 **菟留**(とりゅう、別号;亞声房/聴松庵3世)?-1808? 長門萩藩士/俳人:聴松庵古竹門;師を継承、
1797「余光能波金」編、1800「雪のあかり」編
渡留(とりゅう・杉浦) → 桐村(とうそん・杉浦、音曲家/絵師) 3 1 4 3
屠龍(とりゅう・雨華庵) → 抱一(ほういつ・酒井、絵師、狂歌) 3 9 1 3
屠龍(とりゅう・岩井田) → 昨非(さくひ・岩井田いわた、藩士/儒者) H 2 0 2 8
屠龍(とりゅう;法号) → 敬直(たかなお・加藤かとう、和漢/考古学) M 2 6 5 2
髭龍(とりゅう) → 天乃門髭龍(あめのとりゅう、狂歌) F 1 0 1 1
- R3189 **土龍**(どりゅう) ? - ? 美濃東関の雑俳/川柳、1784「俳諧狂句集」撰
土龍(どりゅう→もぐら・日影)→ 日影土竜(ひかげのもぐら、榊原、狂歌) 3 7 4 4

- 土龍庵(とりゅうあん) → 百明(ひやくめい・杉坂/嶋立庵4世、俳人) 3 7 1 3
 兔柳園(とりゅうえん) → 兔柳(とりゅう、俳人) R 3 1 8 6
- R3190 都龍軒(とりゅうけん・山本やまもと、通称;嘉兵衛) 1818-7760 江戸日本橋茶舗山本山の主人、
 天保1830-44頃新製法の煎茶「玉の露」を発売し評判、狂歌を嗜む;檜垣連判者、
 1834「煎茶小述」48「煎茶手引の種」著、58「錦花集」編、「狂歌茶器財画集」編(妻に仮託)、
 [都龍軒(;号)の別号] 安満廼門/天廼門都龍/雲井園/徳潤/徳翁、屋号;山本山
 屠竜居士(とりゅうこじ) → 訥庵(とつあん・大橋、儒者/尊攘派) O 3 1 4 1
 屠竜居士(とりゅうこじ) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7
 屠竜子(とりゅうし・山川) → 浩(ひろし・山川やまかわ、藩士/軍人/官僚) J 3 7 6 7
- R3191 杜陵(とりょう・小野おの、名;鼎/字;孟鉉/通称;寿庵)?-? 江中期1750-60頃陸中南部藩士、
 儒者:大内熊耳門、詩人、「両都詩艸」著
- R3192 都良(とりょう・生々舎) ? - ? 江後期尾張の俳人:秋鷹門?、1818「みち艸」編
- R3193 杜陵(とりょう・村上むらかみ、通称;甚蔵、別号;爪長そうちょう山人) 1778-183255 大阪襦屋町の表具師、
 講釈師:吉田天山門、軍談など多芸;大阪俄の中興の祖、
 1832/41「風流俄天狗」初編著(;3世歌右衛門序)、淀川「古今二和歌にわか集」附録に略伝入
- R3194 杜涼(とりょう、別号;雪守せつしゆ)?-? 江後期京の俳人:杜鷲門、行脚僧、
 1851「南佳多知集」編
- R3195 杜陵(とりょう・鎌田かまた、名;貞堅)?-?明治中期没61歳 讃岐香川郡檀紙村の医者、
 俳諧/詩/画を嗜む、篆刻;細谷松坡門、1847「このとき集」編、
 [杜陵(;号)の通称/別号]通称;述、別号;四水/嘯斎げんさい
- R3196 杜蓼(とりょう;号) ? - ? 俳人;梅室門;1851師の代理で二条家にて花の本宗匠免許受
 杜綾(とりょう) → 抱一(ほういつ・酒井、絵師/狂歌) 3 9 1 3
 杜陵(杜菱とりょう・慶徳/中川) → 麦浪(ばくろう・中川、俳人) E 3 6 1 8
 杜陵(とりょう) → 景山(けいざん・大野、俳人) 1 8 5 8
 都梁(とりょう・伊沢) → 蘭軒(らんせん・伊沢いざわ、藩医/詩人) B 4 8 9 3
- R3197 兔路(とろ;号) ? - ? 1716-36頃加賀小松の美濃派の女流俳人、
 1726「三女歌仙の式」・「姫の式」編
- R3198 斗六(とろく・袴田はかまだ、通称;孫四郎)?-? 遠江入野村田端の俳人;
 1786蝶夢「遠江の記」3句入;蝶夢の浜名湖遊覧に同行、
 [散る桜さらに寺とふ人もなし](遠江の記;10)
- R3199 兔鹿斎(とろくさい) ? - ? 京の狂詩作者;1822愚仏「鈍狗斎新篇」16編入/序
 泥田坊夢成(どろたぼうゆめなり) → 音人(おんど・鳴滝、狂歌/狂文) 1 4 9 8
- S3100 鶯驢突先生(どろつきせんせい、禹鈍)?-? 狂文;1772「淮東集」編(;銅脈先生「吹寄蒙求」所収)
 泥築(どろつく、鈍通) → 治兵衛(2世いへえ・津打、歌舞伎作者) 2 1 3 4
- S3156 泥道すべる(どろみちのすべる)? - ? 江戸狂歌;1785「後万載集」87「才蔵集」入、
 [村さめのさめるもあれば酔もありこれや目黒の不動(不同)なるらん]
 とは(登波とわ・馬目/岩上) → 登波子(とわこ・岩上いわかみ/馬目、歌人) S 3 1 0 1
- S3101 登波子(とわこ・岩上いわかみ、名;とは、浜松藩医馬目思之[玄鶴]2女) 1780-186283 遠江浜松藩邸に生、
 1794三河吉田藩士岩上九兵衛俊隆と結婚/1807(28歳)夫と死別、歌人;本居大平門、和文、
 1817「伊勢物語類語」、21「三代調類題」撰、61「登波子詠草」著、
 「伊良子の崎の記」「岩上とわ書簡」著、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
 [鶯のき鳴かざりせばすがのねの長き春日をたれと暮らさむ](八十浦;708)、
 [登波子(;通称)の幼名]宇免うめ
 父 → 思之(もとゆき・馬目まめ玄鶴、藩医/和漢学/歌人) L 4 4 3 0
 屯(とん・東方) → 祖山(そざん・東方ひがしかた、藩士/儒者) D 2 5 7 7
 屯(とん・石井) → 砕石(さいせき・石井いし、藩士/記録) G 2 0 8 5
 敦(とん・大田) → 晴軒(せいけん・大田、錦城男/漢学者) B 2 4 2 6
 敦(とん・林) → 友庵(ゆうあん・能美のうみ/林、医者) 4 6 5 2
 敦(とん・名倉) → 松窓(しょうそう・名倉、藩士/漢学/渡仏) K 2 2 5 9
 敦(とん・横関) → 敦(あつし・横関よこせき/源、陪臣/歌) I 1 0 7 7

- 敦(とん・岡) → 敦(あつし・岡おか/山本、陪臣/国学) H 1 0 3 3
 墩(とん・橘/立花) → 専庵(せんあん・平住、医者/儒者/本草) E 2 4 7 9
 嗽(とん・栗本) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1
- 3167 頓阿(とんあ・とんな:法諱、二階堂にかいどう光貞男/本姓;藤原)1289-1372⁸⁴ 時宗僧;20歳頃出家、比叡山や高野山で修行/金蓮寺開祖浄阿に従い時衆、歌・歌学:二条為世門/和歌四天王の1、西行を慕い諸国行脚、京東山双林寺西行庵を設/仁和寺蔡花園に庵居;1372(応安5)没、1335内裏千首/44金剛三昧院奉納和歌/50為世十三回忌和歌に出詠、兼好の歌友、1352良基「後普光園院百首」参加;慶雲兼好と加点、1364「新拾遺和歌集」撰に為明没後参加、1358「頓阿百首」64「愚問賢註」、家集「草庵和歌集」「続草庵集」、「打聞集」「井蛙抄」「十歌仙」著、「和歌式目」「頓阿句題百首」「閑吟愚草」「高野日記」「桐火桶抄」「十楽庵記」「水蛙眼目」外著多、勅撰44首;続千(1804)続後拾(649/1206)風雅(2025)新千(4首)新拾遺(9首187/374以下)以下連歌;菟玖波19句入(内17句は続草庵集から)、二条良基の歌の師、足利尊氏・義詮に信任、[うつりゆく月日も知らぬ山里は花をかぎりに春ぞ暮れぬる](新拾遺;二春187)、[閑かなる波とぞ見ゆる藤の花](尊氏家千句連歌の発句)、[頓阿(:法諱)の名/法号]名;貞宗、法号;泰尋/感空、
 吞阿(どんあ;号) → 泰成(泰乘たいじょう;法諱、真宗僧) X 2 6 9 3
 鈍阿(どんあ) → 延齡(えんれい/ながとし・平出、医者) C 1 3 2 4
 頓阿法師女(とんあ・とんなほうしのむすめ) → 少将(しょうしょう・邦省親王家、女房歌人) N 2 1 6 6
- 3168 遯菴(遁庵とんあん・宇都宮うつのみや、名;的、藩士正記男)1633-1709⁷⁷ 周防岩国儒者;松永尺五せきご門、1657岩国藩儒/75著書「日本古今人物史」が幕府の忌諱に触れ岩国に禁錮/許され京で講説、1691帰藩;藩儒に復帰、詩人/俳諧;定清門、1661「錦繡段鈔」65「鼈頭評註古文眞宝前集」、1675「日本古今人物史」80「蒙求詳説」86「漢和三五韻」1700「三体詩詳解」「忠経集註詳解」、1702「錦繡段詳註」04「巖邑紀行」、「作文楷梯」編/「以呂波之伝」、「遯菴詩集」外著多数、俳諧;1663定清「尾蠅集」歌仙入(三近さんきん名)、尺五学派三庵の1、[遯菴(;号)の字/通称/別号]字;由的ゆてき、通称;三近、別号;三近子/頑拙、
 遯庵(とんあん・清水) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7
 曇伊(どんい;法諱・三山) → 円位(えんい;法諱・仲方;道号、臨濟僧) 1 3 8 7
 吞雨(どんう・高) → 雲外(うんがい・高こう、儒/蘭学者) D 1 2 6 2
 頓恵(とんえ) → 示証(じしょう;法諱、浄土宗西山派僧/歌) E 2 1 0 6
 頓慧(頓恵とんえ) → 鳳嶺(ほうれい;法諱、真宗大谷派僧) C 3 9 7 5
- S3102 曇英(どんえい;道号・慧応えおう;法諱、俗姓;藤原)1424-1504⁸¹ 京曹洞僧;双林寺の一州正伊門/嗣法、1487上野双林寺2世、相模最乗寺・玉泉寺住持/永平寺住持;堂宇復興、越後林泉寺開山、上野長年寺開創、1493「一州和尚行実記」、「雙林寺聯燈録」「曇英禪師語録」著、[曇英慧応の号]号;宝光知証禪師、諡号;大光宗猷禪師
- 3169 鈍永(どんえい・九如館、姓;蘆田、通称;讃岐)1723-67⁴⁵ 京の仁和寺の寺侍/俳諧;貞佐門、狂歌・鈍全門;宗匠となる、得閑斎とくかんさい繁雅・麦里坊貞也ていや・中井吐虹らの師、1751「興歌きょうか老の胡馬」、53「興歌朋ちから」56「狂歌興太郎」編、遺著「狂歌野夫鶯」、追善集「歌ねぶつ」「興歌野中の水」、
- S3103 曇栄(どんえい;道号・宗曄そいう;法諱、亀井聴因男)1751-1816^{66歳} 筑前臨濟僧;崇福寺徳隠宗薩門、嗣法、京の東福寺入;漢学;大典顕常門、諸師に参禅、福岡藩黒田家菩提寺崇福寺87世、博多妙楽寺永寿院に住、詩文に長ず、亀井南冥[1743-1814]の弟、詩人/書家、「雲水詩集」「禅月楼集」「幻庵雑記」著、[曇栄宗曄の字/別号]字;毅卿、号;禅月/幻庵
- S3104 頓悦(とんえつ・梅津うめづ、通称;加兵次)?-? 江戸前期の歌舞伎関係者/大阪の俳人;1666可玖(吉竹)「遠近おちこち集」80遠舟「太夫桜」入
 嫩園(どんえん・飯野) → 厚比(あつとも・飯野いひの/木下、国学/歌) B 1 0 3 4
- S3105 沌翁(とんおう・富永とみなが、名;守節/通称;嘉右衛門)1650-1726⁷⁷ 豊前中津の農家(豪農)、儒者;安東省庵・貝原益軒と交友、藩主に書を講義/藩士の子弟教育、「中津記」「詩文集」著
- S3106 遁翁(とんおう・長尾ながお、名;元弼)1714-74⁶¹ 佐賀の儒者;村島政方門(朱子学を修学)、江戸の服部南郭門(古文辞学修学)、佐賀藩学問方に出仕/士籍に列し藩儒;世子の侍講、

佐賀勤王論の唱始者、「遁翁遺稿」、息子東郭も佐賀藩儒、

[遁翁(；号)の字/通称]字；子憲、通称；敬三郎/矢治馬

屯翁(とんおう・山本) → 退庵(たいあん・山本やまと、茶人/香道) J 2 6 0 2

遁翁(とんおう・蜂谷) → 光泰(みつやす・蜂谷はちや、藩士/歌人) K 4 1 0 8

遯翁(とんおう・細貝) → 栗園(りつえん・細貝ほそがい、国学者) B 4 9 6 1

鈍翁(どんおう・陶山すやま) → 訥庵(とつあん・陶山、儒医/農政) O 3 1 4 0

S3107 吞霞(どんか) ? - ? 江前期俳人；1686「春の日」1句入、
[星はらはらかすまぬ先の四方の色](春の日；追加/正月の春霞前の薄明の冴えた空)

S3108 鈍可(どんか) ? - ? 江前期尾張の俳人；1689「あら野」6句入、
[馬と馬よばりあひけり郭公ほととぎす](あら野；一/時鳥の声に馬たちも応えている)

鈍窩(どんか・本庄) → 星川(せいせん・本庄/本荘ほんじょう、藩儒) C 2 4 4 7

S3109 頓海(どんかい；法諱) ? - ? 江後期安藝広島浄土僧、広島西蓮寺住、
1811隆円に唯信鈔の出版を勧めた、1811「円光大師和讃」著(円光大師は源空[法然])

S3110 吞海(どんかい；法諱、豪族侯野またの景義男) 1265-1327⁶³ 相模俣野の生、
1294時宗僧；2代他阿眞教門、1301京七条に道場金光寺を創建、
1319因幡味野の西光寺で遊行4世を相続、遊行を安国に譲渡、
1325兄俣野景平(明阿)の財力で相模藤沢に清浄寺(遊行寺)創建；藤沢1世を称す、
「六道讃」「四代上人法語」著、
[吞海の号] 恵永[恵光]・有阿弥陀仏/有阿/遊行上人4世

S3111 吞海(どんかい；法諱) ? - ? 1744存 曹洞僧；1739武蔵大芦村の順苗に参学、
「参同契揚泥篇」著

S3112 吞海(どんかい；道号・光麟こうりん；法諱)?-1802 若狭の曹洞宗空印寺/常福寺住僧、
1788「宏智禅師偈頌断壁聞解」著、「雪竇頌古称提聞解」編、「碧巖録弁偽」著

吞海(どんかい) → 源開(げんかい・吞海、江戸後期曹洞僧) I 1 8 1 4

吞海(どんかい；初道号) → 道香(どうこう；法諱・雪村；道号、黄檗僧) E 3 1 0 3

吞海翁(どんかいおう) → 琴台(きんだい・東条とうじょう、儒者) E 1 6 2 4

吞海子(どんかいし) → 淇園(きえん・皆川、儒者) 1 6 0 4

吞海堂(どんかいどう) → 琴台(きんだい・東条、儒者) E 1 6 2 4

頓覚(どんかく) → 公雄(きんお・小倉おぐら、家祖/歌人) D 1 6 8 0

曇覚(どんかく；字) → 光映(こうえい；法諱・竹林坊、天台僧) H 1 9 5 7

吞火叟(どんかそう) → 拾水(しゅうすい・下河辺しもこうべ/藤原、絵師) H 2 1 7 4

曇花坊(どんかぼう) → 魯九(ろきゅう・堀部ほりべ、俳人) 5 2 6 3

敦寛(どんかん・真田) → 敦寛(あつひろ・真田さなだ、国学/歌人) H 1 0 6 9

曇熙(どんき；別道号) → 方巖(ほうがん；道号・祖永；法諱、臨濟僧) 3 9 3 5

遁危子(どんきし) → 亨弁(こうべん・習古庵、日蓮僧/歌学) B 1 9 9 0

S3190 鈍吉(どんきち) ? - ? 江前期俳人；1692不角評「千代見草」入、
[子を持つは力づくにも成ならぬなり](千代見草/子宝により妻の座の定まった時代)

S3113 吞響(どんきょう・大原おおはら、名；翼、今田善作男) 1761?-1810^{50?} 陸中東磐井郡大原村の儒者；
塩竈社祠官藤塚式部門/江戸の井上金峨門/経世家、兵学；伊賀風山門、妻；三宅嘯山女、
1783松前で蠣崎波響家滞在/京住、仁和寺宮・大典・六如・菅茶山・頼山陽・皆川淇園と交流、
1795再び松前で松前道広らに富国強兵策を主唱；入れられず/96江戸で「地北寓談」著、
1796「北地危言」、「墨斎奇談」「隠語考」著、詩/画/琴を嗜む、1807千詩画会を催、
[吞響(；号)の字/通称/別号]字；雲卿、通称；観次/官治/左金吾、別号；墨斎、
法号；台嶽吞響居士

曇鏡(どんきょう・北村) → 政重(まさしげ・北村きたむら、神職/歌人) P 4 0 3 0

吞魚水齋廬(どんぎすいゐろ) → 春濤(しゅんとう・森もり、詩人) K 2 1 3 2

鈍吟(どんごん・杉岡) → 墩桑(とんそう・杉岡、儒者) S 3 1 3 8

曇空(どんくう；号) → 性堂(しょうどう；道号・慧杲；法諱、臨濟僧) L 2 2 1 8

吞空(嫩控どんくう；法諱) → 寂堂(じゃくどう；道号・吞空；法諱、曹洞僧) W 2 1 1 2

吞空居士(どんくうこじ、吞空法師) → 三千風(みちかぜ・大淀/三井、俳人) 4 1 0 3

- 吞空齋(どんくうさい) → 石鯨(初世せきけい・梨花庵、俳人) K 2 4 0 1
- S3114 鈍苦齋(どんくさい、本名不詳)?- ? 江中期江戸の戯作者/談義本作者:
1756「風俗七遊談」「風俗八色談」著、
[鈍苦齋(;号)の別号] 費墨齋ひぼくさい/ト々齋ぼくぼくさい;
- 鈍狗齋(どんくさい) → 愚仏(ぐぶつ・淤足齋おそくさい、書肆/狂詩) B 1 7 0 2
- 鈍草子(どんくさし・舎楽齋) → 舎楽齋(しゃらくさい・鈍草子、戯作/狂歌) G 2 1 6 1
- 団栗(どんぐり・俳名) → 団十郎(8世だんじゅうろう・市川、歌伎役者) I 2 6 3 3
- 団栗庵(どんぐりあん) → 音人(おとんど・鳴滝、狂歌/狂文) 1 4 9 8
- S3115 曇希(どんげ;法諱) ? - ? 江後期曹洞僧、上州佐波郡赤堀村の宝珠寺25世、
「宝珠寺縁起」著
- S3116 曇華(どんげ;号・慧寂えじやく;法諱、字;大黙) 1695-1762⁶⁸ 江戸浅草の真宗大谷派聞成寺10世/法橋、
儒;荻生徂徠門、詩文を嗜む、「曇華集」著
- 曇華(どんげ;号) → 宗純(そうじゆん;法諱・一休;道号、臨濟僧) 2 5 1 1
- 曇華齋(どんげさい) → 素丸(初世そまる・長谷川馬光、俳人) 2 5 2 9
- 曇華齋(どんげさい) → 素丸(2世そまる・溝口/吉田、幕臣/俳人) E 2 5 3 6
- 曇華室(どんげしつ) → 玄智(げんち;法諱、真宗僧大谷派僧) L 1 8 1 1
- 曇華台(どんげだい) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5
- 曇華道人(どんげどうじん;号) → 性激(しょうとん;法諱・高泉;道号、黄檗僧) P 2 1 5 7
- 遯軒(とんけん・岡田) → 兼山(けんざん・岡田おかだ、儒者/藩家老) J 1 8 2 1
- 敦軒(とんけん・大井) → 雅矩(まさのり・大井おおい、文筆家) G 4 0 3 0
- M3137 噉子(とんこ・池田いけだ、仙台藩主伊達だて重村女) 1772-92^{早世21歳} 母;安田善昌女、陸奥仙台生、
1790(寛政2/19歳)因幡鳥取藩6代藩主池田治道はるみちの室:一女出産、歌人、
1792「輪光院殿日詠」著、
[噉子(;名)の別名/法号]別名;阿胤おたね/胤姫/祐/生姫、法号;輪光院蓮邦浄薫
- S3117 吞湖(どんこ・瓢箪坊/大鯰堂/蟠竜子、名;春治;姓不詳)?-? 江後期近江俳人;1837「富士発句集」編
- 敦行(敦光とんこう・久世) → 敦行(あつゆき・久世くぜ、本草家) E 1 0 9 1
- 敦行(とんこう・岡野) → 敦行(あつゆき・岡野おかの、歌人) G 1 0 6 6
- 敦豪(とんごう・桂川) → 国華(くにてゐる・桂川かつらがわ、幕府医師) C 1 7 9 3
- 屯豪(とんごう・山本) → 退庵(たいあん・山本やまもと、茶人/香道) J 2 6 0 2
- 吞江(吞光とんこう;法諱) → 麓山(別山べつざんべつざん;道号・吞江、曹洞僧) 2 7 9 7
- 吞江(とんこう・長沢) → 蘆洲(ろしゅう・長沢ながさわ、円山派絵師) B 5 2 6 8
- 屯侯齋(とんこうさい) → 泰道(たいどう・林はやし、俳人) B 2 6 9 3
- S3118 吞好堂(どんこうどう) ? - ? 難波の俳人;雑俳/1759「雑句取方評林」著
- 鈍根(どんこん) → 親覽(ちかみ・佐々木、藩士/国学/歌) B 2 8 8 5
- 遁齋(とんさい・藤本) → 居敬(やすたか・藤本ふじもと、国学者) G 4 5 5 3
- 遯齋(とんさい・清水) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7
- 遯齋(とんさい・草鹿) → 玄竜(げんりゅう・草鹿、医/詩人) M 1 8 9 2
- 遯齋(とんさい・山脇) → 東海(とうかい・山脇、医者) B 3 1 9 0
- 遯齋(とんさい・江邨) → 磊堂(らいどう・江邨えむら/田中、藩医) 4 8 8 7
- 敦齋(とんさい・堀) → 照明(ひろあき・堀ほり、藩士/儒者) F 3 7 4 8
- 頓齋(とんさい・片桐) → 貞昌(さだまさ・片桐かたざり、藩主/茶人) J 2 0 6 6
- S3119 鈍齋(どんさい・小松こまつ) 1800- 1868⁶⁹ 豊前小倉の大聖院住僧/肥前興善寺51世、権大僧都、
還俗/和算家:熊本の牛島盛庸門/天文;江戸の内田五観門、諸国歴遊;和算・天文を教授、
1858嵯峨御所天文方/64広島藩抱えの天文・測量・数学師範、「旅窓問誌」「四源学衆表」、
1541「京都問答集」「諸邦門人自筆名録」編/42「正弧斜弧」/43「異形同術」校、「回車漫筆」、
「本朝遊歴算法」「無極子題術解義」「無極子正平術」「算法温故新撰」「豁術雜解」外著多数、
[鈍齋(;号)の通称/別号]通称;式部、別号;恵竜/無極子/冬扇齋/算天堂主人
- 鈍齋(どんさい・谷) → 時中(じちゅう・谷たに、僧/儒者/南学) E 2 1 5 9
- 鈍齋(どんさい・神野) → 菊叢(きくそう・神野じんの、儒/詩歌) I 1 6 4 7
- 鈍齋(どんさい・一貫堂) → 若水(じゃくすい・随朝ずいちょう、儒/和算) G 2 1 2 7

- 鈍齋(どんさい・高橋) → 健蔵(けんぞう・高橋、書家) K 1 8 7 0
鈍齋(どんさい・谷) → 時中(じちゅう・谷たに、儒;土佐南学) E 2 1 5 9
鈍齋(どんさい・野田) → 白石(はくせき・野田、詩/狂歌) D 3 6 4 7
曇齋(どんさい・橋本) → 宗吉(曹吉そうきち・橋本、蘭学/蘭医) 2 5 9 8
- S3120 鈍齋先生(どんさいせんせい) ? - ? 江後期江戸狂詩;1844-48「狂詩浚井鮒さらいふな」、
「馬鹿早詩鈍々集」著
- S3121 頓作(とんさく・かす市、東の頓作?)?-? 江戸軽口噺家/仕形咄、
1708噺本「かす市頓作」著;東の頓作序(著者と同一?)
- 鈍作(どんさく・十河) → 筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家) L 2 4 3 2
呑鶯(どんさく;法諱・鉄外) → 鉄外(てつがい;道号・呑鶯、曹洞僧) C 3 0 1 7
敦山(とんざん・土岐) → 敦山(あつのお・土岐、医者) E 1 0 7 2
吞山(とんざん・永島) → 安童(あんりゅう・永島、医者/引水工事) D 1 0 1 6
- S3122 呑産通人(とんさんつうじん;姓名不詳) ?-? 江中期宝暦1751-64頃の実録;「水戸黄門仁徳録」
吞山楼(とんざんろう) → 万戸(ばんこ・金井かない、俳人) H 3 6 5 7
敦子(とんし・掌侍) → 敦子(あつこ・掌侍ないしのじょう/南朝歌人) C 1 0 9 8
噺子(とんし・池田) → 噺子(としこ・池田いけだ/伊達、藩主室/歌) M 3 1 3 7
- S3123 鈍子(どんし) ? - ? 伊予俳人;「月のあと」編、1702轍士「花見車」目録入
- S3124 呑獅(とんし・原はら/杉、通称;桔梗屋治介、呑鯨男) 1733?-8957? 京島原の妓楼桔梗屋主人、
俳:太祇門、太祇の後援者、蕪村と親交、1757島原案内記「一目千軒」(斜天と共編)、
1770「太祇句選」(;師の草稿を嘯山蕪村に託す)入、72几董「其雪影」2句/73「あけ鳥」入、
1777蕪村「夜半楽」2句/82「花鳥篇」2句/83維駒「五車反古」入、法号;釈後金、
[舟出して遠山ざくら見付けたり](花鳥篇;42)
鈍者(どんしや;号) → 万回(ばんかい;道号・一線、曹洞僧) H 3 6 3 2
- S3125 曇寂(どんじやく;法諱・恵旭えきよく;字、俗姓;牧野) 1674-174269 備後福山の真言僧;
1686明王院宥翁門、1693山城蓮華寺禅杲門;具支灌頂を受/98宥翁より両部灌頂を受、
1714明王院を兼務、
「梵語集」「阿字決」「作法集私記」「般若心経私記」「秘鈔私記」「理趣経私記」等著多数
- S3126 呑舟(どんしゅう) ? - ? 俳人:諷竹門、芭蕉臨終時の介抱の一人;
「芭蕉翁終焉記」(「枯尾花」所収)に追悼句入
- S3127 曇秀(どんしゅう;道号・智快ちかい;法諱) ?-1737 日向の臨濟僧:大光寺で出家/摂津大仙寺庸天叟門、
古月禅材の印可を受;摂津大仙寺住持/晩年は日向大光寺に戻り浄名経会を設ける、
「竜巖和尚語録」編
- S3128 曇秀(どんしゅう;道号・道一どういつ;法諱/初法諱;竜華) 1698-176972 越前蒲原郡曹洞僧;通山門/出家、
無得良悟・断崖独橋門/無得の嗣法、越前恵雲寺開山/泰清院住持/宝林寺に退隠、
「寿春編」、「曇秀道一和尚語録」著
- T3106 呑舟(どんしゅう・玉井) ? - ? 江中期摂津玉井の俳人、
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
[世々に名を残す紅葉は記念哉](しぐれの碑;発句/貞峨の高津菩提庵)
- S3129 呑周(どんしゅう) ? - ? 俳人:京島原連、1777蕪村「夜半楽」2句入、
[蝶々や衛士ゑしの箒はうきにとまりけり](夜半楽;52)
- 呑舟(どんしゅう・松永) → 長鯉(ちようこん;法諱、儒学/真言僧) I 2 8 3 4
呑舟軒(どんしゅうけん) → 箕山(きざん・藤本、古筆鑑定/俳人) 1 6 1 3
呑舟齋(どんしゅうさい) → 呉厓(ごがい・笹山ささやま、医者/俳人) C 1 9 2 2
鈍秀哉(どんしゅうさい) → 直温(なおほる・松田まつだ、国学者) O 3 2 8 5
敦書(とんしょ/あつり・青木) → 昆陽(こんよう・青木、儒/蘭学/甘藷研究) 1 9 5 5
湛助(とんじよ;法諱) → 湛助(たんじよ;法諱、社僧/歌) I 2 6 3 6
- S3130 頓乘(とんじよう) ? - ? 南北期僧;頓阿門、歌;1366「年中行事歌合」参加
- S3131 頓成(とんじよう;法諱・了雄りょうゆう;字、俗姓霊崎) 1795-1887長寿93 能登羽咋真宗大谷派長光寺住職、
宗学;正慶しよくきょう霊眈れいおう門、機深信自力説を主唱;越後の英巖頓成より反駁;幕府調停、

本願寺法主光勝より度々注意されるが承服せず;1852幕府に捕縛/豊前四日市に流罪、
維新の大赦で帰郷;前説をまげず本山より罰せらる、能登の頓成と称す、
1848「能登頓成御糾不審箇条書」51「二種深信正因ノ義ニ付不審ノ条々」、「講者異轍編」、
「三師対話」「三門十後義」「自力他力文分科」「真实信心辨惑論」「報土真因至要文」外著多数、
参考 越後の頓成 → 英巖(えいがん;法諱・頓成、信機自立の異義) C 1 3 6 0

- S3132 **頓乘**(とんじょう;法諱、俗姓;下間)1799-1862⁶⁴ 長州大嶋郡外入の真宗浄念寺の生、
安藝の真宗本願寺派寂静寺の道振門、1842萩の三千坊11世住職、没後贈司教、
「正信偈聴記」「帰三宝偈聴記」「或談弁失」「領解文平陵玉泉記」著、
[頓乘(;法諱)の別法諱/諡号]別法諱;常精、諡号;乘蓮房
頓乘(とんじょう) → 俊顕(としあき・藤原、廷臣/歌) L 3 1 8 9
頓成(とんじょう;字) → 英巖(えいがん;法諱、越後真宗大谷派僧) C 1 3 6 0
- S3133 **曇生**(どんじょう;法諱・頑石がんせき;道号)?-1376 越前の臨濟僧;福巖寺柏巖可禪門/嗣法、
建仁寺52世/晩年は定恵院退隱、「頑石和尚語録」著
曇照(どんじょう;号) → 浄業(じょうごう;法諱・法忍、律僧/戒律宣揚) I 2 2 8 3
呑象楼(どんしょうろう) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1
敦臣(とんしん・大塚) → 敦臣(あつおみ・大塚おつか、藩士/国学) H 1 0 2 6
- S3134 **呑水**(どんすい;号・日陽;法諱)?-1729 尾張犬山の妙感寺僧/名古屋日蓮宗清妙寺6世、
「艸ほこ」「秋蟬集推之追善」著、
[呑水の別号] 靈江斎/遠光院おんこういん
- S3135 **曇瑞**(どんずい;道号・禪苗ぜんみょう;法諱、俗姓;坪井)?-1799 美濃の曹洞僧;全昌寺牧水洗牛門/出家、
1753周防禪昌寺の門老門/嗣法、64加賀浄住寺住持/下関功山寺住持/77加賀大乘寺42世、
退隱後1789撰津住吉郡東喜連村の妙法寺開山、「曇瑞禪苗和尚語録」著
曇瑞(どんずい;道号) → 性安(性安しょうあん;法諱・千呆せんがい;道号、黄檗僧) G 2 2 5 4
屯助(とんすけ・百川) → 玉川(ぎょくせん・百川ももかわ、藩士/儒者) I 1 6 8 8
頓成(とんせい→とんじょう) → 頓成(とんじょう;法諱、真宗大谷派僧) S 3 1 3 1
曇川(どんせん・前田) → 雲洞(うんどう・前田まへだ、藩士/儒者) E 1 2 0 2
- S3136 **鈍全**(どんぜん・自然軒じねんけん、寺田宮内)?-?1780頃没 甘露寺家の侍、狂歌、
即興狂歌詠草「五色集」著、鈍永の師
- S3137 **頓宗**(とんそう;法諱) ? - ? 1378存 南北期僧(法師)/歌人;頓阿門、
1360以後;頓阿主催「句題百首」参加、勅撰3首;新拾遺(1177)新続古今(533/1321)、
[小夜衣いかに染めてか草も木もうつろふ比ころの霜にうつらん](新続古;秋533/擣衣)
- S3138 **暎桑**(とんそう・杉岡すぎおか、名;道啓/道敬)?-1822 京堺町二条南の儒者;江村北海・清田儋叟門、
医理にも精通、1820美濃郡上藩校潜竜館督学、柴野栗山・菅茶山・村瀬栲亭らと交流、
「蕘荷溪詩集」「寛政戊午七月朔雷辰燬方広寺毘盧殿」著、
[暎桑(;号)の字/別号]字;公曙/公曙、別号;鈍吟、良策の父
遯叟(とんそう・日高) → 涼台(りょうだい・日高ひだか、蘭医者/詩) I 4 9 8 0
- S3139 **嫩草**(どんそう) ? - ? 江中期俳人;1772几董「其雪影」1句入、
[白んめや雪のなかにもをしへ道](其雪影;420/雪中の白梅は何か道理を教えている)
- S3142 **曇蔵**(どんぞう;法諱) ? - 1861 長門萩の真宗本願寺派光明寺住職;環中門、
1852都西と勸学職を授与;故あって非職を命ぜらる、「選択集記」「正信偈不及録」著
曇蔵(どんぞう;字) → 行界(ぎょうかい;法諱・曇蔵、真宗僧) N 1 6 4 4
曇蔵(どんぞう;号) → 信晧(しんぎょう;法諱、真宗仏光寺派僧) N 2 2 9 0
鈍蔵(どんぞう・渡辺) → 水哉(すいさい・渡辺わたなべ、藩士/儒者) 2 3 5 8
屯倉子(とんそうし) → 意安(いあん;通称・三宅みやげ、医者) E 1 1 7 3
呑鷲(どんぞく・正しくは「どんさく」) → 鉄外(てつがい・呑鷲、曹洞僧) C 3 0 1 7
- S3143 **曇仲**(どんちゅう;道号・道芳どうほう;法諱、初道号;竺曇じくうん)1367-1409⁴³ 京の臨濟僧;空谷明応門、
空谷の法嗣、師に従い相国寺入;官寺住持を望まず黒衣のまま首座に留まる、
詩文:絶海中津門、相国寺常德院に養源軒を設営;没、「芳曇仲干派西疏」「曇仲芳禪師疏」著、
「曇仲遺藁」、詩;横川「百人一首」入
曇奄(どんちよう・長島) → 寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5

- 鈍通(どんつう) → 治兵衛(2世いへえ・津打つう、歌舞伎作者) 2 1 3 4
鈍通(どんつう) → 与三兵衛(よそべえ・3世津打治兵衛) I 4 7 1 3
鈍通(どんつう・2世与三兵衛) → 治兵衛(4世いへえ・津打つう、歌舞伎作者) F 2 1 6 3
鈍亭(どんてい) → 文京(ぶんきょう・花笠、合巻/歌舞伎作者) F 3 8 0 2
鈍亭(どんてい) → 魯文(ろぶん・仮名垣、文京門/滑稽本) C 5 2 4 1
- S3144 吞吐(どんと・静雲舎、通称; 東海吞吐)?-? 信濃の俳人/伊豆住、1769「芭蕉句解」
S3145 頓導(とんどう; 法諱) ? - ? 僧: 上人/連歌; 1356成立「菟玖波集」入
[聞えてはやがて蓮はちぞすみかなる] (菟玖波; 八670/前句; 心のほかは彼国もなし)
- 頓倒野人(とんどうやじん) → 周嗣(しゅうし; 法諱、禅僧/歌) H 2 1 5 2
敦徳(とんとく→つとく) → 敦徳(つとく、敦賀屋徳兵衛、俳人) E 2 9 6 5
鈍々舎(どんどんしゃ) → 魯人(ろじん・只野ただの、俳人) B 5 2 8 9
鈍々石(どんどんせき) → 秋英(あきひで・足立あだち、藩士/絵師) G 1 0 8 2
- S3146 鈍々亭和樽(どんどんていわたる、岡本おかもと、名; 直常)?-1822 江戸神田小柳町の髪結業、
戯作; 1800黄表紙「福神金大張」「七福神古事附曾我」/01「浮世糸笑縁結」「縁結千代子宝」、
狂歌: 三陀羅法師門/1818頃太鼓連主宰、1820「太鼓連月抄」「山水奇観狂歌集」、23「駅路鈴」、
1825「狂歌吉原形四季細見」26「江戸砂子集続編」27「狂歌出世百首」28「狂歌塵劫記」編、
1831「時鳥三十六歌仙」編、「鈍々亭選狂歌集」「狂歌画賛集」「連歌」編、外著多数、
[鈍々亭和樽(;号)の通称/別号]通称; 武蔵屋元次郎/新六、別号; 祭和樽
頓阿(とんな・二階堂) → 頓阿(とんな・二階堂、時宗僧/歌学) 3 1 6 7
- S3155 鈍奈法師(どんなほうし、馬込/馬籠まごめ勘ヶ由(かげゆ) [勘解由?])?-? 江戸狂歌; 本丁連、浅草馬道に隠居、
1785「徳和歌後万載集」5首入;
[出立いでちの異なるなりのすゝはきを見る時にこそ知らぬ翁にあふ心地すれ]
(後万載; 十三雑体旋頭歌811/12月13日の煤払いの行事には汚れてもよい服装で出る)
(本歌; 元輔の旋頭歌「増鏡そこなる影に向ひみて見る時にこそ知らぬ翁にあふ心地すれ」)
- 曇寧(どんねい; 字) → 明逸(みょういつ; 法諱、真宗大谷派僧) G 4 1 1 3
曇梅園(どんばいえん) → 水甫(すいほ; 号、俳人) 2 3 8 5
敦樸(とんはく・渡部) → 益庵(えきあん・渡部/渡辺、医者/紀行) D 1 3 6 2
- S3147 鈍夫(どんぶ・岡美知おかみち)? - ? 俳人: 棕隠門、1838棕隠「金帯集」巻一、二編
鈍仏庵一笑(どんぶつあんいっしょう) → 幽眠(ゆうみん・三国みくに、尊攘/詩歌) D 4 6 8 2
呑補(どんぼ; 法諱) → 天嶺(てんれい; 道号・呑補、曹洞僧) E 3 0 5 9
呑鵬(どんほう・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
呑墨翁(どんぼくおう) → 南湖(なんこ・春木はるき、絵師/狂歌) I 3 2 9 3
- G1088 敦本(あつもと・荒川あらかわ、通称; 彦六/号; 松下堂)?-? 伊予小松藩士/歌人
敦本(とんほん)すべて → 敦本(あつもと)
屯磨(とんまる・寺部) → 屯磨(たむるまる・寺部てらべ、書/手習師匠) Y 2 6 3 4
惇明(とんめい/あつあき・浜地) → 春山(しゅんざん・浜地はまじ、儒者) K 2 1 8 5
頓明(とんめい・竹田) → 頓明(はやあき・竹田たけだ、藩士/歌人) K 3 6 4 0
- S3148 呑溟(呑冥どんめい・竹内たけうち)?-1788?60余歳 近江湖南の生/岩代信夫で商業/俳人: 暁台門、
のち1774上洛/88頃江戸住、1763「井手の駕」編、蕪村・大江丸と交流、73几董「あけ鳥」入、
1774美角「ゑぼし桶」13句入、76几董「続明鳥」1句/樽良「月の夜」2句入、
[笠の露も杉の匂ひや霧の朝] (あけ鳥; 152)
[呑溟(;号)の通称/屋号] 通称; 新四郎/太助、屋号; さかいや
- 曇茂(どんも; 字) → 円門(えんもん; 法諱、真宗大谷派僧/詩) F 1 3 3 9
問屋酒船(とんやのさけふね) → 酒船(さけふね・問屋といや、狂詩/狂歌) B 2 0 5 6
頓誉(とんよ・乗蓮社) → 知哲(ちてつ; 法諱・心阿、浄土僧) E 2 8 8 1
曇誉(どんよ; 法名) → 忍海(にんかい; 法諱・海雲、浄土僧) G 3 3 1 9
屯竜(とんりゅう・山本) → 退庵(たいあん・山本やまもと、茶人/香道) J 2 6 0 2
- S3149 曇竜(どんりゅう; 法諱、初法諱: 無染むせん、俗姓; 小田) 1769-1841?73 安藝真宗本願寺派僧:
1780正楷門、本山学林で修学/慧雲・大瀛だいい門、安藝沼田郡緑井の専蔵坊住、

三業惑乱に大瀛を支援、本山の命で博多万行寺17世；寺内に竜華学寮を設け教育；
竜華学の祖、1825司教、28勸学職、「竜華門標」「往生要集随聞記」「金嶽文集」「垂鈎卵」著、
「本願醍醐編」「真宗論信」「論註海錢録」「弁空拳編」「文類聚鈔弊鉄記」「竜天二讃阜山録」、
「劫焼編」「官斗編閑話」「五願義」外著多数、

[曇竜の字/号]字；子雲、号；竜華/金嶽/碧巖、諡号；大行院

嫩柳舎柳厓(どんりゅうさいりゅうがい)→ 孖茂(まさしげ・石附いじつき、商家/歌/能) N 4 0 6 0

敦良(どんりょう→あつなが・親王)→ 後朱雀天皇(ごすざくてんのう、歌人) C 1 9 1 8

頓了(どんりょう；法諱・無学)→ 無学(むがく；道号・頓了、曹洞僧) 4 2 3 3

吞了(どんりょう；初法諱)→ 賦国(ふこく、時宗遊行上人) B 3 8 8 8

吞良(どんりょう；法諱)→ 久外(きゅうがい；道号・吞良、曹洞僧) M 1 6 4 0

曇蓮社香誉(どんれんしゃこうよ)→ 専壽(せんじゆ；法諱、浄土僧/歌人) M 2 4 4 2

頓和(どんわ・加賀美)→ 此一(いち・加賀美/加々美かがみ/於曾おそ、藩士/俳人) P 2 1 5 8